

⑧群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第185集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第30集

上栗須寺前遺跡群Ⅱ

1区(上栗須薬師裏)

2区(上栗須薬師前)

藤岡扇状地扇端部における縄文・奈良時代を中心とした集落址と古墳の調査

1994

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第185集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第30集

上栗須寺前遺跡群II

1区(上栗須薬師裏)

2区(上栗須薬師前)

藤岡扇状地扇端部における縄文・奈良時代を中心とした集落址と古墳の調査

1 9 9 4

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団

序

西毛の鍋川流域は、武蔵国から信濃国への交通の要路として早くから開けてきました。その要路に高速道の上信越自動車道が建設されることになり、工事によって消滅するところの埋蔵文化財の発掘調査が昭和63年度より始まりました。

高速道が通過する藤岡市上栗須の寺前地区も、埋蔵文化財調査の対象となりました。寺前地区は、中世の伊勢神宮の御厨があったところであり、また主要地方道前橋・長瀬線のバイパス工事に伴う埋蔵文化財調査によって古墳時代から中世にかけての数多くの文化財が明らかにされており、昔より栄えた地区でありました。

発掘調査は、昭和63年度から平成4年度までの間行われましたが、栄えた地区にふさわしく数多くの遺構、遺物が発見、調査され、寺前地区の歴史を解明する上で大いなる成果がありました。調査された膨大な資料は、平成3年度より4年計画で調査報告書刊行のための整理作業を行い、既の上栗須遺跡Ⅰの報告書を刊行しています。今回、上記の調査報告書に続いて上栗須Ⅱ遺跡の調査報告書がまとまりましたので、報告書を刊行することにしました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、藤岡市教育委員会、地元関係者等より種々のご指導、ご協力、ご援助を賜りました。ここに深甚なる感謝の意を表し、本報告書が寺前地区並びに本県の歴史の解明及び資料として、広く活用されることを願い序とします。

平成7年3月25日

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

1. 本書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「上栗須寺前遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 「上栗須寺前遺跡」は群馬県藤岡市大字上栗須に所在し、上信越自動車道（旧称＝関越自動車道上越線）建設工事に伴って発掘調査された遺跡の名称で、幅員約70m、路線長約300mに及ぶ路線内の遺跡調査範囲につけられた名称である。
3. 上栗須寺前遺跡の調査地番は次のとおりである。
藤岡市大字上栗須字葉師前217, 218, 225～234, 236, 237, 241～243 字葉師裏378～385, 396, 398, 401 字上ノ台264, 265
4. 本発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
5. 実際の発掘調査及び整理事業は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団関越道上越線調査事務所（群馬県多野郡吉井町南陽台3-15-8に所在）が担当した。関越道上越線調査事務所は上越線地域埋蔵文化財の調査を目的に設置された事業団組織である。
6. 調査期間及び担当者
 - (1) 発掘調査
(期 間) 昭和63年度発掘調査事業 昭和63年5月1日～平成元年1月19日
平成元年度発掘調査事業 平成元年7月1日～平成2年2月28日
平成2年度発掘調査事業 平成2年10月1日～平成2年12月25日
(担当者) 昭和63年度 須田 茂（専門員）、石塚久則（主任調査研究員）、井上昌美（調査研究員）
平成元年度 岸田治男（専門員）、石塚久則（専門員）、井上昌美（調査研究員）
平成2年度 石塚久則（専門員）、山口逸弘（主任調査研究員）、井上昌美（調査研究員）
 - (2) 整理
(期 間) 平成5年度整理事業 平成5年4月1日～平成6年3月31日
(担当者) 石塚久則（専門員）
 - (3) 事 務
常務理事 白石保三郎（昭和63年度）、邊見長雄（平成元・2年度）
常務局長 松本浩一（昭和63～平成2年度）
管理部長 田口紀雄（昭和63～平成2年度）
調査研究部長 上原啓巳（昭和63年度）、神保信史（平成元・2年度）
関越道上越線調査事務所長 井上 信（昭和63年度）、高橋一夫（平成元・2年度）
同総括次長 片桐光一（昭和63・平成元年度）、大澤友治（平成2年度）
同 次 長 徳江 紀（昭和63～平成2年度）
同調査課長 鬼形芳夫（昭和63～平成2年度）
同庶務課係長代理 黒沢重樹（昭和63年度）、宮川初太郎（平成元・2年度）
同庶務課主任 国定 均（昭和63・平成元年度）、笠原秀樹（平成2年度）

7. 報告書作成担当者

編集 石塚久則
 本文執筆 石塚久則
 遺構写真 石塚久則、井上昌美
 遺物写真 佐藤元彦(技師)
 遺物保存処理 関 邦一(技師)、小材浩一(補助員)
 遺物観察 石塚久則
 遺物実測・図版作成 菅川正枝 冨永セン 高橋とし子 阿部由美子 萩原鈴代 立川千栄子
 横坂英実 木暮美津江 田中のぶ子

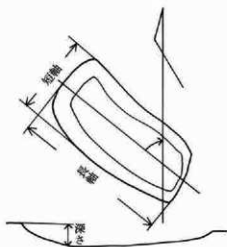
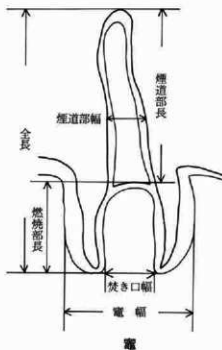
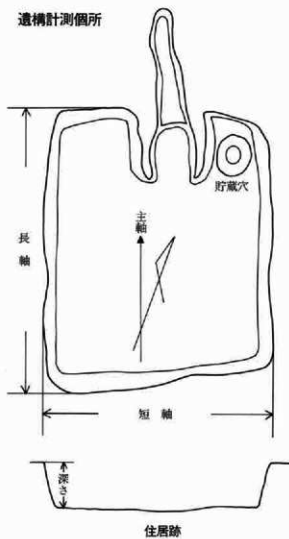
8. 発掘調査には下記の方々の協力があつた。記して謝意を表す次第である。

相場利為	青木秀邦	青木清三	秋山元治	新井 勉	飯島玉吉	石田 貫
石野 鼎	板垣利平治	市川宝作	伊藤啓作	稲葉忠作	内田新作	内田誠一
大竹周一	大山貞一	岡野重二	小瀬智志	小野里岩男	金田治悦	川島幸三郎
河西三千哉	川端惣太郎	木部 清	木村茂男	久保正雄	窪田圭造	黒沢 明
小泉秀雄	小泉 貢	小暮 暁	小暮巻太	小畑清七	小林松三	佐野勝次郎
斉藤 毅	斉藤守治	斉藤政広	酒井八郎	境原三津夫	設楽明史	須藤治雄
関口八二	高井達雄	高山富二	田島暉男	田村古方	土屋定彦	土屋正市
徳江豊太郎	中山勇次郎	楡井弘彦	野村賢治	橋田威雄	福島 昇	古市忠蔵
細谷文雄	堀越勝定	真下 昭	町田茂夫	松井要一	水科瀬太郎	宮崎安且
宮輪義保	百瀬賢一	森村伊勢雄	山田常治	山本 廣	横田義雄	吉田力男
吉野春雄						
新井峰子	天立アグリ	砂壺俊子	石垣幸子	石野ミツエ	石原ヒサ子	石岡栄子
伊田ラク	一の瀬栄子	市原良子	井野佳代子	井野みつゑ	入江由紀	大塚みつゑ
大谷靖子	岡田早苗	岡本育子	小川公子	小野里イフ	小野里ミト	柏戸なか
加藤明美	金井ソノ	金井とく	金沢カオル	金嶋阪江	上村裕子	川端いくの
川端キヨ子	川浦モト	川田佳子	河野富江	木下シゲ	工藤博子	小坂橋幸
小金沢ツヤ	小林貴美子	小林仲子	斉藤邦枝	斉藤敏子	坂井アキ子	酒井ゆき
作本 潤	板井はる枝	佐藤富子	佐野慶子	塩原絹代	清水かよ子	清水千代
清水ミツエ	下山きぬ子	鈴木ヤス	鈴木ヨシエ	須藤よしの	関根美江	関根幸子
園部節子	高田みや子	高橋まさ子	田口シ江	田島八重子	田嶋紀代子	高山和子
田原澄子	塚田より	角田ふじ江	出浦由紀子	戸田節子	外山妙子	長井明子
中島マサエ	中曾根美江	中村みどり	奈良あい子	奈良トミ井	奈良富代	奈良芳子
根岸すみ江	橋本ツナヨ	羽島愛子	羽島かつ江	服部孝子	原田房子	細谷貞子
細谷友江	細谷ふさ子	堀越美恵子	町田キクエ	町田玲子	松田正子	松原千矢子
水島貞子	宮下美枝子	宮本サトノ	武藤光子	森 利子	森由里子	矢島アイ子
矢端敏子	矢端八重子	山岸とし子	山崎トモエ	横室静枝	吉沢美枝子	吉田悦子
吉田貴恵子	吉原君子	渡辺君江	綿貫智子	遠藤ユキ子		

凡 例

- 1 本報告書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「上栗須寺前遺跡群II」の発掘調査報告書である。既に「上栗須寺前遺跡群I」が刊行されており、全体を7発掘区に分けた4・5・6・7区が「上栗須寺前遺跡群I」に、1・2区が本報告書「上栗須寺前遺跡群II」に、残りの3区を「上栗須寺前遺跡群III」で報告する予定である。
- 2 本報告書に記載した遺物については全点取り上げ位置図を作成してある。原位置を再現して住居論にまで高めるのは現状では不可能であった。次回の整理論考段階にまわしたい。
- 3 本報告書に記載した2区の南側で検出した2条1対の溝3組については、3区の溝に連結することが明らかである。「上栗須寺前遺跡群III」で合わせて考えてみる。
- 4 本遺跡群は藤岡市大字上栗須、篠塚、下大塚、本助堂にまたがる。
- 5 遺跡名については字名のうちで大字寺前を取り上げ「上栗須寺前遺跡群」と総称する。
- 6 本報告書は「上栗須寺前遺跡群」のうちの大字上栗須地区の北半分の調査成果を掲載している。
- 7 「上栗須寺前遺跡群」の発掘区の設定は、国家座標系第IV系をもとに東西80m×南北60mの大グリッドを設定し、さらに東西、南北を10等分して東西8m×南北6mの小グリッドを最小単位としたものである。グリッドは東西をアルファベットで南北をアラビア数字で呼称し、各調査区グリッドの国家座標における位置は「上栗須寺前遺跡群I」の付図の全体図中に記載した。なお発掘調査の詳細については、「上栗須寺前遺跡群I」第1分冊本文編に具体的に掲載した。
- 8 本報告書における遺構番号は発掘調査時に各区ごとに通番で付されたものを原則として使用し、遺物番号は整理時に通番でふりなおした。
- 9 挿図中に使用した方位は座標北である。また、竪穴住居の方位については電付設置に直交する軸線の方位を採用した。
- 10 竪穴住居の面積算出については、1/40平面図上でプラニメーター（ローラー極式・レンズ式）による2回計測の平均値を使用し、小数点以下3桁は四捨五入してある。
- 11 遺構及び遺物実測図の縮尺と遺構断面図類の標高は、各図中に表示してある。
- 12 表中の土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務所・（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 13 遺構の計測値及び記載事項については以下の通りとした。
位置はグリッドの位置を示す。
方位は電の向きを主軸とし、座標北に対する傾きを示す。
柱穴は住居内に表示し、計測値を表記した。
周溝は掘り込みの有るものについて記入した。
床面は踏みならされた土の状態を文章で表記した。
掘形は省略してある。
電位置は付設される各辺での位置を記入し、電は燃焼部と煙道部の計測値と煙道部への立ち上がり、燃焼部から煙道部口部分までの高さなどを記入した。

遺構計測個所



土坑

円形



コの字

長方形



Uの字

楕円形



円弧

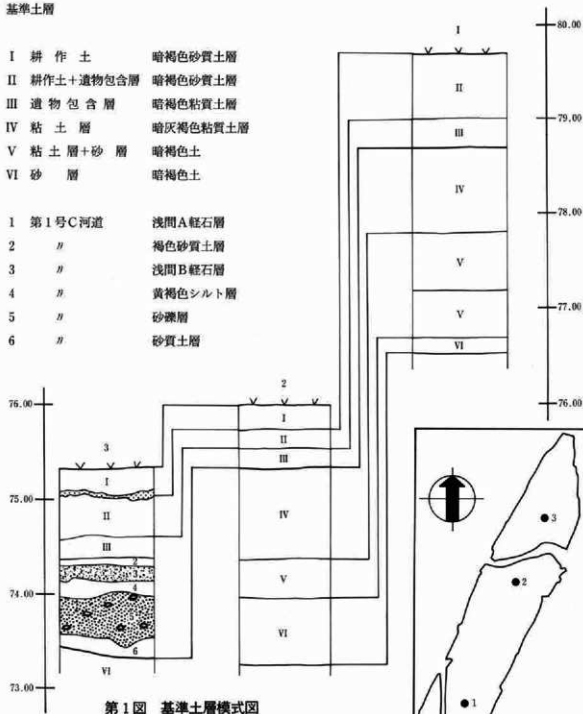


Vの字

基準土層

- | | | |
|-----|-----------|----------|
| I | 耕作土 | 暗褐色砂質土層 |
| II | 耕作土+遺物包含層 | 暗褐色砂質土層 |
| III | 遺物包含層 | 暗褐色粘質土層 |
| IV | 粘土層 | 暗灰褐色粘質土層 |
| V | 粘土層+砂層 | 暗褐色土 |
| VI | 砂層 | 暗褐色土 |

- | | | |
|---|--------|---------|
| 1 | 第1号C河道 | 浅間A軽石層 |
| 2 | 〃 | 褐色砂質土層 |
| 3 | 〃 | 浅間B軽石層 |
| 4 | 〃 | 黄褐色シルト層 |
| 5 | 〃 | 砂礫層 |
| 6 | 〃 | 砂質土層 |



第1図 基準土層模式図

上栗須寺前遺跡群II

1区(上栗須菜師裏)

2区(上栗須菜師前)

目 次

第I章 調査概要	1
1 調査地区	1
2 調査の概要	3
3 調査日誌	4
第II章 1区 上栗須菜師裏	7
1 遺跡	7
A 河道	B 畠
C 棚列	D 縄文時代
	1.遺構 2.遺構出土の土器
	3.包含層出土の土器(前期) 4.包含層出土の土器(後期)
	5.遺跡出土の石器
E 古代住居址	F 掘立柱建物址
G 溝址	H 土坑
2 遺物	176
3 まとめ	200
第III章 2区 上栗須菜師前	201
1 遺跡	201
A 古代住居址	B 掘立柱建物址
C 溝址	D 土器溜り・土坑
E 古墳址	
2 遺物	294
3 まとめ	335

図 版

付 図

挿図目次

第1図	基準土層図	……………	目次前
第2図	発掘区設定図	……………	2
第3図	1・2区河道	……………	9
第4図	1区島	……………	11
第5図	縄文土層分布図	……………	14
第6図	縄文土層分布図	……………	15
第7図	縄文石材分析表	……………	16
第8図	1区3号住居址	……………	18
第9図	1区3号住居址	……………	19
第10図	1区4号住居址	……………	20
第11図	1区6・23号住居址	……………	折り込み
第12図	1区6号住居址	……………	23
第13図	1区1・23号住居址	……………	25
第14図	縄文土器(遺構出土品)	……………	27
第15図	1区縄文土器(遺構出土品)	……………	28
第16図	1区縄文土器(遺構出土品)	……………	29
第17図	2区縄文土器(遺構出土品)	……………	30
第18図	2区縄文土器(遺構出土品)	……………	31
第19図	縄文土器(前期)	……………	34
第20図	縄文土器(前期)	……………	35
第21図	縄文土器(前期)	……………	36
第22図	縄文土器(前期)	……………	37
第23図	縄文土器(前期)	……………	38
第24図	縄文土器(前期)	……………	39
第25図	縄文土器(後期)	……………	44
第26図	縄文土器(後期)	……………	45
第27図	縄文土器(後期)	……………	46
第28図	縄文土器(後期)	……………	折り込み
第29図	縄文土器(後期)	……………	49
第30図	縄文土器(後期)	……………	50
第31図	縄文土器(後期)	……………	51
第32図	縄文土器(後期)	……………	52
第33図	縄文土器(後期)	……………	53
第34図	縄文土器(後期)	……………	54
第35図	縄文土器(後期)	……………	55
第36図	縄文土器(後期)	……………	56
第37図	縄文土器(後期)	……………	57
第38図	縄文土器(後期)	……………	58
第39図	縄文土器(後期)	……………	59
第40図	縄文土器(後期)	……………	60
第41図	縄文土器(後期)	……………	61
第42図	縄文土器(後期)	……………	62
第43図	縄文土器(後期)	……………	63
第44図	縄文土器(後期)	……………	64
第45図	縄文土器(後期)	……………	65
第46図	縄文土器(後期)	……………	66
第47図	縄文土器(後期)	……………	67
第48図	縄文土器(後期)	……………	68
第49図	縄文土器(後期)	……………	69
第50図	縄文土器(後期)	……………	70
第51図	縄文土器(後期)	……………	71
第52図	縄文土器(後期)	……………	72
第53図	縄文土器(後期)	……………	73
第54図	縄文土器・石盤1	……………	75
第55図	縄文土器・石盤2	……………	76
第56図	縄文土器・石斧1	……………	77
第57図	縄文土器・石斧2	……………	78
第58図	縄文土器・石斧3	……………	79
第59図	縄文土器・石斧4	……………	80
第60図	縄文土器・石斧5	……………	81
第61図	縄文土器・石斧6	……………	82
第62図	縄文土器・石斧7	……………	83
第63図	縄文土器・石斧8	……………	84
第64図	縄文土器・石斧9	……………	85
第65図	縄文土器・石斧10	……………	86
第66図	縄文土器・石斧11	……………	87
第67図	縄文土器・石斧12	……………	88
第68図	縄文土器・石斧13	……………	89
第69図	縄文土器・石斧14	……………	90
第70図	縄文土器・石斧15	……………	91
第71図	縄文土器・石斧16	……………	92
第72図	縄文土器・石斧17	……………	93
第73図	縄文土器・凹石1	……………	94
第74図	縄文土器・凹石2	……………	95
第75図	縄文土器・凹石3	……………	96
第76図	縄文土器・凹石4	……………	97
第77図	縄文土器・凹石5	……………	98
第78図	縄文土器・凹石6	……………	99
第79図	縄文土器・磨石1	……………	100
第80図	縄文土器・磨石2	……………	101
第81図	縄文土器・磨石3	……………	102
第82図	縄文土器・磨石4	……………	103
第83図	縄文土器・磨石5	……………	104
第84図	縄文土器・磨石6	……………	105
第85図	縄文土器・磨石7	……………	106
第86図	縄文土器・磨石8	……………	107
第87図	縄文土器・石皿1	……………	108
第88図	縄文土器・石皿2	……………	109
第89図	縄文土器・石皿3	……………	110
第90図	縄文土器・石盤・その他	……………	111
第91図	1区1号住居址	……………	117
第92図	1区2号住居址	……………	118
第93図	1区2号住居址(竈)	……………	119
第94図	1区2号住居址(竈石組1)	……………	120
第95図	1区2号住居址(竈石組2)	……………	121
第96図	1区5号住居址	……………	122
第97図	1区7号住居址	……………	125
第98図	1区8号住居址	……………	126
第99図	1区9・10号住居址	……………	折り込み
第100図	1区9・10号住居址	……………	129
第101図	1区11号住居址	……………	130
第102図	1区12号住居址	……………	131
第103図	1区13号住居址	……………	132
第104図	1区14号住居址	……………	134
第105図	1区15号住居址	……………	135
第106図	1区16号住居址	……………	136
第107図	1区16号住居址	……………	137
第108図	1区17号住居址	……………	139
第109図	1区18号住居址	……………	140
第110図	1区18号住居址	……………	141
第111図	1区19号住居址	……………	142
第112図	1区20・21号住居址	……………	144
第113図	1区22号住居址	……………	145
第114図	1区1号獨立柱建物址	……………	152
第115図	1区2号獨立柱建物址	……………	153
第116A図	1区3号獨立柱建物址	……………	154
第116B図	1区4号獨立柱建物址	……………	154
第117図	1区7・22号溝址	……………	157
第118図	1区1・2・4~15号土坑	……………	168
第119図	1区16~28号土坑	……………	169

第1208号	1区30~43号土坑	170
第1218号	1区44・45・48~60号土坑	171
第1228号	1区61~66号土坑	172
第1238号	1区106~117号土坑	173
第1248号	1区119~129号土坑	174
第1258号	1区130~136・141~145号土坑	175
第1268号	1区出土遺物	177
第1278号	1区出土遺物	178
第1288号	1区出土遺物	179
第1298号	1区出土遺物	180
第1308号	1区出土遺物	181
第1318号	1区出土遺物	182
第1328号	1区出土遺物	183
第1338号	1区出土遺物	184
第1348号	1区出土遺物	185
第1358号	1区出土遺物	186
第1368号	1区出土遺物	187
第1378号	1区出土遺物	188
第1388号	1区出土遺物	189
第1398号	2区1号住居址	203
第1408号	2区2号住居址	204
第1418号	2区3号住居址	205
第1428号	2区4・5A住居址	207
第1438号	2区5B住居址	208
第1448号	2区6号住居址	210
第1458号	2区7号住居址	211
第1468号	2区8号住居址	212
第1478号	2区8号住居址(竈)	213
第1488号	2区9号住居址	215
第1498号	2区9号住居址(竈)	216
第1508号	2区10号住居址	217
第1518号	2区10号住居址(竈)	218
第1528号	2区11号住居址	219
第1538号	2区11号住居址(竈)	220
第1548号	2区1号擬立柱建物址	224
第1558号	2区2号擬立柱建物址	225
第1568号	2区1・2・3・6号溝址	折り込み
第1578号	2区4・5号溝址	折り込み
第1588号	2区1~10号土坑	252
第1598号	2区11・12・19~29号土坑	253
第1608号	2区30~64号土坑	254
第1618号	2区65~94号土坑	255
第1628号	2区95~102号土坑	256
第1638号	2区103~110号土坑	257
第1648号	2区111~122号土坑	258
第1658号	2区123~132号土坑	259
第1668号	2区133~141号土坑	260
第1678号	2区142~152号土坑	261
第1688号	2区153~165・199号土坑	262
第1698号	2区166~168・170~177号土坑	263
第1708号	2区178~185・196号土坑	264
第1718号	2区186~188・190~195・197・198号土坑	265
第1728号	2区200~213号土坑	266
第1738号	2区214~229号土坑	267
第1748号	2区230~244号土坑	268
第1758号	2区245~249・169・189・250~258号土坑	269
第1768号	2区253号土坑墓石台座	270
第1778号	2区13・14・16号土坑	271
第1788号	2区15号土坑	272
第1798号	2区17号土坑	273
第1808号	2区18号土坑	274
第1818号	2区301~311・313~315号土坑	275
第1828号	2区317~321号土坑	276

第1838号	2区古墳分布図	278
第1848号	2区1号古墳址菅玉・土器甕り跡跡車	279
第1858号	2区1号古墳址	280
第1868号	2区2号古墳址	281
第1878号	2区4号古墳址	283
第1888号	2区6号古墳址	284
第1898号	2区6号古墳址	285
第1908号	2区7号古墳址	287
第1918号	2区8号古墳址	288
第1928号	2区9号古墳址	289
第1938号	2区10号古墳址	291
第1948号	2区出土遺物	295
第1958号	2区出土遺物	296
第1968号	2区出土遺物	297
第1978号	2区出土遺物	298
第1988号	2区出土遺物	299
第1998号	2区出土遺物	300
第2008号	2区出土遺物	301
第2018号	2区出土遺物	302
第2028号	2区出土遺物	303
第2038号	2区出土遺物	304
第2048号	2区出土遺物	305
第2058号	2区出土遺物	306
第2068号	2区出土遺物	307
第2078号	2区出土遺物	308
第2088号	埴輪1	325
第2098号	埴輪2	326
第2108号	馬埴輪1号馬1	折り込み
第2118号	馬埴輪2号馬1	329
第2128号	馬埴輪2号馬2	330
第2138号	人物埴輪1	331
第2148号	人物埴輪2	332

付 図

- 1 1・2区ワング区
- 2 1・2区河道
- 3 1区住居・土坑全体図
- 4 1区墓・擬立柱建物・櫛列全体図
- 5 1区1・2号櫛列
- 6 1区河道・10号溝
- 7 1区墓
- 8 1区1・2・9・20号溝
- 9 1区3・5・6・11・12・18・21号溝
- 10 2区遺構図
- 11 2区1・2・3・6号溝
- 12 2区4・5号溝
- 13 2区河道・7号溝
- 14 2区土器甕り
- 15 2区5号古墳
- 16 2区11号古墳
- 17 2区12号古墳
- 18 2区高埴輪1号馬2

写真図版

- P.L. 1 1区全景1
 P.L. 2 1区全景2
 P.L. 3 1区3・4号住居址
 P.L. 4 1区6号住居址
 P.L. 5 1区23号住居址
 P.L. 6 1区縄文土器 遺構出土品・土坑
 P.L. 7 1区縄文土器 前期
 P.L. 8 1区縄文土器 前期
 P.L. 9 1区縄文土器 後期
 P.L. 10 1区縄文土器 後期
 P.L. 11 1区縄文土器 後期
 P.L. 12 1区縄文土器 後期
 P.L. 13 1区縄文土器 後期
 P.L. 14 1区縄文土器 後期
 P.L. 15 1区縄文土器 後期
 P.L. 16 1区縄文土器 その他
 P.L. 17 1区縄文石器 石鏃・石斧
 P.L. 18 1区縄文石器 石斧
 P.L. 19 1区縄文石器 石斧
 P.L. 20 1区縄文石器 石斧
 P.L. 21 1区縄文石器 石斧・凹石
 P.L. 22 1区縄文石器 凹石・磨石
 P.L. 23 1区縄文石器 磨石
 P.L. 24 1区縄文石器 磨石・石鏃
 P.L. 25 1区縄文石器 石皿
 P.L. 26 1区2号住居遺構 石・基石・石皿
 P.L. 27 1区1・2号住居址
 P.L. 28 1区7～10号住居址
 P.L. 29 1区11・12号住居址
 P.L. 30 1区13・14号住居址
 P.L. 31 1区15・16号住居址
 P.L. 32 1区17・18号住居址
 P.L. 33 1区19・20号住居址
 P.L. 34 1区21・22号住居址。1・3・4号掘立
 P.L. 35 1区1・2・4～7・9・10号土坑
 P.L. 36 1区11～19号土坑
 P.L. 37 1区20・21・24～28・30～32号土坑
 P.L. 38 1区33～36・43・44号土坑
 P.L. 39 1区45・46・50～55号土坑
 P.L. 40 1区56～61・63・65号土坑
 P.L. 41 1区1・2号溝
 P.L. 42 1区3・5・6・7号溝
 P.L. 43 1区14号溝
 P.L. 44 1区5・21号溝
 P.L. 45 1区畚
 P.L. 46 1区1・2号櫛列
 P.L. 47 1区包含櫛
 P.L. 48 2区全景1
 P.L. 49 2区全景2
 P.L. 50 2区1・2号住居址
 P.L. 51 2区3～5 B号住居址
 P.L. 52 2区6～8号住居址
 P.L. 53 2区9～11号住居址
 P.L. 54 2区1・2号掘立
 P.L. 55 2区1～7号土坑
 P.L. 56 2区8～12・96・97・99号土坑
 P.L. 57 2区100・103・110・113・121・123・124・125・127号土坑
 P.L. 58 2区128～132・134・139号土坑
 P.L. 59 2区140・143・145・149・155号土坑
 P.L. 60 2区169・199・217号土坑
 P.L. 61 2区13・14・16号土坑
 P.L. 62 2区15・17号土坑
 P.L. 63 2区1・2号溝
 P.L. 64 2区3・4・5・6号溝
 P.L. 65 2区1・2号古墳
 P.L. 66 2区4・5号古墳
 P.L. 67 2区6号古墳
 P.L. 68 2区7～10号古墳
 P.L. 69 2区11～12号古墳
 P.L. 70 2区集石
 P.L. 71 2区河道
 P.L. 72 1・2区スタップ
 P.L. 73 遺輪1
 P.L. 74 遺輪2
 P.L. 75 高輪輪1
 P.L. 76 高輪輪2

抄 録

1 発掘調査区の概要

今回の報告は発掘調査区を北端から1区～7区に区分した1区と2区の報告書である。1区の所在地は藤岡市大字上栗須小字葉師裏で調査面積は6,615㎡、2区は藤岡市大字上栗須小字葉師前、小字上ノ台で調査面積は12,673㎡である。報告書の名称は、発掘担当者の整理作業の進行順に4区～7区を「上栗須遺跡群Ⅰ」、1区～2区を「上栗須遺跡群Ⅱ」、3区を「上栗須遺跡群Ⅲ」とした。

発掘調査期間は昭和63年4月1日に開始され、1区・2区を調査区の買収の進捗に合わせて細切れ状態で調査したために2年9ヶ月の長期にわたり、平成2年12月25日に終了した。

調査対象地域は藤岡市の北方、旧小野地区にあたり、上栗須地区は藤岡台地の北側の崖線上に位置する。1区は崖線下の畑から水田部分に移行する地域で、北側に旧鍋川流路で温川に合流する沖積地に面しており、河川の氾濫の影響が考えられた。2区は崖線上の台地縁辺部の調査であった。特に注意されたのは、古墳の町といえるほどの多数の古墳が確認されているながら、小野地区は古墳が極端に少ないことであった。ところが、前橋長藩線の発掘で10基の古墳が調査され、今回の発掘でその古墳群の広がりが及ぶのかどうか興味を持たれた。

2 発掘調査された遺構と遺物

1区 縄文時代の包含層

住居	23軒	縄文時代	4軒	8世紀	18軒	10世紀	1軒
孤立柱建物	4棟						
帯列	2条						
畠	6面						
土墳	104基	そのうち縄文土墳	7基				
河道	4条	1号A河道	B軽石以前	1号B河道	B軽石以前		
		1号C河道	B軽石以前	2号河道	B軽石以前		
溝	15条						

2区 住居	12軒	縄文時代	1軒	8世紀	10軒	10世紀	1軒
孤立柱建物	2棟						
土墳	279基	そのうち縄文土墳	22基				
土器溜り	1基						
古墳時代土墳墓	6基						
古墳	11基						
溝	7条						

3 課題

1区の縄文時代包含層から出土した膨大な縄文土器と石器について、整理作業途中での報告である。包含層と、その分布と遺構群との検証は残されたままである。古代住居址出土遺物の全点の記録調査の成果を今回は載せることができなかった。これも今後の課題である。

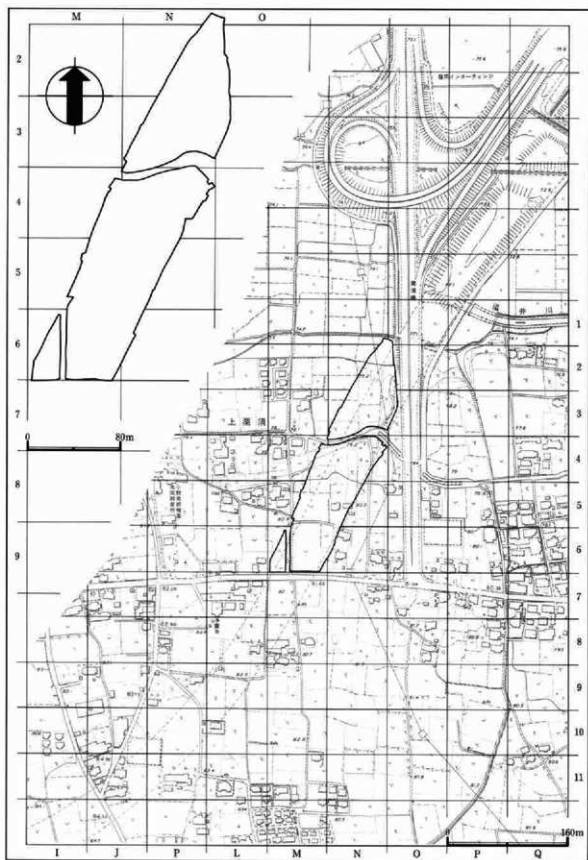
第1章 調査概要

1 調査地区

藤岡市は関東平野の西北端に位置している。関東山地が関東平野に大きく開ける扇の要の部分といっても良い。藤岡市の西には赤久縄山に源を発するいしづ川が甘菜町から吉井町沿いを南の日野地域から流れて金井付近で流れを北に変え、左岸は河岸段丘、右岸は台地を削りながら上落合で東流する鍋川と合流する。藤岡市の東は三国山、諏訪山を源流とし、群馬県の鬼石町から埼玉県との県境を南から北へ向かって流れ下って、神田付近で河岸段丘を形成する神流川がある。この二つの河川の合流、蛇行で形成された扇状地、藤岡台地である。この藤岡台地の扇状地形の中央よりやや東よりに独立丘陵の庚申山が位置する。扇状地の西側はこのいしづ川が強い影響を与え、東側は神流川が強い影響を与えたと考えられる。扇状地の崖線は、鍋川、烏川、いしづ川の合流河川が西から東に流れて刻み周辺との比高差3～4mを測る。

藤岡全域の判図での代表的な遺跡を通観すると先土器時代の遺跡は庚申山の北山遺跡、縄文時代では中期の中大塚遺跡、晩期の谷地遺跡、弥生時代の前期、中期の沖II遺跡、古墳時代前期の竹沼遺跡、中期の堀ノ内遺跡、奈良・平安時代の株木遺跡などが代表例で文献にも記される「小野郷」などに連綿と集落は受け継がれてゆく。ほかに特筆される遺跡は古墳時代の墳墓で前期の堀ノ内遺跡、中期の白石稲荷山古墳、後期の御伊勢塚古墳などは群馬県を代表する遺跡といっても過言ではない。

次に発掘調査の対象となった「小野地域」に判図を絞って述べてみたい。藤岡市の一番北側の地域、小野地域は約980㌔の面積をもつ。藤岡台地の先端部の崖線沿いの台地部分は、上栗須、中栗須の大字の地域、森新田、中島、立石の一部は鍋川を主流に烏川、いしづ川の合流する旧流路の蛇行河川に沿う自然堤防上の大字の地域、その旧流路の氾濫原の大字地域は、森、中、立石の一部に該当する。この台地上、発掘対象地の周囲も南西方向、いしづ川の旧流路と考えられる河川跡が確認されている。現在でもかつて、群馬県教育委員会が発掘調査した「湯井遺跡」の存在する湯井川の流れている流路と森新田の集落の南の方面から北藤岡の駅付近をとり抜けて合流する流路周辺は水田地帯となっている。また森新田と中島の南側を通過し烏川へ合流する流路もその痕跡をたどる事ができる。この地域に発掘調査に入るまえに実施された調査地域の分布調査ではA、藤岡台地地域、B、自然堤防地域、C、氾濫原地域の三地域にそれぞれ立地の違いによる遺跡相の相違が確認された。A地域に相当する遺跡は上栗須の浄雲寺前から南の旧藤岡自動車教育所の付近までの7㌔の広大な地域に散布の認められた地域である。決して散布の密度は濃ほうではなかった。須恵器、土師器、瓦などの小破片で、特に興味をひいたのは返りのある須恵器で7世紀に帰属する坏蓋であった。少数であるが7世紀代の集落または部分的に瓦を伴う寺院の存在が想定された。B地域に相当する地域は東邦亜鉛の工場東の大字中の地域である。周辺是水田で比高差1mほどを測る。微高地は桑園が中心で水田との境界は入り組んだ複雑な地形を呈する。須恵器と土師器が小破片であるが出土しており主に平安時代の集落の存在を推定させた。C地域は藤岡インターチェンジ周辺の水田面周辺を分布調査した。以前、藤岡市で平安時代の水田調査をしている事から水路の断面でその痕跡を検出しようとしたが暗灰褐色粘土層中に土師器の摩滅した資料を検出したのみで水田の畦畔などの検出は確認できなかった。付近を通過する関越自動車道建設時点での発掘調査の成果が生かされていたならと悔やまれる調査地域であるが、沖積地と呼ばれる埋積低地の情報に特に注意を払う必要を感じている。このような経過を踏まえて本格的な発掘調査に着手した。



第2図 発掘区設定図

2 調査の概要

本遺跡群は藤岡市大字上栗須寺前に遺跡の分布の中心の一つがあることから広範にわたる遺跡群の総称として命名された。調査対象の遺跡の長さは1400mに及び調査対象の面積は60280㎡と考えられた。当初調査区は5地区であった。1～5区と道路建設予定図面の若い杭番号より字界、道路界でおおよその発掘単位を区分した。調査は錯綜するが本報告の1区、2区の調査の経過を中心に記述したい。

昭和63年度の調査予定地区は1、2、3区の土地買収の終了した22169㎡が計画された。4月、発掘区周辺の遺跡分布調査、周辺の地権者への挨拶まわり、発掘作業員の募集、調査事務所の設営にあてた。1区は5月9日発掘に着手、10月21日に終了した。2区は10月24日に発掘着手、未調査部分60%を残して1月19日に終了した。3区は11月14日より発掘着手、主要道路を挟んで2区との平行調査となった。3区は調査面積の約40%の表土はぎ、遺構の確認を始めてみたものを土層の変化と遺構の多様さに押され気味で思ったより調査は進展せず3月末に本年度の調査は終了した。

平成元年度は分布調査時に除外されていた未買収の宅地部分の調査を一部試掘調査を実施した。その結果、調査予定外の大字露塚、大字本動堂、大字下大塚に合計4000㎡の遺跡の存在が確認された。6区、7区と調査範囲を呼称し、発掘調査区は7区に広がった。続いて2区の昨年の残りの南半分の調査に入る予定であったが、3区の道路迂回部分の調査に入り本来の調査予定地域にもどったのは10月以降のことになってしまった。さらに買収された宅地部分の小規模な調査に次々に取り出され、継続調査ができなかった。

平成2年度は道路の両側溝約3mの部分も調査対象となった。そのため1区、2区の既調査部分の両側溝、さらに2区の墓地移転に伴う発掘調査も実施された。結局のところ本遺跡群の調査予定面積は65000㎡をこえるものと予想された。

1区の調査は南側の台地から北側の沖積低地に移行する地域で調査地域の東側は主要地方道前橋・長瀬線が走り、南側は台地と低地の境界部分を崖線に沿って集落の幹線道路が走り、調査中の往来に非常に神経を使った。北側は中村堰の用水が走り、降雨の度に冠水することが多かった。調査地域は東西方向に50m間隔に3本の試掘溝を土層観察用に設定した。南北方向は両側の発掘範囲の壁を土層観察に利用した。実際のところ道路幅70mもあったのだから中間の南北方向に土層観察用の試掘溝を残しておくべきであった。それは表土層に台地の南方方向から台地の扇端に直行するように低地に向かって大きな河道が走り抜けていたことでこの河道の時期を決定するのに大変な時間を費やしてしました。多くの土層検討用の断面を残すことは河川の影響を受けている低地部分の調査に不可欠であることを学んだ。この地区の遺跡の変遷は、まず縄文時代の土器と河原石、石器類の大量の包含されている層の検出があった。主体に包含された縄文時代後期の土器と住居、集石、石組遺構は同時期に帰属するものと考えられた。時間を置いて奈良時代の集落が低地全体に広がる。柵りに囲まれた掘立柱建物もこの時期に帰属させてよい。平安時代、10世紀の集落の一部分が沖積低地寄りに顔を覗かせるのは興味深い。平安時代後期に藤岡台地の上を鮎川の氾濫の河道が走る。

2区は南側を県道下栗須馬庭停車場線が走り大型車両の往来で安全管理に大変な神経と労力を費やした。北側は藤岡台地の崖上となっており表土を削がしたあとの土砂が降雨の度に流出し日曜日にも崖下の道路に流れ出さないように細心の注意を払った。学童の通学路、耕作地への通勤路である。調査の順序は、調査区域の北半分、次に調査区域の南半分、最後に墓地の集団移転後の調査であった。北半分の調査区域は、縄文時代前期の土壌群、住居が検出された。そして平安時代の河川氾濫の流路の調査であった。南半分の調査は小規模な古墳群と2本1組の溝の調査であった。

3 調査日誌

1区調査(1988年・昭和63年)

5月1日(日)

}

8日(日)

9日(月) 表土剥ぎ,重機作業

}

14日(土) 表土剥ぎ,重機作業

15日(日)

16日(月) 表土剥ぎ,重機作業, 1・2・4~14土坑

}

21日(土) 表土剥ぎ,重機作業

22日(日)

23日(月) 表土剥ぎ,重機作業, 15~22土坑

}

28日(土) 表土剥ぎ,重機作業

29日(日)

30日(月) 表土剥ぎ,重機作業

}

6月2日(木) 表土剥ぎ,重機作業

3日(金) 台風の影響による降雨の為室内作業

4日(土) 表土剥ぎ,重機作業

5日(日)

6日(月) 4号住

7日(火)

}

10日(金)

11日(土) 清掃,写真撮影の準備

12日(日)

}

15日(水)

16日(木) 遺跡の全景撮影

17日(金)

18日(土)

19日(日)

20日(月) IV層面での輸出作業

21日(火)

22日(水)

23日(木) 6号住

24日(金)

25日(土)

26日(日)

27日(月) 雨の為室内作業

28日(火) 6号住

29日(水) 6号住

30日(木)

7月1日(金) 1・6号住

2日(土)

3日(日)

4日(月) 1・3・6号住

5日(火) 1・3・6号住

6日(水) 1号住, 23~32土坑

7日(木) 33土坑

8日(金)

}

11日(月)

12日(火) 1号住

13日(水)

14日(木) 午後小雨の為室内作業

15日(金) 雨の為室内作業

16日(土)

17日(日)

18日(月) 室内にて土器洗い

19日(火) 1号住

}

24日(日)

25日(月) 2号住

26日(火) 1・2・7~12号住, 河道

27日(水) 1・2・6~12号住

28日(木) 室内作業

29日(金) 午前室内作業, 午後1・2・6~12号住

30日(土)

31日(日)

8月1日(月) 1・2・7・11・12・14号住

2日(火)

3日(水) 5・9・10・12号住

4日(木) 12・13・14号住

5日(金) 12・13・16号住

6日(土)

7日(日)

8日(月) 11~13・16号住

9日(火) 11・12号住

10日(水)

11日(木) 23号住

12日(金)

}

15日(月)

16日(火) 室内作業

17日(水) 23号住

18日(木) 23号住

19日(金) 23号住

20日(土)

21日(日)

22日(月) 23号住

23日(火) 2・5・7・10・13・16・18・23号住, 34~36土坑

24日(水) 5・10・16~18・22・23号住

25日(木) 6・10・12・13・17・23号住, 37~39土坑

26日(金)

}

30日(火)

31日(水) 11・18号住

9月1日(木) 40~44土坑

2日(金) 6・10・18号住

3日(土)

}

6日(火)

7日(水) 6号住

8日(木) 3・6号住

9日(金)

10日(土)

11日(日)

12日(月) 45土坑

13日(火) 写真撮影, 6・19・20・23号住

14日(水) 6・10・18・19号住

15日(木)

16日(金) 19号住

17日(土) 重機作業

18日(日)

19日(月) 12・18号住

20日(火)

21日(水) 10・15~20号住

22日(木)		12日(土)	
?		?	
25日(日)		15日(火)	
26日(月)	3・7・18~20号住, 午後室内作業	16日(水)	6号墳
27日(火)	室内作業	17日(木)	2・3号住, 6号墳
28日(水)		18日(金)	
?		19日(土)	
10月2日(日)		20日(日)	
3日(月)	16・17・19・20号住, 50・51土坑	21日(月)	2・3号住
4日(火)	7・16・18・19号住, 48・49土坑	22日(火)	4・6号墳
5日(水)	2・19号住	23日(水)	
6日(木)		24日(木)	午前雨の為室内作業
7日(金)	12・13号住	25日(金)	1・3号住
8日(土)		26日(土)	
9日(日)		27日(日)	
10日(月)		28日(月)	1号住, 1号墳
11日(火)	18・19号住	29日(火)	
12日(水)	10・18号住	?	
13日(木)	2号住	12月9日(金)	
14日(金)	2・10号住	10日(土)	11土坑
15日(土)		11日(日)	
?		?	
18日(火)		20日(火)	
19日(水)	2・16・19号住, 52~61土坑	21日(水)	7号墳
20日(木)		22日(木)	7号墳
21日(金)	21号住, 62土坑, 一時調査中断	23日(金)	
1989年・平成元年		24日(土)	
7月1日(土)	調査再開	25日(日)	
2日(日)		26日(月)	4号住
3日(月)	室内作業	27日(火)	
4日(火)		?	
?		31日(土)	
11日(火)		1989年・昭和64年	
12日(水)	表土剥ぎ, 重機作業	1月1日(日)	
13日(木)	雨の為室内作業	?	
14日(金)		4日(水)	
?		5日(木)	午前室内作業
27日(木)		6日(金)	室内作業
28日(金)	雨の為室内作業	7日(土)	
29日(土)		8日(日)	
30日(日)		平成元年	
31日(月)	63・65土坑, 1区完了	9日(月)	
		10日(火)	
2区調査(1988年・昭和63年)		11日(水)	
10月24日(月)	表土剥ぎ, 重機作業	12日(木)	午前雨の為室内作業
25日(火)		13日(金)	
26日(水)	遺構検出作業, 室内で1区区画整理	?	
27日(木)	遺構検出作業, 掘量作業	18日(水)	
28日(金)		19日(木)	一時調査中断
?		7月3日(月)	調査再開, 室内作業
11月1日(火)		4日(火)	
2日(水)	1号住, 2号墳	?	
3日(木)		11日(火)	
4日(金)	1号墳	12日(水)	2区包含崩落崩り, 6号墳
5日(土)		13日(木)	雨の為室内作業
6日(日)		14日(金)	西側拡張部調査, 6号墳
7日(月)	1・2号住, 4号墳, 1~10土坑	?	
8日(火)	2号住, 5号墳	19日(水)	6号墳
9日(水)	2号住, 5・6号墳	20日(木)	5A号住
10日(木)	2号住, 5号墳	21日(金)	
11日(金)	2・3号住, 5・6号墳	?	
		27日(木)	
		28日(金)	雨の為室内作業

第1章 調査概要

29日(土)	一時調査中断	18日(木)	96・98・105・142土坑
12月25日(月)	調査再開。2区表土削ぎ	19日(金)	99~104土坑。6号住
26日(火)		20日(土)	
}		21日(日)	
31日(日)		22日(月)	7号住。113~121・129土坑
1990年・平成2年		23日(火)	7号住。122・133・158土坑
1月1日(月)		24日(水)	5B号住。145土坑
}		25日(木)	5B号住。137・141・142土坑
7日(日)		26日(金)	
8日(月)	2B区	27日(土)	
9日(火)		28日(日)	
10日(水)		29日(月)	5B・6号住
11日(木)		30日(火)	雨の為室内作業
12日(金)	5・8号墳	31日(水)	124~128・132・138・139・146・147・159・160・163・172土坑
13日(土)		11月1日(木)	8号住。130・131・133~136・157・161・162・170・178・179・187土坑
}		2日(金)	140・143土坑
22日(月)		3日(土)	
23日(火)	5号墳	}	
24日(水)	5号墳	13日(火)	
25日(木)	12土坑。11号墳	14日(水)	8・10・11号住
26日(金)		15日(木)	8・10・11号住
27日(土)		16日(金)	8・11号住
28日(日)		17日(土)	
29日(月)	11・12号墳	18日(日)	
30日(火)		19日(月)	10・11号住
31日(水)	雪の為室内作業	20日(火)	
2月1日(木)	雪の為室内作業	21日(水)	8・10・11号住
2日(金)	雪の為室内作業	22日(木)	8号住。148・149・155土坑
3日(土)		23日(金)	
4日(日)		24日(土)	
5日(月)	土器洗い注記	25日(日)	
6日(火)		26日(月)	9・11号住。150~154・156・164~169・175~177・180・197・198・229・250~258土坑
7日(水)	13・14土坑。12号墳	27日(火)	10・11号住。144土坑
8日(木)	16土坑。12号墳	28日(水)	雨の為室内作業
9日(金)	15・17・19~22土坑。11号墳	29日(木)	雨の為室内作業
10日(土)		30日(金)	雨の為室内作業
}		12月1日(土)	
13日(火)		2日(日)	
14日(水)	17土坑。5・11号墳	3日(月)	11号住。112・158・190~195・200土坑
15日(木)	雨の為室内作業	4日(火)	196・201~206土坑
16日(金)	雨の為室内作業	5日(水)	8・10号住。173・174・186・207~212・230~237・240・244~246土坑
17日(土)		6日(木)	10号住。181~185・188・213~227・238・239・242・243・247~249土坑
18日(日)		7日(金)	199・217・228・241土坑
19日(月)	雨の為室内作業	8日(土)	
20日(火)	雨の為室内作業	9日(日)	
21日(水)		10日(月)	9号住。171土坑
22日(木)	9号墳	11日(火)	11号住
23日(金)		12日(水)	
24日(土)	午前室内作業	13日(木)	9・11号住
25日(日)		14日(金)	11号住。172・189土坑
26日(月)	23~48・69~85土坑	15日(土)	
27日(火)	18・49~68土坑	}	
28日(水)	10号墳。一時調査中断	24日(月)	
10月1日(月)	調査再開。午後室内作業	25日(火)	2区完了
2日(火)			
}			
7日(日)			
8日(月)	雨の為室内作業		
9日(火)	雨の為室内作業		
10日(水)			
}			
16日(火)			
17日(水)	97・106~111土坑		

第II章 1区上栗須薬師裏

1 遺 跡

A 河 道

第1号A河道

N5・51, 52グリッドから河道が確認され、北へ直進し、N4・73で第1号B河道と分岐し左側・北北西に緩く曲線を描きながらN3・70, 80, 90グリッドへ抜ける。計測された長さは116.0m, 幅10.5m, 深さ2.8mを測る。本河道の右側側辺を13号溝が不安定に流れる。

第1号B河道

N5・51, 52グリッドで検出された本河道は北北東へ進路を取り、N4・73, 74グリッドで北東へ緩く右折し、台地の斜面を駆け下りる。N3・57, 58グリッド辺りで緩く方向を変え北方へ直進し、さらに北西方向に曲線を描きながらN2・65, 75グリッドで発掘調査区域外へ至る。長さは194.5m, 幅8.4m, 推定深さは2.3mを測る。本河道の右側側辺を16号溝が流れる。

第1号C河道

N5・51, 52グリッドで検出された本河道は、北北東へ直進しながらN3・57, 58グリッド辺りで流路を北方へ向け、東方から迫り出す台地の縁辺を北北東、さらに北東、東北東へと大きく曲りながらO2・30グリッドに至る。確認された長さは216.0m, 幅9.1m, 深さは2.3mを測る。第1号河道はA・B・Cの3本の河道に分岐し、左に大きく曲線を描くA分流が最も古く、続いてB分流、そしてC分流が最も新しい流れである。

第2号河道

N4・77グリッドで検出された河道は北北東へ直線的に進み、N3・58グリッド辺りで第1号C河道に合流し、北北西に緩く屈曲する。さらにN2・86, 87, 88グリッド辺りで右に曲線を描き、台地縁辺を走りO2・30グリッドで発掘調査区域外へ抜ける。検出された河道の長さは155.5m, 幅は6.0m, 深さ1.7mを測る。本河道の流れが北へ直進するものと仮定すると、N5・57グリッドと第1河道のN5・51グリッドの東西ライン上では、約45m離れて両河道とも南方から北方へかけて流下してきたものと考えられる。本河道は第1号C河道の旧流路の先端部で合流し、その河道をたどって流れる。本河道の右側側辺を14号溝が流れ、N2・48, 49グリッド辺りで流路の先端が不明となった。発掘調査時の表土掘削のミスが原因と考えられる。

N4・48グリッドで2号河道上層または14号溝の埋土より鉄滓出土。大きなものは10×10×4cmの大きさでその他数片確認され、総量は202gである。

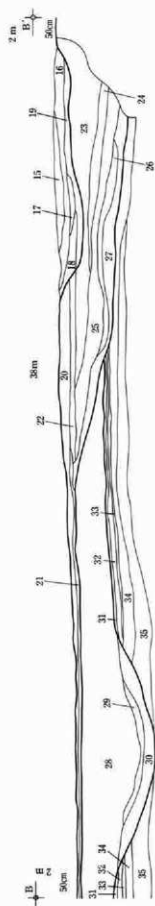
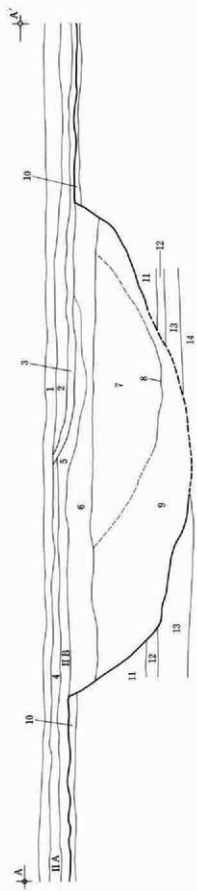
土層説明

1区河道 (基準高さ 75.00m・74.50m・74.90m)

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 褐色(10YR4/1) | 粘性の弱い砂質のシルト層。径2～3mmの白色軽石・径5mmほどの礫を含む。(最大2～3cm) |
| 2. 明赤褐色(5YR5/8) | 灰黄褐色(10YR5/2)含む。粘性の弱い砂質のシルト層。しまっている。径5mmほどの礫を含む。 |
| 3. オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 砂質のシルト層。2mm～最大3mmの礫・3mmの灰白色軽石を含む。 |
| 4. 浅黄色(2.5Y7/4) | 粘性の弱いしまったシルト層。2～5mmの礫・1mmの白色粒を含む。 |
| 5. におい黄褐色(10YR4/3) | 礫を多く含む。粘性の弱い砂質のシルト層。礫径1cm～最大3cm。 |
| 6. | 砂礫層。きめが細かい。 |
| 7. におい黄褐色(10YR4/3) | 砂質土。層中に黄褐色(2.5Y5/6)粘質土を斑に混入する。径1cmの礫を含む。 |
| 8. | 砂礫層。礫径1～2cm最大5cm。下部ほど礫の割合が多くなる。 |
| 9. 暗褐色(10YR3/3) | 7層と同質。 |
| 10. におい黄褐色(10YR4/3) | 7層と同質。黄褐色(2.5Y5/6)粘質土の量が増加する。 |
| 11. オリーブ色(5Y5/6) | 粘質シルトの崩落土。 |

第II章 1区 上栗須築師裏

12.	オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂粒を多く含んだ土。
13.	オリーブ褐色(2.5Y4/3)	12層を主成分として、灰層・焼土を混入する。
14.	オリーブ黒色(5Y3/2)	B層石を主体として、砂礫を混入する。
15.	暗オリーブ色(5Y4/3)	17層に近似、砂粒を多く混入する。
16.	暗オリーブ色(5Y4/3)	径5mmの小礫を多く混入した粘性土。
17.	明黄褐色(2.5Y6/6)	少量の砂粒を混入するシルト、鉄分の凝集あり。
18.	黄褐色(2.5Y5/6)	砂礫を混入するシルト、15層と17層の中間の土質。
19.	オリーブ褐色(2.5Y4/6)	砂粒とシルト質土の混土。
20.	オリーブ色(5Y5/6)	シルト、鉄分の凝集あり。
21.		砂礫層、礫は径5~10cmである。
22.	暗オリーブ色(5Y4/3)	16層と同質であるが礫の粒子が細かい。
23.	オリーブ色(5Y5/6)	粘質シルト、径1cmの砂礫を多く混入する。
24.	灰黄褐色(10YR4/2)	底部に鉄分の凝集がみられる、粘性のない砂質土、しまっている、径5mmほどの礫を含む。
25.	ぶい黄褐色(10YR4/3)	粘性のない砂質土、しまっている、径5mm~2cmの礫を含む。
26.	褐色(7.5YR4/3)	粘性のない砂の多い砂質土、しまっている、径5mm~1cmの礫を含む、As-Aを含む、鉄分の凝集が見られる。
27.	褐色(10YR4/4)	礫まじりで粘性のある砂質土、しまっている、径5mm~1.5cmの礫を含む。
28.	黒褐色(10YR3/2)	礫まじりで粘性のある砂の多い砂質土、しまっている、径5mm~1cmほどの礫を含む、As-Bを含む。
29.	黒色(10YR2/1)	As-Bを含む黒色層、粘性のある砂質土、しまっている、径5mm~1cmほどの礫をところどころに含む。
30.	暗灰黄色(2.5Y4/2)	As-B・粗粒・中粒塊状に純粋なものはいる。
31.	黒褐色(10YR3/2)	礫まじりで粘性のある砂質土、軟質土、径5mm~1.5cmの礫を多く含む。
32.	黒褐色(10YR3/2)	粘性のない砂質土、しまっている、径1cmの礫を多く含む炭化物を少量含む。
33.	黒褐色(10YR3/2)	粘性のある砂質土、しまっている、径7mmの礫を含み炭化物・焼土粒を少量含む、炭化物の最大は5cm。
34.	ぶい黄褐色(10YR4/3)	礫まじりで粘性のある砂質土、しまっている、径1cm~1.5cmの礫を多く含む、焼土・炭化物を少量含む。
35.	黄褐色(2.5Y5/3)	礫まじりのシルト質土、粘性のある砂まじりのシルト、しまっている、径1cm~2cmの礫を含む。
36.		礫上部は平均径5cm・下部は平均径1.5cm。
1区・2区河道		
1.	褐灰色(10YR4/1)	粘性の弱い砂質のシルト層、径2~3mmの白色軽石・径5mmの礫を含む。(最大2~3cm)
2.	明赤褐色(5YR5/8)	粘性の強い砂質のシルト層、しまっている、径5mmの礫・2~3mmの白色軽石を多く含む。
3.	浅黄色(2.5Y7/4)	粘性の強いしまったシルト層、2~5mmの礫・1mmの白色粒を含む。
4.	オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂質のシルト層、2mm~最大3cmの礫・3mmの灰色軽石を含む。
5.	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質のシルト層、2~5mmの礫・灰白色軽石を含む。
6.		砂礫層、礫は平均径1cm最大5cm。(1号河道埋土)
7.		粗粒砂。(1号河道埋土)
8.		底部に砂の混じらない礫層がある、径5mm~2cm平均7mm。(1号河道埋土)
9.		砂混じりの礫層、礫径2cm最大5cm。(1号河道埋土)
10.	灰黄褐色(10YR5/2)	粘性のある緻密でしまったシルト層、赤褐色の鉄分の凝集がみられる。
11.	ぶい黄色(2.5Y6/3)	粘性のある緻密でしまっている、黒褐色(7.5YR3/2)で平均径5mmの鉄分、中粒砂層。
12.		礫層、礫径1~1.5cm。
13.		砂層。
14.		砂礫層。(2号河道埋土)
15.		砂層。(2号河道埋土)
16.		砂層。(2号河道埋土)
17.		砂層。(2号河道埋土)
18.		上層は粘質土で下層は砂質土。(2号河道埋土)
19.		砂利層。(2号河道埋土)
20.		ローム質シルト。
21.		砂礫層。
22.	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土層70%+ローム質シルト30%の混土層。
23.		混砂層。
24.		砂層+礫層。
25.		混砂層+砂礫層。
26.		礫層。
27.	黒色(7.5YR1.7/1)	粘質土層。(1号河道(旧)埋土)
28.	褐灰色(10YR4/1)	砂礫層。(1号河道(旧)埋土)
29.		砂礫層。(1号河道(旧)埋土)
30.		砂礫層。(1号河道(旧)埋土)
31.	灰黄褐色(10YR5/2)	ローム質シルト。
32.		礫層。
		33. 黄褐色ローム質シルト。
		34. 砂層。
		35. 砂層。



1 遺 跡

第3図1・2区河溝横セクション

B 畠

畠A (付図番号第4・7図 挿図番号第4図 写真番号PL-45)

A面の畠の位置はN3・22, 32, 42グリッドで、12条検出された。走向はN-43'-Wである。検出された畠の面積は約6m×6mで、約37㎡である。

畠B (付図番号第4・7図 挿図番号第4図 写真番号PL-45)

B面の畠の位置はN3・13, 22, 23グリッドで、15条検出された。走向はN-63'-Eである。検出された畠の面積は約14m×8mで、約110㎡である。

畠C (付図番号第4・7図 挿図番号第4図 写真番号PL-45)

C面の畠の位置はN3・23, 24, 33, 34, 43, 44グリッドで、23条検出された。走向はN-43'-Wである。検出された畠の面積は約12m×12mで、約145㎡である。

畠D (付図番号第4・7図 挿図番号第4図 写真番号PL-45)

D面の畠の位置はN3・14グリッドで、9条検出された。走向はN-42'-Wである。検出された畠の面積は約6m×6mで、約30㎡である。

畠E (付図番号第4・7図 挿図番号第4図 写真番号PL-45)

E面の畠の位置はN2・94, N3・04グリッドで、5条検出された。走向はN-56'-Eである。検出された畠の面積は約7m×3mで、約17㎡である。

畠F (付図番号第4・7図 挿図番号第4図 写真番号PL-45)

F面の畠の位置はN3・04, 05, 14, 15グリッドで、6条検出された。走向はN-42'-Wである。検出された畠の面積は約5m×4mで、約18㎡である。

C 棚列

1号棚列 (付図番号第4・5図 写真番号PL-46)

位置 N2・84, 94, 95, N3・05グリッド棚列の長さは10.8mを測る。主軸方位N-28'-W

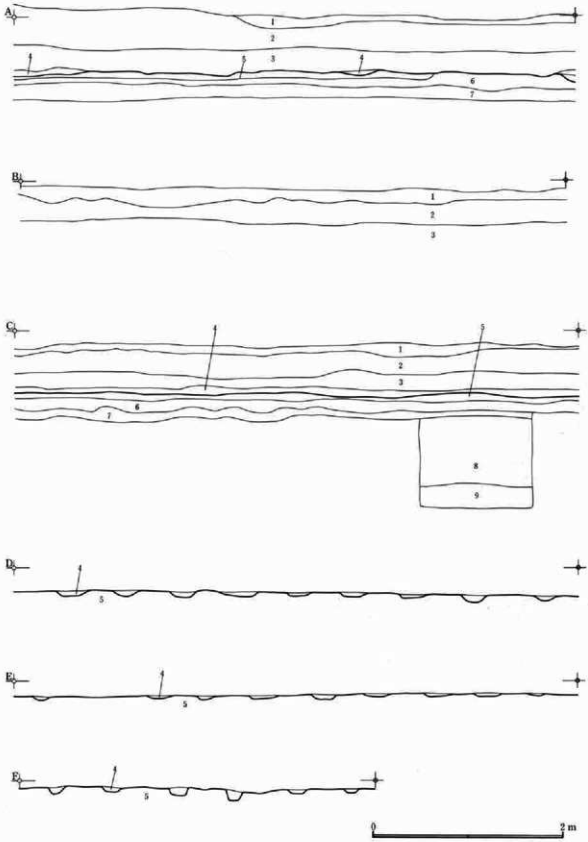
13個のビットより成る。それぞれのビットの規模(長軸×短軸×深さ)は、PA-38cm×34cm×35cm, PB-22cm×20cm×13cm, PC-17cm×15cm×7cm, PD-25cm×22cm×13cm, PE-25cm×22cm×18cm, PF-22cm×19cm×16cm, PG-29cm×24cm×16cm, PH-40cm×35cm×21cm, PI-25cm×20cm×9cm, PJ-35cm×31cm×12cm, PK-31cm×27cm×22cm, PL-37cm×34cm×23cm, PM-33cm×26cm×19cmを測る。

2号棚列 (付図番号第4・5図 写真番号PL-46)

位置 N2・95, 96, N3・05, 06グリッド棚列の長さは13.3mを測る。主軸方位N-58'-E

20個のビットより成る。それぞれのビットの規模(長軸×短軸×深さ)は、PA-25cm×23cm×13cm, PB-30cm×29cm×10cm, PC-21cm×20cm×6cm, PD-24cm×22cm×6cm, PE-30cm×28cm×14cm, PF-26cm×24cm×16cm, PG-23cm×22cm×9cm, PH-33cm×25cm×13cm, PI-23cm×23cm×10cm, PJ-18cm×16cm×10cm, PK-19cm×19cm×8cm, PL-17cm×16cm×6cm, PM-21cm×19cm×8cm, PN-18cm×17cm×13cm, PO-46cm×20cm×6cm, PP-35cm×27cm×10cm, PQ-20cm×18cm×6cm, PR-22cm×22cm×6cm, PS-23cm×22cm×12cm, PT-23cm×17cm×11cmを測る。

1 遺跡



第4図 1 区 畠

第Ⅱ章 Ⅰ区 上栗須菜師裏

土層説明

Ⅰ区Ⅰ号 (基準高さ 74.66m・75.06m)

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 褐色(10YR4/1) | 粘性の弱い砂質のシルト層, 径2~3mmの白色軽石・径5mmの礫を含む。(最大2~3cm) |
| 2. オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 砂質のシルト層, 2mm~最大3cmの礫・3mmの灰白色軽石を含む。 |
| 3. 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 砂質のシルト層, 2~5mmの礫・灰白色軽石を含む。 |
| 4. 浅黄色(2.5Y7/4) | 粘性の弱いシルト層, 2~5mmの礫・1mmの白色粒を含む。 |
| 5. 明褐色(7.5YR5/8) | 粘性の弱い緻密でしまったシルト層, 2~3mmの礫を少量含む。 |
| 6. 灰黄褐色(10YR5/2) | 粘性のある緻密でしまったシルト層, 赤褐色の鉄分の凝集がみられる。 |
| 7. にぶい黄色(2.5Y6/3) | 粘性のある緻密でしまった層, 黒褐色(7.5YR3/2)で径5mmの鉄分・マンガンの凝集が環状に入る。 |
| 8. 暗灰黄色(2.5Y5/2) | 粘性があり緻密でしまっている粘土層, 均一層で他のものを含まない。 |
| 9. 灰黄褐色(10YR4/2) | 極粗粒砂層下部ほど粗くなる, 径1cmの礫を含む。(最大3cm) |

Ⅰ区Ⅱ号 (基準高さ 74.50m)

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 浅黄色(2.5Y7/4) | 粘性の弱いシルト層, 2~5mmの礫・1mmの白色粒を含む。(表土) |
| 2. 明褐色(7.5YR5/8) | 粘性の弱い緻密でしまったシルト層, 2~3mmの礫を少量含む。(表土) |
| 3. 灰黄褐色(10YR5/2) | 粘性のある緻密でしまったシルト層, 赤褐色鉄分の凝集が見られる。(表土) |
| 4. 灰オリーブ色(5Y4/2) | しまりがある。 |
| 5. オリーブ黒色(5Y3/2) | 炭の破片が混入する。 |
| 6. 暗オリーブ色(5Y4/4) | しまりはない。 |
| 7. にぶい黄色(2.5Y6/3) | 粘性があり緻密でしまっている, 黒褐色(7.5YR3/2)で径5mmの鉄分・マンガンの凝集が環に入る。 |
| 8. 暗灰黄色(2.5Y5/2) | 粘性があり緻密でしまっている粘土層, 均一な層で他のものをほとんど含まない。 |
| 9. 黄褐色(2.5Y5/4) | 粘性土であって夾雑物を含まない。 |
| 10. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 9層と同質, 色調が僅かに暗い。 |
| 11. にぶい黄褐色(10YR4/3) | 少量の砂粒と軽石を混入する。 |
| 12. 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 砂粒と軽石を少量混入する。 |
| 13. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 少量の砂粒と軽石を混入する, 下面付近は色調が明るく混入物もない。 |
| 14. オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 少量の軽石と砂を混入する。 |
| 15. オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 少量の軽石を混入する。 |

Ⅰ区Ⅱ号 (基準高さ 74.50m)

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 16. オリーブ褐色(2.5Y4/6) | 上層に白色軽石が少量混入する。 |
| 17. 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 白色軽石を混入する, 下面付近は軽石を混入せず黄色味をおびる。 |
| 18. 黄褐色(2.5Y5/6) | 白色軽石を混入する。 |
| 19. オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 少量の軽石を混入する。 |
| 20. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 少量の軽石を混入する。 |
| 21. 黄褐色(2.5Y5/6) | 粘性をおびしまりが強い。 |
| 22. オリーブ褐色(2.5Y4/6) | 少量の軽石を混入する。 |
| 23. 黄褐色(2.5Y5/6) | 白色軽石を混入する。 |
| 24. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 少量の砂礫を混入する。 |
| 25. オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 少量の砂礫を混入する。 |
| 26. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 少量の軽石を混入する。 |
| 27. 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 少量の軽石と砂礫を混入する。 |
| 28. 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 少量の軽石を混入する。 |
| 29. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 少量の軽石と砂礫を混入する。 |
| 30. オリーブ褐色(2.5Y4/4) | 少量の砂礫を混入する。 |
| 31. オリーブ褐色(2.5Y4/6) | 30層に類似。 |

D-1 縄文時代

1区は古い順に以下のように変遷している。縄文時代前期の時代、縄文時代後期の時代、奈良時代の集落（竪穴住居、掘立柱建物、畑）の時代、平安時代の集落の時代が確認された。

次に、藤岡台地上を氾濫した鮎川の流れが2区の台地を南から北へ流れ下って、1号河道、2号河道と複雑に流れて、台地縁辺から低地部分を削った11世紀の時代。この河道の流水を周辺より低く区画して、その水を水路として周囲の更に低い沖積部分に水した12世紀となる。その後、河道には浅間B軽石の堆積が認められることから、13世紀以降の土地利用は、近世に至るまで少なかったと考えてよい。

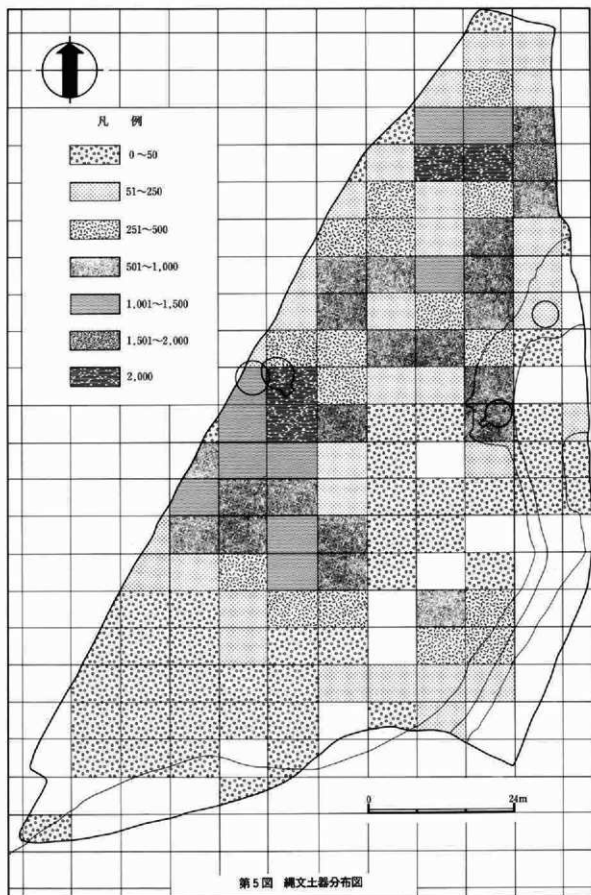
このように1区は、現代に至るまで多様な自然的、歴史的な土地利用を経過しているわけであるが、調査最終時に縄文時代の遺構面を調査することになった。既に、上面の調査時に予測はされていたが、低地全面に河原石、石器類、土器類が広がっていた。この出土遺物の包含層、または、遺構上面の遺物の広がり、遺構の関係について検討するには、大変な時間と労力を費やすこととなった。調査担当者は全員、縄文時代の包含層の調査は未経験であったため、専門の職員に度々来跡いただき、指導を受けた。

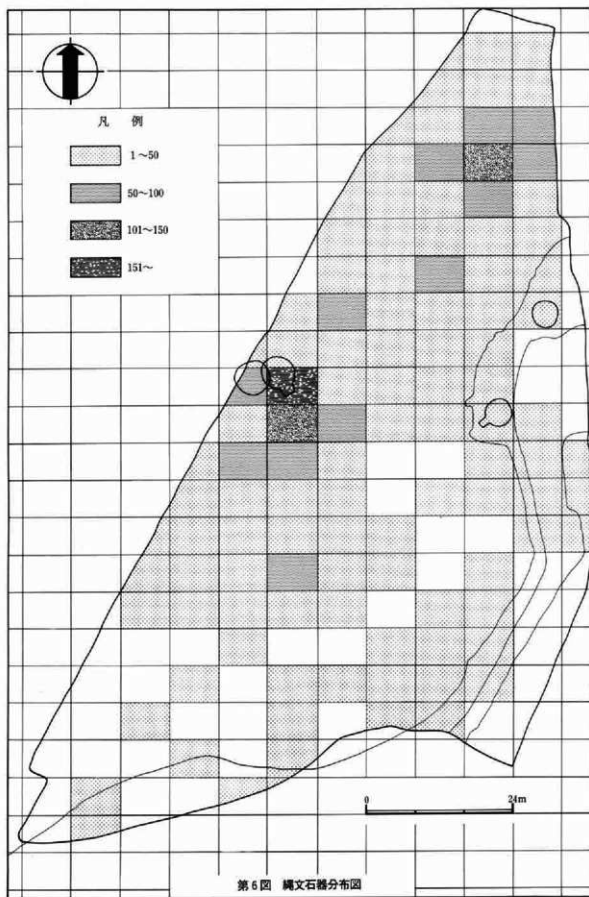
調査の方針として基本的に出土した遺物については、全点出土位置を記録することに努めた。出土位置と出土状態は、その下の面から出土するであろう遺構との関係では、調査中はその検討が充分でなくなることは懸念された。広がる遺跡に、遺物の記録が進まないことと次の段階に進めないことも、心配された。

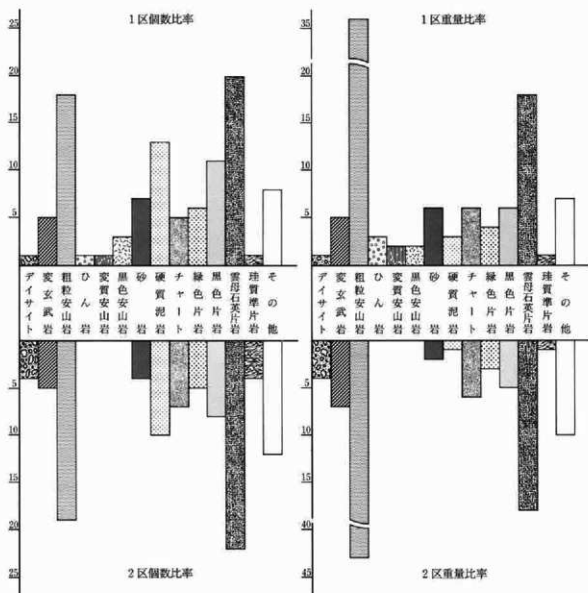
縄文土器について、分布状況をまとめておきたい。記録できた土器破片の総数は51,311点である。土器破片の総重量は995,038gである。大グリッドN2に全体の60%、N3に全体の30%が集中する。48㎡の面積の小グリッドで、1000点以上の土器破片が集中するのは、N2・18、N2・19、N2・28、N2・29、O2・20グリッドの台地下の範囲で、舌状に突出する台地先端部分で未発掘の東側にこの時期の集落の存在が考えられる。次に、1,000点以上出土のN2・58グリッドを中心に、500点から1,000点までの破片を出土した範囲が11ヶ所のグリッドに及ぶ。4号住居、3号住居、43号土坑、44号土坑の遺構が周辺から検出されている。次に2,000点以上の土器片が出土したN2・85とN2・95グリッドを中心に、1,000点以上出土したグリッドはN2・84、N2・94、N3・04、N3・05、N3・13、N3・25、N3・35である。6号住居、23号住居、35号土坑、36号土坑の周辺にその分布の中心が集まる。

1区の発掘区から出土した石器類を、小グリッド（東西8m×南北6m）各に分布に表した。全体に、1点から50点までの少数の分布にとどまる。特に点数の多いN2・29グリッド付近の100点から150点を中心に、N2・19、N2・28、N2・39、O2・10、O2・20など、出土分布が50～100点の部分が広がる。4号住居と45号土坑の位置する北傾面下の低地部分にあたる。51点から100点が集まるN2・58とN2・66グリッドの北西方向には43号土坑、44号土坑が位置する。次に、205点も集まるN2・85グリッド、100点から150点を出土するN2・95グリッド、51点から100点まで出土するN2・84、N2・96、N3・04、N3・05グリッドがある。6号住居、23号住居、52号土坑などの遺構が集中している。また、51点から100点まで集まるN3・35グリッド周辺には、35号土坑、36号土坑が位置する。

石器類としたものは全体で2,726点である。今回報告書に掲載できなかったが、以下のように分類してある。礫石としたものは、技法にかかわらず、特大・大・中に区分した。123点出土している。磨製石斧は15点出土している。打製石斧は分銅形、短冊形、撥形に分類され、263点出土している。石皿は16点出土している。磨石としたものは丸形、半丸形、直方体形に分類され、47点出土している。敲石は10点、凹石は90点、石棒は7点、スクレイパーは93点出土している。フリキは2,062点出土している。







第7図 縄文石材分析表

1区、2区から出土した縄文時代に帰属する石器類の石材について分類を試みた。縄文時代後期の本集落に持ち込まれた石材の種類、そして重量について、1区の台地の下の面と2区の台地上とで、違いがでるものかどうかを検討してみた。

1区の石器類の点数は16,123点である。2区の石器類の点数は1,214点である。1区は、石器類の点数では2区に対して13倍と圧倒的な比率である。1区の石器類の重量は4,582kgである。2区の石器類の重量は1,012kgである。2区の4.5倍が1区の重量である。1区と2区を比較すると、石器類の個数13倍に対して重量の4倍となる。このことは小形の石器類の数量が重量に対して非常に多いことを示す。

1区、2区とも石器類の石材の組成比率は近似しており、低地集落と台地上の集落とでは石材の使用法に、本遺跡ではあまり変化のないことが考えられる。特に、石材として多量に持ち込まれている材質は粗粒安山岩で、個数別では1区は18%、2区19%である。

1区3号住居址

遺構 (挿図番号第8・9図 写真番号PL-3)

本住居址はN2・89, 99グリッドで検出され、北東18.0mに4号住居址が位置する。

石囲炉は各辺1石ずつの4石で成り立つと考えられる。炉の内法は50cm×50cmで、深さは20cmを測る。

本住居址の規模は径5.42m(推定)、面積13.23㎡(推定)である。

遺物

本住居址の周辺のグリッドN2・88, N2・89, O2・80, N2・98, N2・99, O2・90, N3・08, N3・09, O3・00から出土した縄文土器片は1,660点を数える。石器類としたものは81点出土している。出土位置を記録したものは土器8点、石材237点である。

1区4号住居址

遺構 (挿図番号第10図 写真番号PL-3)

本住居址はO2・60グリッドで検出され、南西18.0mに3号住居址が位置する。

石囲炉は長い割石を組み合わせている。東辺、南辺は欠けている。炉の内法は50cm×50cmを測り、底面に加熱を受けた土器の底部を損える。

本住居址の規模は径4.40m(推定)、面積12.63㎡(推定)である。

遺物

本住居址の周辺のグリッドN2・59, O2・50, O2・51, N2・69, O2・60, O2・61, N2・79, O2・70, O2・71から出土した縄文土器片は2,203点を数える。石器類としたものは106点出土している。出土位置を記録したものは土器1点、石材35点である。

1区6号住居址

遺構 (挿図番号第11・12図 写真番号PL-4)

本住居址はN2・75, 85グリッドで検出され、23号住居址と重複している。東36.0mに3号住居址、北東45.0mに4号住居址が位置する。

発掘調査の第1次調査段階では、大量な礫石や石器群の集中する範囲と配石の南東端が直線的にみえることから、張り出し付の敷石住居と考え、長軸6.76m, 円形部径5.4mの範囲を考えた。ところが、第2次調査段階で、発掘区が北西方向に約3.5mの幅で拡張されたことから、23号住居址が明瞭に確認された。その結果、6号住居址とした礫群は、6ヶ所の長方形の集石群と1基の長方形の配石から構成されていることがわかった。各計測値は以下の通りである。

1号集石は、長軸寸法140cm, 短軸寸法50cm, 長軸方位はN-8°-Eを測る。

2号集石は、長軸寸法150cm, 短軸寸法55cm, 長軸方位はN-4°-Eを測る。

3号集石は、長軸寸法160cm, 短軸寸法55cm, 長軸方位はN-50°-Wを測る。

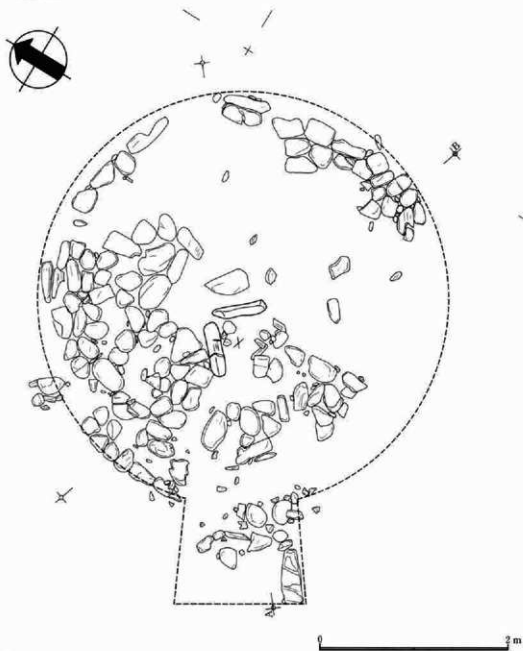
4号集石は、長軸寸法180cm, 短軸寸法70cm, 長軸方位はN-44°-Wを測る。

5号集石は、長軸寸法125cm, 短軸寸法40cm, 長軸方位はN-15°-Wを測る。

6号集石は、長軸寸法110cm, 短軸寸法45cm, 長軸方位はN-67°-Eを測る。

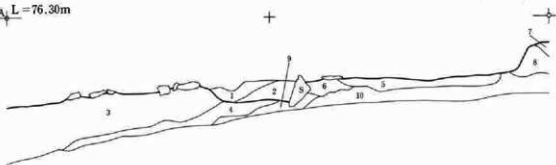
配石は、長軸寸法200cm, 短軸寸法100cm, 長軸方位はN-64°-Eを測る。

集石と配石の位置関係は以下の通りである。張り出し部とした場所に、配石が東北東から西南西を軸に位



第8图 1区3号住居址

A L=76.30m



B L=76.10m



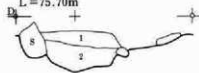
0 2m



C L=75.70m

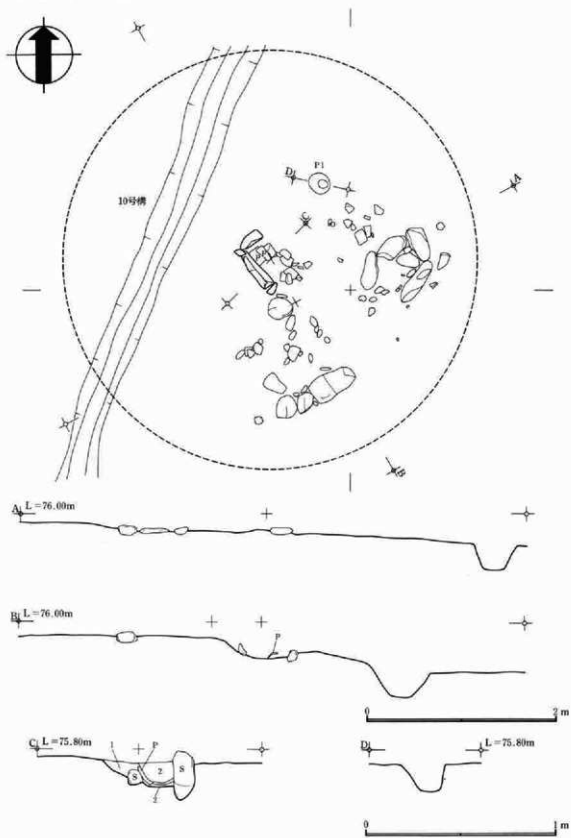


L=75.70m

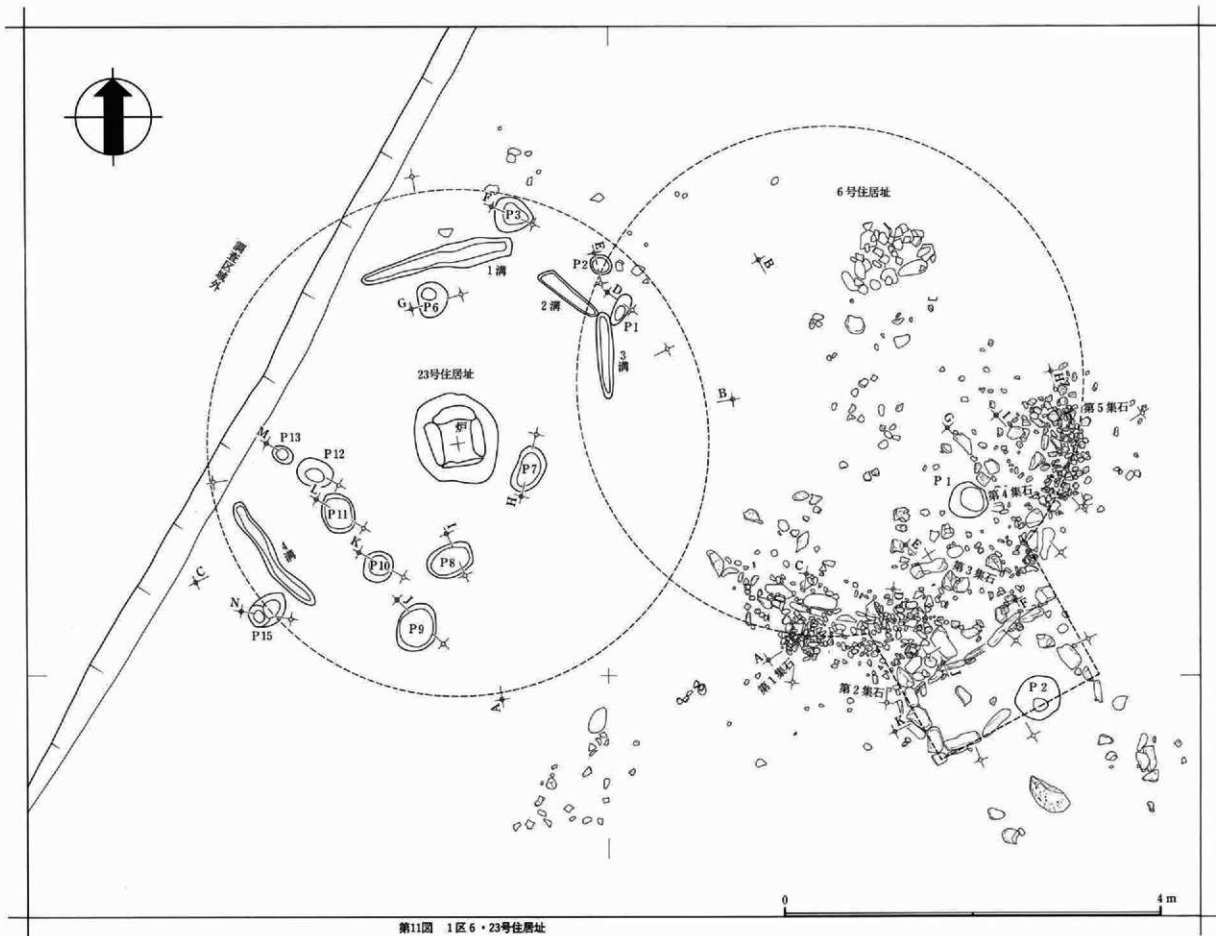


0 1m

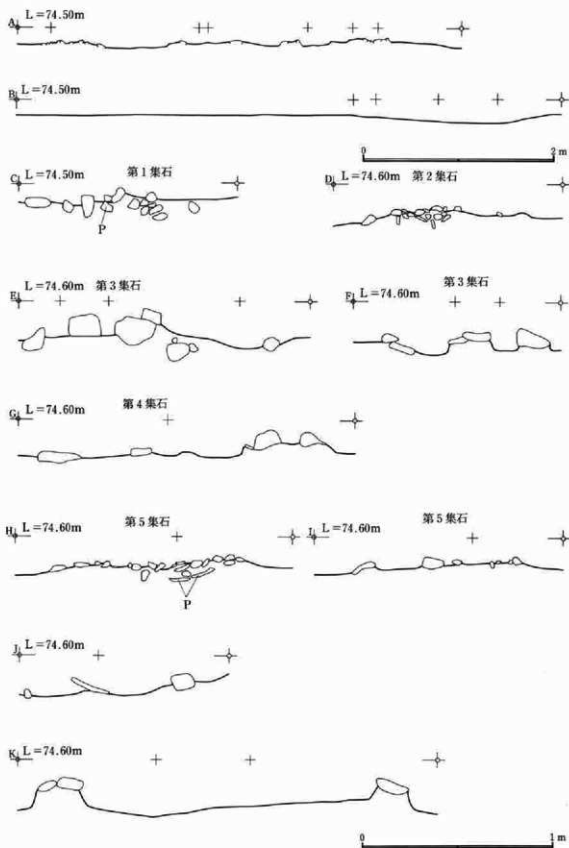
第9図 1区3号住居址



第10图 1区4号住居址



第11图 1区6・23号住居址



第12圖 1区6号住居址

置している。長辺には長い河原石を各辺に沿って配置し、5～6石で1辺2mほどを構成している。短辺には直方体状の石の長い方を辺に沿わせ、平の面を上にして3石ほど並べて、1辺1mを構成する。配石墓と考えるならば埋葬内法の規模は、長軸方向は160cm、短軸方向は60cmを測る。

5つの集石は、配石に直交するような方位を向く。北から南に長軸をとるグループは1号、2号集石である。北西から南東に長軸をとるものは3号、4号、5号集石のグループである。西から東へ、1号集石から順に2号、3号、4号、5号集石が並ぶ。6号集石は、5つの集石より北へ1.5mほど離れて位置する。本住居址の規模は径6.76m(推定)、面積24.93㎡(推定)である。

遺物 (挿図番号第14図 写真番号P L-6)

本住居址の周辺のグリッドN2・74、N2・75、N2・76、N2・84、N2・85、N2・76、N2・94、N2・95、N2・96から出土した縄文土器片は11,507点を数える。石器類としたものは602点出土している。出土位置を記録したものは土器483点、石材374点である。

1区23号住居址

遺構 (挿図番号第11・13図 写真番号P L-5)

本住居址はN2・84グリッドで検出され、6号住居址と重複している。東40.0mに3号住居址、北東49.0mに4号住居址が位置する。

石囲炉は90cm×95cmで、深さ20cmの土坑を掘り、各辺に1石ずつ長い石を配している。

本住居址の規模は径5.34m(推定)、面積19.34㎡(推定)である。

遺物 (挿図番号第15図 写真番号P L-6)

本住居址の周辺、N2・74、N2・75、N2・84、N2・85、N2・93、N2・94、N2・95グリッドから出土した縄文土器は9,926点である。石器類としたものは495点出土している。

出土位置を記録したものは土器363点、石材252点である。

炭化物・埋藏中に焼土あり。

土層説明

1区3号住

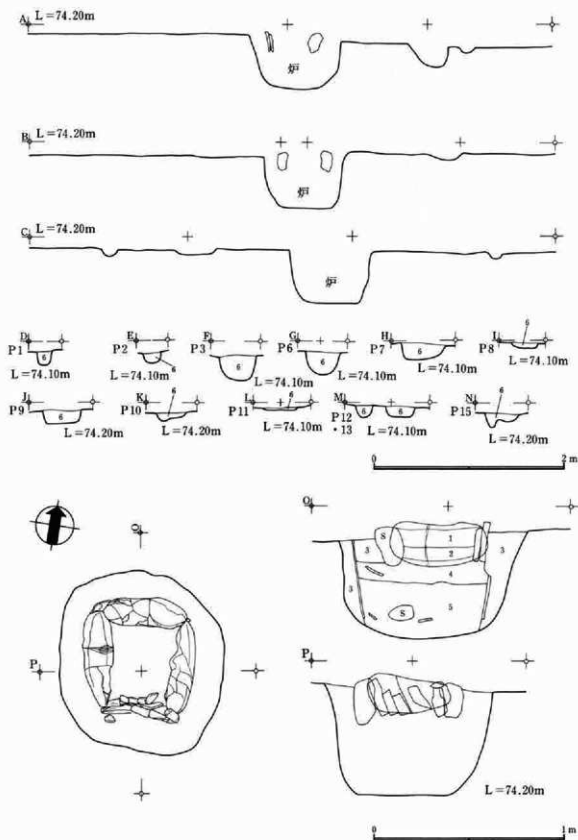
- | | | |
|----------|-----------------|-----------------------------|
| 1. 住居埋土 | 灰オリーブ色(7.5Y4/2) | ローム質土を少量混ぜた砂質土。 |
| 2. 住居埋土 | 灰オリーブ色(5Y5/3) | 砂質ロームと砂礫の混土。 |
| 3. 住居埋土 | 黒褐色(2.5Y3/1) | 砂質含みの土質であって1cm程度の礫を多量に混入する。 |
| 4. 住居埋土 | 暗オリーブ色(5Y4/4) | 3層と9層の混土。 |
| 5. 住居埋土 | オリーブ黒色(5Y3/2) | 耕作による擾乱。 |
| 6. 住居埋土 | オリーブ色(5Y5/6) | しまりがあり砂を含んだローム。 |
| 7. 住居埋土 | 暗オリーブ色(5Y4/4) | 少量の砂礫を含む[溝の覆土である]。 |
| 8. 住居埋土 | オリーブ色(5Y5/6) | 6層と同質である。 |
| 9. 住居埋土 | 黄褐色(2.5Y5/6) | 砂質のローム。 |
| 10. 住居埋土 | オリーブ色(5Y6/6) | 砂層であるが色調からは砂質ロームのようにみられる。 |

1区4号住

- | | | |
|---------|---------------|-------------------------------------|
| 1. 住居埋土 | オリーブ色(5Y5/4) | 砂質土でしまりがない。攪乱土か(石が抜かれた後の流入土か)。 |
| 2. 住居埋土 | 灰オリーブ色(5Y4/2) | 砂礫含みのしまりのある砂質土。上層は黒みが強く、下層は黄色味をおびる。 |

1区23号住

- | | | |
|---------|------------------|----------------------------------|
| 1. 伊織築材 | 暗赤褐色(5YR3/4) | シルト質土。白い粒子を多量に含む。また在埋土の小塊を点々と含む。 |
| 2. 伊織築材 | 暗赤褐色(5YR3/4) | 1層とはほぼ同様だが1層に比べて黒味が強い。 |
| 3. 伊織築材 | 暗赤褐色(5YR3/4) | 1層と同様だが強くなっている。 |
| 4. 伊織築材 | 黒褐色(10YR2/3) | 5層より明るい(粘土質)。 |
| 5. 伊織築材 | 黒褐色(7.5YR2/3) | 粘土質の黒褐色土。焼土塊や炭化物をわずかに含む。 |
| 6. ビット | 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) | 砂質で軟。若干の粘性が感じられる。 |



第13图 1区1·23号住居址

D-2 遺構出土の土器

1区遺構出土の土器

1～24の遺物は6号住居跡より検出 1・5は胴部に、沈線により曲線的な文様が施される。2は胴部に、斜格子状の沈線を施したものの。3・6・7・9・13・15・24は胴部に沈線で文様を描き、区画内に縄文を充填したもの。4は口縁部片。8・10～12・16～19・22は、胴部に縦位および斜位に沈線を施し文様を描くもの。14は胴部に横長の楕円状の文様を描くもの。20は屈曲する口縁部の狭い文様帯に、1条の沈線を巡らせたもの。21は胴部に平行沈線で文様区画を行い、区画内に縄文を充填している。23は口縁部に縦位の「8」の字状の貼付と、刻みをもつ細い隆帯を1条巡らせ、頸部から胴部に沈線で平行ないしは幾何学状に文様区画を行い、区画内に縄文を充填したもの。

25～48の遺物は23号住居跡より検出 25・38・39・41・42・45は胴部に列点状の刺突を施すもの。31・43・44・48は胴部にJ字状に沈線で文様を描き、区画内に列点状刺突を充填させたもの。27・40は屈曲する口縁部の狭い文様帯に、1ないし2条の沈線を巡らせたもの。36は胴部に沈線で文様を描くもの。46は頸部に平行沈線を2条巡らせ、胴部に曲線的な文様を描くもの。33～35・47は胴部に沈線で曲線的な文様区画を行い、区画内に縄文を充填させるもの。30・32は平口縁となる口縁部に平行沈線を施し、沈線間に縄文を充填させたもの。26・28・29・37は胴部に沈線で幾何学状の文様を描き、区画内に縄文を充填させたもの。26は集合沈線をも施す。

49・50の遺物は35号土坑より検出 49は平口縁となる口縁部下に平行沈線を巡らせ、沈線間に列点刺突を充填させたもの。50は胴部にJ字状の文様を描き、沈線間に列点状刺突を充填させたもの。

51の遺物は43号土坑より検出 深鉢の胴部で、垂下する懸垂文およびJ字状の文様を描くもの。

52の遺物は36号土坑より検出 胴部に垂下する沈線を施す。

53の遺物は52号土坑より検出 胴部に垂下する沈線を施す。

54の遺物は44号土坑より検出 深鉢の胴下半部で、無文である。

55の遺物は45号土坑より検出 深鉢の胴下半部で、胴部に垂下する沈線が施されている。

2区遺構出土の土器

1・2の遺物は7号住居跡より検出 1は深鉢の胴部で、頸部に隆帯を巡らせ、その下部に瘤状の隆帯を貼付し集合沈線を垂下させる。地文には縄文を施す。2は平口縁となる口縁部で、表面は無文である。裏面には、口縁下に3条の押し引き文と交互刺突文が巡らされている。

3の遺物は3号土坑より検出 無文の胴部片である。

4の遺物は98号土坑より検出 胴部に縄文を施すもの。

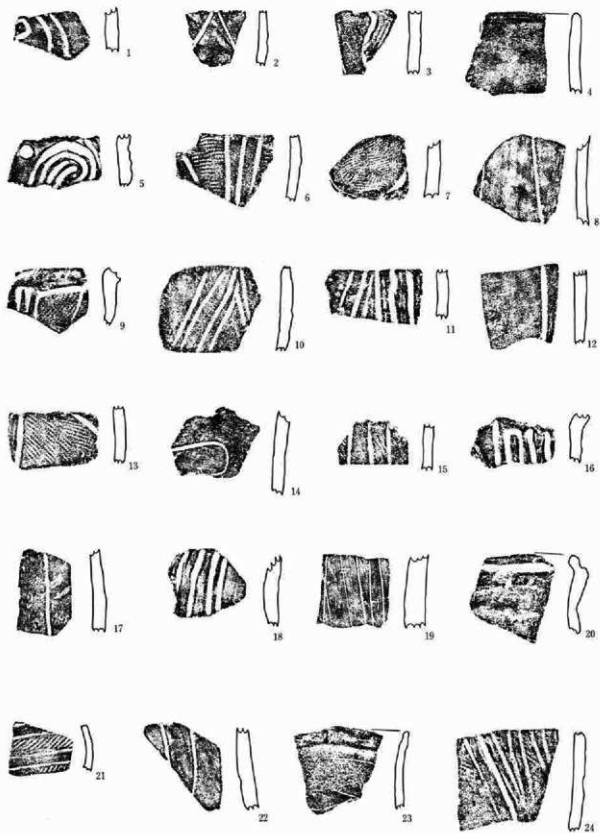
5・6の遺物は99号土坑より検出 同一個体のもので、注口土器の胴部と考えられる。器面は丁寧に研磨され、器厚も薄い。胴部は球胴状に膨らむものと思われ、沈線の渦巻き状ないしは曲線的な文様が描かれ、沈線間には連続する細かな円形刺突が施されている部分もある。

7の遺物は113号土坑より検出 小波状口縁となるもので、波頂部に刻みをもつ。

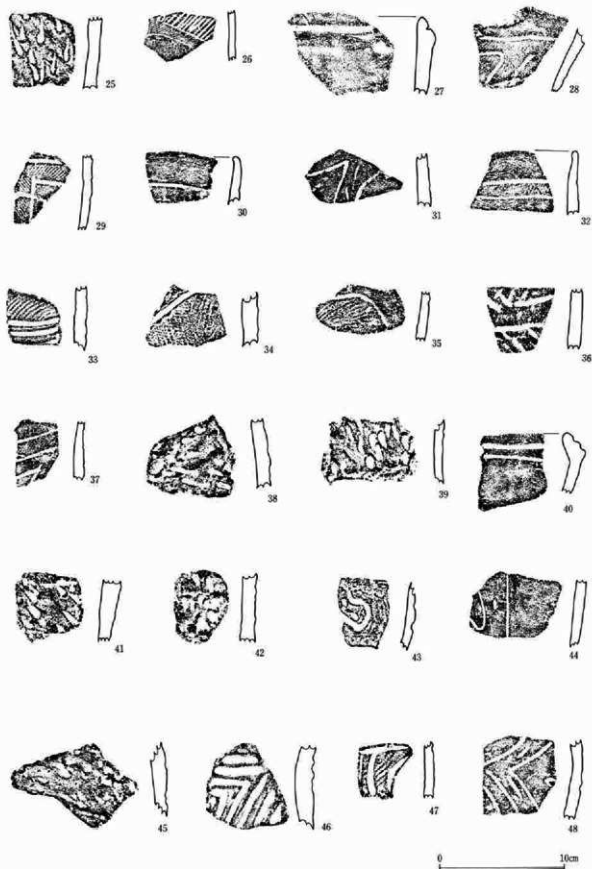
8の遺物は124号土坑より検出 胴部に矢羽状の集合沈線を施すもの。

9の遺物は125号土坑より検出 外反する平口縁で、無文である。

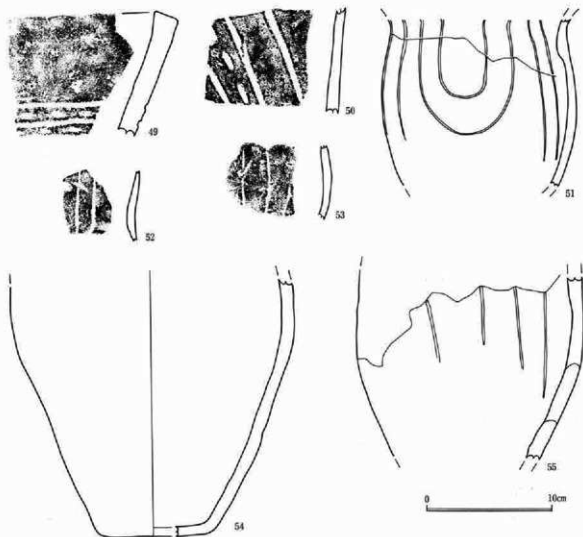
10の遺物は127号土坑より検出 無文の胴部片である。



第14図 縄文土器(遺構出土品)



第15図 1区縄文土器(遺構出土品)



第16図 1区縄文土器(遺情出土品)

11の遺物は128号土坑より検出 胴部に縄文を施すもの。

12~14の遺物は129号土坑より検出 12は無文の胴部片。13は胴部に曲線的な沈線で文様を描くもの。14は胴部に縦位の集合沈線を施したものの。

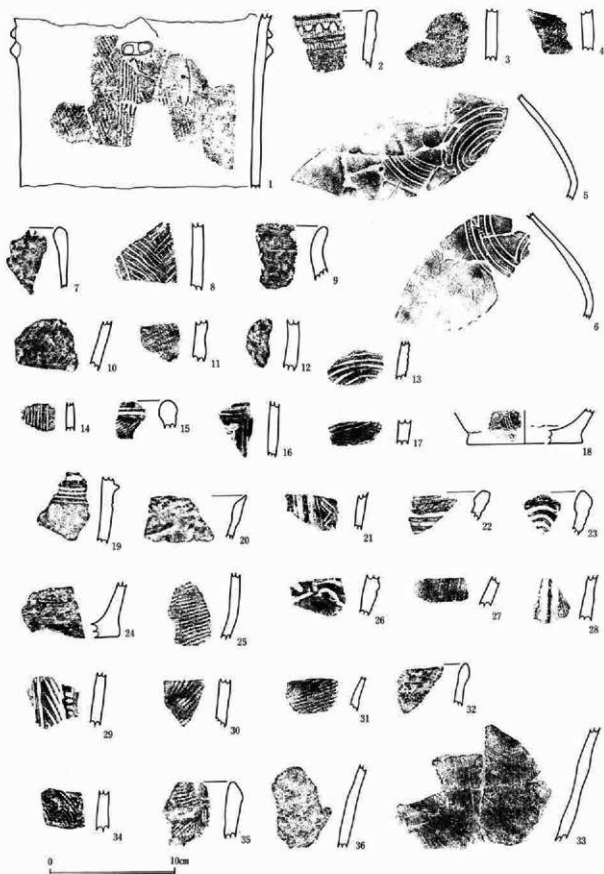
15~17・19の遺物は130号土坑より検出 同一個体と考えられるもので、平口縁の深鉢である。口唇部は肥厚し、頸部に隆帯を巡らせ、縄文地文で沈線により文様を描く。

18・20~26の遺物は131号土坑より検出 18・24は底部片。20は無文の口縁部片。21は胴部の縦位の隆帯および沈線で文様を描くもの。23・24は波状口縁となるもので、口縁部に押し引き沈線で文様を描く。25は縄文を施す胴部片。26は胴部に沈線および押し引き沈線で文様を描くもの。

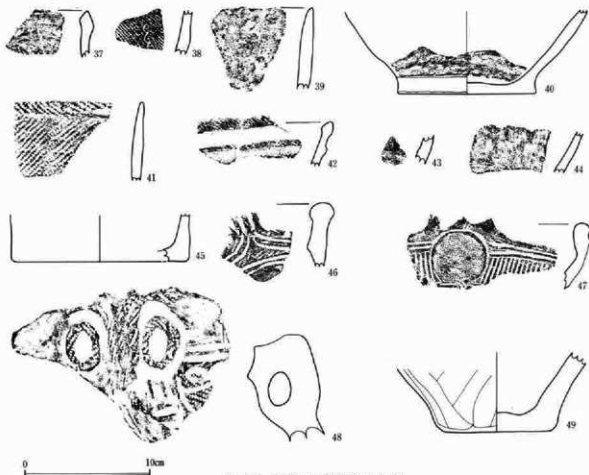
27の遺物は132号土坑より検出 胴部に縄文を施すもの。

28~31の遺物は134号土坑より検出 28は胴部に縦位の隆帯をもつ。29は胴部に刻みをもつ縦位の隆帯と、沈線で文様を描くもの。30・31は胴部に縄文を施したものの。

32・33の遺物は139号土坑より検出 22は肥厚する平口縁で、無文。33は無文の胴部下半。



第17图 2区縄文土器(透柄出土品)



第18図 2区縄文土器(遺構出土品)

34～36の遺物は140号土坑より検出 34・35は縄文を施すもので、35は口縁部片。36は無文の胴部片。

37の遺物は143号土坑より検出 無文の口縁部片。

38の遺物は144号土坑より検出 胴部に縄文を施したものの。

39～42の遺物は149号土坑より検出 39は無文の口縁部片。40は底部。41・42は平口縁となる口縁部で、41は縄文を施したものの。42は口唇部が肥厚し、口縁下に隆帯を巡らせている。

43の遺物は186号土坑より検出 無文の胴部片。

44の遺物は198号土坑より検出 無文の胴部片。

45の遺物は199号土坑より検出 底部近くまで沈線を数条巡らせている。

46の遺物はN4・13グリッド表探 小波状口縁となるもので、波頂部に沈線状の刻みをもつ突起をもち、沈線で口縁部文様を描き、文様の区画内には縄文は充填する。

47の遺物はM6・67グリッド表探 平口縁となる口縁部に3個の小突起をもち、突起下に円形の隆帯を貼付していた跡が残る。また口縁部文様には、平行沈線で上下に区画し、区画内に縦位の沈線を施す。

48の遺物は217号土坑より検出 波状口縁となる波頂部が欠損。波頂部は把手状となるものと考えられ、その頂部から垂下するように孔をもつ隆帯が大きく貼付される。頸部には沈線が巡り、胴部に曲線的な文様が描かれる。隆帯上および区画された文様内には、縄文が施されている。

49の遺物はM5・36グリッドより検出 無文となる底部である。

D-3 包含層出土の土器（前期後半から中期初頭の土器）

本遺跡出土の前期後半から中期初頭の土器は、総て包含層からの出土であり、遺構などは、確認されなかった。包含層から出土した当該期の土器は、型式別に層位が分別できるものではなく、出土位置と土器の新旧関係は把握できるものではない。以下出土土器の概要を記す。

1は、棒状貼付文とボタン状貼付文が施文されている。地文に集合条線の施文を持つ。2～5は集合条線による施文の後、ボタン状の貼付文を施文。6は、集合条線を口縁に沿って、並行に施文している。口唇部に細かい刻みを付けている。7は、沈線による施文の後、長い棒状の貼付を施す。8は、屈曲部上半分を集合条線により矢羽根状に施文している。屈曲部以下を地文に集合条線を施し、結節浮線により縦位・渦巻状に施文する。9～25、27、28は、巾2、3mmの平行沈線により胴部文様帯の上下を横位に区画しその中を矢羽根状、鋸歯状、格子目状に文様施文をしている。これらの土器は、前期後半の諸磯c式土器（1～7）と、下島式土器（8、17～19）とそれらにともなう時期の土器と考えられる。

26、29～62、64、65は器面に浮線を貼付する土器である。地文に縄文を持つものが多い。35、42、43、58、64はR L、44、46、47、56、59はL R、60はR lの縄文が施文される。55、61、62以外は浮線に結節を施す。62、62は斜位の沈線を地文に持ち、浮線を斜位に貼付することで格子状の文様を校正している。これらの土器は、諸磯c式・下島式以降の土器で従来諸磯c式新段階土器としてとらえられていた土器群と、十三菩提式にみられる地文縄文で結節浮線のある土器（44～46）、それに鍋屋町式に見られる土器である（57・58）。

63、66～84は縄文施文の土器である。68、72、75等は、R LとL Rの結束による羽状縄文の末端を結節にした原体が施文されている。79～84、141、144は、同様の原体を上下に施文して、結節による縁絡文間に縦位の無文帯を作る。これらの縄文施文の土器は、前期終末から中期初頭に特徴的に見られる結束による羽状縄文で、原体の末端を結節にし横位や縦位に施文した土器である。

85は、半截竹管を3本束ね結節沈線によって弧状に文様を作る。沈線間に三角陰刻を持つ。86～88は、同一個体と思われる。半截竹管を数本単位にして、弧状の文様を作る。文様間に三角陰刻を持つ。86は、胴部くびれ部に横位に結節沈線が施文される。89、94は、竹管を交互に刺突した連続コノ字文と横位の平行沈線が施文される。胴部下半は、R LとL Rの結束羽状縄文。90は、平行沈線による施文と、沈線間に陰刻を特地、口縁部に鋸歯状の粘土紐を貼付する。91～93、95、97～101は、平行沈線と三角陰刻による鋸歯文。器面をえぐるように削っている。96、103、106、109、111～114は、結節沈線と沈線間の陰刻による施文。105は、口縁部に粘土紐を円形に貼付する。110は、口縁部に交互刺突を加える。これらの土器は、いわゆる嘴ヶ峯式土器に相当する土器で、前期終末の土器になると考える。

115と116はやや太めの沈線で口縁部に鋸歯状の文様を描く。117～122と125、128は、粘土紐を鋸歯状に貼付する。118と120は、粘土紐を鋸歯状に張り付けそれ以外は、粘土紐に刻みを加え鋸歯状にしている。沈線や、浮線による鋸歯状の施文から、前期後半の大木系の土器に比定できる。

126は、地文の縄文は、L Rで平行沈線で縦位に鋸歯文を施文している。127は、浅鉢になる。浮線が貼付される。129、130は、地文にR Lの縄文を持ち、横位の沈線が施文される。130は、口縁肥厚部に刻みを持つ。130～136、143は口縁肥厚部に三角の陰刻や縦長の陰刻が施文される。138、142は、撫糸側面庄痕の土器である。139は、浮線に刻みを持つ土器。140は、竹管による平行沈線に円形の貼付文が付く。145は、やや巾広の半截竹管による平行沈線で鋸歯状に施文する。146は、円筒状の把手が付く土器である。文様は、口縁部に円形の区画を作り、その中を格子目状に粘土紐を貼付している。147、148は、口縁部に数条の沈線を施文し、

頸部以下に縄文を施す。149は、粘土紐を鋸歯状に貼付している。以上の土器は、前期終末に位置づけられる土器と考える。さらに検討を必要とする。

150～189、192、193は、口縁に縦位の沈線を施し、または無文帯を作り、太めの平行沈線により口縁部を幾何学上に文様区画をしその中に沈線により斜位方向や格子目状に充填している土器である。151は口縁内面に粘土紐により小さな円形貼付が施されている。190は、口縁下くびれ部に平行沈線を施し、その上下に交互刺突を加えている。191は、半截竹管による交互の細かい刺突が加えられた土器である。194は、口縁に縦位の刻みを施し、平行沈線を横位に施したものの。これらの土器は、五領ヶ台式土器になる。

195は、円形の刺突を地文として施した後、縦位に結節浮線を貼付した。196は、円形の刺突を加えたもの。

197は、太めの粘土紐で渦巻き状に貼付している。198は、口縁部を肥厚させ細い鋸歯状の工具で波状に施文している。頸部は浮線に鋸歯状の工具で刺突を加えている。199は把手を持つ口縁部である。口縁部は、結節浮線による貼付。200は、口縁部に平行沈線で横位に区画し円形の刺突と、刻みを加えている。201は、突起を持った口縁部で突起の中央には大きな穴が穿孔されている。口縁部は、沈線で鋸歯状に施文する。202は、器面を肥厚させて縄文を施文している。また、屈曲以下を横位の沈線を施し、縦位に細い条線を施文している。203は、平行沈線による鋸歯状の施文を地文に持ち、粘土紐による渦巻きを貼付している。204は、細い竹管を数本束ね貝殻復縁状にした工具で器面に刺突を加えている。205は、地文にLRの縄文を施文し、半截竹管で、波状に平行沈線を引いている。206は、口縁部を横位の平行沈線で区画し、その中に斜位の平行沈線が充填している。207は口唇部を肥厚させ、口縁部には細い条線を横位に施文している。208は、貝殻復縁を交互に施文している。これらの土器は、中期初頭に位置づけられる土器群であるが、県内資料をさらに検討する必要がある土器群である。

209と210は土製品で側面に鋸歯状に刻みを持ち、爪形文が施文されている。

前期終末から中期初頭の土器編年について予察

近年の調査により、群馬県地域の縄文時代前期・中期の土器資料は整いつつある。しかしながら、本遺跡出土の前期終末から中期初頭の土器資料については、調査例の少なからず質・量とも前後の土器型式に比較して劣っている。本項では、周辺地域の資料の中から、本遺跡出土土器との相似性を探り当該期の土器変遷を予察してみた。

前期終末段階Ⅰ（1から58）

時間的位置づけをするならば、諸磯c式土器終末段階に位置すると考えられる。

諸磯式c土器(1)の土器と時間差を考慮する必要があるが、下島式土器(8、18)、新潟県「鍋屋町遺跡」出土の土器と類似する土器(42、43)が諸磯c式土器終末期に共存する。

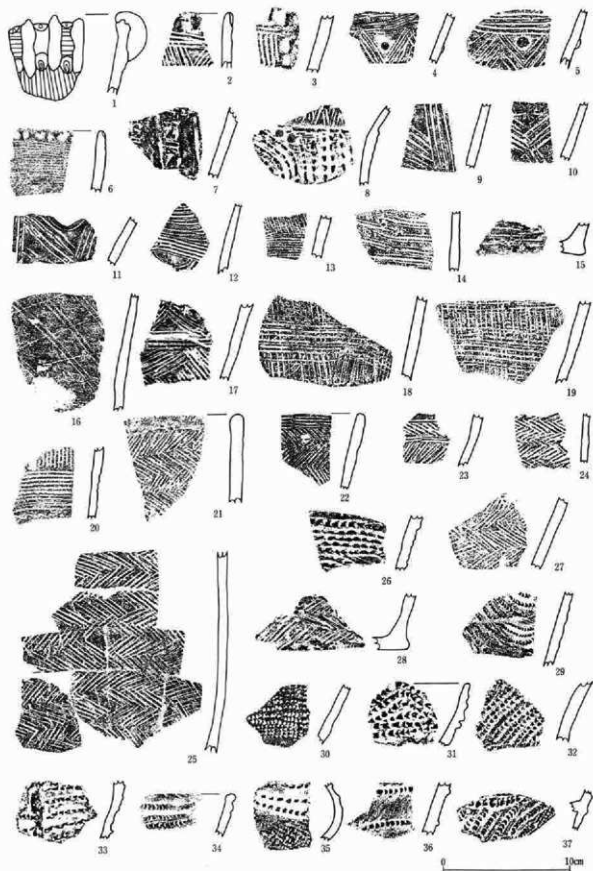
前期終末段階Ⅱ（85から148）

長野県の暗ヶ峯式土器や十三菩提式土器に平行する段階に相当する

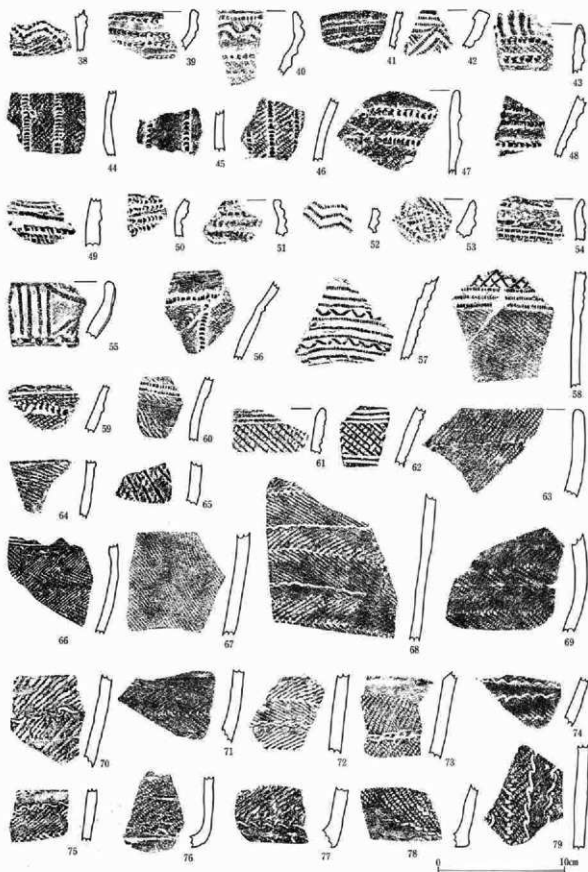
富岡市「内匠諏訪前」遺跡や安中市「榎木畑遺跡」出土の土器に類似した土器(107)暗ヶ峯式土器(113、114)、十三菩提式土器(44、46)等の土器とともに、134から136の土器のように福島県「法正尻」出土の土器に類似した大木6式土器が出土している。この段階では周辺部の土器が多く混じる傾向にある。

中期初頭段階（149から208）

149から193の土器は、神奈川県「宮の原遺跡」5群・6群の土器に相当すると考えられる。本段階の類別を求めるならば、倉淵村「中尾遺跡」出土の土器に類似点がある。全段階に比べ「中尾遺跡」例のような土器が若干他地域との土器が混じるが、本地域では主体となっていく可能性がある。



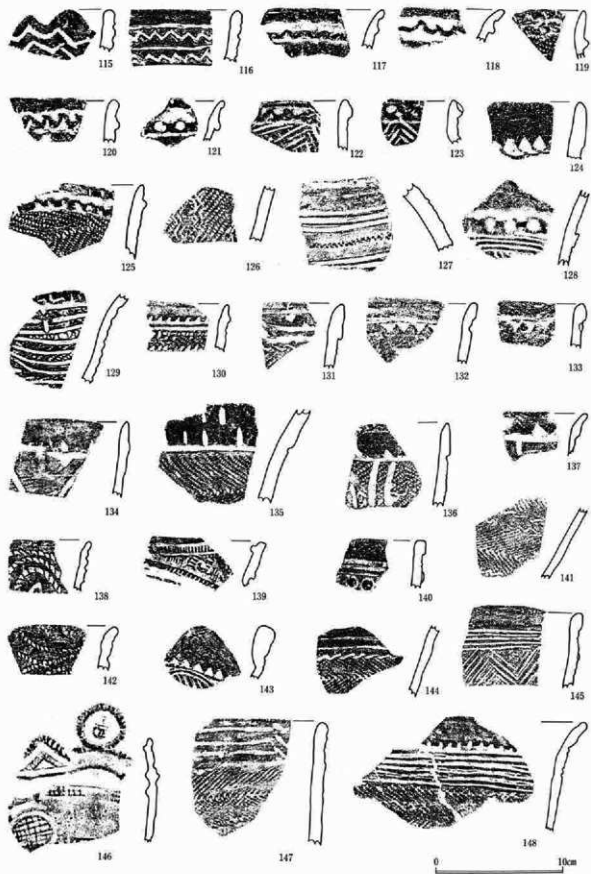
第19回 縄文土器(前期)



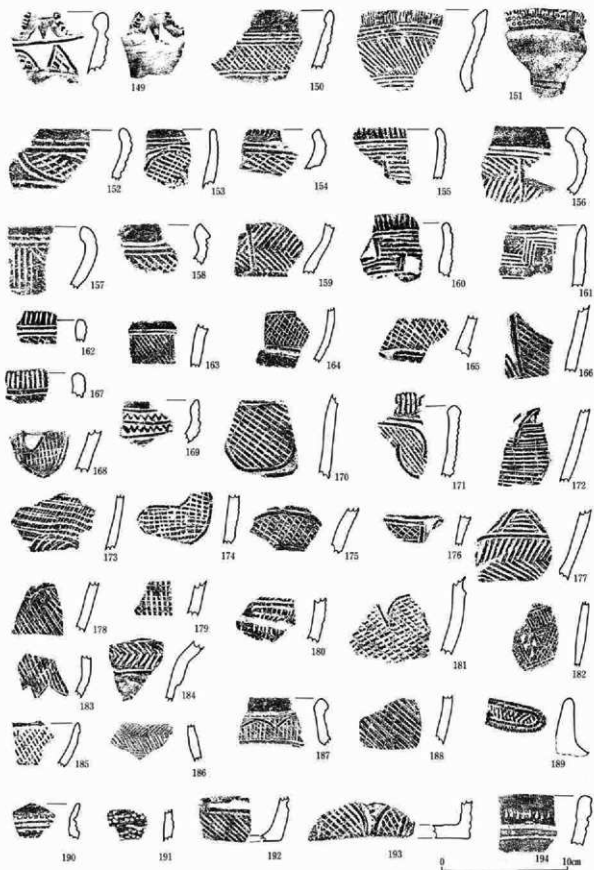
第20図 縄文土器(前期)



第21回 縄文土器(前期)

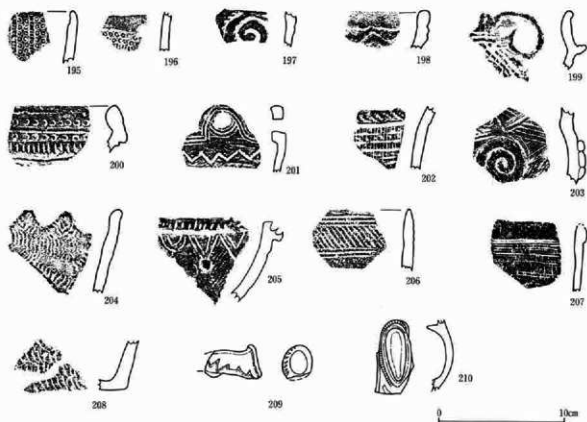


第22圖 縄文土器(前期)



第23図 縄文土器(前期)

1 遺跡



第24図 縄文土器(前期)

前期終末Ⅰ	 諸磯C系	 下島系	 鍋屋町系
前期終末Ⅱ	 内匠塚跡前遺跡 榎木畑遺跡	 晴ヶ峯系	 鍋屋町系 大木6系
中期初	 中尾遺跡		

前期末～中期初頭の土器

D-4 包含層出土の土器（後期）

本遺跡内での縄文時代後期の遺物は多量に出土しているが、遺構に伴うものは比較的少なく、その多くは包含層中からのものである。ここに図示したものはその一部であり、分類した各級の代表的なものを取り上げるにとどめた。

中期末葉の土器群

15は口縁下に微隆帯を巡らせ、胴部に縦走するR Lの縄文を施したもの。16・21は口縁下に微隆帯を巡らせ、胴部に隆帯を垂下させるとともに、L Rの縄文を施したもの。17は胴部に沈線で文様を描き、区画内に条線を縦位に施したもの。18・20は口縁下に沈線を巡らせ、以下に条線を施したもの。19は口縁下に隆帯を巡らせたものである。

後期初頭の土器群

22～32は口縁部以下に沈線でJ字状の文様を描き、沈線間に縄文を充填させるものである。口縁部形状には、平縁となるものと波状口縁となるもの両者がある。充填される縄文には、L Rの縄を用いるものが多い。25は胴部に微隆帯によりJ字状の文様が施されたものである。

33～40は波状口縁となる波頂部に大型の把手をもつもので、把手端部の内面にはC字状の沈線が施されるものが多い。把手上部の孔は内面を向き、下部の孔は側面を向く。表面には沈線によるJ字状の文様が描かれる。39は把手部に、沈線で楕円が描かれたものである。41は波状口縁で、頸部がくびれ口縁が屈曲し内反する深鉢を呈する。内反し有段状となる口縁部には、縄文が施された上に波頂下の左右の刺突を結ぶように沈線が施され、幅狭な文様帯が構成される。無文帯となる頸部を挟んで、胴部には刺突をもつ隆帯が垂下され、沈線による文様が描かれるとともに縄文が充填される。縄文はL Rである。42・44は口縁部に刺突を配した隆帯を貼付し、沈線を施すことで幅狭な口縁部文様を構成させている。胴部には沈線でJ字状の文様が描かれるようである。43は口縁部に刺突をもつ小突起をもち、胴部には沈線でJ字状の文様が施されたものである。

45～58・60は口縁が緩やかに外反する深鉢形を呈するもので、沈線のみでJ字状の文様が描かれるものである。48は口唇部に1条の沈線を巡らせ、幅狭な口縁部文様帯を構成させている。胴部にはJ字状の文様が描かれるものと考えられる。45・47・50のように、口縁部下に1条の沈線を巡らせることで胴部文様帯を区画し、胴部にJ字状の文様を描くものもある。59は口縁部下に1条の沈線を巡らせ、以下に直線的な沈線を垂下させるものと思われる。

61～78は口縁部以下に沈線によるJ字状の文様が描かれ、沈線間に列点状の刺突が充填されるものである。口縁部形状には、平縁となるものや波状口縁となるものがあり、71のように把手がつくものもある。73・74は小突起ないしは波頂部に、孔を有する。78は垂下させた沈線が、胴部下で解放となるものである。

79～104は口縁部以下の器面全体に刺突を施した類で、89～91のように短沈線状の刺突を整然と施したもののや、94～96のように刺突を施しながら凹凸をなすものもある。97は爪形状に積み上げるものである。99・100は同一個体となるもので、口縁部以下に短沈線を施したものである。この類の中には三十稲場式土器に近いものもあるが、その区別が難しいため三十稲場式土器もこの中に含めている。

105～117は平縁で、口縁が緩やかに外反ないしは内反する深鉢形を呈する大形の無文の土器である。これ

らの類の器面には、整形痕と思われる横位ないしは斜位に粗く撫でた痕跡が、ミミズパレ状に残されているのが特徴的である。

118～138は平縁で大型の深鉢形を呈するもので、口縁造に刺突ないしは刻みをもつ隆帯を巡らせるものである。118は巡らせた刺突隆帯下に、同様の隆帯を直線的に垂下させたもの。120～125は巡らせた刺突隆帯下に、細かな条線を垂下させたものであり、このうち121は短い条線を施したものである。126は刺突隆帯下に、ミミズパレ状の整形痕が斜位に残されたもの。127は刺突隆帯下に、沈線により文様を描くもの。128・129は刺突隆帯下に縄文を残すもので、128にはL Rを、129にはR Lの縄文を施している。131～133は同一個体のもので、平縁の深鉢形を呈する。口縁下には刻みをもつ低い隆帯を巡らせ、口縁部文様に太い弧状の沈線および口唇下と隆帯上部に平行沈線を施し、曲線等で上下の沈線を結ぶようにして口縁部文様帯を構成させる。また隆帯下部にも沈線を巡らせることで隆帯部を強調させ、胴部には垂下する沈線を施しているようである。134は口縁下に刻みをもつ低い隆帯を巡らせ、口縁部に沈線で長楕円状の文様を描いている。135・136は口唇下に大きな刺突をもつ隆帯を巡らせ、以下に沈線で斜格子状の文様を描くものである。137は口唇下に刺突隆帯を巡らせ、その下に平行沈線をもち、胴部に沈線で斜格子状の文様を描くものである。

139・140・146・150は胴部に半沈線で斜格子状の文様を描くものである。139は口縁が屈曲し外反するもので、139・140ともに口縁下に沈線を巡らせて胴部文様を区画し、胴部に斜格子状の文様を描くもの。150は口縁以下に、直接に斜格子状の文様を描くものである。141・144・151は胴部に細い条線で斜格子状の文様を描くものであり、141は口唇部に沈線をもつことで幅狭な口縁文様帯を秋成させている。143・145・148・149・152は胴部に条線で縦位の波状文を描くものであり、143は口縁下に沈線を巡らせている。

後期前半の土器群

1は良好な接合状態にはならなかったが、図上で復元した。緩やかな波状口縁をなし、口縁部ないしは胴部上半に最大径をもち、頸部から胴部にかけて大きく屈曲する深鉢形土器で、口唇に刺突と弧状沈線をもち沈線を巡らせ口縁部の文様帯を構成させる。波頂下の頸部から胴部にかけて刻みをもつ隆帯を貼付する。頸部のくびれ部に沈線を巡らせ胴部文様帯を区画し、刻みをもつ隆帯を垂下させ、沈線による渦巻文や懸垂文を施す。

3は口縁部ないしは胴部に最大径をもち、口縁部に小突起、頸部から胴部にかけて大きく屈曲する深鉢形土器で、口唇に刺突と沈線を巡らせ幅狭な文様帯を構成させる。頸部は無文帯となり、胴部上半に文様帯をもつ。文様は頸部とのくびれ部に数条の沈線を巡らせ文様帯の区画を行い、刺突や渦巻文下に沈線を垂下させる。また渦巻き文間には、三角状の文様が描かれている。地文にはL Rの縄文が施されているが、沈線間は磨消されている。

5は口縁部が直立し、胴部が張る深鉢形を呈するもので、口縁部内側に蓋受け状の段を有している。口唇には刺突をもつ小突起をもち、口縁下に隆帯を巡らせている。胴部文様には、刻み状の刺突をもつ隆帯および沈線を垂下させている。

6・8・10は無文の土器であるが、8は口縁が僅かに外反し胴部に最大径をもつ壺に近い器形を呈するもので、器面は丁寧に研磨されている。

153～157・159～163は波状口縁の波頂部に文様装飾を施したもので、162以外は孔を有する。153は口縁部に隆帯を巡らせ、波頂部に刺突と刻みをもつ隆帯で装飾し、隆帯で区画された幅狭な口縁部文様帯には長楕円状の沈線を施し沈線間に列点状刺突をもつ。口縁部内面には有段となり、波頂部内面には刺突を施している。

154は波頂部に刺突と弧状の沈線を施し、孔および孔の左右に刺突をもつ円形の隆帯を貼付している。155は波頂部に捻転環状の把手がつくと考えられるもので、刺突をもつ円形の隆帯を貼付するもの。156・157は

166~176・178は口縁下の頸部に橋状の把手を有するもので、短い口縁が立ち上がり頸部がすどく屈曲する壺状の器形を呈する深鉢である。橋状把手に1本の単沈線を施しその上下端ないしは周辺に円形刺突を配するものと、169・174のように上下の刺突を取り巻くように「8」の字状の隆線を有するもの、さらには172のような捻転状のものがある。また170は、橋状把手が縦位に2段もつものであり、173・174の把手の上部には孔を有している。これらの土器の文様は、沈線により幅狭な口縁部文様帯が構成され、屈曲する頸部が幅狭な無文帯となり、肩から胴部に沈線により曲線等の交様を描き、文様内に縄文を充填させるものがみられる。中には、頸部の上下に刻みをもつ隆帯を巡らせ、文様帯の区画を行っているものもある。

177・179は把手部であり、177には小さな橋状把手を有する。把手部の文様は、沈線ないしは刻みを巡らせ、その下に縦位の沈線が集合状にみられる。

180~200は口縁部がやや肥厚し、その下で緩やかにくびれる深鉢形を呈するもの。肥厚した口縁部には、幅狭な口縁部文様帯が構成され、円形刺突や沈線が施されるものが多い。中には185のように、「8」字状の隆帯を横位に貼付するもの、186・188のように孔を有するものや、187は連続する円形刺突、191は刻み状の連続刺突、194・195のように長楕円の沈線内に刺突をもつもの、さらには()状の弧線を沈線で描くものなどがある。胴部に施文される文様には、180・181の沈線を垂下させ、その区画内に短沈線ないしは刺突を施すもの183・186・189の沈線を直線的に垂下させただけのものもある。182・184・188は垂下する沈線の脇に、斜位の沈線が施されている。198も同様の文様が施されるが、細い集合状の沈線によるものであり、193は区画された沈線内に縄文を充填している。196は垂下する沈線の脇に曲線が描かれたものであり、195は区画された沈線内に縄文を充填している。192・199は地文に縄文をもち、沈線で厭手文を施したもの。197は蛇行懸垂文を施し、沈線で区画された文様内に縄文を充填したものである。

201・203は口縁が突起状の小波状を呈し、肥厚した狭い口縁部文様帯に孔をもち、孔を取り巻くように「の」字状の沈線、円形刺突および間に刻みをもつ上下2本の沈線が施されたもの。202・206は波状口縁の肥厚した狭い口縁部文様帯に、孔と一条の沈線が施されたもの。205・211は小波状口縁の肥厚した口縁部文様帯内に、円形刺突と一条の沈線を施したものである。208~210も小波状口縁の狭い口縁部文様帯内に、沈線と円形刺突を施すものであるが、208は弧状に、209は()状に、210は入り組み状に沈線を描いている。213~215は波状口縁となる波頂部下に、孔を有すると共に弧状の沈線を施したものである。

216~226・228・231~234は口縁が突起状口縁を呈するものもあるが、頸部が比較的長く外反し、口縁部が屈曲するように直立ないしはやや内反する器形となるものである。216・218・219は屈曲する口縁部の狭い文様帯に、縦位の沈線と一条の横位の沈線を施し、屈曲部に刻み状の刺突をもつもの。217は二条の横位沈線と刻み状刺突をもち、刺突下にも沈線を施している。221は口縁部文様帯に、刻み状刺突とその上下に沈線を施すもの。220・222~228・233は、口縁部文様に円形刺突・弧状沈線、横位沈線等を施したものである。231・232は口縁部文様に、「の」字状の沈線を施したものである。これらの土器の外反する頸部は、無文帯となっている。また、222~225・227・228の頸部下には、頸部無文帯と胴部文様を区画する沈線が巡らされている。230は突起状の小波状口縁となり、口縁が内反する器形となるもので、波頂下に円形刺突と弧状沈線をもち、刻みをもつ沈線で文様帯の区画を行い、胴部には波頂かに刻みを有する沈線を垂下させるとともに沈線で文様を描き、文様内に縄文を充填させている。

235~246は外反する頸部無文帯に、小波状口縁の波頂下に垂下ないしはやや弓なり状の隆帯を貼付するも

のである。口縁部が屈曲するものとしなないものがあるが、口縁部に孔を有するものとして237・238・241・243がある。口縁部文様には、円形刺突・() 状ないし弧状の沈線・「の」字状等の沈線が施され、頸部の隆帯には刻みや沈線を施すものがみられる。

247・249～251・265・266は頸部が屈曲し、胴部が球胴状となるもので、胴部に集合する単沈線で垂下あるいは弧状の文様を描き、区画された文様内に縄文を充填させたもの。また、249・251のように縄文のみを施したものである。

252～261は頸部から胴部にかけてのもので、胴部に蛇向懸垂文等の文様が描かれるとともに、列点状刺突などが施されるものもある。区画された文様内には縄文が充填され、257・258・260には「8」字状の貼付文が施されるものもある。

267～285は胴部片であり、沈線や刺突等により曲線的な文様が描かれたものである。276・278は横位方向へ文様が展開していくもので、276の地文には縄文が施されている。277・279・280には、「の」字状の沈線が縦位に施されている。281～285は、単沈線により集合状の曲線的な文様が描かれるものである。

286～310は口縁部が屈曲して内反する浅鉢型を呈するもの。口縁部文様には、「の」字状や弧状の沈線、刺突等が施され、286・287には鋸歯状に隆帯・沈線が施されている。また、296・197・199は沈線による長楕円の文様内に、列点状の刺突が加えられている。302～304は、口縁部に沈線により幾何学的な文様が施され、区画内に縄文が充填されるものである。

313・315・316は壺状の器形となる土器の胴部も思われるもので、胴部下半の最大径位置に隆帯を巡らせ、垂下する二本の隆帯とともに沈線等により文様を描くものである。

4は口縁部に最大径をもち、口縁部から頸部にかけて緩やかにくびれ、胴部下半に膨らみをもつ深鉢形土器で、口縁部と胴部に入り組み状の平行沈線を描き頸部文様帯を構成させる。文様体内には三角形を基本とした幾何学文様が描かれるが、部分的に五角形の文様となる箇所もみられる。沈線間には、細いLRの縄文が充填されている。

第24図から27図は幾何学文様を主体とした充填縄文を施した一群である。

口縁部から頸部にかけて緩やかにくびれる深鉢形を呈するもので、355のように口縁部に孔をもつものや、343～345・348・354・355・365・366のように「8」字状の刺突をもつ隆帯を貼付するものなどもある。頸部に描かれる文様は、三角形や菱形・円等の幾何学文が描かれ、沈線間には充填縄文が施されるものと、この種の土器の中でも比較的古いとされる充填縄文帯の中に多糸沈線を充填させているものがある。

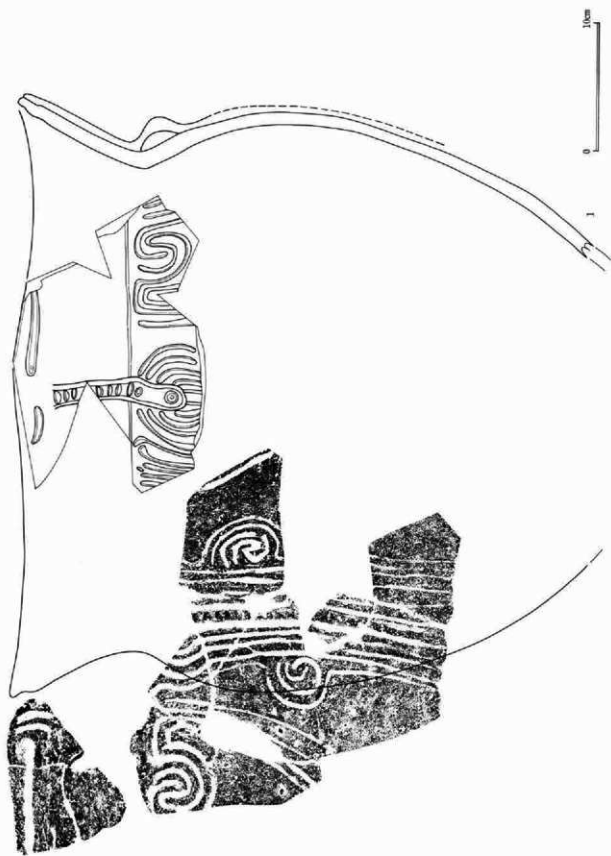
356～364は口縁下に刻みをもつ微隆帯を巡らせるもので、以下に三角形等の幾何学文を描き、沈線間に縄文を充填するものである。364は口縁部裏面にも微隆帯による文様を描いている。

本道跡での堀之内Ⅱ式の土器をみると、加曾利BⅠ式の古い方に絡む様な新しい段階の土器は余り見受けられず、刻みをもつ微隆帯をもたない幾何学文を描いた土器が主体で、堀之内Ⅱ式の中でもむしろ古い様相を示した土器群として捉えることができよう。

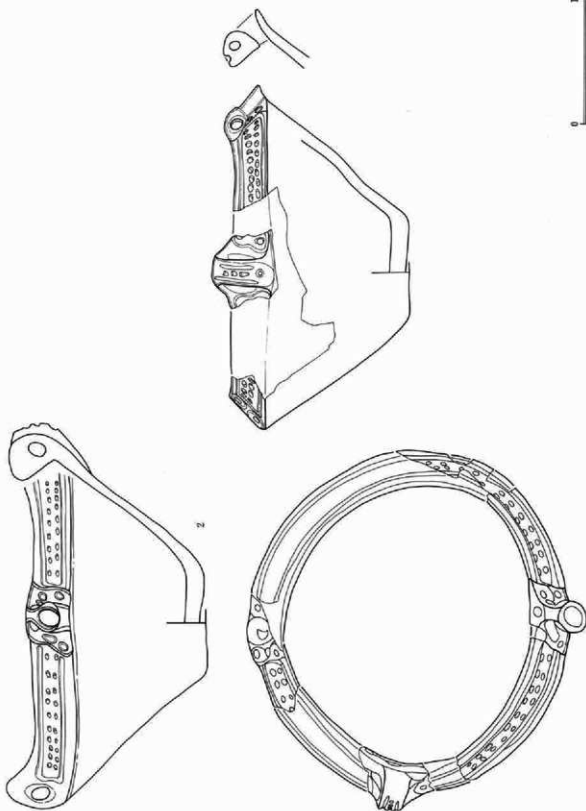
注口土器 (2,416～426)

後期の堀之内式に伴う注口土器を一括した。

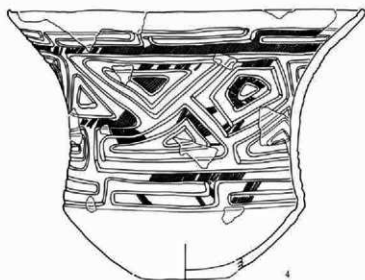
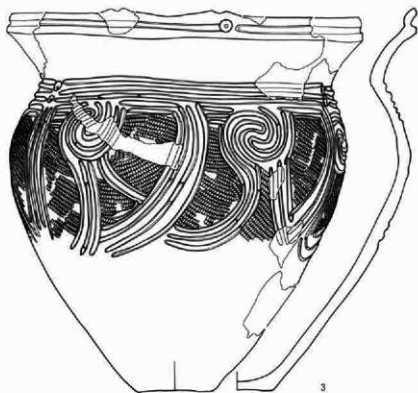
2は胴部が直線的に開き、上半で「く」字状に屈曲し口縁が内反する鉢形を呈しており、口縁部には短い注口や橋状把手、刺突をもつ隆帯、4箇所有する。この口縁4単位の間を沈線で連結するように方形に区画を行い、区画内に連続的に刺突を2段施している。胴部は無文である。なお、注口部の上には橋状の小突起が配されている。



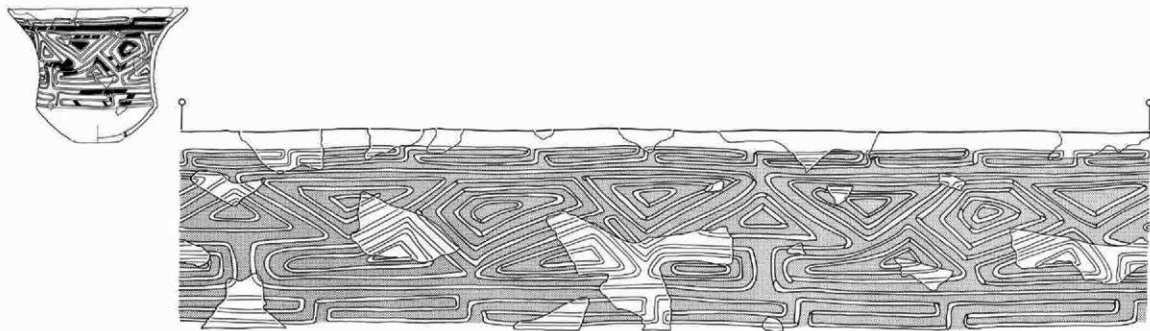
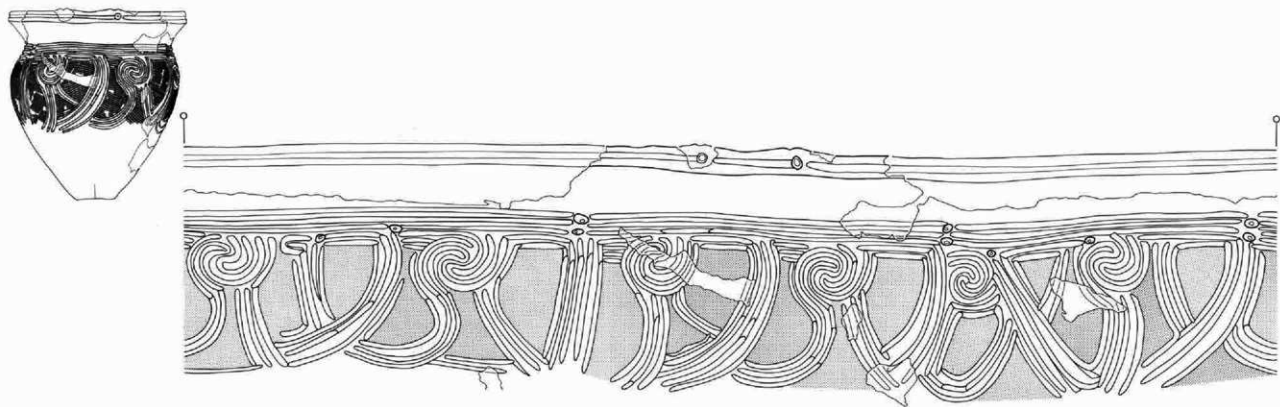
第25図 縄文土器(後期)



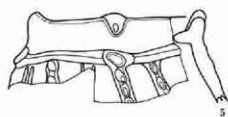
第26回 縄文土器(後期)



第27図 縄文土器(後期)



第28図 縄文土器(後期)



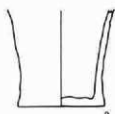
5



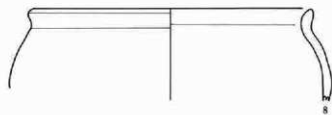
6



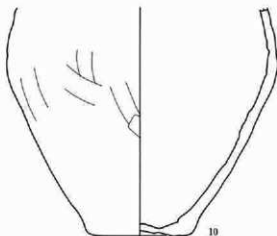
7



9



8



10



11



12



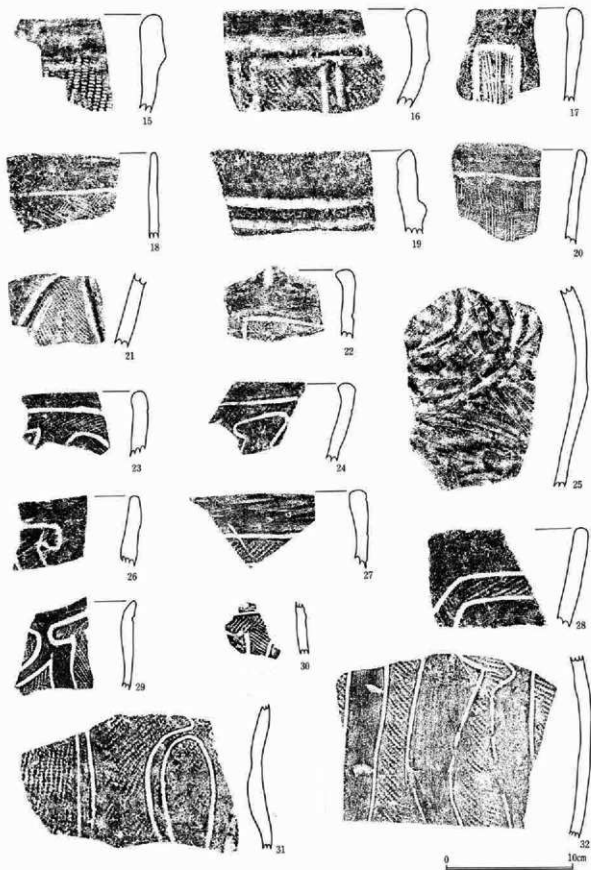
14



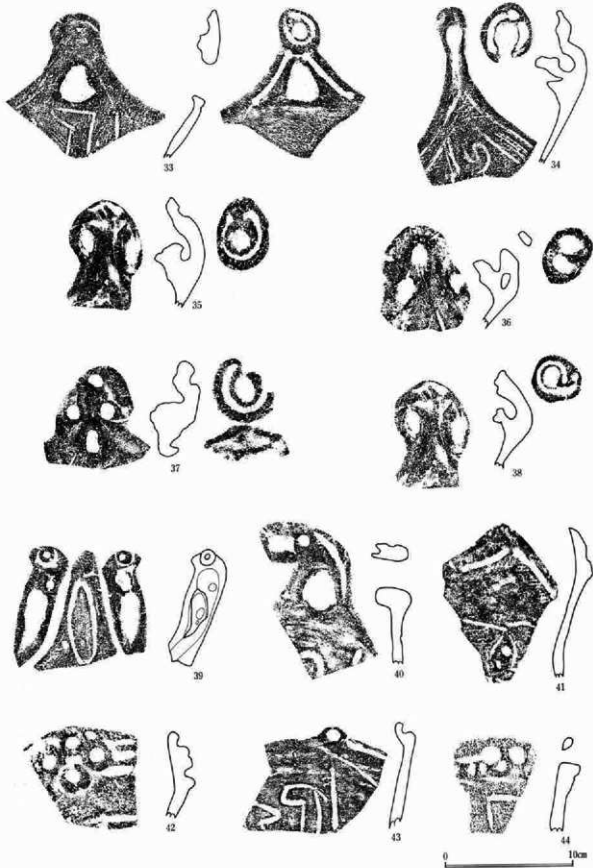
13



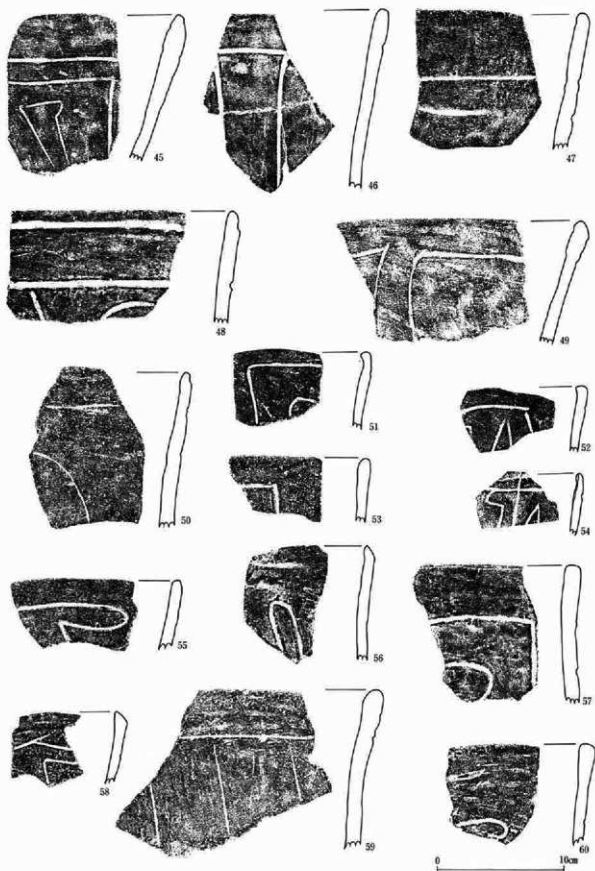
第29図 縄文土器(後期)



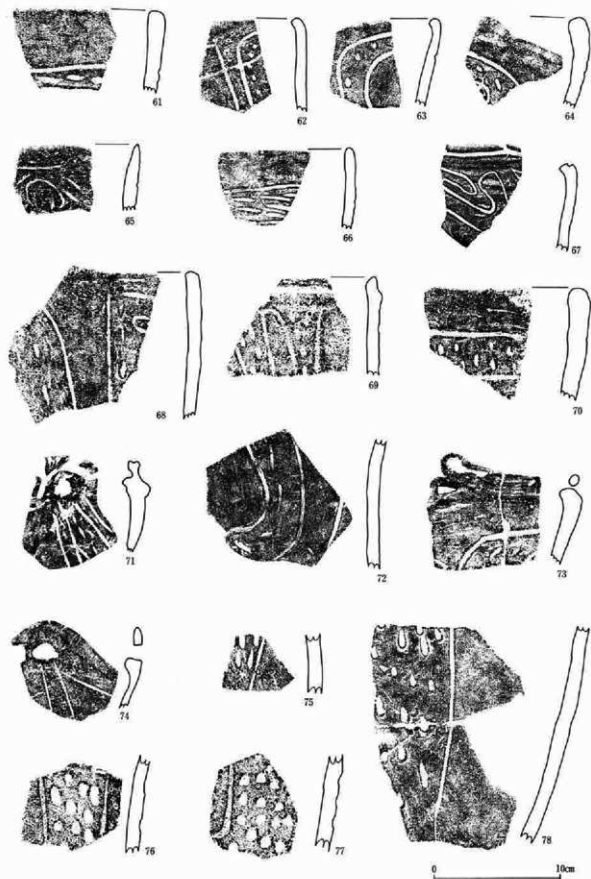
第30回 縄文土器(後期)



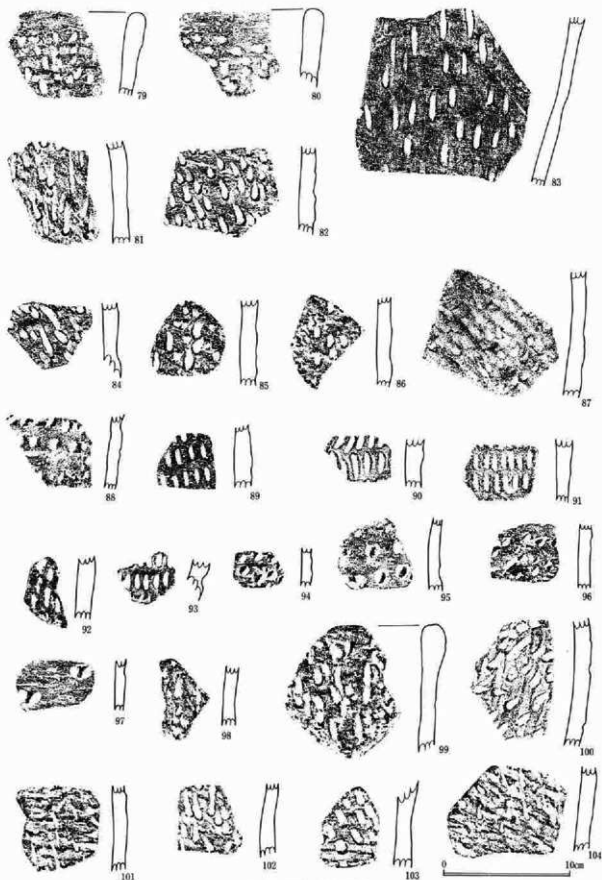
第31図 編文土器(後期)



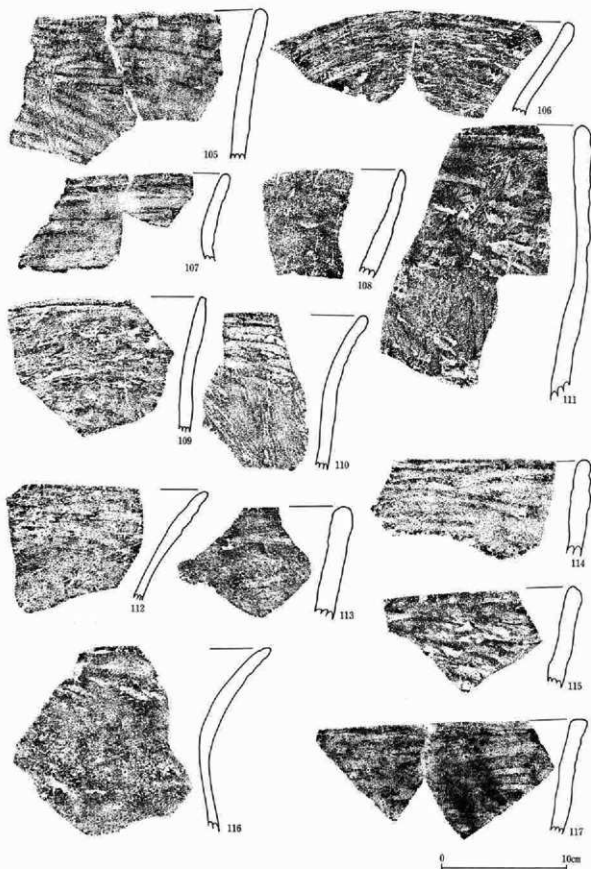
第32図 縄文土器(後期)



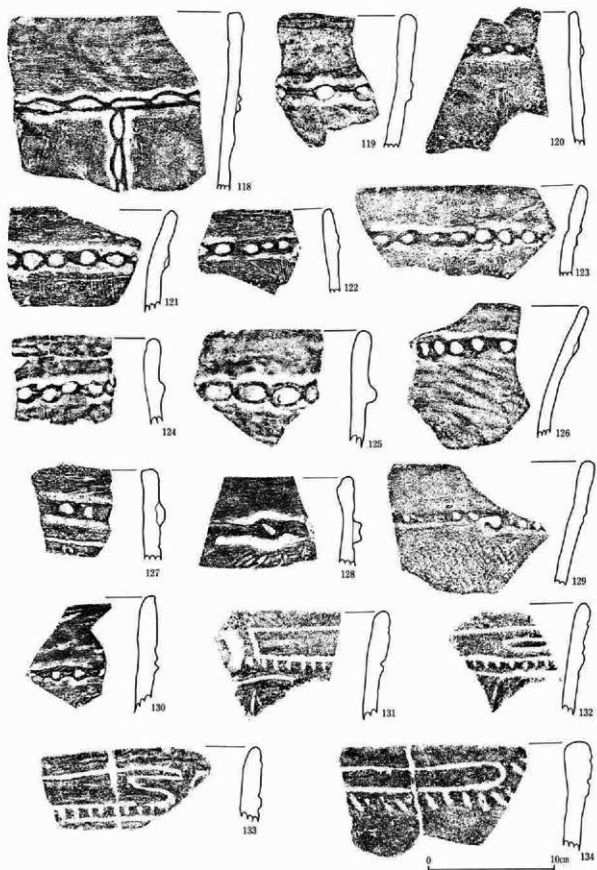
第33回 縄文土器(後期)



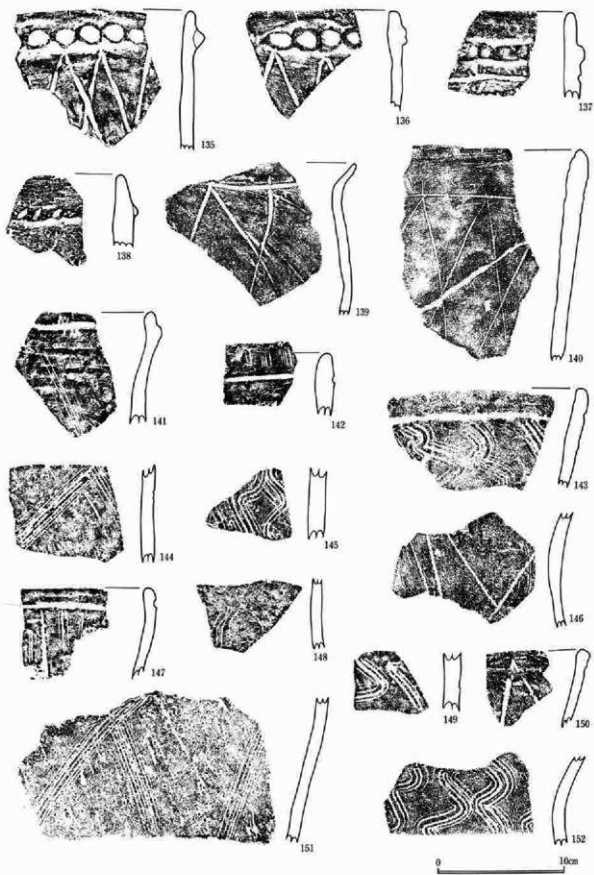
第34図 縄文土器(後期)



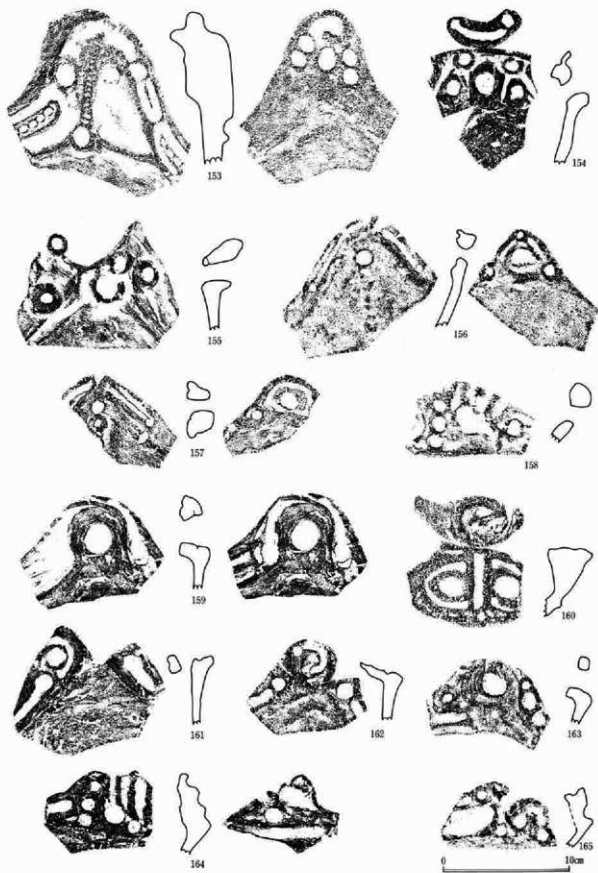
第35図 縄文土器(後期)



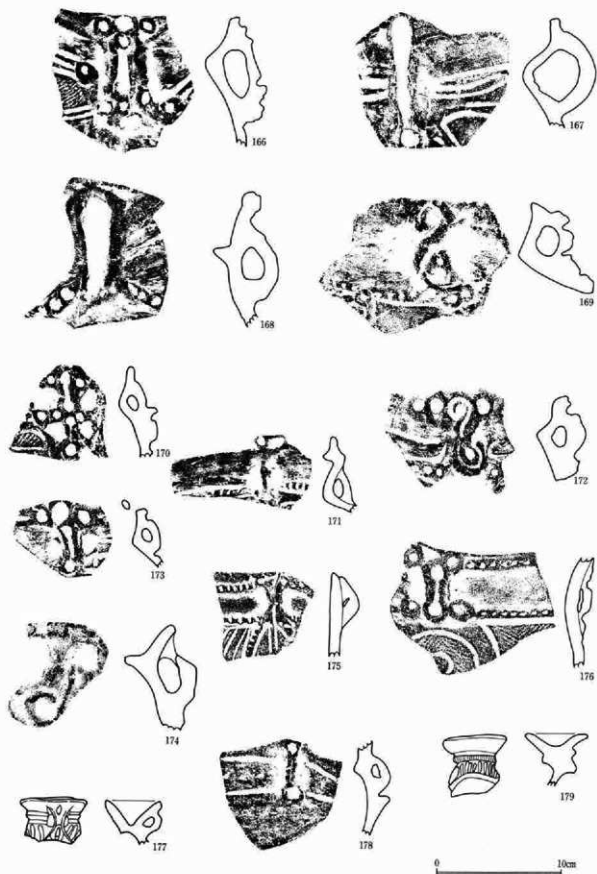
第36図 縄文土器(後期)



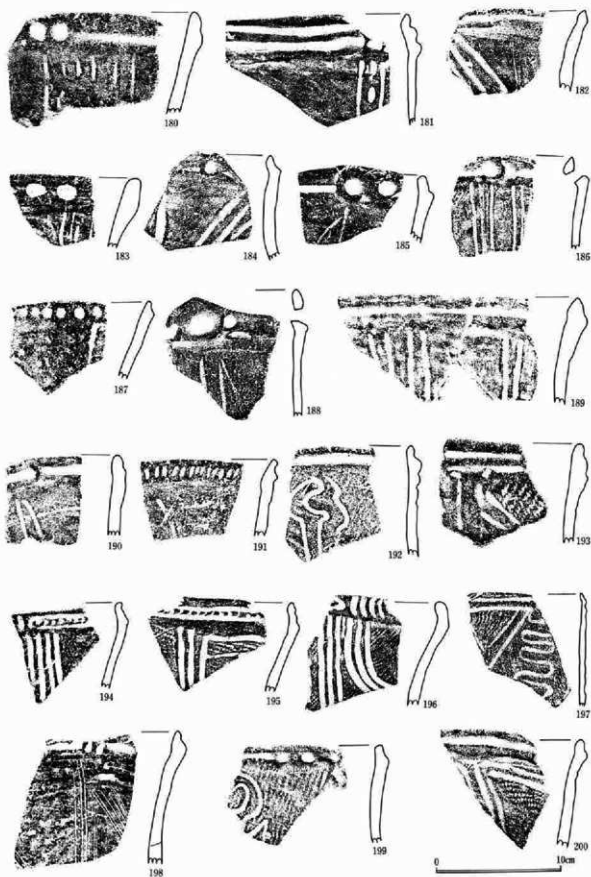
第37図 縄文土器(後期)



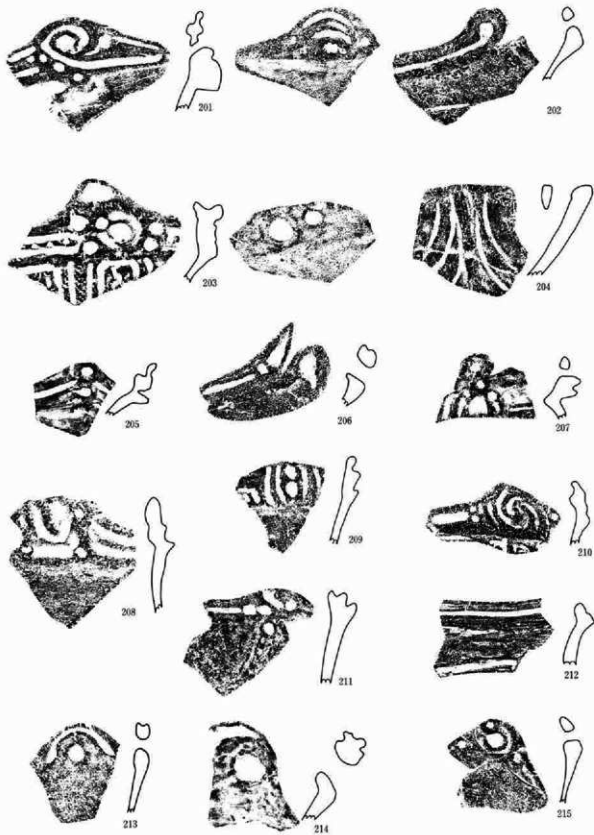
第38図 縄文土器(後期)



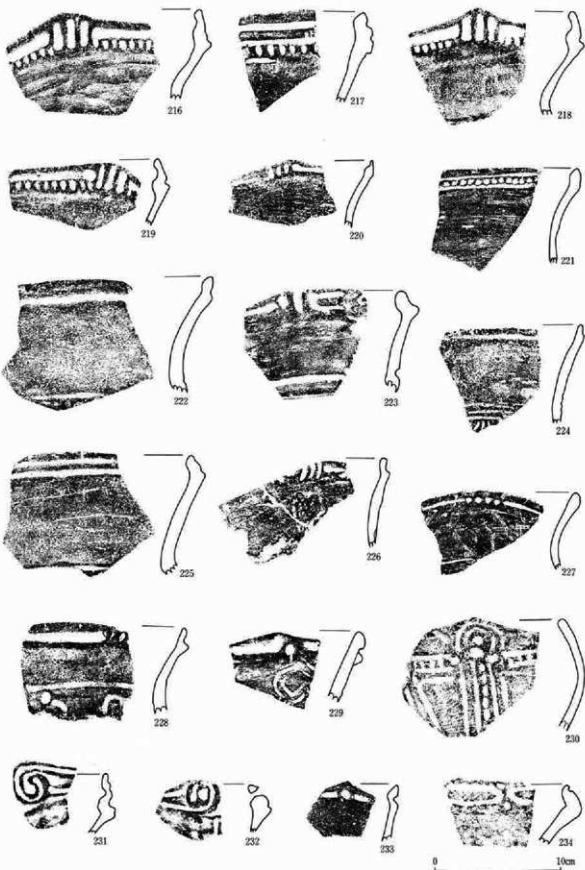
第39回 縄文土器(後期)



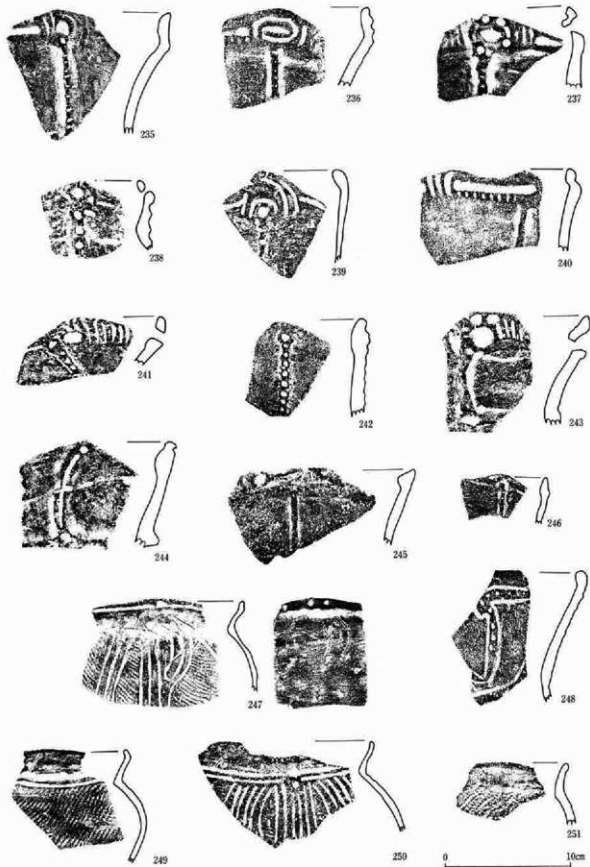
第40図 縄文土器(後期)



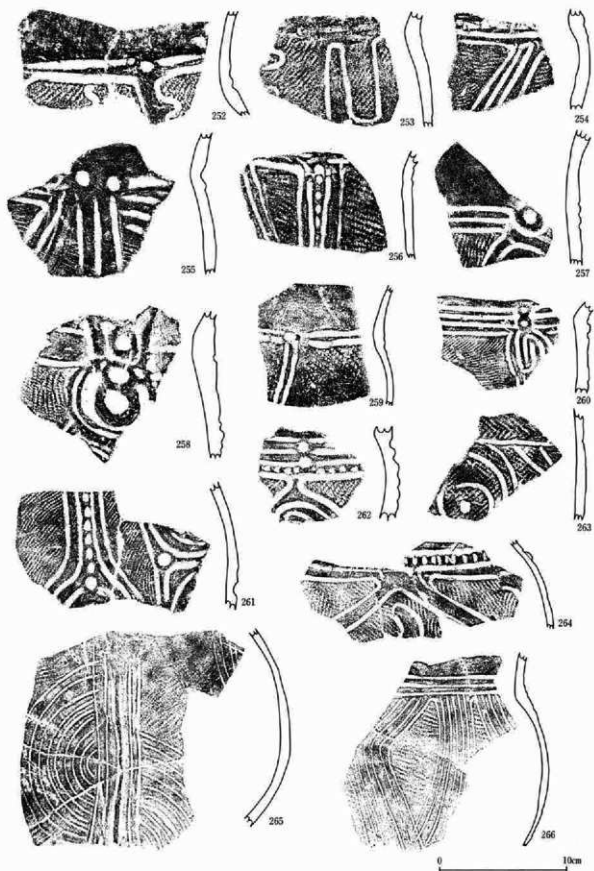
第41回 縄文土器(後期)



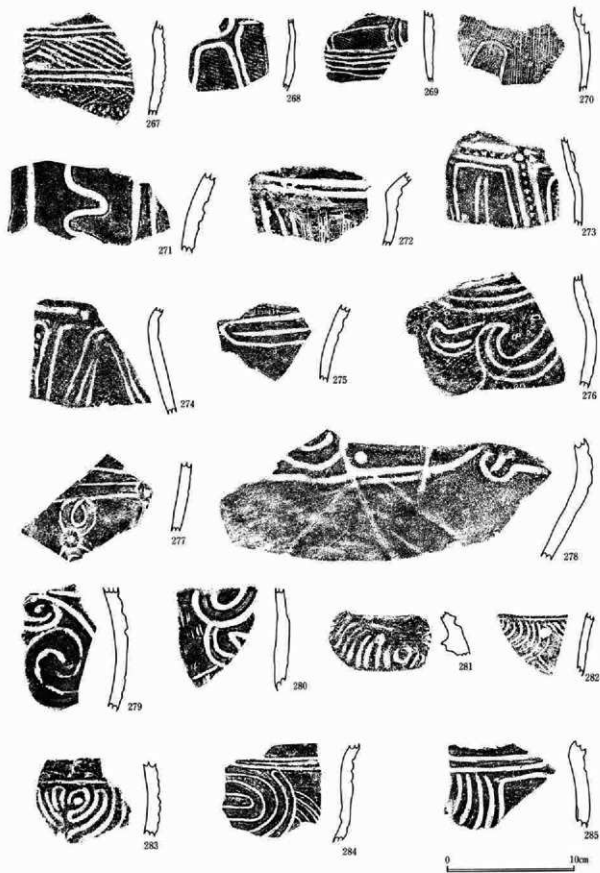
第42図 縄文土器(後期)



第43図 縄文土器(後期)



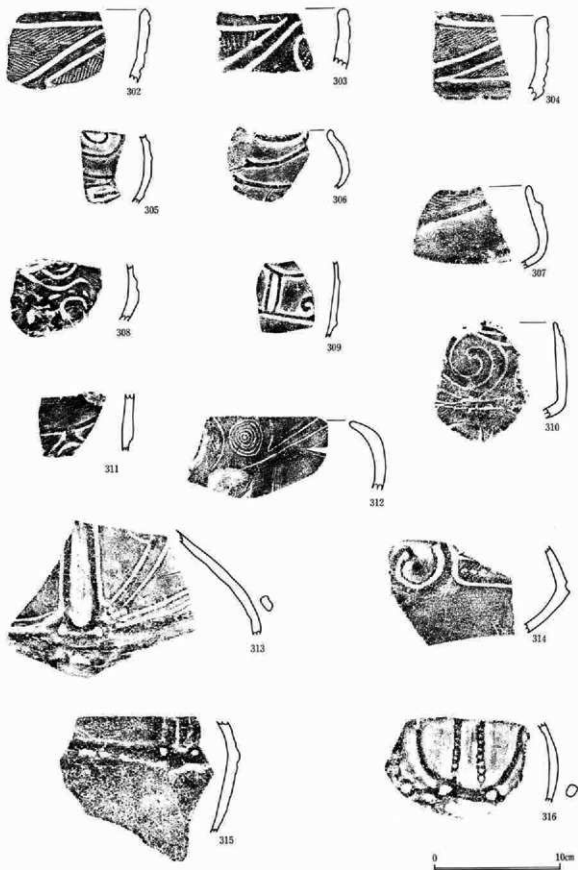
第44図 陶文土器(後期)



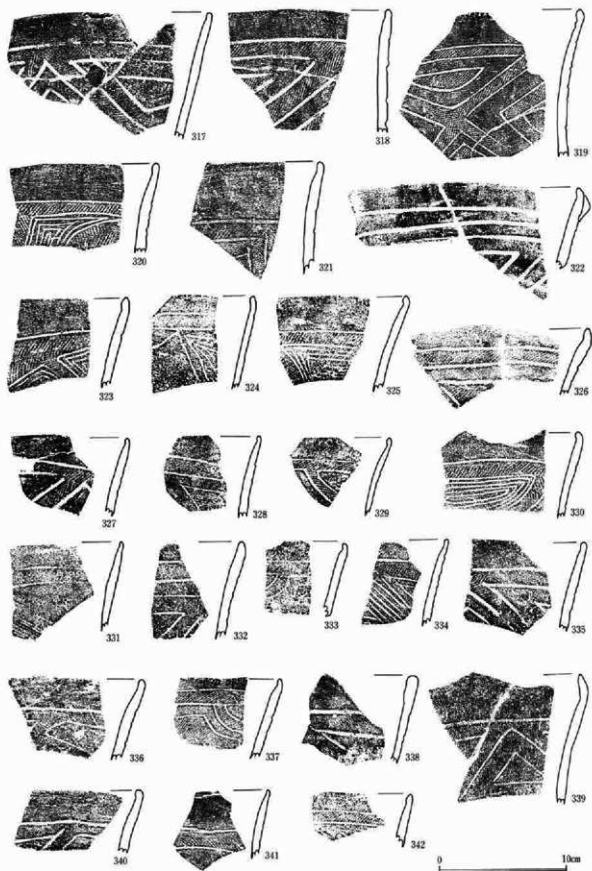
第45図 縄文土器(後期)



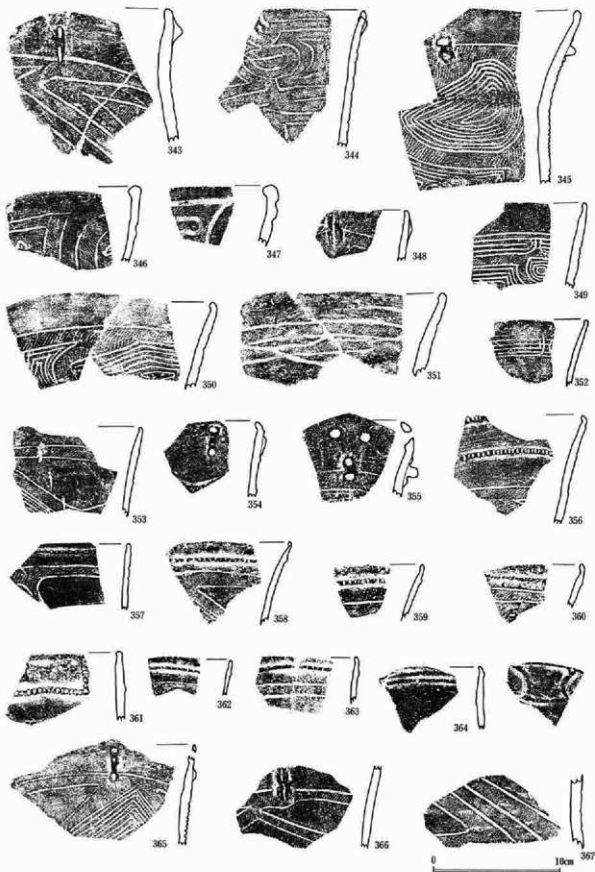
第46回 縄文土器(後期)



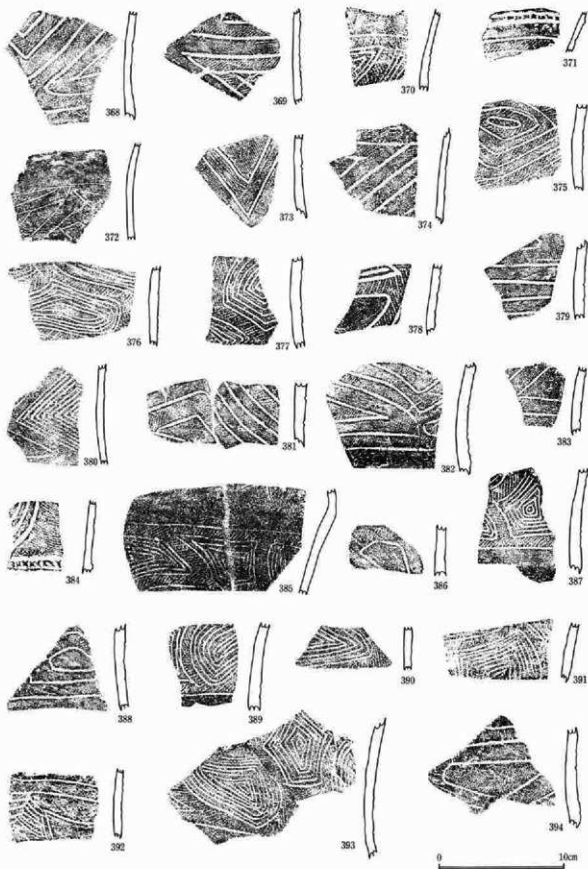
第47図 縄文土器(後期)



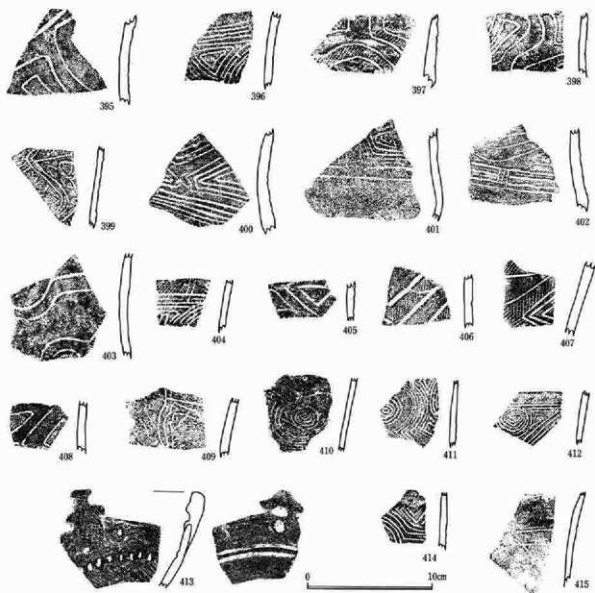
第48図 縄文土器(後期)



第49図 縄文土器(後期)



第50図 縄文土器(後期)



第51図 縄文土器(後期)

蓋形土器 (427, 432, 433)

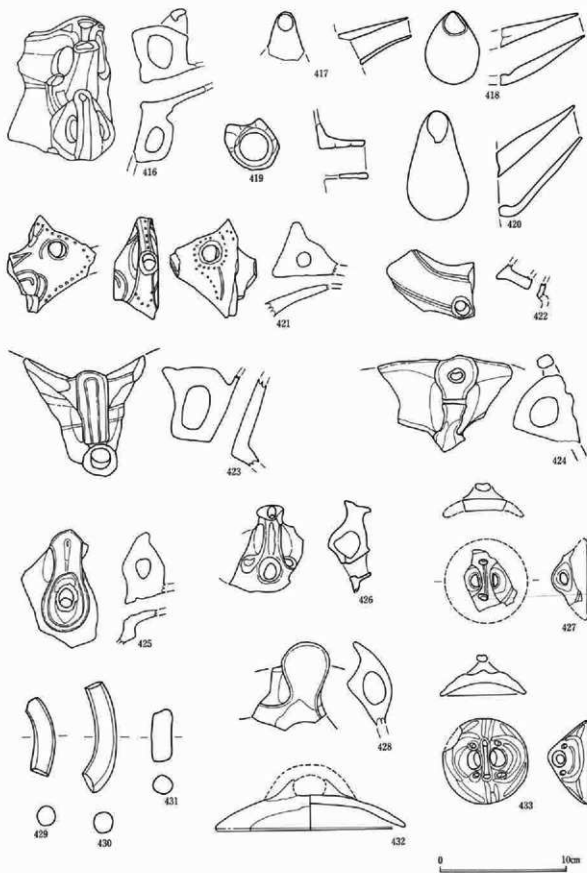
後期の壺之内式に伴う蓋形土器である。

432は摘み部が欠損している、無文のものである。427・433はやや小形で、器面に刺突および沈線による弧状等の文様が施されるものである。

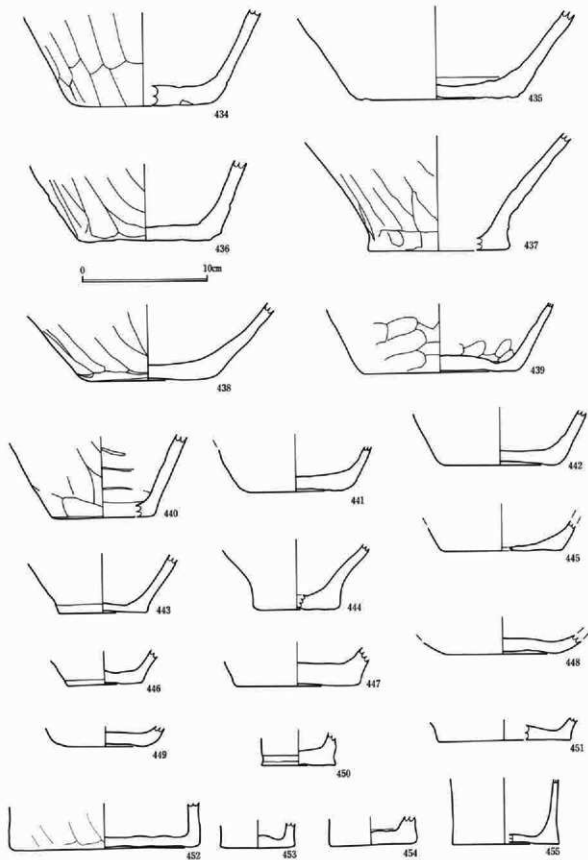
底部 (7・9・11~14, 434~455)

底部を一括したが、これらの多くは後期前半のものと思われる。

7・9・11~14は底面に網代痕をもつもので、7・9・11・12は比較的目の細かい網代が用いられている。434・436~440は第11図の無文土器に伴う底部と考えられるもので、底部に至るまで整形のための撫で痕がみられるものである。



第52図 縄文土器(後期)



第53図 縄文土器(後期)

D-5 遺跡出土の石器

石鏃 1~42

出土した石鏃の総点数は、42点である。この内有茎のものが1点で、黒曜石製のもの。その他は無茎石鏃であり、黒曜石製29点、頁岩製1点、チャート製9点、安山岩製2点である。

鏃 43~45

点数は3点と少なく、いずれも黒曜石製のもので、先端は比較的短かいものである。

打製石斧 46~145

総点数は100点を数える。形態としては、撥形、短冊形、分銅形とバラエティーに富む。石材には、硬質泥岩製が46点と最も多く、次いで黒色片岩、頁岩系、安山岩系、緑色片岩等々の様々な石材が用いられている。

磨製石斧 290~297

点数は8点で、打製のものに比べて少ない。一部欠損したものもあるが、丁寧に研磨されており、石材には変玄武岩が使用されている。

スクレイパー 146~184

点数は39点で、やや肉厚な横長剥片を素材とするものが主体をなし、剥片の周縁に調整剥離を施こしたものの。石材には、硬質泥岩製のものが26点と多く、次いで頁岩、黒色片岩等の石材が用いられている。

敲石 305、307、308

点数は3点である。長楕円状の素材の周縁に敲打痕が認められる。

石匙 353

黒色片岩を石材とするもので、ツマミ部を作出するように周縁剥離が施こされている。

石核 185~224

石核としたものには、第65~67図のように剥片剥離のための石核と、第69・70図のような打製石斧の未製品と考えられるもの。さらには第71図のように打製石斧の未製品段階での欠損品と考えられるものも含む。

凹石 225~267

総点数は43点である。比較的面の平な自然石で、円形状ないしは長楕円状の形状の石を素材とし、片面ないしは両面に孔を有する。これらの中には、表面を研磨したものもある。

磨石 268~289、298~304、306、309~325

全体に丁寧に研磨が施こされており、大方円形状に形状を整えている。石材には、粗粒安山岩の22点が最も多く、次いでデイサイト、変玄武岩、砂岩、雲母石英片岩等々の石材が用いられている。

石棒 326~332

棒状に研磨され、断面形はほぼ円形を呈する。7点出土しており、緑色片岩5点、雲母石英片岩2点。

石皿 333~344

12点が出土している。皿面ないし裏面に孔を多く有するものもあり、多孔石との併用が認められる。

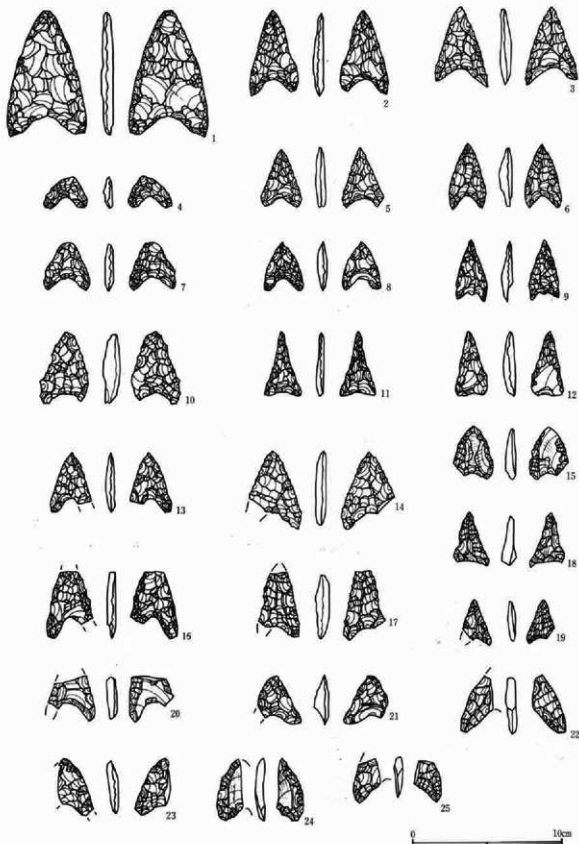
多孔石 第89図345の1点のみである。表裏両面に多孔を有する。

石錘 長楕円状の平石の両端部に剥離痕を1対有する。346~350

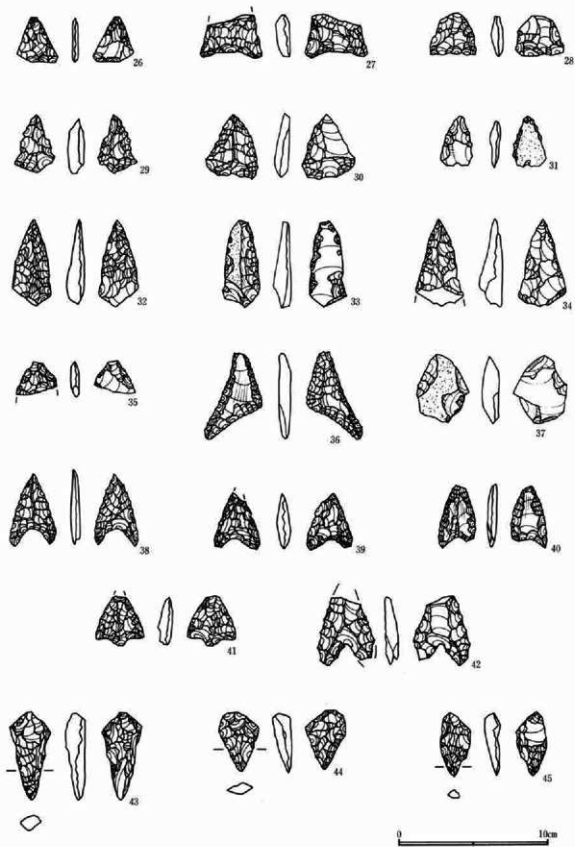
石製品 砂岩、緑色片岩を石材とし、研磨された面の一方に孔を有する。351、352

石製品 354

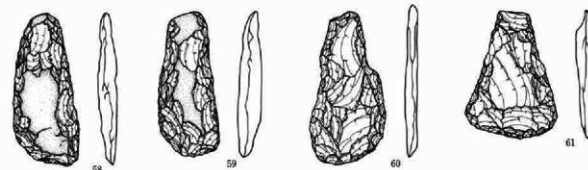
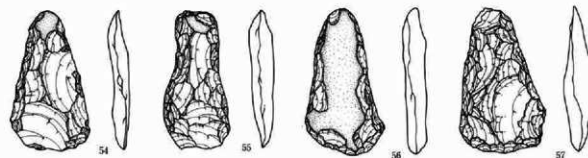
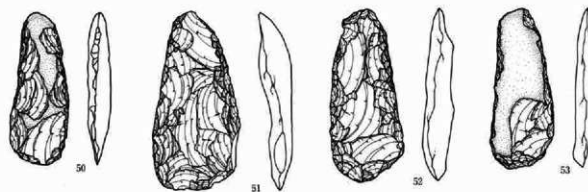
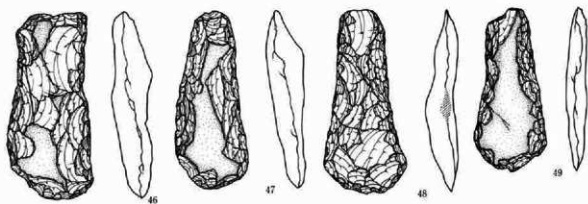
雲母石英片岩を石材とし、研磨し形状を整えている。形状は、人形を呈している。



第54図 縄文石器・石鏃 1

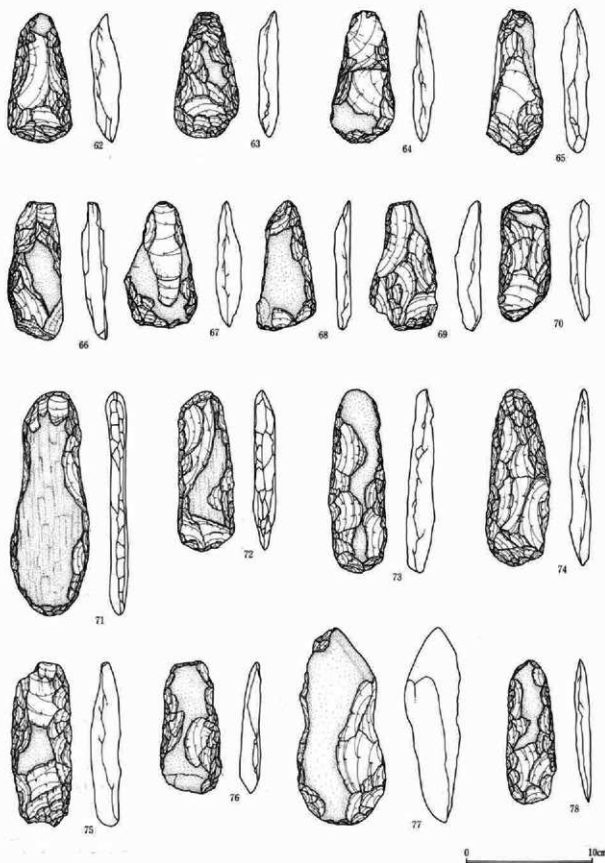


第55図 縄文石器・石鏃 2

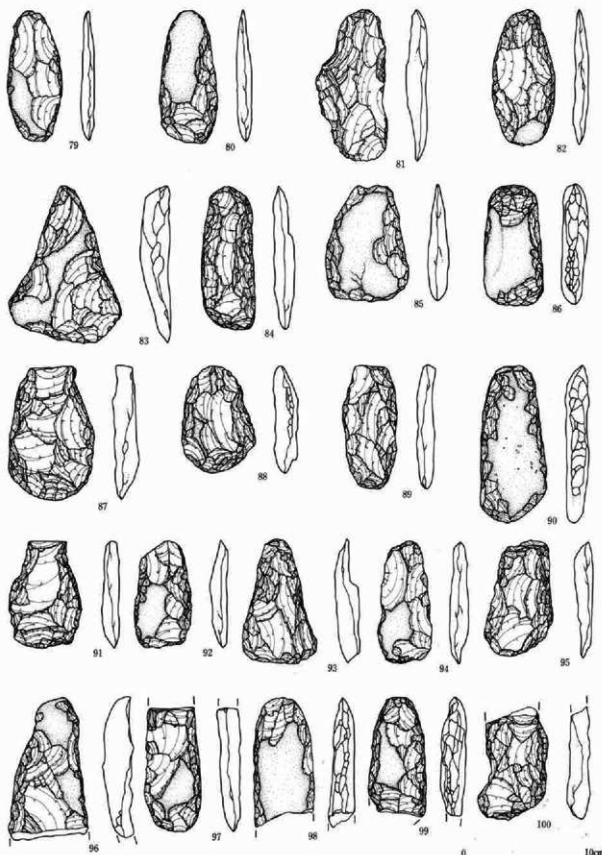


0 10cm

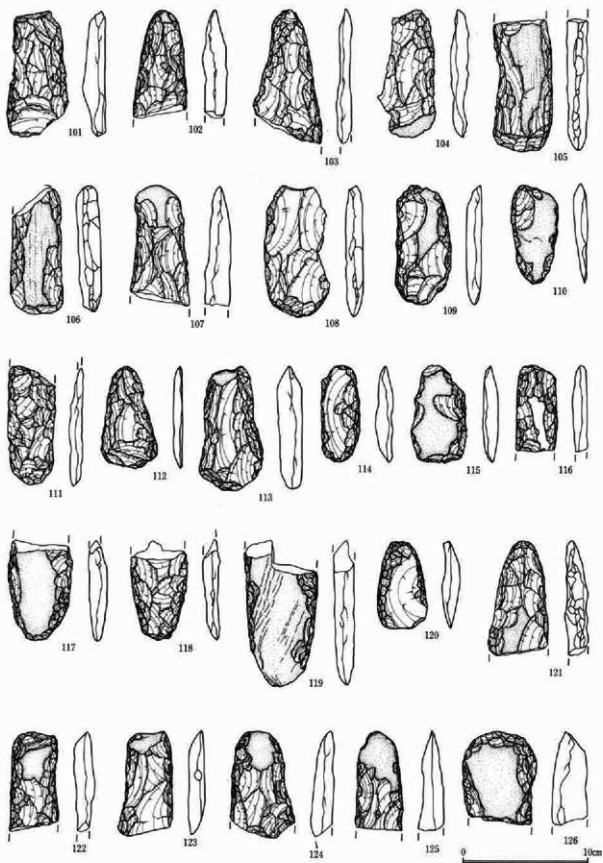
第56図 縄文石器・石斧 1



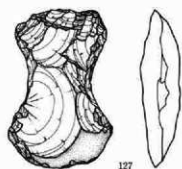
第57図 縄文石器・石斧 2



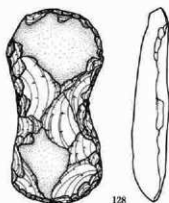
第58図 縄文石器・石斧 3



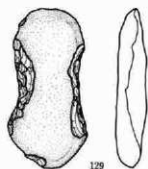
第59図 縄文石器・石斧 4



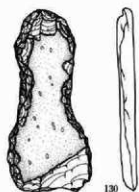
127



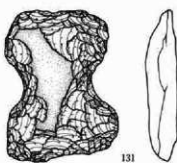
128



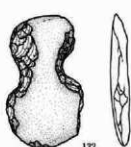
129



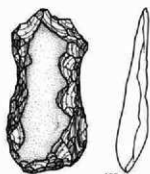
130



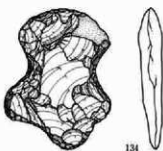
131



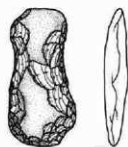
132



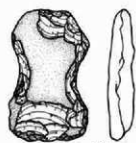
133



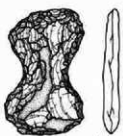
134



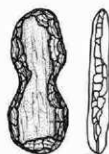
135



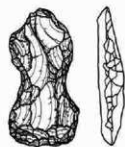
136



137

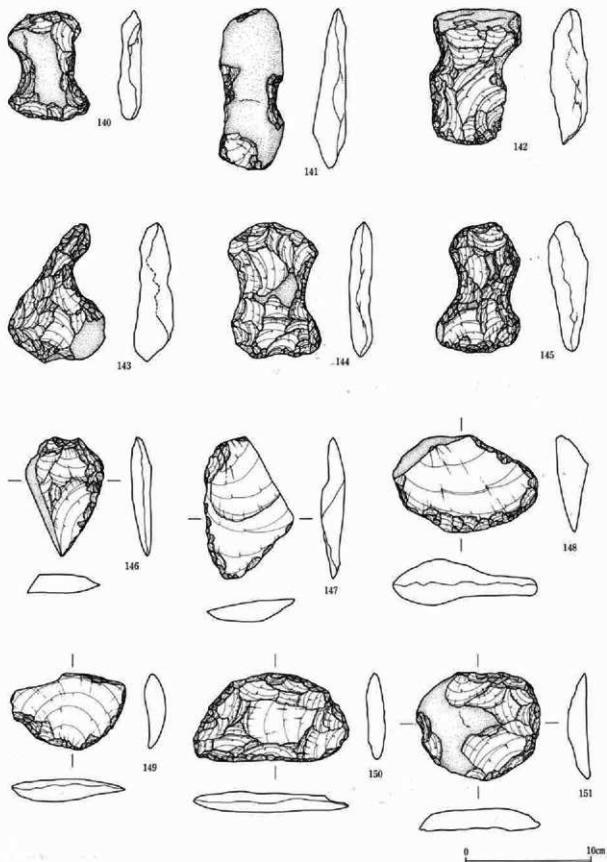


138

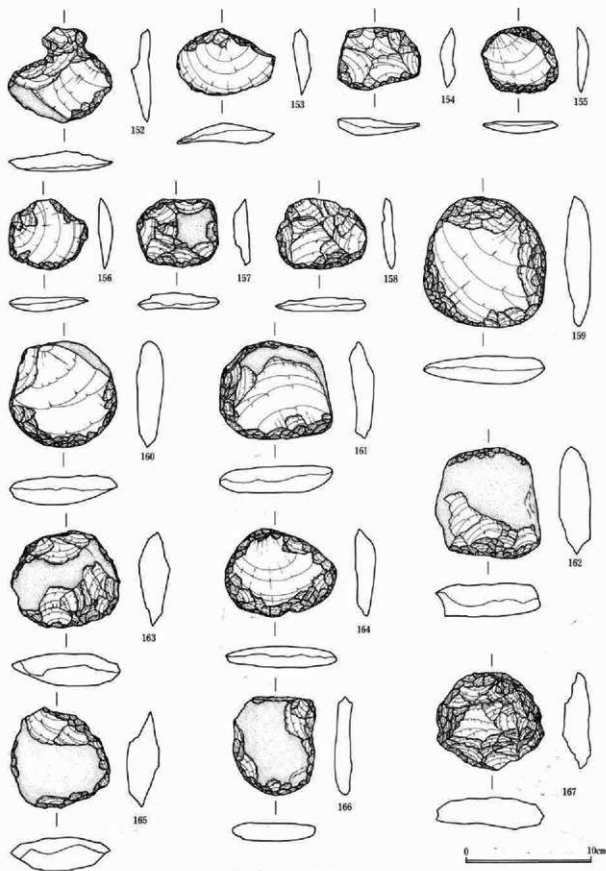


139

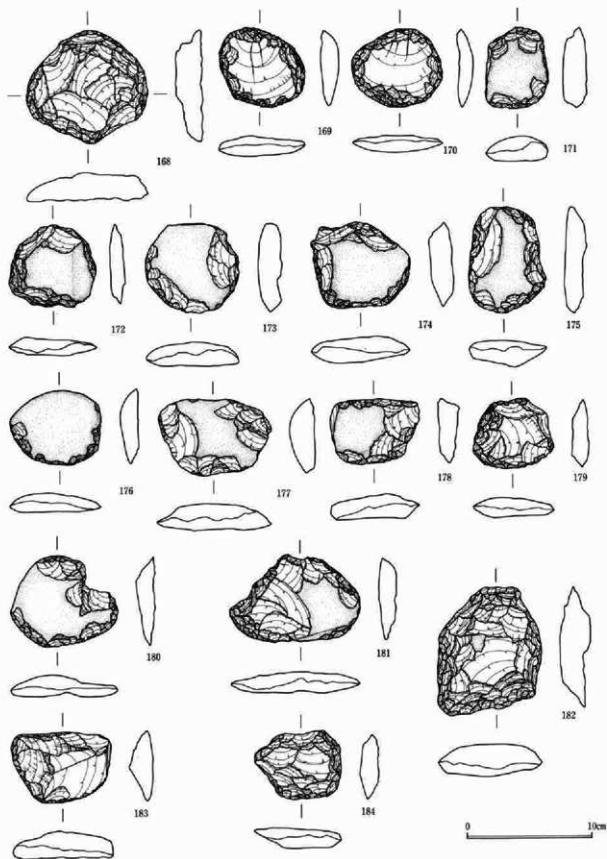




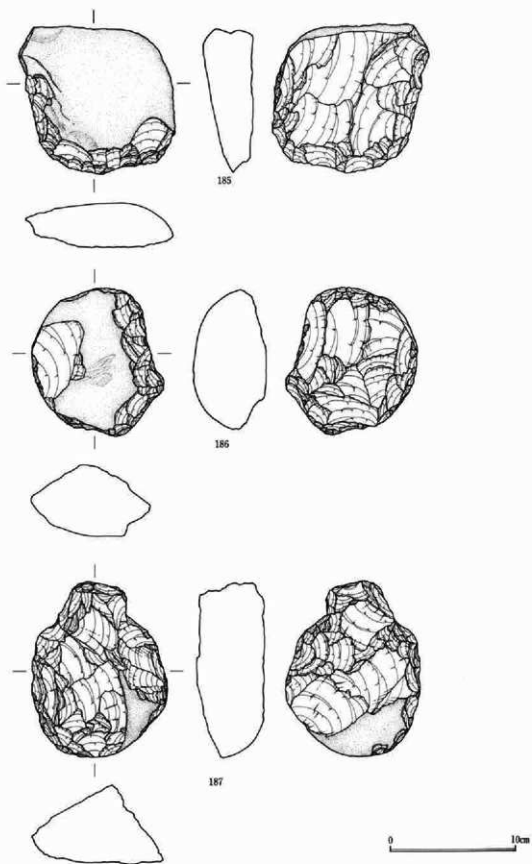
第61图 縄文石器・石斧 6



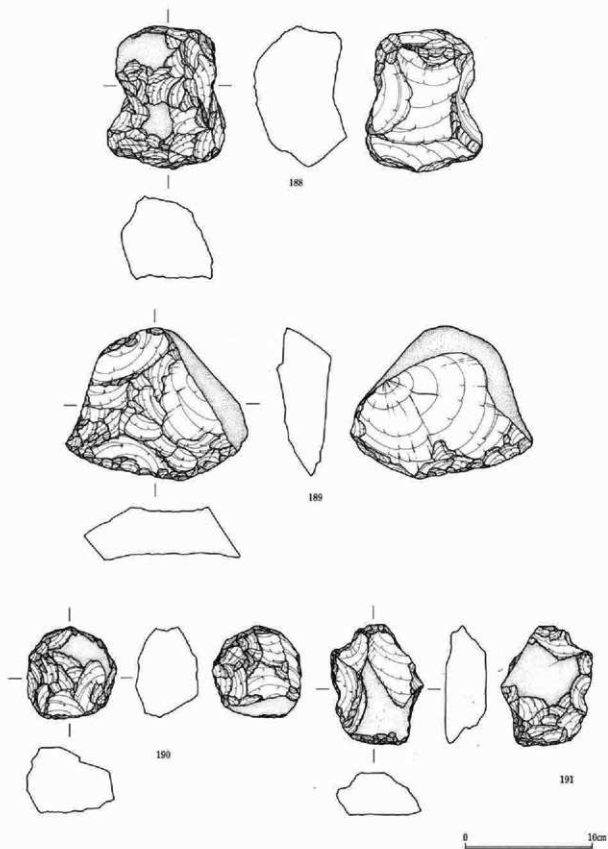
第62図 縄文石器・石斧 7



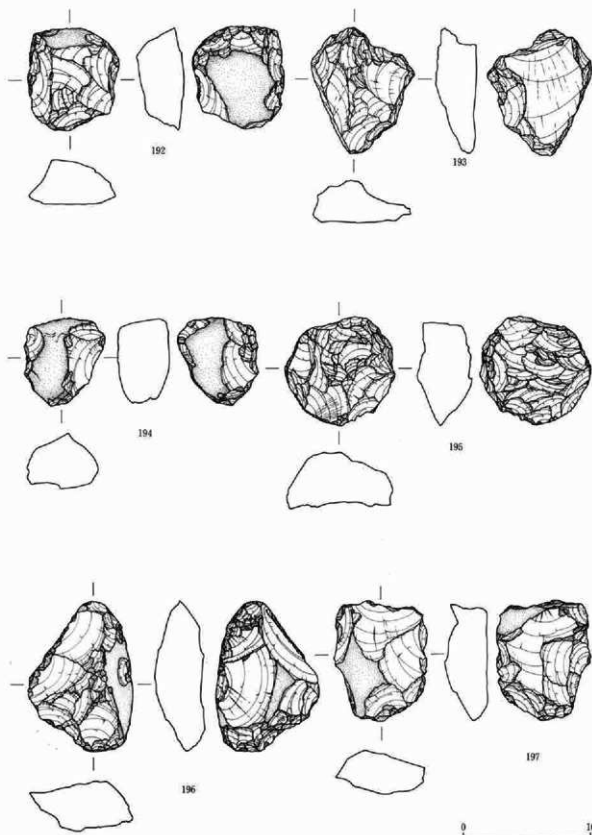
第63図 縄文石器・石斧 8



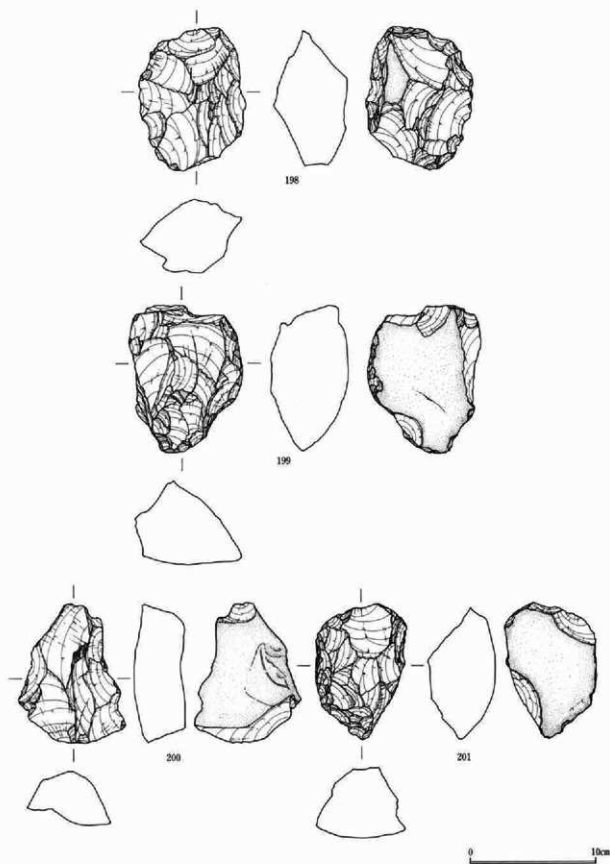
第64圖 縄文石器・石斧9



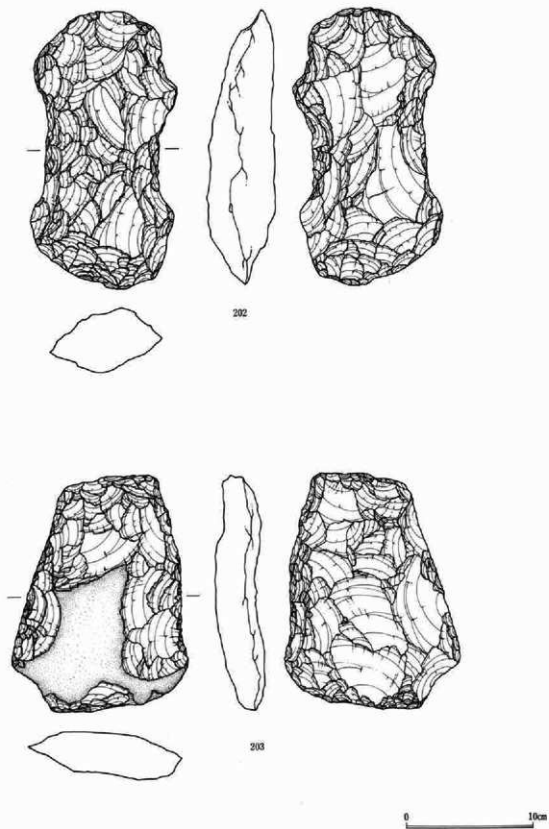
第65図 縄文石器・石斧10



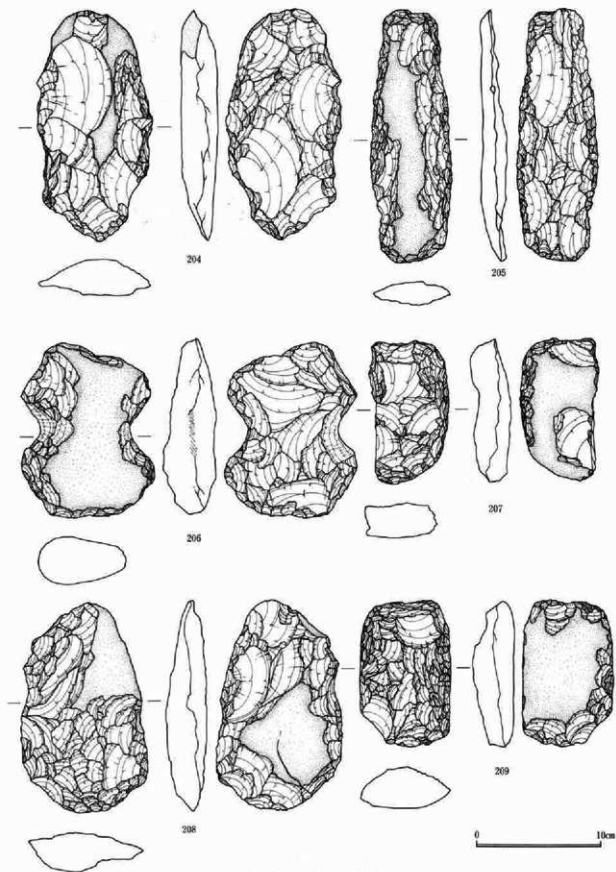
第66図 縄文石器・石斧11



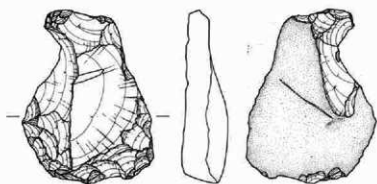
第67図 縄文石器・石斧12



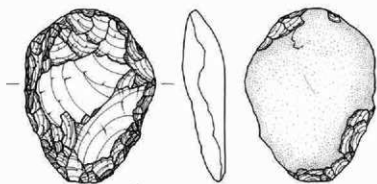
第68図 縄文石器・石斧13



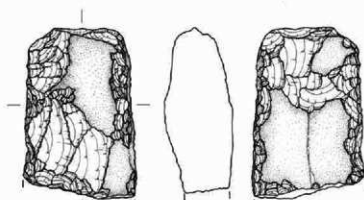
第69図 縄文石器・石斧14



210



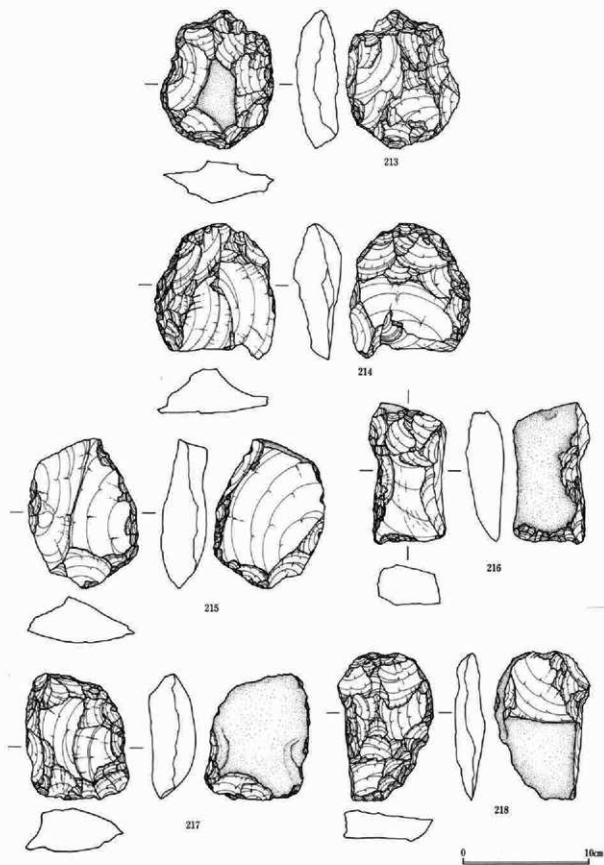
211



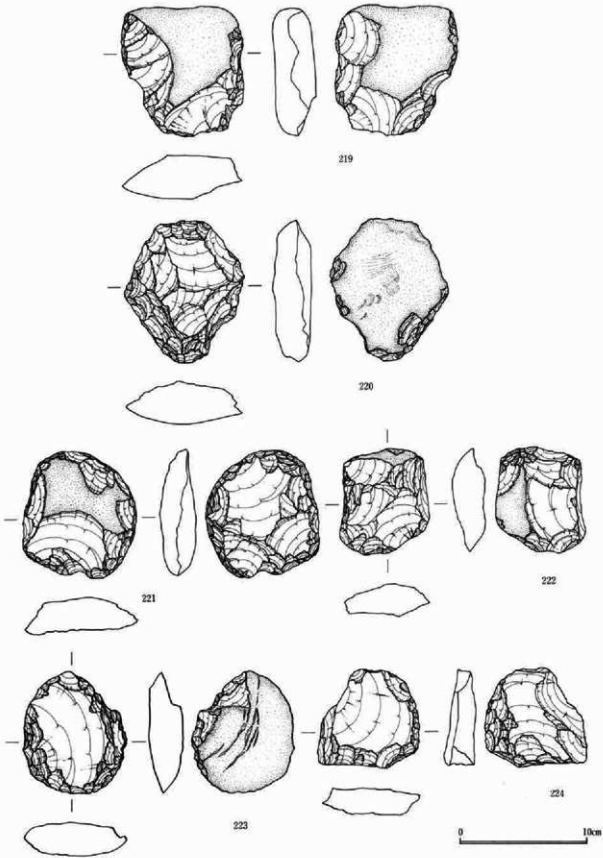
212



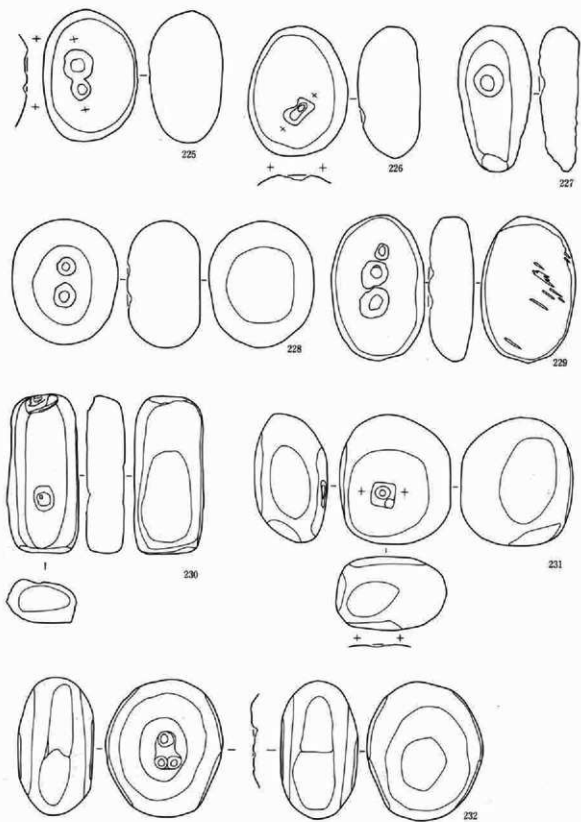
第70図 縄文石器・石斧15



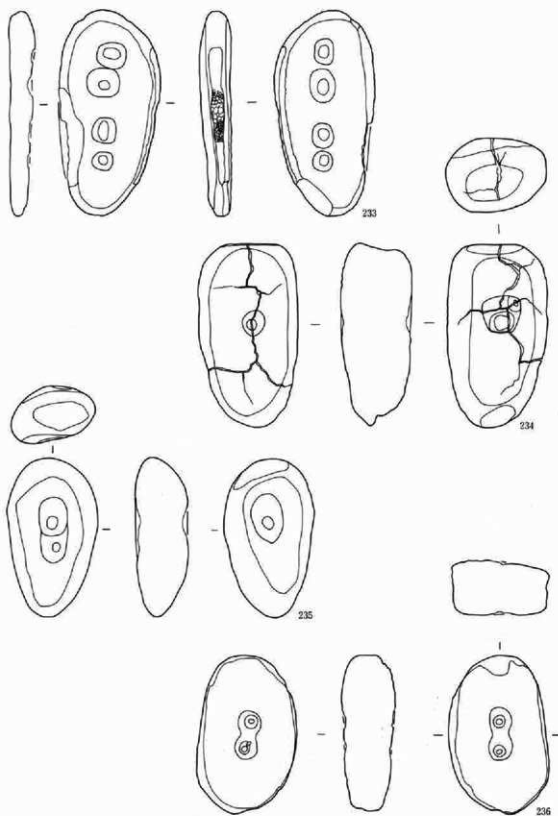
第71図 縄文石器・石斧16



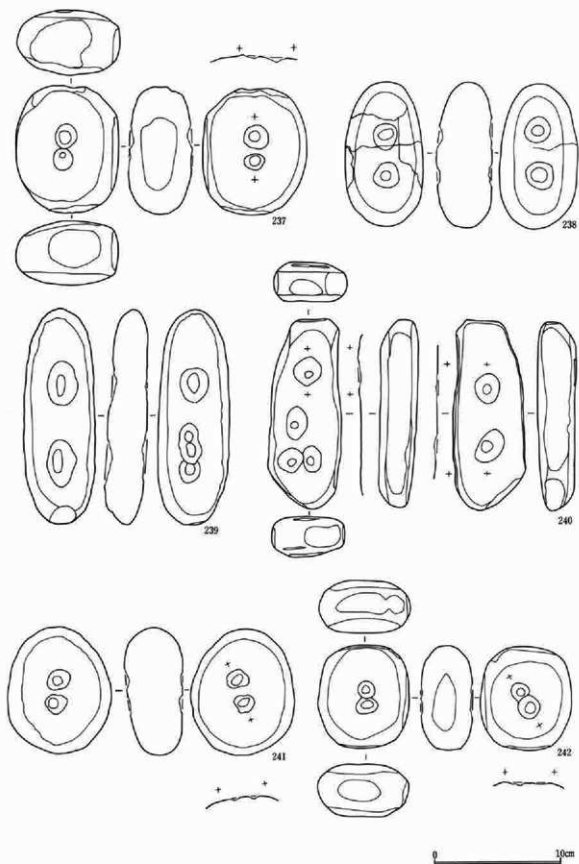
第72図 縄文石器・石斧17



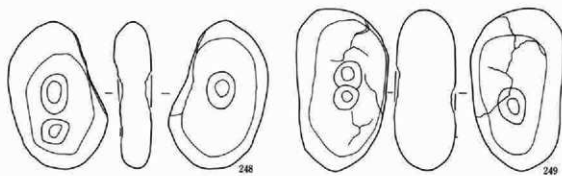
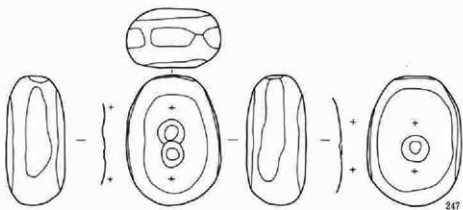
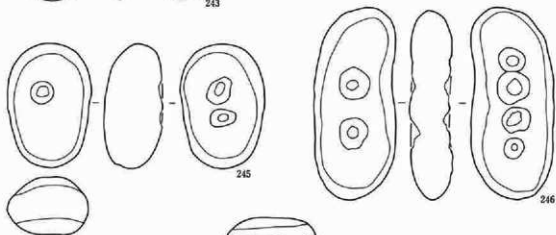
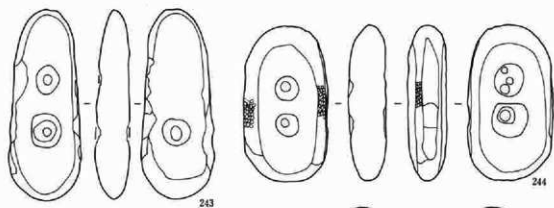
第73図 縄文石器・凹石 1



第74図 縄文石器・凹石 2

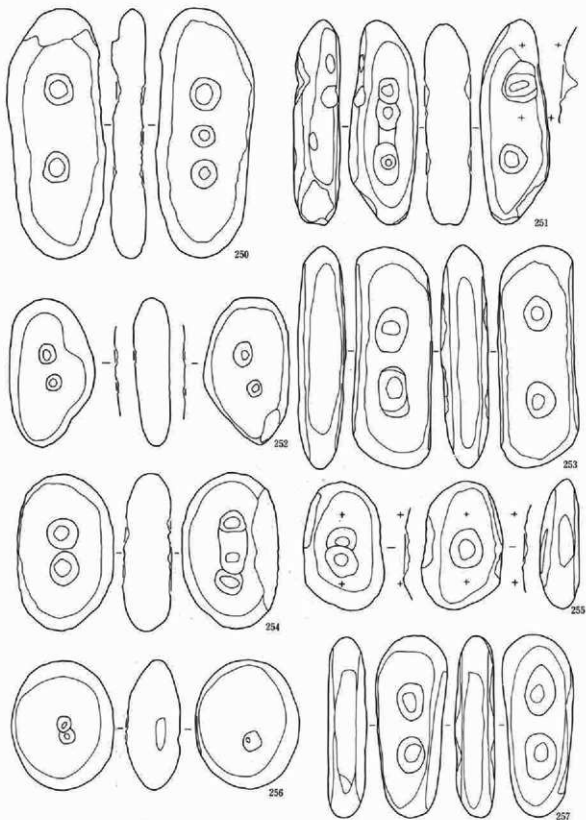


第75図 縄文石器・凹石 3

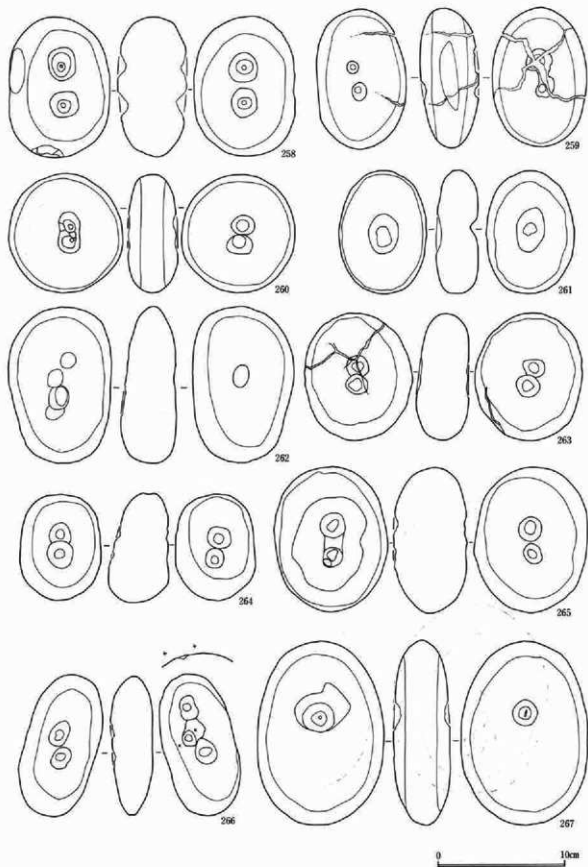


0 10cm

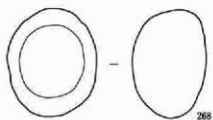
第76圖 縄文石器・凹石4



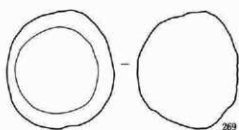
第77図 縄文石器・凹石 5



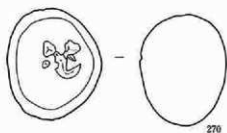
第78図 縄文石器・凹石 5



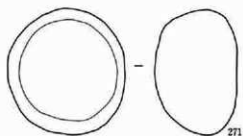
268



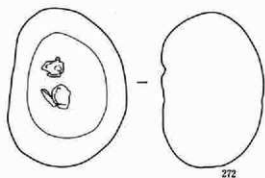
269



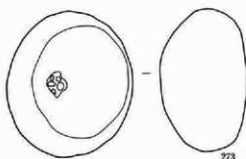
270



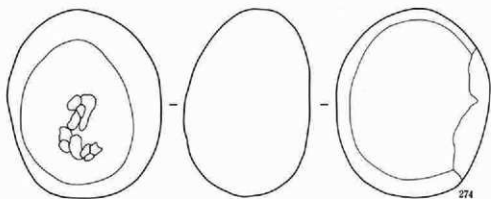
271



272



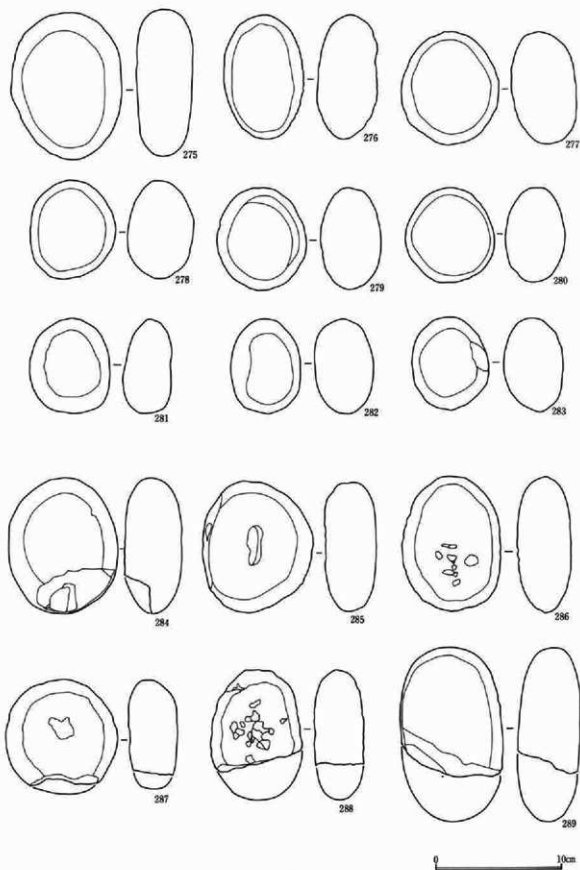
273



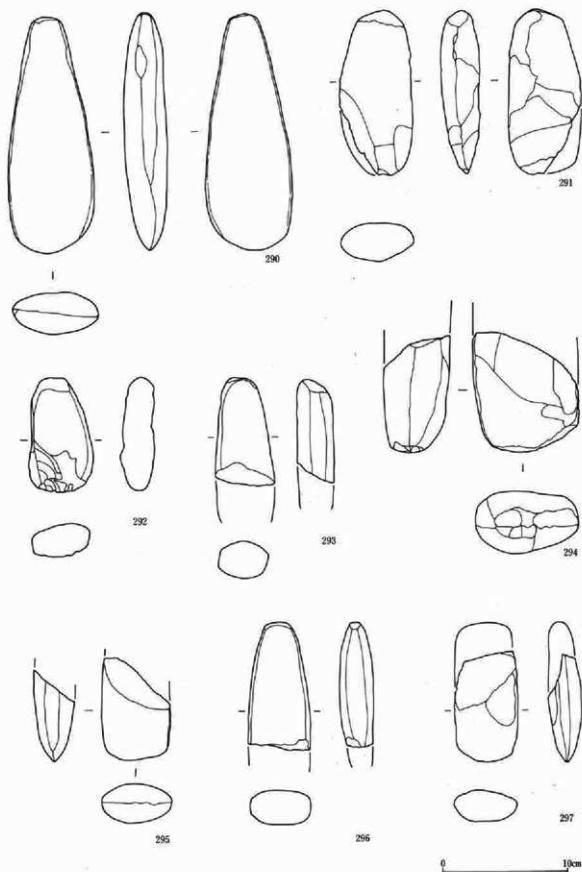
274



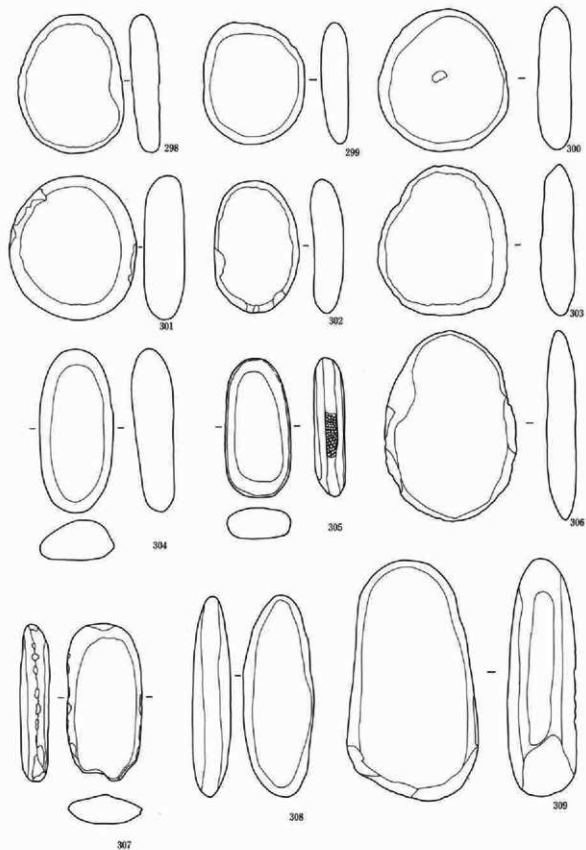
第79図 縄文石器・磨石 1



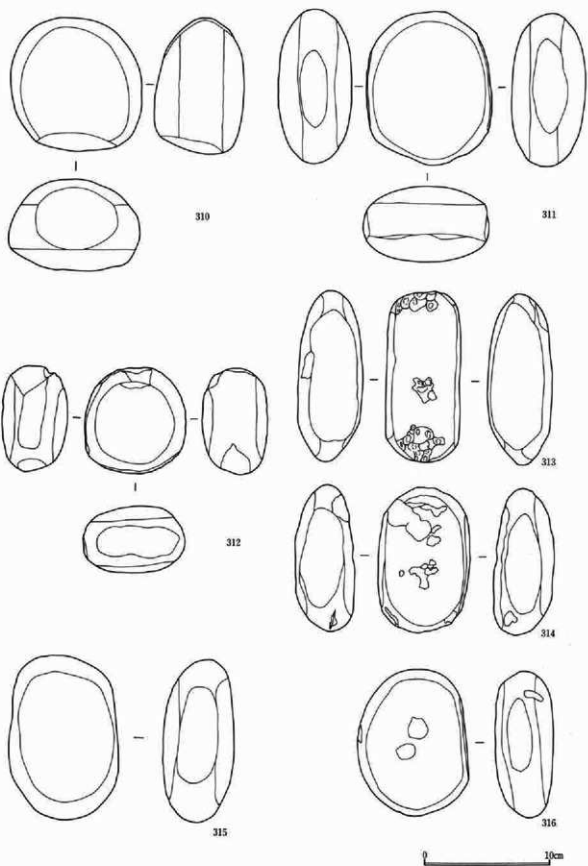
第80図 縄文石器・磨石 2



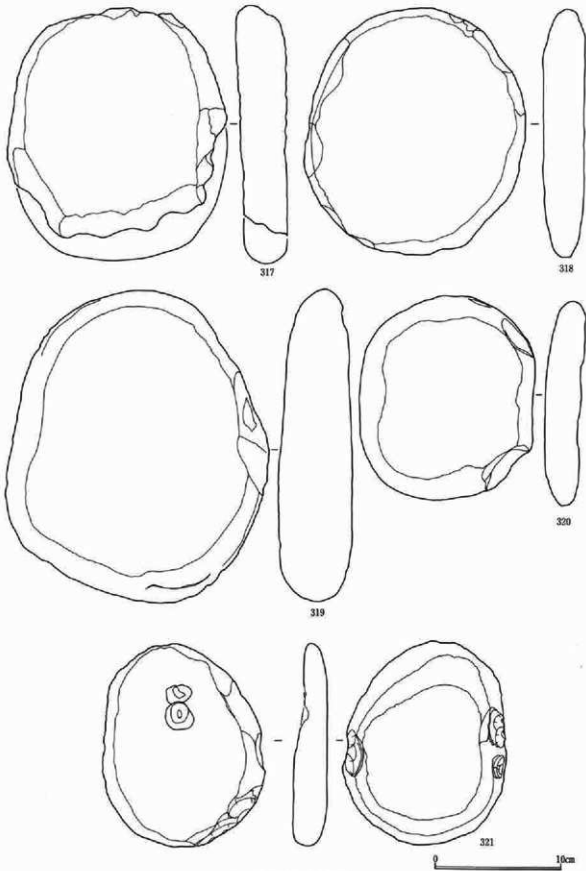
第61図 縄文石器・磨石 3



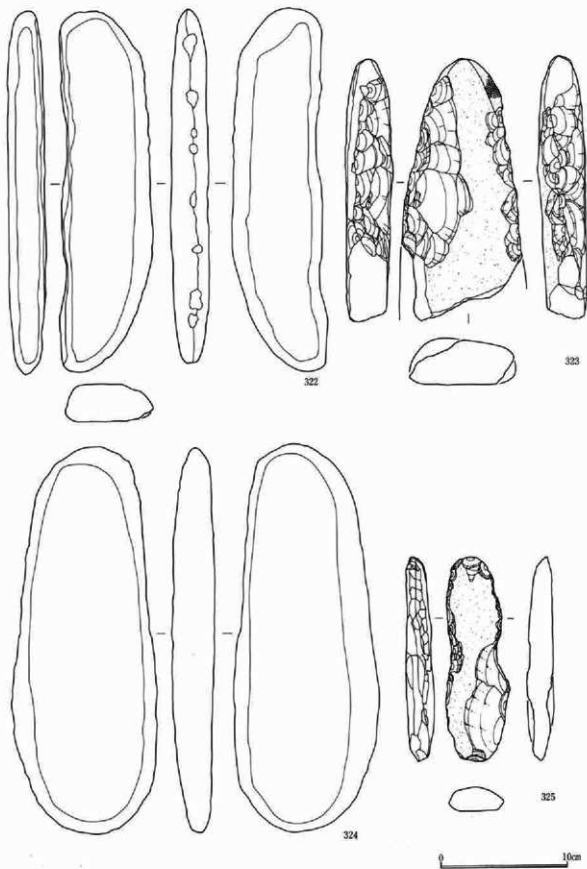
第82図 縄文石器・磨石 4



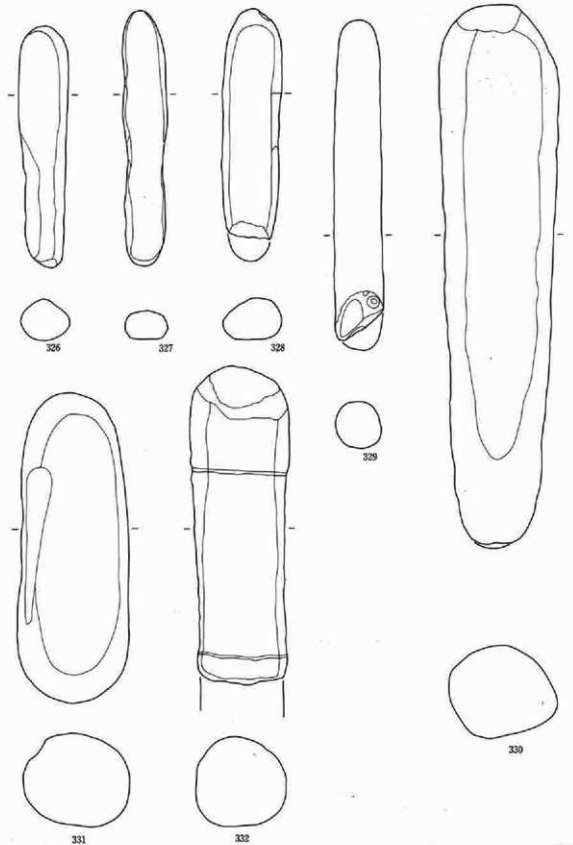
第83図 縄文石器・磨石 5



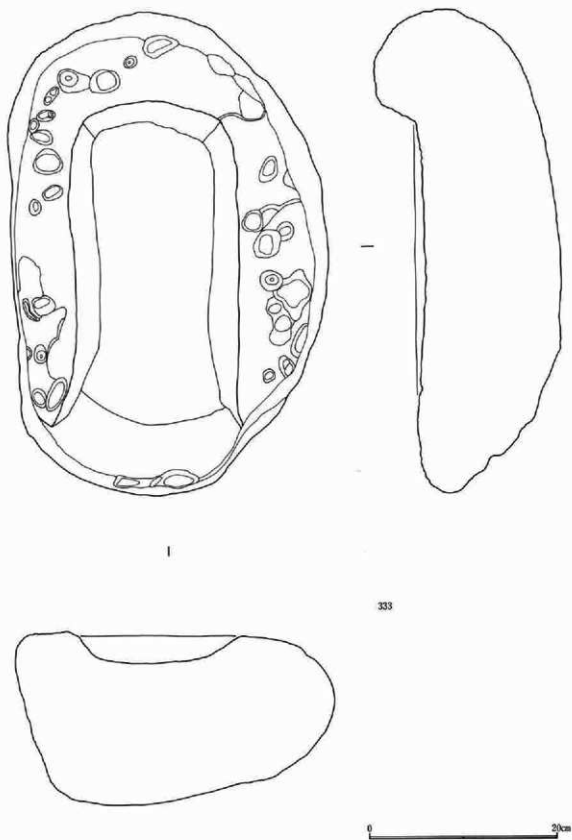
第84図 縄文石器・磨石 6



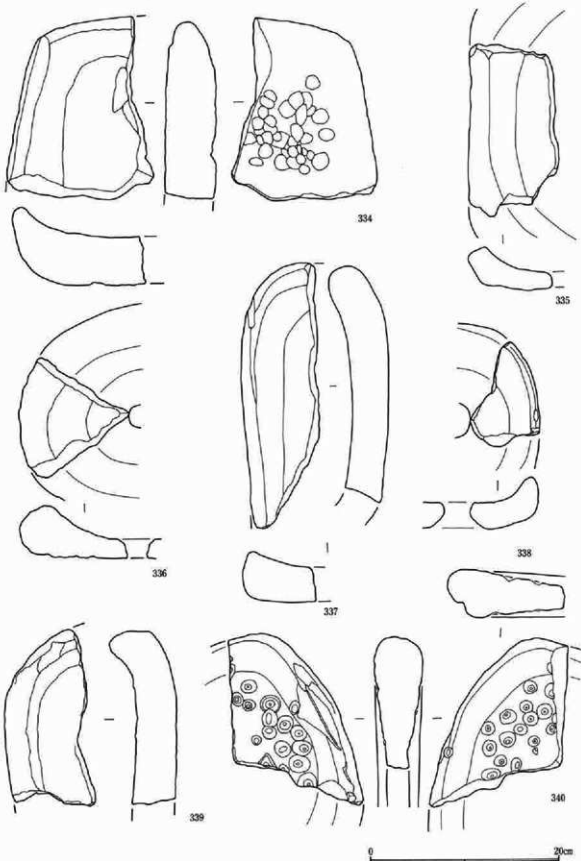
第85図 縄文石器・磨石 7



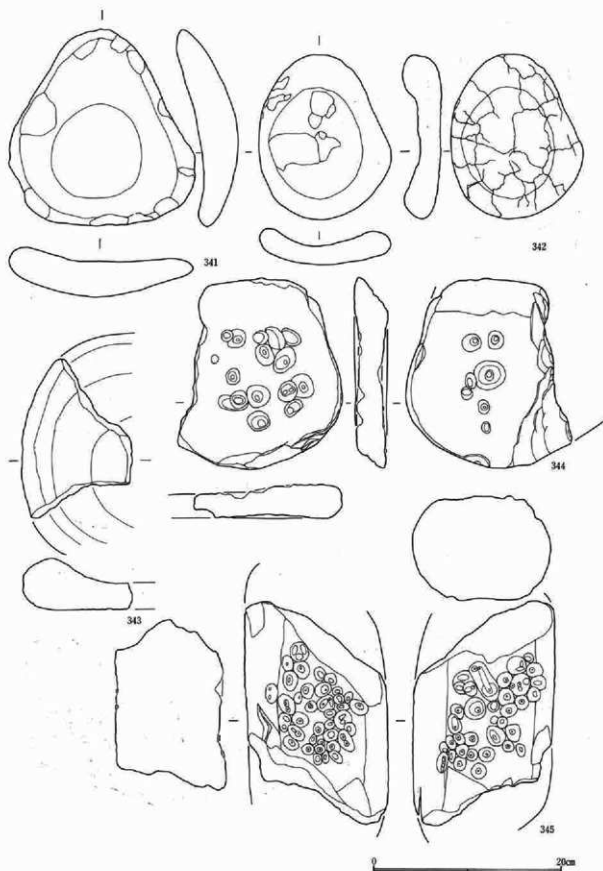
第86図 縄文石器・磨石 8



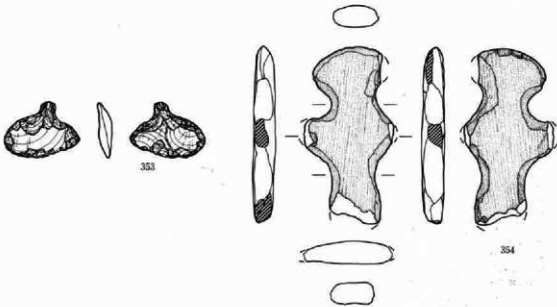
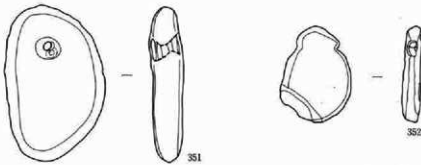
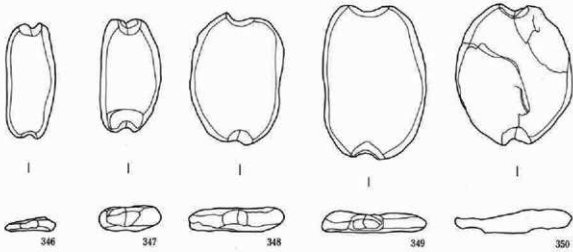
第87図 縄文石器・石皿1



第88圖 縄文石器・石皿2



第89図 縄文石器・石皿3



0 10cm

第90図 縄文石器・石鏝・その他

石巻産産表

No	器 種	長さ	幅	重量	石 材	No	器 種	長さ	幅	重量	石 材
1	石鏝	4.1	2.5	3.84g	チャート	61	打製石斧	10.0	7.3	91g	ホルンフェルス
2	石鏝	2.6	1.6	1.04g	チャート	62	打製石斧	10.1	5.1	123g	硬質泥岩
3	石鏝	2.6	1.8	1.41g	頁岩	63	打製石斧	9.9	5.3	92g	硬質泥岩
4	石鏝	1.1	1.4	0.29g	黒曜石	64	打製石斧	10.3	5.1	85g	硬質泥岩
5	石鏝	1.9	1.4	0.92g	チャート	65	打製石斧	11.3	4.6	112g	頁岩
6	石鏝	2.1	1.2	0.57g	黒曜石	66	打製石斧	10.8	4.4	115g	黒色片岩
7	石鏝	1.5	1.6	0.59g	黒曜石	67	打製石斧	9.9	5.8	131g	安玄武岩
8	石鏝	1.6	1.3	0.46g	黒曜石	68	打製石斧	10.2	4.8	72g	細粒安山岩
9	石鏝	2.0	1.1	0.49g	チャート	69	打製石斧	10.2	5.5	105g	硬質泥岩
10	石鏝	2.5	1.5	1.41g	黒曜石	70	打製石斧	9.5	4.2	73g	硬質泥岩
11	石鏝	2.2	1.2	0.40g	チャート	71	打製石斧	17.5	6.4	216g	黒色片岩
12	石鏝	2.1	1.1	0.82g	チャート	72	打製石斧	12.5	4.6	137g	緑色片岩
13	石鏝	2.0	1.4	0.74g	黒曜石	73	打製石斧	14.4	4.7	178g	硬質泥岩
14	石鏝	2.5	1.8	0.87g	黒曜石	74	打製石斧	13.9	5.2	135g	珪質頁岩
15	石鏝	1.7	1.3	0.56g	黒曜石	75	打製石斧	12.8	4.9	185g	緑色片岩
16	石鏝	(2.3)	1.5	0.79g	黒曜石	76	打製石斧	10.3	4.9	97g	頁岩
17	石鏝	2.2	1.4	0.94g	黒曜石	77	打製石斧	15.4	7.1	446g	硬質泥岩
18	石鏝	1.8	1.2	0.40g	黒曜石	78	打製石斧	10.3	4.0	64g	硬質泥岩
19	石鏝	1.5	1.0	0.18g	黒曜石	79	打製石斧	10.2	4.4	51g	頁岩
20	石鏝	1.5	1.5	0.40g	安山岩	80	打製石斧	10.4	4.8	68g	硬質泥岩
21	石鏝	1.5	(1.5)	0.65g	黒曜石	81	打製石斧	11.9	5.8	108g	頁岩
22	石鏝	(2.0)	(1.0)	0.50g	黒曜石	82	打製石斧	10.6	5.1	78g	硬質泥岩
23	石鏝	2.0	(1.0)	0.56g	黒曜石	83	打製石斧	12.3	9.1	195g	粗粒安山岩
24	石鏝	2.0	0.9	0.44g	黒曜石	84	打製石斧	11.2	4.3	94g	頁岩
25	石鏝	(1.5)	(0.8)	0.30g	黒曜石	85	打製石斧	9.1	6.7	116g	黒色片岩
26	石鏝	1.5	1.3	0.36g	安山岩	86	打製石斧	9.4	4.9	159g	緑色片岩
27	石鏝	(1.5)	2.1	1.27g	黒曜石	87	打製石斧	10.5	7.0	159g	硬質泥岩
28	石鏝	1.4	1.6	0.59g	黒曜石	88	打製石斧	8.4	6.0	106g	硬質泥岩
29	石鏝	1.9	1.3	0.74g	黒曜石	89	打製石斧	9.7	4.4	73g	頁岩
30	石鏝	2.1	1.7	1.35g	黒曜石	90	打製石斧	12.3	5.3	162g	デイスイト
31	石鏝	1.6	1.1	1.23g	黒曜石	91	打製石斧	8.4	5.9	80g	頁岩
32	石鏝	3.0	1.2	1.46g	黒曜石	92	打製石斧	8.4	4.1	61g	赤色地質岩
33	石鏝	2.9	1.2	1.41g	黒曜石	93	打製石斧	9.8	6.0	100g	硬質泥岩
34	石鏝	2.9	1.5	1.90g	黒曜石	94	打製石斧	9.6	4.3	66g	頁岩
35	石鏝	1.2	1.4	0.34g	黒曜石	95	打製石斧	9.1	5.4	71g	黒色頁岩
36	石鏝	2.8	1.8	0.92g	黒曜石	96	打製石斧	(12.0)	(6.4)	179g	硬質泥岩
37	石鏝	2.3	1.8	1.71g	チャート	97	打製石斧	(9.7)	(4.1)	96g	粗粒安山岩
38	石鏝	2.3	1.6	0.61g	黒曜石	98	打製石斧	(10.1)	(5.0)	150g	黒色片岩
39	石鏝	1.8	1.5	0.94g	チャート	99	打製石斧	(9.3)	(4.7)	113g	硬質泥岩
40	石鏝	2.1	1.2	0.61g	黒曜石	100	打製石斧	(7.8)	(5.6)	100g	頁岩
41	石鏝	1.7	1.6	0.83g	黒曜石	101	打製石斧	9.9	(5.0)	98g	珪質頁岩
42	石鏝	(2.2)	1.9	1.33g	チャート	102	打製石斧	(8.5)	(4.4)	74g	硬質泥岩
43	鏝	3.0	1.3	1.94g	黒曜石	103	打製石斧	(10.5)	(5.6)	59g	粗粒安山岩
44	鏝	2.0	1.4	1.23g	黒曜石	104	打製石斧	10.0	4.7	55g	硬質泥岩
45	鏝	2.2	1.0	1.00g	黒曜石	105	打製石斧	(10.3)	4.8	129g	雲母石英片岩
46	打製石斧	14.6	6.9	342g	硬質泥岩	106	打製石斧	(9.9)	4.2	135g	緑色片岩
47	打製石斧	13.9	5.9	260g	砂岩	107	打製石斧	(9.5)	(4.8)	103g	砂岩
48	打製石斧	14.3	6.6	199g	黒色頁岩	108	打製石斧	10.3	5.3	90g	硬質泥岩
49	打製石斧	12.7	5.9	147g	頁岩	109	打製石斧	9.3	4.5	64g	硬質泥岩
50	打製石斧	11.9	4.8	132g	硬質泥岩	110	打製石斧	7.8	3.8	32g	硬質泥岩
51	打製石斧	14.0	7.1	255g	硬質泥岩	111	打製石斧	(9.3)	(3.8)	44g	硬質泥岩
52	打製石斧	13.5	6.1	189g	硬質泥岩	112	打製石斧	8.0	4.5	26g	硬質泥岩
53	打製石斧	10.5	5.1	104g	黒色片岩	113	打製石斧	9.7	5.2	104g	粗粒安山岩
54	打製石斧	10.9	6.4	108g	黒色頁岩	114	打製石斧	7.6	3.2	37g	頁岩
55	打製石斧	10.8	5.4	115g	頁岩	115	打製石斧	7.6	4.5	48g	黒色片岩
56	打製石斧	10.5	6.4	151g	珪質頁岩	116	打製石斧	(6.8)	(3.4)	41g	硬質泥岩
57	打製石斧	11.4	7.0	154g	黒色変岩	117	打製石斧	(7.9)	5.2	74g	硬質泥岩
58	打製石斧	12.0	5.3	101g	硬質泥岩	118	打製石斧	(7.9)	(4.6)	50g	硬質泥岩
59	打製石斧	11.4	4.9	134g	硬質泥岩	119	打製石斧	(11.4)	(5.9)	127g	珪質準片岩
60	打製石斧	12.0	6.2	77g	黒色変岩	120	打製石斧	6.8	4.0	42g	硬質泥岩

No	器 種	長さ	幅	重量	石 材	No	器 種	長さ	幅	重量	石 材
121	打製石斧	(9.0)	(4.9)	95g	硬質泥岩	182	スクレイパー	10.0	8.4	253g	頁岩
122	打製石斧	(7.8)	(4.0)	65g	硬質泥岩	183	スクレイパー	5.5	8.1	103g	硬質泥岩
123	打製石斧	8.2	4.4	61g	硬質泥岩	184	スクレイパー	5.4	7.0	72g	黒色片岩
124	打製石斧	(8.3)	(5.2)	85g	硬質泥岩	185	石核	11.7	12.6	77g	砂岩
125	打製石斧	(7.8)	(3.9)	64g	硬質泥岩	186	石核	11.6	10.7	77g	硬質泥岩
126	打製石斧	(7.4)	(6.0)	151g	硬質泥岩	187	石核	13.8	10.8	970g	硬質泥岩
127	打製石斧	12.4	8.4	294g	黒色片岩	188	石核	11.3	9.4	1132g	安玄武岩
128	打製石斧	15.2	7.9	405g	黒色変岩	189	石核	12.0	14.5	730g	硬質泥岩
129	打製石斧	12.5	6.5	221g	硬質泥岩	190	石核	7.2	7.1	336g	硬質泥岩
130	打製石斧	14.3	6.8	165g	安玄武岩	191	石核	9.4	7.4	270g	硬質泥岩
131	打製石斧	11.8	9.2	308g	硬質頁岩	192	石核	8.0	7.4	257g	硬質泥岩
132	打製石斧	10.4	6.2	112g	頁岩	193	石核	9.8	8.4	260g	硬質泥岩
133	打製石斧	12.9	6.6	214g	硬質泥岩	194	石核	6.9	6.5	228g	硬質泥岩
134	打製石斧	11.1	8.6	170g	黒色変岩	195	石核	8.4	8.9	362g	硬質泥岩
135	打製石斧	10.8	5.5	129g	粗粒安山岩	196	石核	11.8	8.4	416g	硬質泥岩
136	打製石斧	10.3	6.4	194g	硬質泥岩	197	石核	9.4	7.6	293g	硬質泥岩
137	打製石斧	9.8	6.4	100g	黒色変岩	198	石核	11.2	8.6	538g	硬質泥岩
138	打製石斧	11.4	4.9	131g	黒色変岩	199	石核	11.6	9.1	756g	硬質泥岩
139	打製石斧	10.8	5.6	125g	黒色変岩	200	石核	11.0	8.7	402g	硬質泥岩
140	打製石斧	8.6	6.7	110g	硬質泥岩	201	石核	10.7	7.4	452g	硬質泥岩
141	打製石斧	12.6	5.3	190g	硬質泥岩	202	石核	21.7	11.8	1295g	硬質泥岩
142	打製石斧	10.6	7.4	244g	硬質泥岩	203	石核	18.6	14.0	1158g	硬質泥岩
143	打製石斧	10.9	7.8	193g	粗粒石	204	石核	18.0	9.4	538g	硬質泥岩
144	打製石斧	10.6	7.5	178g	硬質泥岩	205	石核	20.2	6.5	306g	緑色片岩
145	打製石斧	10.2	6.8	181g	硬質泥岩	206	石核	13.7	10.7	638g	硬質泥岩
146	スクレイパー	6.1	9.5	90g	硬質泥岩	207	石核	11.2	6.4	294g	硬質泥岩
147	スクレイパー	7.1	11.3	110g	硬質泥岩	208	石核	16.5	10.2	523g	硬質泥岩
148	スクレイパー	7.6	11.7	233g	粗粒安山岩	209	石核	10.5	7.2	366g	硬質泥岩
149	スクレイパー	6.0	9.2	93g	硬質泥岩	210	石核	13.6	10.6	460g	硬質泥岩
150	スクレイパー	6.9	12.1	169g	砂岩質頁岩	211	石核	13.6	10.5	510g	硬質泥岩
151	スクレイパー	8.5	10.0	175g	頁岩	212	石核	13.4	9.1	1191g	安玄武岩
152	スクレイパー	7.5	8.4	66g	砂岩	213	石核	10.9	9.1	296g	粗粒安山岩
153	スクレイパー	5.2	7.8	52g	硬質泥岩	214	石核	10.6	9.7	329g	硬質泥岩
154	スクレイパー	4.9	6.6	48g	硬質泥岩	215	石核	11.7	9.0	359g	硬質泥岩
155	スクレイパー	5.1	6.1	35g	黒色片岩	216	石核	11.1	6.2	292g	硬質泥岩
156	スクレイパー	5.5	6.4	39g	硬質泥岩	217	石核	9.9	8.4	359g	硬質泥岩
157	スクレイパー	5.4	6.6	55g	硬質泥岩	218	石核	11.6	7.7	229g	硬質泥岩
158	スクレイパー	5.6	7.4	49g	硬質泥岩	219	石核	10.2	9.9	441g	硬質泥岩
159	スクレイパー	10.3	9.8	227g	硬質泥岩	220	石核	11.2	9.6	377g	硬質泥岩
160	スクレイパー	8.3	8.7	207g	硬質泥岩	221	石核	10.0	9.2	323g	硬質泥岩
161	スクレイパー	7.6	9.1	200g	硬質泥岩	222	石核	8.3	7.3	178g	硬質泥岩
162	スクレイパー	8.8	8.5	278g	黒色安山岩	223	石核	9.5	8.3	242g	硬質泥岩
163	スクレイパー	7.6	8.7	190g	硬質泥岩	224	石核	7.8	8.2	186g	硬質泥岩
164	スクレイパー	6.9	9.0	116g	硬質泥岩	225	凹石	11.0	8.0	0.7kg	砂岩
165	スクレイパー	7.9	8.0	168g	黒色片岩	226	凹石	11.0	8.0	0.6kg	安玄武岩
166	スクレイパー	7.7	6.7	106g	硬質泥岩	227	凹石	12.0	6.0	0.3kg	雲母石英片岩
167	スクレイパー	7.7	8.7	176g	硬質泥岩	228	凹石	10.0	9.0	0.7kg	粗粒安山岩
168	スクレイパー	8.8	9.8	212g	黒色片岩	229	凹石	11.0	8.0	0.5kg	粗粒安山岩
169	スクレイパー	6.2	7.0	78g	硬質泥岩	230	凹石	13.0	6.0	0.4kg	緑色片岩
170	スクレイパー	6.1	7.3	65g	頁岩	231	凹石	10.0	9.0	0.9kg	安玄武岩
171	スクレイパー	6.3	5.0	85g	点紋頁岩	232	凹石	10.0	9.0	0.8kg	石英閃緑岩
172	スクレイパー	6.5	7.0	74g	頁岩	233	凹石	16.0	8.0	0.4kg	緑色片岩
173	スクレイパー	7.0	7.6	133g	硬質泥岩	234	凹石	14.0	8.0	0.9kg	粗粒安山岩
174	スクレイパー	6.7	8.0	127g	硬質泥岩	235	凹石	13.0	8.0	0.5kg	黒色片岩
175	スクレイパー	8.3	6.3	127g	硬質泥岩	236	凹石	13.0	8.0	0.6kg	デイサイト岩
176	スクレイパー	5.9	7.2	80g	硬質泥岩	237	凹石	11.0	8.0	0.6kg	デイサイト岩
177	スクレイパー	8.0	9.3	135g	硬質泥岩	238	凹石	11.0	6.0	0.5kg	粗粒安山岩
178	スクレイパー	5.2	7.2	89g	硬質泥岩	239	凹石	17.0	5.0	0.5kg	緑色片岩
179	スクレイパー	5.5	6.5	57g	硬質泥岩	240	凹石	15.0	6.0	0.4kg	緑色片岩
180	スクレイパー	7.0	8.7	97g	硬質泥岩	241	凹石	10.0	9.0	0.5kg	閃緑岩
181	スクレイパー	6.9	10.5	123g	硬質泥岩	242	凹石	8.0	7.0	0.3kg	粗粒安山岩

第二章 1区 上栗須部産

No.	器 種	長さ	幅	重量	石 材	No.	器 種	長さ	幅	重量	石 材
243	四石	15.0	6.0	0.35g	実玄武岩	304	磨石	13.0	6.0	0.25g	実貫安山岩
244	四石	12.0	5.0	0.5kg	実輝緑岩	305	砥石	11.0	5.0	0.25g	緑色片岩
245	四石	12.0	5.0	0.4kg	粗粒安山岩	306	磨石	15.0	11.0	0.6kg	実玄武岩
246	四石	15.0	7.0	0.6kg	緑色片岩	307	砥石	13.0	7.0	0.25g	緑色片岩
247	四石	10.0	7.0	0.5kg	粗粒安山岩	308	砥石	16.0	5.0	0.4kg	実玄武岩
248	四石	12.0	7.0	0.3kg	黒色片岩	309	磨石	18.8	10.5	1.5kg	砂岩
249	四石	12.0	8.0	0.6kg	粗粒安山岩	310	磨石	11.0	11.0	1.1kg	砂岩
250	四石	20.0	8.0	0.6kg	黒色片岩	311	磨石	12.0	10.0	1.0kg	粗粒安山岩
251	四石	14.0	4.0	0.3kg	緑色片岩	312	磨石	8.0	5.0	0.5kg	粗粒安山岩
252	四石	12.0	7.0	0.2kg	デイサイト岩	313	磨石	13.0	6.0	0.7kg	流紋岩
253	四石	18.0	6.0	0.7kg	雲母石英片岩	314	磨石	11.0	7.0	0.7kg	粗粒安山岩
254	四石	12.0	7.0	0.6kg	緑色片岩	315	磨石	13.0	9.0	1.0kg	粗粒安山岩
255	四石	10.0	7.0	0.3kg	黒色片岩	316	磨石	12.0	9.0	0.6kg	デイサイト岩
256	四石	10.0	8.0	0.5kg	粗粒安山岩	317	磨石	18.0	17.0	2.2kg	実玄武岩
257	四石	10.0	6.0	0.4kg	緑色片岩	318	磨石	19.0	18.0	2.0kg	緑色片岩
258	四石	11.0	8.0	0.6kg	粗粒安山岩	319	磨石	26.0	22.0	5.0kg	粗粒安山岩
259	四石	11.0	7.0	0.5kg	粗粒安山岩	320	磨石	16.0	14.0	1.0kg	デイサイト岩
260	四石	9.0	9.0	0.4kg	粗粒安山岩	321	磨石	16.0	13.0	0.6kg	実貫安山岩
261	四石	10.0	7.0	0.3kg	デイサイト岩	322	磨石	29.0	7.0	1.1kg	雲母石英片岩
262	四石	12.4	8.2	0.6kg	粗粒安山岩	323	磨石	21.0	9.0	1.0kg	実玄武岩
263	四石	11.0	9.0	0.4kg	デイサイト岩	324	磨石	31.0	12.0	2.0kg	雲母石英片岩
264	四石	8.0	6.0	0.4kg	粗粒安山岩	325	磨石	16.0	5.0	0.2kg	緑色片岩
265	四石	11.0	9.0	0.6kg	粗粒安山岩	326	石棒	12.0	2.0	0.1kg	緑色片岩
266	四石	16.0	8.0	0.4kg	緑色片岩	327	石棒	14.0	3.0	0.1kg	緑色片岩
267	四石	14.0	10.0	0.9kg	粗粒安山岩	328	石棒	12.0	3.0	0.1kg	緑色片岩
268	磨石	8.0	7.0	0.5kg	粗粒安山岩	329	石棒	17.0	3.0	0.2kg	緑色片岩
269	磨石	9.0	8.0	0.8kg	粗粒安山岩	330	石棒	29.0	7.0	1.4kg	雲母石英片岩
270	磨石	8.0	7.0	0.6kg	粗粒安山岩	331	石棒	16.0	6.0	0.8kg	雲母石英片岩
271	磨石	10.0	9.0	0.9kg	粗粒安山岩	332	石棒	17.0	5.0	0.7kg	緑色片岩
272	磨石	12.5	9.5	1.3kg	ヒン岩	333	石皿	51.0	25.0	33.7kg	粗粒安山岩
273	磨石	11.0	10.0	1.2kg	粗粒安山岩	334	石皿	20.0	16.0	2.3kg	粗粒安山岩
274	磨石	15.0	12.0	2.4kg	デイサイト岩	335	石皿	18.0	10.0	1.0kg	緑色片岩
275	磨石	11.0	9.0	0.5kg	デイサイト岩	336	石皿	13.0	12.0	0.6kg	粗粒安山岩
276	磨石	10.0	6.0	0.4kg	雲母石英片岩	337	石皿	28.0	8.0	2.1kg	緑色片岩
277	磨石	9.0	7.0	0.4kg	粗粒安山岩	338	石皿	11.0	7.0	2.0kg	粗粒安山岩
278	磨石	8.0	7.0	0.4kg	実玄武岩	339	石皿	20.0	9.0	1.4kg	粗粒安山岩
279	磨石	9.0	7.0	0.3kg	粗粒安山岩	340	石皿	20.0	15.0	1.0kg	緑色片岩
280	磨石	7.0	7.0	0.3kg	粗粒安山岩	341	石皿	22.0	20.0	2.4kg	粗粒安山岩
281	磨石	8.0	6.0	0.2kg	デイサイト岩	342	石皿	18.0	15.0	1.3kg	粗粒安山岩
282	磨石	8.0	6.0	0.3kg	砂岩	343	石皿	12.0	11.0	0.6kg	粗粒安山岩
283	磨石	7.0	6.0	0.2kg	粗粒安山岩	344	石皿	22.0	17.0	1.8kg	黒色片岩
284	磨石	10.7	8.7	0.5kg	流紋岩	345	多孔石	29.0	15.0	5.6kg	緑色片岩
285	磨石	10.0	9.0	0.5kg	粗粒安山岩	346	石鉢	6.0	3.0	20g	緑色片岩
286	磨石	10.0	8.0	0.5kg	粗粒安山岩	347	石鉢	6.0	3.0	46g	緑色片岩
287	磨石	9.0	8.0	0.5kg	粗粒安山岩	348	石鉢	7.0	5.0	68g	実玄武岩
288	磨石	8.0	8.0	0.3kg	粗粒安山岩	349	石鉢	8.0	6.0	76g	緑色片岩
289	磨石	10.0	8.0	0.6kg	粗粒安山岩	350	石鉢	7.4	6.0	68g	実玄武岩
290	磨製石斧	18.5	7.0	0.6kg	実玄武岩	351	石製品	8.0	5.5	80g	砂岩
291	磨製石斧	13.0	6.0	0.3kg	実玄武岩	352	石製品	6.0	3.0	22g	緑色片岩
292	磨製石斧	9.0	5.0	0.25kg	実玄武岩	353	石匙	4.4	6.0	20g	黒色片岩
293	磨製石斧	9.0	5.0	0.2kg	実玄武岩	354	石製品	13.9	7.2	229g	雲母石英片岩
294	磨製石斧	8.0	10.5	0.6kg	実玄武岩						
295	磨製石斧	8.0	5.0	0.1kg	実玄武岩						
296	磨製石斧	10.0	5.0	0.2kg	実玄武岩						
297	磨製石斧	9.0	5.0	0.1kg	実玄武岩						
298	磨石	11.0	8.0	0.3kg	デイサイト岩						
299	磨石	9.0	8.0	0.2kg	デイサイト岩						
300	磨石	11.0	10.0	0.5kg	粗粒安山岩						
301	磨石	10.0	3.0	0.5kg	デイサイト岩						
302	磨石	10.0	7.0	0.2kg	粗粒安山岩						
303	磨石	12.0	10.0	0.5kg	粗粒安山岩						

E 古代住居址

1号住居は、1号B河道、1号C河道と2号河道に住居の東側の上面を削られるように出土している。1区発掘区の南端に、7号住居とともに2軒だけ離れて位置する。1号住居の竈は北西壁の中央に付設され、他の同時期の竈の付設位置と異なる。1号住居の北北西17mの距離に7号住居が位置する。1号住居とともに離れて位置する7号住居は、北東壁の右寄りに竈が位置する。北にまとまって出土する住居群のうち、一番近い16号住居でも北北東40mの位置と離れている。

住居の集中する範囲は発掘区の南寄りである。北東から南西を長軸に55m、北西から南東を短軸に30m、面積約1,650㎡に17軒の住居が検出されている。

住居のうち、遺構全体を把握できないものは以下の通りである。2号住居の竈が8号住居に重複する。5号住居の北西壁は発掘区域外となっている。9号住居は10号住居と重複し、竈部分などの構造は不明である。17号住居と18号住居は2号河道によって切られており、竈の存在は確認されていない。20号住居は発掘区の東端に位置し、竈の存在は確認できていない。

出土の遺物から、22号住居だけが10世紀と時代が下がる。その他の住居は7世紀後半を中心とした時期である。

住居の構造をみると、竈の付設位置は東壁で、壁の右寄りが多い。平面形態は、方形に近いものを主体に竈の壁を天に置くと、縦長の住居は11号住居、13号住居、21号住居などである。横長の平面形の住居は8号住居、10号住居、14号住居、19号住居などに代表される。

住居の規模から、大型の住居は16号住居、18号住居である。中型の住居は2号住居、10号住居、12号住居である。小型の住居は8号住居、9号住居、11号住居、13号住居、14号住居、15号住居、19号住居、20号住居、21号住居である。

発掘区の中で7世紀代の遺構は、2軒の離れて存在する住居と、16軒の近接して検出された住居群に分類された。平面的な観察で考えを進めると、この2つの分布の間の掘立柱建物と櫛列と竈を同時存在としよう。1号B河道によって北東部分が削られ、L字形の櫛列が走り連続するその中に、2号掘立柱建物が検出されている。さらに、同じ走行で1号掘立柱建物、3号掘立柱建物が位置する。それらの建物の間を埋めるように、走行を同じにして直交し合う竈が検出されている。棚に囲まれた掘立柱建物に付属の掘立柱建物群、生産に関する竈、そして、竈穴住居群、これらが7世紀代の集落を構成する基本的な姿であったと考えられる。

1区1号住居址

遺構 (挿図番号第91図 写真番号P L-27)

本住居址はN 3・66, 67, 77グリッドで検出され、北西17.0mに7号住居址が位置する。

規模は長軸4.16m・短軸3.48m、面積13.56㎡である。主軸方位はN-43°-Wを示している。

竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は62cm、竈幅は47cm、燃焼部長さは13cm、焚き口幅は20cm、煙道部長さは49cm、煙道部幅は29cmである。竈前面に焼土が残り、その周囲に灰層が半径1.5m程に広がる。

遺物 (挿図番号第125図)

出土位置を記録したものは土器116点、石材13点である。

土師器で長頸の中型品(1)である。短い口縁が緩く曲がり、直線的胴部にいたる体部外面は縦方向のヘラケズリを残す。土師器の境の小型品(2)が出土している。底部は欠損している。

1区2号住居址

遺構 (挿図番号第92～95図 写真番号P L-27)

本住居址はN2・56, 57, 66グリッドで検出され、北5.5mに8号住居址、東7.0mに18号住居址が位置する。東側の18号住居址に電煙道部が切られている。

住居の規模は長軸5.30m・短軸4.72m、面積21.65m²である。主軸方位はN-75°-Eを示している。

電の残存状態は極めて良好で、長甕が電にかかったまま、天井石が前方に飛んでいるような感触を受けた。

電は東壁の右寄りに付設され、電全長は190cm、電幅は103cm、燃焼部長さは45cm、焚き口幅は40cm、煙道部長さは145cm、煙道部幅は23cmである。電の石組みが出土しているが(挿図第93図)、石材は全てアイサイト凝灰岩である。天井石1点と左右袖石各1点が出土している。天井石寸法は全長73cm、幅20.2cm、厚さ15.3cmである。前面に2.4cm×4.0cmの段状のえぐりが入る。右袖石の寸法は長さ32.5cm、幅15.7cm、厚さ9.5cmで上部は加熱で崩れてやせていて、大きく2つに割れている。左袖石の寸法は長さ34cm、幅18cm、厚さ9.6cmである。上半は煤が付着し、電の灰の掻き出し部と考えられる部分に欠損が激しい。この3点を組み立てて復元を試みると、焚き口幅は約54cm、焚き口高さは約27cmと考えられる。

貯蔵穴は長径90cm・短径70cm、深さ15cmである。P1は長径39cm・短径37cm、深さ38cmである。

遺物 (挿図番号第126図)

出土位置を記録したものは土器123点、石材167点である。

土器器で丸甕の小型品(3)は、やや長胴気味で底部を欠く。土器器の台付甕(4)は体部を欠く。土器器の長甕の中型品(5)が出土している。完形品で、「く」の字状に開く口縁の先端は丸くおさめる。須恵器で壺の小型品(6)が出土している。内面は焼成時に胎土の歪みが生じて膨らむ。土器器で埴の小型品(7)、長甕の中型品(8)が出土している。

1区5号住居址

遺構 (挿図番号第96図)

本住居址はN2・65グリッドで検出され、南10.5mに6号住居址、北東12.0mに2号住居址が位置する。

発掘区の西壁に切られ、南東から曲がって来る1号B河道に北側が切られ、電と北東壁周辺の調査ができただけである。遺物の散布は全体に及び、床面付近に集中しまばらである。住居全体に長方形の河原石が多量に出土している。住居床面の南半分は全体に煤が広がり、部分的に焼土もみられる。

電は東壁の右寄りに付設される。電全長は150cm、電幅は110cm、燃焼部長さは35cm、焚き口幅は40cm、煙道部長さは115cm、煙道部幅は30cmである。

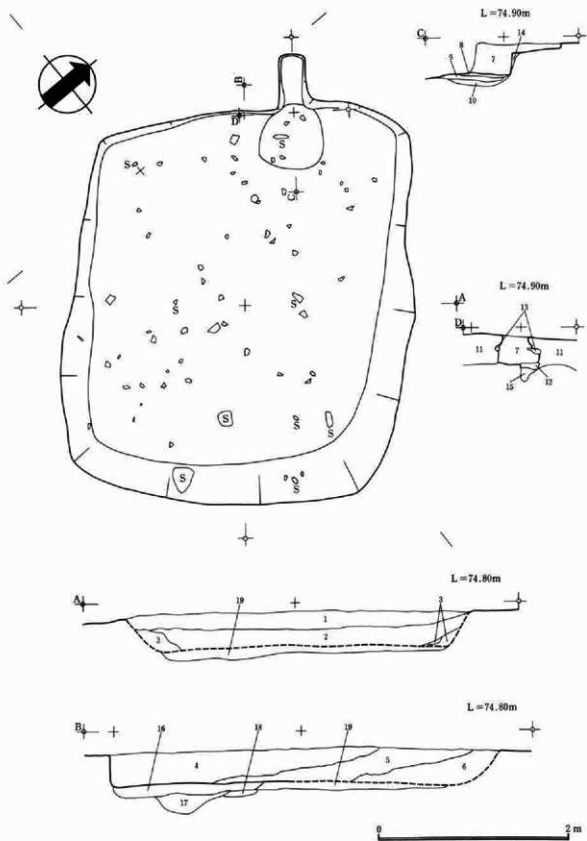
P1は長径30cm・短径25cm、深さは不明である。

遺物 (挿図番号第126図)

出土位置を記録したものは土器58点、石材19点である。

土器器で埴の小型品(9)が出土している。炭化物あり。

1 遺 跡

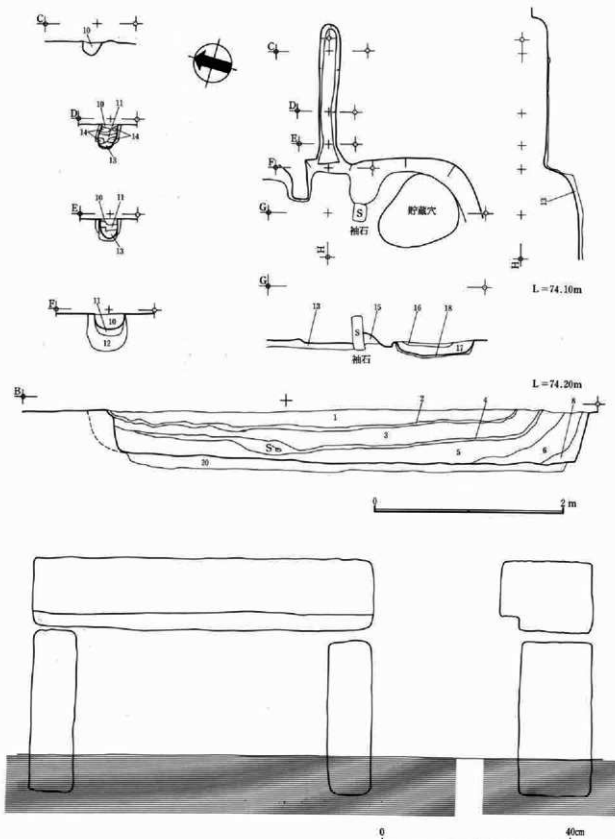


第91图 1区1号住居址

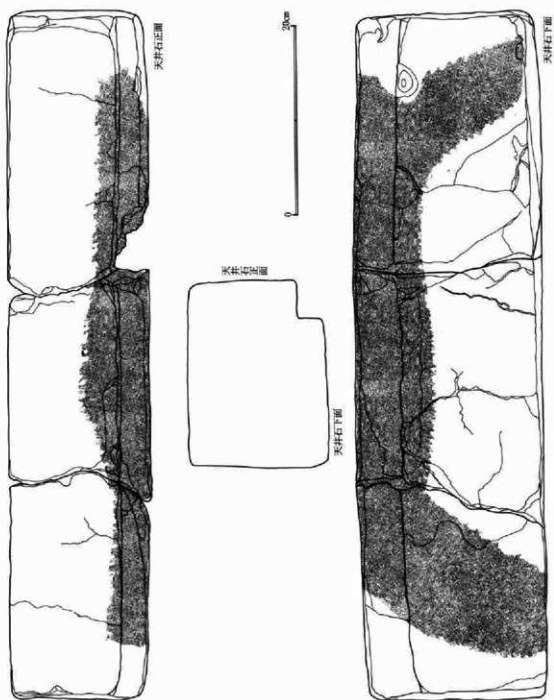


第92図 1区2号住居址

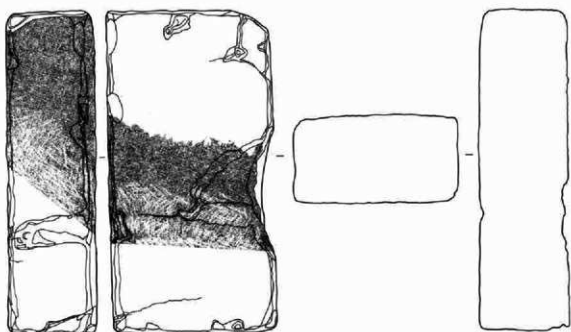
1 遺跡



第93図 1区2号住居址(竈)

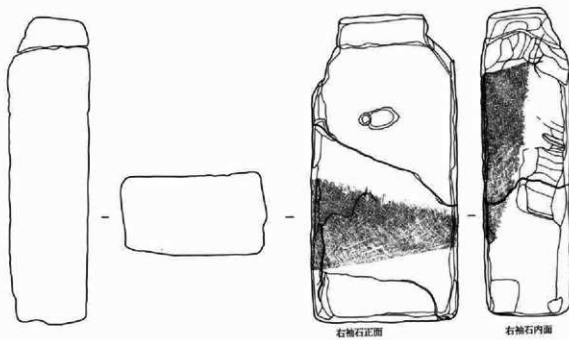


第94图 1区2号住居址(庵石組1)



左袖石正面

左袖石内面

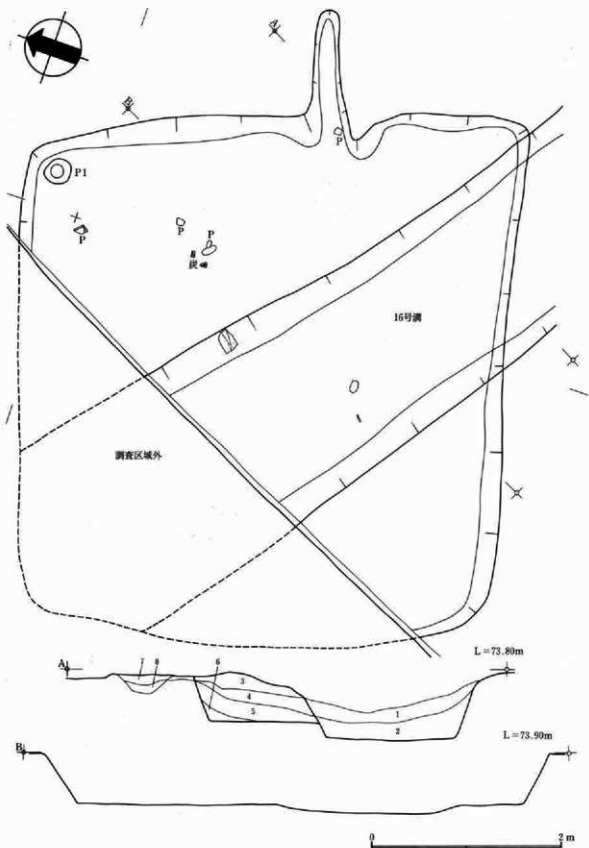


右袖石正面

右袖石内面

0 20cm

第95图 1区2号住居址(甕石組2)



第96图 1区5号住居址

1区7号住居址

遺構 (挿図番号第97図 写真番号P L-28)

本住居址はN 3・35, 36, 45, 46グリッドで検出され、南東17.0mに1号住居址が位置する。規模は長軸4.02m(推定)・短軸3.40m(推定)、面積12.29m²(推定)である。主軸方位はN-42°-W(推定)を示している。

竈は北西壁の右寄りに付設される。竈全長は185cm、電幅は145cm、燃焼部長さは75cm、焚き口幅は45cm、煙道部長さは110cm、煙道部幅は20cmである。

遺物 (挿図番号第126図)

出土位置を記録したものは土器186点、石材52点である。

土師器で埴の小型品(10)が出土している。鉄製の刀子の残片3点が出土している。断面は楔状を呈し、刀身部と考えられる。

1区8号住居址

遺構 (挿図番号第98図 写真番号P L-28)

本住居址はN 2・46, 47, 56グリッドで検出され、北東6.5m 9・10号住居址、南東6.5mに18号住居址、南5.5mに2号住居址が位置する。

規模は長軸3.72m・短軸3.46m、面積10.68m²である。主軸方位はN-13°-Wを示している。

竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は105cm、電幅は88cm、燃焼部長さは65cm、焚き口幅は40cm、煙道部長さは40cm、煙道部幅は23cmである。

P 1は長径80cm・短径78cm、深さ12cm、P 2は長径85cm・短径70cm、深さ12cmである。

遺物 (挿図番号第127図)

出土位置を記録したものは土器59点、石材36点である。

須恵器の蓋で宝珠部分が欠失しているが、内面に高い反りを残し、古式の様相を呈した径10cmの小型品(11)が出土している。

1区9・10号住居址

遺構 (挿図番号第99・100図 写真番号P L-28)

本住居址はN 2・37, 47グリッドで検出され、南西6.5~8.0mに8号住居址、南9.0~9.5mに18号住居址が位置する。

9号住居規模は長軸2.62m・短軸2.58m、面積6.48m²である。主軸方位はN-23°-Wを示している。10号住居規模は長軸5.82m・短軸4.76m、面積22.56m²である。主軸方位はN-26°-Wを示している。

10号住居竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は103cm、電幅は150cm、焚き口幅は40cmである。

10号住居貯蔵穴は長径73cm・短径60cm、深さ67cmである。P 1は長径79cm・短径58cm、深さ60cm、P 2は長径70cm・短径53cm、深さ51cm、P 3は長径61cm・短径46cm、深さ77cm、P 4は長径46cm・短径42cm、深さ11cm、P 5は長径56cm・短径37cm、深さ43cm、P 6は長径44cm・短径24cm、深さ67cmである。

遺物 (挿図番号第127図)

出土位置を記録したものは、9号住居は土器37点、石材26点で、10号住居は土器110点、石材69点である。

9号住居炭化物あり。10号住居から土師器で埴の小型品(12)が出土している。

第II章 1区 上栗須築師裏

1区11号住居址

遺構 (挿図番号第101図 写真番号P L-29)

本住居址はN 2・28グリッドで検出され、南東9.5mに21号住居址が位置する。

規模は長軸2.88m・短軸2.42m、面積6.73m²である。主軸方位はN-74°-Eを示している。

竈は東壁の中央に付設される。竈全長は183cm、電幅は94cm、燃焼部長さは62cm、焚き口幅は33cm、煙道部長さは121cm、煙道部幅は25cmである。

P 1は長径47cm・短径44cm、深さ22cmである。

遺物 (挿図番号第127図)

出土位置を記録したものは土器147点、石材32点である。

土器器で埴の小型品(13)、(14)、長壺の中型品(15)が出土している。直立する壺の胴部と短く外反する口縁部が特徴的である。2点の鉄製品が出土している。1点は刀子と考えられ、断面は楔形を呈する。錆が多く小片である。他の1点は鉄滓で約5gの小片である。

1区12号住居址

遺構 (挿図番号第102図 写真番号P L-29)

本住居址はN 2・09、19グリッドで検出され、南東7.0mに13号住居址、北東7.0mに14号住居址、北西6.5mに19号住居址が位置する。

規模は長軸5.00m・短軸4.58m、面積18.87m²である。主軸方位はN-69°-Eを示している。

竈は東壁の中央に付設される。竈全長は125cm、電幅は123cm、燃焼部長さは80cm、焚き口幅は38cm、煙道部長さは45cm、煙道部幅は43cmである。

貯蔵穴は長径75cm・短径55cm、深さ15cmである。P 1は長径58cm・短径53cm、深さ17cmである。

遺物 (挿図番号第127図)

出土位置を記録したものは土器397点、石材121点である。

土器器で壺の小型品(16)、埴の小型品(17)、(18)が出土している。須恵器で無蓋高台坏(19)が出土している。腰の強く張ったどっしりとした作風で、高台部があったと考えた。古式の坏である。焼土・砥石・磨製石礫あり。

1区13号住居址

遺構 (挿図番号第103図 写真番号P L-30)

本住居址はN 2・29、O 2・20グリッドで検出され、北西7.0mに12号住居址、東8.0mに20号住居址が位置する。

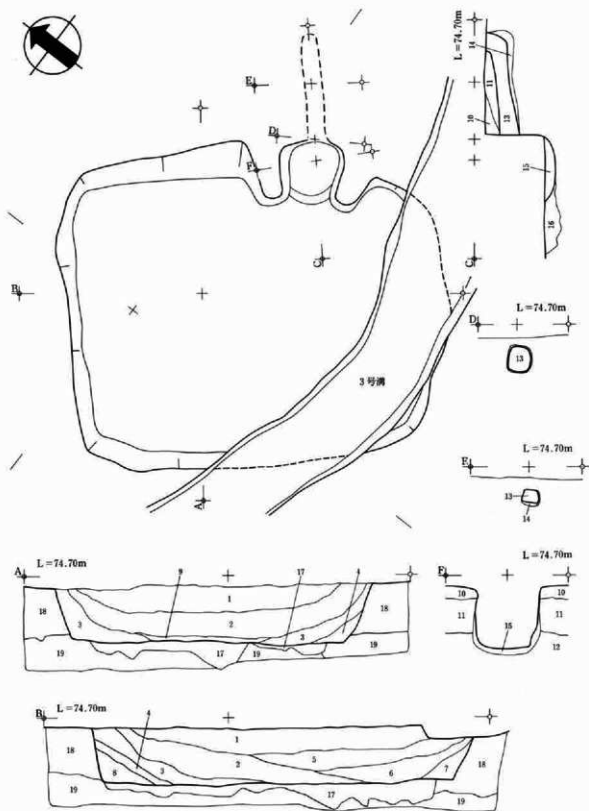
規模は長軸3.04m・短軸2.72m、面積7.90m²である。主軸方位はN-41°-Eを示している。

竈は東壁の中央に付設される。竈全長は95cm、電幅は80cm、焚き口幅は45cmである。

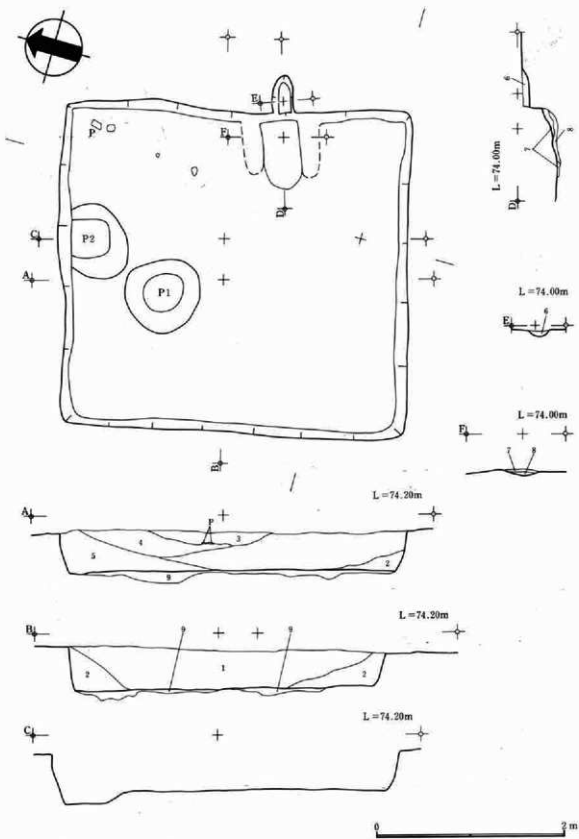
遺物 (挿図番号第127図)

出土位置を記録したものは土器137点、石材51点である。

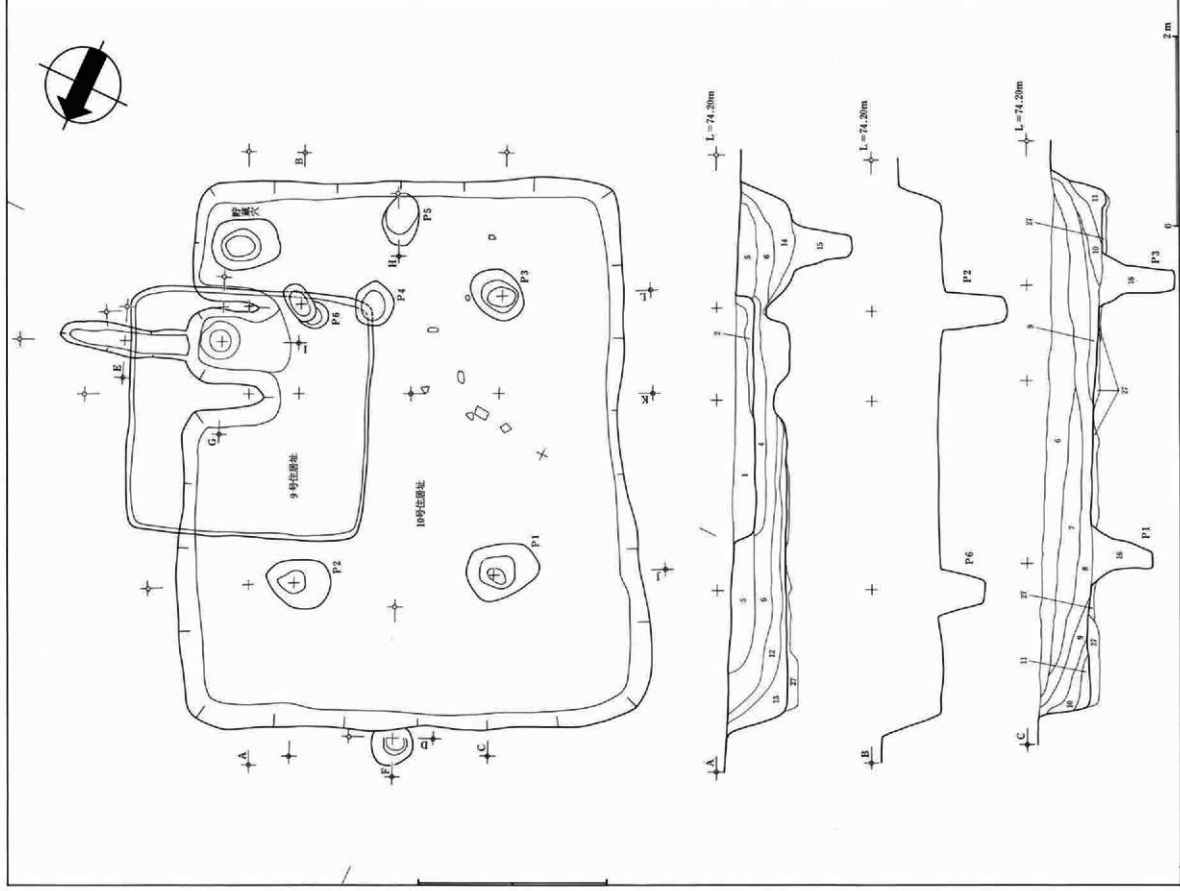
土器器で長壺の大型品(20)が出土している。須恵器で有蓋高台坏の蓋部の大型品(21)、蓋の小型品(22)、(23)、坏(24)が出土している。土器器で埴の小型品(25)、(26)、(27)、(28)、(29)、(30)、(31)が出土している。



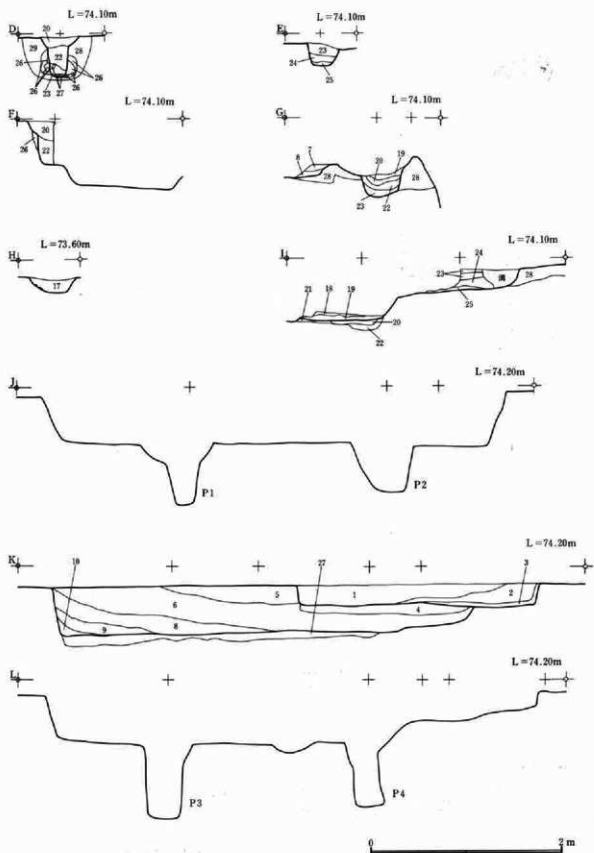
第97図 1区7号住居址



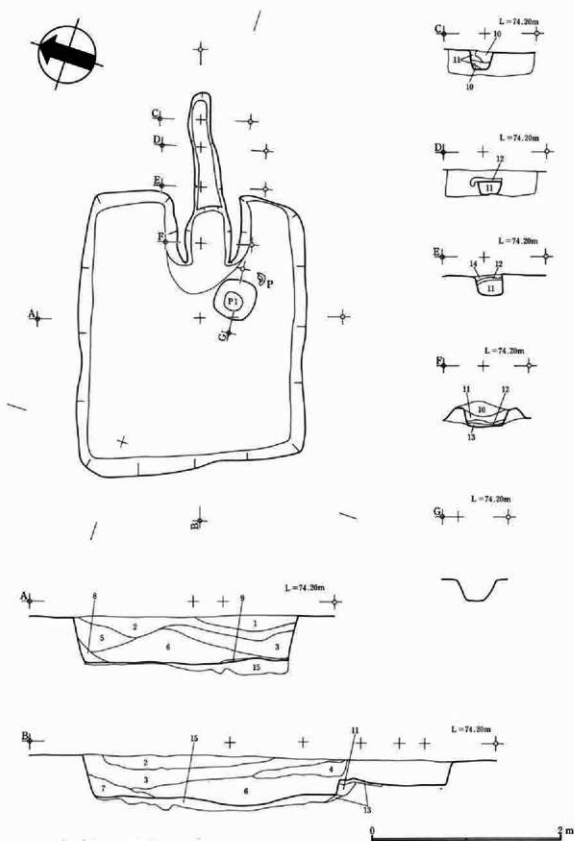
第98图 1区8号住居址



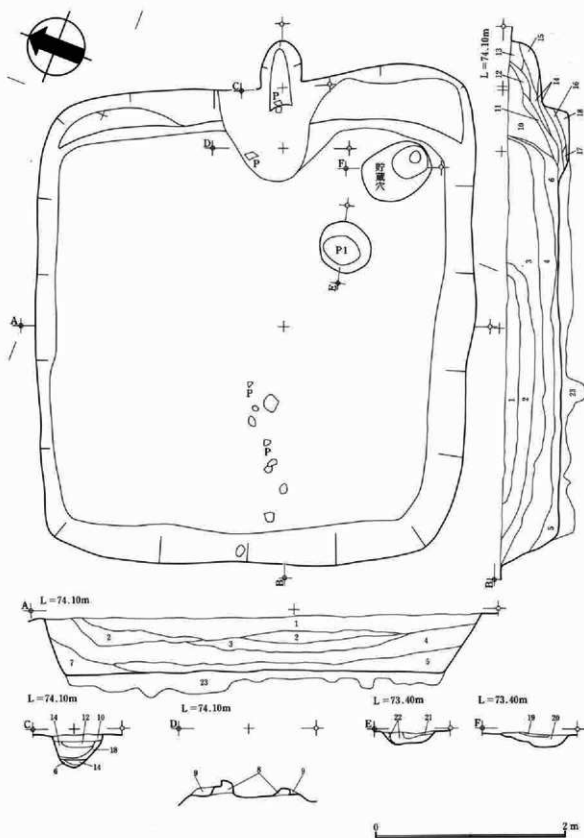
附件图 1区9·10号位遗址



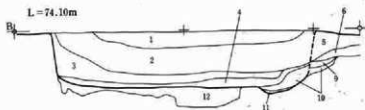
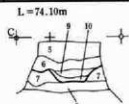
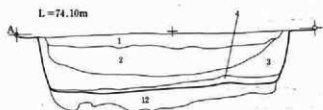
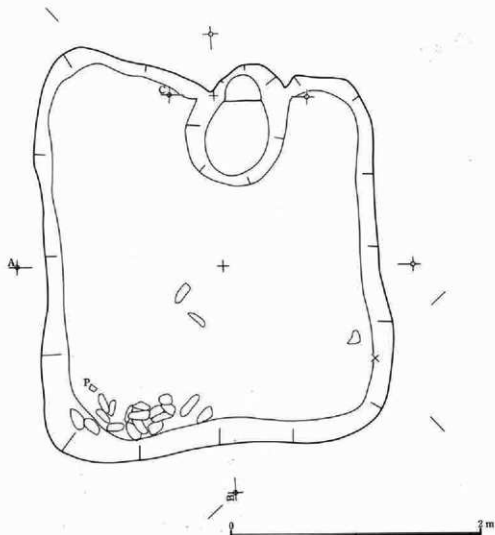
第100图 1区9・10号住居址



第101图 1区11号住居址



第102図 1区12号住居址



第103图 1区13号住居址

1区14号住居址

遺構 (挿図番号第104図 写真番号P L-30)

本住居址はN 2・09, O 2・00グリッドで検出され、南西7.0mに12号住居址、北9.0mに22号住居址が位置する。

規模は長軸3.40m・短軸2.66m、面積8.71㎡である。主軸方位はN-36°-Wを示している。

竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は110cm、竈幅は72cm、燃焼部長さは40cm、焚き口幅は60cm、煙道部長さは70cm、煙道部幅は20cmである。

遺物 (挿図番号第128図)

出土位置を記録したものは土器41点、石材11点である。

土師器で埴の小型品(32), (33), (34), 小型甕(35)が出土している。32の埴は中型のもので、胴部外面を全体的にヘラケズリし、短い口縁部は内湾する。

1区15号住居址

遺構 (挿図番号第105図 写真番号P L-31)

本住居址はN 2・49, 59グリッドで検出され、西5.5mに17号住居址が位置する。

規模は長軸4.14m・短軸3.84m、面積15.58㎡である。主軸方位はN-88°-Eである。

竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は65cm、竈幅は75cmである。

P 1は長径100cm・短径100cm、深さ33cmである。

遺物 (挿図番号第128図)

出土位置を記録したものは土器35点、石材13点である。

土師器で埴の小型品(36), (37)が出土している。須恵器で甕の大型品(38)が出土している。

1区16号住居址

遺構 (挿図番号第106・107図 写真番号P L-31)

本住居址はN 2・76, 77グリッドで検出され、北12.0mに2号住居址、北西15.0mに5号住居址が位置する。

規模は長軸6.84m(推定)・短軸6.14m(推定)、面積22.44㎡(推定)である。主軸方位はN-86°-E(推定)を示している。

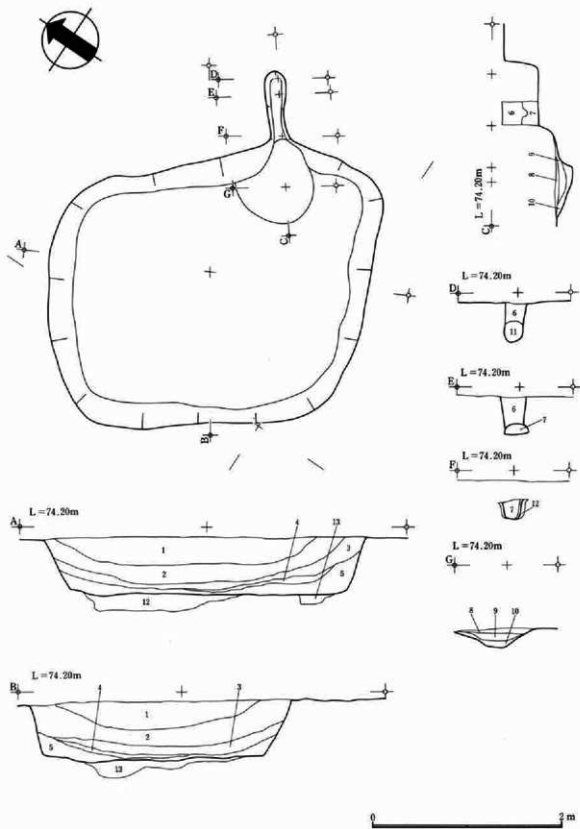
竈は2基確認された。新しい竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は206cm、竈幅は134cm、燃焼部長さは80cm、焚き口幅は57cm、煙道部長さは112cm、煙道部幅は25cmである。古い竈は東壁の中央に付設される。煙道部長さは120cm、煙道部幅は35cmである。

貯蔵穴(P 5)は長径80cm・短径80cm、深さ67cmである。P 1は長径50cm・短径45cm、深さ15cm、P 2は長径120cm・短径100cm、深さ25cm、P 3は長径75cm・短径65cm、深さ11cm、P 4は長径72cm・短径53cm、深さ11cm、P 6は長径122cm・短径120cm、深さ22cm、P 7は長径114cm・短径92cm、深さ23cmである。

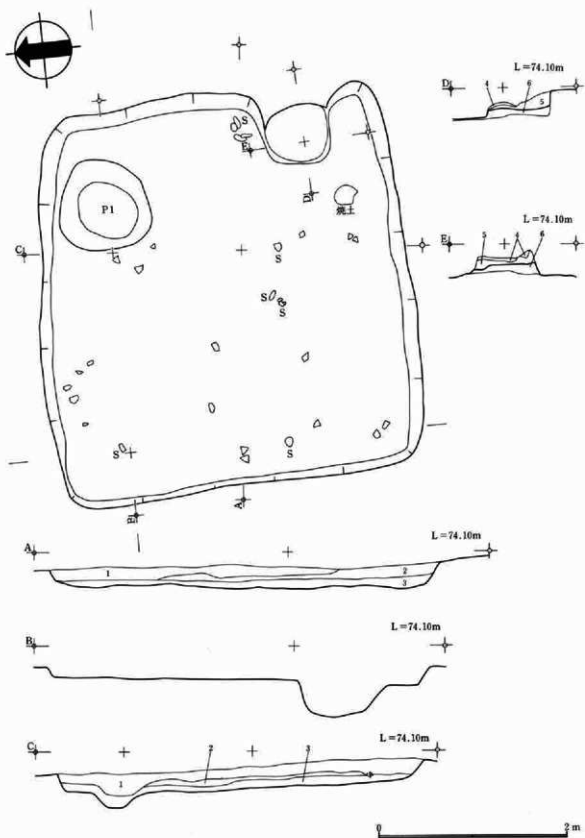
遺物 (挿図番号第128図)

出土位置を記録したものは土器144点、石材59点である。

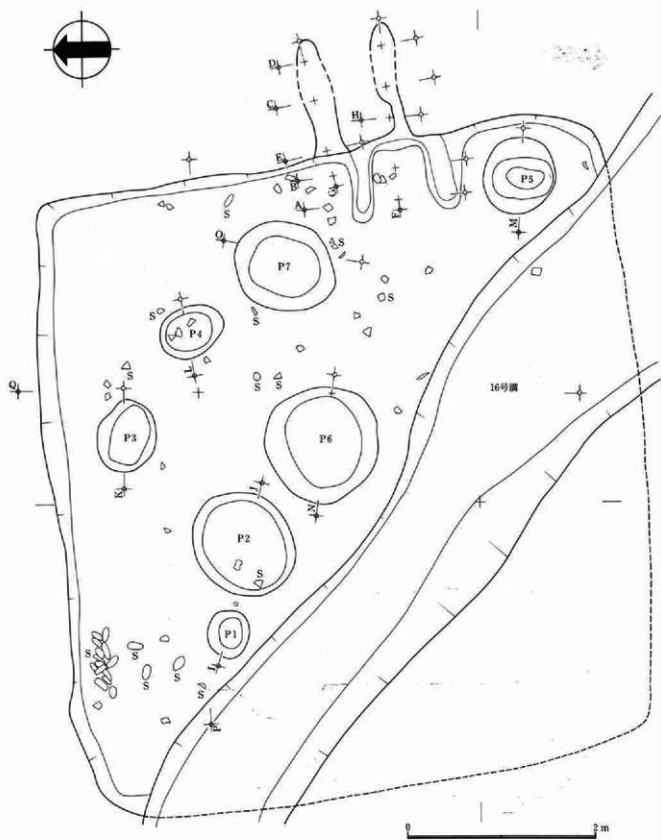
須恵器で蓋の小型品(39)が出土している。宝珠は大きく高く、甲丸な体部で内面にしっかりと反りを持つ。土師器で埴の大型品(40)が出土している。



第104图 1区14号住居址

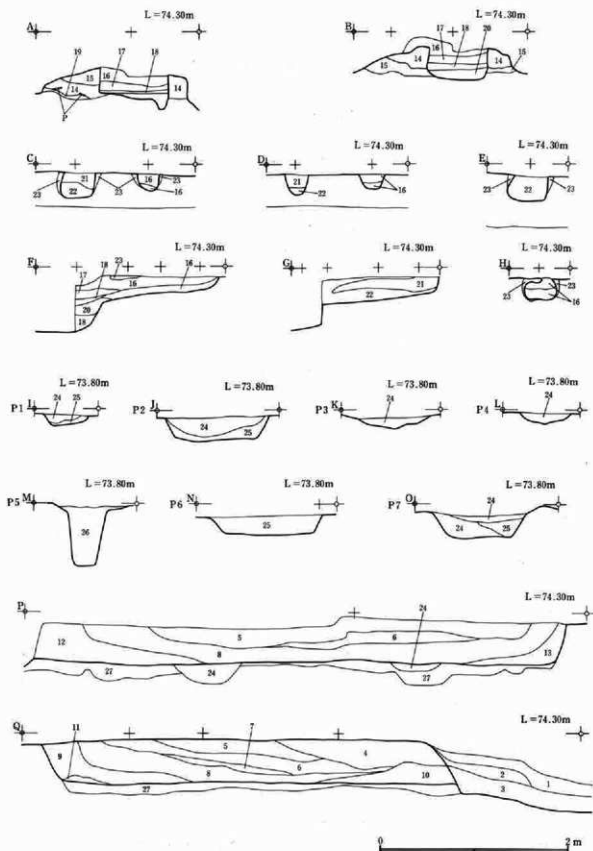


第105图 1区15号住居址



第106図 1区16号住居址

1 遺 跡



第107图 1区16号住居址

第II章 1区 上栗須葉師裏

1区17号住居址

遺構 (挿図番号第108図 写真番号P L-32)

本住居址はN 2・58, 59グリッドで検出され、東5.5mに15号住居址、西9.5mに18号住居址が位置する。西側を2号河道が斜めに横切っている。

住居の規模は、長軸5.46m(推定)・短軸4.40m(推定)、面積15.18㎡(推定)である。主軸方位はN-22°-W(推定)を示している。

遺物は全体に散布しており、床面の南東隅1.3m×1.8mの範囲に焼土の広がり認められた。

遺物 (挿図番号第128図)

出土位置を記録したものは土器78点、石材36点である。

須恵器で甕の中型品(41)、甕の小型品(42)が出土している。

1区18号住居址

遺構 (挿図番号第109・110図 写真番号P L-32)

本住居址はN 2・47, 57グリッドで検出され、北9.0mに9・10号住居址、北西6.5mに8号住居址、西7.0mに2号住居址が位置する。2号河道に東側が切られている。

住居の規模は大型で、長軸6.94m・短軸6.44m(推定)、面積25.23㎡(推定)である。主軸方位はN-10°-Wを示している。遺物の散布は床面全体に広がる。

P 1は長径70cm・短径60cm、深さ52cm、P 2は長径70cm・短径57cm、深さ51cm、P 3は長径74cm・短径64cm、深さ55cm、P 4は長径70cm・短径64cm、深さ67cmである。

遺物 (挿図番号第128・129図)

出土位置を記録したものは土器371点、石材140点である。

須恵器の環(43)は、右回転ヘラケズリの底部調整を残し、火燵が残る。須恵器の環(45)で右回転ヘラケズリを残し、43とともに古式の環である。須恵器で蓋の小型品(44)が出土している。土師器で埴の小型品(46)、小型甕(47)が出土している。

1区19号住居址

遺構 (挿図番号第111図 写真番号P L-33)

本住居址はN 2・08, 09, 18, 19グリッドで検出され、南東6.5mに12号住居址が位置する。発掘区の北西隅に位置しており、住居全体を検出するために拡張区を設定して全体を確認した。

住居の規模は、長軸3.86m・短軸3.48m、面積8.95㎡である。主軸方位はN-87°-Eを示している。遺物の散布は、竈の左袖方向と南西隅に集中するようにみられる。

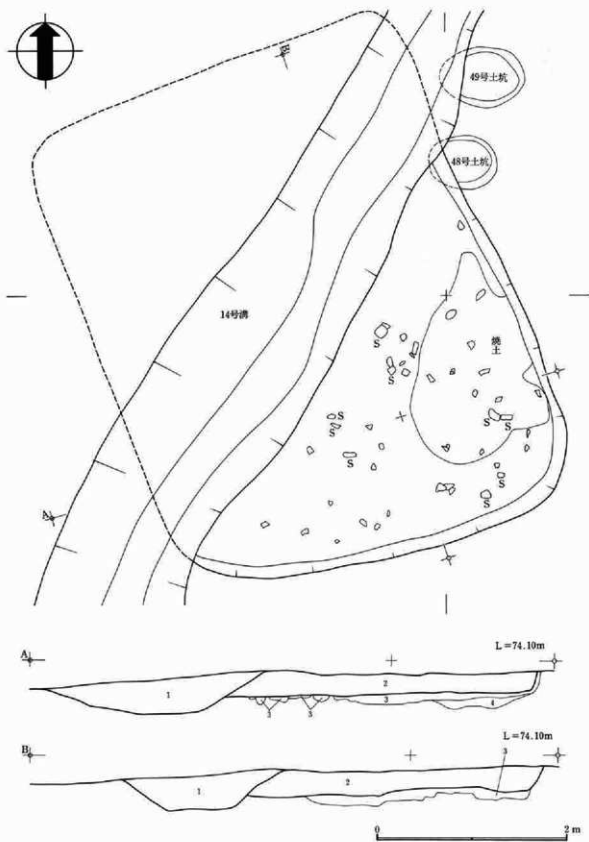
竈は東壁の中央に付設され、しっかりとしている。竈全長は160cm、電幅は120cm、燃焼部長さは80cm、焚き口幅は35cm、煙道部長さは80cm、煙道部幅は40cmである。

遺物 (挿図番号第129・130図)

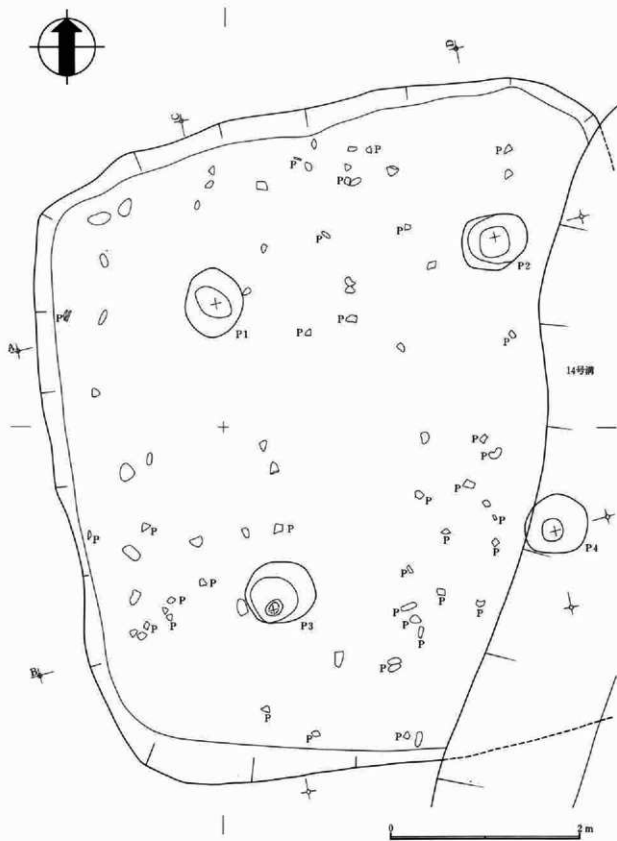
出土位置を記録したものは土器185点、石材74点である。

土師器で中型品の長甕(48)、(49)、小型品の埴(50)、(51)、大型品の埴(52)、(53)が出土している。須恵器の小型品の短頸甕(54)で口縁部が欠損している。須恵器の鉢(55)は摺鉢の底部で、珍しい器種である。

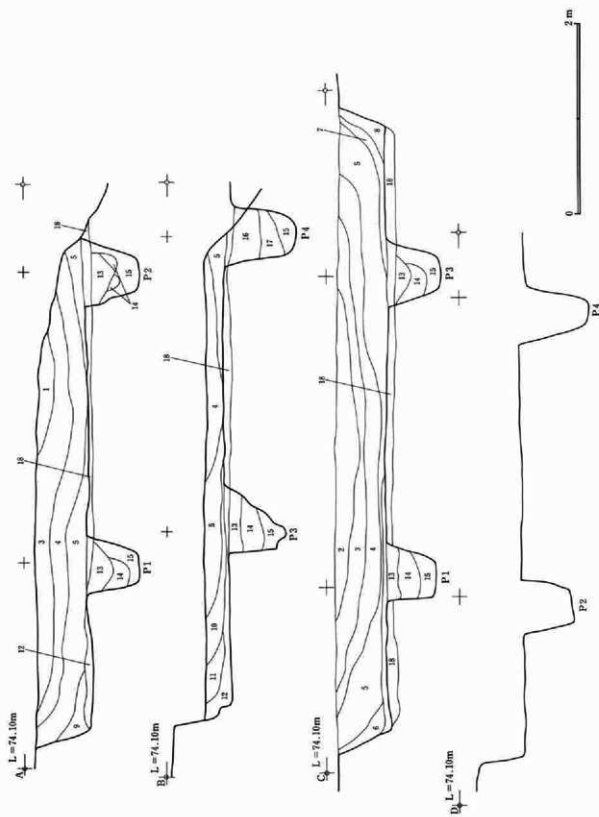
土師器で小型品の長甕(56)、中型品の長甕(57)、長甕(58)が出土している。



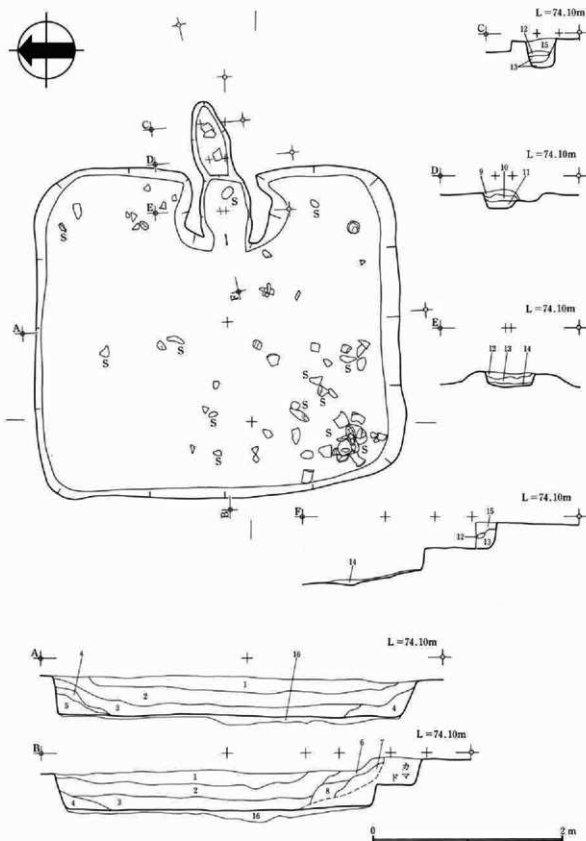
第108图 1区17号住居址



第109图 1区18号住居址



第110図 1区18号住居址



第111图 1区19号住居址

1区20号住居址

遺構 (挿図番号第112図 写真番号P L-33)

本住居址はO2・20グリッドで検出され、舌状の台地の斜面下に位置し、西8.0mに13号住居址、北西14.0mに14号住居がある。発掘区の東隅から検出したために、住居平面の約1/3ほどの発掘ができただけで全体が把握されなかった。

住居の規模は、長軸3.16m(推定)・短軸2.84m(推定)、面積7.94m²(推定)である。主軸方位はN-70°-E(推定)を示している。床面全体に遺物が散布している。北西の壁寄りに灰層の堆積がみられた。

遺物 (挿図番号第130図)

出土位置を記録したものは土器57点、石材19点である。縄文時代の包含層を切って住居が構築されたため、縄文土器片や縄文石器片の出土が多い。

土師器で埴の小型品(59)、(60)が出土している。特に埴の小型品の数は本遺跡では少ない。土師器の長埴の中型品(62)が出土している。口縁部はそれほど長くなく、外反し立ち上がる。須恵器で鉢(61)が出土している。焼き歪みが目立つが、鉄鉢形で数少ない資料である。須恵器の有蓋高坏で大型品(63)が出土している。

1区21号住居址

遺構 (挿図番号第112図 写真番号P L-34)

本住居址はN2・39グリッドで検出され、北西9.5mに11号住居址、北東9.0mに13号住居址が位置する。舌状に突出する台地の北西傾斜面の下に位置する。

住居の規模は、長軸3.22m・短軸3.04m、面積8.14m²である。主軸方位はN-70°-Eを示している。比較的整った形をしている。遺物は河原石が北東壁寄りに数点、土器片が南西壁寄りに集中している。また、鉄器が北東壁寄りから出土している。

竈は東壁の右寄りに付設され、前面より大ぶりの河原石が2点出土している。竈全長は67cm、竈幅は60cm、焚き口幅は40cm、煙道部幅は57cmである。

遺物 (挿図番号第130図)

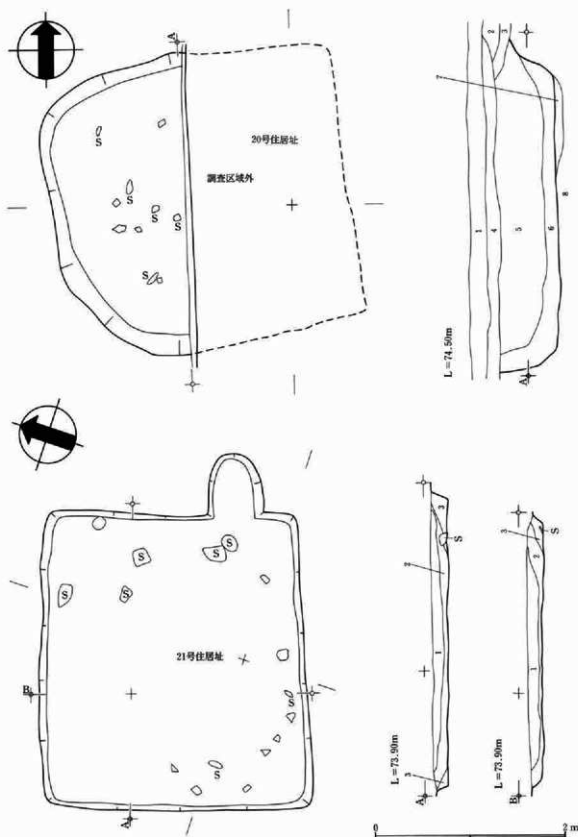
出土位置を記録したものは土器97点、石材43点である。縄文時代の包含層を切って住居が立地するため、縄文土器片、縄文石器片が縄文埋土に混入している。

須恵器の甕で口縁部と底部を欠く小型品(64)、須恵器の有蓋坏の蓋で体部外面は平行タキ後、上半部は回転ヘラケン、内面は青海波文が残る中型品(65)が出土している。つまみ部は欠損し、体部甲高でかえりは高くしっかりしている。土師器で埴の小型品(66)が出土している。鉄製品で刀子の残片と考えられるものが、2点出土している。遺存の良好なものは長さ11cmを測り、断面形は楔状を呈する。砥石が出土している。6面が加工された長方形で、石材は二ツ岳軽石、重さは110gを計る。

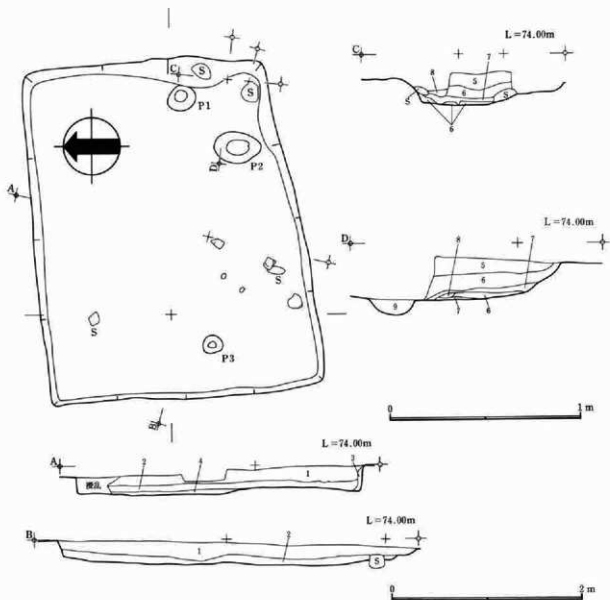
1区22号住居址

遺構 (挿図番号第113図 写真番号P L-34)

本住居址はN1・89, 99, O1・80, 90グリッドで検出され、南9.0mに14号住居址が位置する。発掘区の北隅から出土している。特にこの地区は、北側の鍋川の旧河道の影響を受けているらしく、粘土質の堆積土で、表土が洗われ流されているように考えられる。



第112图 1区20・21号住居址



第113図 1区22号住居址

住居の規模は、長軸3.52m(推定)・短軸2.76m(推定)、面積8.84㎡(推定)である。主軸方位はN-81°-E(推定)である。

P1は長径30cm・短径25cm、深さ22cm、P2は長径50cm・短径34cm、深さ7cm、P3は長径21cm・短径19cm、深さ18cmである。

遺物 (挿図番号第131図)

出土位置を記録したものは土器13点、石材5点である。

須恵器の坏(67)は小型品で、ロクロ目は明瞭で口唇部分は強く押えて外反気味である。底部の糸切りは広い。無蓋の高台坏(68)はロクロ目は明瞭で口唇端部は外へ湾曲している。高台部は短く、端部は丸く復元できる。ロクロ成形の技法は良好である。須恵器の羽釜(70)が出土している。口唇部は内側へ切り取られている。鈔部分の断面は二等辺三角で短くつまみ上げている。土師器で長頸の大型品(69)が出土している。

1区住居址土層一覧表

1区1号住 (基準高さ 土層断面74.70m・74.80m、電74.90m)

- 住居埋土 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 多量の砂礫を混入する。
- 住居埋土 オリーブ褐色(2.5Y4/4) 1層と黄色粘質土の混土。電の崩壊土とみられる焼土ブロック含む。
- 住居埋土 黒褐色(2.5Y3/1) 多量の砂粒を混入する。
- 住居埋土 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘性のないしまりのある砂質土で、底部に焼土塊3cm堆積。
- 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/3) 粘性のないしまった砂礫土。礫径0.5cm~1.5cm。
- 住居埋土 黒褐色(10YR2/2) 粘性のない砂礫土。礫径0.5cm SPR壁寄りに近づくにつれ大きな礫(最大3cm)を含むようになる。
- 電構築材 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘性のないしまりのある砂質土。径0.5cm~1cmの礫を多く含む。
- 電構築材 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のある砂質土。径0.5cmほどの礫を含み、しまっている。
- 電構築材 オリーブ褐色(2.5Y4/4) 粘性のない砂質土。指で押すとへこむ。ところどころに焼土を含む。
- 電構築材 暗灰黄色(5YR4/4) 粘性のある砂質土。しまっているが中央上部はやわらかい。
- 電構築材 暗赤灰色(10R3/1) 粘性のあるやわらかいシルト質土。炭や焼土を含む。埋土に堆積した灰と考えられる。
- 電構築材 明赤褐色(2.5YR4/6) 電は住居築造時にこぼされたものと考えられ、天井崩落土と考えた。
- 電構築材 明赤褐色(2.5YR4/6) 焼土。
- 地山層 黄褐色(2.5Y5/6) 自然堆積層のローム。
- 地山層 砂礫層。
- 床下材 褐色(7.5YR4/4) 粘性のない砂質のシルト。しまっている。焼土や炭化物を含む。
- 床下材 灰黄褐色(10YR4/3) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。地山のロームが窺にはいる。焼土を少量含む。
- 床下材 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。径5mm程度の礫を含む。ローム塊を少量含む。
- 床下材 暗褐色(7.5YR3/3) 粘性のないかたくしまった砂質土。径5mm~10mmの礫を多く含む。地山のローム塊を含む。

1区2号住 (基準高さ 土層断面74.20m、電74.10m)

- 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のない砂質のシルトで、しまっている。径2cmほどの礫を含む。
- 住居埋土 黄灰色(2.5Y5/1) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径5mm~1cmほどの礫を含む。
- 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のない砂質のシルトで、しまっている。黄褐色のロームが窺にはいる。
- 住居埋土 黄灰色(2.5Y5/1) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。
- 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/3) 粘性のある砂質のシルトで、しまっている。径1cm~5cmの礫を含む。
- 住居埋土 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質のシルト。しまっている。径1cm~3cmの大きさの礫を含む。
- 住居埋土 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径1cmくらいの焼土塊が1つある。
- 住居埋土 黄褐色(10YR5/6) 粘性のあるシルト。しまっている。ところどころに、径1.5ほどの礫がある。7層に近気、6に対応すると思われる。粘性のない砂質のシルト。しまっている。径1cmほどの礫を含む。
- 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 層中に20%の焼土ブロックを含む。
- 電構築材 明褐色(7.5YR7/2) 層中に30%の焼土ブロックを含む。
- 電構築材 赤褐色(10R6/8) 焼土壁。
- 電構築材 灰赤色(2.5YR4/2) 軟質土で炭化物・灰も少量含む。
- 電構築材 橙色(2.5YR6/8) 焼土塊。
- 電構築材 灰層。
- 貯蔵穴 灰白色(5Y7/1) 層中に灰オリーブ色(5Y4/2)10%の砂質土層を混土。
- 貯蔵穴 褐灰色(10YR4/1) 砂質シルト層80%に、灰黄褐色(10YR5/3)粘質土を混土。
- 貯蔵穴 灰色(5Y6/1) シルト層が2~3cmの層をなす。
- 床下材 褐灰色(10YR4/1) 上部に黄褐色の層がある(ところどころざれている)粘性のある砂質のシルト。しまっている。
- 床下材 灰黄褐色(10YR5/4) 層中に砂質のシルトや黒色砂礫をたたきして床としている。下部からの小礫を含む。

1区5号住 (基準高さ 土層断面73.80m・73.90m)

- 第1河道 砂礫層。きめが細かい。
- 第1河道 砂礫層。礫径1~2cm最大5cm下部ほど礫の割合が多くなる。
- 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/3) 砂質土と黄褐色(2.5Y5/6)粘質土がまだらに混入する。径1cmの礫を含む。
- 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 土質は3層と同質であるが色調が暗い。
- 住居埋土 土質は3層と同様であるが黄褐色(2.5Y5/6)の粘性土の量が増加する。
- 住居埋土 黄褐色(2.5Y5/6) 崩落土。
- 電構築材 オリーブ褐色(2.5Y3/4) 砂粒を多く含んだ土。
- 電構築材 7層を主成分として、灰層や焼土を混入する。

1区7号住 (基準高さ 土層断面・電74.70m)

- 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のない砂質シルト。しまっている。黄褐色のロームが窺にはいる。径1cm~2cmの礫を含む。
- 住居埋土 褐色(10YR4/6) 粘性のある砂質シルト。しまっている。径7mmほどの礫を含む。
- 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径7mmほどの焼土塊を含む。
- 住居埋土 暗褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径5mmほどの礫を含む。
- 住居埋土 明褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質のシルト。しまっている。黄褐色のローム塊を窺に含む。
- 住居埋土 褐色(10YR4/6) 粘性のある砂質のシルトで、しまっている。径5mm~1cmの礫を含む。

- | | | |
|----------|----------------|---|
| 7. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径5mm~7mmの礫を含む。 |
| 8. 住居埋土 | 黒褐色(10YR2/3) | 粘性のある砂質のシルト。(砂質といってもシルトが大部分)しまっている。 |
| 9. 住居埋土 | | 3層と続いているものであるが、灰色がかかっていて少し焼土のはりりが多い。 |
| 10. 竈構築材 | オリブ褐色(2.5Y4/3) | 0.5cmほどまでの小礫を少量混入する。 |
| 11. 竈構築材 | 明黄褐色(2.5Y6/6) | 粘質土。 |
| 12. 竈構築材 | | 砂層。 |
| 13. 竈構築材 | 黄褐色(2.5Y5/4) | 砂含みのシルトっぽい土。しまりはない。炭化物和焼土粒を微量混入する。 |
| 14. 竈構築材 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 13層の中に砂と灰が混入した土。 |
| 15. 竈構築材 | | 焼土を主として、灰と砂をえる。 |
| 16. 竈構築材 | | 11層と砂(12層)の混土。 |
| 17. 床下材 | | 18層との混土。全体に比較的硬くしまっている。焼土や炭化物の混入はみられない。 |
| 18. 床下材 | オリブ色(5Y6/6) | シルト質の粘質土〔4層〕。 |
| 19. 床下材 | オリブ色(5Y5/4) | 砂層。 |

1区8号住 (基準高さ 土層断面74.20m, 電74.00m)

- | | | |
|---------|----------------|------------------------------------|
| 1. 住居埋土 | 暗褐色(10YR3/3) | 粘性のない砂質のシルト。しまっている。黄褐色のロームが斑にはいる。 |
| 2. 住居埋土 | 暗褐色(10YR3/3) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。焼土・炭化物を含む。 |
| 3. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のない砂質のシルト。しまっている。径5mmほどの礫を含む。 |
| 4. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のない砂質のシルト。しまっている。黄褐色のローム塊を含む。 |
| 5. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。 |
| 6. 竈構築材 | オリブ褐色(2.5Y4/6) | 砂を少量含むシルト質土。焼土・炭粒を少量含む。 |
| 7. 竈構築材 | オリブ褐色(5Y6/8) | 粘質土の焼土。 |
| 8. 竈構築材 | | 灰と灰を主成分とする層。 |
| 9. 床下材 | 明黄褐色(2.5Y7/6) | 層中に褐灰色(10YR6/1)30%が混土してつきかためられている。 |

1区9・10号住 (基準高さ 土層断面74.20m, 電74.10m, ビット73.60m)

- | | | |
|----------|------------------|---|
| 1. 住居埋土 | 暗オリブ褐色(2.5Y3/3) | 粘性のある砂質土。しまっている。径7mmほどの焼土・炭化物を含む。 |
| 2. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のある砂質土。しまっている。径1cm~3cmの焼土塊を含む。 |
| 3. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のあるシルト質の砂。 |
| 4. 床下材 | 黄灰色(2.5Y4/1) | 粘性のある砂質土で、しまっている。僅かだが焼土・炭化物を含む。 |
| 5. 住居埋土 | 黒褐色(10YR3/2) | 粘性のない砂質土。しまっている。径7mmほどの礫を含む。黄褐色のローム塊を含む。 |
| 6. 住居埋土 | 褐色(10YR4/4) | 粘性のない砂質土。しまっている。径7mmほどの炭化物を含んでいる。 |
| 7. 住居埋土 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 粘性のない砂質土。しまっている。5mm~1cmの炭化物を含む。 |
| 8. 住居埋土 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 粘性のない砂質土。黄褐色のローム塊を含む。 |
| 9. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のない砂質土。(シルト分が多い)しまっている。径5mmほどの礫を含む。黄褐色のローム |
| 10. 住居埋土 | 黒褐色(10YR3/1) | 粘性のある砂質土。しまっている。径5mmほどの礫・炭化物を含む。 |
| 11. 住居埋土 | 褐色(10YR4/4) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。炭化物の層がみられる。 |
| 12. 住居埋土 | オリブ褐色(2.5Y4/3) | 粘性のある砂質土。しまっている。僅かだが焼土・炭化物を含む。 |
| 13. 住居埋土 | 黒褐色(2.5Y3/1) | 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmほどの礫を少量含む。 |
| 14. 住居埋土 | 黒褐色(10YR3/2) | 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmほどの炭化物を含む。 |
| 15. 住居埋土 | 黒褐色(10YR3/2) | 層中の粘質土に黄褐色(10YR8/8)のロームブロックの小塊(1~2cm)を少量含む(柱状なし)。 |
| 16. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のある砂質土。しまっている。黄褐色ロームを斑に含む。5mmくらいの礫を含む。 |
| 17. 住居埋土 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | 粘性のある砂質土。 |
| 18. 竈構築材 | 灰赤色(2.5YR6/2) | 砂質土層で少量の焼土を含む。 |
| 19. 竈構築材 | にぶい橙褐色(2.5YR6/4) | 全体に焼土を含み赤味強い。 |
| 20. 竈構築材 | 赤色(10R5/8) | 焼土を中心に少量の炭化物・黄色ロームブロックを含む。 |
| 21. 竈構築材 | | 灰層と炭化物の混土層。 |
| 22. 竈構築材 | にぶい橙褐色(7.5YR7/4) | 粘質土層で上層に少量の焼土を含む。 |
| 23. 竈構築材 | 明灰褐色(7.5YR7/2) | 砂質土層で淡赤色の焼土を少量含む。 |
| 24. 竈構築材 | 明灰褐色(7.5YR7/2) | 23層に近似するも焼土の混入多い。 |
| 25. 竈構築材 | 明灰褐色(5YR7/2) | 粘質土で焼土を多量に含む。 |
| 26. 竈構築材 | 赤橙色(10R6/8) | 焼土層。 |
| 27. 床下材 | 褐灰色(7.5YR6/1) | 層中の砂層とにぶい黄褐色(10YR7/3)がつきかためられている床。 |
| 28. 地山層 | オリブ黄色(5Y6/4) | 自然堆積土層。砂質土層。 |

1区11号住 (基準高さ 土層断面・電74.20m)

- | | | |
|---------|-----------------|--|
| 1. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のない砂質土。しまっている。径3mm~5mmほどの焼土・炭化物・礫を含む。 |
| 2. 住居埋土 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | 粘性のない砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。黄褐色のローム塊を含む。 |
| 3. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のない砂質土。しまっている。径5~7mmほどの炭化物を含む。 |
| 4. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のない砂質土。しまっている。径5mm~1cmの焼土・炭化物を少量含む。 |
| 5. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のある砂質土。しまっている。 |
| 6. 住居埋土 | 黒褐色(10YR3/2) | 粘性のある砂質土。(シルトが少し多い)しまっている。黄褐色のローム塊を斑に含む。 |

第二章 1区 上栗須築師表

- | | | |
|----------|----------------|--------------------------------------|
| 7. 住居埋土 | ぶい黄褐色(10YR4/3) | 粘性のある砂質土。(シルトが多い)しまっている。黄褐色のローム塊を含む。 |
| 8. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のある砂質土。しまっている。 |
| 9. 住居埋土 | 灰色(5Y6/1) | 粘質シルト層で黒色味が強い薄層。 |
| 10. 電機築材 | 褐色(5YR5/1) | 砂質土に黄色ロームブロック混土。 |
| 11. 電機築材 | 褐色(5YR5/1) | 砂質土。赤褐色堅凝土。 |
| 12. 電機築材 | 褐色(2.5YR6/8) | 電機附落土。 |
| 13. 電機築材 | 黒褐色(5YR2/1) | 炭化物。灰層。 |
| 14. 電機築材 | 灰赤色(7.5R6/2) | 砂質で焼けている。 |
| 15. 床下材 | 黄灰色(2.5Y5/1) | シルト層で少量の灰色の砂質土層が混土している。 |

1区12号住 (基準高さ 土層断面・電74.10m、ビット73.40m)

- | | | |
|----------|-----------------|---|
| 1. 住居埋土 | 褐色(10YR4/4) | 粘性のない砂質のシルト。しまっている。径3mm〜4mmの礫を含む。 |
| 2. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のない砂質のシルト。しまっている。黄褐色のローム塊を含む。 |
| 3. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径5mm程度の大きさの焼土塊・炭化物を含む。 |
| 4. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のある砂質のシルト。(砂とシルトが半々ぐらい)しまっている。径1cm〜2cmの赤土塊含む。 |
| 5. 住居埋土 | オリーブ褐色(2.5Y4/3) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径1cmくらいの赤土塊・炭化物・ローム塊を含む。 |
| 6. 住居埋土 | 褐色(10YR4/4) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。黄褐色のロームが硬にはいる。 |
| 7. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。 |
| 8. 電機築材 | 淡黄色(2.5Y7/4) | ローム質土。 |
| 9. 電機築材 | 暗灰黄色(2.5Y5/2) | 砂質土層に少量の焼土・炭化物を含む。 |
| 10. 電機築材 | 灰赤色(10R6/2) | 砂質土層に少量の焼土。 |
| 11. 電機築材 | 黄色(2.5Y8/6) | ロームブロックに少量の焼土。 |
| 12. 電機築材 | 灰黄褐色(10YR6/2) | 砂質土に少量の焼土。 |
| 13. 電機築材 | 赤色(10R5/8) | 焼土にぶい橙色(2.5YR6/4)粘質土の混土層。 |
| 14. 電機築材 | 褐色(10YR5/1) | 砂質土に少量の焼土。 |
| 15. 電機築材 | 灰白色(5Y7/2) | 砂質土層。 |
| 16. 電機築材 | ぶい黄褐色(10YR7/3) | 砂質で少量の焼土。 |
| 17. 電機築材 | 淡黄色(2.5Y8/4) | ロームブロックに多量の焼土・橙色(2.5YR6/8)を含む。 |
| 18. 電機築材 | オリーブ黒色(7.5Y3/1) | 炭化物と灰層。 |
| 19. ビット | 明黄褐色(2.5Y6/8) | 粘質土のブロック状崩土。 |
| 20. ビット | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 砂を多く含む。焼土と炭の粒子を混入する。 |
| 21. ビット | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 比較的多量の砂を混入する。しまりはない。 |
| 22. ビット | 黄褐色(2.5Y5/3) | 砂を多めに含んだ土を主として明黄褐色(2.5Y6/8)粘質土をブロック状に混入する。 |
| 23. 床下材 | 明黄褐色(2.5Y7/6) | ロームブロックと黒褐色(10YR3/1)の荒い砂とを混土をたたきしめた床面構成層。 |

1区13号住 (基準高さ 土層断面・電74.10m)

- | | | |
|----------|----------------|---|
| 1. 住居埋土 | 黒褐色(2.5Y3/2) | 粘性のないシルト質の砂(砂質土)。しまっている。径5mmほどの礫を多く含む。南東側に多い。 |
| 2. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘性のない砂質土。しまっている。径1cmほどの焼土塊・炭化物を含む。 |
| 3. 住居埋土 | 褐色(7.5YR4/3) | 粘性のある砂質土。しまっている。径7mmほどの礫を含む。 |
| 4. 住居埋土 | 黄灰色(2.5Y4/1) | 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmくらいのローム塊を含む。 |
| 5. 電機築材 | 褐色(10YR4/1) | 砂質土層6層と近似するがロームブロック少量の混土のみみられる。 |
| 6. 電機築材 | 褐色(10YR4/1) | 砂質土層。 |
| 7. 電機築材 | ぶい黄褐色(10YR6/3) | 層中に少量のロームブロックと焼土を含む。 |
| 8. 電機築材 | 褐色(10YR5/1) | 砂質土。 |
| 9. 電機築材 | ぶい黄褐色(10YR7/3) | ロームをベースに少量の炭・焼土を含む。 |
| 10. 電機築材 | 橙色(2.5YR6/8) | 焼土を主体に黄褐色ロームブロックを少量含む。 |
| 11. 床下材 | 黒褐色(2.5Y3/1) | 灰層と炭化物層。 |
| 12. 床下材 | 黄灰色(2.5Y4/1) | 層中の砂層に明黄褐色(2.5Y7/6)ロームブロック30%の混土層。 |

1区14号住 (基準高さ 土層断面・電74.20m)

- | | | |
|----------|----------------|---|
| 1. 住居埋土 | 暗褐色(10YR3/3) | 粘性のない砂質のシルト。しまっている。黄褐色のローム塊を硬に含む。径5mmほどの礫を含む。 |
| 2. 住居埋土 | 灰褐色(7.5YR4/2) | 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmほどの焼土塊・炭化物を含む。 |
| 3. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。黄褐色ロームが硬にはいる。 |
| 4. 住居埋土 | 黄灰色(2.5Y5/1) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径7mmほどの炭化物を含む。 |
| 5. 住居埋土 | 褐色(10YR4/4) | 粘性のある砂質のシルト。しまっている。径5mmほどの焼土・炭化物・黄褐色のローム塊を含む。 |
| 6. 電機築材 | 黄灰色(2.5Y5/1) | 砂質土層。自然堆積土層と考えている。 |
| 7. 電機築材 | 灰褐色(5YR6/2) | 粘質土層で少量の焼土を含む。 |
| 8. 電機築材 | 灰褐色(7.5YR6/2) | 粘質土層で焼土ブロックと黄色ロームブロックを混土している。 |
| 9. 電機築材 | ぶい黄褐色(10YR7/3) | ロームを中心として少量の炭化物を含む。 |
| 10. 電機築材 | 淡黄色(2.5Y7/4) | ロームブロックに炭化物を含む。 |
| 11. 電機築材 | 黄灰色(2.5Y4/1) | 砂質でロームブロックの小粒を含む。 |

12. 電線管材 灰青褐色(10YR5/2) 粘質土で焼土及び黄色ロームブロック散粒を含む。
 13. 床下材 灰色(5Y6/1) 黄灰色(2.5Y4/1)の黒い砂がたたましめられて、床面を構成している。

1区15号住 (基準高さ 土層断面・幅74.10m)

1. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。径1cm~1.5cmの礫を含む。ところどころに黄褐色のローム塊を含む。
 2. 住居埋土 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘性のない砂質土。(ほとんど砂)径5mmほどの礫を含む。
 3. 住居埋土 浅黄色(2.5Y7/4) ロームブロックと5mm大の小礫の混土層(つきかためている)。
 4. 電線管材 橙色(2.5YR7/6) 焼土塊。
 5. 電線管材 黄褐色(10YR8/8) ロームブロックで電線材と考えられる。

1区16号住 (基準高さ 土層断面・幅74.30m, ビット73.80m)

1. 住居埋土 におい黄褐色(10YR4/3) 砂質土と黄褐色(2.5Y5/6)粘質土が混入する。径1cmほどの礫を含む。
 2. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 土質は1層と同質であるが、色調が暗い。
 3. 住居埋土 土質は2層と同様であるが、黄褐色(2.5Y5/6)粘質土の量が増加する。
 4. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のない砂質土。しまっている。5mm~1.5cmの礫を多く含む。1~2cmのローム粒を含む。
 5. 住居埋土 におい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土。しまっている。径7mmほどの礫を含む。径10mmほどのローム粒を含む。
 6. 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のある砂質土。しまっている。僅かだが焼土粒を含む。
 7. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を少量含む。
 8. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のある砂質土。しまっている。ところどころに径5mmほどの炭化物を含む。
 9. 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmくらの礫を含む。
 10. 住居埋土 黒褐色(10YR3/1) 粘性のない砂質土。しまっている。黄褐色ロームを斑に含む。径1cmの礫を含む。
 11. 住居埋土 黄褐色(10YR5/6) 地山のローム。
 12. 住居埋土 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘性のある砂質土。しまっている。径1~2cmの礫を多く含む。
 13. 住居埋土 黒褐色(2.5Y3/1) 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmほどのローム粒をところどころに含む。
 14. 電線管材 明黄褐色(10YR7/6) ロームブロック中に赤褐色の焼土塊を少量含む。
 15. 電線管材 黄褐色(10YR8/6) ロームブロックに少量の焼土細粒を混土している。
 16. 電線管材 明黄褐色(2.5Y7/6) ローム質土層中に多量の焼土を含む。
 17. 電線管材 橙色(2.5YR6/8) 天井崩落の焼土塊と考えられる。
 18. 電線管材 暗赤褐色(7.5YR3/2) 炭化物と灰の薄土層。
 19. 電線管材 赤褐色(10R6/8) 炭化物・灰の薄土層。
 20. 電線管材 明黄褐色(2.5Y7/6) ロームブロック中に黒褐色砂と焼土ブロックが混土している。
 21. 電線管材 におい黄色(2.5Y6/3) 少量の炭化物・焼土を含む。
 22. 電線管材 におい黄色(2.5Y6/3) 上層よりも焼土ブロックの混土多い。
 23. ビット 明黄褐色(2.5Y7/6) ロームブロックと暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土と黄灰色(2.5Y4/1)砂層の混土層。
 24. ビット 明黄褐色(2.5Y7/6) ロームブロック塊。
 25. ビット 黒褐色(10YR3/1) 粘性のある砂質土。しまっている。径1cmほどの焼土粒を含む。
 26. 床下材 黄色(2.5Y7/8) ロームブロックと黄灰色(2.5Y5/1)の黒い砂の混土でつきかためられている。

1区17号住 (基準高さ 土層断面74.10m)

1. 14調理土 暗オリーブ色(5Y4/3) 径5mmほどまでの小礫を多量に混入した粘性のある土。
 2. 住居埋土 浅黄色(2.5Y7/4) 軟質ロームブロックを主体として少量の褐色粘質土を混土。
 3. 床下材 黄色(2.5Y8/6) ロームブロックに少量の赤褐色焼土を混土している。
 4. 床下材 黒褐色(2.5Y3/1) 砂質土層中に黄色ロームブロックを混土。

1区18号住 (基準高さ 土層断面74.10m)

1. 住居埋土 褐色(7.5YR4/4) 粘性のない砂質土。しまっている。炭化物粒・焼土粒を含む。
 2. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。しまっている。径1cmほどの礫を含む。黄褐色のローム(1~2cm)を含む。
 3. 住居埋土 におい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土。しまっている。径7mmほどの礫を含む。焼土粒・炭化物粒を含む。
 4. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質土。しまっている。黄褐色のローム塊を含む。径5mmほどの礫を含む。
 5. 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のない砂質土。しまっている。ところどころに炭化物・焼土粒を含む。
 6. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。
 7. 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のない砂質土。しまっている。5mmほどの礫を含む。2~3mmほどの焼土粒・炭化物粒を含む。
 8. 住居埋土 におい黄褐色(10YR4/3) 粘性のある砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。黄褐色ロームを含む。
 9. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質土。しまっている。径5mmほどの黄褐色ローム塊を含む。
 10. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質土。しまっている。炭化物・焼土粒を含む。
 11. 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のある砂質土。しまっている。径7mmほどの礫を含む。炭化物を少量含む。
 12. 住居埋土 黄灰色(2.5Y5/1) 粘性のある砂質土。しまっている。ところどころに、径1.5cmほどの礫を含む。
 13. ビット 暗灰黄色(2.5Y5/2) 黄褐色ブロックを混土する。粘質土層。
 14. ビット 黄灰色(2.5Y4/1) 焼土・炭化物を含む粘質土層。
 15. ビット 褐灰色(10YR5/1) 灰色の粘質土層を含む。一部分鉄分凝集みられる。
 16. ビット 灰黄褐色(10YR6/2) ロームブロックを混土する砂質土層。

第Ⅱ章 1区 上栗須築師裏

17. ビット 灰黄褐色(10YR6/2) 灰色の粘質土を含む粘質土層。
 18. 床下材 黄色(2.5Y8/6) ロームブロックと黄灰色(2.5Y5/1)砂層の混土でたきしめられて硬い。

1区19号住 (基準高さ 土層断面・電74.10m)

1. 住居埋土 ぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土。しまっている。黄褐色のローム塊を混に含む。2cm最大5cmほどの礫を含む。
 2. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のある砂質土。しまっている。1.5cmほどの炭化物を含む。
 3. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘性のある砂質土。しまっている。僅かであるが焼土・炭化物粒を含む。
 4. 住居埋土 黒褐色(10YR3/1) 粘性のある砂質土。砂っぽい。しまっている。
 5. 住居埋土 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のある砂質土。しまっている。
 6. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のない砂質土。しまっている。黄褐色ローム塊を混に含む。焼土・炭化物粒を少量含む。
 7. 住居埋土 黄灰色(2.5Y4/1) 粘性のない砂質土。しまっている。2.5cmの大きさの塊土塊を含む。
 8. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のない砂質土。しまっている。黄褐色ローム塊を多く含む。5mmほどの礫を少量含む。
 9. 電構築材 赤褐色(10R6/8) 天井と考えられるが凹状をとどめず全体に落下しているようだ。
 10. 電構築材 ぶい黄褐色(10YR7/3) ローム質土に部分的に焼土が混入している。
 11. 電構築材 褐色(2.5YR6/6) 焼土を多量に含む。部分的に底面灰も混入。
 12. 電構築材 褐色(2.5YR6/8) 天井の崩落したものと考えられる。
 13. 電構築材 浅黄褐色(10YR8/3) ローム質土中に焼土を少量含む。
 14. 電構築材 赤褐色(10R6/8) 上層に炭化物層が入る。
 15. 電構築材 ぶい黄褐色(10YR7/4) 砂質土層に焼土・ロームブロック細粒を含む。
 16. 床下材 灰色(5Y4/1) 粘質土。少量の焼土・炭化物を含みたきしめである。

1区20号住 (基準高さ 土層断面74.50m)

1. 表土層 灰黄褐色(10YR4/2) 底部に鉄部の凝集がみられる。粘性のない砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。
 2. 表土層 ぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土。よくしまっている。径5mm～2cmの礫を含む。
 3. 表土層 黒褐色(10YR3/1) 礫まじりの砂質土。粘性のある砂質土。やわらかい。径5mm～1.5cmの礫を多く含む。
 4. 表土層 褐色(7.5YR4/3) 粘性のない砂の多い砂質土。しまっている。径5mm～1cmの礫を含む。鉄分の凝集がみられる。
 5. 住居埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。しまっている。径1cmほどの礫を多く含む。炭化物を少量含む。
 6. 住居埋土 黒褐色(10YR2/2) 粘性のある砂質土。しまっている。径7mmほどの礫を含む。炭化物・塊土粒を少量含む。
 7. 床下材 黒褐色(2.5Y3/2) 粘性のない粗粒砂。
 8. 地山層 砂礫層。径5mm～2cm。

1区21号住 (基準高さ 土層断面73.50m)

1. 住居埋土 黄灰色(2.5Y5/1) 粘質土。
 2. 住居埋土 黄灰色(2.5Y6/1) 粘質土。
 3. 住居埋土 ぶい赤褐色(5YR4/3) 隅に凝れ込んだ砂質土。

1区22号住 (基準高さ 土層断面・電74.00m)

1. 住居埋土 ぶい黄褐色(10YR4/3) しまっているが粘性あり。礫石を3%含む。
 2. 住居埋土 ぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性がある。礫石わずか。
 3. 住居埋土 褐色(10YR4/4) しまっているが粘性なし。
 4. 住居埋土 粘床。
 5. 電構築材 ぶい黄褐色(10YR4/3)
 6. 電構築材 ぶい黄褐色(10YR4/3)
 7. 電構築材 黒色灰。
 8. 電構築材 褐色(10YR4/4) 粘土質。
 9. 電構築材 暗褐色(10YR3/3) 粘質。シルト質ブロック層。黒色灰を含む。

F 掘立柱建物址

1号掘立柱建物(付図番号第4図 挿図番号第114図 写真番号P L-34)

N 2・34, 44に位置する。南18mに3号掘立柱建物が位置する。

柱穴は6本確認され、それぞれの柱穴間の距離は、P 1-P 3は198cm, P 3-P 4は184cm, P 4-P 6は196cm, P 6-P 1は182cmを測る。主軸方位はN-50°-E床面積は3.6㎡を測る。

各柱穴の計測値は以下の通りである。

P 1は長軸73cm、短軸55cm、深さ75cm, P 2は長軸68cm、短軸67cm、深さ61cm

P 3は長軸75cm、短軸69cm、深さ74cm, P 4は長軸61cm、短軸61cm、深さ58cm

P 5は長軸63cm、短軸52cm、深さ59cm, P 6は長軸64cm、短軸57cm、深さ59cm

2号掘立柱建物(付図番号第4図 挿図番号第115図)

N 2・85, 86, 95に位置する。南西33mに1号掘立柱建物が位置する。

柱穴は6本確認され、それぞれの柱穴間の距離は、P 1-P 3は456cm, P 3-P 6は326cm, P 6-P 4は460cm, P 4-P 1は323cmを測る。主軸方位はN-21°-W床面積は14.9㎡を測る。

各柱穴の計測値は以下の通りである。

P 1は長軸40cm、短軸35cm、深さ34cm, P 2は長軸34cm、短軸31cm、深さ16cm

P 3は長軸39cm、短軸39cm、深さ29.5cm, P 4は長軸41cm、短軸40cm、深さ27cm

P 5は長軸46cm、短軸45cm、深さ38.5cm, P 6は長軸49cm、短軸42cm、深さ32cm

3号掘立柱建物(付図番号第4図 挿図番号第116A図 写真番号P L-34)

N 3・64, 65, 74, 75に位置する。北18mに1号掘立柱建物が位置し、南西195mに2区2号掘立柱建物が位置する。

柱穴は6本確認され、それぞれの柱穴間の距離は、P 1-P 3は206cm, P 3-P 4は188cm, P 4-P 6は202cm, P 6-P 1は203cmを測る。主軸方位はN-52°-E床面積は4.0㎡を測る。

各柱穴の計測値は以下の通りである。

P 1は長軸59cm、短軸44cm、深さ30cm, P 2は長軸56cm、短軸47cm、深さ30cm

P 3は長軸59cm、短軸43cm、深さ31cm, P 4は長軸51cm、短軸44cm、深さ39.5cm

P 5は長軸55cm、短軸44cm、深さ30.5cm, P 6は長軸51cm、短軸50cm、深さ30cm

4号掘立柱建物(付図番号第4図 挿図番号第116B図 写真番号P L-34)

N 3・41, 42に位置する。東20mに1号掘立柱建物が位置する。

柱穴は5本確認され、それぞれの柱穴間の距離は、P 1-P 2は172cm, P 2-P 4は326cm, P 4-P 5は189cm, P 5-P 1は305cmを測る。床面積は5.7㎡を測る。各柱穴の計測値は以下の通りである。

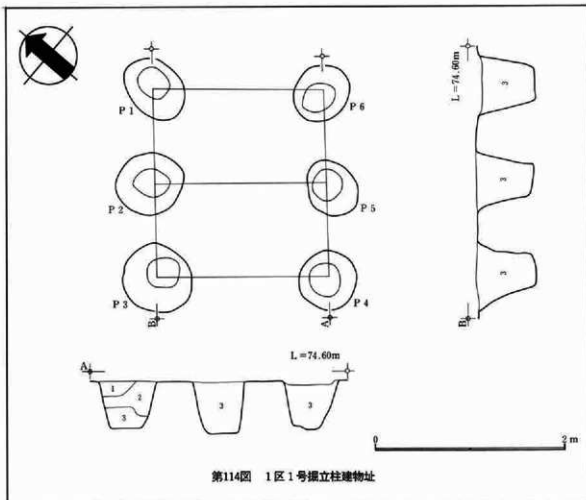
P 1は長軸51cm、短軸29cm、深さ27.5cm, P 2は長軸39cm、短軸34cm、深さ17.5cm

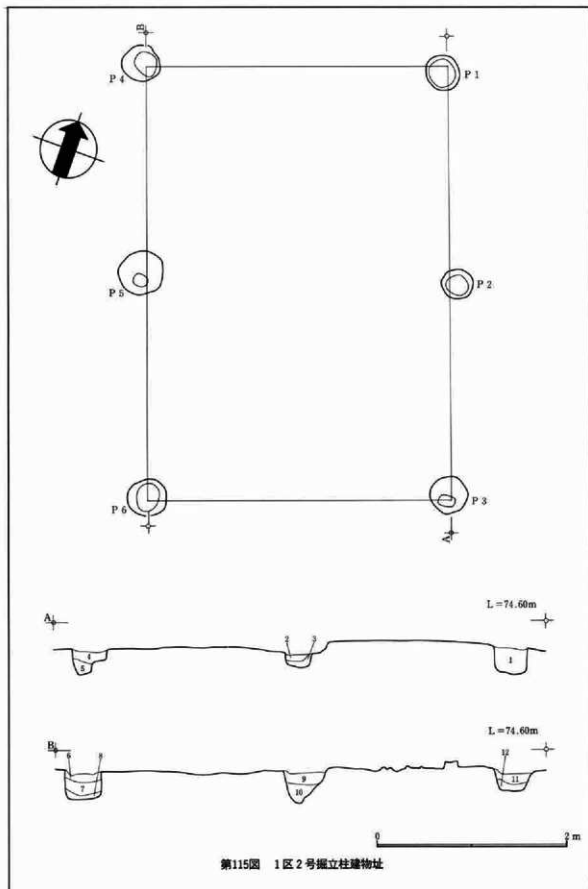
P 3は長軸23cm、短軸22cm、深さ10.5cm, P 4は長軸25cm、短軸24cm、深さ26cm

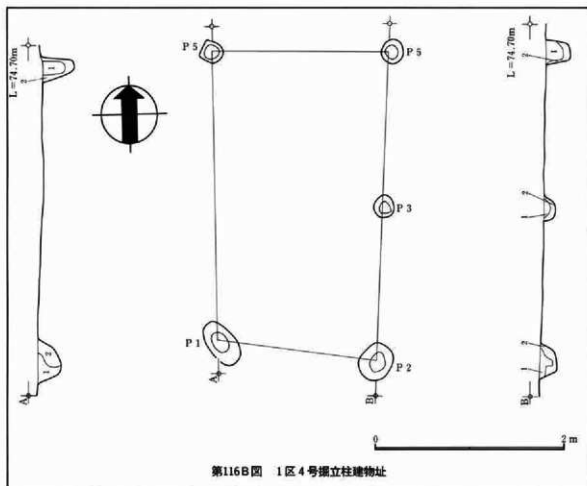
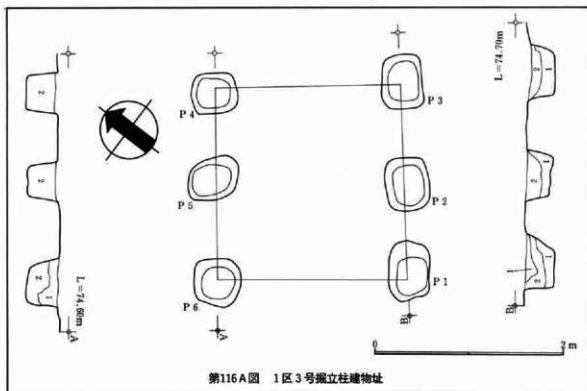
P 5は長軸23cm、短軸22cm、深さ34cm

1区掘立柱建物土層一覧表

1区1号掘立 (基準高さ 74.60m)	
1. オリブ褐色(2.5Y4/3)	シルト質粘質土を主体に、黄褐色粘質土(2.5Y5/6)をブロック状に混入する
2. 暗オリブ褐色(2.5Y3/3)	シルト質粘土。夾雑物はない。
3. オリブ褐色(2.5Y4/3)	1層と同質、黄褐色粘質土の量が少ない。
1区2号掘立 (基準高さ 74.60m)	
1. 灰オリブ色(5Y4/2)	砂礫を多く混入するが、しまりは強い。
2. 暗オリブ色(5Y4/4)	砂質含みの粘性のある土。しまりは強い。
3. オリブ色(5Y5/6)	砂を含む黄色粘質土。
4. オリブ褐色(2.5Y4/4)	少量の砂礫を混入する。しまりは強い。
5. 暗オリブ褐色(2.5Y3/3)	混入物はほとんどない。土質にしまりを欠く。
6. オリブ褐色(2.5Y4/4)	砂礫を混入し、しまりがある。
7. 暗灰黄色(2.5Y4/2)	夾雑物は含まない。
8. 黄褐色(2.5Y5/6)	夾雑物は含まない。
9. オリブ褐色(2.5Y4/4)	砂礫を混入し、しまりが強い。
10. 暗オリブ褐色(2.5Y3/3)	9層に類似。色調が暗い。
11. オリブ褐色(2.5Y4/4)	砂礫を混入し、しまりが強い。
12. オリブ色(5Y5/6)	砂質を混入する黄色粘質土。
1区3号掘立 (基準高さ 74.60m)	
1. オリブ褐色(2.5Y4/6)	褐色土を主体に明黄褐色(2.5Y6/6)の地山のブロックを混入する。
2. 暗オリブ褐色(2.5Y3/3)	層中に少量の明黄褐色(2.5Y6/6)を混入する。
1区4号掘立 (基準高さ 74.70m)	
1. 暗オリブ褐色(2.5Y3/3)	軽石を多量に含む。粘性がありしまっている。
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト質土が多量に混入。粘性がありしまっている。







G 溝 址

1区1号溝 (付図番号第8図 写真番号P L-41)

本溝はN3・69, O3・50, 60グリッドに位置し北東から南西(N-50°-E)へ向かい、全長は10mである。層序は2層に分類できた。形状は上幅1m・下幅80cm, 深さは31cmである。

1区2号溝 (付図番号第8図 写真番号P L-41)

本溝はN3・69, 79, O3・60グリッドに位置し、北東から南西(N-53°-E)へ向かい、全長はおおよそ17mである。層序は3層に分類できた。形状は上幅84cm・下幅30cm, 深さは26cmである。

埋土中より鉄滓が1点出土。7×4×3cmを測り、重さは22gである。

1区3号溝(8号溝) (付図番号第9図 写真番号P L-42)

本溝はN3・36, 37, 45, 46グリッドに位置し、北東から南西へ向かい、途中で西方へ緩く曲がる。全長はおおよそ19mである。層序は1層に分類できた。

形状は上幅90cm・下幅70cm, 深さは17cmである。

1区5号溝(15号溝・19号溝) (付図番号第9図 写真番号P L-42・44)

本溝はN3・17, 26, 27, 35, 36, 43, 44, 45, 51, 52, 53, 54グリッドに位置し、北東から南西へ向かい途中で緩やかに西方へ曲がる。全長はおおよそ52mである。層序は13層に分類できた。

形状は上幅1m00cm・下幅40cm, 深さは32cmである。

5号溝より石鏃2点出土。N3・51グリッドより工具状の鉄棒が出土している。錆の状態から新しいと考えられる。重さは810gである。

15号溝遺物は土師器・坏(80), 須恵器・高台付坏(81), 甕(82)が出土している。

1区6号溝 (付図番号第9図 写真番号P L-42)

本溝はN3・26, 27グリッドに位置し、西から東(N-88°-W)へ向かい、全長はおおよそ7mである。層序は1層に分類できた。形状は上幅30cm・下幅18cm, 深さは7cmである。

1区7号溝(22号溝) (挿図番号第117図 写真番号P L-42)

本溝はN2・84, 93, 94, N3・03, 04, 05, 06グリッドに位置し、東から西(N-84°-E)へ向かい途中で北方へ屈曲する。全長はおおよそ33mである。層序は13層に分類できた。

形状は上幅90cm・下幅50cm, 深さは16cmである。

N2・94グリッドの埋土中より鉄滓出土。板状の製品で錆が新しく後世の混入と考えられる。重さは23gを計る。

1区9号溝 (付図番号第8図)

本溝はO2・20, 21, O3・30, 31グリッドに位置し、東南東から西北西(N-75°-W)へ向かい、全長はおおよそ6mである。形状は上幅1m40cm・下幅90cm, 深さは27cmである。

1区10号溝 (付図番号第6図)

本溝はO2・50, 51, 60, 70グリッドに位置し、南南西から北北東へ向かい途中緩やかに東方に流れる。全長はおよそ18mである。形状は上幅50cm・下幅20cm、深さは22cmである。

1区11号溝 (付図番号第9図)

本溝はN3・24, 34, 35グリッドに位置し、東南東から西北西(N-72°-W)へ向かい、全長はおよそ8mである。層序は1層に分類できた。

形状は上幅30cm・下幅24cm、深さは6cmである。

1区12号溝 (付図番号第9図)

本溝はN3・53, 54グリッドに位置し、東方から西方(N-85°-E)へ緩く屈曲しながら進む。全長は12mである。層序は1層に分類できた。

形状は上幅34cm・下幅16cm、深さは12cmである。

N3・54グリッドの溝埋土より鉄製品2点出土。大きなものは長さ10cmで刀子状を呈している。両方とも錆多く、合計は83gを計る。

1区14号溝 (付図番号第2図 写真番号PL-43)

本溝はN2・49からN4・67グリッドに位置し、第1河道Cの上を流れる第2河道の東辺に沿うように南から北へ向かって流下し、途中地形に沿って北東から東方へ緩やかに方向を変える。全長はおよそ13.8mである。形状は上幅1m40cm・下幅60cm、深さは20cmである。

遺物は須恵器・高台付坏(74)、蓋(75)、有蓋高坏(79)、土師器・坏(76)、(77)、甕(78)が出土している。

1区16号溝

本溝はN2・65, 76, 87グリッドに位置し、第1河道Bの北側を南東から北西(N-55°-W)へ向かって流れる。

1区18号溝 (付図番号第9図)

本溝はN3・73, 74, 75グリッドに位置し、東方から西方(N-87°-W)へ向かい、全長は17mである。層序は1層に分類できた。形状は上幅36cm・下幅14cm、深さは10cmである。

1区20号溝 (付図番号第8図)

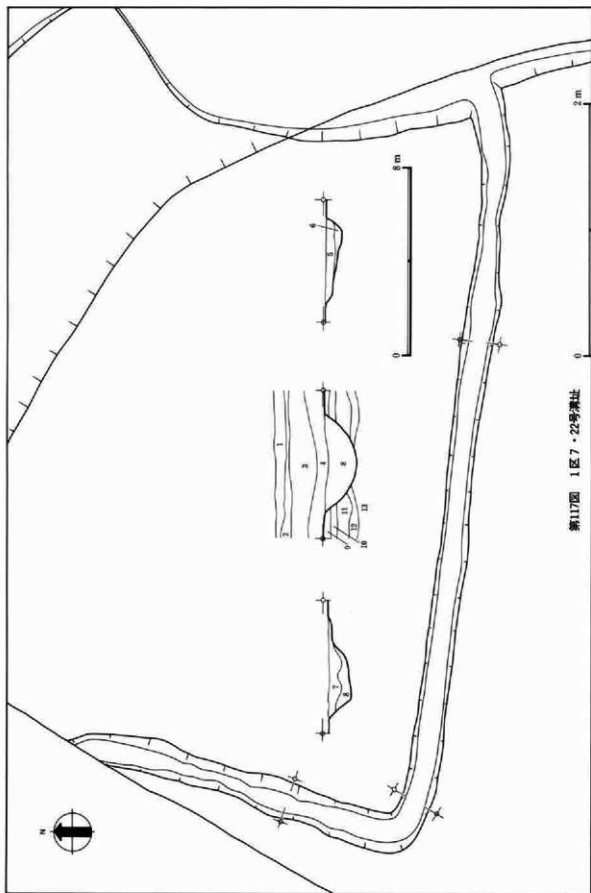
本溝はO3・60, 70グリッドに位置し、東南東から西北西(N-70°-W)へ向かい、全長はおよそ4mである。層序は8層に分類できた。

形状は上幅3m・下幅1m60cm、深さは22cmである。

1区21号溝 (付図番号第9図 写真番号PL-44)

本溝はN3・27, 37グリッドに位置し、北西(N-78°-W)へ向かい、全長はおよそ5mである。

形状は上幅54cm・下幅32cm、深さは16cmである。



第117図 1区7・22号遺址

第Ⅱ章 1区 上栗須築師裏

1区潤土層一覽表

1区1号溝 (基準高さ 77.50m)	
1. 黄褐色(2.5Y3/4)	小礫を混入する。シルト質であるがしまりがある、砂質気味、礫の混入はない。
2. 浅灰色(5Y7/4)	
1区2号溝 (基準高さ 77.40m)	
3. におい黄褐色(10YR5/4)	しまりが強い、小礫を多く混入する。
4. におい黄色(2.5Y6/4)	砂質気味、小礫を混入する。
5. 黄色(5Y7/6)	
1区3号溝 (基準高さ 74.70m・74.80m)	
1. オリーブ色(5Y5/4)	小砂礫を混入し、しまりが強い。
1区5号溝 (基準高さ 74.80m・74.70m)	
2. 黒褐色(2.5Y3/2)	砂礫や軽石を含みきめが粗い。
3. オリーブ褐色(2.5Y4/6)	砂礫を微量含む、粘質をおびる。
4. 灰オリーブ色(5Y5/2)	砂質シルト、下部に鉄分凝集あり。
5. オリーブ褐色(2.5Y4/4)	微小礫10%含む、かたくしまっているが粘性はない。
6. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	小礫を含む、層全体に酸化した鉄分の凝集が認められる、しまって粘性あり。
7. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂と砂利を多量に含む、強い。
8. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂と砂利を多量に含む、強い。
9. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂と砂利を多量に含む、強い。
10. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	6層と同質若干粘質。
11. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	シルト質で酸化した部分もある、粘性あり。
12. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)	砂質で強い。
13. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	11層と同質若干粘質
14. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	7層・9層に砂質部分が多く混入している。
1区6号溝 (基準高さ 74.90m)	
15. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂礫を混入する。粘性は少ないがしまりがある。
1区7号溝 (基準高さ 74.40m・74.60m)	
1. 褐灰色(10YR4/1)	粘性の弱い砂質のシルト層、径2~3mmの白色軽石を含み、径5mmの礫を含む。(最大2~3cm)
2. 明赤褐色(5YR5/8)	粘性の弱い砂質のシルト層、しまっている。径5mmの礫を含み、2~3mmの白色軽石を多く含む。
3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂質のシルト層、2~3mmの礫を含み、3mmの灰白色軽石を含む。
4. 暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質のシルト層、2~5mmの礫や灰色軽石を含む。
5. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂粒と軽石を多く含む。
6. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	1層を主体として黄褐色(2.5Y5/6)の粘質をブロック状に混入する。
7. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	軽石を多量に含む、かたい。
8. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)	シルト質、軽石含む、しまっている。
9. 浅灰色(2.5Y7/4)	粘性の弱いしまったシルト層、2~5mmの礫を含み、1mmの白色粒を含む。
10. 明褐色(7.5YR5/8)	粘性の弱い緻密でしまったシルト層、2~3mmの礫を少量含む。
11. 灰黄褐色(10YR5/2)	粘性のある緻密でしまったシルト層、赤褐色鉄分の凝集が少量みられる。
12. におい黄色(2.5Y6/3)	粘性のある緻密でしまっている、黒褐色で径5mmの鉄分・マンガンとの集積が斑状に入る。
13. 暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘性のある緻密でしまっている粘土層、均一層で他のものをほとんど含まない。
1区11号溝 (基準高さ 74.70m)	
16. オリーブ褐色(2.5Y4/6)	
1区12号溝 (基準高さ 74.90m)	
17. 黄褐色(2.5Y5/6)	細かい砂粒を混入するシルト。
1区18号溝 (基準高さ 74.90m)	
18. オリーブ色(5Y5/6)	シルト質粘土。
1区20号溝 (基準高さ 78.30m)	
6. オリーブ色(5Y5/4)	シルト、白色軽石を微量混入する。
7. 黒褐色(2.5Y3/1)	As-Aを混入する。砂質である。(表土)
8. オリーブ褐色(2.5Y4/4)	土質は緻密である。上半分に軽石粒を多く混入する。
9. オリーブ黄色(5Y6/4)	粘土質気味の土を混入する。
10. 暗褐色(10YR3/3)	シルト質の土でしまりがある。
11. オリーブ褐色(2.5Y4/3)	しまりのない土で小礫を混入する。
12. 明黄褐色(2.5Y6/6)	層中に黄色(5Y7/6)を斑に混入する。きめの粗いシルト質土。
13. 黄色(5Y7/6)	シルト質でしまりが強い。(地山)
	水成のローム質粘土。(地山)

H 土 坑

1区からは104個の土坑が検出された。遺物は2ヶ所に集中する傾向がみられた。第1グループはN2・36グリッドを中心に分布するグループで、第2グループはN3・26を中心に分布するグループである。

縄文時代に帰属する土坑は7基である。北から南へ以下のように分布する。43号土坑と44号土坑は第1グループの南外れに位置する。52号土坑は6号住居の南東寄りに検出された。45号土坑は4号住居の北西に位置する。5号土坑、36号土坑は第2グループの中心部に位置する。

2区の台地上を南から1区の低地部分に1号河道、2号河道が走る。両河道中の埋土から浅間B経石の堆積が認められることから、この河道をめぐる河川の氾濫は11世紀以前と考えることができる。この1号・2号河道の流路の分岐付近に、9号溝から21号溝を結ぶ東西線と、3号溝・6号溝が合流する付近から北へ向かって走る南北線があり、その2本の区画線の北東部分が周辺より20~30cmほど低く、平坦面を形成している。この低い面に集めた水を、3号溝・5号溝・7号溝・16号溝などが更に低い沖積方向に走らせ、水路として使用したと考えた。

この合流点付近に、径1m以上の円形の土坑が20基近く集中している。埋土は単純で近似しており、底面は全体に平坦であった。円形の桶を置いたと考え、詳しく調査をしたが、側板木口の痕跡は検出できなかった。集中する円形で底部が平坦で埋土が近似する土坑は、5・6・7・10・14・15・16・17・18・19・20・21・24・25・26・32の16基である。断面の観察からは、周辺の畑状の遺構が古く、この畑面を切って遠くへ走る溝が次の時期、そして、土坑群が新しい時期と考えることができる。すると、この桶を掘えたと考えられる土坑群は、近世の肥桶を集中して、または長期間継続して置いた場所と考えられる。

1区土坑観察一覧表

1区1・2・4~15号土坑 (博図 第118図)

1区1号土坑 (基準高さ 75.00m)

位置 O3・50 南4.5mに2号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸75cm, 短軸63cm, 深さ30cmを測る。

1. 明黄褐色(2.5Y7/6) 砂質であってしまりはなく、小礫を少量含む。
2. 黒褐色(2.5Y3/1) 土質は1層と同様である。
3. 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質。

1区2号土坑 (基準高さ 77.80m)

位置 O3・60 北4.5mに1号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形
規模 長軸88cm, 短軸60cm, 深さ43cmを測る。長軸方位 N-40°-W

1. 黒褐色(2.5Y3/1) 砂質であってしまりはなく、小礫を少量含む。

1区3号土坑

位置 O3・60, 70 黒色の落ち込みを検出した。調査進行中に溝になることが判明、20号溝と呼びかえている。

1区4号土坑 (基準高さ 74.70m)

位置 N3・14, 15 南東7.0mに34号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸90cm, 短軸83cm, 深さ12cmを測る。

1. オリーブ褐色(7.5Y3/2) 砂質を含む。
2. 暗オリーブ色(5Y4/3) 1層と黄褐色(2.5Y5/6)粘質土の混土。

1区5号土坑 (基準高さ 74.80m)

位置 N3・26 35号土坑と重複 本土坑が新しい。南3.0mに50号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸105cm, 短軸95cm, 深さ18cmを測る。

1. 黄褐色(2.5Y5/4) 砂質である。オリーブ色(5Y6/6)を混入する。

1区6号土坑 (基準高さ 74.80m)

位置 N3・26 西1.5mに5号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
規模 長軸123cm, 短軸108cm, 深さ16cmを測る。

1. 黄褐色(2.5Y5/4) 土質は砂粒含みで均質である。

1区7号土坑 (基準高さ 74.80m)

位置 N3・26 西1.5mに6号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字

第二章 1区 上栗須薬師塚

- 規模 長軸120cm, 短軸110cm, 深さ14cmを測る。
1. 暗オリーブ色(5Y4/4) 砂粒含みの凝土層。
- 1区8号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・26 南西1.5mに7号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸61cm, 短軸58cm, 深さ3cmを測る。
1. 暗オリーブ色(5Y4/4) 砂粒含みの凝土層。
- 1区9・10号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・26 重複関係 9号土坑が新しい。西1.0mに8号土坑, 東4.0mに32号土坑が位置する。平面形状 9号土坑 隅丸長方形, 10号土坑 円形 断面形状 コの字
- 規模 9号土坑は長軸265cm, 短軸87cm, 深さ37cmを測る。10号土坑は長軸125cm, 短軸115cm, 深さ22cmを測る。長軸方位 N-3°W
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂粒含み黄褐色(2.5Y5/6)をブロック状に混入する。
2. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂質土と黄褐色粘質土の凝土。
3. オリーブ褐色(5Y3/2) 砂粒含み。
- 1区11号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・36 南東2.5mに26号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸72cm, 短軸66cm, 深さ17cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂を多く含む。土質は均一であって混入土はない。
- 1区12・13号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・26 重複関係 12号土坑が新しい。平面形状 12号土坑 隅丸長方形, 13号土坑 変形円形 断面形状 コの字
- 規模 12号土坑は長軸117cm, 短軸94cm, 深さ6cmを測る。13号土坑は長軸85cm, 短軸68cm, 深さ9cmを測る。長軸方位 N-44°E
1. オリーブ褐色(7.5Y3/2) 砂粒を多量に含み、さくさくとしたしまりのない土。
2. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 少量の砂を含む粘性土。
- 1区14号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・36 S1号土坑と重複 本土坑が新しい。北東3.0mに11号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸111cm, 短軸110cm, 深さ30cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂粒含みの土である。黄褐色粘質土を塊ら状に混入する。
- 1区15号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・26 東2.0mに12号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸127cm, 短軸117cm, 深さ13cmを測る。
1. 暗褐色(10Y2/4) 少量の砂粒を含むしまりのある土。明黄褐色(2.5Y6/8)の粘質土を混入する。
- 1区16-28号土坑 (詳細 第119図)
- 1区16号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・16, 26 南西2.0mに15号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸106cm, 短軸95cm, 深さ9cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 白色軽石粒を含む。砂礫を少量含み、しまりがある。
- 1区17号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・16 南東2.0mに16号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸116cm, 短軸110cm, 深さ20cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 白色軽石粒を含む。砂礫を少量含み、しまりがある。
- 1区18号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・16 北東2.5mに21号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸125cm, 短軸107cm, 深さ24cmを測る。
1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 少量の砂粒を含む。しまりあり。上層は黄色味をおびて明るい。
- 1区19号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・16 南西2.5mに17号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸107cm, 短軸106cm, 深さ9cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/6) 砂礫を少量含む。
- 1区20号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・16 南1.5mに18号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸88cm, 短軸83cm, 深さ6cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 土は細かくしまりがある。砂礫や白色バミスを少量混入する。
- 1区21号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・16 南2.0mに19号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸100cm, 短軸91cm, 深さ10cmを測る。
1. 黄褐色(2.5Y5/4) 少量の砂粒を含み、しまりがある。
- 1区22号土坑 (基準高さ 74.80m)
- 位置 N3・25 北東9.0mに20号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
- 規模 長軸88cm, 短軸77cm, 深さ6cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 土は細かくしまりがある。砂礫や白色バミスを少量混入する。
- 1区23号土坑 (基準高さ 74.60m)
- 位置 N3・23 東6.5mに28号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
- 規模 長軸72cm, 短軸68cm, 深さ16cmを測る。

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) きめの粗い、さくさくとしたしまりのない土。
- 1区24号土坑 (基準高さ 74.80m)
位置 N 3・36 南西25.5mに30号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸151cm, 短軸145cm, 深さ20cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂礫を含みでしまりがある。[人為的埋土]
- 1区25号土坑 (基準高さ 74.80m)
位置 N 3・37 西9.5mに24号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸140cm, 短軸120cm, 深さ25cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂礫含みのしまりのある土を主体として、明黄褐色(2.5Y6/8)のシルト質ロームを覆状に混入する。
- 1区26号土坑 (基準高さ 74.80m)
位置 N 3・36, 37 南0.5mに25号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
規模 長軸143cm, 短軸115cm, 深さ15cmを測る。
1. オリーブ色(5Y5/4) 小砂礫を混入する。(8号溝埋土)
2. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 砂礫を混入し、しまりがある。
- 1区27号土坑 (基準高さ 74.70m)
位置 N 3・24, 34 北東10.0mに4号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸140cm, 短軸120cm, 深さ47cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 砂礫含みのしまりのある土。黄褐色(2.5Y5/6)粘土層をブロック状に混入する。上層は白色軽石粒を含む。
- 1区28号土坑 (基準高さ 74.70m)
位置 N 3・24 南東2.5mに27号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸107cm, 短軸90cm, 深さ32cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/6) 砂礫含みでしまりが強い。黄褐色(2.5Y5/6)粘質土の崩落土を塊状に少量含む。上層は白色軽石含む。
- 1区29号土坑
位置 N 3・66 1号住居の北西隅外側付近より遺物を検出した。検出高は約74.56mである。遺物は須恵器・灰(7)が出土している。土坑と考えたが範囲を 確認することができなかった。
- 1区30～43号土坑 (押洞 第102段)
- 1区30号土坑 (基準高さ 74.90m)
位置 N 3・75 南西13.5mに33号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸73cm, 短軸63cm, 深さ12cmを測る。
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質を含みでしまりがある。黄褐色を斑点状に混入する。上層に軽石の混入が見られる。
- 1区31号土坑 (基準高さ 74.70m)
位置 N 2・94, N 3・94 西7.5mに65号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸98cm, 短軸95cm, 深さ41cmを測る。
1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 多くの軽石を混入する。しまりのある砂質土。
2. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 1層と黄褐色(2.5Y5/6)粘質土の混入。
3. 黄褐色(2.5Y4/3) 少量の砂を混入する粘質土。鉄分の凝集あり。
- 1区32号土坑 (基準高さ 74.40m)
位置 N 3・27 南西5.0mに26号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸170cm, 短軸156cm, 深さ24cmを測る。
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 多くの砂を混入する。下底部に砂含みの黄褐色(2.5Y5/6)粘質土の崩土が混入する。
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 1層と砂礫の混入。
- 1区33号土坑 (基準高さ 74.90m)
位置 N 3・83 北東13.5mに39号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字
規模 長軸142cm, 短軸97cm, 深さ10cmを測る。長軸方位 N-86°W
1. オリーブ褐色(2.5Y4/6) 粘性のあるしまりのある土。軽石を混入する。
- 1区34号土坑 (基準高さ 74.60m)
位置 N 3・25 東2.0mに22号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 円弧
規模 長軸242cm, 短軸210cm, 深さ23cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 粘性をおびたしまりのある土。小砂礫を混入する。地山はオリーブ色(5Y6/6)のシルト質粘土。
- 1区35号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 74.60m)
位置 N 3・26 5号土坑と重複 本土坑が古い。南2.5mに50号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸165cm, 短軸150cm, 深さ52cmを測る。
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 小砂礫を多く混入している。質は粘性をおび、しまりがある。
- 1区36号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 74.60m)
位置 N 3・35 東7.5mに51号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸130cm, 短軸128cm, 深さ45cmを測る。
1. オリーブ褐色(2.5Y4/6) シルト質であるがきめが粗い。小砂礫を混入する。
- 1区37号土坑 (基準高さ 74.20m)
位置 N 2・56 2号住居と重複 本土坑が新しい。南西1.0mに38号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
規模 長軸23cm, 短軸36cm, 深さ13cmを測る。
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土。しまっている。径7mmの炭化物を含む。径5mmの礫を含む。

第II章 1区 上栗須楽師画

2. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土、しまっている。黄褐色ロームを含む。径5mmの礫を含む。
- 1区38号土坑 (基準高さ 74.20m)
位置 N 2・56, 66 西7.0mに118号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
規模 長軸96cm, 短軸73cm, 深さ9cmを測る。
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性のある砂質土、しまっている。径5mm~1cmの礫を含む。径2mm~3mmの焼土・炭化物を含む。
- 1区39号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・56 南東0.5mに37号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
規模 長軸53cm, 短軸48cm, 深さ18cmを測る。
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土、しまっている。黄褐色のロームを混入含む。径5mmの礫・3mmの焼土・炭化物を含む。
2. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 粘性のないシルト質の砂、しまっている。径5mm~1cmの礫を含む。
- 1区40号土坑 (基準高さ 75.50m)
位置 N 2・47 南西4.0mに111号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸113cm, 短軸97cm, 深さ16cmを測る。
1. 黒褐色(7.5YR3/1) 黄色(2.5Y8/8)のローム粒(細粒)との混土層で軽石を上層部に多く含む。遺物は土器・灰(72)が出土している。
- 1区41号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・57 2号住居と重複 本土坑が新しい。西7.5mに43号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸80cm, 短軸71cm, 深さ12cmを測る。
1. 黒褐色(2.5Y3/1) オリーブ褐色(2.5Y4/3)が混入している。粘性のある砂質土、しまっていない。底面には焼土を含む。
- 1区42号土坑 (基準高さ 75.50m)
位置 N 2・09 南西9.0mに115号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円錐
規模 長軸91cm, 短軸78cm, 深さ10cmを測る。
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 粘質土層。少量のロームブロック細粒を含む。
- 1区43号土坑【縄文土坑】(基準高さ 75.50m)
位置 N 2・56 南東2.0mに39号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
規模 長軸90cm, 短軸58cm, 深さ21cmを測る。
1. 暗赤灰色(2.5YR3/1) 砂質土・焼土・灰を少量含む。
2. 黄色(5Y8/6) ローム質土(砂っぽい)。灰色粘土ブロックを少量含む。
- 1区44・45・48~60号土坑 (縄目 第121回)
1区44号土坑【縄文土坑】
位置 N 2・56 2号住居と重複 本土坑が古い。東13.5mに49号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
規模 長軸56cm, 短軸53cm, 深さ16cmを測る。
口縁部が欠損した埋め蓋が出土した。土坑の掘り方、土器の掘入方を検討したが、明らかにすることができなかった。
- 1区45号土坑【縄文土坑】(基準高さ 75.20m)
位置 O 2・50 西25.5mに41号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸52cm, 短軸49cm, 深さ14cmを測る。
1. 褐色(10YR4/4) 砂礫層でしまりを欠く。
2. 褐色(10YR4/4) 1層と同じ。藍方の壁は弱く残っている。
3. 黒褐色(10YR3/2) 地山層。砂礫の混土。
- 1区46号土坑【縄文土坑】
位置 N 2・28
11号住居の北東方向に位置する。周辺には大量の縄文土器・石器が散布していた。本土器が出土した東西幅1.7m、南北長さ2.5mの楕円形の範囲からは、縄文土器片61点・縄文石器片37点と集中がみられた。土器の集中範囲だけで、土坑と確かめるための、落ち込みや土層の色調変化はみられなかった。
- 1区47号土坑
位置 O 2・50
45号土坑の北側2m付近より、縄文土器・石器・土器器・須器器が高さ74.5mで1.4m×2mの範囲で出土した。須器器・鉢(73)が出土している。土坑として検討したが土坑の輪郭は不明であった。
- 1区48号土坑 (基準高さ 73.90m)
位置 N 2・59 17号住居と重複 本土坑が新しい。南東12.0mに45号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
規模 長軸72cm, 短軸59cm, 深さ9cmを測る。
1. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘性のない砂質土、しまっている。径7mmの礫を多く含む。
- 1区49号土坑 (基準高さ 73.90m)
位置 N 2・49 南1.0mに48号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
規模 長軸92cm, 短軸55cm, 深さ11cmを測る。
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。焼土・炭化物・黄褐色ローム塊・径5mmの礫を含む。
- 1区50号土坑 (基準高さ 74.50m)
位置 N 3・35, 36 南西5.0mに36号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
規模 長軸210cm, 短軸188cm, 深さ40cmを測る。
1. 黒褐色(2.5Y3/2) 砂粒を多く含む。
2. 明黄褐色(2.5Y6/6) 少量の砂を混入するシルト質土。

1区51号土坑 (基準高さ 74.50m)

位置 N3・36 14号土坑と重複 本土坑が古い。北東3.5mに11号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
規模 長軸153cm, 短軸142cm, 深さ78cmを測る。

1. 黄褐色(2.5Y5/4) 2~3mmの砂礫を少量混入した少し粘りみのある土。
2. オリーブ色(5Y6/6) シルト質粘土。しまりがある。黄褐色粘質土(2.5Y5/6)を含む。
3. オリーブ色(5Y5/6) 2層と同質であるが、色調が濃い。
4. 明黄褐色(2.5Y6/8) シルト質粘土。黄褐色粘質土(2.5Y5/6)を含む。
5. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 数mmから1cmほどの砂礫と4層のブロックを混入する
6. 明黄褐色(2.5Y6/6) 砂層。
7. 明黄褐色(2.5Y6/6) 少量の砂を混入したシルト質粘質土。

1区52号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・96 南西8.0mに55号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸113cm, 短軸106cm, 深さ34cmを測る。

1. オリーブ黒色(5Y3/2) 砂礫を混入する。炭化物をまばらに多く混入する。
2. オリーブ色(5Y5/4) 1層と地山(オリーブ色5Y6/6)の混土。

1区53号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・95, 東4.0mに52号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形
規模 長軸207cm, 短軸172cm, 深さ40cmを測る。

1. オリーブ黒色(5Y3/2) 砂と白色軽石を混入する。
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 質は1層と近似し、縄文の遺物を包含する。

1区54号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・95 西3.0mに31号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸60cm, 短軸57cm, 深さ44cmを測る。

1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂粒と白色軽石を混入する。
2. オリーブ黄色(5Y6/4) シルト質土。鉄分の凝集がある。
3. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。粘土質シルト。

1区55号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・95 南西1.5mに54号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸42cm, 短軸42cm, 深さ20cmを測る。

1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) シルト質。
2. 明黄褐色(2.5Y7/6) きめの細かなシルト質土。
3. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。

1区56号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・95 東3.0mに53号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸50cm, 短軸46cm, 深さ11cmを測る。

1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) シルト質であるが細砂を混入する。
2. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。

1区57号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・85, 95 南西2.0mに56号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸150cm, 短軸130cm, 深さ17cmを測る。

1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) シルト質。少量の砂を混入する。
2. 明黄褐色(2.5Y6/6) 白色粘土質シルトを混入する。
3. 黄褐色(2.5Y5/6) 地山層

1区58号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・85 南東0.5mに57号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸45cm, 短軸43cm, 深さ20cmを測る。

1. 灰黄褐色(10YR4/2) シルト質であるが砂を混入する。
2. 黄色(5Y7/6) シルト質。
3. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。

1区59A号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・85 6号住居と重複 本土坑が新しい。南2.0mに58号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
規模 長軸90cm, 短軸50cm, 深さ14cmを測る。長軸方位 N-54°W

1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂を多く混入する。
2. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。

1区59B号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・85 6号住居と重複 本土坑が新しい。北東0.5mに59A号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
規模 長軸44cm, 短軸25cm, 深さ7cmを測る。長軸方位 N-33°W

1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂を多く混入する。
2. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。

1区60号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N2・85 6号住居と重複 本土坑が新しい。南東1.5mに59B号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
規模 長軸115cm, 短軸59cm, 深さ50cmを測る。長軸方位 N-53°E

第二章 1区 上栗須家部裏

1. 黄褐色(2.5Y5/4) 砂を含むシルト。
 2. 黄色(5Y7/6) シルト質。
 3. オリーブ色(5Y6/6) 地山層。
- 1区61～66号土坑 (柳園 第122回)
- 1区61号土坑 (基準高さ 74.20m)
- 位置 N 2・85 6号住居、2号竪立P4と重複 本土坑は6号住居より新しく、P4より古い。 南西2.0mに60号土坑が位置する。 平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸120cm, 短軸105cm, 深さ30cmを測る。
1. 灰黄色(2.5Y6/2) 砂質土。
 2. 灰黄色(2.5Y6/2) 砂質土。
 3. 灰黄色(2.5Y6/2) 砂質土。
 4. 灰黄色(2.5Y7/2) 地山層、一部ローム質。
- 1区62号土坑 (基準高さ 73.90m)
- 西19.5mに134号土坑が位置する。 平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸177cm, 短軸162cm, 深さ42cmを測る。
1. におい黄色(2.5Y6/3) 粘性土、緻密でしまっている。黒褐色で5mm程度の鉄分・マンガンの析出層で径1.7mの円形を呈する。深さは30cmである。埋土の検討はしていない。
- 1区63号土坑 (基準高さ 74.60m)
- 位置 N 3・03 南14.5mに23号土坑が位置する。 平面形状 楕円形 断面形状 円錐
- 規模 長軸178cm, 短軸75cm, 深さ14cmを測る。 長軸方位 N-72°W
1. 黒褐色(10YR3/2) しまっているが密でない。軽石を含む。焼土層も含む。
- 1区64号土坑 (基準高さ 74.20m)
- 位置 N 2・26 南西0.7mに132号土坑が位置する。 平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸188cm, 短軸177cm, 深さ20cmを測る。
1. におい黄褐色(10YR4/3) しまっている。褐色土ブロック少量混入。
 2. におい黄褐色(10YR4/3) 褐色土ブロック(大)が多量に混入。
- 1区65号土坑 (基準高さ 74.60m)
- 位置 N 2・93, N 3・03 南西0.5mに107号土坑が位置する。 平面形状 不定形 断面形状 Uの字
- 規模 長軸121cm, 短軸68cm, 深さ21cmを測る。 長軸方位 N-63°E
1. 黒褐色(2.5Y3/2) 軽石を多量に含む。しまっている。
 2. 黒褐色(2.5Y3/2) 軽石を含むが若干粘性あり。
- 1区66号土坑 (基準高さ 74.20m)
- 位置 N 2・36 南西2.0mに125号土坑が位置する。 平面形状 楕円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸197cm, 短軸92cm, 深さ21cmを測る。 長軸方位 N-36°W
1. オリーブ黄色(5Y6/4) 自然堆積土層、砂質土層
- 北西から南東に長軸を持つ。長軸長さ2m・短軸長さ1m・深さ15cmを測る。埋土の検討はしていない。
- 1区67号土坑
- 位置 N 3・48
- 発掘中高さ約74.00m, 2m×2mの範囲に土師器・須恵器が一括出土した。第2号河道の埋没土からの出土と考えられる。土師器・甕(117)(125), (126), 環(118), (119), (120), (121), (122), (123), (124), 須恵器・横瓶(127), 甕(128), (129), (130), (131), (132), (133), 蓋(134), 鉢(135)が出土している。
- 1区68号土坑
- 位置 N 2-65, 75
- 大量の縄文土器・石器が出土した。本地域は南側に6号・23号の縄文住居址が切り合っており存在し、北側には奈良時代の5号住居址が存在する。本土器が完存して出土したため土坑と考えたが、調査検討の結果第1号河道(新設)の底面(高さ約74m)からの出土と、考えたほうがよさそうである。
- 1区106～117号土坑 (柳園 第123回)
- 1区106号土坑 (基準高さ 74.70m)
- 位置 N 3・42 北東15.0mに23号土坑が位置する。 平面形状 円形 断面形状 Vの字
- 規模 長軸21cm, 短軸21cm, 深さ10cmを測る。
1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 軽石を多量に含む。粘性がありしまっている。
- 1区107号土坑 (基準高さ 74.60m)
- 位置 N 2・83 N 3・03 南西3.0mに63号土坑が位置する。 平面形状 円形 断面形状 コの字
- 規模 長軸43cm, 短軸40cm, 深さ11cmを測る。
- 1区108号土坑 (基準高さ 74.16m)
- 位置 N 2・56 南東4.5mに44号土坑が位置する。 平面形状 円形 断面形状 Uの字
- 規模 長軸48cm, 短軸41cm, 深さ30cmを測る。
1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
 2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
 3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土、軟質土。
 4. におい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。

1区109号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 110号土坑と重複 新旧関係は不明 南西2.0mに122号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸49cm, 短軸48cm, 深さ36cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土, 軟質土。

1区110号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 109号土坑と重複 新旧関係は不明 南西2.0mに122号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸50cm, 短軸45cm, 深さ12cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土, 軟質土。

1区111号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 北西2.0mに113号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸56cm, 短軸51cm, 深さ23cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区112号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 南2.0mに110号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸48cm, 短軸48cm, 深さ26cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土, 軟質土。

1区113号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 南西1.5mに112号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸55cm, 短軸48cm, 深さ29cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区114号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36, 46 南東3.0mに40号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸51cm, 短軸45cm, 深さ8cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区115号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・08, 18 南西3.5mに144号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
規模 長軸97cm, 短軸60cm, 深さ17cmを測る。

1. におい黄褐色(10YR4/3) 褐色土ブロック多量に混入, しまっている。

1区116号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 南西2.5mに66号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
規模 長軸27cm, 短軸26cm, 深さ7cmを測る。

1. におい黄褐色(10YR3/4) しまっている。

1区117号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・37 西2.0mに129号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸48cm, 短軸48cm, 深さ12cmを測る。

1. におい黄褐色(10YR3/4) しまっている。

1区119-129号土坑 (押戻 第124図)

1区119号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・17 南3.0mに138号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 Uの字
規模 長軸30cm, 短軸27cm, 深さ15cmを測る。

1区120号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・45, 55 東2.5mに108号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸60cm, 短軸54cm, 深さ23cmを測る。

1区121号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 南西1.5mに120号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸56cm, 短軸55cm, 深さ20cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区122号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・46 南1.0mに121号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸47cm, 短軸43cm, 深さ23cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む, 粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土, 軟質土。

第II章 1区 上栗須築師裏

1区123・124号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・36, 46 南東1.5mに113号土坑, 東2.5mに126号土坑が位置する。平面形状 123号土坑 円形, 124号土坑 楕円形 断面形状 Uの字

規模 123号土坑は長軸74cm, 短軸70cm, 深さ36cmを測る。124号土坑は長軸64cm, 短軸48cm, 深さ25cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土。軟質土。

1区125号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 南1.5mに124号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字

規模 長軸41cm, 短軸40cm, 深さ8cmを測る。

1. におい黄褐色(10YR4/3) しまっている。

1区126号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 南東1.0mに114号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧

規模 長軸21cm, 短軸20cm, 深さ6cmを測る。

1. におい黄褐色(10YR4/3) しまっている。

1区127号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 南東3.0mに116号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧

規模 長軸56cm, 短軸50cm, 深さ24cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土。軟質土。

1区128号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 南西2.5mに127号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧

規模 長軸36cm, 短軸31cm, 深さ11cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土。軟質土。

1区129号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 南0.5mに128号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字

規模 長軸47cm, 短軸32cm, 深さ36cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土。軟質土。

1区130～136・141～145号土坑 (挿図 第125図)

1区130号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36 東0.5mに131号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形

規模 長軸58cm, 短軸50cm, 深さ25cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区131号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・36, 37 南東1.0mに117号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字

規模 長軸44cm, 短軸40cm, 深さ32cmを測る。

1. におい黄褐色(10YR4/3) 褐色土ブロック多量に含む。
2. 暗褐色(10YR3/3) 褐色土ブロック少量含む。
3. 暗褐色(10YR3/3) 軟質土。
4. におい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。

1区132号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・26 西0.5mに133号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字

規模 長軸42cm, 短軸37cm, 深さ5cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区133号土坑 (基準高さ 74.20m)

位置 N 2・26 南東2.0mに130号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字

規模 長軸24cm, 短軸23cm, 深さ16cmを測る。

1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区134号土坑 (基準高さ 74.10m)

位置 N 2・27 北西1.0mに64号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字

規模 長軸38cm, 短軸36cm, 深さ26cmを測る。

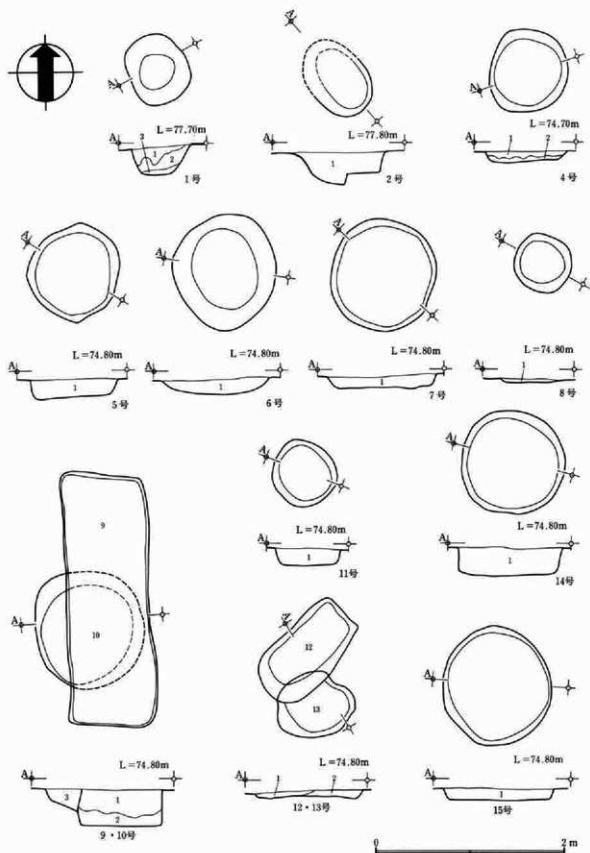
1. 暗褐色(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。

1区135号土坑 (基準高さ 74.20m)

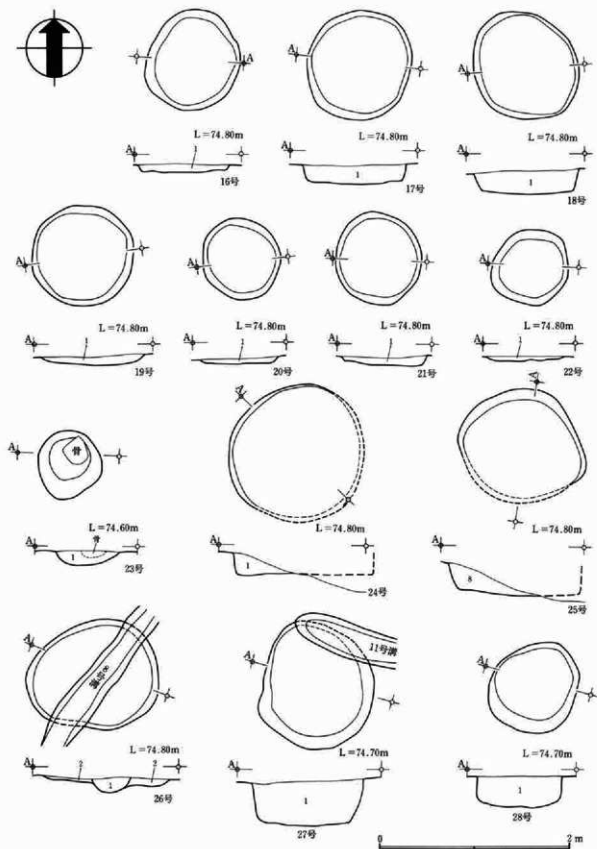
位置 N 2・27 南東2.0mに136号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字

規模 長軸25cm, 短軸23cm, 深さ12cmを測る。

1. にぶい黄褐色(10YR4/3) しまっている。
- 1区136号土坑 (基準高さ 74.20m)
位置 N 2・27 北東2.5mに139号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸24cm, 短軸20cm, 深さ12cmを測る。
1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 軽石を多量に含む。粘性がありしまっている。
- 1区141号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・17, 18 西4.0mに119号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
規模 長軸96cm, 短軸66cm, 深さ39cmを測る。
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土、軽石を含む。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) 軟質土。
- 1区142号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・18 南西1.0mに141号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
規模 長軸66cm, 短軸50cm, 深さ14cmを測る。
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) 軽石を含む。しまっているが砂質。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) 1層に比べて粘質。
3. 褐色(10YR4/4) しまっている。
- 1区143号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・18 南西1.5mに142号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
規模 長軸52cm, 短軸48cm, 深さ15cmを測る。
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) 軽石を含む。しまっているが砂質。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) 1層に比べて粘質。
- 1区144号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・18 南西1.5mに143号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸45cm, 短軸42cm, 深さ30cmを測る。
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土、軽石を含む。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト質で粘性あり。
- 1区145号土坑 (基準高さ 74.10m)
位置 N 2・17 東2.6mに143号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
規模 長軸47cm, 短軸47cm, 深さ50cmを測る。
1. 暗褐色(10YR3/3) 褐色土ブロック混入する。
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト質の褐色土ブロック混入する。
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土、軟質土。

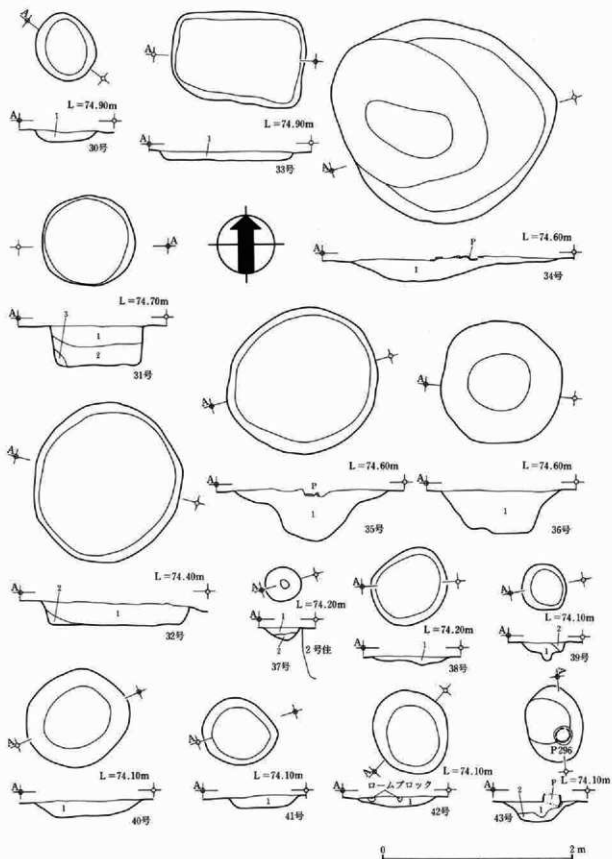


第118图 1区1·2·4~15号土坑

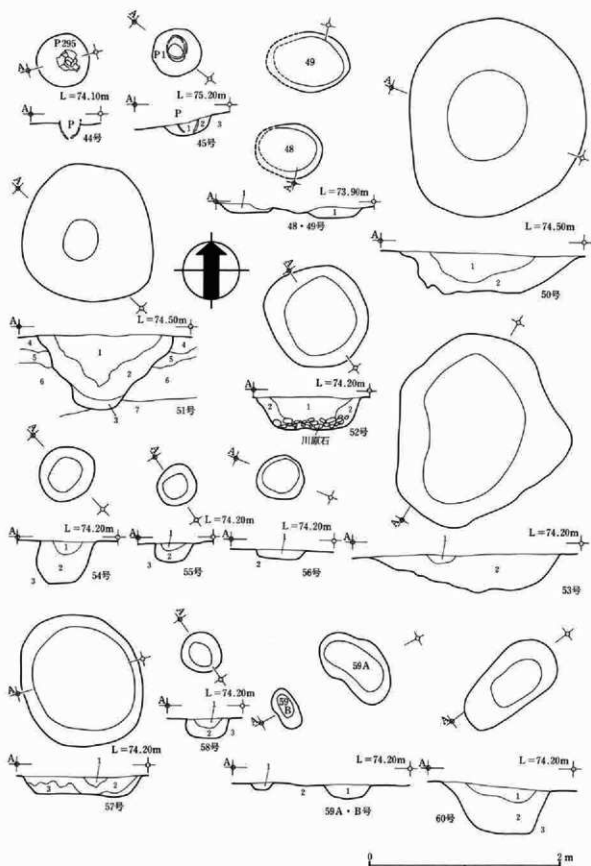


第119図 1区16~28号土坑

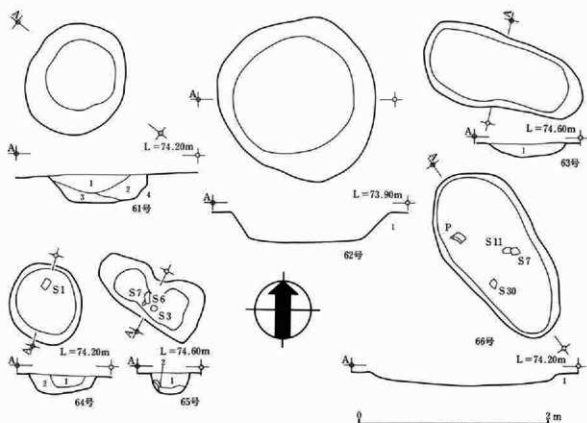
第II章 1区 上梁須臾節裏



第120図 1区30~43号土坑



第121图 1区44・45・48~60号土坑



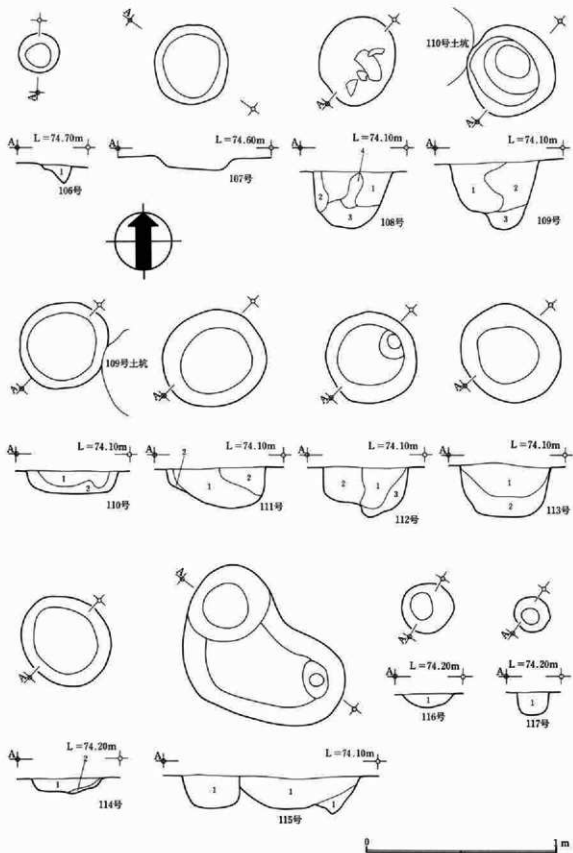
第122図 1区61～66号土坑

第1区の発掘区から検出された土坑について細かく検討してみる。

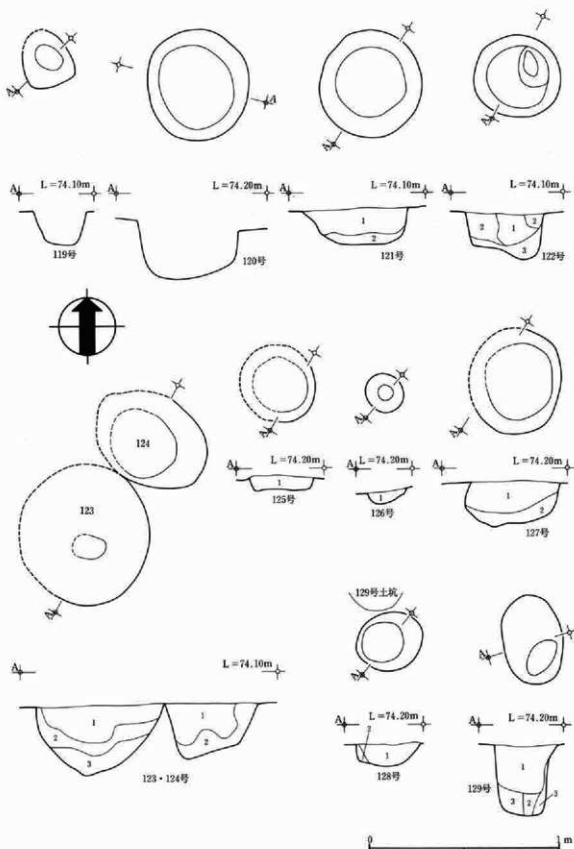
1区から検出された土坑は、第1号土坑から第68号土坑までの69基、第106号土坑から第117号土坑までの12基、第119号土坑から第136号土坑までの18基、そして、第141号土坑から第145号土坑までの5基である。合計で104基を数える。

これらの土坑は以下のような分布を示す。2区の台地の先端は、1区の東側に舌状に回り込み西側へ向かって傾斜して、低地部分に向かう。この台地の縁辺に1号溝、2号溝が同一方向に平行して走る。台地縁辺に平行する、しないが、やや逆方向に向かって下る。この両方の溝の高い部分の先端近くに、1号土坑、2号土坑が分布する。2区の崖下にあたる1号A河道の右岸に33号土坑が位置する。3号掘立柱建物址の南東柱穴軸線で、18号溝の東端の位置に30号土坑が位置する。4号掘立柱建物址の南側の東西柱列の東側に106号土坑が位置する。23号土坑は高Bと高Cの間に位置する。27号土坑と28号土坑は畝Cの中に2個並んで検出され、円形の底面は平坦に残り、桶を埋置したように考えられた。畝Cより明らかに新しい土坑埋土である。5号土坑と36号土坑は、埋土は縄文土器を含む古い土層である。4号土坑は畝Dの東南部に位置する。6、7、10号土坑、14～22号土坑、24～26号土坑、32号土坑は平面形が円形で平坦な底面の一群で、肥桶を置いたと考えられる。これらの一群に混在して8、9、11～13号土坑、34、35号土坑、50、51号土坑がある。楯列の外内に肥桶の土坑と考えた31、57、61号土坑が集合し、周辺に多様な土坑53～56号土坑、58～60号土坑、63、65、107号土坑が分布する。縄文遺構6号住居址の南東方向に縄文土坑と考える52号土坑が位置する。さらに、43号土坑と44号土坑は縄文土坑で近接して分布する。また、縄文遺構4号住居址の北側に45号土坑が位置する。発掘区の北西壁寄りには小規模な土坑が集中的に分布し、さらに西への広がり不明である。

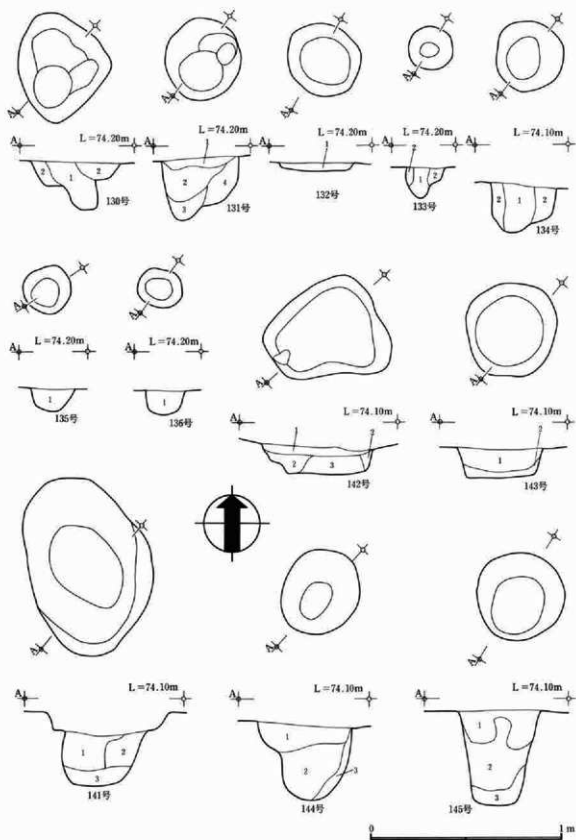
1 遺 跡



第123图 1区106~117号土坑



第124图 1区119~129号土坑



第125图 1区130~136·141~145号土坑

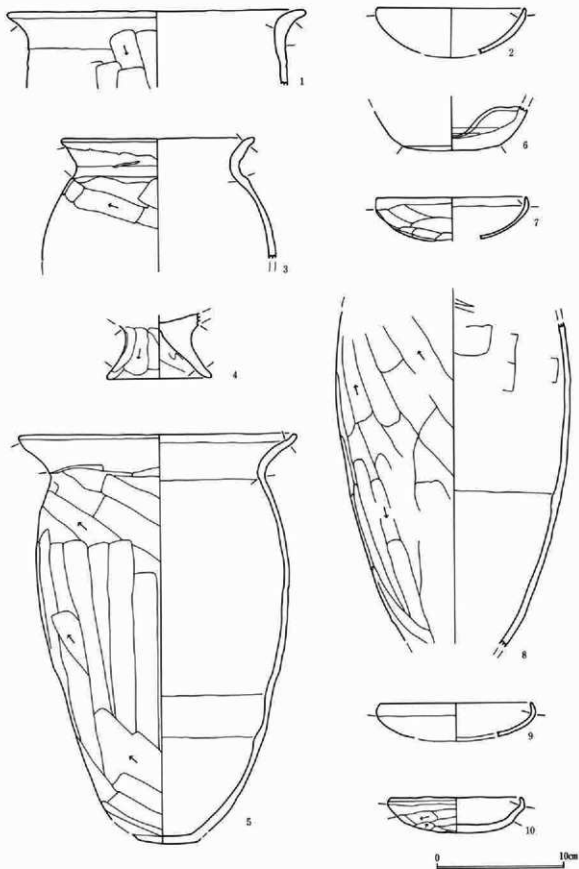
2 遺物

本遺跡から出土した土器は土師器と須恵器に大別される。

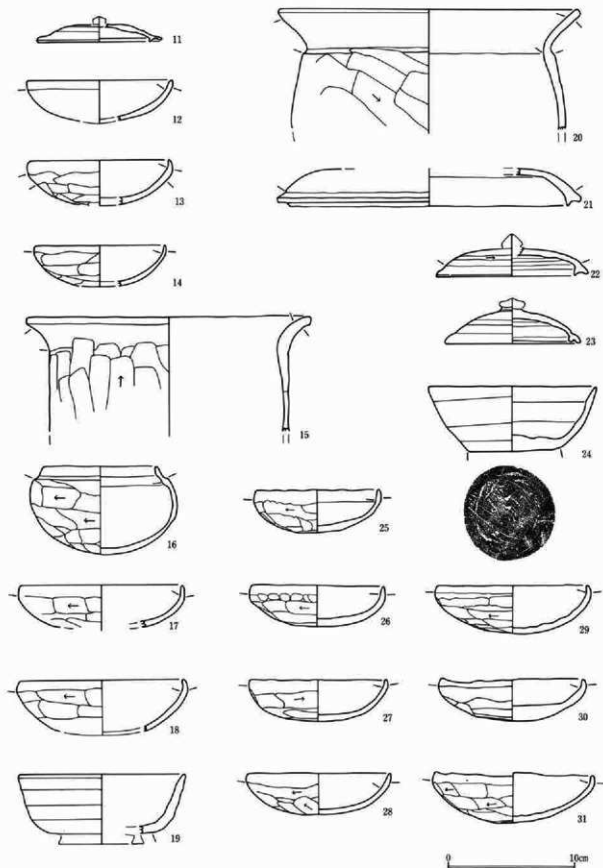
土師器は用途別に、煮沸用の甕類と食器としての埴、坏、高坏、鉢に区分される。甕は器形によって長甕、丸甕、台付甕に分けられる。長甕は胴径20cm以上の大型品(代表例142)、胴径18cm前後の中型品(代表例161)、胴径14cm前後の小型品(代表例88)に細分される。丸甕は胴径30cm前後の大型品(代表例126)、胴径20cm以上の中型品(代表例237)、胴径17cm前後の小型品(代表例3)に細分される。小型甕は最大径12cmの円球の底部にすぼまる頸部を持ち、短く立ち上がる口縁部を持つ(代表例153)。台付甕は脚部のみで甕を復元するに足る資料はなかった。甕の大型品、小型品を想定できない(代表例201)。埴は最大径18cm前後の大型品(代表例137)、最大径15cm前後の中型品(代表例174)、最大径12cm前後の小型品(代表例29)に細分される。この遺跡出土の埴は少ない。古墳時代の須恵器の模倣埴(代表例242)と、律令期から出土する須恵器の模倣埴(代表例204)に分けられる。高坏は須恵器の無蓋高坏の模倣である(代表例111)。鉢は底部の丸い体部を持ち、くびれて開く口縁部を持つ。大型品で口縁部径は23cmを測る(代表例290)。

須恵器は用途別に、貯蔵用の甕、広口甕と煮沸具として羽釜、食器としての長胴甕、球形甕、長頸甕、有蓋高坏、無蓋高坏、有蓋坏、坏、高台坏、播鉢、鉢、横瓶、甕、文具として硯に区分される。甕は胴径35cm以上の大型品(代表例140)、胴径30cm前後の中型品(代表例41)、胴径20cm前後の小型品(代表例130)に細分される。広口甕が1点出土している。口の広い折り返しの短い口縁を持ち、胴上半に最大幅がくる。底部が欠損しているが平底になるものと考えられる(代表例193)。羽釜の組み合わせは甕と釜部に分けられるが、本遺跡出土の羽釜は釜部である。羽釜としては古式のもので、口縁部は内斜して鋭く切れ、鈿部は短い。体部の上半はロクロ成形の痕跡が残る下半部はヘラケズリを施す(代表例70)。長胴甕は胴径20cm前後の大型品(代表例182)、胴径10cm前後の小型品(代表例104)、球形甕は胴径15cm前後の横張りの器形(代表例231)である。長頸甕は多様である。肩部は強く張って平底にいたるもの(代表例107)、甕で肩の肩部の稜は胴中位まで下がり、肩部に刺突文を施すもの(代表例195)、脚部は折り返し口縁状を呈するもの(代表例109)などである。有蓋高坏は口径25cm程の大型品で、いずれも完存せず、蓋部と坏部は口縁部の返りの形状で区分してある(蓋部は代表例112、坏部は代表例326)。無蓋高坏の出土点数が少なく、口径は15cmを復元し脚部の底径は9cmで甕の口唇部を思わせる(代表例227)。有蓋坏の蓋部は口径21cmの大型品(代表例207)と、口径12cmの小型品(代表例143)に区分される。大型の有蓋坏の蓋部に対応する、底径が大きく短い高台の付く坏部の出土はない。坏は全体に13cmを前後し、底部切り難し技法が、糸切りだけのもの(代表例177)と同転ヘラケズリのもの(代表例43)、手持ちヘラケズリのもの(代表例92)に区分される。高台坏はいずれも底部糸切りが残り、9世紀以降のものである(代表例189)。播鉢は体部が欠損し、肉厚のある底部のみである(代表例55)。鉢は3種類に分けらる。鉄鉢型を呈し底部が欠損し、焼き歪みが激しく外面に自然釉が付着しているもの(代表例61)と、口縁部23cmを測る中型の鉢で、体部から直線的に開く形態を呈するもの(代表例73)、口径31cmを測る大型品で、大きく平らな底部から斜め直線に立ち上がる体部を持ち、短い口縁が更に屈曲して外方に開くもの(代表例135)である。横瓶は全体を復元するにはやや部品が不足するが、胴部の短径21.5cm、長径33cmを測る(代表例127)。甕は古墳からの出土で完形品、極めて優秀な作品である。5世紀後半で累外からの搬入品であろう(代表例230)。硯は片面硯の脚部で1/5程の残存率である。脚部の面取りは鋭く、長方形の窓は21個に復元された(代表例116)。

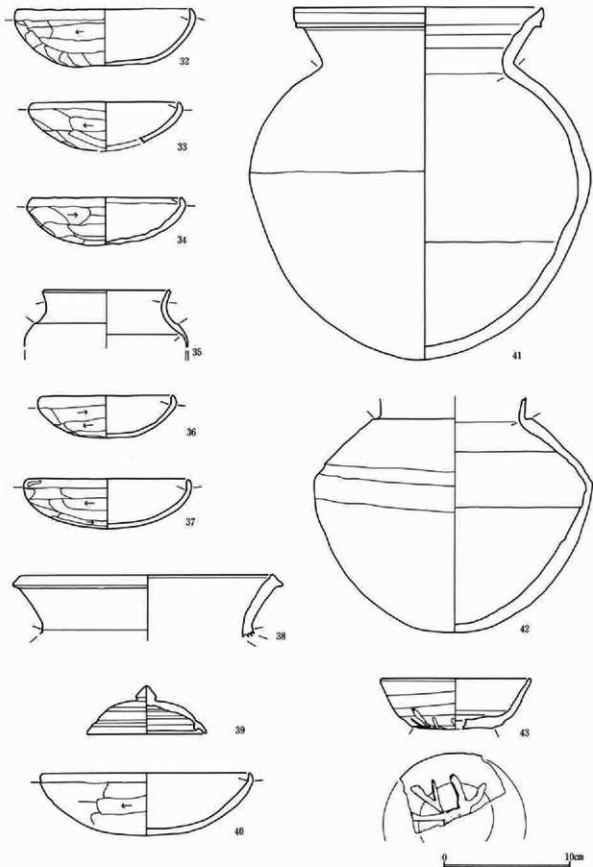
出土した土器の8割方が7世紀、8世紀にその年代が帰属すると考えられる。



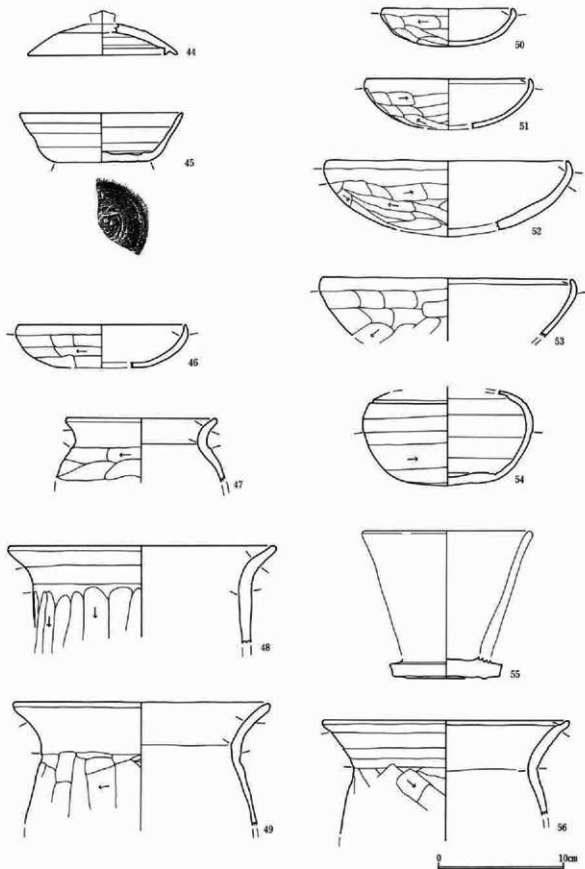
第126图 1区出土遗物



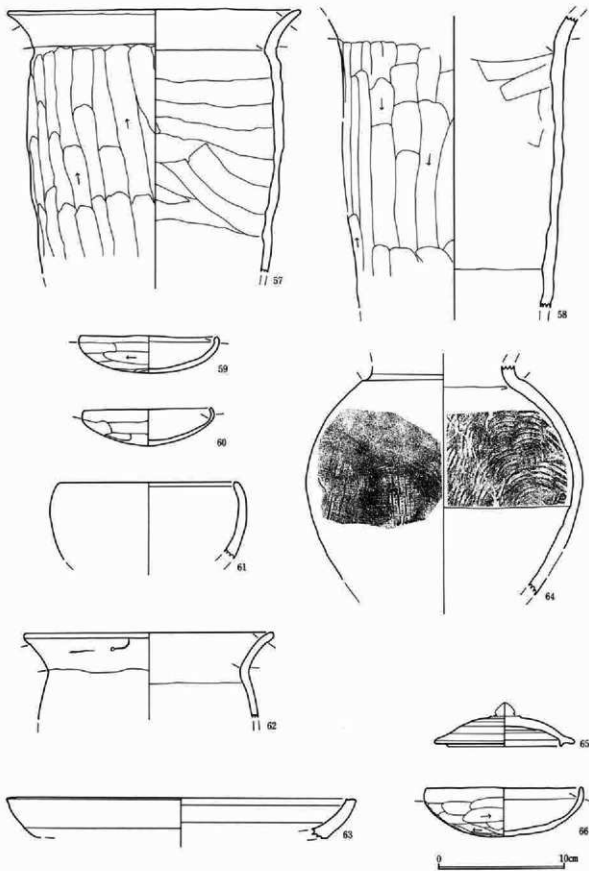
第127图 1区出土遺物



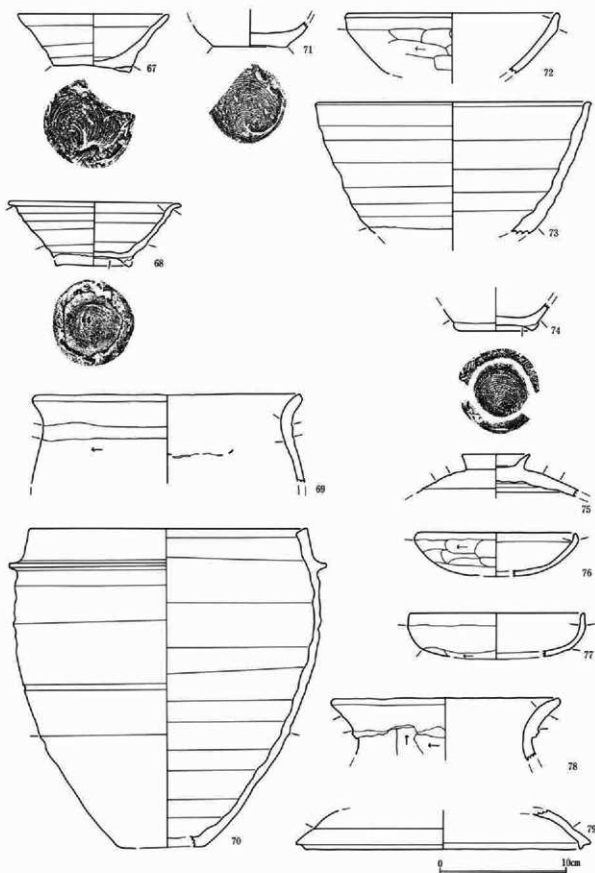
第128图 1区出土遺物



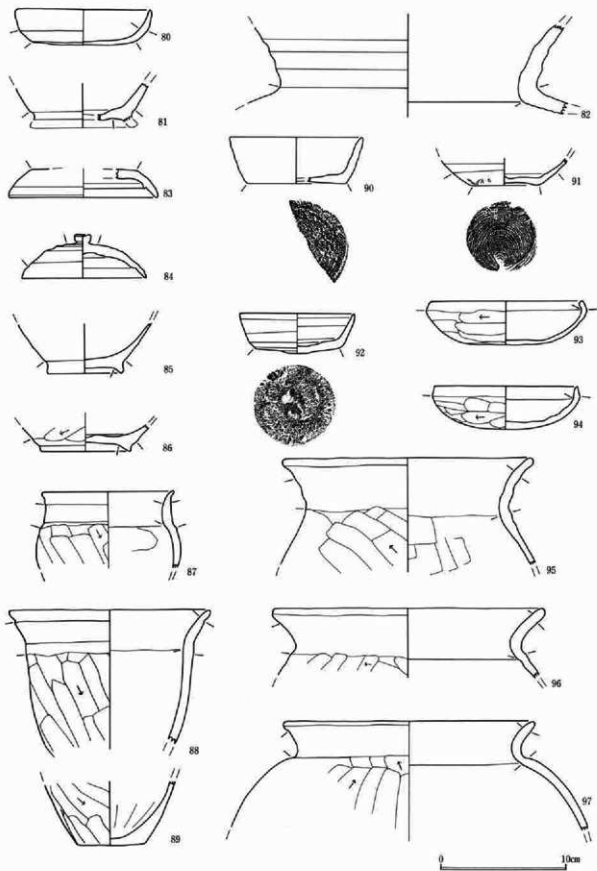
第129图 1区出土遺物



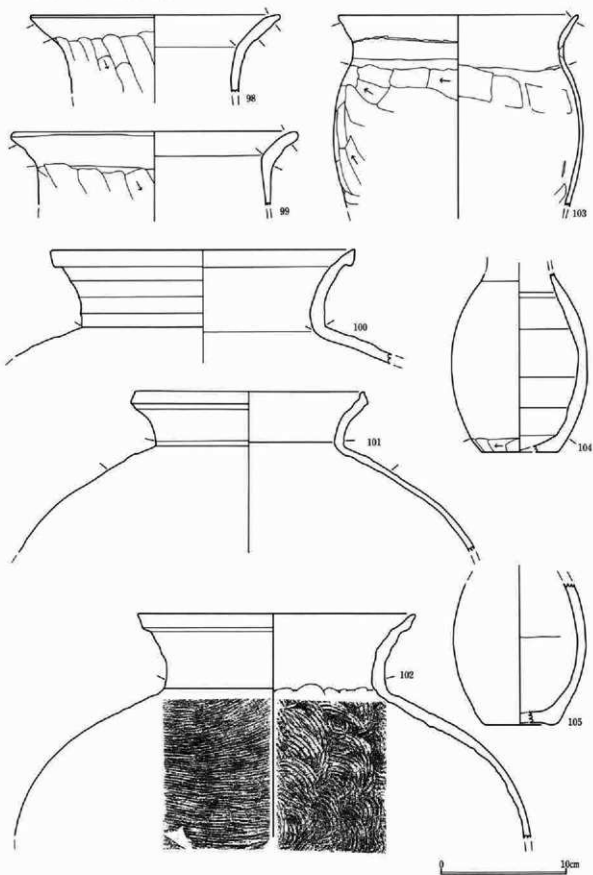
第130图 1区出土遺物



第131图 1区出土遺物

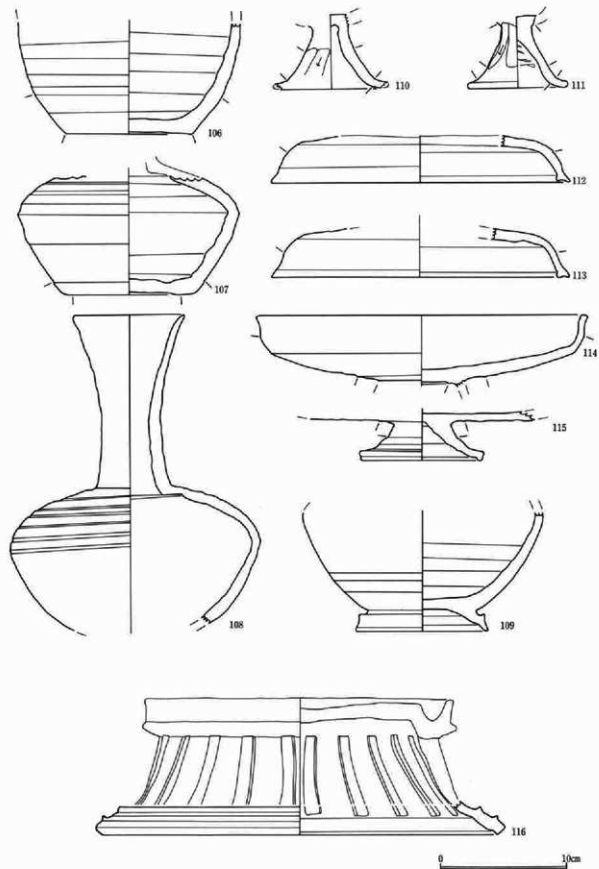


第132図 1区出土遺物

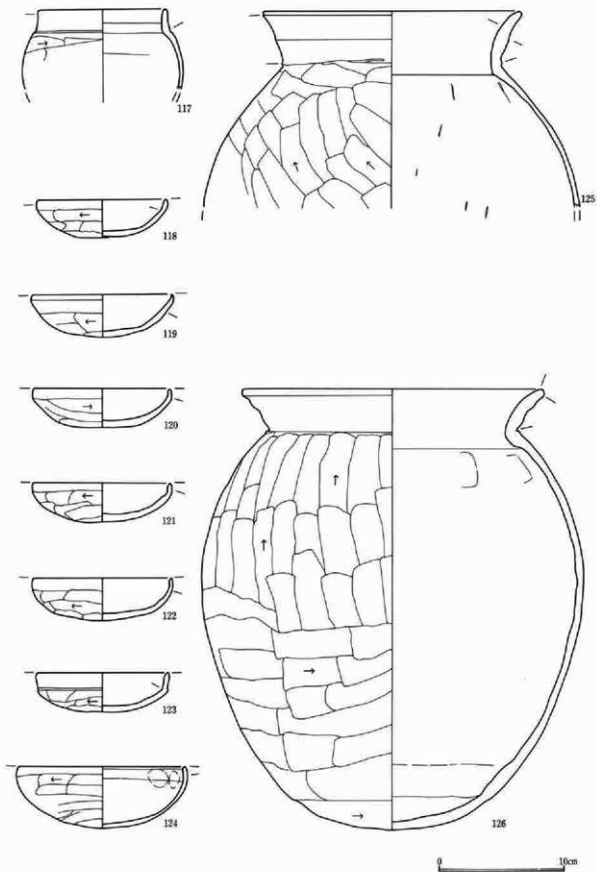


第133图 1区出土遺物

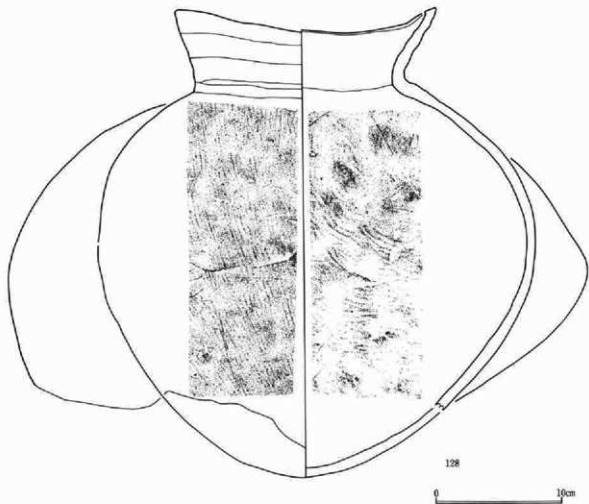
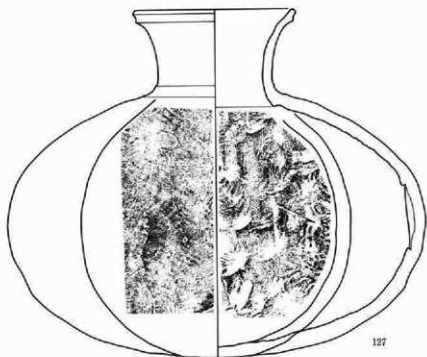
2 遺物



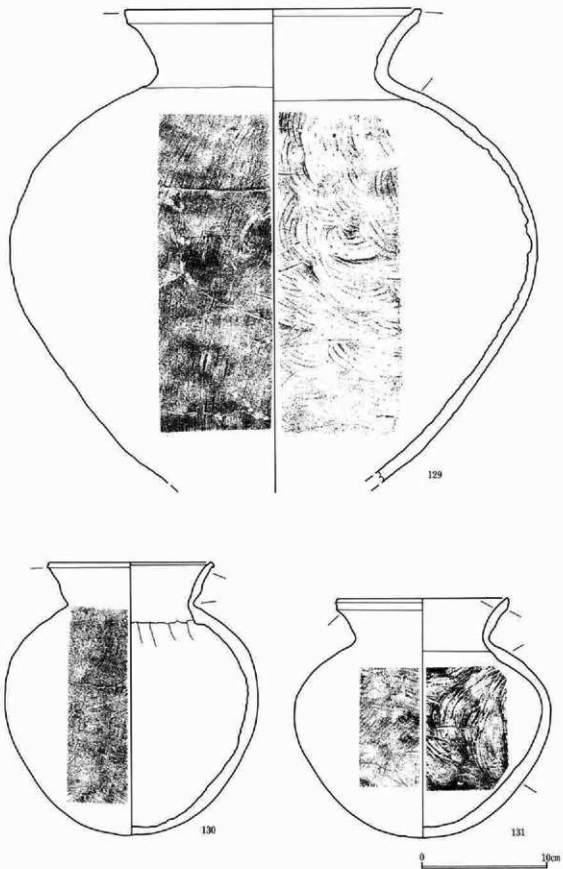
第134図 1区出土遺物



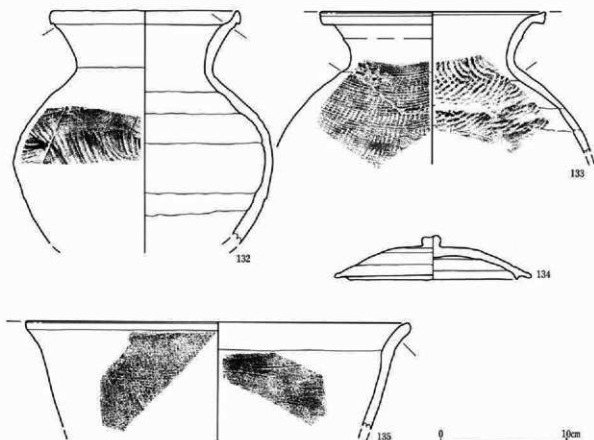
第135图 1区出土遺物



第136图 1区出土遺物



第137图 1区出土遺物



第138図 1区出土遺物

本遺跡の中心をなす集落はきわめて短時間に出現し、次代へ引き継ぐ集落は地域を多少移動、または、この地域では消滅しているとも考えられる。これらの集落を、特徴的な出土遺物から時代を限定してみよう。

まず、出土遺物のうち、蓋の頂部に宝珠形つまみを持つ小型の須恵器有蓋環(134)は、7世紀後半を代表する器種である。また、8世紀代に出現する金属器の饅模倣の須恵器有蓋環(75)もある。これらの土器から、畿内で呼称される「律令的土器様式」、関東地方では「真間式土器」といわれる7世紀後半から8世紀前半の一群と考えることができる。

隣接する埼玉県北部の検討はしていないが、群馬県内では比較的数の少ない集落といえよう。これらの集落の出現を、畿内を中心とした律令的国家体制に組み込まれた、一地方の様相を考える補足資料として、台脚に「透し」を持つ圓足碗(116)がある。

円面碗の一種で、碗面が円形で陸が中央にあり、その周囲を海が取り巻く形式のもので、輪状の台脚を有する一群に区分されるものである。この碗の脚部の一部分のみの出土品である。横峰分類の「透脚碗」で、底径33cmを測り、台脚には縦に細長い長方形の透しが約20ヶ所に穿たれている。この透脚碗は、円面碗のうちでもっとも数の多い一般的な陶碗とされる。その年代は、名古屋市内高針ゴルフ場内の須恵器窯から出土した類例から、7世紀末から8世紀初頭とされる。

群馬県内出土の陶碗の研究は、1988年の錦貫邦男の作業(「書上上原之城遺跡」報告書に所収)がある。この段階では、県内の31遺跡から約60例近くの陶碗、転用碗の集成がある。陶碗のうち、円面碗は16ヶ所の遺跡から、風字碗は11ヶ所の遺跡から出土していて、円面碗の数が一番多い。

海邊段差番附	土師器類	口徑	高さ	胎色	土成調	内外	線	底面	備	考
29	土師器 壺	12.5	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。	
127段 13号住	土師器 壺	3.8	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	口唇下指押入痕を残す。左腹ケズリ。ナズ。指面圧痕を残す。	口唇下指押入痕を残す。左腹ケズリ。ナズ。指面圧痕を残す。	口唇下指押入痕を残す。左腹ケズリ。ナズ。指面圧痕を残す。	胎形は半球形を呈する。ずっしり重い。小形品。		
30	土師器 壺	11.8	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
127段 13号住	土師器 壺	3.6	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	口唇下指押入痕を残す。腹ケズリ。黒炭印痕。ナズ。底面印痕で平である。	口唇下指押入痕を残す。腹ケズリ。黒炭印痕。ナズ。底面印痕で平である。	口唇下指押入痕を残す。腹ケズリ。黒炭印痕。ナズ。底面印痕で平である。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
31	土師器 壺	12.9	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
127段 13号住	土師器 壺	4.0	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	左腹ケズリ。指面圧痕を明確に残す。	左腹ケズリ。指面圧痕を明確に残す。	左腹ケズリ。指面圧痕を明確に残す。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
32	土師器 壺	(14.5)	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 14号住	土師器 壺	(4.5)	—	酸化(軟質) 胎7.5 YRS%	左腹ケズリ。ナズ。	左腹ケズリ。ナズ。	左腹ケズリ。ナズ。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
33	土師器 壺	12.3	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 14号住	土師器 壺	4.0	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	右腹ケズリ。ナズ。	右腹ケズリ。ナズ。	右腹ケズリ。ナズ。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
34	土師器 壺	12.6	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 14号住	土師器 壺	4.1	—	酸化(軟質) 胎8 YRS%	口唇部ナズ。内腹。胴体の凹みを通らす。右腹ケズリ。ナズ。指面圧痕を明確に残す。	口唇部ナズ。内腹。胴体の凹みを通らす。右腹ケズリ。ナズ。指面圧痕を明確に残す。	口唇部ナズ。内腹。胴体の凹みを通らす。右腹ケズリ。ナズ。指面圧痕を明確に残す。	全体に備けて、二次加飾痕あり。胎形は半球形を呈する。小形品。		
35	土師器 壺	(10.2)	—	細砂	口唇部ナズ。	口唇部ナズ。	口唇部ナズ。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 14号住	土師器 壺	(4.5)	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	左腹ケズリ。ナズ。	左腹ケズリ。ナズ。	左腹ケズリ。ナズ。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
36	土師器 壺	(11.0)	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 15号住	土師器 壺	3.4	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	口唇下指押入痕を残す。腹ケズリ。ナズ。	口唇下指押入痕を残す。腹ケズリ。ナズ。	口唇下指押入痕を残す。腹ケズリ。ナズ。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
37	土師器 壺	(13.4)	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
158号住 15号住	土師器 壺	4.0	—	酸化(軟質) 胎5 YRS%	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
38	須恵器 壺	(21.5)	—	細砂	口唇部断面内外に指痕なく外反する。	口唇部断面内外に指痕なく外反する。	口唇部断面内外に指痕なく外反する。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 15号住	須恵器 壺	(5.0)	—	酸化(軟質) 胎にふい焼付。5 YRS% 中にふい焼痕10 YR%	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
39	須恵器 壺	(9.5)	—	細砂	口唇部ナズ。	口唇部ナズ。	口唇部ナズ。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 16号住	須恵器 壺	3.8	—	還元 赤吹NK%	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
40	土師器 壺	(17.0)	—	細砂(赤色粘土配)	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 16号住	土師器 壺	(4.9)	—	酸化(軟質) 胎2.5 YRS%	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
41	須恵器 壺	(19.9)	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 17号住	須恵器 壺	(27.7)	—	酸化(軟質) 胎白N%	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
42	須恵器 壺	(17.3)	—	細砂	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		
128段 17号住	須恵器 壺	(22.4)	—	還元 灰白N%	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。口唇部ナズ。内腹。	胎形は半球形を呈する。明るく軽い感じ。小形品。		

番号	土師器類	口徑	土質	内外	備	考
57	土師器類	(23.3)	細砂(赤色粘土)	口周部ナズ。	口周部の反りが強い。	
13005	長口鉢	(21.3)	細砂(赤質)	口周部ナズ。口縁部ナズ。	肩の盛りは強い。	
1907住	口鉢	(20.4)	細砂5YR7/2	底ナズ。底面有。	中堅品。	
58	土師器類	(23.5)	粗砂(赤色粘土)	縁方向度ナズ。断面が荒れている。	口縁部欠損。	
13006	長口鉢	17.5	細砂(赤質)	縁方向度ナズ。	肩は半球形を呈する。	
1907住	口鉢	11.3	細砂	口周部ナズ。内縁で縮部丸まる。	暗く重い感じ。	
59	土師器類	3.2	細砂(赤質)	左側ナズ。	小堅品。	
13007	口鉢	—	細かい砂5YR7/2	口周部ナズ。内縁。	部形は半球形を呈する。	
60	土師器類	10.5	細砂(赤質)	口周下私土師器を有す。左側ナズ。	明るく軽い感じ。	
13008	口鉢	3.1	細砂5YR7/2	ナズ。	暗緑色。胴部やや丸く強心。	
207住	口鉢	—	—	口周部内側平み。	口周部丸く平み有り。	
61	須恵器類	(13.6)	細砂(黒色粘土)	全体に自然胎付着有り。	暗緑色。胴部やや丸く強心。	
13009	須恵器類	(6.1)	還元	口周部風乾有り。	口周部の反りが強い。	
207住	口鉢	—	灰白10Y7/2	口周部風乾有り。	肩の盛りは強い。	
62	土師器類	(20.0)	細砂	底ナズ。底面有。	中堅品。	
13005	長口鉢	(6.7)	細砂	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	高杯部、胴部欠損。	
207住	口鉢	—	細砂5YR7/2	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
63	須恵器類	(28.0)	細砂	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
13006	有蓋高杯	(2.8)	還元	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
207住	口鉢	—	細砂5Y7/2(還元白5Y7/2)	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
64	須恵器類	(12.4)	細砂(赤質)	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	胴部丸く強心。底面欠損。	
13008	須恵器類	(7.1)	還元	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	小堅品。	
217住	口鉢	—	還元	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
65	須恵器類	11.1	細砂(赤色粘土)	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	天井部丸味を有す。口縁部外反する。	
13005	長口鉢	(2.9)	還元	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	小堅品。	
217住	口鉢	—	灰白10Y7/2	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
66	土師器類	(12.7)	細砂(赤質)	口周部ナズ。底面有。	明く軽い感じ。	
13006	口鉢	3.8	細砂(赤質)	口周部ナズ。底面有。	小堅品。	
217住	口鉢	—	細砂5YR7/2	口周部ナズ。底面有。		
67	須恵器類	(12.1)	細砂(赤質)	口周部ナズ。底面有。	無胎。底面ナズ。	
13005	口鉢	4.5	還元	口周部ナズ。底面有。	余切りミスの胎面欠損有り。底径(6.4)	
227住	口鉢	—	還元	口周部ナズ。底面有。		
68	須恵器類	(13.7)	細砂(赤色粘土)	口周部ナズ。底面有。	高台付。高台付縁有り。高台部欠損。体部やや丸味有。高台径(6.6)	
13106	高台付口鉢	(4.9)	還元	口周部ナズ。底面有。		
227住	口鉢	—	還元	口周部ナズ。底面有。		
69	土師器類	(21.6)	細砂(赤色粘土)	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	口周部の反りが強い。	
13106	長口鉢	(7.0)	還元	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	肩の盛りも強い。	
227住	口鉢	—	細砂5YR7/2	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	底径(6.8)還元。	
70	須恵器類	(22.3)	粗砂	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。	胴部全体に胎付着有り。	
13106	須恵器類	(24.8)	還元	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		
227住	口鉢	(25.2)	灰白10YR7/2	口周部ナズ。口縁部外縁を有す。		

漁獲 区画 連番	土師器 器種 名	土師器 器種 名	口 径 高 寸	口 径 寸 法	土 師 器 名	土 師 器 名	口 外 内	特 徴	備 考
71	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(2.0)	—	細砂(褐色粘土製) 還元(硬質) 灰10Y% —	—	—	—	—
131区 29号土坑	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(7.1)	(4.8)	—	—	—	—	—
72	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(22.1)	(10.3)	細砂 還元(硬質) 灰10Y% —	—	—	—	—
131区 40号土坑	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(22.1)	(10.3)	細砂(褐色粘土製) 還元(硬質) 灰10Y% —	—	—	—	—
73	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(22.1)	(10.3)	細砂(褐色粘土製) 還元(硬質) 灰10Y% —	—	—	—	—
131区 4号土坑	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(2.1)	—	細砂 還元 灰17.5Y% —	—	—	—	—
74	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(2.1)	—	細砂 還元 灰17.5Y% —	—	—	—	—
131区 14号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(3.8)	—	細砂 還元(軟質) 灰17.5Y% —	—	—	—	—
14号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(13.1)	(3.4)	—	—	—	—	—
131区 14号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(14.1)	(3.4)	細砂 還元(軟質) 灰5YR% —	—	—	—	—
77	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(18.3)	(4.9)	細砂 還元(軟質) 灰7.5YR% —	—	—	—	—
132区 14号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(18.3)	(4.9)	細砂 還元(軟質) 灰7.5YR% —	—	—	—	—
78	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(23.0)	(3.0)	細砂 還元(硬質) 灰N% —	—	—	—	—
131区 14号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(11.0)	(2.8)	細砂 還元(軟質) 灰12.5YR% —	—	—	—	—
132区 15号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(3.1)	—	細砂(赤色粘土製) 還元(軟質) 灰5YR% —	—	—	—	—
81	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(6.6)	—	還元 灰12.5Y% —	—	—	—	—
132区 15号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(11.8)	(2.2)	細砂(硬質) 還元(軟質) 灰10Y% —	—	—	—	—
82	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(10.0)	3.4	細砂(白色粘土立) 還元(軟質) 灰5YR% —	—	—	—	—
132区 2号溝	須恵器 土師器	須恵器 土師器	(10.0)	3.4	—	—	—	—	—

通商 品名 及 用途	土 師 器 類 存 在 部 位	口 径 及 厚 さ	新 規 成 色	土 成 調	口 外 内	備 考
99 1338回 表探	土 師 器 類 口 縁 部 破 片	(22.8) (5.7)	細砂 明赤煉土 5Y		口縁部指ナズ。口縁部指ナズ。 底ナズリ。	口縁部の反りが強い。 肩の盛りは強い。中型品。 底状の汚れ有り。N 2—69
100 1338回 表探	須 基 器 類 口 〜 頭 部 片	(24.2) (8.3)	細砂 (黄色粘土粒) 還元 (5YR5/6)		口縁部断面三角形を呈し、口縁部反する。 口縁部成形を残す。 口縁部断面平行向き。	内外底状が異なる。 黒色有り。大型品。 N 2—79
101 1338回 表探	須 基 器 類 口 〜 頭 部	(18.9) (12.7)	細砂 (赤黄) 灰白N5		口縁部断面三角形を呈し、口縁部反反する。 横ナズリ、片目目平行向き (縦線跡目目) 横ナズリ、アノ具感有り。平行断面目と背断面有り。 口縁部断面平行向き。	口縁部断面上方につまみ上げ。胴部丸く張る。 大型品。 N 2—69
102 1338回 表探	須 基 器 類 口 〜 上 位	22.0 (17.0)	細砂 還元		口縁部断面三角形を呈し、口縁部反反する。 横ナズリ、口縁部丸く張る。 横ナズリ、背断面有り。	胴部丸く張る。大型品。 N 3—69
103 1338回 表探	土 師 器 類 口 縁 部 破 片	(19.0) (15.0)	細砂 還元		口縁部指ナズ。口縁部粘土組織を残し、横ナズリ。 底ナズリ。	口縁部の反りが強い。 肩の盛りも強い。中型品。 底状の汚れ有り。N 3—31
104 1338回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(14.0) (10.8)	細砂 還元		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (6.0) 底部平直。 手持ら底ナズリ。胴部丸く張る。小型品。 N 2—49
105 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(11.0) (10.6)	細砂 (赤色粘土粒) 還元 (赤黄)		胴上外面縁方向に凹溝き。黒底有り。焼き固じ。 底ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78
106 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	8.7	細砂 (赤色粘土粒) 還元 (赤黄)		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78
107 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(9.7)	細砂 還元		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78
108 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	8.8 (24.5) 19.9	細砂 還元		胴下平部の下方は凹ナズリと横ナズリ調整。一部平目あり。三条の 底縁を隔らす。平行向きを残す。 口縁部成形。二段分削技法を残す。 口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。大型品。底径 (10.2) N 2—69
109 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(9.3) (19.1)	細砂 還元		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78
110 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(5.9)	細砂 (赤色粘土粒) 還元 (赤黄)		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78
111 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(5.6)	細砂 (赤色粘土粒) 還元 (赤黄)		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78
112 1348回 表探	須 基 器 類 口 縁 部 破 片	(23.8) (3.9)	細砂 (白色粘土が目立つ) 還元 (赤黄)		口縁部断面平行向き。 横ナズリ。	底径 (5.6) 底部平直。 胴部丸く張る。小型品。 N 2—78

3 まとめ

発掘調査区は、藤岡台地の縁辺部である。北へ下る直線的な崖線が大字上栗須では続くが、東に続く大字中栗須になると舌状に約50mほど突出し、クランクをなす。台地上は標高78mで、水田面標高75mまで約3mの比高差を測る。

縄文時代の包含層は、発掘調査面積6,615㎡の全体にその分布が及ぶ。縄文時代の土器破片の総数は51,311点、総重量は995kgを計る。縄文時代の石器類の点数は16,123点で、総重量は4,582kgを計る。

縄文時代の住居址としたものは4軒である。発掘区の台地上から3号住居址と4号住居址が出土している。6号住居址と23号住居址は、切り合って低地部分から出土している。3号住居址は、円形の平面の中央に石囲炉を付設して、張り出し施設がある。4号住居址は、部分的に石敷を残す。中央に石囲炉を付設している。張り出し部は不明である。6号住居址としたものは、6つの集石遺構と1つの長方形配石遺構から成り立っていた。23号住居址は、床面に部分的な石敷はみられたが、敷石になるものかどうか明らかでない。中央に石囲炉が付設され、平面範囲を画する短い直線溝が4本だけ検出されている。張り出し部は不明である。

8世紀の住居址は17軒を数える。発掘区の南寄りに1号住居址、7号住居址の2軒が離れて立地する。残りの15軒は北側低地帯に集中し、一部切り合う。平面形は方形のもの、縦長のもの、横長のものと多様である。竈の位置は長辺、短辺問わず、北東辺に付設される。

10世紀の住居址は、ぼつりと発掘区の北端、低地部の更にもう一段低い面に位置する。北側の河川沿いに集落が展開するものであろうか。

掘立柱建物址は4棟検出された。柱穴の形状が不定形な4号掘立柱建物址を除く、1、2、3号掘立柱建物址は、主軸方向が一定し、集中して立地する。

棚列2条が「L」字形を呈し、2号掘立柱建物址を囲結するかにみえる。

畝は、走向の異なる6面を確認した。1号掘立柱建物址、2号掘立柱建物址、4号掘立柱建物址に取り囲まれた範囲である。

土壌は104基検出された。特に集中する地域は、北西の発掘区域外に集中するものと、7号住居址の北側一帯に集中するものの2ヶ所である。縄文時代の土壌は7基で、その分布は散漫である。7号住居址の北寄りに集中する土壌群中、円形の平面で断面が平坦な一群が存在する。浅間B経石を埋没土層に含む河道の分岐点あたりであることから、用水又は施肥の桶を長期間設置する場所ではなからうかと考えた。

河道は大きく4回の流路をたどる。1号A河道は、台地南から北へ下り、左に大きく曲がる。1号B河道は、台地南の1号A河道をたどり、発掘区中央で緩やかに左に曲がる。1号C河道は、台地上は1号A河道をたどり、発掘区中央部分までは1号B河道をたどり、右側に舌状に突出する台地の縁辺を巻くように、緩やかに右に曲がる。2号河道は、台地上の1号河道の東側を、新たに直線的に南から北へ流れ下り、途中、1号B河道を発掘区中央まで流れ、その先は1号C河道の流れをたどる。1号B河道と1号C河道、2号河道の河道跡の埋没土中に、浅間B経石の堆積がみられる。縄文時代と8世紀、9世紀の遺構分布の状態で、観測になる火山灰の存在から、この河道は平安時代後期の氾濫によるものと考えてよい。

溝は全部で15条検出された。1号溝と2号溝は地形に合わないが、近接し平行して走る。9号溝と20号溝は近接し、走行は同じで台地上を東から西へ流れ下る。10号溝は台地上端の肩部を走り、14号溝は浅間B経石埋没の2号河道の東側を流れる。1号B河道と2号河道の分岐点あたりから、取水し分水すると考えられる溝の1群がある。3、5、6、7、11、12、16、18、21号溝である。

第三章 2区 上栗須薬師前

1 遺 跡

A 古代住居址

2区で発掘調査された住居は12軒であった。出土遺物から、1号住居～4号住居、5A号住居、6号住居～11号住居は8世紀、5B号住居は9世紀の住居で、8世紀代の住居が圧倒的に多い。これらの住居の分布は1区ほど集中する傾向はみられない。

分布を細かく見ると、1号住居と4号住居が1つにまとまり(A群)、2号住居と3号住居が1つにまとまる(B群)。A群とB群との距離は約24.5mを測る。5B号住居はこの1軒のみで時代的にも1世紀ほど下がり、新しい(C群)。B群とC群との距離は100mと離れている。6号住居、8号住居、10号住居、11号住居は発掘区の東寄り、北東から南西に軸をとる。約50m四方の範囲に分布する(D群)。C群とD群との距離は約26m離れている。E群は、台地縁辺直上に独立した4号住居を呼称する。D群の北西30mに位置する。F群は台地の傾斜変換点に位置する5A号住居で、E群の北西西に36m離れて位置する。

1号住居は、西半分を生活道路に阻まれ、発掘調査は住居の東半分、電付設の東壁を中心に発掘した。電を避けて床面の壁際に周溝が巡る。電の燃焼部本体は壁の外側に出る。電右側に貯蔵穴があり、深さは浅い。2号住居は、遺構全体を発掘できた。横長に平面形を呈する住居で、長辺の壁中央に電を持ち、燃焼部は壁の外側に張り出す。遺物は床面中央部に集中して出土した。3号住居は、南半分が道路下に入っているため、住居の半分のみの調査となった。住居の平面形は縦長で、電は壁の短辺側の右寄りに付設されており、燃焼部は壁の外側に張り出している。

4号住居は、6号溝で東側を切られ、北側は水道管で切られている。このため発掘できたのは全体の1/4以下であった。掘り込み確認深さは80cmを測る。5A号住居は、発掘区の西側隅で検出された。電の燃焼部分と煙道部分のみの検出であった。5B号住居は、発掘区の東側で検出された。住居全体の2/3ほどが調査できた。電は東壁の短辺側に付設されていたと考えられる。6号住居は、発掘区の東側に位置し、住居を築造断りに発掘した。平面形が縦長の住居の短辺に電が付設されていたと考えられる。

8号住居は、縦長の平面形を呈する。電は壁中央部に付設され、燃焼部は不明瞭で、煙道部は外へ出て長い。壁右隅に貯蔵穴がある。右壁は試験発掘により破壊され、被害甚大である。9号住居は、8号住居と平面形、配置方向とも近似している。楕円状断面を呈する180号土坑を切って、本住居が構築されている。10号住居は、第2号河道に西側が大きく切られ、電本体と貯蔵穴のみが残っている。11号住居は、7号溝に遺構上層を浅く切られている。住居の平面形状は方形に近く、壁中央に電が付設されている。

2区1号住居址

遺構 (挿図番号第139図 写真番号P L-50)

本住居址はM6・64グリッドで検出され、南西10.0mに4号住居址が位置する。南北に走る3号溝、6号溝の2条にはさまれて出土している。地域の主要道路となっているため、発掘区の北側が掘れずに東半分のみが発掘となった。

住居の規模は、短軸3.80m、面積は17.48㎡である。主軸方位はN-88°-Wを示している。

竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は130cm、竈幅は90cm、燃焼部長さは85cm、焚き口幅は32cm、煙道部長さは45cm、煙道部幅は19cmである。

貯蔵穴は長径63cm・短径43cm、深さ8cmである。住居の南側と北側に浅い周溝の巡るのが確認された。

遺物（挿図番号第194図）

出土位置を記録したものは土器5点、石材1点である。

土師器で小型品の埴(136)が出土している。体部外面は横方向のヘラケズリである。口唇部は丸く内湾する。土師器の大型品の埴(139)が出土している。底部は尖り気味であるが丸くつくり、口唇部先端は直立しておわる。

2区2号住居址

遺構（挿図番号第140図 写真番号P L-50）

本住居址はM6・96、97グリッドで検出され、西7.0mに3号住居址が位置する。東西に走る県道の北端より出土している。遺存状態は大変良好であった。

住居の規模は、長軸3.88m・短軸3.04m、面積9.19㎡である。主軸方位はN-3°-Eを示している。遺物は床面中央部を中心に大量に出土している。竈左袖の左側、東壁寄りに炭化材の分布がみられた。

竈は東壁の中央に付設され残存状態は良好で、焚き口、燃焼部、煙道の各部良好であった。竈全長は210cm、竈幅は150cm、燃焼部長さは110cm、焚き口幅は50cm、煙道部長さは100cm、煙道部幅は25cmである。

遺物（挿図番号第194図）

出土位置を記録したものは土器203点、石材13点である。

土師器で小型品の埴(138)は内湾する埴と異なり、体部下方のみ横方向のヘラケズリ、口縁部との間は成形のユビ痕を残す。大型品の長甕(141)、中型品の長甕(142)が出土している。いずれも直立気味の体部で、「く」の字状に開く口縁が特徴である。須恵器で坏(139)が出土している。須恵器の大甕(140)が出土している。肩が上方のあがり、丸い底部を持つ。口縁部は「く」の字に短く開き、折り返しのつくりは丸く緩やかである。

2区3号住居址

遺構（挿図番号第141図 写真番号P L-51）

本住居址はM6・95、96グリッドで検出され、東7.0mに2号住居址が位置する。県道によって南半分が未発掘となった。東側の壁寄りに、燃焼部が壁から飛び出た竈が部分的に調査された。

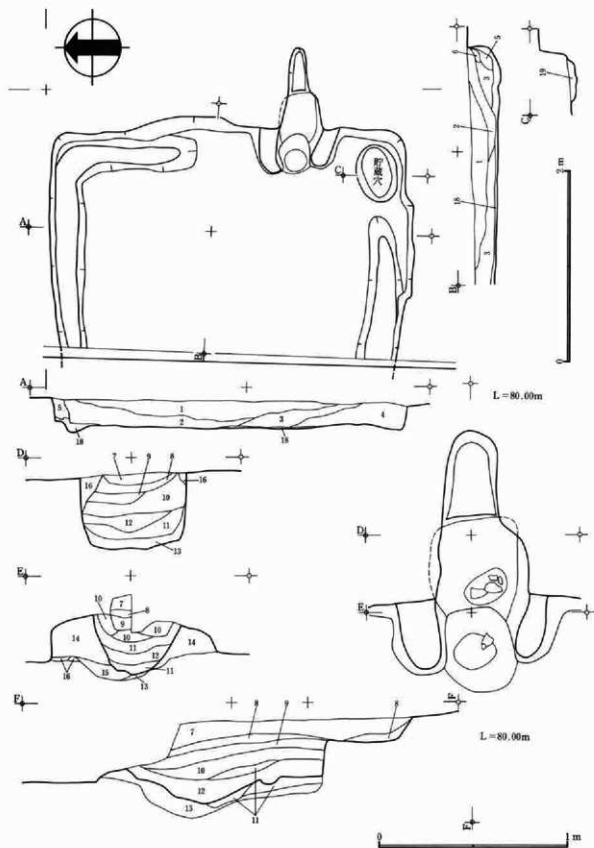
住居の規模は、長軸4.40m、主軸方位はN-80°-Eを示している。

竈は東壁の右寄りに付設される。竈全長は113cm、竈幅は73cm、燃焼部長さは80cm、焚き口幅は53cm、煙道部長さは33cm、煙道部幅は24cmである。

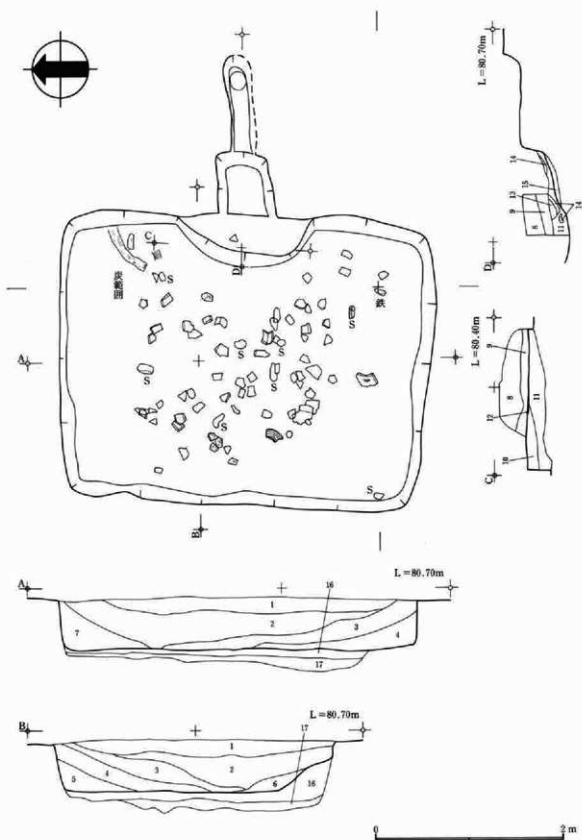
遺物（挿図番号第195図）

出土位置を記録したものは土器7点である。

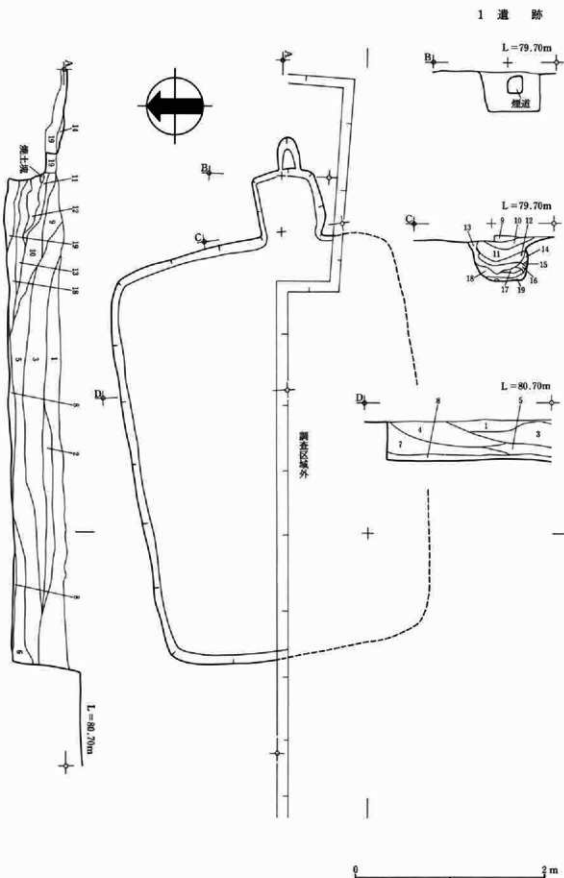
須恵器で蓋(143)が出土している。やや大ぶりの宝珠が付き、甲丸の体部の先端は尖る。かえりは小さく、内面に丸く残る。土師器で小型品の埴(144)が出土している。



第139图 2区1号住居址



第140图 2区2号住居址



第141図 2区3号住居址

2区4号住居址

遺構 (挿図番号第142図 写真番号P L-51)

本住居址はM6・73グリッドで検出され、北東10.0mに1号住居址が位置する。東側を6号溝に切れ、北側は使用中の水道管に切られて、全体の1/4以下の残存率であった。遺物の検出は極めて少なかった。残存面積は2.45㎡である。

遺物 (挿図番号第195図)

出土位置を記録したものは土器8点である。

土師器で小型品の埴(145)、(146)が出土している。いずれも小破片である。小型で丸い口縁が特徴的である。床面出土の鉄製品は錆がひどく、用途は不明である。重さは19gを計る。

2区5A号住居址

遺構 (挿図番号第142図 写真番号P L-51)

本住居址はM4・28グリッドで検出され、南東36.0mに9号住居址が位置する。土器溜まりの西側、発掘区西壁に竈が検出された。集落の広がりが更に西方向に広がることが考えられ、部分的ではあったが重要な知見である。

電軸方位はN-85°-Eを示している。

竈は東壁の中央に付設される。竈全長は195cm、電幅は110cm、燃焼部長さは70cm、焚き口幅は48cm、煙道部長さは125cm、煙道部幅は15cmである。

遺物

出土位置を記録したものは石材3点である。

竈の土層サンプル・天井部の土層サンプル・焼土あり。

2区5B号住居址

遺構 (挿図番号第143図 写真番号P L-51)

本住居址はN5・53, 54, 63グリッドで検出され、北東26.0mに6号住居址が位置する。4号溝の南側、発掘区東壁に住居の半分が検出された。断面観察で掘り込みの深さは70cmと深い。住居の東西の中央線上に推定も含めて5個の柱穴が検出された。10世紀という本遺跡では最も新しい住居と考えられ、本時期の住居構造を考える重要な調査例となった。

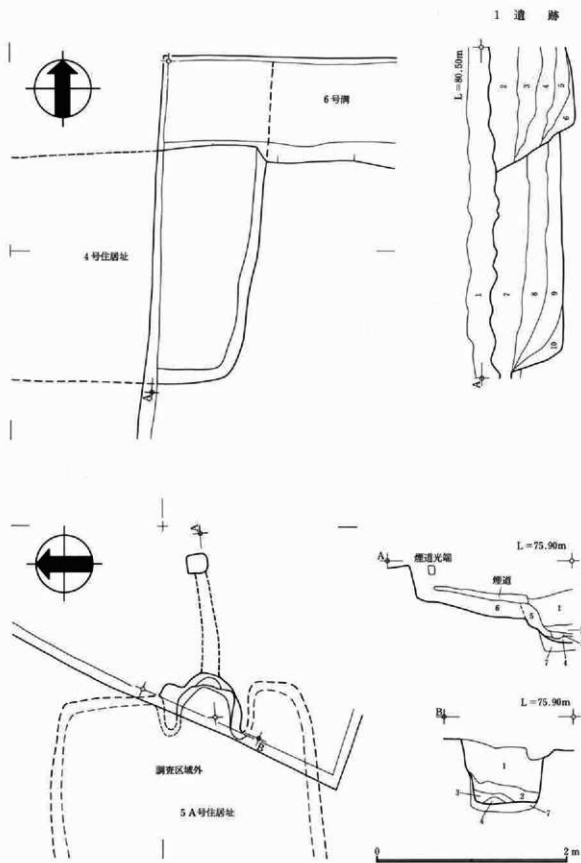
住居の規模は、長軸5.16m(推定)・短軸4.00m、面積19.63㎡(推定)である。主軸方位はN-79°-Eを示している。

P1は長径60cm・短径50cm、深さ22cm、P2は長径71cm・短径47cm、深さ27cm、P3は長径60cm・短径43cm、深さ21cmである。

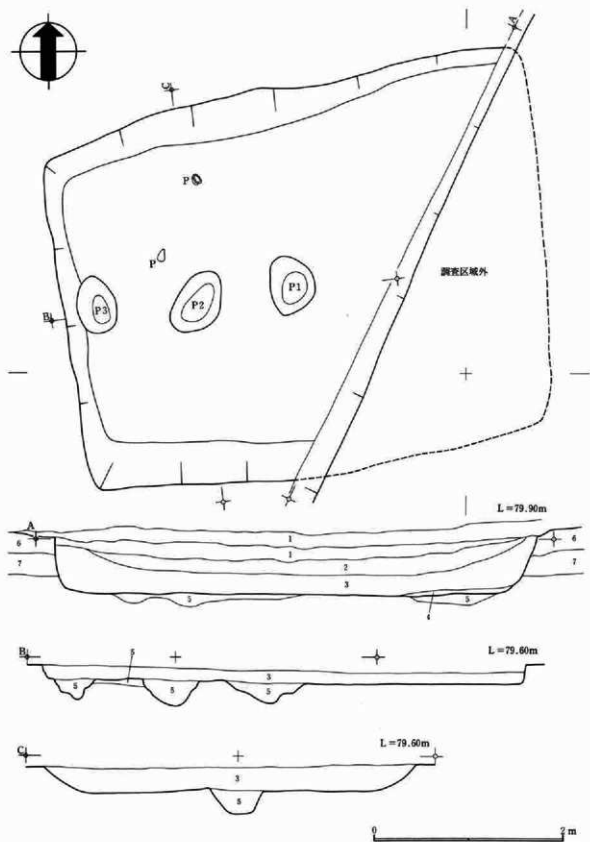
遺物 (挿図番号第195図)

出土位置を記録したものは土器168点、石材1点である。

須恵器の高台埴(147)は直立気味の高台で口縁部を欠く。須恵器の高台埴(148)は短く尖る高台で口縁部を欠く。須恵器の高台埴(149)は外にふんばる太い高台埴で口縁部を欠く。須恵器の高台埴(151)である。須恵器の埴(150)は底部は上げ底風で、口唇部は更に外反する。須恵器の埴の152は底部は丸く、口縁は直線的に開く。5層のサンプル・焼土・炭あり。



第142图 2区4-5A住居址



第143图 2区5B号住居址

2区6号住居址

遺構 (挿図番号第144図 写真番号P L-52)

本住居址はN5・15, 25グリッドで検出され、北西12.0mに7号住居址が位置する。北壁に接するように122号土坑がある。発掘区の東壁に、住居の西半分が斜めに切られて出土している。土層断面は現表土から観察することができた。住居の掘り込み面は、表土層第1層面下約30cmほどの第2層面から確認される。出土の遺物の量は少ない。

住居の形状は縦長長方形と推定され、規模は長軸5.74m(推定)・短軸4.48m(推定)、残存面積は9.25㎡である。主軸方位はN-64°-Eを示している。

遺物 (挿図番号第195図)

約半分の発掘可能部分から出土した遺物は、床面付近から出土したものが多く、実測中1点を除き全て破片で、元に復することができない。出土位置を記録したものは土器19点、石材12点である。石は長方形の河原石でこも編石のようであった。

土師器で丸底の壺の小型品(153)が出土している。丸い胴は全面横方向のヘラケズリを残し、くびれて反反する短い口縁は特徴的である。

2区7号住居址

遺構 (挿図番号第145図 写真番号P L-52)

本住居址はN5・04グリッドで検出され、南東12.0mに6号住居址が位置する。検出された時点で住居輪郭はやつつかめた程度で、埋土の深さは10cmである。周辺から検出された縄文時代土坑の埋土の色調に類似し、出土の土器片からも縄文時代の住居と判断された。

住居の規模は、長軸3.90m・短軸3.28m、面積11.51㎡である。主軸方位はN-1°-Wを示している。

2つのピットは本住居より新しい。P1は長径80cm・短径70cm、深さ34cm、P2は長径90cm・短径43cm、深さ28cmである。

遺物

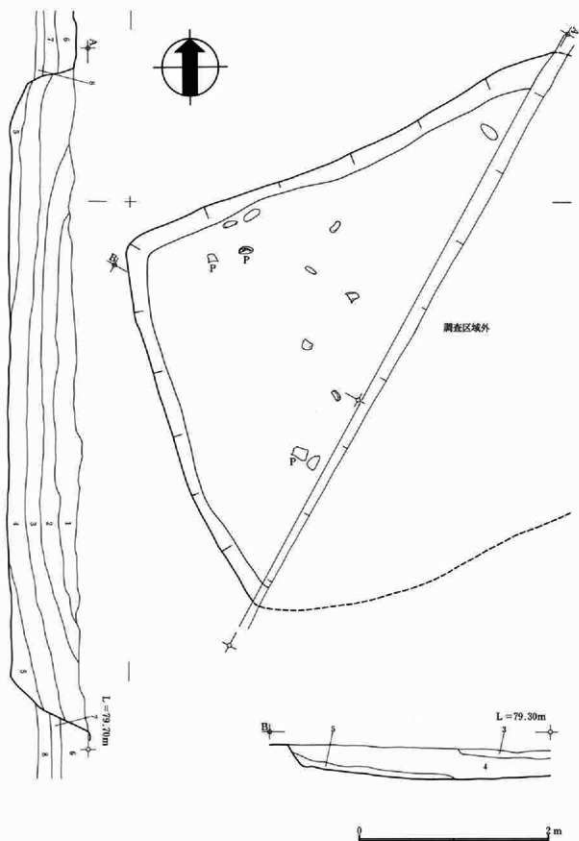
出土位置を記録したものは土器18点である。住居中央に集中し、中央やや東寄りに底部の欠損した深鉢が出土した。時期は縄文時代中期前半と考えられる。

2区8号住居址

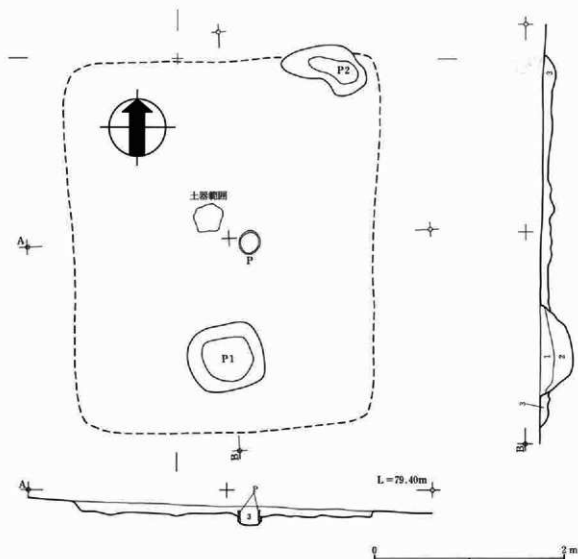
遺構 (挿図番号第146・147図 写真番号P L-52)

本住居址はN4・75, 76, 85, 86グリッドで検出され、南西18.0mに7号住居址が位置する。発掘区東側に寄って検出された。遺跡確認調査のための試験発掘に使用した重機の爪痕が、住居の竈の前と貯蔵穴の一部を破壊していた。住居の遺存状態は良好で、竈の袖、煙道部の検出も比較的楽であった。竈前方の焚き口部に小さな範囲で焼土が広がる。住居中央部の床面には焼土と炭化物の集中する箇所が、30cm×50cmの範囲にみられた。

住居の規模は、長軸4.20m・短軸3.04m(推定)、面積12.08㎡(推定)である。主軸方位はN-65°-Eを示している。竈は東壁の右寄りに付設されている。竈全長は203cm、竈幅は106cm、燃焼部長さは73cm、焚き口幅は40cm、煙道部長さは130cm、煙道部幅は29cmである。発掘によって、煙道部分の検出がこのように長く確認できたのはめずらしい。



第144图 2区6号住居址



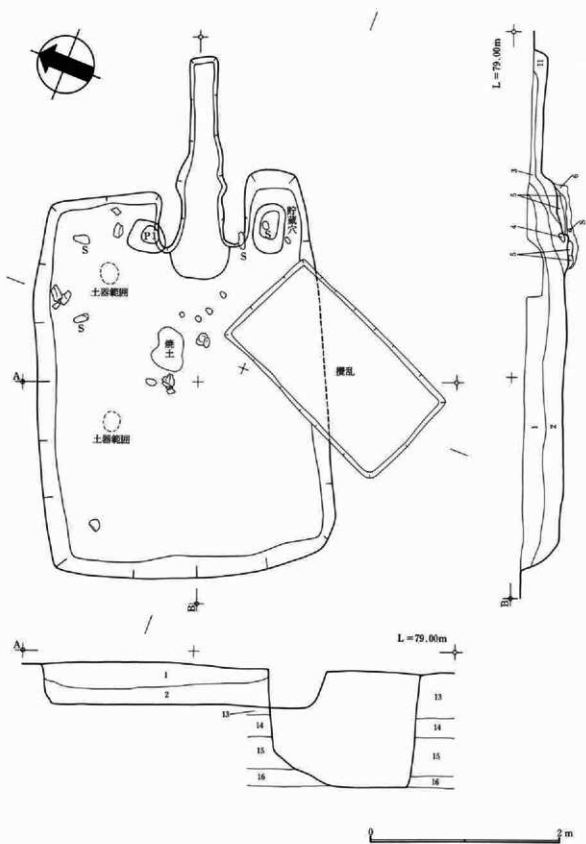
第145図 2区7号住居址

貯蔵穴は長径53cm・短径33cm、深さ21cmである。P1は長径40cm・短径33cm、深さ13cmである。

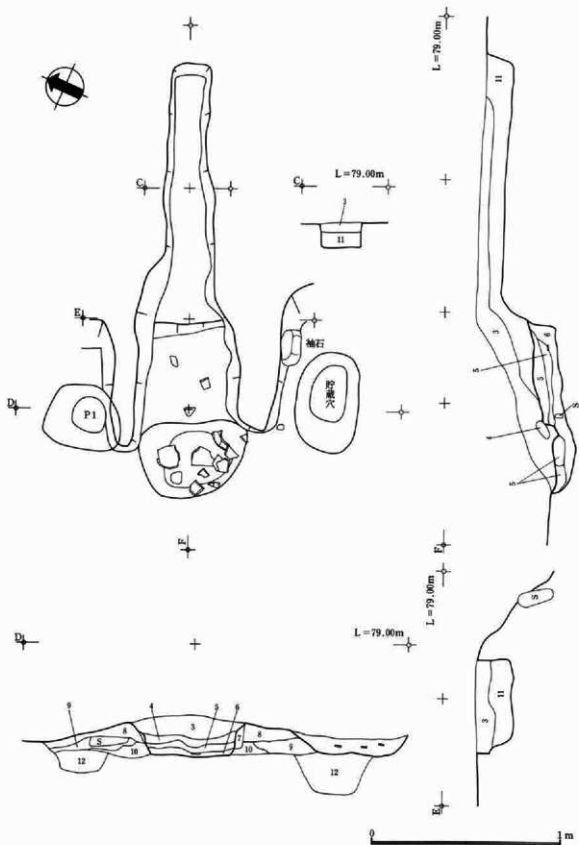
遺物（採図番号第195図）

出土位置を記録したものは土器103点、石材11点である。住居床面全体に広がり、特に集中する箇所はみられなかった。

住居出土の土器は、土器で小型品の埴(154)は丸い底部を持ち、口唇端部は丸く収める。土器の大型品の埴(155)は深くゆったりとした器形で、横方向のヘラケズリである。口唇端部は短くつまみ上げ、おわる。その他に、土器の小型品の長甕(156)が出土している。直線的な胴は下ぶくらみを想定させ、口縁部は丸く大きく外反する。床面に焼土塊の散布がみられる。



第146圖 2区8号住居址



第147回 2区8号住居址(竈)

2区9号住居址

遺構 (挿図番号第148・149図 写真番号P L-53)

N4・42, 43グリッドで検出された。台地縁辺が北側に落ち込む片端に、一軒のみ単独で検出されている。東側を第1号河道が斜めに走る。南東30.0mに8号住居址、北西36.0mに5A号住居址が位置する。

住居の規模は、長軸4.16m・短軸3.16m(推定)、面積12.98㎡(推定)である。主軸方位はN-67°-Eを示している。電付設の東壁短辺は、左袖側に比べて右袖側、貯蔵穴の大きさに比例するように、外側に大きく張り出している。南壁長辺の中央部には180号土坑が重複している。本土坑は遺物を伴わなかったが、埋土の特徴は縄文時代の他の土坑の埋土に近似しており、断面観察とともに、住居よりも古い土坑と考えている。電は東壁の中央に付設される。電全長は200cm、電幅は93cm、燃焼部長さは100cm、焚き口幅は40cm、煙道部長さは100cm、煙道部幅は35cmである。

貯蔵穴は長径60cm・短径55cm、深さ10cmである。

遺物 (挿図番号第195図)

出土位置を記録したものは土器12点、石材9点である。遺存の良い住居の割に出土した遺物は少ない。土器片は電前面に、石はこもあみ石と考えられ南西壁寄りに集中して出土した。

土器器で中型品の長甕(157)が出土している。口縁のみを残すが、口縁部が大きく開き体部の直線的なものと考えてよい。焼土・電内の焼土塊あり。

2区10号住居址

遺構 (挿図番号第150・151図 写真番号P L-53)

本住居址はN4・48, 58グリッドで検出された。発掘区の北東隅から検出された。第2号河道は本住居址の西側を南から北へ直線的に走り、住居址の西半分を徐々に削っている。この第2号河道の東側は、河道の氾濫を受けない安定した台地を形成している。北東7.0mの距離に11号住居址が位置する。また、第2号河道をまたぐ南西方向25.0mの距離に8号住居址が位置する。また、187号土坑が南壁中央寄りに新しく穿たれ、検出面からの深さは60cmを測る。

住居の規模は、長軸3.74m(推定)・短軸2.96m、面積10.73㎡(推定)である。主軸方位はN-81°-Eを示している。電の付設される東壁短辺は直線で、南壁の貯蔵穴寄りには外側に大きくはらわぬ。第2号河道の流路の影響は電と貯蔵穴周辺は受けてなく、遺存は良好である。電前面、床中央付近は住居埋土の上層部分を流路が削っている。住居西壁短辺とその周辺の床面は流路によって削平されている。

電は東壁の中央に付設される。電全長は115cm、電幅は105cm、燃焼部長さは38cm、焚き口幅は35cm、煙道部長さは77cm、煙道部幅は58cmである。

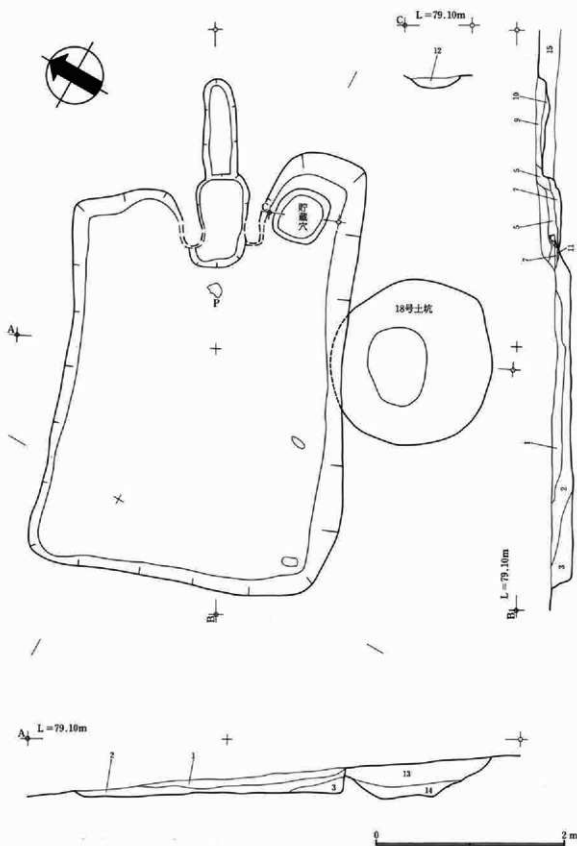
貯蔵穴は長径60cm・短径50cm、深さ7cmである。

遺物 (挿図番号第195・196図)

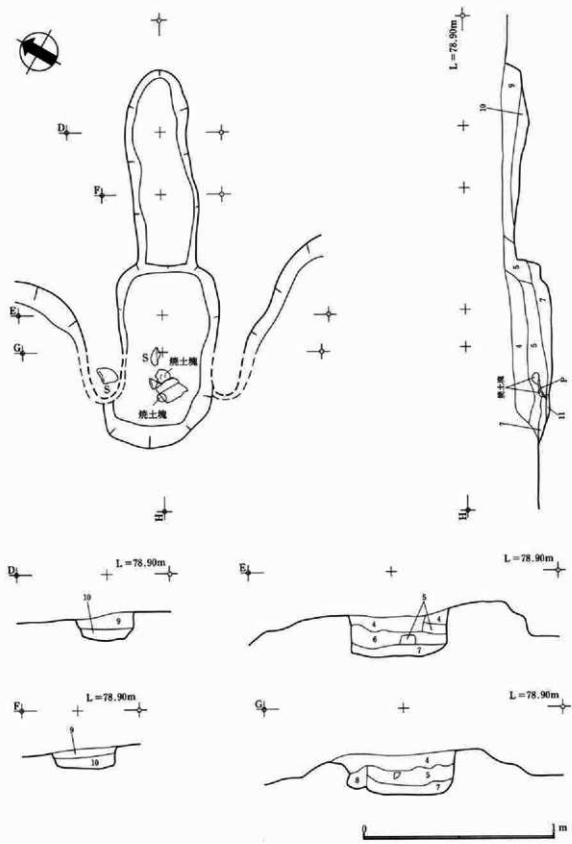
出土位置を記録したものは土器67点、石材6点である。出土遺物の分布状況は、河道の影響下にあるため電寄りの東壁周辺に集中する。

土器器で小型品の埴(158)である。土器器の大型品の埴(159)は浅く大きな底部を持ち、緩やかに立ち上がり、短い口唇は内屈する。土器器の中型品の長甕(160), (161), (162)が出土している。いずれも胴部が直立気味で、口縁部は長く大きく開く。

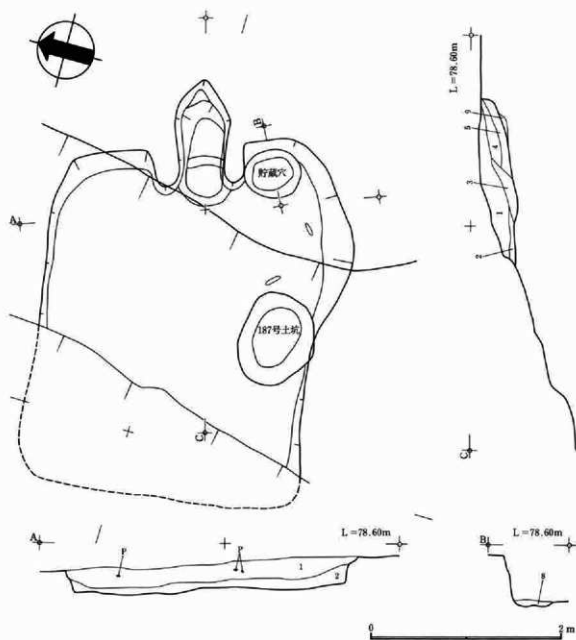
1 遺跡



第148图 2区9号住居址



第149図 2区9号住居址(竪)



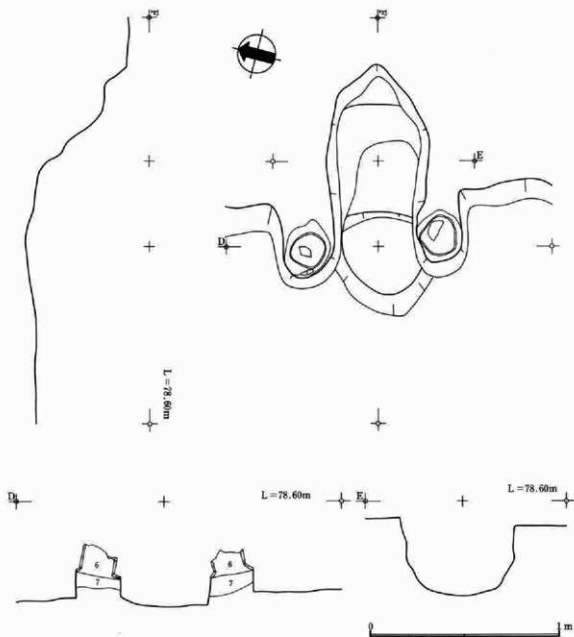
第150図 2区10号住居址

2区11号住居址

遺構 (挿図番号第152・153図 写真番号P L-53)

本住居址はN 4・38, 39, 48, 49グリッドで検出された。西側を走る第2号河道から西側一帯は河川氾濫土、本住居址の乗る東側は、一段高い藤岡台地の安定した土層上に構築されている。本住居址は2区発掘区の北東隅に検出され、調査予定地域外を一部拡張し、住居址全体を完掘した。南西7.0mに10号住居址が位置する。

住居の規模は、長軸4.20m・短軸3.64m、面積14.16㎡である。主軸方位はN-68°-Eを示している。発掘現場での平面の雰囲気は、方形に近くみえる。四隅が大きな円弧を描くことによるのかも知れない。電前面



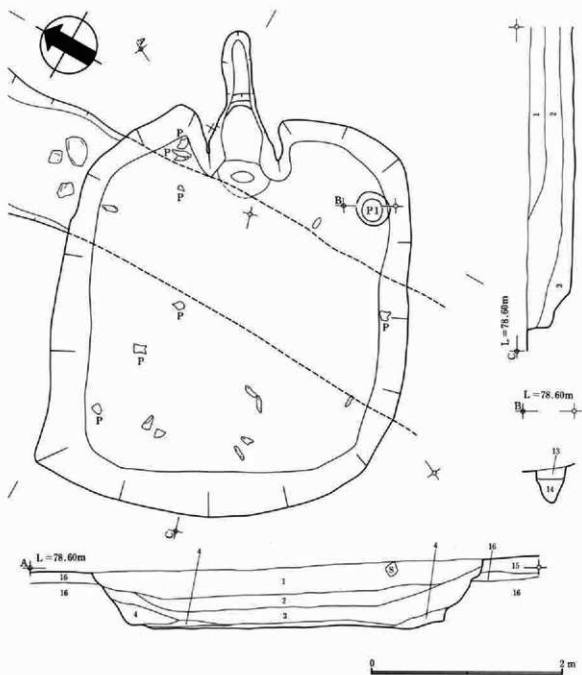
第151図 2区10号住居址(竈)

から、貯蔵穴と考えたP1方向に焼土、炭化物が広がり、その下の床面は踏まれて硬い。

竈は東壁の中央に付設される。竈全長は155cm、竈幅は115cm、燃焼部長さは80cm、焚き口幅は38cm、煙道部長さは75cm、煙道部幅は32cmである。煙道長軸はやや左側に傾く。P1は長径37cm・短径33cm、深さ35cmである。位置関係から、貯蔵穴とも考えられるが確定できない。

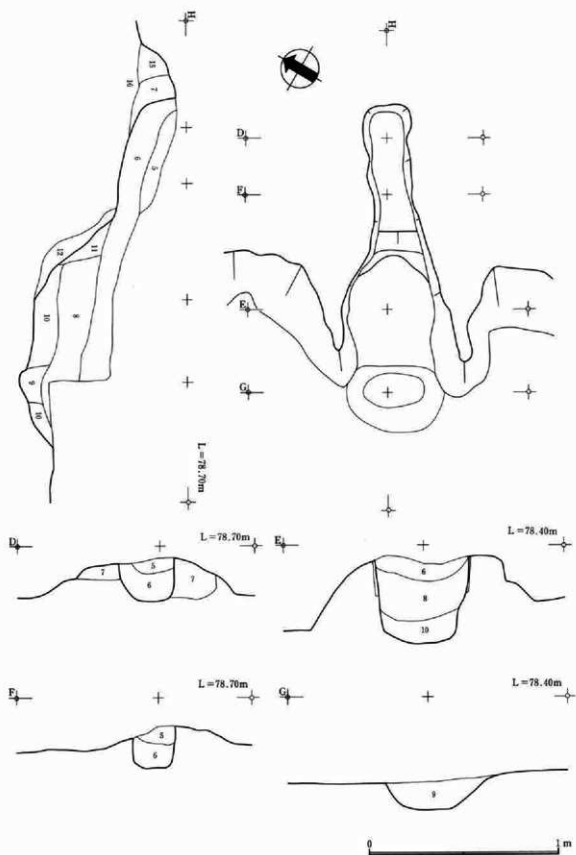
遺物 (挿図番号第196図)

出土位置を記録したものは土器265点、石材34点である。床面全面から土器片が出土し、広がる。石は西壁寄りの床面から出土している。こもあみ石と考えられる。



第152回 2区11号住居址

須恵器で蓋(163)が出土している。つまみを欠くが、小型品で内面に折り返しをつけている。須恵器の坏(164)が出土している。須恵器の無蓋高坏(166)の脚部と考えられ、壺の口縁と同様なつくりをしている。須恵器の小型品の長頸壺(167)が出土している。土師器で小型品の埴(165)、中型品の長壺(168)が出土している。鉄製品は釘が1点で長さ4cmを測り、錆がひどい。他の1点は刀子状の鉄製品で、柄の部分と考えられ、長さ4cmで断面形は方形を呈する。



第153図 2区11号住居址(竈)

2 区住居址土層一覧表

2区1号住 (基準高さ 土層断面・電80.00m)

1. 住居埋土	黄灰色(2.5Y4/1)	層中に多量の浅黄色(2.5Y7/4)のローム質土を混入している(60%)、
2. 住居埋土	黄灰色(2.5Y4/1)	層中に多量の浅黄色(2.5Y7/4)のローム質土を混入している(20%)、
3. 住居埋土	黄灰色(2.5Y4/1)	層中に多量の浅黄色(2.5Y7/4)のローム質土を混入している(50%)、
4. 住居埋土	黄灰色(2.5Y4/1)	層中に多量の浅黄色(2.5Y7/4)のローム質土を混入している(60%)、
5. 住居埋土	灰黄色(2.5Y6/3)	ローム質粘土。
6. 住居埋土	黒褐色(2.5Y3/1)	粘質土。
7. 電溝築材	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土30%+浅黄色(2.5Y7/3)ロームブロック70%。
8. 電溝築材	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土50%+浅黄色(2.5Y7/3)ロームブロック50%。
9. 電溝築材	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土60%+浅黄色(2.5Y7/3)ロームブロック40%。
10. 電溝築材	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土40%+浅黄色(2.5Y7/3)ロームブロック60%。
11. 電溝築材		焼土塊。
12. 電溝築材	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土30%+浅黄色(2.5Y7/3)ロームブロック60%+焼土塊10%。
13. 電溝築材	灰褐色(7.5YR4/2)	粘質土層中に炭化物と焼土を少量含む。
14. 電溝築材	淡黄色(2.5Y8/4)	ロームブロック中に少量の炭化物・焼土を含む。
15. 電溝築材	明赤褐色(5YR5/6)	焼土を少量含む。砂質土層。
16. 電溝築材	褐灰色(10YR5/1)	粘質土層で床面構築時の奥土層と考えられる。
17. 貯蔵穴	暗灰黄色(2.5Y4/2)	粘質土層。
18. 床下材	浅黄色(2.5Y7/3)	ロームブロックで少な量の暗褐色のよごれあり。

2区2号住 (基準高さ 土層断面80.70m、

電80.70m・80.40m)

1. 住居埋土	褐色(10YR4/4)	粘性のない砂質土。しまっている。焼土・炭化物・黄褐色シルト粒を含む。
2. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のない砂質土。しまっており、焼土・炭化物・シルト粒を含む。
3. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のない砂質土。しまっており、炭化物を多量に含む。
4. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のない砂質土。しまっている。径5mm~1cmほどの礫を含む。黄褐シルト粒を多量に含む。
5. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のある砂質土。しまっている。径5mm~1cmほどの礫を含む。黄褐シルトを少量含む。
6. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のある砂質土。しまっており、炭化物・焼土を多量に含む。
7. 住居埋土	黒褐色(10YR3/2)	粘性のある砂質土。しまっている。径5mm~1cmほどの礫・炭化物を少量含む。
8. 電溝築材	灰黄褐色(10YR6/2)	土中に淡黄色(2.5Y8/4)ロームブロック・焼土小片を少量含む。
9. 電溝築材	灰黄褐色(10YR5/2)	炭化物・焼土小片を含む。
10. 電溝築材	暗赤灰色(7.5R4/1)	砂質土層で焼土・灰を多量に含む。
11. 電溝築材	赤褐色(10R6/6)	砂質土層で焼土・灰を多量に含む。
12. 電溝築材		炭化物層。
13. 電溝築材	淡黄色(2.5Y8/4)	電天井材。
14. 電溝築材	橙色(2.5YR7/6)	
15. 電溝築材	浅黄色(2.5Y7/4)	
16. 床下材		
17. 床下材	淡黄色(2.5Y8/4)	ロームブロック70%と暗赤灰色(7.5R4/1)砂質土層30%の混土。

2区3号住 (基準高さ 土層断面80.70m、

電79.70m)

1. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のない砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。黄褐シルト塊を含む。
2. 住居埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性のない砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。黄褐シルト塊(10cm)を多量に含む。
3. 住居埋土	暗褐色(10YR3/3)	粘性のある砂質土。しまっている。径5mmほどの礫を含む。黄褐シルト塊を全体の20~30%含む。
4. 住居埋土	暗褐色(10YR3/3)	粘性のある砂質土で炭化物を少量含む。
5. 住居埋土	暗褐色(10YR3/3)	粘性のある砂質土。しまっており、黄褐シルトのブロックを含む。
6. 住居埋土	暗褐色(10YR3/3)	粘性のある砂質土。しまっており、小礫・シルト粒を少量含む。
7. 住居埋土	暗褐色(10YR3/3)	粘性のある砂質土で、炭化物の粒を少量含む。
8. 住居埋土	褐灰色(10YR5/1)	床面直上層中に炭化物・焼土・灰層が層序をなす。
9. 電溝築材	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土層60%+淡黄色(2.5Y8/3)ロームブロック40%。
10. 電溝築材	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土層90%+淡黄色(2.5Y8/3)ロームブロック10%。
11. 電溝築材	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土層90%+淡黄色(2.5Y8/3)ロームブロック10%。
12. 電溝築材	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土層50%+淡黄色(2.5Y8/3)ロームブロック50%。
13. 電溝築材	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土層80%+淡黄色(2.5Y8/3)ロームブロック20%。
14. 電溝築材	灰色(5Y4/1)	粘質土。
15. 電溝築材	橙色(5YR7/6)	19層に近い天井網土。
16. 電溝築材	橙色(5YR7/6)	19層に近い赤褐色が強い。
17. 電溝築材	橙色(5YR7/6)	19層に近い赤褐色が強い。
18. 電溝築材	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土層80%+淡黄色(2.5Y8/3)ロームブロック20%。
19. 電溝築材	橙色(5YR7/6)	電天井材。赤褐色強い。

2区4号住 (基準高さ 土層断面80.50m)

1. 表土層	黒褐色(10YR3/2)	粘性のない砂質土で、灰白色軽石を多量に含む。
2. 溝埋土	褐色(7.5YR4/4)	粘性のない砂質土。(シルト分が多い)しまっている。4層に似ている。
3. 溝埋土	暗褐色(10YR3/4)	粘性の高いシルトでラミナ状を呈し、しまっている。

第三章 2区 上栗須築前前

4. 調理土 暗褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質土で、シルト分が多くしまっている。
5. 調理土 褐色(7.5YR4/3) 粘性のある砂質土で、シルト分が多くしまっており、鉄分・炭化物粒を含む。
6. 調理土 黒褐色(10YR3/2) 粘性のある砂質土。(シルト分が多い)しまっている、黄褐色シルト粒(径2～3mm)を含む。
7. 住居埋土 暗褐色(10YR3/4) 粘性のない砂質土。しまっている。径5mmくらいの礫を含む。焼土塊・炭化物粒を少量含む。
8. 住居埋土 褐色(10YR4/4) 粘性のない砂質土で、シルト分が多く、炭化物・焼土粒を少量含む。
9. 住居埋土 褐色(10YR4/4) 粘性のない砂質土で、シルトのブロックを多く含む。しまっている。
10. 住居埋土 暗褐色(10YR3/4) 粘性のある砂質土。(シルト分が多い)しまっている、黄褐色シルト粒を含む(径5mmほど)、自然堆積土層。
11. 地山層
- 2区5A号住 (基準高さ 電75.90m)
1. 電線築材 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粘性しまりあり(シルト質)、微小礫を含む、焼土散混。
2. 電線築材 オリーブ褐色(2.5Y4/4) 軟質(シルト質)、粘性あり。
3. 電線築材 明褐色(7.5YR5/8) 焼土層。
4. 電線築材 褐色(10YR4/4) しまっている(粘土質)。
5. 電線築材 褐色(10YR4/4) 4層より軟質だがしまりはある。
6. 電線築材 褐色(10YR4/4) 粘質で5層に焼土散黒色灰を含む。
7. 電線築材 明褐色(7.5YR5/6) 焼土層。
- 2区5B号住 (基準高さ 土層断面79.60m・79.90m)
1. 住居埋土 黒褐色(10YR3/1) 軽石層でザラザラしている。
2. 住居埋土 におい黄褐色(10YR6/4) 粘質土層。
3. 住居埋土 灰黄褐色(10YR6/2) 粘質土層。
4. 住居埋土 浅黄褐色(5Y7/3) ローム質シルトを含む、軟質土である。
5. 床下材 浅黄褐色(2.5Y7/3) ローム質シルト、軟質土と硬質まざる床下土層。
6. 地山層 におい黄褐色(10YR7/4) 自然堆積土層、茶褐色粘質土層。
7. 地山層 褐色(10YR4/1) 自然堆積土層、暗褐色粘質土層。
- 2区6号住 (基準高さ 土層断面79.30m・79.70m)
1. 住居埋土 黒褐色(10YR3/1) 軽石土層でザラザラしている。
2. 住居埋土 褐色(7.5YR5/1) 軽石を含まない、軟質土層。
3. 住居埋土 におい黄褐色(10YR6/4) 粘質土層。
4. 住居埋土 灰黄褐色(10YR6/2) 粘質土層。
5. 住居埋土 浅黄褐色(5Y7/3) ローム質シルトを含む、軟質土である。
6. 地山層 におい黄褐色(10YR7/4) 自然堆積土層、茶褐色粘質土層。
7. 地山層 褐色(10YR4/1) 自然堆積土層、暗褐色粘質土で5%以下の8層を含む。
8. 地山層 浅黄褐色(5Y7/3) 自然堆積土層、ローム質シルト、径5mm以下の礫を10%含む。
- 2区7号住 (基準高さ 土層断面79.40m)
1. ビット 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラしている、小砂利を少量含む。
2. ビット 褐色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
3. 住居埋土 黒褐色(10YR3/1) 褐色粘質土層。
- 2区8号住 (基準高さ 土層断面・電79.60m)
1. 住居埋土 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、径1～2cm大のロームブロック。
2. 住居埋土 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、径1～2cm大のロームブロック・炭化物を少量含む。
3. 電線築材 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土・炭化物を5%含む。
4. 電線築材 におい黄色(2.5Y6/4) ローム質シルト、粘質強い。
5. 電線築材 褐色(2.5YR7/8) 下層は焼土を含む。
6. 電線築材 赤灰色(2.5YR5/1) 焼土+灰+炭化物を50%含む、軟質。
7. 電線築材 におい褐色(7.5YR5/4) 粘質土で灰・炭化物を含む。
8. 電線築材 褐色(7.5YR4/3) 粘質土+ローム質シルトの混土層。
9. 電線築材 黄灰色(2.5Y5/1) ローム質シルトのつきかためられた層で中に灰・焼土片も含む。
10. 電線築材 灰黄色(2.5Y6/2) ローム質土に黒色味が強い。
11. 電線築材 褐灰色(7.5YR4/1) 粘性強く、灰・炭化物を含む。
12. 電線築材 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土80%+ローム質シルト20%の混土材、古い貯蔵穴。
13. 地山層 浅黄褐色(5Y7/3) ロームシルト70%+砂30%、褐色強い。
14. 地山層 浅黄褐色(5Y7/3) ロームシルト粘性強い、黄色強い。
15. 地山層 黄灰色(2.5Y4/1) 砂層。
16. 地山層 浅黄褐色(5Y7/3) ロームシルト。
- 2区9号住 (基準高さ 土層断面79.10m、電78.90m)
1. 住居埋土 暗灰黄色(2.5Y5/2) 軟質土層。
2. 住居埋土 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土層+10%の浅黄褐色(2.5Y5/3)ローム質シルト混土。
3. 住居埋土 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で炭化物3%以下混土。
4. 電線築材 褐灰色(5YR4/1) 粘質土層で炭化物・焼土3%以下含む。
5. 電線築材 浅黄褐色(7.5YR8/3) 粘質ロームに赤色(10R5/8)焼土を含む。
6. 電線築材 赤灰色(2.5YR5/1) 灰を主体とした軟質土層。
7. 電線築材 褐灰色(7.5YR5/1) 灰層に粘質土を含む。
8. 電線築材 粘土層。

- | | | |
|---|------------------|---|
| 9. 電線基材 | 赤灰色(2.5YR5/1) | 焼土・灰を含む軟質土層30%と5層を70%含む。 |
| 10. 電線基材 | 褐灰色(7.5YR5/1) | 7層に近似した赤色(10R5/8)焼土を少量含む。 |
| 11. 電線基材 | 褐灰色(7.5YR4/1) | 灰層。 |
| 12. 貯蔵穴 | 褐灰色(7.5YR5/1) | 軟質土層、砂質土層。 |
| 13. 土坑埋土 | 褐灰色(10YR4/1) | 軟質土層。 |
| 14. 土坑埋土 | | 13層80%+15層20%混土層。 |
| 15. 地山層 | 淡黄色(5Y7/4) | ローム質シルト。 |
| 2区10号住 (基準高さ 土層断面・電78.60m) | | |
| 1. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘質土層+淡黄色(5Y7/3)ローム質シルト5%以下。 |
| 2. 住居埋土 | 暗灰黄色(2.5Y4/2) | 粘質土層+淡黄色(5Y7/3)ローム質シルト10%以下。炭化物を3%以下含む。 |
| 3. 電線基材 | 褐灰色(10YR5/1) | 粘質土層で焼土・炭化物5%含む。 |
| 4. 電線基材 | にぶい赤褐色(10YR6/4) | 焼土を多量に含む。軟質土層。 |
| 5. 電線基材 | 灰赤色(10R6/2) | 焼土+灰+淡黄色(5Y7/3)ローム質シルト混土。 |
| 6. 電線基材 | 黄灰色(2.5Y4/1) | 粘質土層で焼土・土器片を含む。 |
| 7. 電線基材 | 灰黄褐色(10YR5/2) | 粘質土層で淡黄色(5Y7/4)ロームシルトを10%含む。 |
| 8. 貯蔵穴 | 黄灰色(2.5Y4/1) | 砂質土層。 |
| 9. 電線基材 | 淡黄色(5Y7/3) | 砂質土層+4層を10%含む。 |
| 2区11号住 (基準高さ 土層断面78.60m・78.40m、電78.70m) | | |
| 1. 住居埋土 | 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) | 粘質土層で少量の炭化物・土器片含む。 |
| 2. 住居埋土 | 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) | 1層を80%+灰白色(5Y7/2)ローム質シルト20%。 |
| 3. 住居埋土 | 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) | 1層を90%+灰白色(5Y7/2)ローム質シルト10%2層より黄色強い。 |
| 4. 住居埋土 | 灰黄褐色(10YR5/2) | 粘質土+灰白色(5Y7/2)ローム質シルトの混土層。 |
| 5. 電線基材 | 褐灰色(5YR5/1) | 灰・焼土を含む。粘質土層70%+焼土とローム質ブロック30%混土。 |
| 6. 電線基材 | 黄灰色(2.5Y5/1) | 粘質土層で少量の炭化物・焼土3%含む。 |
| 7. 電線基材 | 灰黄褐色(10YR5/2) | 粘質土層で自然堆積土をかためているようである。少量の16層混土。 |
| 8. 電線基材 | 褐灰色(10YR6/1) | 粘質土層で焼土を6層より多く含む。10%以下。 |
| 9. 電線基材 | 赤灰色(2.5YR5/1) | 灰と焼土の軟質土層。 |
| 10. 電線基材 | 褐灰色(10YR4/1) | 軟質土層で灰を20%含む。焼土を5%含む。 |
| 11. 電線基材 | 灰色(5Y4/1) | 15層に近似した褐色土層である。 |
| 12. 電線基材 | 灰色(5Y4/1) | 砂質土強い。 |
| 13. 貯蔵穴 | 褐灰色(10YR4/1) | 粘質土層。 |
| 14. 貯蔵穴 | 淡黄色(5Y8/3) | 16層のシルトを5%混土。 |
| 15. 地山層 | 灰色(5Y4/1) | 粘質土層。 |
| 16. 地山層 | 淡黄色(5Y8/3) | ローム質シルト。砂層多い。 |

B 掘立柱建物

2区1・2号掘立柱建物 (神田 第154・155図 P L-54)

2区1号掘立 M 6・75, 85に位置する。東10mに2号掘立柱建物が位置する。柱穴は4本確認され、それぞれの距離はP1-P2は172cm, P2-P4は151cm, P4-P3は176cm, P3-P1は154cmを測る。主軸はN-2°-W床面積は2.7㎡を測る。

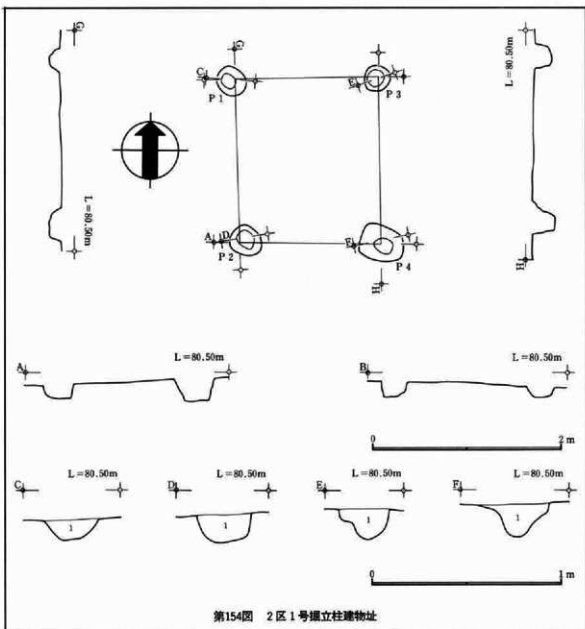
柱穴埋土土層表記(基準高さ 80.50m)

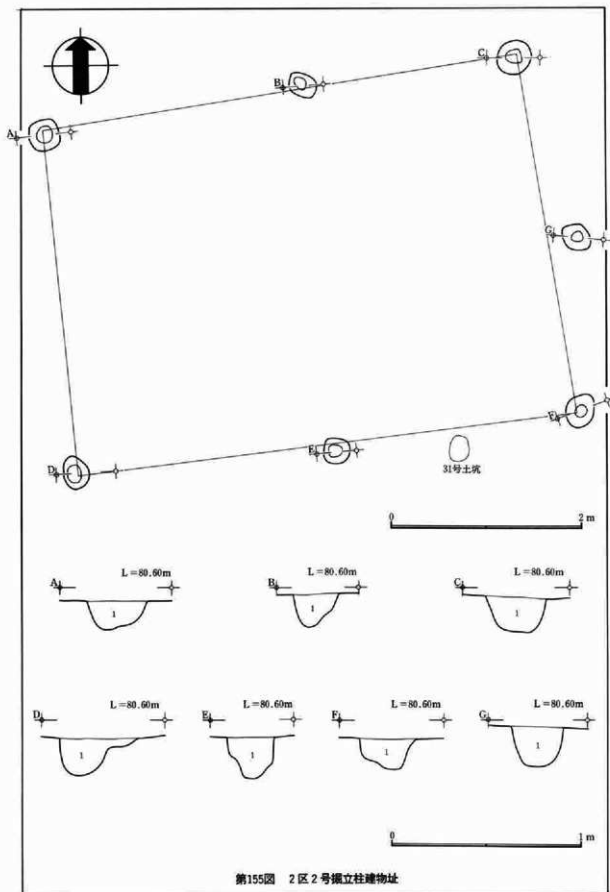
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性的ない砂質土、シルトが多くしまっている。黄褐色シルト塊(5mm~1cm)を斑に含む。

2区2号掘立 M 6・76, 77, 86, 87に位置する。西10mに1号掘立柱建物が位置する。北東195mに1区3号掘立柱建物が位置する。柱穴は7本確認され、それぞれの距離はP1-P3は1513cm, P3-P5は384cm, P5-P7は538cm, P7-P1は366cmを測る。主軸はN-81°-W床面積は19.7㎡を測る。

柱穴埋土土層表記(基準高さ 80.60m)

1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性的ない砂質土、しまっている。径5mm~1.5cmの礫を含む。黄褐色シルト塊(最大5cm)を斑に含む。





第155图 2区2号掘立柱建物址

C 溝 址

2区1号溝 (付図番号第11図 挿図番号第156・197～199図 写真番号P L-63)

本溝はM6・35, 36, 37, 38, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, N6・30, 31, 40, 41グリッドに位置し、東(N-88°E)へ向かい、全長はおおよそ75mを測る。

溝の断面形状は上幅2m20cm・下幅60cm、深さは64cmを測り、逆台形形でしっかりとしている。

遺物は須恵器の蓋(175), 坏(176), (177), (178), (179), (180), (181), (182), (183), (184), (185), (186), (187), 高台付坏(188), (189), (190), (191), (192), 甕(193), (194), (196), 長頸瓶(195), 高台付甕(197), 土師器の甕(198), (200), 埴(199), 台付甕(201), 坏(202), (203), (204)が出土している。石簀も溝埋土から出土している。

2区2号溝 (付図番号第11図 挿図番号第156図 写真番号P L-63)

本溝はM6・48, 49, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, N6・40, 50グリッドに位置し、東(N-89°E)へ向かい、全長はおおよそ74mを測る。

形状は上幅84cm・下幅40cm、深さは20cmである。ただし、M6・54, M6・55グリッド付近では発掘時に遺構面を削り過ぎたため、M6・53グリッドに連結することを確実に平面上で検証できず、3号溝との切り合いについても検討できなかったことが、悔やまれる。N6・40, N6・50グリッドで4号溝と切り合う。M6・53グリッドでは6号溝と本溝との関係を平面的に確認できた。

2区3号溝 (付図番号第11図 挿図番号第156図 写真番号P L-64)

本溝はM6・64, 74, 84, 94グリッドに位置し、北(N-4°E)へ向かい、確認された溝の全長はおおよそ17mを測る。

本溝の断面形状は上幅42cm・下幅30cm、深さは10cmで底部は丸い。3号溝と6号溝は平行して走り、溝芯々幅は11.5mを測り、1号溝と2号溝の組み合わせに直交して区画されたと考えられる。M6・54, M6・55グリッド付近では、表土掘削時に土層を掘り下げ過ぎた。そのため、2号溝と本溝との切り合い関係を発掘で検討することはできなかった。

2区4号溝 (付図番号第12図 挿図番号第157・199図 写真番号P L-64)

本溝はM5・36, 37, 38, 39, 45, 46, 47, 48, 49, N5・30, 31, 32, 33, 34, 40, 41, 42, 43, 44グリッドに位置し、東(N-88°E)へ向かい、全長は71mを測る。周辺の土層は16層に分類でき、本溝埋土は大きく3層に分けられた。

溝断面の形状は上幅1m50cm・下幅60cm、深さは22cmで、底部は船底状を呈する。M5・45とM5・46グリッドで6号古墳を本溝は切っている。切り合いは古い段階と考えられる。6世紀の古墳と7世紀の遺物を伴う溝の切り合いでよからう。

遺物は土師器で底部を欠く皿(205)、底部を欠く鉢(206)である。土師器の坏(210)は大ぶりで、中型の坏(211), (212), (214)と、小ぶりの坏(215)に細分される。須恵器の大ぶりの蓋(207)の内側のかえりは小さい。須恵器の甕(208)は頸部のみである。須恵器の坏(209)の底部は寛ケズリである。須恵器の長頸壺(213)は頸部のみである。

2区5号溝 (付図番号第12図 挿図番号第157図 写真番号P L-64)

本溝はM5・26, 27, 28, 29, 36, 37, 38, 39, N5・20, 21, 22, 23, 24, 25, 30, 31, 32, 33, 34グリッドに位置し、東(N-88°E)へ向かい、全長はおよそ71mである。周辺の土層も含め、層序は16層に分類できた。

形状は上幅60cm・下幅40cm、深さは13cmで、底部は丸底の逆台形を呈する。M5・36グリッド周辺で6号古墳を切る。M5・39グリッドから東は、表土剥ぎ段階で本溝を削りすぎた部分もある。

2区6号溝 (付図番号第11図 挿図番号第156・199図 写真番号P L-64)

本溝はM6・53, 63, 73, 83, 93グリッドに位置し、北(N-4°E)へ向かい、全長は24mである。周辺の土層の層序は25層に分類できた。

形状は上幅90cm・下幅40cm、深さは36cmの逆台形を呈するしっかりとした溝である。M6・53グリッドで2号溝との切り合い関係が認められ、2号溝と同時期に掘られたものか、2号溝を意識的に避けたものか、両者は極めて関係の深い溝である。東に併走する3号溝は6号溝と同時期と考えられ、溝芯幅は約11.5mを測る。

遺物は須恵器の蓋(216)が出土している。つまみ部は欠損するが、輪状を呈すると考えられる。石鏝も出土している。

2区7号溝 (付図番号第13図 挿図番号第199図)

本溝はN4・18, 28, 38グリッドに位置し、北(N-2°E)へ向かい、全長は17mである。

形状は上幅1m20cm・下幅1m、深さは18cmである。底面は凹凸が多い。11号住居を本溝は切っている。遺物は土師器の大型品の埴(217)で口縁が短く外反するものと、土師器の大型品の埴(218)で口唇部が丸く内湾するものがある。

2区河道 (付図番号第13図 写真番号P L-71)

本河道はN4・77から北へN4・67, N4・57, N4・47, N4・37, N4・27, N4・17, N4・07のグリッドを主に通過し、N3・97グリッドへ至る。

2区の発掘区では約45mが検出されている。1区で第1号C河道と合流し、舌状の台地の西側を削り、右に曲がり、発掘区域外へ出る。極めて直線的なこの河道は1号河道と同様、浅間B軽石を埋土中間に挟み込むことから溝とも考えたが、発掘区も狭いことから、藤岡台地を大きく乱流する河道の一本と考えた。この河道の東側を1区に連結する1区14号溝が走る。

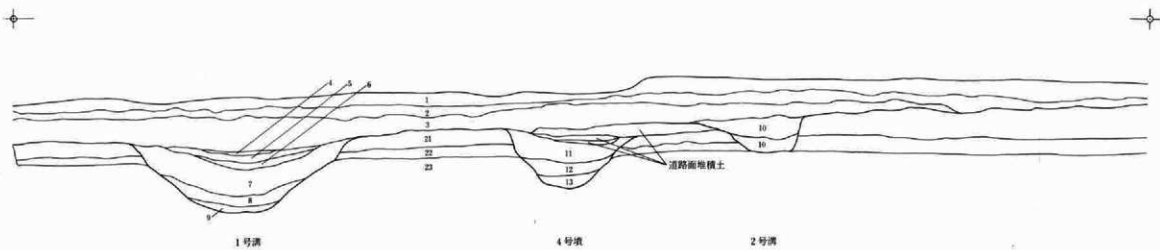
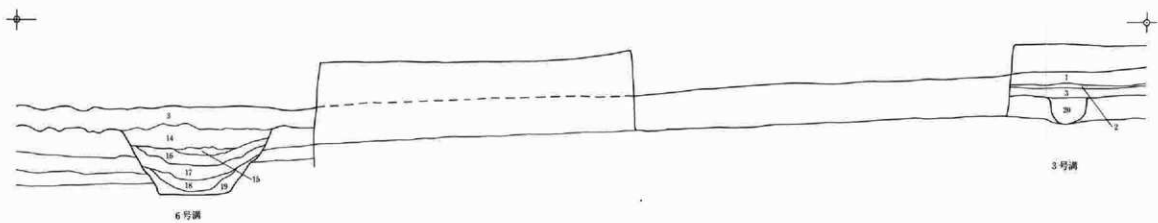
2区溝土層一覧表

- 2区1号溝 (基準高さ 80.30m・80.70m)
 2区2号溝 (基準高さ 80.40m・80.70m)
 2区3号溝 (基準高さ 80.60m)
 2区6号溝 (基準高さ 80.50m)
 1. 灰白色(2.5Y8/2)
 2. 浅黄色(2.5Y7/3)
 3. 暗灰黄色(2.5Y4/2)
 4. 黒褐色(10YR3/2)
 5. 灰黄褐色(10YR4/2)

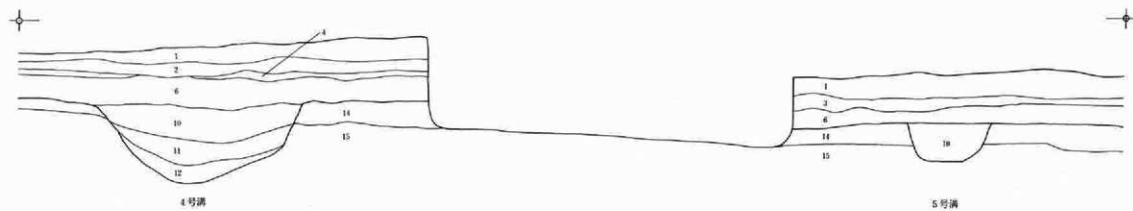
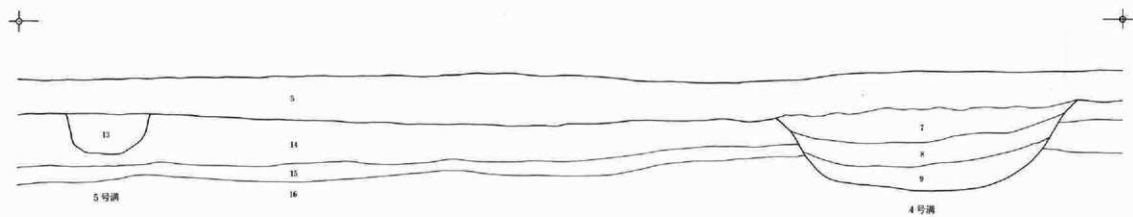
- 軽石を多量に含む層。(表土)
 軽石を多量に含む層。鉄分沈殿層。(表土)
 軽石を多量に含む層。粘質土層。(表土)
 粘質土層。
 粘質土層。

第三章 2区 上栗須師前

- | | |
|----------------------------|--|
| 6. 褐色(10YR4/4) | 粘質土層。 |
| 7. におい黄褐色(10YR5/4) | 上層は粘質強く、下層は砂質が強い。 |
| 8. におい黄褐色(10YR5/4) | 灰色強い。 |
| 9. におい黄褐色(10YR5/4) | 砂層。 |
| 10. におい黄褐色(10YR5/3) | 粘質土層で単純層である。 |
| 11. 黒褐色(10YR3/1) | 粘質土層で少量の軽石を含む。 |
| 12. 灰白色(5Y7/1) | 粘質土層で鉄分をラミナ状に含み、たたきしめられている。 |
| 13. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層、黒色強い。 |
| 14. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層、褐色強い。 |
| 15. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層、黄色強い。 |
| 16. 褐色(7.5YR4/4) | あまり粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。 |
| 17. におい黄褐色(10YR5/3) | 粘性のある砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐シルト粒(径5mm)を含み、鉄分の凝集粒を含む。 |
| 18. 暗褐色(10YR3/4) | 粘性の高いシルト、しまっている。黄褐シルト粒(径5mm)をラミナ状に含む。 |
| 19. 暗褐色(10YR3/3) | 粘性のある砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐シルト塊(3mm~5cm)を少量含む。 |
| 20. 褐色(7.5YR4/3) | 粘性のある砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐シルト塊(1cm~10cm)・鉄分の凝集した粒を含む。 |
| 21. 黒褐色(10YR3/2) | 粘性のある砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐シルト粒(径2~3mm)を含む。 |
| 22. 暗褐色(10YR3/3) | 粘性のある砂質土(シルト分が多い)、しまっている。下層に径5mmほどの黄褐色シルトを含む。 |
| 23. におい黄褐色(10YR4/3) | 単純層で粘質土、(旧表土) |
| 24. 暗褐色(10YR3/4) | 黒褐色(10YR3/2)ブロックと、におい黄褐色(10YR7/3)ローム質シルトを少量含む。 |
| 25. におい黄褐色(10YR7/3) | ローム質シルト、(旧表土) |
| 2区4号溝 (基準高さ 79.70m・79.80m) | |
| 2区5号溝 (基準高さ 79.80m) | |
| 1. 灰オリーブ色(5Y5/3) | As-A軽石や砂を混入する。質は2層に近いが、耕作により混土となった土。 |
| 2. 灰オリーブ色(5Y5/2) | As-A軽石を多量に混入する。(表土) |
| 3. 灰オリーブ色(5Y5/2) | 2層・4層の強土層。(表土) |
| 4. におい黄色(2.5Y6/4) | シルト質である。上層に鉄分凝集が底にみられる。(表土) |
| 5. におい黄色(2.5Y6/4) | 2層・3層・4層の強土層。(表土) |
| 6. 暗灰黄色(2.5Y4/2) | As-B軽石とみられる軽石を多量に混入する。(表土) |
| 7. におい黄褐色(10YR6/4) | 粘質土層。 |
| 8. 灰黄褐色(10YR6/2) | 粘質土層。 |
| 9. 褐灰色(10YR5/1) | 軟質土層でローム質シルト径5mmの礫を5%以下含む。 |
| 10. 明黄褐色(2.5Y6/6) | シルト質土。小砂礫を少量混入する。 |
| 11. オリーブ褐色(2.5Y4/6) | 10層と同質であるが、色調がより暗く、粘性味をおびる。 |
| 12. 黄褐色(2.5Y5/3) | 砂礫を多量に混入する。 |
| 13. 黄褐色(2.5Y5/4) | シルト質。砂礫を少量混入する。下底部には砂が混入し、色調も黄色味をおびる。 |
| 14. オリーブ褐色(2.5Y4/6) | きめの細かいシルト質土。混入物はほとんどない。(旧表土) |
| 15. オリーブ色(5Y6/6) | 粘土質のシルトである。(旧表土) |
| 16. 浅黄色(5Y7/4) | ローム質シルト。径5mmの礫を10%含む。(旧表土) |
| 2区7号溝 (基準高さ 78.50m・78.60m) | |
| 2区河道 (基準高さ 78.60m) | |
| 遺物 スラダ 石鏝あり。 | |
| 1. 暗灰黄色(2.5Y5/2) | 軟質土。少量の淡黄色(5Y8/3)ローム質シルトをブロック状に混土。(7溝) |
| 2. 褐灰色(7.5YR4/1) | 黒色強く粘質土層。(1区14溝) |
| 3. 灰褐色(7.5YR4/2) | 褐色強く粘質土層。(1区14溝) |
| 4. 灰褐色(7.5YR4/2) | ローム質シルトが多く黄色味強い。(1区14溝) |
| 5. 灰褐色(7.5YR4/2) | 褐色粘質土層70%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルト30%の混土。(河道) |
| 6. 灰褐色(7.5YR4/2) | 5層と同質。(河道) |
| 7. 灰褐色(7.5YR4/2) | 5層と同質。(河道) |
| 8. 灰褐色(7.5YR4/2) | 5層と同質。(河道) |
| 9. 灰褐色(7.5YR4/2) | 5層と同質。(河道) |
| 10. 灰褐色(7.5YR4/2) | 3層と同質。(河道) |
| 11. 黒色(7.5YR1.7/1) | 粘質土。下層にAs-B軽石含む。(河道) |
| 12. 黒色(7.5YR1.7/1) | 粘質土。暗紫色シルト含む。(河道) |
| 13. 黒色(7.5YR1.7/1) | 粘質土。黄褐色火山砂礫。(河道) |
| 14. 黒色(7.5YR1.7/1) | 11層と同質。(河道) |
| 15. 褐灰色(10YR4/1) | 粘質土層。(河道) |
| 16. 灰黄褐色(10YR5/2) | 粘質土層。(河道) |
| 17. 淡黄色(5Y8/4) | ローム質シルト。(旧表土) |
| 18. 淡黄色(5Y8/4) | 砂礫層。径5~10cmの円礫を含む。(旧表土) |



第156图 2区1·2·3·6号坑址



第157图 2区4·5号溝址

D 土器溜り・土坑

土器溜り (付図第14図)

位置はM4・29, 30, N4・29, 30グリッド 遺物散布の範囲は長軸13.65m, 短軸7.00mで、面積は69㎡を測る。散布の長軸方向はN-59-Eである。その範囲に3つの土坑が検出された。1号土坑は長軸145cm, 短軸124cm, 深さ31cmを測る。2号土坑は長軸280cm, 短軸195cm, 深さ54cmを測る。1号土坑と2号土坑は重複している。3号土坑は長軸215cm, 短軸140cm, 深さ40cmを測る。

土器溜りの土層は、基準高さ76.90mで以下の通りである。1. 黒褐色(5YR2/1) 灰・炭化物・焼土ブロック・土器小片を含む。2. 黒褐色(5YR2/1) 灰・炭化物・焼土ブロックを混土。3. にぶい赤褐色(5YR5/4) 炭化物・焼土ブロックを混土。

遺物については、土師器では壺が49点(245~289・291・292・335・336), 鉢が1点(290), 小型甕が1点(293), 丸甕が7点(294・296~300・337), 台付甕が1点(295), 長甕が17点(301~317)出土している。須恵器では壺が2点(321・322), 蓋が2点(320・334), 無蓋高坏が2点(323・324), 有蓋高坏が4点(325・326・328・331), 高台坏が3点(327・329・330), 甕が2点(318・332), 長胴甕が1点(319), 長頸甕が1点(333)出土している。

土層説明

2区土器溜り(基準高さ 76.90m)

1. 黒褐色(5YR2/1)
2. 黒褐色(5YR2/1)
3. にぶい赤褐色(5YR5/4)

灰・炭化物・焼土ブロック・土器小片を含む。
灰・炭化物・焼土ブロックを混土。
炭化物・焼土ブロックを混土。

2区 土坑計測値一覧

土坑	長 軸	短 軸	深 さ	土坑	長 軸	短 軸	深 さ	土坑	長 軸	短 軸	深 さ
1	220	55	74	30	37	30	20	55	38	33	14
2	58	46	9	31	42	40	40	56	39	32	9
3	162	95	5	32	23	21	14	57	26	25	14
4	182	87	19	33	35	25	12	58	35	31	20
5 A	162	117	55	34	20	18	8	59	40	37	43
5 B	90	68	23	35	28	26	18	60	32	24	24
6	130	122	20	36	45	25	22	61	47	34	24
7	131	127	11	37	27	24	14	62	48	31	13
8	97	87	10	38	27	22	10	63	24	23	18
9	80	70	14	39	31	23	12	64	20	17	15
10 A	78	73	5	40	25	21	8	65	20	20	5
10 B	60	37	31	41	23	19	14	66	25	18	12
11	135	111	26	42	34	28	23	67	43	38	8
12	134	113	20	43	31	26	11	68	41	36	18
19	310	145	44	44	20	18	13	69	23	22	22
20	137	92	37	45	33	28	14	70	23	21	9
21	145	30	22	46	22	22	18	71	70	58	6
22	122	110	6	47	20	19	8	72	25	22	9
23	150	83	64	48	25	22	6	73	33	27	7
24	95	75	8	49	26	25	26	74	31	26	9
25	32	19	15	50	25	21	10	75	31	27	15
26	27	20	10	51	25	20	19	76	33	31	40
27	34	21	20	52	32	29	15	77	43	35	22
28	25	18	9	53	23	22	20	78	34	24	16
29	32	25	21	54	32	31	18	79	20	18	8

第三章 2区 上栗須葉節前

土坑	長軸	短軸	深さ	土坑	長軸	短軸	深さ	土坑	長軸	短軸	深さ
80	42	39	41	141	68	38	30	202	111	85	26
81	35	26	25	142	298	180	57	203	208	126	31
82	25	23	27	143	167	90	50	204	72	50	10
83	30	27	13	144	97	90	32	205	48	45	13
84	22	20	8	145	178	57	14	206	74	50	11
85	27	25	14	146	138	103	28	207	46	40	11
86	31	22	7	147	196	150	80	208	47	42	7
87	36	23	17	148	135	95	49	209	71	48	6
88	30	25	9	149	102	93	38	210	150	87	9
89	70	34	20	150	40	38	17	211	43	35	7
90	22	21	4	151	41	40	36	212	159	124	10
91	42	32	6	152	31	26	16	213	198	136	29
92	32	26	4	153	60	55	12	214	76	52	20
93	25	19	6	154	92	79	13	215	60	50	30
94	26	22	22	155	170	113	117	216	60	48	23
95	310	138	33	156	122	102	13	217	114	111	32
96	198	181	60	157	116	83	27	218	36	35	9
97	280	184	53	158	173	117	12	219	32	30	17
98	55	46	10	159	105	96	35	220	53	48	8
99	120	112	38	160	86	70	11	221	32	30	20
100	170	105	50	161	26	26	11	222	25	18	24
101	51	37	35	162	36	32	8	223	36	35	8
102	28	24	15	163	136	81	41	224	48	43	8
103	260	90	40	164	33	27	15	225	47	45	9
104	90	50	22	165	87	74	18	226	61	57	9
105	52	48	18	166	55	50	9	227	65	56	11
106	285	182	64	167	77	84	9	228	378	320	35
107	240	80	26	168	95	55	9	229	90	90	46
108	31	30	20	169	67	60	87	230	49	45	9
109	71	64	23	170	202	176	88	231	96	60	9
110	136	129	38	171	86	47	13	232	116	104	31
111	361	90	28	172	203	195	36	233	81	66	26
112	196	100	22	173	47	45	23	234	174	155	63
113	92	78	26	174	62	56	12	235	125	90	16
114	75	58	18	175	86	80	22	236	195	98	18
115	69	65	10	176	65	60	20	237	45	34	10
116	60	55	10	177	64	54	32	238	120	100	8
117	57	56	7	178	72	70	20	239	46	43	9
118	130	116	12	179	150	105	56	240	148	126	13
119	35	32	10	180	185	170	36	241	198	112	12
120	133	95	8	181	35	32	12	242	37	36	15
121	115	98	48	182	163	135	22	243	63	60	12
122	195	130	15	183	238	155	27	244	76	55	17
123	350	220	108	184	303	140	15	245	55	42	10
124	66	60	10	185	220	113	14	246	63	47	15
125	85	75	29	186	260	140	21	247	60	44	7
126	80	65	9	187	98	80	30	248	29	27	6
127	93	75	28	188	240	105	16	249	56	52	11
128	95	90	50	189	111	100	95	250	121	70	110
129	90	71	22	190	200	96	20	251	70	69	193
130	85	80	40	191	66	60	20	252	63	56	135
131	204	138	53	192	155	115	33	253	68	58	150
132	107	100	22	193	40	38	22	254	74	61	176
133	72	58	16	194	35	30	13	255	71	64	110
134	118	108	21	195	55	46	17	256	85	74	116
135	275	210	71	196	91	84	15	257	58	58	65
136	295	190	69	197	65	40	6	258	73	67	145
137	271	120	38	198	111	87	35				
138	95	78	31	199	145	103	57				
139	100	90	17	200	230	222	42				
140	72	65	27	201	72	70	15				

2 区土坑観察一覧表

- 2区1～10号土坑 (神宮 第158図)
- 2区1号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 M4・97 南東12mに6号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 Yの字 長軸方位 N-5°-W
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 褐色土を主体として、砂利を混入し地山の崩壊土をブロック状に混入する。
2. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂利を主体として、褐色土を少量混入する。
- 2区2号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M5・48 東2.0mに9号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 軽石粒と砂粒を混入する。
2. 黄褐色(2.5Y5/6) 地山に近似する。
- 2区3号土坑 [縄文土坑] (基準高さ 79.90m)
位置 M5・74 南東11.0mに8号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) 少量の軽石を混入する。
- 2区4号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M5・64.65 南5.0mに3号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-8°-W
- 2区5A・5B号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 5・55 重複関係 B土坑がA土坑より新しい。南西6.0mに4号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 5A号土坑 円形。5B号土坑 コの字 長軸方位 5A号土坑 N-85°-W, 5B号土坑 N-75°-E
1. オリーブ褐色(2.5Y4/4) 砂や軽石を混入する。
- 2区6号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 M5・18 東3.0mに7号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. オリーブ褐色(2.5Y4/6) 細かい砂粒や軽石、地山の崩壊土を塊状に混入する。地山はオリーブ色(5Y6/6)ローム質シルト。
- 2区7号土坑 (基準高さ 79.60m)
位置 M5・18 南西9.5mに10A・B号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. オリーブ褐色(2.5Y4/6) 細かい砂粒や軽石、地山の崩壊土を塊状に混入する。地山はオリーブ色(5Y6/6)ローム質シルト。
- 2区8号土坑 (基準高さ 79.40m)
位置 M4・79 東15.0mに24号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂や軽石を混入する。地山をブロック状に混入する。
- 2区9号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M5・48・49 南8.5mに19号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 暗オリーブ色(5Y4/3) 軽石や砂を混入する。
- 2区10A・10B号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 M5・27 重複関係 A土坑がB土坑より新しい。南東12.0mに2号土坑が位置する。平面形状 10A号土坑 円形, 10B号土坑 楕円形 断面形状 10A号土坑 Uの字, 10B号土坑 コの字
1. オリーブ色(5Y5/4) ローム質土をブロック状に混入する。軽石を多く混入する。
2. 灰オリーブ色(5Y4/2) シルト質である。混入物はほとんどない。
3. 暗オリーブ色(5Y4/3) シルト質である。砂や軽石を少量混入する。
- 2区11・12・19～29号土坑 (神宮 第159図)
- 2区11号土坑 (基準高さ 80.00m)
位置 M6・53 北東21.0mに90号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 暗褐色(10YR3/4) 粘性のある砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト塊を斑に含む。径1mmほどの白色粒含む。2区12号土坑 (基準高さ 80.10m)
- 位置 N5・61 北東11.5mに15土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 暗赤褐色(2.5YR3/4) 軟質土。
2. 暗赤褐色(2.5YR3/4) 軟質土。砂を少量含む。
- 2区18号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M5・58.68 南東5.5mに16号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 Uの字 長軸方位 N-42°-W
1. 暗褐色(10YR3/4) 壤土。
2. 褐色(10YR4/4) 砂質土。
3. 褐色(10YR4/4) 砂質土50%+よい黄褐色(10YR5/3)でローム質砂質土の層。
4. におい黄褐色(10YR5/3) 地山層。ローム質砂質土の層。
- 2区20号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 M5・98 西2.5mに21号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(10YR2/3) 粘質土層。
2. 黒褐色(10YR2/3) 粘質土層80%+黄褐色(2.5Y5/3)シルト質ローム質土20%。
3. 黄褐色(2.5Y5/3) 地山層。シルト質ローム質土。
- 2区21号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 M5・98 西5.0mに52号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 Uの字 長軸方位 N-39°-E
1. 黒褐色(10YR2/3) 粘質土層80%+黄褐色(2.5Y5/3)シルト質ローム質土20%。
- 2区22号土坑 (基準高さ 80.40m)
位置 M6・38 北勢12.0mに36号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧 遺物 炭化物あり
1. におい赤褐色(5YR4/3) 浅黄色(2.5Y7/4)ローム質シルト10%と炭化物・換土・骨片を少量含む。

第III章 2区 上栗須乗師前

- 2区23号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 N 6・00, 10 南西7.5mに24号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Vの字 長軸方位 N-1'-W
1. オリーブ黒色(7.5Y3/1) 粘質土層。
2. オリーブ黒色(7.5Y3/1) 粘質土層70%と黄色(2.5Y8/6)ローム質シルト30%の混土。粘性強い。
3. 黄色(2.5Y8/6) 地山層、ローム質シルト。粘性強い。
- 2区24号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・19 南東8.0mに13号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 粘質土層(軟質)。
2. 黒褐色(2.5Y3/1) 粘質土層60%と黄色(2.5Y8/6)ローム質シルト40%。
3. 黄色(2.5Y8/6) 地山層、ローム質シルト。
- 2区25号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・17・18 北東1.0mに26号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区26号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・18 北東0.5mに28号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区27号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・18 南11.5mに22号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区28・29号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・18 28号土坑から東0.5mに29号土坑、29号土坑から南0.5mに27号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 28号土坑 Uの字、29号土坑 Vの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区30～64号土坑 (詳細 第160図)
- 2区30・31号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 M 6・17 30号土坑から東0.5mに31号土坑、31号土坑から5.5mに25号土坑が位置する。平面形状 30号土坑 楕円形、31号土坑 円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層70%と浅黄色(2.5Y7/4)ローム質シルト30%。
3. 浅黄色(2.5Y7/4) ローム質シルト80%と黄灰色(2.5Y4/1)粘質土層20%。
4. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層90%と浅黄色(2.5Y7/4)ローム質シルト10%。
5. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区32号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・26 東1.0mに33号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区33・34号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・26, 27 33号土坑から南0.2mに34号土坑、34号土坑から東0.7mに35号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 3号土坑 Uの字、34号土坑 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区35号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・27 南0.5mに36号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区36号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・27 西4.5mに53号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区37号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 5・78 南西3.8mに38号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
1. 黒褐色(7.5YR3/1) 粘質土層。
2. 黄色(2.5Y8/6) 地山層、ローム質シルト。
- 2区38号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 5・87 西3.0mに39号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
1. 黒褐色(7.5YR3/1) 粘質土層。
2. 黄色(2.5Y8/6) 地山層、ローム質シルト。
- 2区39号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 5・87 南1.0mに40号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字

1. 黒褐色(7.5YR3/1) 粘質土層。
 2. 黄色(2.5Y8/6) 地山層, ローム質シルト。
- 2区40号土坑 (基準高さ 79.90m)
 位置 M5・87 南西10.5mに67号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円錐
 1. 黒褐色(7.5YR3/1) 粘質土層。
 2. 黄色(2.5Y8/6) 地山層, ローム質シルト。
- 2区41号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 南6.7mに30号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区42号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 東0.7mに44号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区43号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 南西1.2mに41号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区44号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 南0.3mに43号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層90%+浅黄色(2.5Y7/4) ローム質シルト10%。
 3. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区45号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 南1.5mに42号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層80%+浅黄色(2.5Y7/4) ローム質シルト20%。
 3. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区46号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 南東1.2mに47号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区47号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 南0.5mに48号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円錐
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区48号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・07 西2.7mに45号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円錐
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区49号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M5・97 M6・07 南西1.2mに46号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区50号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M5・97 南1.5mに49号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区51号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M5・97 西1.5mに50号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区52号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M5・97 南0.7mに51号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト(黄色と褐色斑状)。
- 2区53号土坑 (基準高さ 79.80m)
 位置 M6・26 北東3.3mに32号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層, ローム質シルト。
- 2区54号土坑 (基準高さ 79.90m)
 位置 M6・16 北東1.0mに55号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。

第三章 2区 上栗須楽師前

2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区55号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・16 55号土坑から南東0.3mに56号土坑が位置する。平面形状 55号土坑 円形, 56号土坑 楕円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区57号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・16 南2.5mに58号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区58号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 北西1.5mに85号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区59号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 南西1.5mに59号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区60号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 61号土坑と重複 本土坑が新しい。西1.0mに59号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区61号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 重複関係 61号土坑が新しい。北西約1.0mに59号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 61号土坑 Uの字, 62号土坑 不定形
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区63号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 南0.8mに60号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区64号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 南東1.6mに65号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区65~64号土坑 (隣図 第161図)
- 2区65号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・06 南東1.5mに63号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区66号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 5・06 南西3.5mに64号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Vの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区67号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 5・86 北1.0mに68号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土60%+にぶい黄褐色(10YR7/4)ローム質シルト40%。
3. にぶい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区68号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 5・86 北西3.0mに89号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. にぶい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区69号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 M 6・25 北0.5mに70号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区70号土坑 (基準高さ 79.80m)
位置 M 6・25 南0.5mに69号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区71号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M 6・15 南西2.5mに93号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層,炭化物多く含む。

2. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層70%+浅黄色(2.5Y7/4)ローム質シルト30%。
3. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区72号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 北東2.5mに76号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧。
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区73号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 南東0.7mに74号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区74号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 南1.0mに72号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区75号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 南西1.2mに73号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区76号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 南西2.5mに70号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区77号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 南2.0mに75号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区78号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 東1.8mに80号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区79号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 南0.5mに78号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区80号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・15 東1.8mに57号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区81号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・05 南1.5mに79号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区82号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・05 南1.0mに81号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区83号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・05 北西1.5mに84号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区84号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・05 南東1.3mに82号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区85号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M6・05 北西2.5mに83号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。
- 2区86号土坑 (基準高さ 79.90m)
位置 M5・95 南東7.0mに66号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 褐色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層,ローム質シルト。

第3章 2区 上栗須築節前

2区87号土坑 (基準高さ 79.90m)

位置 M5・95 南1.0mに86号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字

1. 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区88号土坑 (基準高さ 79.90m)

位置 M5・85 南2.7mに87号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字

1. 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区89号土坑 (基準高さ 79.90m)

位置 M5・85 南西4.3mに88号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形

1. 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土。
2. におい黄褐色(10YR7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区90号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 M6・14 東18.0mに89号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧

1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区91号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 M6・24 南0.5mに90号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧

1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区92号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 M6・24 南1.5mに91号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧

1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区93号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 M6・24 南西3.2mに92号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧

1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区94号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 M6・14 南東3.2mに71号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字

1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区95～102号土坑 (挿図 第162図)

2区95号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 M6・14 南西3.0mに94号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 不定形

1. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層。
2. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土層90%+浅黄色(2.5Y7/4)ローム質シルト10%。
3. 浅黄色(2.5Y7/4) 地山層、ローム質シルト。

2区96号土坑 (基準高さ 79.60m)

位置 N5・24 北西0.5mに97号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧

1. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層+浅黄色(5Y7/3)砂質シルト10%。
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層+浅黄色(5Y7/3)砂質シルト40%。
3. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層+浅黄色(5Y7/3)砂質シルト30%。
4. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト含む。
5. 浅黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。

2区97号土坑 (基準高さ 79.60m)

位置 N5・13、23、24 北西3.5mに98号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 不定形 長軸方位 N-56°W

1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 黒褐色(2.5Y3/1) 1層に10%の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト混入。
3. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト含む。
4. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 3層に20%の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト混入。
5. 浅黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。

2区98号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 79.60m)

位置 N5・13 南西22.0mに141号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧

1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。

2区99号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 79.70m)

位置 N5・03、13 北東1.5mに100号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字

1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 浅黄色(2.5Y7/3) ローム質シルト。
3. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。

2区100号土坑 (基準高さ 79.70m)

位置 N5・03 北0.5mに101号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 不定形

1. 浅黄色(2.5Y7/3) ローム質シルト。
 2. 黒褐色(2.5Y5/2) 軟質土層、少量の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト含む。
 3. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区101号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・03 南東1.0mに102号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区102号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・03 北2.8mに108号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区103号土坑 (掃部 第163図)
 2区103号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・03、04 東3.0mに118号土坑が位置する。平面形状 不定形 長軸方位 N-43°-W
- 2区104号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・03 南1.0mに99号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 円弧
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区105号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・02 北東1.0mに106号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
 1. 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘質土層。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区106号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 4・92、93、N 5・02、03 南東0.5mに107号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字 長軸方位 N-37°-E
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区107号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・03 南西2.0mに104号土坑が位置する。平面形状 変形長方形 断面形状 円弧 長軸方位 N-20°-W
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区108号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 5・03 南東3.0mに103号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区109号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 4・93 西2.0mに111号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区110号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 4・93、N 5・03 北西3.5mに109号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
 1. 暗黄褐色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の浅黄色(5Y7/3)を含む。
 2. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 3. 浅黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
 4. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区111～122号土坑 (掃部 第164図)
 2区111号土坑 (基準高さ 79.70m)
 位置 N 4・93 南2.0mに106号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 円弧
 1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
 2. 浅黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区113号土坑 [縄文土坑] (基準高さ 79.40m)
 位置 N 4・94 南西2.5mに110号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
 1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) ローム質シルト砂質分強い80%+褐灰色(10YR4/1)20%。
 3. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区114号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N 4・94 北東1.5mに117号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形
 1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区115号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N 4・94、N 5・04 北1.5mに116号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字

第Ⅲ章 2区 上栗須薬師前

1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区116号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・94 西1.0mに114号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区117号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・94 北東3.5mに143号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区118号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 5・04 南東2.5mに119号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区119号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 5・14 東1.0mに120号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の淡黄色(5Y7/3)砂質シルトを含む。
 2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区120号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 5・14 南東6.0mに122号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 コの字
1. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の淡黄色(5Y7/3)砂質シルトを含む。
 2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区121号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 5・14 南5.0mに96号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む、褐色強い。
 2. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む、淡黄色(2.5Y7/3)ロームシルト5%含む。
 3. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
 4. 灰白色(5Y7/2) 地山層、砂礫層。
- 2区122号土坑 (基準高さ 79.30m)
- 位置 N 5・15 西9.5mに121号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 コの字
1. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の2層・茶褐色で5%のロームシルトブロック混土。
 2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区123～132号土坑 (押図 第165図)
- 2区123号土坑 (基準高さ 79.30m)
- 位置 N 4・96、N 5・05、06 西4.0mに158号土坑が位置する。平面形状 実形円形 断面形状 円弧
1. にぶい黄褐色(10YR6/4) 粘質土層。
 2. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘質土層。
 3. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土層、ローム質シルト径5mmの礫を5%以下含む。
- 2区124号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・84 南東1.0mに125号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) ローム質シルト砂質分強い。
- 2区125号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・84 南東1.0mに163号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 3. 淡黄色(5Y8/3) ローム質シルト砂質分強い。
- 2区126号土坑 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・84 南東2.0mに127号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区127号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・84 南東2.0mに128号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 3. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区128号土坑 【縄文土坑】 (基準高さ 79.40m)
- 位置 N 4・84 東3.5mに130号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 3. 淡黄色(5Y8/3) ローム質シルト砂質分強い80%+褐灰色(10YR4/1)20%。
 4. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。

- 2区129号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.40m)
位置 N 4・84.94 西1.0mに143号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) ローム質シルト砂質分強い80%+褐灰色(10YR4/1)20%。
- 2区130号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.10m)
位置 N 4・85 南東2.0m131号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層。少量の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト含む。
- 2区131号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.10m)
位置 N 4・85 南1.5mに199号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層。少量の浅黄色(5Y7/3)砂質シルト含む。
- 2区132号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.10m)
位置 N 4・75.85 西7.5mに165号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 軟質土層で土器小片・焼土片を1%以下含む。
2. 黄灰色(2.5Y4/1) 1層90%+オリープ黄色(5Y6/3)ローム質シルト・砂礫10%。
3. オリープ黄色(5Y6/3) 地山層。ローム質シルト。砂礫多い。
- 2区133~141号土坑(押国 第166図)
2区133号土坑(基準高さ 79.10m)
位置 N 4・64.65 北東3.0mに162号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土層で焼土・炭化物を1%以下含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層。ローム質シルト砂質分強い。
- 2区134号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.00m)
位置 N 4・65 南東5.0mに138号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトブロック20%。
2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層。ローム質シルト。
- 2区135号土坑(基準高さ 79.00m)
位置 N 4・65 北西2.0mに179号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字 遺物として鉄製品の釘が1点出土している。長さは残存長で3.5cmを測る。他にガラス片を検出している。球状の小物容器と考えられる。
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土。
2. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトブロック20%。
3. 淡黄色(5Y8/4) 地山層。ローム質シルト。
- 2区136号土坑(基準高さ 79.00m)
位置 N 4・65.66 西3.0mに135号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 不定形 遺物として鉄製品の釘・鏝の残片が多数出土している。両方の重さの合計は51gを計る。
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土。
2. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトブロック20%。
3. 淡黄色(5Y8/4) 地山層。ローム質シルト。
- 2区137号土坑(基準高さ 79.40m)
位置 N 5・01 東7.0mに142号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形
1. 暗オリープ色(5Y4/3) 粘質土層。
2. 暗オリープ色(5Y4/3) 粘質土+淡黄色(5Y8/3)ローム質シルトが20%混入。
- 2区138号土坑(基準高さ 79.00m)
位置 N 4・66 南西6.0mに160号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトブロック20%。
2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層。ローム質シルト。
- 2区139号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.20m)
位置 N 4・74.75 西1.5mに168号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(5YR4/1) 軟質土。
2. 褐灰色(5YR4/1) 軟質土80%+ローム質シルト20%。
3. 淡黄色(5Y8/4) 地山層。ローム質シルト。
- 2区140号土坑【縄文土坑】(基準高さ 79.10m)
位置 N 4・75 東9.5mに174号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. におい赤褐色(5YR5/3) 軟質土層。少量の焼土・土器片を含む。
2. におい赤褐色(2.5YR5/3) 硬質土で焼土・灰を含む。
3. 灰褐色(5YR5/2) 硬質土層。
4. におい褐色(7.5YR5/4) 地山層。軟質土層で淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトを20%含む。
- 2区141号土坑(基準高さ 79.60m)
位置 N 5・20 北15.0mに137号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 暗オリープ色(5Y4/3) 粘質土層。
2. 暗オリープ色(5Y4/3) 粘質土層+淡黄色(5Y8/3)ローム質シルト20%混入。
3. 淡黄色(5Y8/3) 地山層。ローム質シルト。
- 2区142~152号土坑(押国 第167図)

第三章 2区 上栗須薬師前

- 2区142号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N 5・01, 02 東6.0mに108号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 円盤
 1. 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘質土層。
 2. 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘質土+淡黄色(5Y8/3)ローム質シルト20%混入。
 3. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト。
- 2区143号土坑 【縄文土坑】(基準高さ 79.40m)
 位置 N 4・84, 94 南西4.0mに117号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
 1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) ローム質シルト砂質分強い80%+褐灰色(10YR4/1)20%。
- 2区144号土坑 【縄文土坑】(基準高さ 78.60m)
 位置 N 4・48 南西5.0mに187号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土層、軽石混入ガラガラしている。
 2. 褐灰色(7.5YR4/1) 1層90%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルト10%、軟質。
 3. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区145号土坑 (基準高さ 79.20m)
 位置 N 4・74, 75 東2.0mに140号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形
 1. にぶい赤褐色(2.5YR5/3) 硬質土で焼土・灰・土器小片を含む。
 2. 灰褐色(5YR5/2) 硬質土層。
 3. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区146号土坑 (基準高さ 79.00m)
 位置 N 4・74 西2.5mに136号土坑が位置する。平面形状 隅丸方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-77-W
 1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土60%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトブロック40%。
 2. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトブロック20%。
 3. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区147号土坑 (基準高さ 79.00m)
 位置 N 4-66 172号土坑と重複 本土坑が新しい。西1.5mに146号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字 長軸方位 N-78-W 遺物として針金(銅)、及び多量の鉄片が出土している。板状、輪状、釘状を呈するもので重量の合計は447gを計る。
 1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区148号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・85, 86 N 4・95, 96 東4.0mに149号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層80%+灰白色(5Y7/1)砂質シルト20%。
 3. 灰白色(5Y7/1) 砂質シルト。
 4. 灰白色(5Y7/1) 地山層、砂質シルト。
- 2区149号土坑 【縄文土坑】(基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・86, 96 南西4.0mに150号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土層でつかためられ硬い。土器片少量含む。
 2. 灰白色(5Y7/1) 地山層、砂質シルト。
- 2区150号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・96 南西1.0mに152号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円盤
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 灰白色(5Y7/1) 地山層、砂質シルト。
- 2区151号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・96 西2.0mに153号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 灰白色(5Y7/1) 地山層、砂質シルト。
- 2区152号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・95, 96 南東2.0mに151号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 灰白色(5Y7/1) 地山層、砂質シルト。
- 2区153～165・199号土坑 (掃部 第168段)
 2区153号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・95 南0.5mに154号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円盤
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層70%+灰白色(5Y7/1)砂質シルト30%。
- 2区154号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・95 南東2.0mに123号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層50%+灰白色(5Y7/1)砂質シルト50%。
 2. 灰白色(5Y7/1) 砂質シルト。
- 2区155号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N 4・95 北東4.5mに148号土坑が位置する。平面形状 不定形 断面形状 不定形
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 灰白色(5Y7/1) 地山層、砂質シルト。

- 2区156・199号土坑 [199号土坑 縄文土坑] (基準高さ 79.10m)
 位置 N4・95 重複関係 156号土坑が新しい。156号土坑から南1.5mに155号土坑が位置する。平面形状 156号土坑 円形、199号土坑 楕円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
 2. 灰リブ黄色(5Y5/2) 軟質土層で灰白色(5Y7/1)砂質シルトが10%ブロックで混入。
- 2区157号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N4・65 南西3.5mに170号土坑が位置する。平面形状 圓丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-89°W 遺物は釘状鉄器の残片5片である。最大のものの長さは6.5cmを測り、他は小さく破損している。
 1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) ボロボロとした感じの層で淡黄色(5Y8/3)ローム質シルトを20%含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト。
- 2区158号土坑 (基準高さ 79.30m)
 位置 N5・05 北西11.0mに115号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
 1. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土層、少量の淡黄色(5Y7/3)砂質シルトを含む。
 2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区159号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・84, 94 西1.5mに129号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区160号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N4・75 北西1.0mに161号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 軟質土層で土器小片・焼土片少量含む。
 2. オリーブ黄色(5Y6/3) 地山層、ローム質シルト。
- 2区161号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N4・65 南西3.0mに138号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区162号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N4・65 東0.5mに134号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区163号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・84 北3.0mに126号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土で焼土・炭化物を1%以下含む。
 3. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区164号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・74 西2.5mに176号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区165号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・74 南西1.0mに164号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区166～168・170～177号土坑 (挿図 第169図)
- 2区166号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・74 南東2.5mに145号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区167号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・74 南西1.5mに166号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区168号土坑 (基準高さ 79.40m)
 位置 N4・74 西1.5mに229号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
 1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でザラザラして小砂利を少量含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区170号土坑 (基準高さ 79.10m)
 位置 N4・64 南東2.0mに133号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
 1. 暗灰黄色(2.5Y4/2) ボロボロとした感じの層で淡黄色(5Y8/3)ローム質シルトを20%含む。
 2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト。
- 2区171号土坑 (基準高さ 78.60m)
 位置 N4・46 南5.0mに253号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 軟質土層で5%以下の淡黄色(5Y8/3)砂質シルトブロック混入。

第三章 2区 上栗須薬師前

2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区172号土坑 (基準高さ 79.00m)
位置 N 4・56, 66 147・254・255号土坑と重複 本土坑は147号土坑より古く、254・255号土坑より新しい。平面形状 不定形 断面形状 円弧
1. 褐灰色(7.5YR4/1) 軟質土層で下部に淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトとの混入みられる。
- 2区173号土坑 (基準高さ 78.80m)
位置 N 4・76 西9.0mに132号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 灰色(5Y4/1) 粘質土層で焼土・炭化物を含む。しまっている。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質度強い。
- 2区174号土坑 (基準高さ 78.80m)
位置 N 4・76 南東2.0mに173号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 灰色(5Y4/1) 粘質土層で焼土・炭化物を含む。しまっている。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質度強い。
- 2区175号土坑 (基準高さ 79.40m)
位置 N 4・74 西2.5mに191号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でガラガラして小砂利を少量含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区176号土坑 (基準高さ 79.40m)
位置 N 4・74, 84 北1.0mに177号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でガラガラして小砂利を少量含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区177号土坑 (基準高さ 79.40m)
位置 N 4・73, 74 北東1.0mに175号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でガラガラして小砂利を少量含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト砂質分強い。
- 2区178～185・196号土坑 (挿図 第170図)
- 2区178・179・196号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N 4・65 重複関係 179号土坑が最も新しく、196号土坑が最も古い。178号土坑から南0.5mに157号土坑が位置する。平面形状 178号土坑 円形、179号土坑 変形円形、196号土坑 隅丸方形 断面形状 コの字
1. 黒褐色(10YR3/1) 軟質土でガラガラして小砂利を少量含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト。
- 2区180号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N 4・43 南東3.0mに182号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 軟質土層。
2. 褐灰色(10YR4/1) 軟質土層80%+淡黄色(5Y7/4)ローム質シルト20%の混土層。
3. 9号位腐植土。
4. 淡黄色(5Y7/4) ローム質シルト。
- 2区181号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・53 西1.5mに208号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 灰褐色(7.5YR4/2) 軟質土80%+淡黄色(5Y7/3)砂質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区182号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N 4・43, 53 南東2.0mに188号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形
1. 灰褐色(7.5YR4/2) 軟質土80%+淡黄色(5Y7/3)砂質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区183号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N 4・43 184号土坑と重複 本土坑が新しい。南西3.5mに180号土坑が位置する。平面形状 変形長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-8°E
1. 灰褐色(7.5YR4/2) 軟質土80%+淡黄色(5Y7/3)砂質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区184号土坑 (基準高さ 78.70m)
位置 N 4・33, 34, 43, 44 183・185号土坑と重複 本土坑は183号土坑より古いが、185号土坑との新旧関係は不明。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-4°E
1. 灰褐色(7.5YR4/2) 軟質土80%+淡黄色(5Y7/3)砂質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区185号土坑 (基準高さ 78.70m)
位置 N 4・33 184号土坑と重複 新旧関係は不明 平面形状 変形長方形 断面形状 円弧 長軸方位 N-3°E
1. 灰褐色(7.5YR4/2) 軟質土80%+淡黄色(5Y7/3)砂質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区186～188・190～195・197・198号土坑 (挿図 第171図)
- 2区186号土坑 (観文土坑) (基準高さ 79.30m)
位置 N 4・70, 71 西14.0mに8号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-88°E
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルト20%の混土層。

2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローム質シルト。
- 2区187号土坑 (基準高さ 78.60m)
位置 N 4・58 10号住居と重複 本土坑が新しい。北西12.0mに171号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 暗褐色(2.5Y4/2) ローム質ブロックと淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトの混土層。
- 2区188号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・53.54 西7.0mに181号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字
1. 灰褐色(7.5YR4/2) 軟質土80%+淡黄色(5Y7/3)砂質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区190号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・73 東南2.0mに192号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 円弧 長軸方位 N-61°-W
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土と2層の砂礫を10%含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、礫径10mmの砂礫層。
- 2区191号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N 4・73 北西1.5mに200号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土と2層の砂礫を10%含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、礫径10mmの砂礫層。
- 2区192号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N 4・73.83 南西3.0mに195号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土と2層の砂礫を10%含む。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、礫径10mmの砂礫層。
- 2区193号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N 4・83 北東4.0mに124号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区194号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N 4・83 東南2.5mに193号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区195号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N 4・83 南西4.0mに228号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黒褐色(2.5Y3/1) 軟質土層で砂礫を10%含む。
2. 淡黄色(5Y7/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区197・198号土坑 [198号土坑 縄文土坑] (基準高さ 78.60m)
位置 N 4・48 197号土坑から南東1.0mに198号土坑、198号土坑から東1.0mに144号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 197号土坑 円弧、198号土坑 コの字
1. 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土層90%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルト10%。軟質。
2. 褐灰色(7.5YR4/1) 粘質土層90%+淡黄色(5Y8/4)ローム質シルト20%混入。
- 2区200～213号土坑 (御園 第172段)
- 2区200号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N 4・73 南西2.5mに190号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 褐灰色(10YR4/1) 粘質土、淡黄色(5Y8/3)砂礫を10%含む。
- 2区201・202号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・52.62 重複関係 201号土坑が古い。東5.0mに206号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 灰色(5Y4/1) 硬くしまった層で黒色味強く、5%以下の淡黄色(5Y8/3)ロームシルト
- 2区203号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・62 南西1.0mに204号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形 長軸方位 N-24°-W
1. 灰色(5Y4/1) 硬くしまった層で黒色味強く、5%以下の2層をブロックで混土。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト、砂質強い。
- 2区204号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・62 西10.0mに240号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形
1. 灰色(5Y4/1) 硬くしまった層で黒色味強く、5%以下の2層をブロックで混土。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト、砂質強い。
- 2区205号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・62 西5.0mに203号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 灰色(5Y4/1) 硬くしまった層で黒色味強く、5%以下の2層をブロックで混土。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト、砂質強い。
- 2区206号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N 4・62 南2.5mに205号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 灰色(5Y4/1) 硬くしまった層で黒色味強く、5%以下の2層をブロックで混土。
2. 淡黄色(5Y8/3) 地山層、ローム質シルト、砂質強い。
- 2区207号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N 4・52 西7.0mに211号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、少量の淡黄色(5Y8/4)ローム質シルトの混土、砂質度高い。

第三章 2区 上栗須薬師前

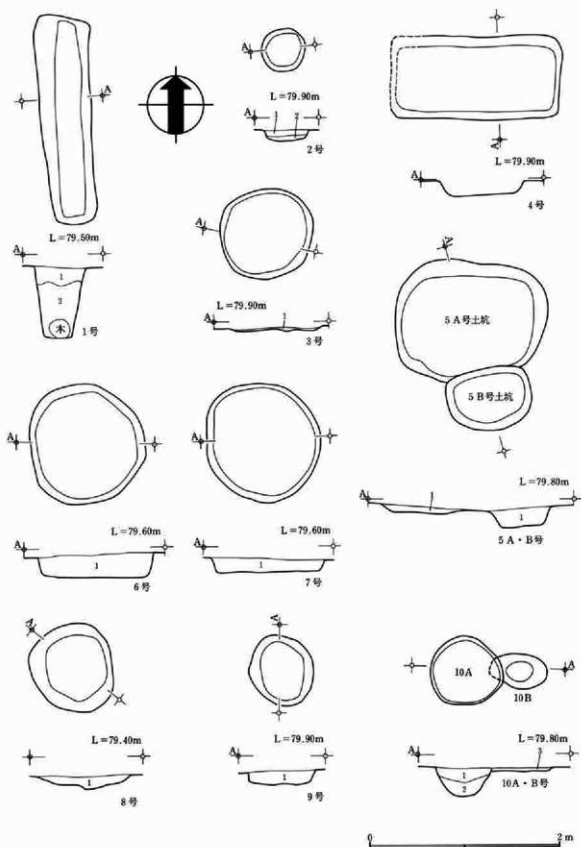
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローム質シルト、砂質度高い。
- 2区208号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N4・52 北西4.0mに213号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、少量の淡黄色(SY8/4)ローム質シルトの混土、砂質度高い。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローム質シルト、砂質度高い。
- 2区209号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N4・52 南1.0mに210号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、少量の淡黄色(SY8/4)ローム質シルトの混土、砂質度高い。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローム質シルト、砂質度高い。
- 2区210号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N4・52 南東5.0mに207号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-84°-E
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、少量の淡黄色(SY8/4)ローム質シルトの混土、砂質度高い。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローム質シルト、砂質度高い。
- 2区211号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N4・52 南0.5mに212号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、少量の淡黄色(SY8/4)ローム質シルトの混土、砂質度高い。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローム質シルト、砂質度高い。
- 2区212号土坑 (基準高さ 79.10m)
位置 N4・52 南1.0mに201号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層、少量の淡黄色(SY8/4)ローム質シルトの混土、砂質度高い。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローム質シルト、砂質度高い。
- 2区213号土坑 (基準高さ 78.90m)
位置 N4・42, 52 南西1.5mに209号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区214～229号土坑 (掃部 第1788)
- 2区214号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N4・72 南西4.0mに218号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区215号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N4・72 東1.5mに214号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Vの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区216号土坑 (基準高さ 79.20m)
位置 N4・72 北0.5mに215号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Vの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区217号土坑 [縄文土坑] (基準高さ 79.50m)
位置 N4・72 北東2.0mに216号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層80%+淡黄色(SY8/3)砂質シルト20%の混土層。
3. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
4. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト砂混含む。
- 2区218号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・72, 82 南西0.5mに219号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区219号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・72, 82 南1.5mに220号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区220号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82 南西1.0mに221号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区221号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82 南西1.0mに247号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 Vの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区222号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82 東2.5mに225号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 Uの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。

2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区223・224号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82 223号土坑の南西1.5mに249号土坑、224号土坑の西0.5mに223号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区225号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82 南西1.5mに224号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区226・227号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82 重複関係 226号土坑が古い。南東2.0mに230号土坑が位置する。平面形状 226号土坑 円形、227号土坑 楕円形 断面形状 226号土坑 円弧、227号土坑 コの字
1. 灰色(SY4/1) ゼラゼラした軟質土。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
- 2区228号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82、83、92、93 東6.0mに112号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. 灰色(SY4/1) 砂質土層で礫石露出土。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂質シルト。
3. 灰白色(SY7/2) 地山層、砂層。
- 2区229号土坑 (基準高さ 79.40m)
位置 N4・74 南南3.0mに167号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 暗赤灰色(2.5YR3/1) 粘質土70%+淡黄色(SY8/3)砂層30%の混土層。
2. 淡黄色(SY8/3) 地山層、砂層。
- 2区230～244号土坑 (標高 霙174回)
- 2区230号土坑 (基準高さ 79.50m)
位置 N4・82、92 南西5.5mに239号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層。
- 2区231号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・71 南2.5mに232号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
- 2区232・233号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・71 重複関係 232号土坑が古い。北東4.0mに217号土坑が位置する。平面形状 232号土坑 円形、233号土坑 楕円形 断面形状 232号土坑 コの字、233号土坑 円弧
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 黄灰色(2.5Y4/1) 位置 N4・71 北東2.5mに231号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 不定形
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層90%+淡黄色(SY8/4)ローマ質シルト10%の混土層。
3. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区235号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・80 南東2.5mに237号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形 長軸方位 N-19°-W
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区236号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・80 西1.0mに235号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形 長軸方位 N-53°-W
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区237号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・80 南1.5mに244号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区238号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・81、91 北西2.5mに242号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区239号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・91 北西5.0mに238号土坑が位置する。平面形状 変形円形 断面形状 不定形
1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区240号土坑 (基準高さ 79.30m) 位置 N4・00、61 南3.5mに186号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 コの字
1. 黄褐色(2.5Y5/3) 粘質土80%+淡黄色(SY8/4)ローマ質シルト20%の混土層。
2. 淡黄色(SY8/4) 地山層、ローマ質シルト。
- 2区241号土坑 (基準高さ 79.30m)
位置 N4・70、71 東2.5mに234号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-89°-E

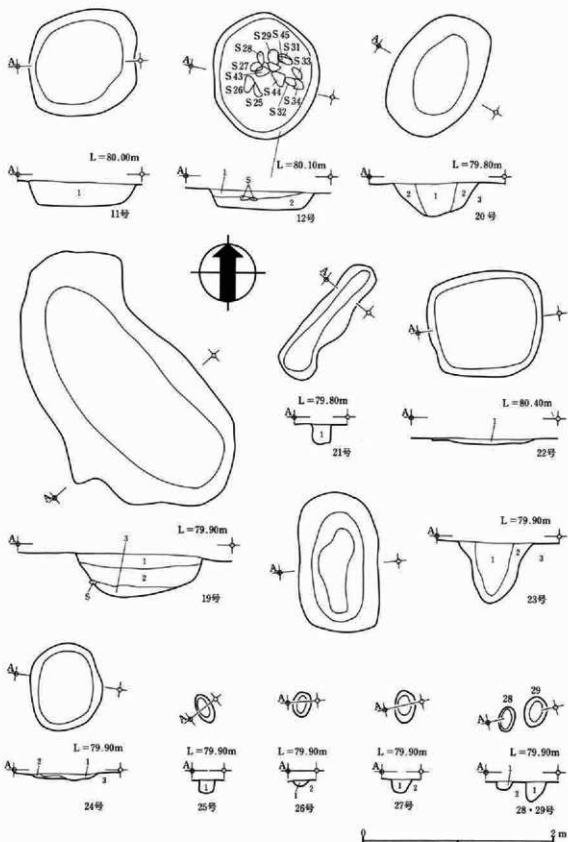
第三章 2区 上栗須築師前

1. 黄褐色(2.5Y5/3) 軟質土80%+淡黄色(5Y8/4)ローン質シルト20%の混土層。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区242号土坑(基準高さ 79.30m) 位置 N 4・81 北2.0mに243号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区243号土坑(基準高さ 79.30m) 位置 N 4・81 西3.0mに236号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区244号土坑(基準高さ 79.30m) 位置 N 4・80 南西1.5mに245号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 不定形
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2区245～249・169・189・250～258号土坑(挿図 第175図)
- 2区245号土坑(基準高さ 79.30m)
 位置 N 4・90 南東1.5mに246号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区246号土坑(基準高さ 79.30m) 位置 N 4・90 南東7.0mに137号土坑が位置する。平面形状 楕円形 断面形状 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区247・248号土坑(基準高さ 79.30m)
 位置 N 4・81 82 247号土坑の東0.3mに248号土坑。248号土坑の南東0.3mに222号土坑が位置する。平面形状 247号土坑 楕円形、
 248号土坑 円形 断面形状 247号土坑 不定形、248号土坑 コの字
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区249号土坑(基準高さ 79.30m) 位置 N 4・81 東3.5mに227号土坑が位置する。平面形状 円形 断面形状 円弧
 1. 黄灰色(2.5Y4/1) 粘質土層で軽石を含む。
 2. 淡黄色(5Y8/4) 地山層、ローン質シルト。
- 2区169号土坑(基準高さ 77.00m)
 位置 N 4・56 251号土坑と重複 新旧関係は不明 西1.0mに250号土坑が位置する。平面形状 方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-88°W
- 2区189号土坑(基準高さ 77.00m)
 位置 N 4・55 250号土坑と重複 新旧関係は不明 南東3.0mに258号土坑が位置する。平面形状 長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-88°W
- 2区250号土坑(基準高さ 77.00m)
 位置 N 4・55 189号土坑と重複 新旧関係は不明 南東2.0mに258号土坑が位置する。平面形状 隅丸長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-88°W
- 2区251号土坑(基準高さ 77.00m)
 位置 N 4・56 169号土坑と重複 新旧関係は不明 南東2.0mに258号土坑が位置する。平面形状 方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-88°W
- 2区252号土坑(基準高さ 77.00m) 位置 N 4・56 西1.0mに251号土坑が位置する。平面形状 方形 断面形状 コの字
 2区253号土坑(基準高さ 77.00m) 位置 N 4・56 西1.0mに252号土坑が位置する。平面形状 長方形 断面形状 コの字
 2区254号土坑
 位置 N 4・56 172号土坑と重複 本土坑が古い。平面形状 方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-86°W(254～258号土坑まで連続して) 本土坑は基礎である。遺物は古銭3枚で新寛永通寶2枚、古寛永通寶1枚、キセルは19世紀前半のもので重量のみで重さは27gを計る。他に楕円形の輪状銅製品が3点出土している。約短軸長さ3.5cm、長軸長さ4.2cm、厚さは3.1cmを測り、重さは7gである。人骨片と考えられる骨片が出土しているが小片のため鑑定は不能である。また布の圧痕を残す小道の破片も出土している。
- 2区255号土坑
 位置 N 4・56 172号土坑と重複 本土坑が古い。平面形状 方形 断面形状 コの字 遺物 木片あり。
- 2区256号土坑(基準高さ 77.00m) 位置 N 4・56 平面形状 長方形 断面形状 コの字 長軸方位 N-86°W
- 2区257号土坑
 位置 N 4・56 256・258号土坑と重複 新旧関係は不明 平面形状 方形 断面形状 コの字 遺物は古銭が6点出土している。1点は鉄の銭で18世紀後半と考えられる。他に新寛永通寶が5枚出土している。
- 2区258号土坑 位置 N 4・56 257号土坑と重複 新旧関係は不明 平面形状 方形 断面形状 コの字
- 2区301～311・313～315号土坑(挿図 第181図)
- 2区301号土坑(基準高さ 80.50m) 位置 M 6・85 東1.7mに305号土坑が位置する。
 1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト(径7mmほど)を混じり含む。
 2区302号土坑(基準高さ 80.50m) 位置 M 6・85 95 北2.0mに301号土坑が位置する。
 1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルトを含む。
 2区303号土坑(基準高さ 80.50m) 位置 M 6・95 東1.3mに309号土坑が位置する。
 1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。
 2区304号土坑(基準高さ 80.50m) 位置 M 6・95 西2.8mに311号土坑が位置する。断面形状 Vの字
 1. におい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。径3mmのシルト粒を含む。
 2区305号土坑(基準高さ 80.50m) 位置 M 6・85 北東5.0mに321号土坑が位置する。

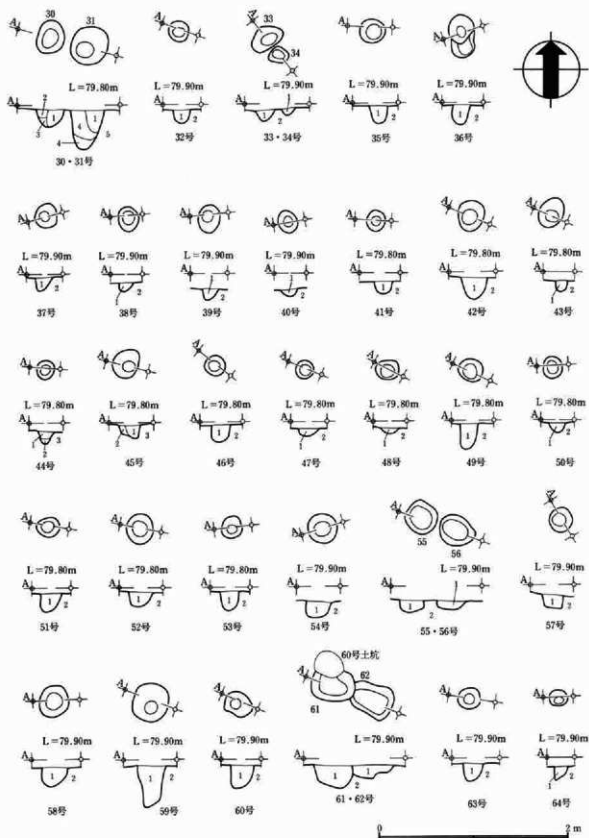
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト(径7mmほど)を斑に含む。
- 2 K306号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・85 南西2.0mに302号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。径6cmのシルト塊を含む。
- 2 K307号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・95 北2.2mに306号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルトを斑に含む。
- 2 K308号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・95 北西2.0mに304号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト(径7mmほど)を斑に含む。
- 2 K309号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・95 東0.8mに307号土坑が位置する。
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト(径7mmほど)を斑に含む。
- 2 K310号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・94 北東2.2mに303号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。下部に黄褐色シルトを含む。
- 2 K311号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・94 北0.7mに310号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト(径7mmほど)を斑に含む。
- 2 K313号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・96 西4.0mに308号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルト(径7mmほど)を斑に含む。
- 2 K314号土坑 (基準高さ 80.50m) 位置 M 6・75, 76 北西24.5mに11号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。しまっている。黄褐色シルト塊(径5mm~最大7cm)を斑に含む。
- 2 K315号土坑 (基準高さ 80.60m) 位置 M 6・76 西1.5mに314号土坑が位置する。
1. 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。しまっている。炭化物粒(最大1cm)を多く含む。黄褐色シルト塊(最大6cm)を含む。
- 2 K317~321号土坑 (柳園 第182図)
- 2 K317号土坑 (基準高さ 80.60m) 位置 M 6・86
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土。しまっている。径5mm~最大2cmの礫・炭化物を含む。黄褐色シルトを多く含む。
- 2 K318号土坑 (基準高さ 80.60m) 位置 M 6・86 北1.0mに320号土坑が位置する。
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土。しまっている。径5mm~1cmの礫を含む。黄褐色シルト粒(5mm~1cm)を含む。
- 2 K319号土坑 (基準高さ 80.60m) 位置 M 6・86 北東4.0mに317号土坑が位置する。
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質土。しまっている。径5mmの礫を少量含む。黄褐色シルト塊(最大10cm)を含む。
- 2 K320号土坑 (基準高さ 80.60m) 位置 M 6・86 東2.0mに319号土坑が位置する。
1. 暗褐色(10YR3/4) 粘性のある砂質土。しまっている。炭化物粒(径5mm~最大1cm)・礫を含む。黄褐色シルト粒を含む。
- 2 K321号土坑 (基準高さ 80.60m) 位置 M 6・86 東西1.5mに318号土坑が位置する。
1. 暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土。しまっている。径5mmの礫を少量含む。黄褐色シルトを多く含む。(最大6cm)



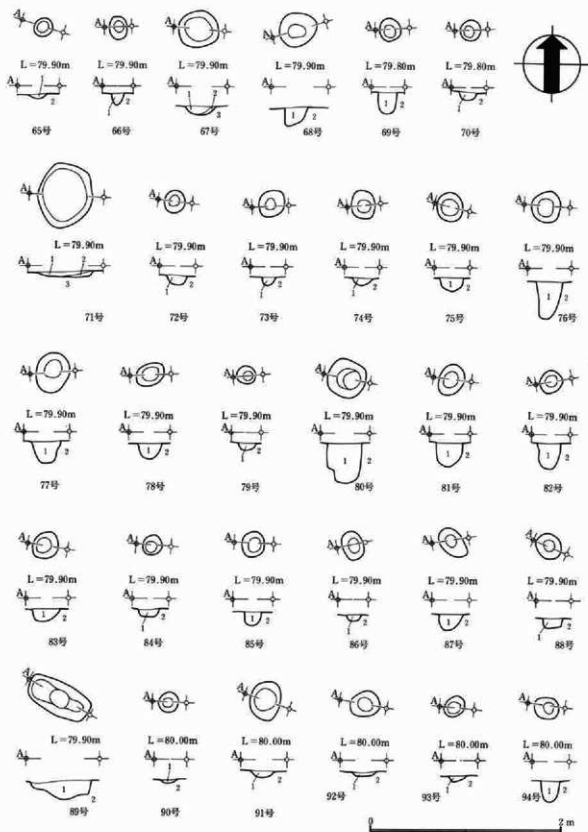
第158图 2区1~10号土坑



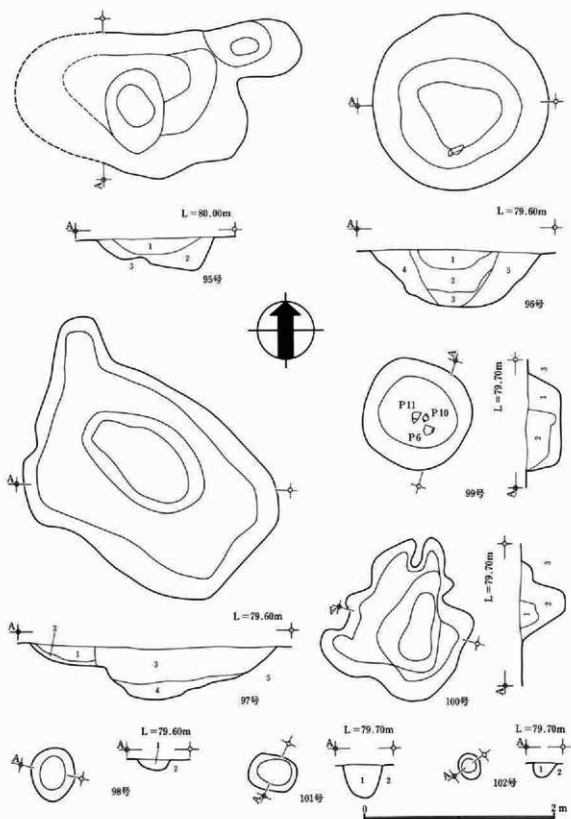
第159图 2区11·12·19~29号土坑



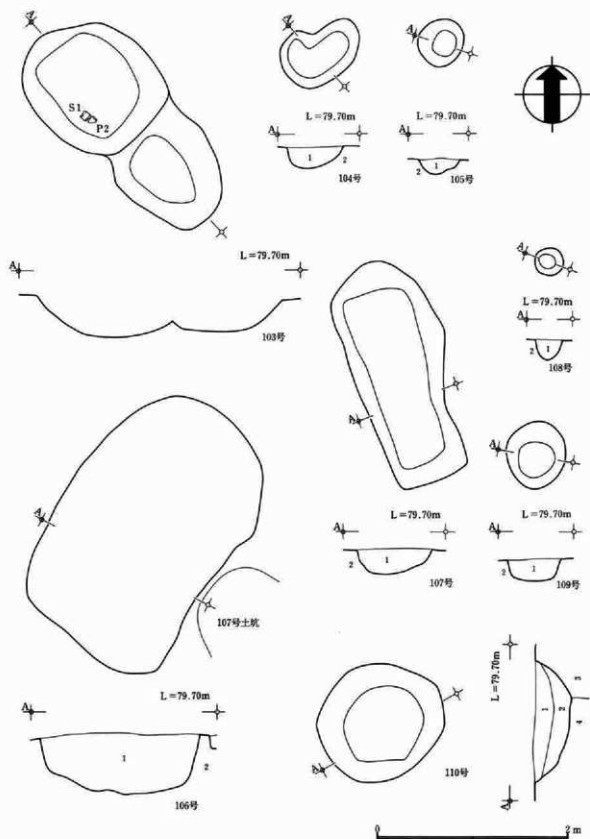
第160图 2区30~64号土坑



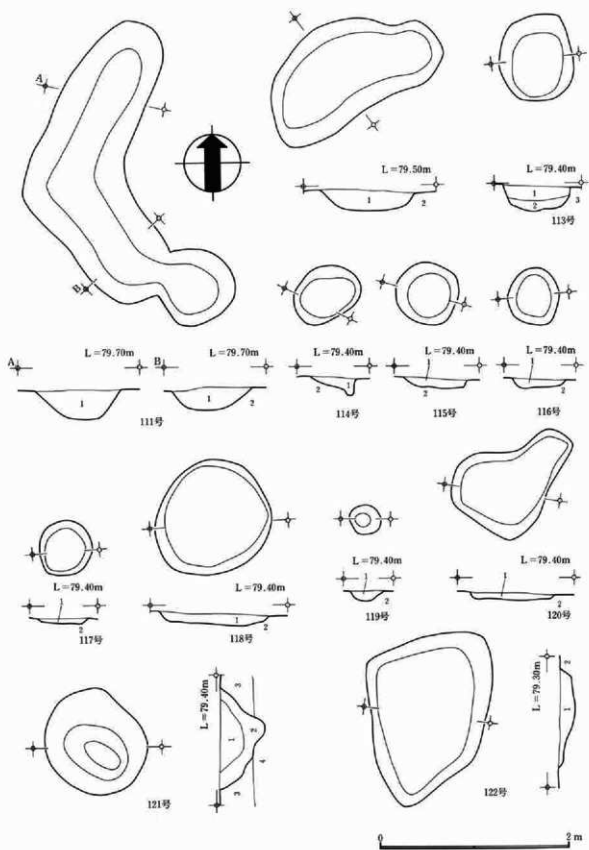
第161图 2区65~94号土坑



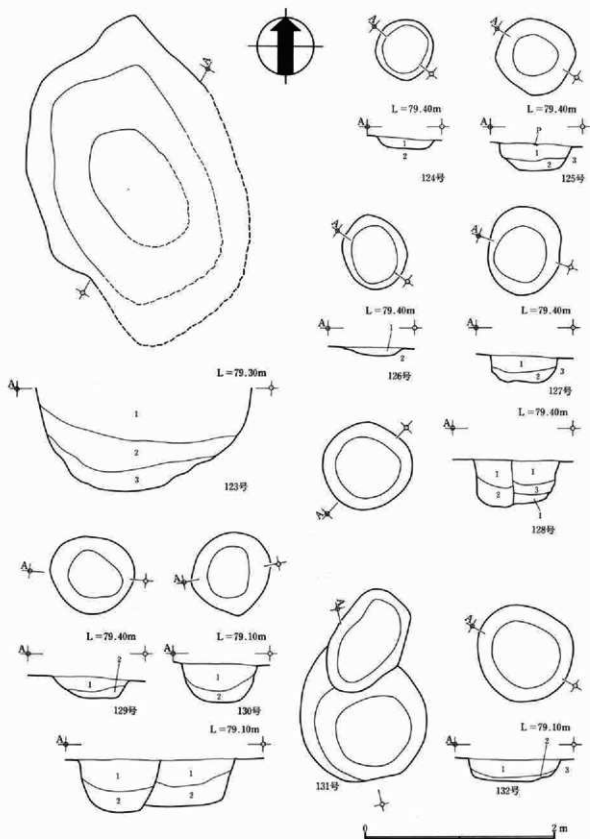
第162图 2区95~102号土坑



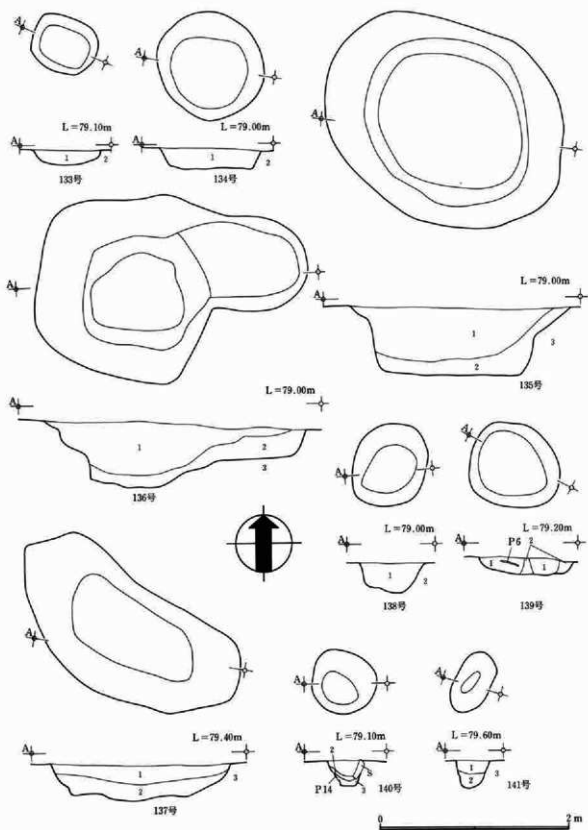
第163图 2区103~110号土坑



第164图 2区111~122号土坑

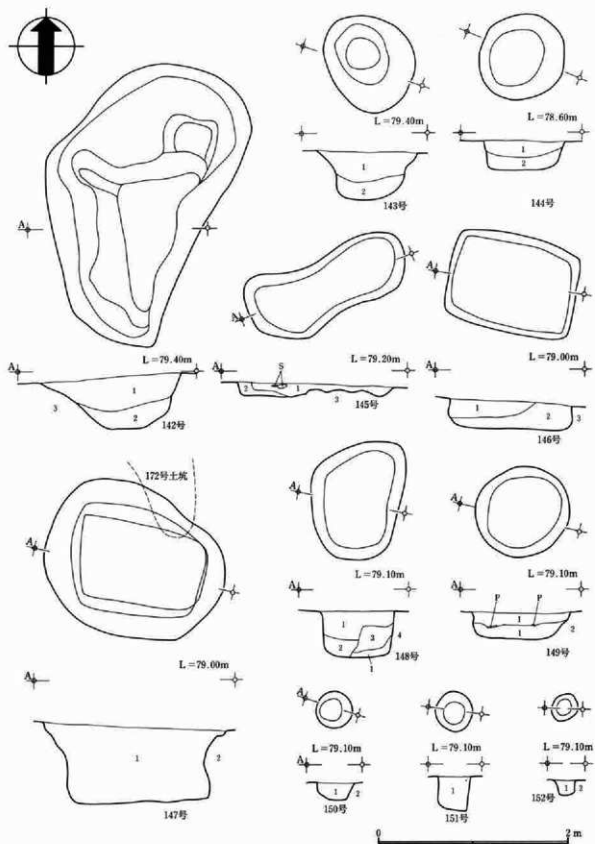


第165図 2区123~132号土坑

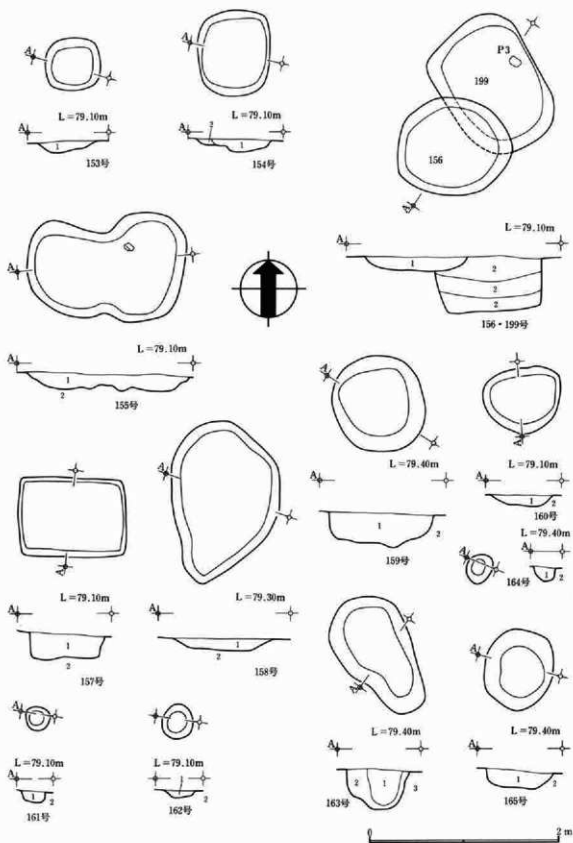


第166图 2区133~141号土坑

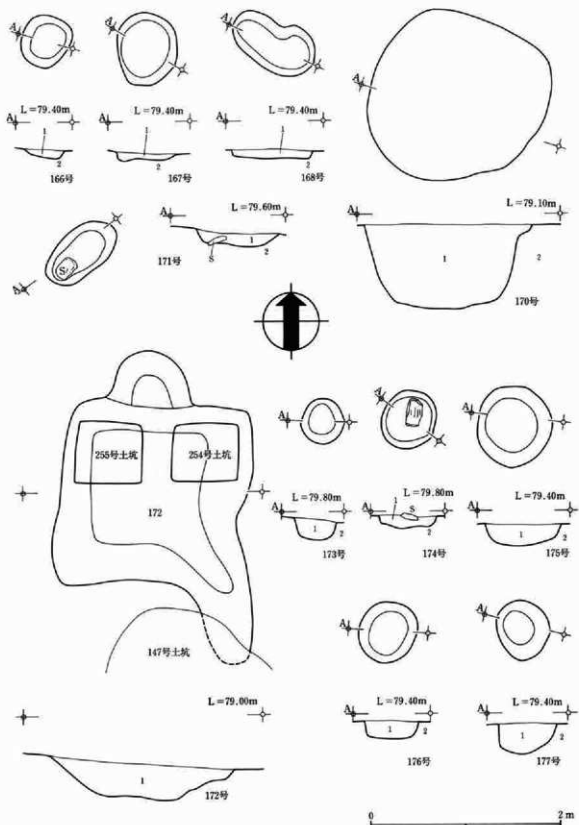
1 遺 跡



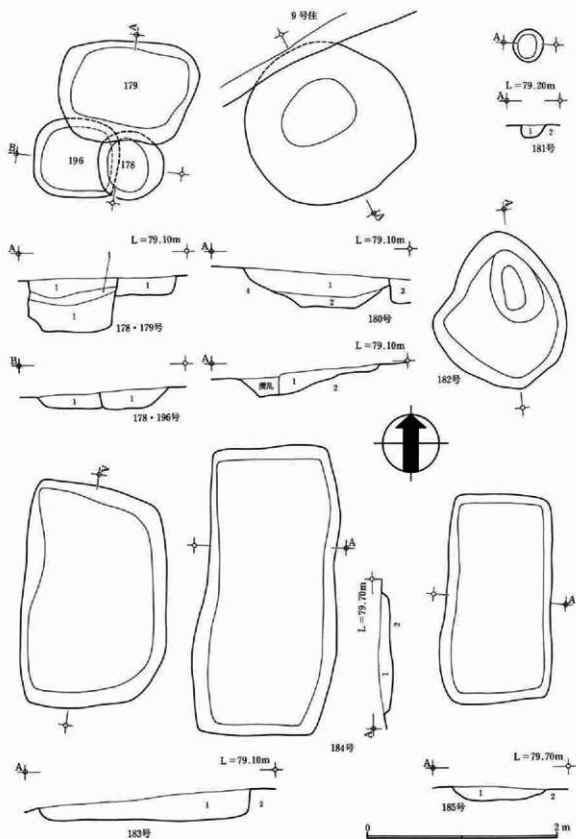
第167图 2区142~152号土坑



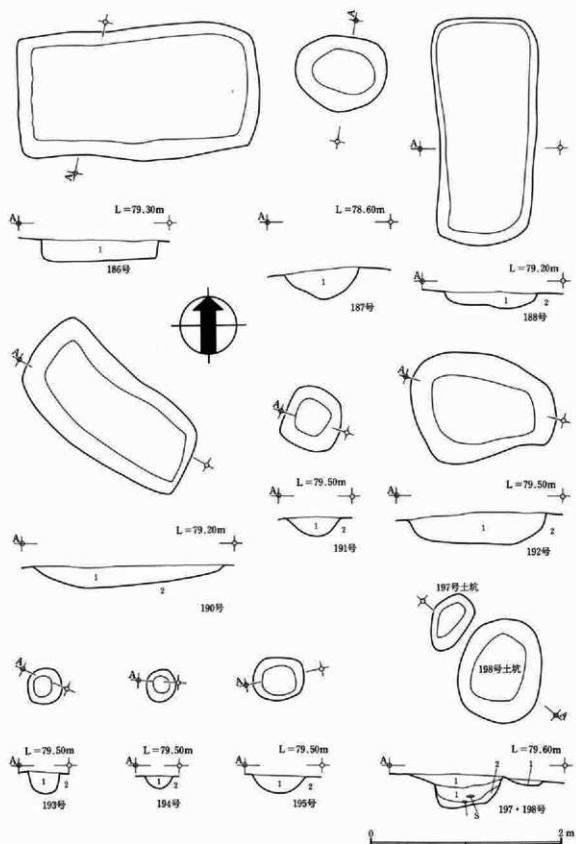
第168图 2区153~165·199号土坑



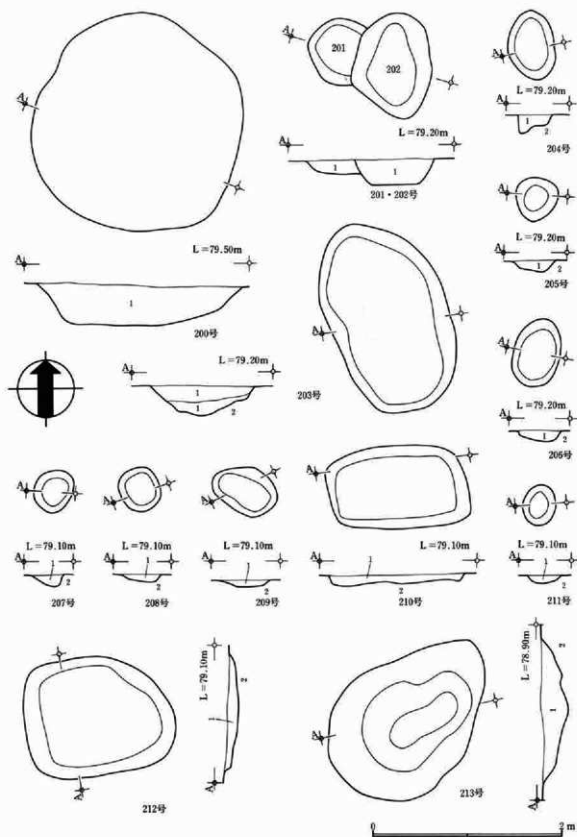
第169图 2区166~168·170~177号土坑



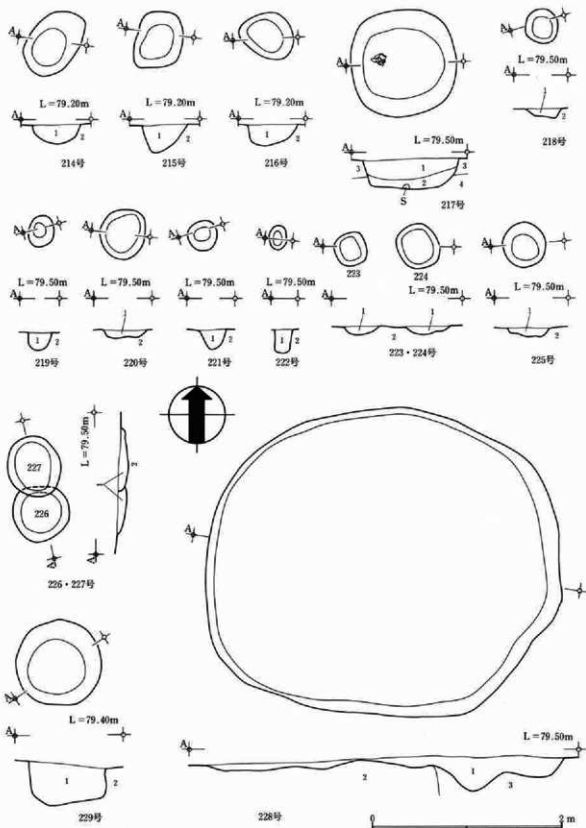
第170图 2区178~185·196号土坑



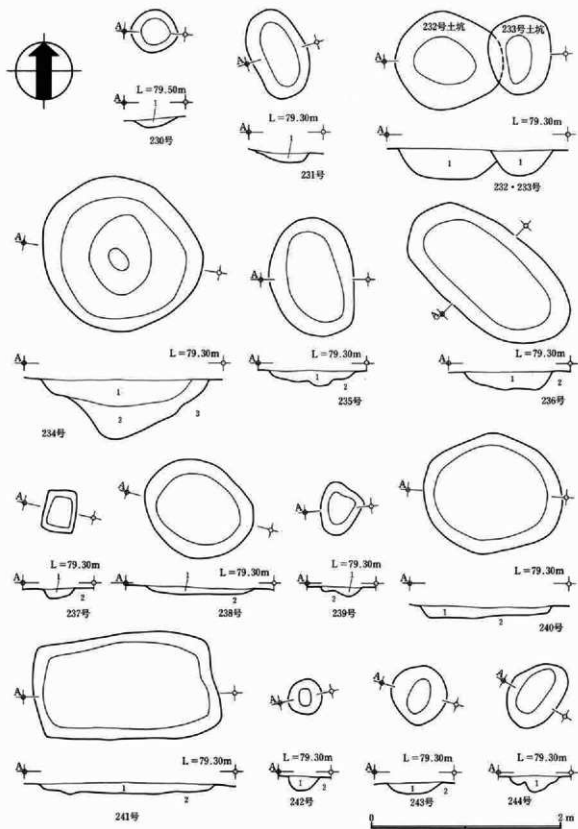
第171图 2区186~188·190~195·197·198号土坑



第172図 2区200~213号土坑

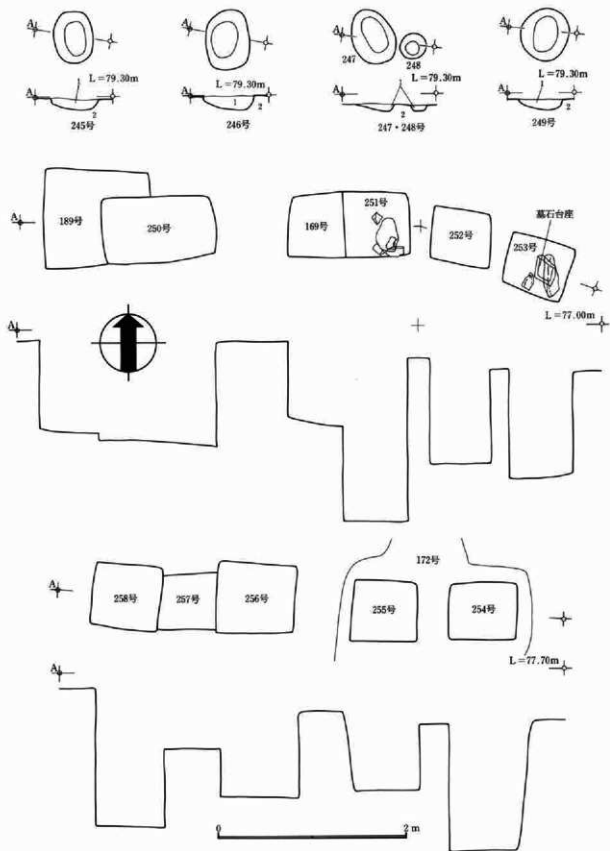


第173图 2区214~229号土坑

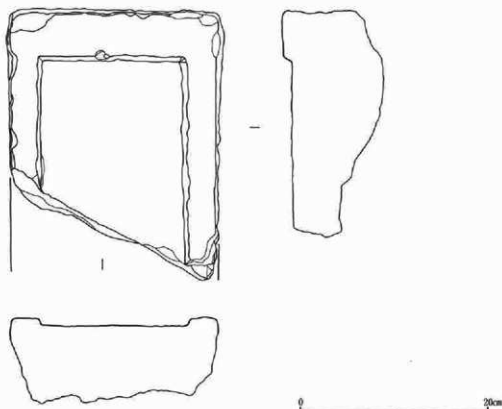


第174图 2区230~244号土坑

1 遺 跡



第175图 2区245~249·169·189·250~258号土坑



第176図 2区253号土坑墓石台座

2区13号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 N 6・20 南5.5mに8号古墳が位置する。土坑寸法は、長さ253cm、幅113cm、深さ16cmを計測した。長軸方位はN-88°Eを測る。

遺物として土師器の長徳(169)、丸壺(170)、椀(171)が出土している。

1. ぶい黄色(2.5Y6/4) ローム質シルト70%+暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘質土30%。
2. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘質土80%+ぶい黄色(2.5Y6/4)ローム質シルト20%。

2区14号土坑 (基準高さ 80.00m)

位置 N 6・30・31 西5.5mに8号古墳が位置する。土坑寸法は、長さ211cm、幅90cm、深さ26cmを計測した。長軸方位はN-53°Eを測る。

遺物として鉄製品の刀子の残片が2点出土している。遺存の良い1点は長さ9cm程で断面形は楔状を呈する。

1. ぶい黄色(2.5Y6/4) ローム質シルト70%+暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘質土30%。
2. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘質土80%+ぶい黄色(2.5Y6/4)ローム質シルト20%。
3. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 粘質土60%+ぶい黄色(2.5Y6/4)ローム質シルト40%。
4. ぶい黄色(2.5Y6/4) 地山層・ローム質シルト。

2区15号土坑 (基準高さ 79.80m)

位置 N 5・62・72 西19.0mに11号古墳が位置する。

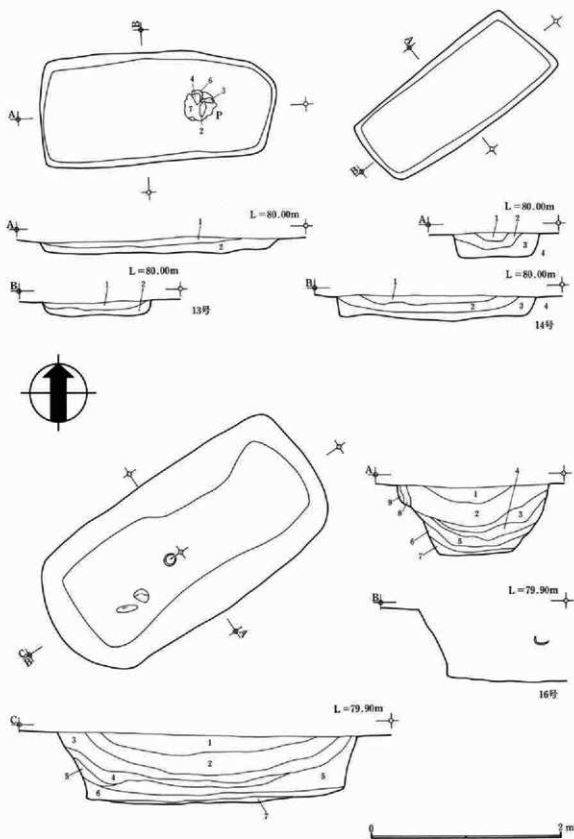
掘り方の不鮮明な土坑に河原石を組み込んだ。天井石の欠失した箱式石塚である。奥壁を北側に、玄関を南に位置をとり、長軸方位はN-54°Eを測る。奥壁の石は横幅65cm、高さ30cm、厚さ15cmほどのものを縦に据える。玄関の石は横幅45cm、高さ28cm、厚さ10cmほどのものを縦に据えている。左壁はその間に9石、平の面を内側に敷き詰め、右壁はその間に9石、平の面を内側に敷き詰めている。床間には、長さ15cm、幅10cm、厚さ5cmほどの石を平に敷き詰め、その上に小砂利を1cmほどの厚さに敷き詰めている。

内法の寸法は、全長158cm、奥壁側の幅30cm、玄関側の幅28cmを測る。床面と残存する側壁の間の高さは24cmと狭い。

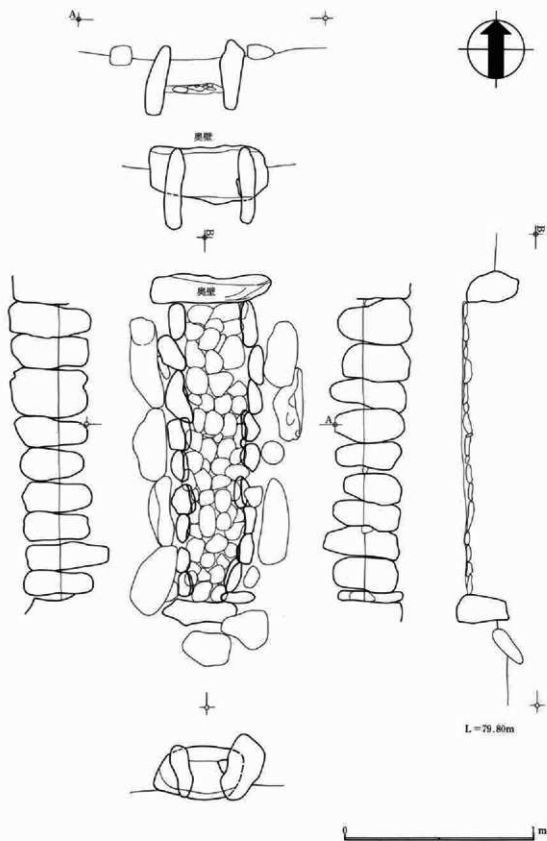
古墳の周辺に、同時存在の土塚墓や石塚墓がまとめて検出されることは珍しい。広範囲の調査による功罪の一端であらうか。

1. ぶい褐色(7.5YR5/3) 砂質土層。

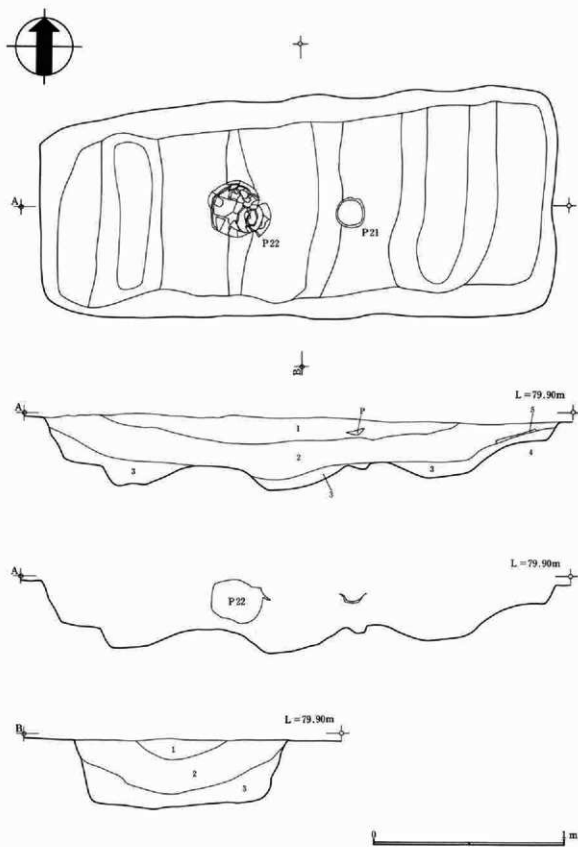
1 遺 跡



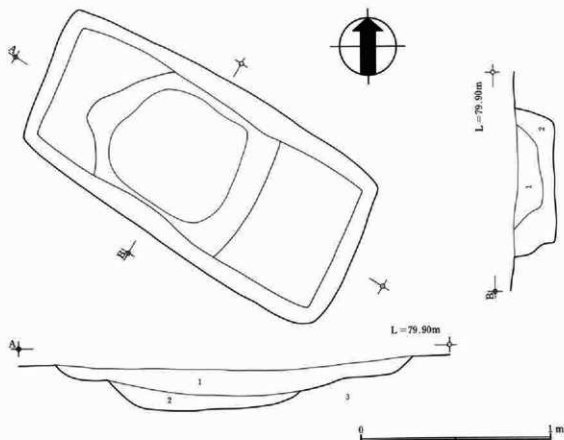
第177图 2区13·14·16号土坑



第178图 2区15号土坑



第179图 2区17号土坑



第180図 2区18号土坑

2区16号土坑 (基準高さ 79.90m)

位置 M5・68・69 東11.0mに11号古墳が位置する。土坑寸法は、長さ324cm、幅160cm、深さ71cmで、長軸方位はN-57°Eを距る。遺物として土師器の埴(172)が出土している。

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 1. 暗褐色(7.5YR3/3) | 粘質土層。 |
| 2. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層。 |
| 3. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層と黄褐色(2.5Y5/4)シルト質ロームの混土層。 |
| 4. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層80%+黄褐色(2.5Y5/4)シルト質ローム20%。 |
| 5. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層80%+黄褐色(2.5Y5/4)シルト質ローム20%。 |
| 6. 黄褐色(2.5Y5/4) | シルト質ローム70%+暗褐色(10YR3/4)粘質土層30%。 |
| 7. 黄褐色(2.5Y5/4) | シルト質ローム80%+暗褐色(10YR3/4)粘質土層20%。 |
| 8. 黄褐色(2.5Y5/4) | 土坑壁の崩落土。 |
| 9. 暗褐色(10YR3/4) | 土坑壁の崩落土。 |
| 10. 黄褐色(2.5Y5/4) | 地山層、シルト質ローム。 |

2区17号土坑 (基準高さ 79.90m)

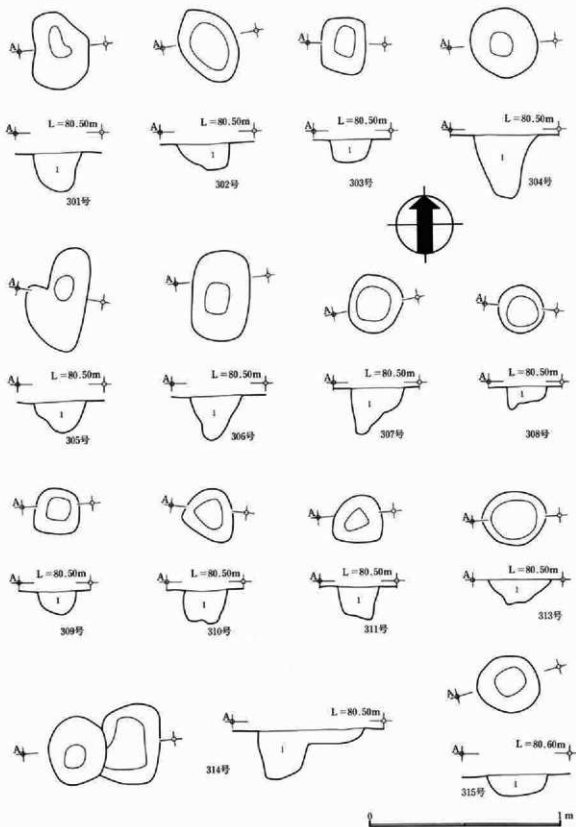
位置 M5・99, M6・09 西10.0mに12号古墳が位置する。土坑寸法は長さ277cm、幅118cm、深さ37cmで、長軸方位N-70°Eを距る。遺物として土師器の丸腰(173)、埴(174)が出土している。

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土。 |
| 2. 褐色(10YR4/4) | 粘質土層。 |
| 3. 褐色(10YR4/4) | 粘質土層80%+にぶい黄色(2.5Y6/4)ローム質シルト20%。炭化物・焼土を含む。 |
| 4. にぶい黄色(2.5Y6/4) | 地山層、ローム質シルト。 |
| 5. 赤褐色(10R5/8) | 焼土層。 |

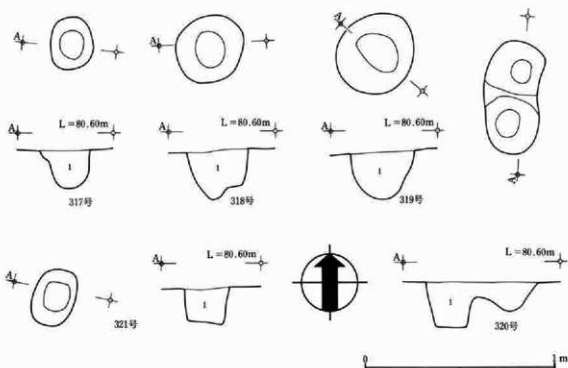
2区18号土坑 (基準高さ 79.90m)

位置 N6・00 北東13.0mに10号古墳が位置する。土坑寸法は、長さ190cm、幅90cm、深さ20cmで、長軸方位はN-58°Wを距る。

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 暗褐色(10YR3/4) | 粘質土層。 |
| 2. にぶい黄褐色(10YR5/4) | ローム質シルト70%と暗褐色(10YR3/4)粘質土層の混土。 |
| 3. にぶい黄褐色(10YR5/4) | 地山層、ローム質シルト。 |



第181图 2区301~311・313~315号土坑



第182図 2区317～321号土坑

土 坑

2区から279基の土坑が検出された。集中する箇所は、1. N4・65グリッドを中心に分布するもの（分布1）、2. M6・06グリッドを中心に分布するもの（分布2）、3. M6・95グリッドを中心に分布するもの（分布3）の3ヶ所に分けられる。

分布1は、縄文時代の土坑と、近世以降の墓地で東西方向にて列になる方形墓壇群である。分布2は、古墳群の西側に分布する小さな土坑群で、この地区に古墳が無く、意図的にも考えられる。分布3は、掘立柱建物と住居に囲まれた土坑で、8世紀の集落と同時存在の土坑であろう。

49号古墳の北側から11号古墳の南側に、直線で結ばれるように長方形の土坑が通り抜ける。また10号古墳の北東方向に石塚墓が位置する。14・15・16号土坑は、長軸方向は北から東へ約55度と共通している。人体がやっと埋葬できるもの（15号土坑）から、長さ約280cm、幅約120cmを測る大型土坑（17号土坑）まで多様である。

土坑	長 軸	短 軸	深 さ	土坑	長 軸	短 軸	深 さ	土坑	長 軸	短 軸	深 さ
301	41	29	20	308	25	25	12	317	28	22	20
302	42	29	13	309	26	24	12	318	36	36	25
303	30	24	12	310	30	26	17	319	47	40	25
304	37	35	33	311	30	25	17	320	59	30	24
305	54	33	16	313	35	30	13	321	31	23	19
306	47	31	22	314	60	42	25				
307	31	28	23	315	34	30	25				

E 古墳址

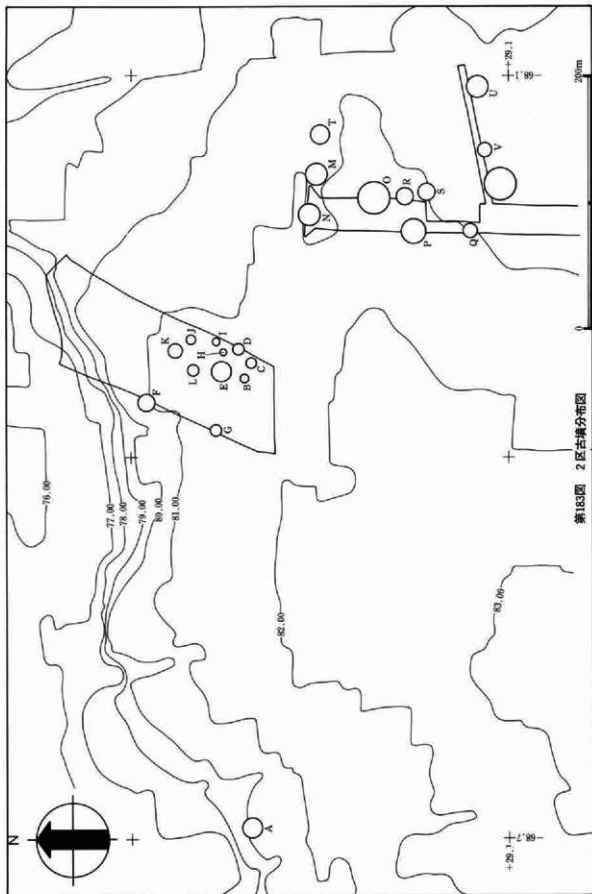
五世紀の白石稲荷山古墳、六世紀の七興山古墳など群馬県を代表する前方後円墳を市内に持つ藤岡市は県内でも古墳時代を象徴する古墳を多数有する地域として知られている。昭和9年に調査された上毛古墳総覧では1198基もの古墳が登録され、さらに近年の発掘調査でも記載漏れの古墳が新たに確認されその数は、増加の一途をたどる。特に古墳の集中する地域は鮎川と鮎川の合流する地域と谷あいを流下し、平坦地に開析する水田地帯に面して築造された藤岡台地の西の地域と東の地域の2カ所に古墳群が集中している。ところが藤岡台地の扇端部分の小野地域は古墳の分布が非常に少ない地域と考えられていた。上毛古墳総覧によると小野村の古墳は4基と少ない。さらにその後、群馬県教育委員会の調査した遺跡台帳には小野地区の古墳の存在さえも全く記載さえもされていない。昭和57年度、藤岡市教育委員会が新たに実施した「藤岡市遺跡詳細分布調査(Ⅰ)」の成果に同地区の悉皆調査がなされ小野村2号墳と小野村3号墳の残存が確認された。小野村2号墳(W)の所在地は大字上栗須字白山で通称「馬捨場」と呼ばれ、墳丘径18m、高さ1.5mを残していた。小野村3号墳(O)の所在地は大字上栗須字白山で通称「茶白山」と呼ばれ、墳丘の高まりが僅かに確認されたのみであった。小野村4号墳(T)、通称「下り松」と呼ばれる古墳が小野村3号墳の北東約60mに位置する。所在地は大字上栗須字白山である。また小野村1号墳(A)、通称「大神宮山」と呼ばれる古墳が小野村3号墳の西北西約500mに位置する。所在地は大字上栗須字上ノ台である。これらの古墳一基一基に古墳名が付けられていることからこの台地の平坦部周辺にはもともと古墳が少なかったことが考えられる。

2区周辺古墳一覧表

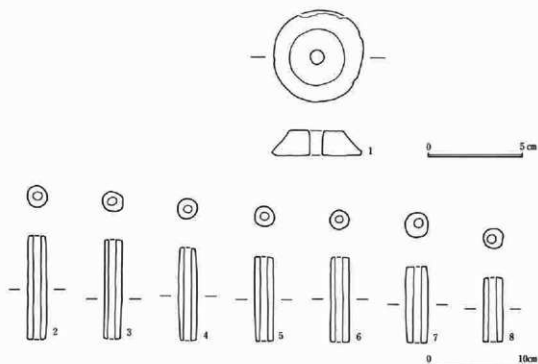
No	名 称	墳丘径(m)	No	名 称	墳丘径(m)
A	上毛古墳総覧 小野村1号古墳 (大神宮山)	10	M	上栗須遺跡 1号古墳	9
B	上栗須寺前遺跡 1号古墳	7	N	上栗須遺跡 2号古墳	18
C	上栗須寺前遺跡 2号古墳	9	O	上栗須遺跡・3号古墳 小野村3号古墳 (茶白山)	22
D	上栗須寺前遺跡 4号古墳	10	P	上栗須遺跡 4号古墳	20
E	上栗須寺前遺跡 5号古墳	16	Q	上栗須遺跡 5号古墳	10
F	上栗須寺前遺跡 6号古墳	14	R	上栗須遺跡 6号古墳	9
G	上栗須寺前遺跡 7号古墳	9	S	上栗須遺跡 16号溝	9
H	上栗須寺前遺跡 8号古墳	5	T	上毛古墳総覧 小野村4号古墳 (下り松)	6
I	上栗須寺前遺跡 9号古墳	7	U	上栗須遺跡・第1取付道路 1号古墳	18
J	上栗須寺前遺跡 10号古墳	8	V	上栗須遺跡・第1取付道路 2号古墳	12
K	上栗須寺前遺跡 11号古墳	12	W	上栗須・第1取付・3号古墳 小野村2号古墳 (馬捨場)	22
L	上栗須寺前遺跡 12号古墳	10			

引用文献

- 上毛古墳総覧 (「上毛古墳総覧」群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第5輯 1938年)
 上栗須遺跡 (「上栗須遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第88集 1989年)
 上栗須寺前遺跡 (「上栗須寺前遺跡群Ⅱ」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第185集 1994年)



第183図 2区古墳分布図



第184図 2区1号古墳址管玉・土器溜り紡錘車

2区1号古墳

遺構 (挿図番号第185図 写真番号P L-65)

本古墳はM 6・57, 58, 67, 68グリッドで検出され、北19.0mに5号古墳が位置する。

規模は、東西外側直径8.7m・内側直径6.9m, 南北外側直径8.6m・内側直径7.1mで、墳丘部分の面積は38.5㎡である。東溝の幅は80cm, 深さは20cmである。

遺物 (挿図番号第184・200図)

土師器で埴の小型品(219), (220)が出土している。管玉が南側の周溝内より7点出土している。それぞれの寸法と重さは、2が $2.7\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 1.22g, 3が $2.6\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 1.14g, 4が $2.5\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 0.97g, 5が $2.2\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 1.15g, 6が $2.2\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 1.12g, 7が $2.0\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 1.01g, 8が $1.8\text{cm} \times 0.5\text{cm}$, 0.86gを計測した(第184図)。赤色顔料が出土している。周辺の土を含む重さは7gと少量で、ベンガラと考えられる。

2区2号古墳

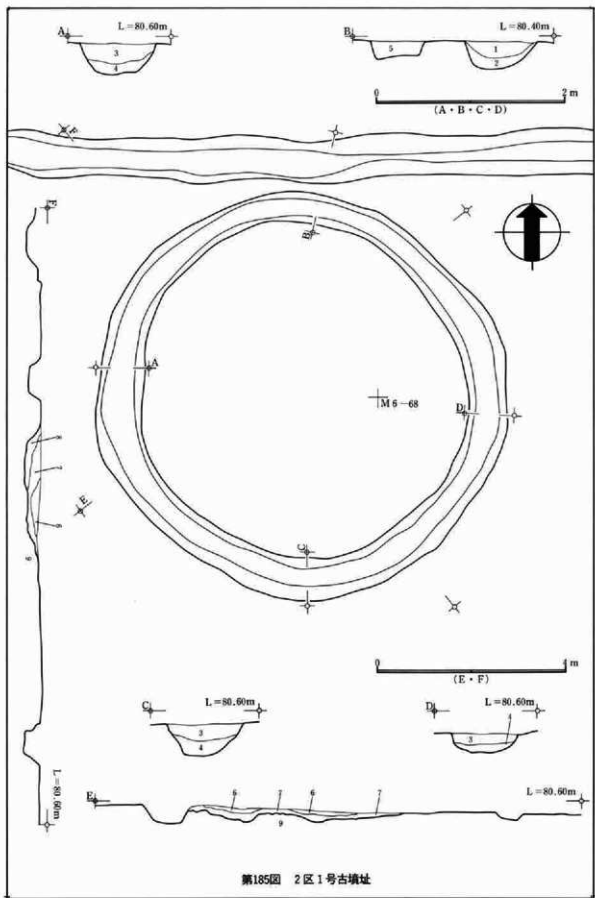
遺構 (挿図番号第186図 写真番号P L-65)

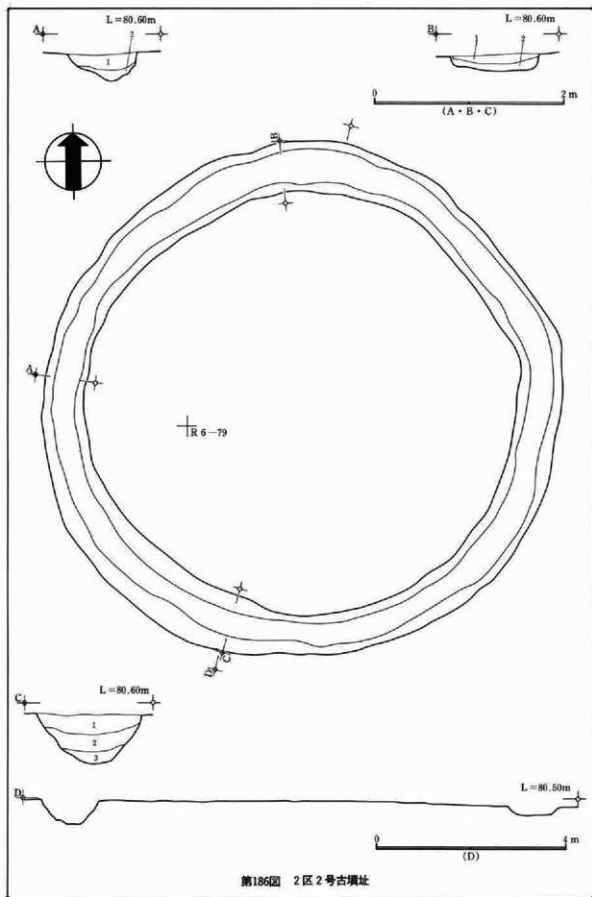
本古墳はM 6・68, 69, 78, 79グリッドで検出され、南東13.5mに1号古墳が位置する。

規模は、東西外側直径11.1m・内側直径9.2m, 南北外側直径10.9m・内側直径9.0mで、墳丘部分の面積は65.0㎡である。東溝の幅は92cm, 深さは30cmである。

遺物 (挿図番号第200図)

土師器で埴の小型品(221), 大型品(222), 丸壺の大型品(223)が出土している。





2区4号古墳

遺構 (挿図番号第187図 写真番号P L-66)

本古墳はM 6・49, 59, N 6・40, 41, 50, 60グリッドで検出された。発掘区の東側で、周溝の北西半分を調査した。東西方向に走る1号溝と2号溝のうち、2号溝が墳丘中央を東西方向に切る。墳丘の芯々距離で北西方向23.0mに5号古墳、北北西方向13.0mに8号古墳、南西方向15.0mに2号古墳が位置する。規模は南北外側直径12.0m・内側直径9.6mで、墳丘部分の面積は73.9㎡である。東溝の幅は126cm、深さは69cmである。

遺物 (挿図番号第200図)

須恵器の高台杯(224)で、口縁部の欠損したものである。墳丘を切って走る2号溝からの出土品である。

2区5号古墳

遺構 (挿図番号第15図 写真番号P L-66)

本古墳はM 6・17, 18, 19, 27, 28, 29, 37, 38, 39, 47, 48, 49グリッドで検出された。発掘区の古墳群中最も大きな古墳である。東西方向に走る1号溝と2号溝のうち、1号溝が古墳南端の周溝部分を切っている。各墳丘の芯々距離で南東方向23.0mの距離に4号古墳が、東南東方向15.0mの距離に8号古墳が、ほぼ北方向20.0mの距離に12号古墳が、南南西20.0mの距離に1号古墳が位置する。規模は東西外側直径21.5m・内側直径16.2m、南北外側直径20.9m・内側直径16.0mで、墳丘部分の面積は203.5㎡である。東溝の幅は248cm、深さは77cmである。

土器 (挿図番号第200・201図)

須恵器で蓋の小型品(225)、有蓋高坏(226)、無蓋高坏(227)、甕(230)、壺の中型品(231)、甕の大型品(234)が出土している。土師器で丸壺の中型品(228)、(229)、埴の中型品(232)、埴の小型品(233)が出土している。225, 226, 227は2号溝に共存する遺物と考えられる。230の甕と234の甕、篋ケンマを施す埴(232, 233)などは5世紀後半の時期と考えられる。炭化物あり。

埴輪 (挿図番号第208図 写真番号P L-73)

朝顔形埴輪(339)が出土している。

2区6号古墳

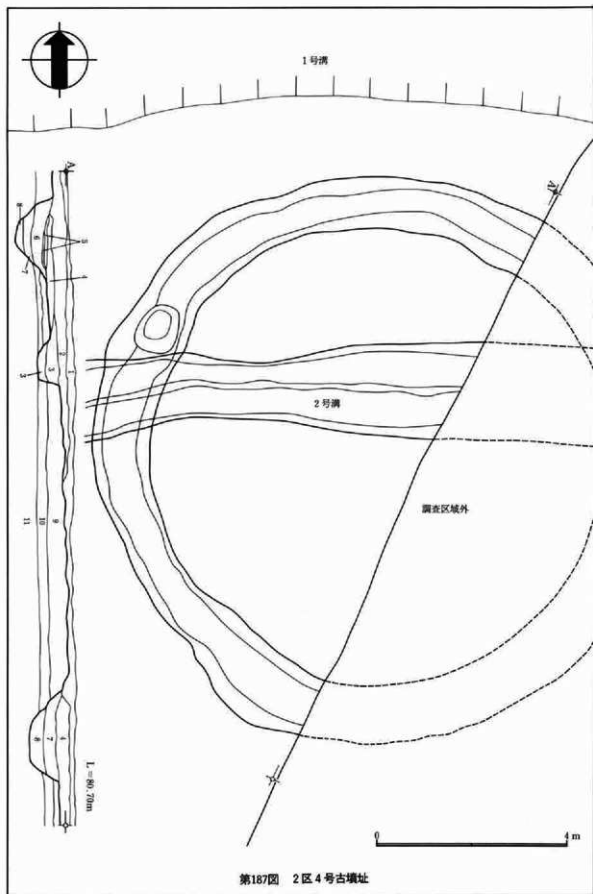
遺構 (挿図番号第188・189図 写真番号P L-67)

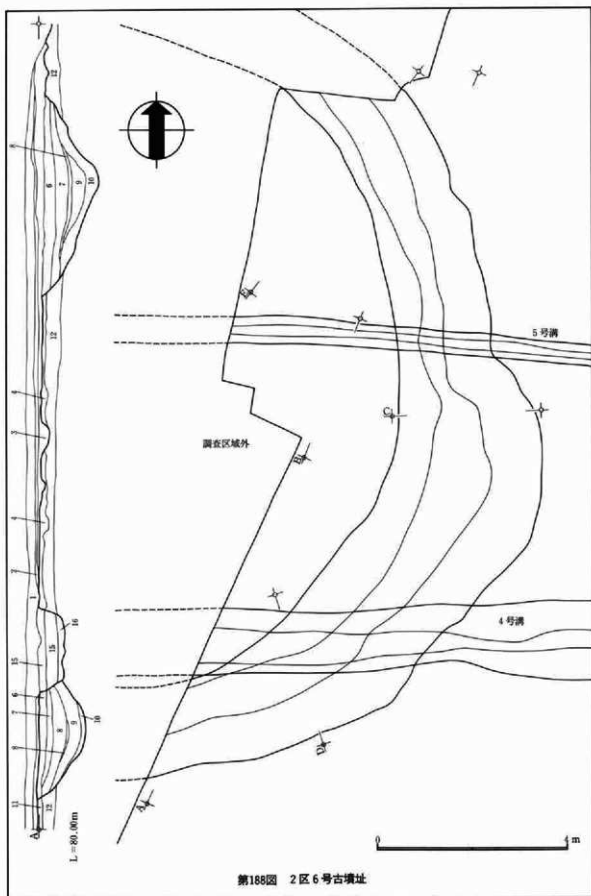
本古墳はM 5・26, 35, 36, 45, 46グリッドで検出された。発掘区の西端に位置している。古墳全体の1/3ほどの調査で、主体部と周溝西側は未調査である。墳丘の芯々距離で南東方向48.0mの距離に11号古墳が位置する。

規模は南北外側直径16.0m・内側直径14.0mで、墳丘部分の面積は133.1㎡である。東溝の幅は224cm、深さは81cmである。

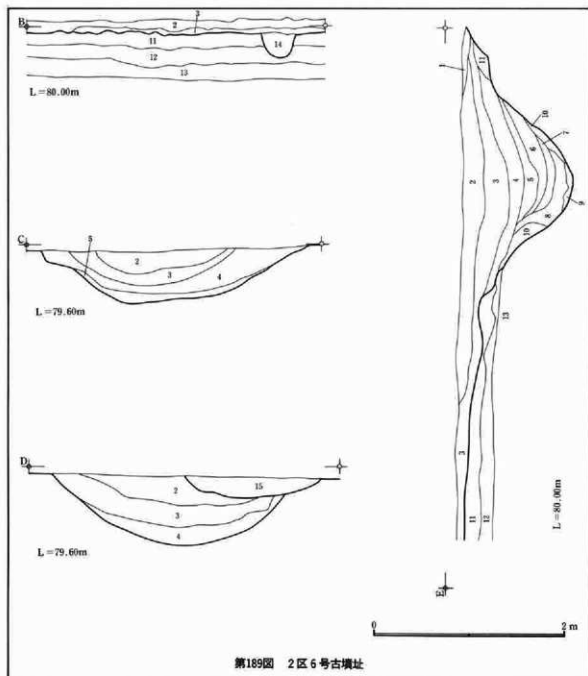
埴輪 (挿図番号第208～214図 写真番号P L-67)

円筒埴輪は朝顔形埴輪(338)、普通円筒埴輪(340, 341, 342, 343, 344, 345, 347)に分類できる。動物埴輪は馬形埴輪1(348)と、馬形埴輪2の馬の鼻先(349)、馬の尻鬃(350)、鞍の敷皮(351)、尻尾(352)、鞍(354)、鈴(354)、馬の右前足(355)である。人物埴輪は环を捧げる女子の鬘(356)、顔(357)、左手(358)と手を置く女子の顔(359)、左手(360)と腰に手を置く人の顔(361)、右手(362)である。





第188图 2区6号古墳址



2区7号古墳

遺構 (挿図番号第190図 写真番号P L-68)

本古墳はM 6・12, 13, 22, 23, 32, 33グリッドで検出された。発掘区の西端より検出された。約半分ほどの古墳を発掘したが主体部は確認されず、北西方面が未発掘として残された。周溝の断面は逆台形である。墳丘部分の盛土の痕跡は、全くとどめていない。表土、耕作土層が墳丘上面を平坦に覆い、古い段階に削平がなされたものと考えられる。墳丘の芯々距離で東方向46.5mの距離に5号古墳が位置する。規模は南北外側直径11.1m・内側直径8.9mで、墳丘部分の面積は61.3㎡である。東溝の幅は86cm、深さは24cmである。

遺物 (挿図番号第201図)

出土した遺物は3点で、周溝の南南東より出土した。土師器の埴(235, 236)は半球形を呈し、内面の上半を篋ミガキで斜めに施文している。土師器の丸甕(237)は中型品で、短く直立する口縁部は上げ気味の胴部を持ち、やや直線的にすぼまり、小さな平底に至る。

2区8号古墳

遺構 (挿図番号第191図 写真番号P L-68)

本古墳はN 6・20, 30グリッドで検出された。大型古墳の5号古墳に近接する小古墳である。墳丘の芯々距離で西側15.5mの距離に5号古墳が位置する。北東の方向10.0mの距離に9号古墳が位置し、南南東方向13.0mの距離に4号古墳が位置する。また、本古墳の北方5.5mに13号土坑、東方5.5mに14号土坑が位置する。古墳規模が小さいために、周溝も浅く不明瞭な部分もあった。1号溝、2号溝の1対が平行する遺構の北端に本古墳が位置し、周溝南端を1号溝が一部削っている。

規模は東西外側直径6.2m・内側直径5.1m、南北外側直径6.2m・内側直径5.0mで、墳丘部分の面積は20.0㎡である。東溝の幅は52cm、深さは38cmである。

2区9号古墳

遺構 (挿図番号第192図 写真番号P L-68)

本古墳はN 6・11, 20, 21グリッドで検出された。発掘区の東端より検出された。古墳全体の2/3程が発掘され、南東の周溝の1/3が未発掘となった。墳丘は全く残っていない。水田として利用され、表土から50cm程の深さまで削平され盛土はない。墳丘の芯々距離で南西方向10.0mの距離に8号古墳が位置する。

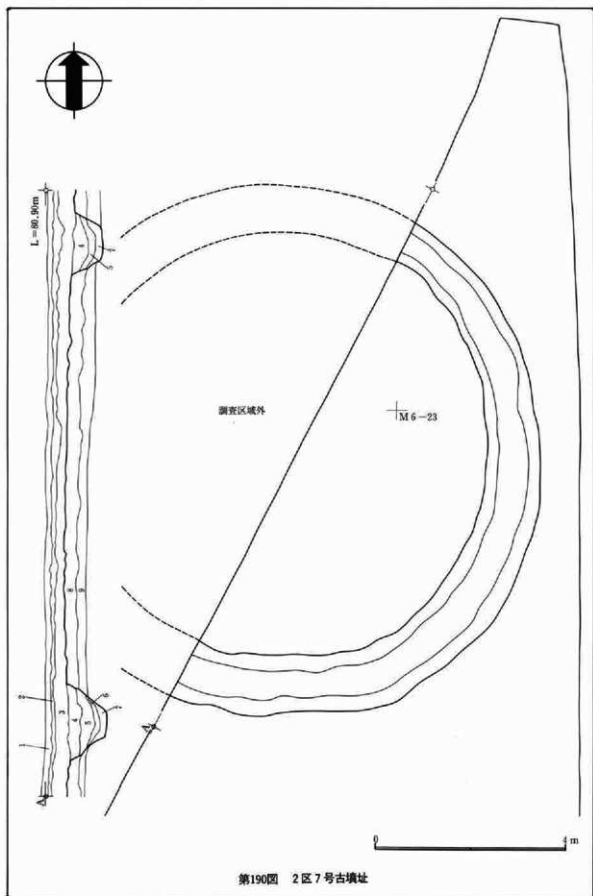
規模は南北外側直径7.9m・内側直径6.5mで、墳丘部分の面積は33.2㎡である。東溝の幅は70cm、深さは17cmである。

古墳群の構成を発掘区域内という限られた条件の中で考えてみたい。

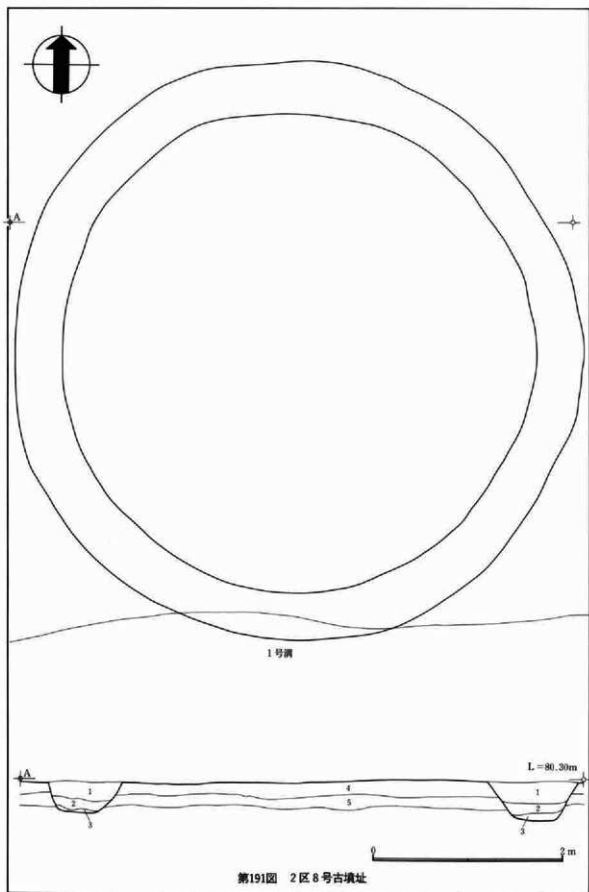
5号古墳を最大規模とした群をA支群とする。南北70mで東西40mの範囲で9基の円墳、5基の土坑墓、1基の石槨墓から構成される。墳丘の大きさでいうと、5号古墳が最大規模の16mクラス、続いて2号古墳、4号古墳、11号古墳、12号古墳が10mクラス、1号古墳、9号古墳、10号古墳が7mクラス、最下位のクラスが8号古墳で径5mを測る。更に、周溝を持たない墳墓がある。11号古墳と12号古墳の北西側に16号土坑が位置する。5号古墳、8号古墳、9号古墳、10号古墳、11号古墳、12号古墳に囲まれた18m×18mの空間に、13号土坑、17号土坑、18号土坑が位置する。また、4号古墳、8号古墳、9号古墳に囲まれた範囲に14号土坑が位置する。石槨墓の15号土坑は、10号古墳、11号古墳の北東側に位置する。A支群は5世紀後半に集中的に造墓された地域である。

B支群とした6世紀前半の埴輪を樹立した6号古墳は1基のみで、更に西北方向へ展開すると考えられる。

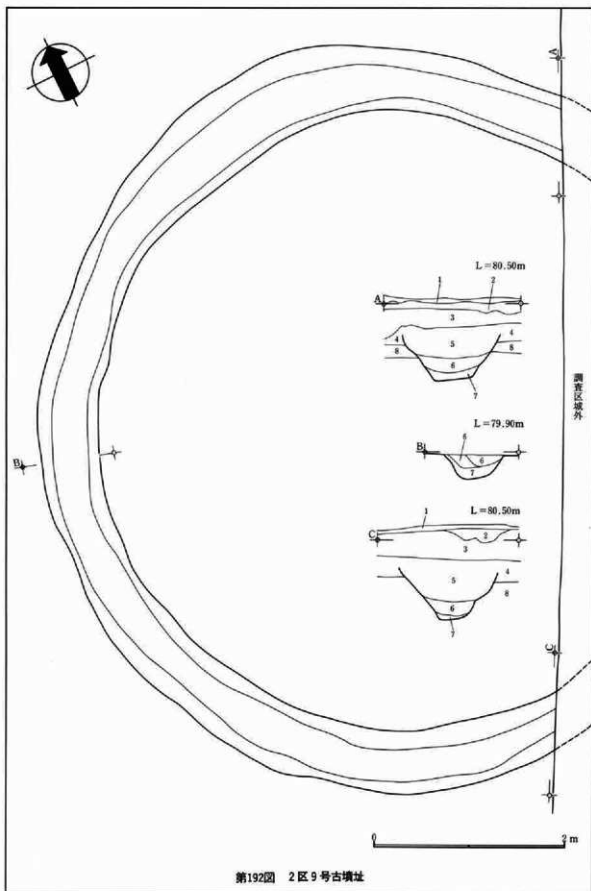
C支群は、A支群の西方約30mの方向に、5世紀後半の7号古墳1基のみが確認された。



第190图 2区7号古墳址



第191図 2区8号古墳址



2区10号古墳

遺構 (挿図番号第193図 写真番号P L-68)

本古墳はN 5・81, 82, 91, 92グリッドで検出された。発掘区の東端の近くで発見され、完掘できた。表土50cmほどは耕作によって削平され、墳丘盛土は全く検出できなかった。墳丘の芯々距離で北西方向15.0mの距離に11号古墳が、西方24.0mの距離に12号古墳が、南西方向34.0mの距離に5号古墳が位置する。規模は東西外側直径10.1m・内側直径8.1m, 南北外側直径10.0m・内側直径7.4mで、墳丘部分の面積は47.3㎡である。東溝の幅は94cm, 深さは10cmである。

2区11号古墳

遺構 (付図番号第16図 写真番号P L-69)

本古墳はM 5・69, 79, N 5・50, 51, 60, 61, 70, 71, 80グリッドで検出された。発掘区のA支群北端の古墳である。墳丘の芯々距離で南東方向15.0mの距離に10号古墳が、南西方向20.5mの距離に12号古墳が位置する。

規模は東西外側直径15.3m・内側直径14.5m, 南北外側直径14.5m・内側直径11.6mで、墳丘部分の面積は108.2㎡である。東溝の幅は214cm, 深さは25cmである。

遺物 (挿図番号第201図)

土師器の丸腰の大型品(238)で、肩部から口縁部を欠く。土師器の埴の小型品(239)が出土している。須恵器模倣破で、丸い底部から直立する口縁に至る。

2区12号古墳

遺構 (付図番号第17図 写真番号P L-69)

本古墳はM 5・87, 88, 89, 97, 98, 99, M 6・07, 08, 09グリッドで検出された。墳丘の芯々距離で北東方向20.5mの距離に11号古墳が位置する。また、南方向22.0mの距離に最大規模の円墳・5号古墳が位置する。

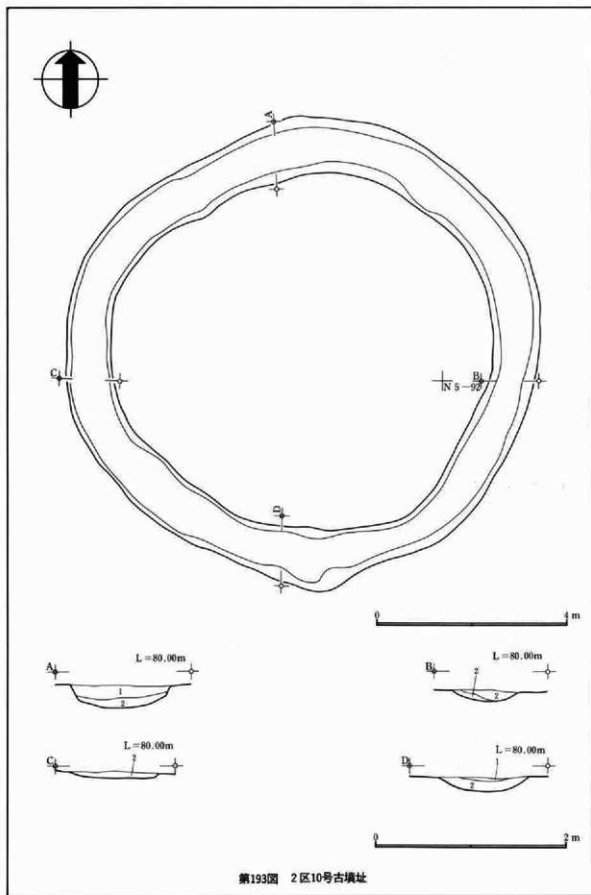
規模は東西外側直径13.2m・内側直径10.1m, 南北外側直径12.9m・内側直径10.0mで、墳丘部分の面積は79.1㎡である。東溝の幅は148cm, 深さは42cmである。

土器 (挿図番号第202図)

土師器で埴の小型品(240), (241)は、半球形の底部に受け口口縁で終わる。内面上半は斜方向の寛ミガキを施す。土師器環の中型品(242), (243)は、浅い半球形の底部から大きく外反する口縁部に至る。内面全体に立て方向の寛ミガキを施す。土師器環(244)は、浅い丸い底部からやや開きながら口縁部が立つ。

埴輪 (挿図番号第209図 写真番号P L-73)

普通円筒埴輪(346)の口縁部分である。



2区古墳土層一覧表

2区1号古墳 (基準高さ 80.40m・80.60m)		
1.	2溝埋土	にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土(シルトが多い)、しまっている。
2.	2溝埋土	暗褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質土で黄褐シルト塊を含む。
3.	周溝埋土	灰黄色(10YR4/2) 粘質土層
4.	周溝埋土	灰黄色(10YR4/2) 1層を80%・浅黄褐色(10YR8/3)ローム質土の小ブロック20%の混土。
5.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/3) 粘性のない砂質土(シルト分が多い)、しまっている。黄褐色シルトを含む。
6.	旧表土	灰黄色(2.5Y7/2) 風倒木痕、ローム質シルト、旧表土下層に存在したと考えられる。
7.	旧表土	灰黄色(2.5Y7/2) 風倒木痕、層中に織文土層の破片が混入。
8.	旧表土	灰色(5Y4/1) 風倒木痕、層中に灰黄色(2.5Y7/2)のシルト質土層を30%含む。
9.	地山層	淡黄色(2.5Y8/3) 自然堆積層、ローム質シルト。
2区2号古墳 (基準高さ 80.50m・80.60m)		
1.	周溝埋土	黒褐色(7.5YR3/2) 粘質土層、片岩の小片を少量含む。
2.	周溝埋土	黒褐色(7.5YR3/2) 粘質土層、土器小片・炭化物を少量含む。
3.	周溝埋土	黒褐色(7.5YR3/2) 粘質土層、にぶい黄褐色(10YR8/3)のローム質土を少量含む。
2区4号古墳 (基準高さ 80.70m)		
1.	表土層	淡黄色(2.5Y7/3) 軽石を多量に含む、鉄分沈殿層。
2.	表土層	暗灰黄色(2.5Y4/2) 軽石を多量に含む、粘質土層。
3.	2溝埋土	にぶい黄褐色(10YR5/3) 粘質土層で単純層である。
4.	周溝埋土	黒褐色(10YR3/1) 粘質土層で少量の軽石を含む。
5.	周溝埋土	灰白色(5Y7/1) 粘質土層で鉄分をラミナ状に含み、たたきしめられている。
6.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/4) 粘質土層、黒色強い。
7.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/4) 粘質土層、褐色強い。
8.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/4) 粘質土層、黄色強い。
9.	旧表土	にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土層で単純層である。
10.	旧表土	暗褐色(10YR3/4) 黒褐色(10YR3/2)ブロックとにぶい黄褐色(10YR7/3)ローム質シルトを少量含む。
11.	旧表土	にぶい黄褐色(10YR7/3) ローム質シルト。
2区5号古墳 (基準高さ 80.30m)		
1.	表土層	褐色(10YR4/1) 粘質土層。
2.	表土層	にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土層。
3.	1溝埋土	黒褐色(2.5Y3/2) 粘質土層。
4.	1溝埋土	暗褐色(10YR3/3) 粘質土層。
5.	1溝埋土	にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土層。
6.	1溝埋土	にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂層70%+5層30%の混土層。
7.	1溝埋土	灰黄色(2.5Y6/2) シルト層。
8.	1溝埋土	灰黄色(2.5Y6/2) 7層70%+砂層30%の混土層。
9.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/3) 粘質土層、たたきしめられた階層と考えられる。
10.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/3) 粘質土層。
11.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/4) 粘質土層。
12.	周溝埋土	灰黄褐色(10YR5/2) 砂質土層。
13.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/4) 11層60%+灰オリーブ色(5Y5/2)ローム質シルト40%の混土層。
14.	周溝埋土	褐色(10YR4/4) 粘質土層。
15.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/3) 粘質土層。
16.	周溝埋土	黒褐色(10YR3/2) 粘質土層。
17.	周溝埋土	黒褐色(10YR2/2) 粘質土層、黒色味強い。
18.	周溝埋土	暗褐色(10YR3/4) 粘質土層、褐色味強い、炭化物少量含む。
19.	周溝埋土	にぶい黄褐色(10YR5/3) 2層50%+ローム質シルト50%の混土層。
20.	周溝埋土	にぶい黄褐色(10YR5/3) 2層50%+ローム質シルト50%の混土層。
21.	周溝埋土	にぶい黄褐色(10YR5/3) 2層50%+ローム質シルト50%の混土層。
22.	周溝埋土	オリーブ黒色(5Y3/2) 軽石を含む。
23.	周溝埋土	黒褐色(10YR3/2) 粘質土層。
24.	旧表土	暗褐色(10YR3/4) 粘質土層。
25.	旧表土	暗褐色(10YR3/3) 粘質土層。
2区6号古墳 (基準高さ 79.60m・80.00m)		
1.	表土層	灰黄褐色(10YR5/2) 粘性のない砂質土、しまっている。径2~3mmの白色軽石(As-A)・径5mm~1cmの礫を含む。
2.	表土層	暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のない砂質土、しまっている。径2~3mmの白色軽石(As-A)・径5mmの礫を含む。
3.	表土層	褐色(7.5YR4/3) 粘性のない砂質土でしまっている。白色軽石(As-A)を含む。
4.	周溝埋土	明黄褐色(2.5Y6/6) シルト質土、小砂礫を少量混入する。
5.	周溝埋土	オリーブ褐色(2.5Y4/6) 1層と同質であるが、色調がより暗く粘りみをおびる。
6.	周溝埋土	にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘性のない砂質土、しまっている。径5mmほど(最大)の軽石を含む。
7.	周溝埋土	褐色(10YR4/4) 粘性のない砂質土、しまっている。径1mmほどの白色粒を含む。
8.	周溝埋土	黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土シルト分が多い、しまっている。径1mmほどの白色粒を含む。

9. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質土でシルト塊が多く、しまっている。径1mmほどの白色粒を含む。
10. 周溝埋土 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘性のある砂質土でシルト分が多く、しまっている。
11. 旧表土 におい黄褐色(10YR4/3) 粘性のない砂質土。しまっている。白色軽石粒を含む。径5mmほどの礫を含む。
12. 旧表土 褐色(10YR4/4) 粘性のない砂質土。シルト分が多い。かたい。
13. 旧表土 明黄褐色(2.5Y6/6) 粘性のある黄褐シルト。しまっている。
14. 5溝埋土
15. 4溝埋土
16. 4溝埋土
- 2区7号古墳 (基準高さ 80.90m)
1. 表土層 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘性のない砂質土。しまっている。白色軽石(As-A)を多く含む。径5mm~1cmの礫を含む。
2. 表土層 灰黄褐色(10YR5/2) 粘性のない砂質土。しまっている。白色軽石(As-A)を多く含む。
3. 表土層 黒褐色(10YR3/2) 粘性のない砂質土。しまっている。灰白色軽石(As-B)を多く含む。径5mm~1.5cmの礫を含む。
4. 周溝埋土 褐色(7.5YR4/4) 粘性のない砂質土。しまっている。径5mmの礫を少量含む。径1mmほどの白色粒を含む。
5. 周溝埋土 褐色(10YR4/4) 粘性のない砂質土。しまっている。径1mmほどの白色粒を含む。
6. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/4) 粘性のある砂質土(シルト分が多い)。しまっている。黄褐シルト塊(径5mmほど)を含む。
7. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/4) 粘性のある砂質土(シルト分が多い)。しまっている。黄褐シルト塊を下層部に多く含む。
8. 旧表土 暗褐色(10YR3/4) 粘性のない砂質土。しまっている。径5mmの礫を含む。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
9. 旧表土 暗褐色(10YR3/3) 粘性のある砂質土でシルト塊を含む。しまっている。黄褐色シルトもまぎって汚れた感じである。
- 2区8号古墳 (基準高さ 80.30m)
1. 周溝埋土 黒褐色(2.5Y3/1) 粘質土層。
2. 周溝埋土 褐灰色(10YR4/1) 粘質土層。
3. 周溝埋土 灰黄褐色(10YR6/2) ローム質土層。
4. 旧表土 暗褐色(10YR3/4) 粘質土層。
5. 旧表土 暗褐色(10YR3/3) 粘質土層。
- 2区9号古墳 (基準高さ 79.50m・80.50m)
1. 表土層 におい黄褐色(10YR6/3) 水田床土(勸床)。
2. 表土層 灰黄褐色(10YR4/2) 水田耕作底面。
3. 表土層 黒褐色(10YR3/1) 粘質土で軽石多量を含む。
4. 旧表土 暗褐色(10YR3/4) 粘質土で単一層。
5. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/4) 4層埋没土80%ロームシルト20%含む混土。
6. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/4) 4層埋没土80%ロームシルト20%含む混土。
7. 周溝埋土 浅黄色(2.5Y7/4) ローム質シルトを70%4層を30%含む混土。
8. 旧表土 褐灰色(10YR4/1) 4層の粘質土の混土層。
- 2区10号古墳 (基準高さ 80.60m)
1. 周溝埋土 黒褐色(10YR3/2) 粘質土層。
2. 周溝埋土 におい黄褐色(10YR4/3) 1層より褐色味が強く、ローム質シルト40%含む混土層。
- 2区11号古墳 (基準高さ 80.10m)
1. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/3) 軟質土。
2. 周溝埋土 におい黄褐色(10YR4/3) 軟質土。
3. 周溝埋土 褐色(10YR4/4) 層中に明黄褐色(2.5Y6/6)のブロックを10%含む。
4. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/4) 層中に明黄褐色(2.5Y6/6)ローム質シルトを20%含む。
5. 周溝埋土 褐色(10YR4/4) 3層に近似。明黄褐色(2.5Y6/6)ローム質シルトを30%含む。
6. 旧表土 褐色(10YR4/4) 軟質土。
- 2区12号古墳 (基準高さ 80.10m)
1. 表土層 黄褐色(2.5Y5/3) 軽石を多量に含む。
2. 表土層 灰黄色(2.5Y6/2) 軽石を多量に含む。
3. 表土層 におい黄褐色(10YR4/3) 粘質土層。
4. 表土層 におい黄褐色(10YR4/3) 粘質土層。
5. 周溝埋土 褐色(7.5Y4/4) 粘質土層。
6. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/4) 粘質土層。
7. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/3) 粘質土層。炭化物を少量含む。
8. 周溝埋土 暗褐色(10YR3/3) 層中に黄褐色(2.5Y5/4)ローム質シルト20%含む混土層。
9. 墳丘盛土 におい黄褐色(10YR4/3) 粘質土層。黄褐色(2.5Y5/4)ローム質シルト10%含む混土層。
10. 旧表土 褐色(7.5YR4/3) 粘質土層。
11. 旧表土 黒褐色(7.5YR3/1) 粘質土層。

2 遺物

1区の遺物の解説(176頁)で、出土土器の分類について述べた。2区の遺物の解説では、それらの土器の分類がどの器種と供伴関係にあるのか検討してみた。これは出土土器が全体に少ないことと、これから分類基準とするA～F器種が少ないなかにも量的に恵まれ、器形が特殊であることから、執筆者の力量と手抜きで試行したものである。

A類は、外面に縦方向のヘラケズリを施す。直線的な胴部に、長めの口縁部が「く」の字状に開く土師器の長甕である。(代表例142)

B類は、半球形の体部に、内傾する短い口縁部の土師器の小型丸底甕である。(代表例153)

C類は、体部は丸底で内湾気味に口縁部が立ち上がる大型の土師器の甕である。(代表例137)

D類は、最も出土量の多い土師器の甕である。丸い体部で巻き込みながら口縁部に至る。口縁端部が更に巻かれるものもある。C類の大型、更に中間に中型をして本類である。(代表例29)

E類は、須恵器の大型有蓋高環で、完形器の出土はなかった。口縁端部の「受け口」形状の相違から「蓋」「高環」に区分したが、いずれにしても特に目立つ器種である。(代表例326)

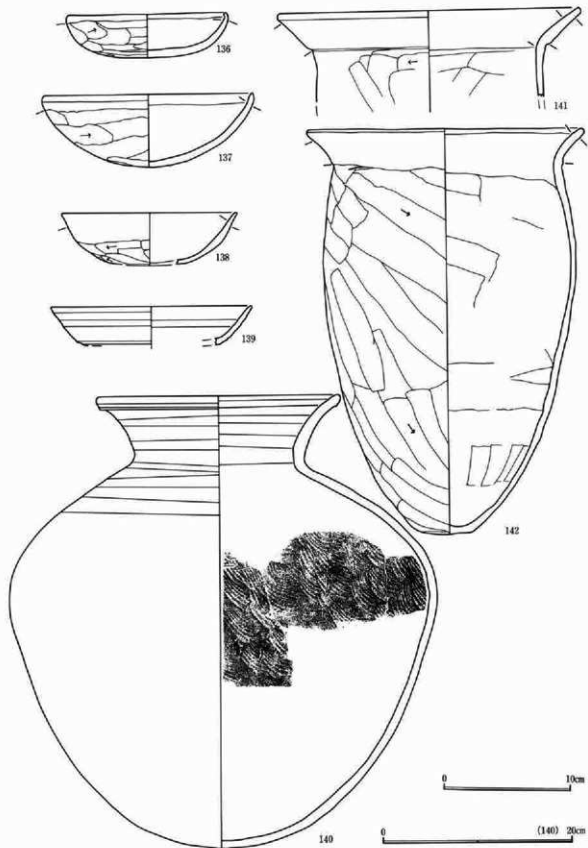
F類は、須恵器の坏蓋の蓋部である。小型で宝珠のつまみを持ち、体部内面に反りを持つ。(代表例143)

1区1号住居	A	D	2区1号住居	C	D			
2号住居	A	D	2号住居	A	D			
11号住居	A	D	3号住居	D	F			
12号住居	B	C	D	8号住居	A	C	D	
13号住居	A	D	E	F	10号住居	A	C	D
14号住居	B	C	D	11号住居	A	D	F	
15号住居	C	D						
16号住居	C	F						
18号住居	B	D	F					
19号住居	A	C	D					
20号住居	A	D	E					
21号住居	D	F						

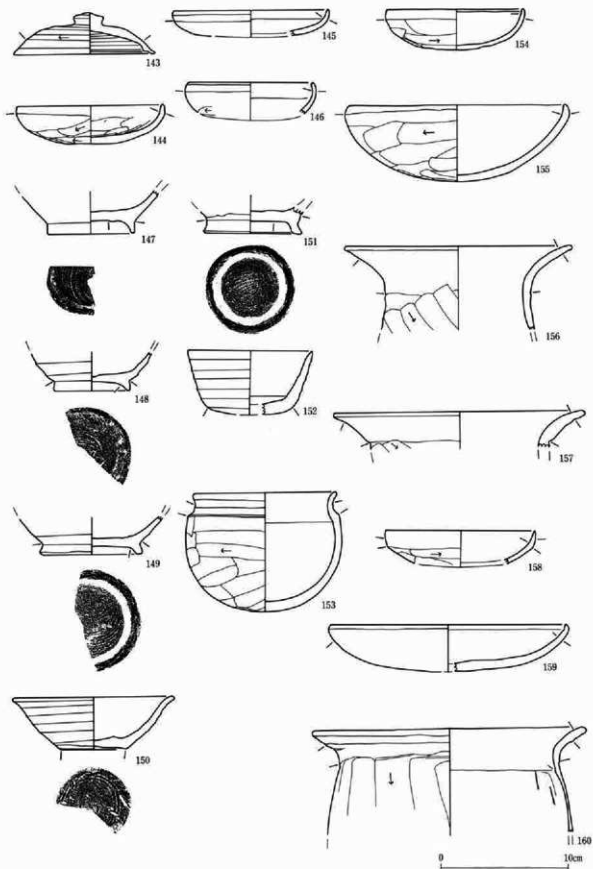
これらの器種の供伴関係をみると、A～F類はすべて供伴関係にあることがわかる。すると、他の遺構出土のもの、1区5号住居、1区7号住居、1区8号住居、1区10号住居、1区14号溝、1区5号溝、第2河道、2区4号住居、2区6号住居、2区9号住居、2区4号溝、2区6号溝、2区7号溝、2区土器面まりなども同じ供伴関係にあると考えてよい。

これらの供伴関係は細かな技法の変化を無視すると、ある幅の時間軸と生活空間軸を共有する食器としての組別と考えてよい。これらの土器を編年表に組み込み、実年代にかえすと以下のようになる。

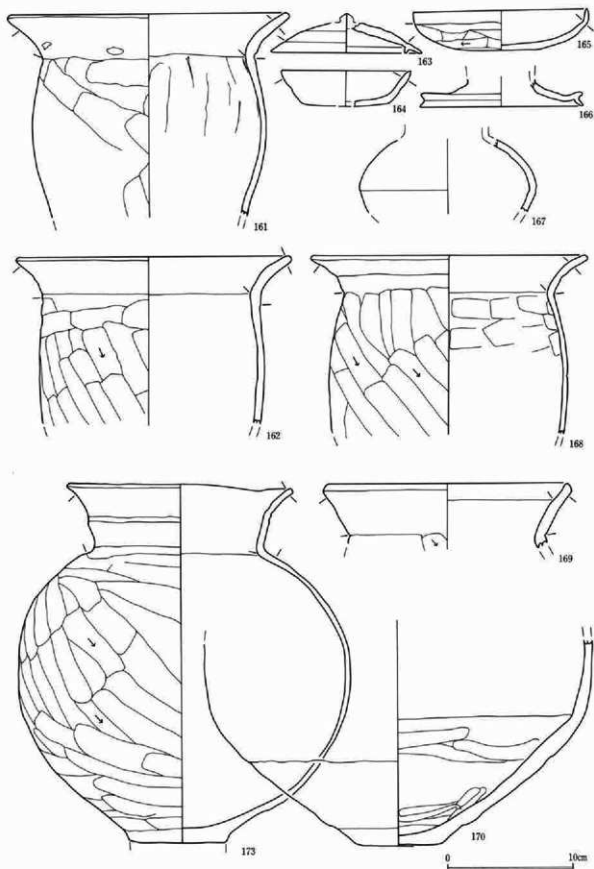
技法としては、かえりの付いた蓋環の須恵器の出現から、糸切り技法の普遍化以前の段階までである。すなわち、金属器志向の規格的な器種の出現は、律令的土器様式と考えられ、官衙、または寺院を支える集落の出現した時期と考えられる。その時期は、7世紀の後半期から8世紀前半と考えると大過ない。



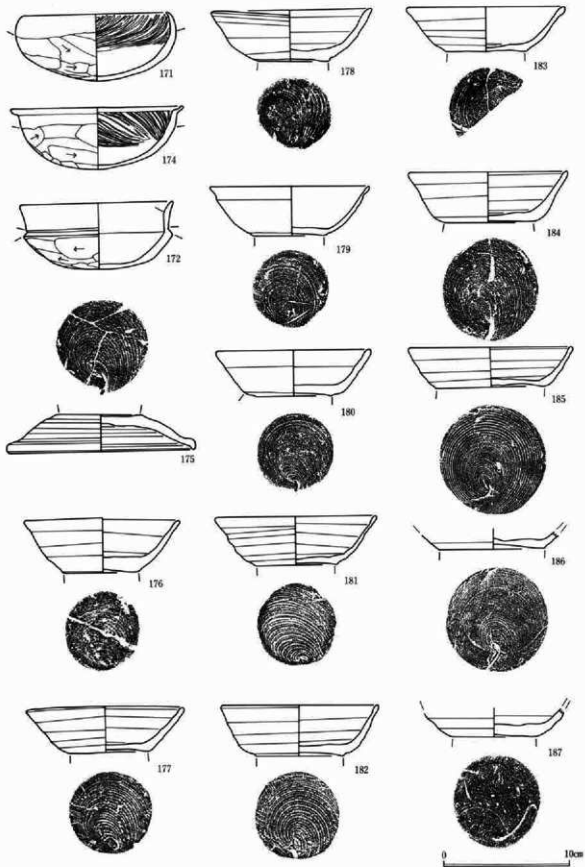
第194图 2区出土遗物



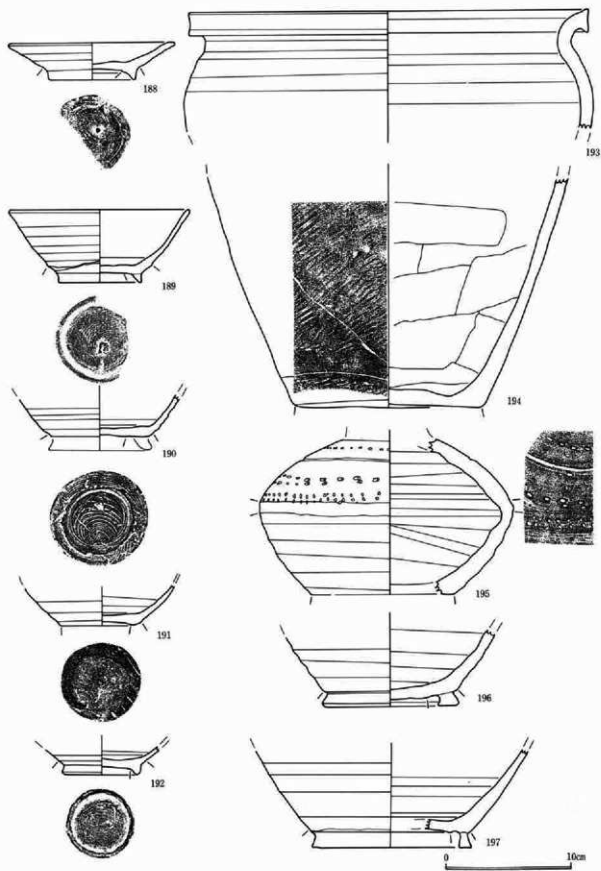
第195図 2区出土遺物



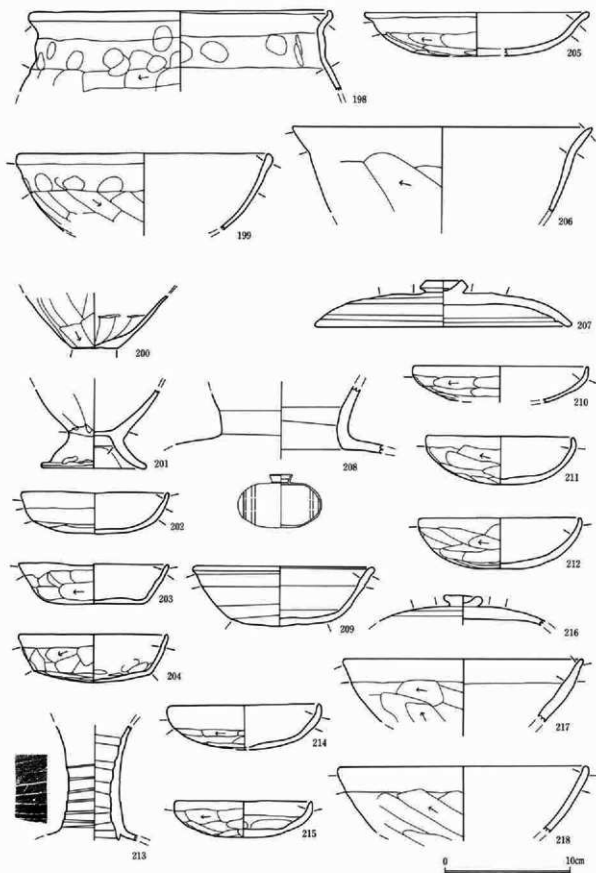
第196图 2区出土遺物



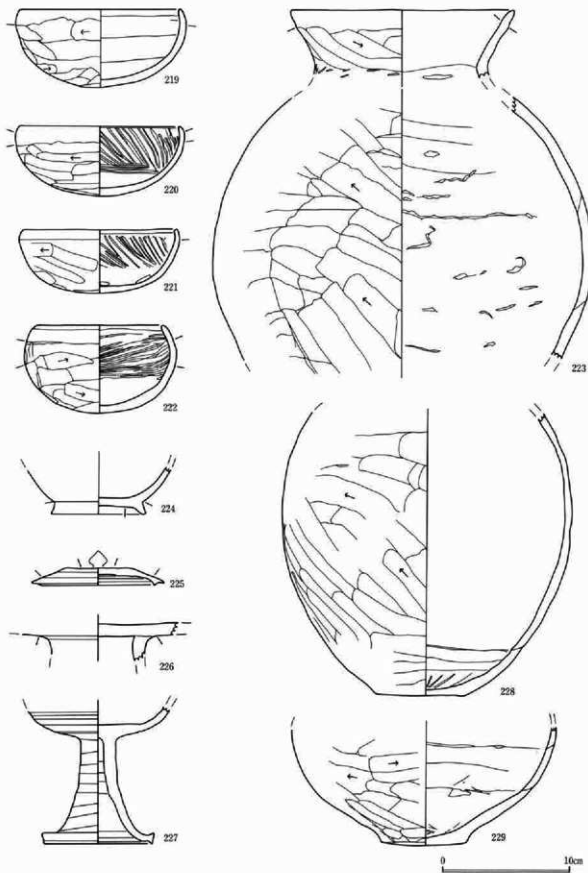
第197図 2区出土遺物



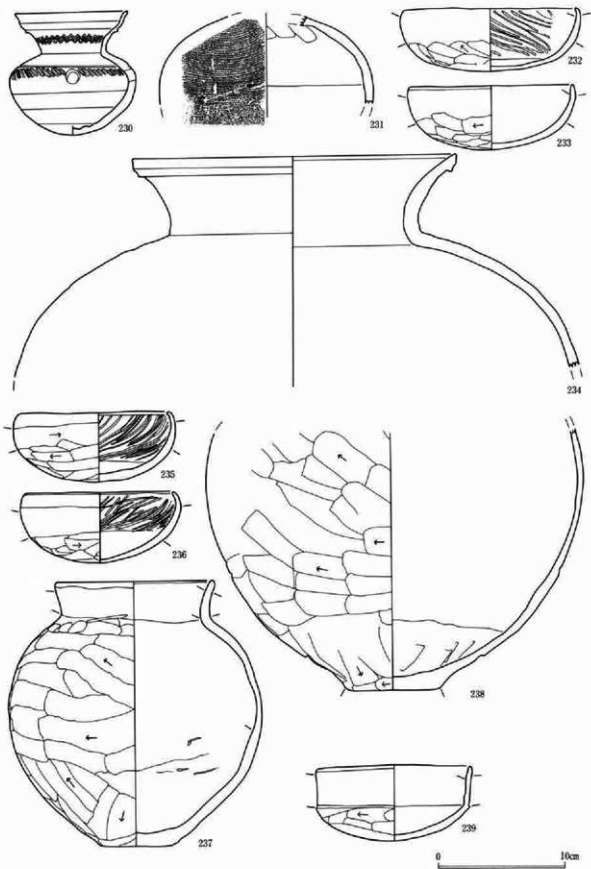
第198图 2区出土遺物



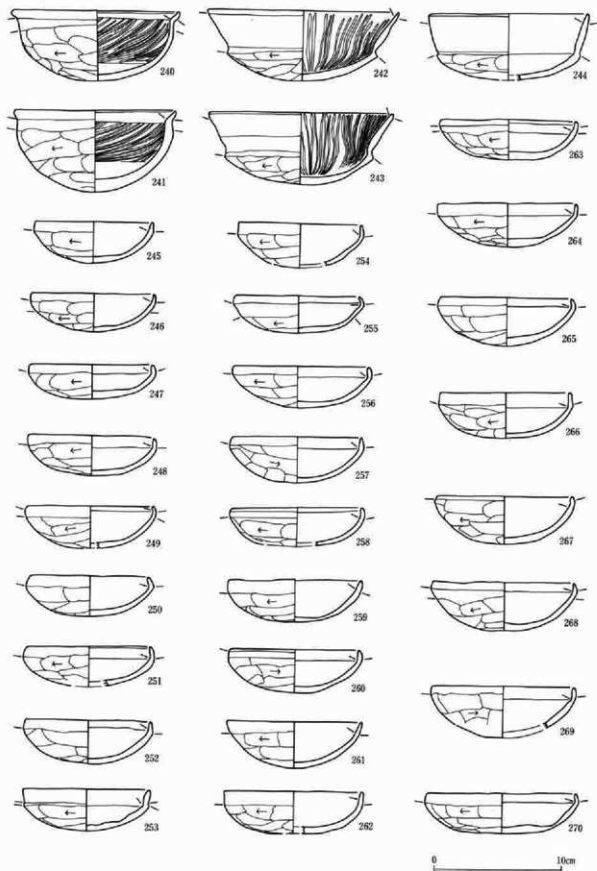
第199图 2区出土遺物



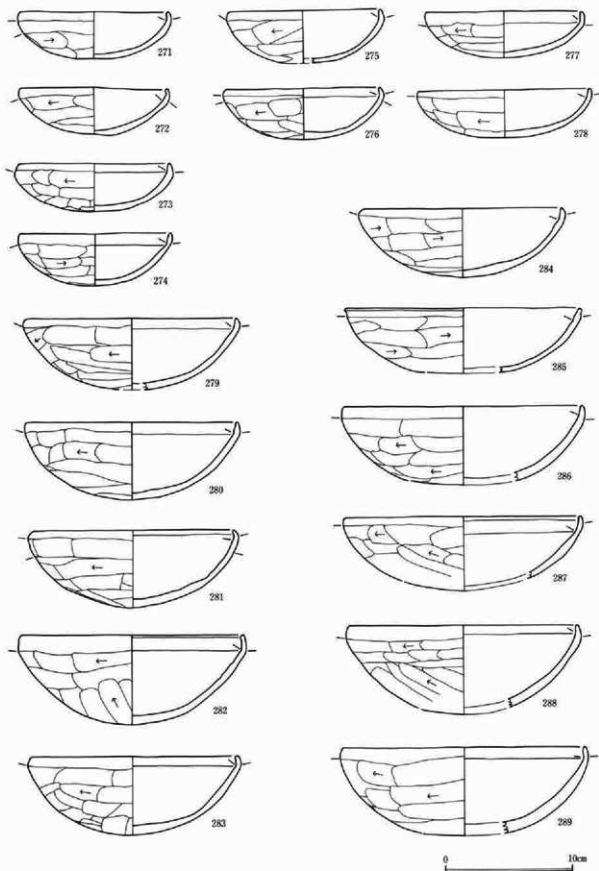
第200図 2区出土遺物



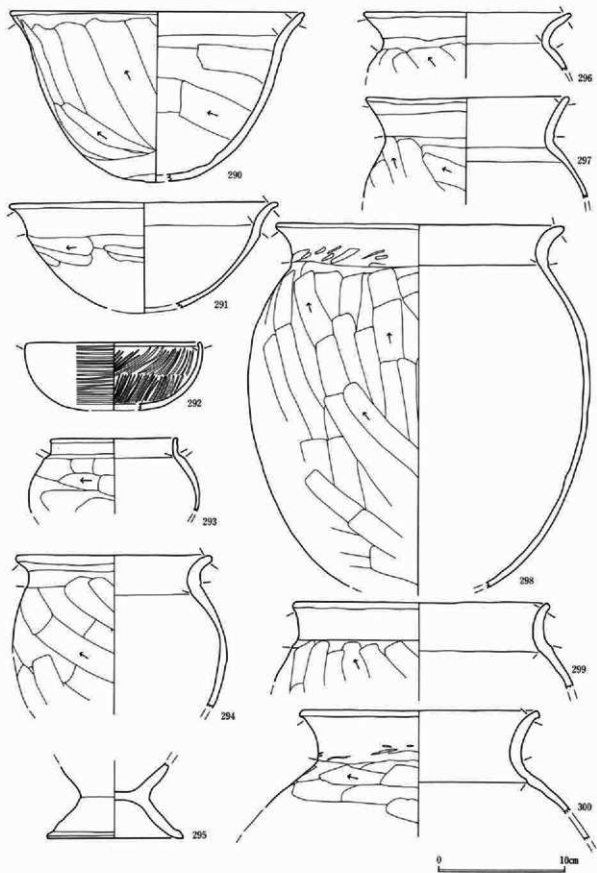
第201図 2区出土遺物



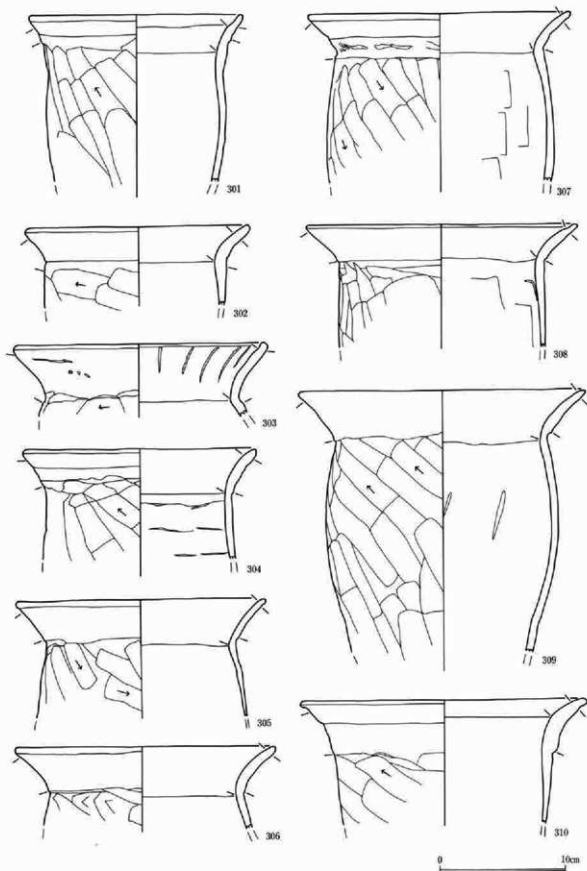
第202图 2区出土遺物



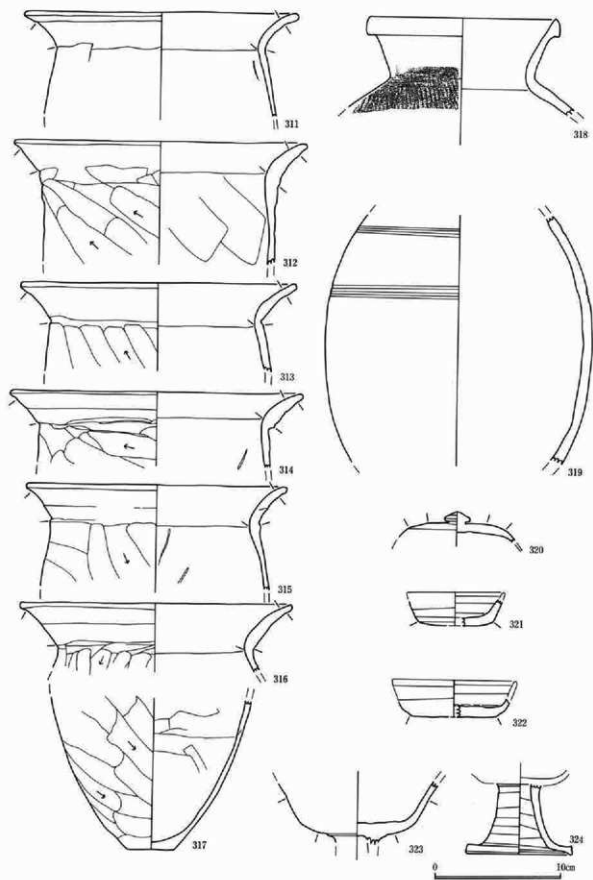
第203图 2区出土遺物



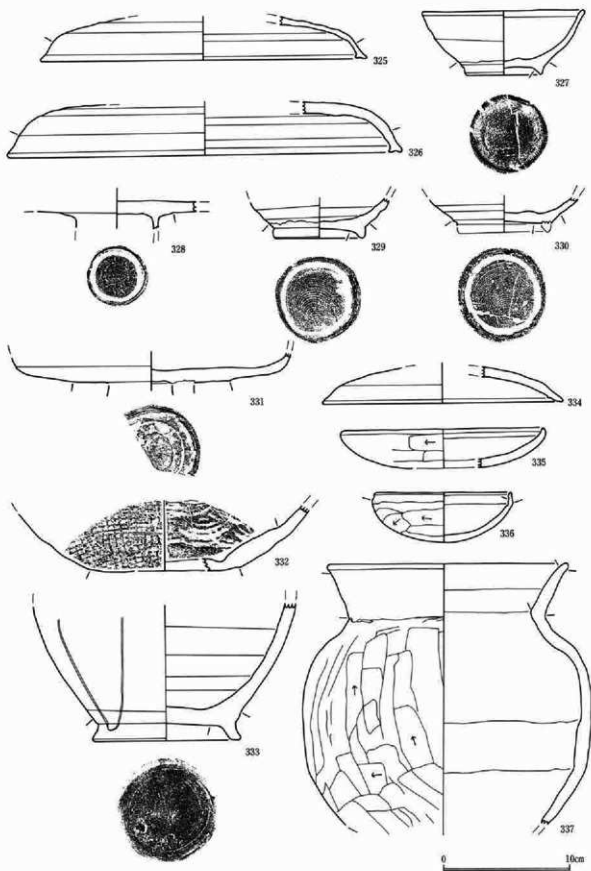
第204图 2区出土遺物



第205图 2区出土遗物



第206图 2区出土遗物



第207图 2区出土遗物

演習 品名	土質 分類	土質 記号	容積 割合	顔 色	土 質 類	口 径 内 径	試 験 要 領	備 考
136 194級 1号仕	土 部 塊	土 部 塊	(13.0) (3.3)	細砂 酸化(軟膏) 明黄褐色11% —	口脣部指ナゲ。内風。 右直ナズリ。		断面は半球型を呈する。 明るく軽い感じ。 小製品。	
137 194級 1号仕	土 部 塊	土 部 塊	(17.0) (5.7)	細砂 酸化(軟膏) 暗7.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。内風。 口脣下粘土組織を挟す。底ナズリ。		断面は半球型を呈する。 明るく軽い感じ。 大製品。	
138 194級 2号仕	土 部 塊	土 部 塊	(14.0) (4.1)	細砂 酸化(軟膏) 暗7.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。外風につまみあがっている。 口脣下粘土組織を挟す。底ナズリ。		断面は半球型を呈する。 球状の汚れ有り。 小製品。	
139 194級 2号仕	須 恵 部	須 恵 部	(15.9) (3.1)	細砂 還元(軟膏) 灰白10YR7/4 —	口脣部指ナゲ。 口脣下粘土組織を挟す。 口脣下粘土組織を挟す。		断面欠損。感きがある。	
140 194級 2号仕	須 恵 部	須 恵 部	26.0 47.8	細砂 還元(赤さ9.700g)(硬質) 暗7.5Y5/4 —	口脣部断面三角形を呈し口脣部欠損を避る口脣部外風。 口脣下粘土組織を挟す。自然風が掛かる。		断面欠損。 口脣部断面に重られているようだが、断面丸 形。	
141 194級 2号仕	土 部 塊	土 部 塊	(24.3) (7.1)	細砂(赤色粘土混) 酸化(軟膏) 暗5.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。口脣部欠損ナゲ。球状の汚れ有り。 底ナズリ。		口脣部の反りが強い。 別の強りは強い。 大製品。	
142 194級 2号仕	土 部 塊	土 部 塊	22.0 32.2	細砂(赤色粘土混) 酸化(軟膏) 暗7.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。口脣部欠損ナゲ。 底ナズリ。		口脣部の反りが強い。 別の強りが強い。 中製品。	
143 194級 3号仕	須 恵 部	須 恵 部	11.4 3.3	細砂。重たれている。 還元(硬質) 灰白5.5Y5/4 暗5.5Y5/4 —	口脣部ない。須恵部指ナゲ。 口脣部断面三角形。 口脣部欠損ナゲ。かまより丸型。		つまみ立球型。天井部が味を替わ。口脣部 外反する。小製品。	
144 194級 3号仕	土 部 塊	土 部 塊	(12.0) (3.0)	細砂 酸化(軟膏) 暗5.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。内風。 口脣下粘土組織を挟す。左直ナズリ。		断面は半球型を呈する。 明るく軽い感じ。 小製品。	
145 194級 4号仕	土 部 塊	土 部 塊	(12.4) (2.1)	細砂 酸化(軟膏) 暗5.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。先端は直立きみでおおわる。 底ナズリ。直風有り。		明るく軽い感じ。 小製品。	
146 194級 4号仕	土 部 塊	土 部 塊	(10.5) (3.0)	細砂 酸化(軟膏) 暗5.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。内風。		明るく軽い感じ。 小製品。	
147 194級 5号仕	須 恵 部	須 恵 部	(3.2)	細砂(赤色粘土混) 酸化(軟膏) 暗5.5YR5/4 —	口脣部指ナゲ。内風。 口脣部欠損ナゲ。断面一部直風有り。		高台付。高台部断面円形。 高台径(7.0)	
148 194級 5号仕	高 台 付 部	高 台 付 部	(3.0)	細砂(赤色粘土混) 還元(硬質) 灰白5.5Y5/4 —	口脣部指ナゲ。先端は直立きみでおおわる。 口脣部欠損ナゲ。断面一部直風有り。		高台付。高台部断面三角形。 高台径(6.0)	
149 194級 5号仕	須 恵 部	須 恵 部	(2.9)	細砂(赤色粘土混) 還元(軟膏) 暗5.5Y5/4 —	口脣部指ナゲ。内風。 口脣部欠損ナゲ。断面一部直風有り。		高台付。高台部断面内に波る。断面外直風 球有り。高台径(6.0)	

通標 記号	土器 器名	口 径	口 高	口 底 径	口 底 高	土 器 器 名	土 器 器 名	口 外 径	口 外 高	口 外 底 径	口 外 底 高	備 考
130	須葉器 環口	(13.1)	—	—	—	須砂	口唇部指ナゲ外反する。 ロケロ成形痕を残す。右回転水切り。底面直線。 ロケロ成形。底面直線有り。	—	—	—	—	須白。須部上げ風。 体形丸味を帯びている。 成径(5.2)
151	須葉器 草台付 5号住	(2.0)	—	—	—	須砂(須の色粘土粒) 灰白5.YY%	—	—	—	—	—	草台付。須部断面外に張る。 須白付?J
152	須葉器 5号住	(10.1)	—	—	—	須砂 還元(軟質) 灰白5.YY%	口唇部指ナゲ。 ロケロ成形痕を残す。 ロケロ成形直を残す。	—	—	—	—	底面へう調筋。底面直線。体部外縁ざみに 立ちあがる。成径(7.0)
153	土器 小環カメ 6号住	11.6	9.4	—	—	須砂 酸化(軟質) 成7.5YR5%	口唇部指ナゲ。内側。 須ケズリ。袋状の付れ有り。	—	—	—	—	口縁部は唇部に腫をもつて広く外側に口唇 部は丸まる。赤色粘土粒有り。
154	土器 須葉器 8号住	11.0	—	—	—	須砂。砂粒がめだつ。 酸化(軟質) 成5.YR5%	口唇部指ナゲ。内側。 口唇下部押入痕を残す。左側ケズリ袋状の付れ有り。 ナゲ。	—	—	—	—	須部は半球部を呈する。 大型品。
155	土器 須葉器 8号住	(18.0)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成3.YR5%	口唇部指ナゲ。口縁部指ナゲ。 須ケズリ。直取有り。 英ナゲ。	—	—	—	—	口縁部の反りが強い。 須の裏りは弱い。 小型品。
156	土器 須葉器 8号住	(18.2)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成7.5YR5%	口唇部指ナゲ。口縁部指ナゲ。 須ケズリ。直取有り。 英ナゲ。	—	—	—	—	口縁部の反りが強い。 須の裏りは弱い。 小型品。
157	土器 須葉器 9号住	(20.2)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成7.5YR5%	口唇部指ナゲ。口縁部指ナゲ。 須ケズリ。 英ナゲ。	—	—	—	—	須部は半球部を呈する。 薄く重い感じ。 小型品。
158	土器 須葉器 10号住	(12.0)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成5.YR5%	口唇部指ナゲ。直立。 須ケズリ。 ナゲ。	—	—	—	—	須部は大きく深さ強い。 明く軽い感じ。 大型品。
159	土器 須葉器 10号住	(19.2)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成5.YR5%	口唇部指ナゲ。須部は内側に丸まる。 成径の強い須ケズリ。 ナゲ。	—	—	—	—	口縁部の反りが強い。 須の裏りが強い。 小型品。
160	土器 須葉器 10号住	(22.0)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成5.YR5%	口唇部指ナゲ。須部は内側に丸まる。 須ケズリ。厚くケズリ差とされている。 英ナゲ。	—	—	—	—	口縁部の反りが強い。 須の裏りが強い。 小型品。
161	土器 須葉器 10号住	(22.6)	—	—	—	須砂 酸化(軟質) 成7.5YR5%	口唇部指ナゲ。口縁部指ナゲ。 須部を残し。直ナゲ。	—	—	—	—	口縁部の反りが強い。 須の裏りは弱い。 小型品。
162	土器 須葉器 10号住	(22.0)	—	—	—	須砂(須の色粘土粒) 酸化(軟質) 成7.5YR5%	口唇部指ナゲ。口縁部指ナゲ。 須ケズリ。直取有り。 英ナゲ。	—	—	—	—	口縁部の反りが強い。 須の裏りは弱い。 小型品。
163	須葉器 口縁部	(12.0)	—	—	—	須砂(須の色粘土粒) 還元(軟質) 成7.5YR5%	口唇部丸み。須部指ナゲ。 火周部指ナゲケズリ。全体に自然亀の掛ゆる。 ロケロ成形。かまより三角部にて突出する。	—	—	—	—	つまみ次皿。天井部丸味を持つ。口縁外縁 する。小型品。

遺物 品名	土師器 器種	口 径	口 高	口 径 比	土 成 調	土 色	口 外 口 縁	口 縁	口 縁 面	備 考
192 198回 1号溝	須恵器 高台付 坏形 底面一 体部	(9.1) (2.3)	磁砂 還元(磁質) 灰7.5YR/5	—	—	磁砂 還元(磁質) 灰7.5YR/5	—	口縁成形。右側縁未切り。 口縁成形。	—	高台付。高台部断面外に張り。 高台径(6.1)
193 198回 1号溝	須恵器 広口 鉢形破片 口縁部破片	(32.0) (9.5)	磁砂(褐色土質物多し) 還元(磁質) 灰6N6YR/6R(10Y/5)	—	—	磁砂 還元(磁質) 灰7.5YR/5	—	口縁部断面三角形。口縁部につまみ出す。口縁部外反。 磁砂が全体に張られているようだ。 粘土層による巻き上げ縁口縁成形か？	—	胴縁や丸く張る。 底面平直。無文。 底径15.2
194 198回 1号溝	須恵器 底面一 部部	(18.0)	磁砂 還元(磁質) 灰7.5YR/5	—	—	磁砂 還元(磁質) 灰7.5YR/5	—	胴縁跡有り。下半部ケズリ痕と印も目立つ。 器ナズ。底径約ナズ。	—	ゆるやかな肩縁から屈曲して胴下半に至る。 胴部欠損。底径(10.0)
195 198回 1号溝	須恵器 胴部一 部	(12.2) 20.3	磁砂 還元(磁質) 灰白5 YR/5	—	—	磁砂 還元(磁質) 灰10Y/5	—	胴下半部の下方は器ケズリ。一帯の比喩を巡らせ上下に階段状張る。 突い口縁口目を残す。	—	高台径(11.0)
196 198回 1号溝	須恵器 胴部一 部	(5.9)	磁砂 還元(磁質) 灰10Y/5	—	—	磁砂 還元(磁質) 灰10Y/5	—	胴縁は器ケズリ後高台は貼り付け。 ナズ。へら面が明確している。	—	高台部は欠損している。 底径約ナズ。 高台径(12.5)
197 198回 1号溝	須恵器 底面一 部	(7.6)	磁砂 還元(磁質) 灰灰10YR/5	—	—	磁砂 還元(磁質) 灰灰10YR/5	—	口縁成形。 ナズ。	—	高台径(11.0)
198 199回 1号溝	土師器 長 口縁一 部部	(24.4) (6.3)	磁砂 酸化(磁質) 黄3 YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄3 YR/5	—	口縁部ナズ。胴縁が横に丸まる。 器ケズリ。口縁部胴部に指屈圧痕を明確に残す。 器ナズ。	—	口縁部のほうが低い。 肩の張りも低い。 大型品。
199 199回 1号溝	土師器 胴部一 部	(20.6) (6.0)	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	口縁部端10cmで外側にかまぼこ状に凹み出す。 口唇下指伸入痕を残す。器ケズリ。肩面有り。 ナズ。	—	器形は半器部を呈する。 明るく軽い感じ。 大型品。
200 199回 1号溝	土師器 長 胴部一 部部	(4.1)	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	器ケズリ。 器ナズ。底面中央部深によるクマの集状凹痕が残る。	—	底径3.5
201 199回 1号溝	土師器 台付 胴部一 部部	(6.3)	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	器ケズリ。 器ナズ。胴部に厚さあり。 器ケズリ。	—	胴部に粘土層縁を残り器ナズ。胴部丸ま る。高台径(8.6)
202 199回 1号溝	土師器 壳 胴部一 部部	11.8 3.2	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	口唇部ナズ。外縁。 口唇下指伸入痕を残す。器ケズリ。 口唇下指伸入痕を残す。器ケズリ。 器ナズ。底面に指屈圧痕を残す。	—	器形は底面が平である。 厚く重い感じ。 小型品。
203 199回 1号溝	土師器 坏形 一 部	12.0 3.2	磁砂 酸化(磁質) 黄7.5YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄7.5YR/5	—	口唇部ナズ。外縁。 口唇下指伸入痕を残す。左段ケズリ。 器ナズ。底面に指屈圧痕を明確に残す。	—	器形は底面が平である。 全体に漆長の河ね有り。 暗く重い感じ。底径8.0
204 199回 1号溝	土師器 坏形 一 部	11.9 3.7	磁砂 酸化(磁質) 黄7.5YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄7.5YR/5	—	口唇部ナズ。外縁。 口唇下指伸入痕を残す。左段ケズリ。 器ナズ。底面に指屈圧痕を残す。	—	器形は底面が平である。 明るく軽い感じ。 底径9.0
205 199回 4号溝	土師器 埴輪 一 部	(18.0) (3.4)	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	—	磁砂 酸化(磁質) 黄5 YR/5	—	口唇部ナズ。 口唇部は器ナズ。体部は器ケズリ。縦状の穴有り。 ナズ。	—	埴い体部からゆるい腹をもって口縁部は外 溝する。明るく軽い感じ。 大型品。

通風設備 型式	土師器 種類	土師器 寸法	口高	質量	色	備考	土成割	口外 内	備考
206 199型 4号機	土師器 鉢	(23.9) (7.3)	—	—	細砂 酸化(軟質) 灰白5YR5/4	口唇部指ナズ。厚肉。左蓋ケズリ。口縁部は横ナズナズ。	口唇部指ナズ。厚肉。左蓋ケズリ。口縁部は横ナズナズ。	口唇部は外返し、舌端は外反する。	
207 190型 4号機	口縁部破片	(20.5) (3.6)	—	—	細砂 還元(硬質) 灰白2.5Y/4	口唇部鋭い。端部指ナズ。天辺部鋭く縮ケズリ。口口成形成を残す。かまりがあがる。	口唇部鋭い。端部指ナズ。天辺部鋭く縮ケズリ。口口成形成を残す。かまりがあがる。	中くほみの縮状つまみ。中製品。	
208 199型 4号機	須臾器 胴部~体部	(5.2)	—	—	細砂(藍色軟土) 還元(硬質) 灰白N-1	口唇部外反する。胴部口底広く舌も鋭い。口口成形成を残す。背肉は入り消し。	口唇部外反する。胴部口底広く舌も鋭い。口口成形成を残す。背肉は入り消し。	背肉取り替えり消し。胴部(10.2)。	
209 199型 4号機	須臾器 口~環ノ	(14.4) (4.7)	—	—	粗砂、並れている。 還元(硬質) 灰白2.5Y/4	口唇部指ナズ。内縁、舌部手持蓋ケズリ。口口成形成を残す。	口唇部指ナズ。内縁、舌部手持蓋ケズリ。口口成形成を残す。	底面丸。体部外縁に立ちあがる。底径(8.0)	
210 199型 4号機	土師器 塊	(14.1) (2.9)	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部指ナズ。直立。右蓋ケズリ。	口唇部指ナズ。直立。右蓋ケズリ。	縮砂は半球形を呈する。明らかに鋭い感じ。小型品。	
211 199型 4号機	土師器 塊	12.0 3.8	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部指ナズ。内縁、左蓋ケズリ。	口唇部指ナズ。内縁、左蓋ケズリ。	縮砂は半球形を呈する。明らかに鋭い感じ。小型品。	
212 199型 4号機	土師器 突	(13.0) (4.0)	—	—	細砂 酸化(軟質) 灰白5YR5/4	口唇部指ナズ。内縁で丸縁が丸まる。左蓋ケズリ。直縁切縁に有り。ナズ。中央に指印痕を残す。縮状の外に有り。	口唇部指ナズ。内縁で丸縁が丸まる。左蓋ケズリ。直縁切縁に有り。ナズ。中央に指印痕を残す。縮状の外に有り。	縮砂は半球形を呈する。暗く重い感じ。小型品。	
213 199型 4号機	須臾器 長割	(9.0)	—	—	還元(軟質) 灰白5Y/4	口口成形成で重縁長。口口成形成を残す。	口口成形成で重縁長。口口成形成を残す。	灰白(4.1)	
214 199型 4号機	土師器 塊	12.4 3.5	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部指ナズ。口唇下鋭縮ケズリ。口唇下鋭縮ケズリ。	口唇部指ナズ。口唇下鋭縮ケズリ。口唇下鋭縮ケズリ。	縮砂は半球形を呈する。明らかに鋭い感じ。小型品。	
215 199型 4号機	土師器 塊	11.1 2.8	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部指ナズ。内縁、右蓋ケズリ。	口唇部指ナズ。内縁、右蓋ケズリ。	縮砂は半球形を呈する。明らかに鋭い感じ。小型品。	
216 199型 6号機	須臾器 天井部破片	(13.2) (1.8)	—	—	細砂 還元(硬質) 灰N%	口唇部次損。自然陥凹があり。天辺部凹縮ケズリ。口口成形成を残す。	口唇部次損。自然陥凹があり。天辺部凹縮ケズリ。口口成形成を残す。	ボタン状つまみを残す。白色軟質物混入多し。中製品。	
217 199型 7号機	土師器 鉢	(19.2) (5.0)	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部は長く外反する。縮ナズ。口唇部は縮曲して唇部に至る。蓋ナズ。	口唇部は長く外反する。縮ナズ。口唇部は縮曲して唇部に至る。蓋ナズ。	縮砂は半球形を呈する。暗く重い感じ。	
218 199型 7号機	土師器 塊	(19.9) (5.2)	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部鋭(10cmで外面にのみまぼに彫割する。口唇下鋭縮ケズリ。丁草な蓋ナズ。	口唇部鋭(10cmで外面にのみまぼに彫割する。口唇下鋭縮ケズリ。丁草な蓋ナズ。	縮砂は半球形を呈する。明らかに鋭い感じ。大型品。	
219 200型 1号台機	土師器 塊	13.6 3.6	—	—	細砂 酸化(軟質) 暗5YR5/4	口唇部外縁、横ナズ。口唇部外縁、指印痕を残す。丁草なナズ。	口唇部外縁、横ナズ。口唇部外縁、指印痕を残す。丁草なナズ。	縮砂は半球形を呈する。明らかに鋭い感じ。小型品。	

漁獲 品名	土 師 器 類	土 師 器 類 の 存 在	口 徑 高 割	口 徑 各 種	胎 色	土 成 度	口 外 内	輪 面 面	備 考
248 202回 土師器 土師器	土 師 器 類 形	—	10.0 3.2	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。肩底有り。 ナズ。全体的に細かく滑って丸味になっている。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 M4—29		
249 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(10.5) (3.3)	細砂 酸化(軟質) 骨7.5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
250 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(10.3) 3.3	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
251 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(10.7) (3.1)	細砂 酸化(軟質) 骨2.5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
252 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	10.6 3.5	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
253 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	10.4 3.4	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾で胎面が細かくつまみあげ。 口ケズリ。肩底有り。 ナズ。胎面は傾を成す。	半球形の胎面から胎面縁をもつて胎折し短く互もあがる。小型品。 N4—20		
254 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(10.0) (3.5)	細砂 酸化(軟質) 骨7.5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾で胎面が細かくつまみあげ。 左肩ケズリ。胎面は傾有り。 ナズ。胎面は傾有り。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
255 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	10.7 2.9	細砂 酸化(軟質) 骨7.5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾より先端が内傾している。 口筒下唇伸え胎を成す。左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
256 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(11.4) (3.3)	細砂 酸化(軟質) 骨7.5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
257 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	10.9 4.1	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。胎面は傾。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—30		
258 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(11.0) (3.0)	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
259 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	11.0 3.6	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。外傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		
260 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	10.8 3.3	細砂 酸化(軟質) 骨5YR5/4	—	口筒唇ナズ。内傾。 左肩ケズリ。 ナズ。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 M4—29		
261 202回 土師器	土 師 器 類 形	—	(11.0) (3.6)	細砂 酸化(軟質) 骨7.5YR5/4	—	口筒唇ナズ。外傾。 左肩ケズリ。 ナズ。全体的に滑って丸味になっている。	胎面は半球形を呈する。 明るく軽い感じ。小型品。 N4—20		

透視図 透視図 透視図	土師器 土師器 土師器	口高 口高 口高	径 径 径	底 底 底	色 色 色	土成 土成 土成	口 口 口	外 外 外	内 内 内	備 備 備	考 考 考
262 202段 土器類9	土師器 丸形	11.3	—	—	細砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5/	口唇部指ナギ。直立。 左翼ケズリ。底面直線有り。	口唇部指ナギ。直立。 左翼ケズリ。底面直線有り。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
263 202段 土器類9	土師器 丸形	11.2	3.1	—	細砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5/磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
264 202段 土器類9	土師器 丸形	11.1	—	—	細砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5/	口唇部指ナギ。直立。 左翼ケズリ。口唇部の細くつまみあげられている。	口唇部指ナギ。直立。 左翼ケズリ。口唇部の細くつまみあげられている。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 M 4—30	
265 202段 土器類9	土師器 丸形	11.1	3.9	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 底面を切線に接す。	口唇部指ナギ。内傾。 底面が充れている。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
266 202段 土器類9	土師器 丸形	(10.9)	(3.5)	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
267 202段 土器類9	土師器 丸形	(10.8)	(3.8)	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
268 202段 土器類9	土師器 丸形	(11.7)	3.8	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 口唇下指唇直線を接す。左翼ケズリ。	口唇部指ナギ。内傾。 口唇下指唇直線を接す。左翼ケズリ。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
269 202段 土器類9	土師器 丸形	(11.6)	(4.0)	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。直立。 右翼ケズリ。直線有り。	口唇部指ナギ。直立。 右翼ケズリ。直線有り。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—30	
270 202段 土器類9	土師器 丸形	(12.2)	3.1	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 全体に線状の跡れあり。小型品。 N 4—20	
271 202段 土器類9	土師器 丸形	(12.3)	(3.7)	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 口唇下指唇直線を接す。翼ケズリ直線直れている。	口唇部指ナギ。内傾。 口唇下指唇直線を接す。翼ケズリ直線直れている。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 直線有り。M 4—20	
272 202段 土器類9	土師器 丸形	12.0	—	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾で直線直まらる。 左翼ケズリ。	口唇部指ナギ。内傾で直線直まらる。 左翼ケズリ。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
273 202段 土器類9	土師器 丸形	(12.9)	(3.8)	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。直線有り。	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。直線有り。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	
274 202段 土器類9	土師器 丸形	12.0	4.1	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。外傾。口唇一部直線有り。 左翼ケズリ。線状の跡れ有り。	口唇部指ナギ。外傾。口唇一部直線有り。 左翼ケズリ。線状の跡れ有り。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 M 4—20	
275 202段 土器類9	土師器 丸形	12.9	(4.2)	—	細砂 酸化(軟質) 磨5 YR5/	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。線状の跡れ有り。	口唇部指ナギ。内傾。 左翼ケズリ。線状の跡れ有り。	—	—	彫刻は半球形を呈する。 明く軽い感じ。小型品。 N 4—20	

通産 省 調査 機関	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	口 採 高 産 量	口 採 高 産 量	口 採 高 産 量	土 師 成 産	土 師 成 産	口 採 高 産 量	口 採 高 産 量	備 考
276 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(13.1) (4.2)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 口師下粘土細塊を挟す。左置ケズリ。 ナガ。	口師部指ナガ。内腐。 口師下粘土細塊を挟す。左置ケズリ。 ナガ。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。大量品。 N 4-20
277 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(12.8) 3.7	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。小量品。 M 4-29
278 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(14.0) (3.8)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。小量品。 N 4-20
279 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(17.6) —	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	細砂は半球部を呈する。 暗く重い感じ。大量品。 N 4-20
280 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(17.5) 6.0	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 高く置ケズリをされている。 ナガ。底部中央部細粒を挟す。	口師部指ナガ。内腐。 高く置ケズリをされている。 ナガ。底部中央部細粒を挟す。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。大量品。 N 4-20
281 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(16.8) 5.3	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐で細部内腐する。 口師下指押入痕を挟す。左置ケズリ。 ナガ。指頭細塊を挟す。	口師部指ナガ。内腐で細部内腐する。 口師下指押入痕を挟す。左置ケズリ。 ナガ。指頭細塊を挟す。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。大量品。 N 4-20
282 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(19.2) (7.0)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。直立より内腐。 口師下粘土細塊を挟す。置ケズリ。黒脈有り。 ナガ。指頭細塊を挟す。	口師部指ナガ。直立より内腐。 口師下粘土細塊を挟す。置ケズリ。黒脈有り。 ナガ。指頭細塊を挟す。	細砂は半球部を呈する。 暗く重い感じ。大量品。 N 4-20
283 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	17.4 6.1	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐で細部内腐する。 置ケズリ。黒状の汚れ有り。 丁寧なナガ。	口師部指ナガ。内腐で細部内腐する。 置ケズリ。黒状の汚れ有り。 丁寧なナガ。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。大量品。 N 4-20
284 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(16.7) (5.4)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 置ケズリ。黒脈有り。	口師部指ナガ。内腐。 置ケズリ。黒脈有り。	細砂は半球部を呈する。 暗く重い感じ。大量品。 M 4-29
285 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(18.8) (5.1)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。直立より内腐。 置ケズリ。黒状の汚れ有り。 ナガ。	口師部指ナガ。直立より内腐。 置ケズリ。黒状の汚れ有り。 ナガ。	細砂は半球部を呈する。 大量品。 N 4-20
286 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(19.4) (6.2)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 丁寧なナガ。	口師部指ナガ。内腐。 丁寧なナガ。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。大量品。 N 4-20
287 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(19.3) (5.2)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	細砂は半球部を呈する。 暗く重い感じ。大量品。 N 4-20
288 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(19.1) (7.0)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	口師部指ナガ。内腐。 左置ケズリ。	細砂は半球部を呈する。 明るく軽い感じ。大量品。 N 4-20
289 2036 土師調り	土 師 調 査 機 関	土 師 調 査 機 関	(20.1) (6.7)	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	細砂 酸化(軟質) 堆5 YR5/4	口師部指ナガ。直立より内腐。 左置ケズリ。黒脈している。 ナガ。	口師部指ナガ。直立より内腐。 左置ケズリ。黒脈している。 ナガ。	細砂は半球部を呈する。 大量品。 N 4-20

調査年度 調査地	土器名	土器の 器種	口蓋 蓋形	口蓋 直径	口蓋 高さ	新 発見 色	土 質	口 外 内	特 徴	備 考
290 204区 土器類	土師器 鉢	土師器	口蓋部指ナズ。 口外下指ナズ。蓋を覆す。蓋ケズリ。	(23.4) (13.4)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨5.YR5%	—	口蓋部指ナズ。 口外下指ナズ。蓋を覆す。蓋ケズリ。	腹い丸底の体遣から口蓋部はゆるやかな ちあがり外反する。 M4—20	
291 204区 土器類	土師器 魂	土師器	口蓋部指ナズ。 蓋ケズリ。黒斑有り。	(21.5) (8.2)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨5.YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて外反したちあが り外部は丸まる。大型。 M4—38	腹形は半球形を呈する。 明らかに半球形を呈する。 明るく軽い感じ。中型品。 N4—20	
292 204区 土器類	土師器 魂	土師器	粗砂、結晶化されている。 口蓋部指ナズ。蓋を覆す。蓋ケズリ。	(14.5) (4.8)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨5.YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
293 204区 土器類	土師器 魂	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨2.5YR5%	(10.2) (5.8)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨2.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
294 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨2.5YR5%	11.9	—	粗砂 酸化(軟質) 磨2.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
295 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(5.9)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
296 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(16.6) (4.5)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
297 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(16.3) (7.8)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
298 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(22.8) (28.8)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
299 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(27.1) (7.8)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
300 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(19.5) (10.0)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
301 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(17.7) (17.3)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
302 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	(18.0) (6.2)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨7.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	
303 204区 土器類	土師器 丸	土師器	粗砂 酸化(軟質) 磨2.5YR5%	(20.2) (6.9)	—	粗砂 酸化(軟質) 磨2.5YR5%	—	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	口蓋部は肩部に横をもつて弱く立ちあが る。 明るく軽い感じ。N4—20	

遺物 品名	土器 器種	口 径	口 縁	底 色	土 質	口 内	備 考
204 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(19.0) (8.8)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。赤線を巡る。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
205 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(20.2) (9.2)	細砂 酸化(赤土粘) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。環状の跡有り。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
206 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.0) (6.3)	細砂 酸化(軟質) 橙2.5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
207 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.1) (13.8)	細砂 酸化(軟質) 橙2.5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
208 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.7) (9.8)	細砂 酸化(軟質) 橙7.5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
209 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(22.8) (26.7)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。大型品。 N4-20
210 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.0) (9.8)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
211 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.9) (8.1)	細砂 酸化(軟質) 明黄07.5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
212 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(23.0) (9.6)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。大型品。 N4-20
213 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(22.3) (7.0)	細砂 酸化(軟質) 橙7.5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
214 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.6) (5.8)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
215 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.0) (8.1)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
216 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(21.9) (5.1)	細砂 酸化(軟質) 橙5 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20
217 土器腹口 土器腹口	土器 腹口	(11.9) (16.0)	細砂 酸化(軟質) 橙10 YR5/4	—	土質 赤土質	口縁部横ナズ。口縁部横ナズ。 底ナズ。底面が窪んでいる。 底ナズ。	口縁部の反りが強い。 肩の張りがある。小型品。 N4-20

埴輪

出土の埴輪は、円筒埴輪と形象埴輪に分けられる。

円筒埴輪は更に、朝顔形埴輪と普通円筒埴輪に分けられる。形象埴輪は、動物埴輪と人物埴輪に分けられる。朝顔形埴輪は、338～340の3点である。全体を伺い知る資料はない。推定すると器高は約55cm、四隅のやや張る円形の透孔の上下に各1条の突帯を巡らせる。底径は約14cm、肩部の径は16cmほどの細長い円筒部で、頸部はややくびれる程度の径12cmをはかり、花の部分は欠損して形状、技法は不明である。突帯の断面形状は三角形に近く、低い。透孔は肩部に近い方に穿孔され、上下5cm、左右6cmを測る。ハケメは1次線ハケメを残すのみで、体部から肩部、開く口縁部分の順に積み上げ、最後に突帯が貼られる。

341～347は普通円筒埴輪である。完形に復し得るのは342で、底径16cm、口径24cm、高さは45cmを測る。突帯は2条巡り、底面より下段突帯までの高さは20cm、底面より上段突帯までの高さは30cmを測る。透孔は、縦方向に長いもので上下9cm、左右8cmを測るもの(342)と、横方向に長く上下6cm、左右7cmを測るもの(347)に分けられ、いずれもやや四隅が張るようにみえる。成形は、基部に帯状の輪台を作り、粘土紐の巻き上げて一気に口縁部に至る。内面は縦方向の指ナデ、口縁部内面は斜ハケを施し、仕上げている。外面は縦方向のハケメ仕上げで、口縁部分は横ナデで仕上げている。突帯は、朝顔形埴輪より突出度は高く、断面は高さの低い台形を呈する。突帯貼り付け後に透孔を穿って抜く。

動物埴輪は馬2頭である。馬1(348)は、ほぼ完形に復し得るものである。馬2(349～355)は部分品のみで、同一個体の破損品と考えられ、馬1の完形復元図に組み込む図(挿図第211図)として表現した。

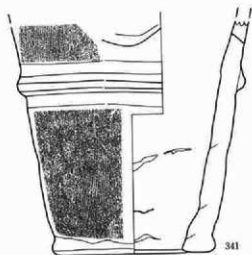
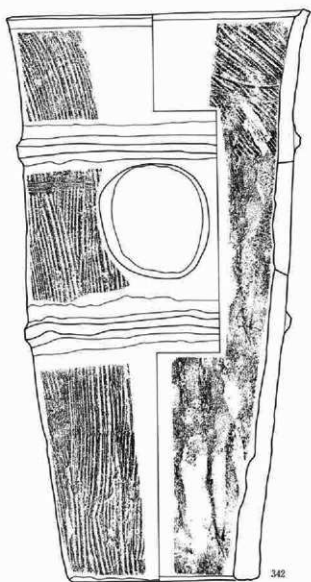
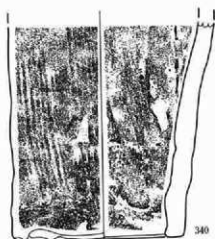
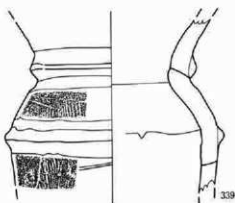
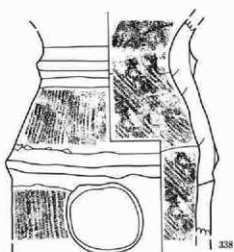
馬1の最大高は、脚よりたてがみの上端までが59cmを測る。最大長は、鼻先より尻っぽ先端まで66.5cmを測る。脚部より鞍の最高部までの体高は45.5cmを測る。最大幅は前足左右の底部の部分で24cmを測る。馬は雄馬でその特徴を股間に表現する。

馬装は完全で、制御のための頭絡部分と騎乗のための鞍部分から成る。頭絡は轡部分と手綱部分から成る。轡に取り付く鏡板は「F」字形を呈す。手綱は轡から引き出され、鞍の前輪の上部分で終わる。頭絡の革帯は頸を巡る。胸繫、の革帯は鬚歯文を刻み、鈴で飾る。胸懸に取り付く前輪は直立した平坦な板の表現である。後輪はやや大きめで、同じく平坦な板の表現である。鞍橋の上に鞍敷が乗る。垂下する輪あぶみの鏡革を覆うような舌状の形状で、革を刺突文で表現している。尻繫は後輪の板から出て、尻の頂部は丸い辻金具で固定する。辻金具から左右に鈴を付けた革帯を垂下させる。たてがみは刈り揃え、頭頂部は結んで縛る。尻尾の毛は刈り揃えてあるのか、上を向いて短く表現している。

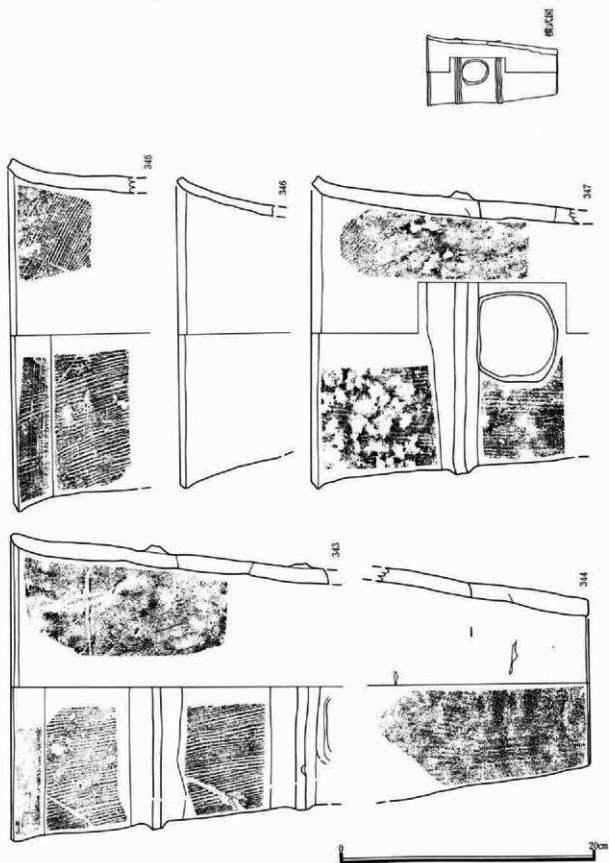
馬2を組み立てる部分品は、丸く収める鼻先(349)、後輪から出た革帯と鞍橋を固定する尻繫の丸い辻金具(350)、鞍敷の革の刺突を表現するもの(351)、短く跳ね上がる短い尻(352)、たてがみと、頭絡の革帯の痕跡を残す前輪(353)、胸繫または尻繫を飾る鈴(354)、4本脚の1本で蹄を表現するもの(355)などである。

人物埴輪は3体分出土している。人物1(356～358)は女子の人物埴輪である。板状の髷はばち状に両方に広く形をして、頭頂部で結ぶ(356)、357は顔面の破片で鼻を欠き、△も完存しない(357)。左手にさきげの環は椀形を呈し、5本の指をひろげて、しっかりとつかむ(358)。

女子2(359・360)は、手を膝に置く姿勢をとる。顔の部品は鼻の穴を穿つのみで、鼻は欠落していない。手は肩先から外れて指先の表現はない。3体目は女子3(361・362)としたものの、性別は不詳としておく。顔の右目付近(361)と、腰に手をまわす右手(362)である。



0 10cm



第209図 埴輪 2

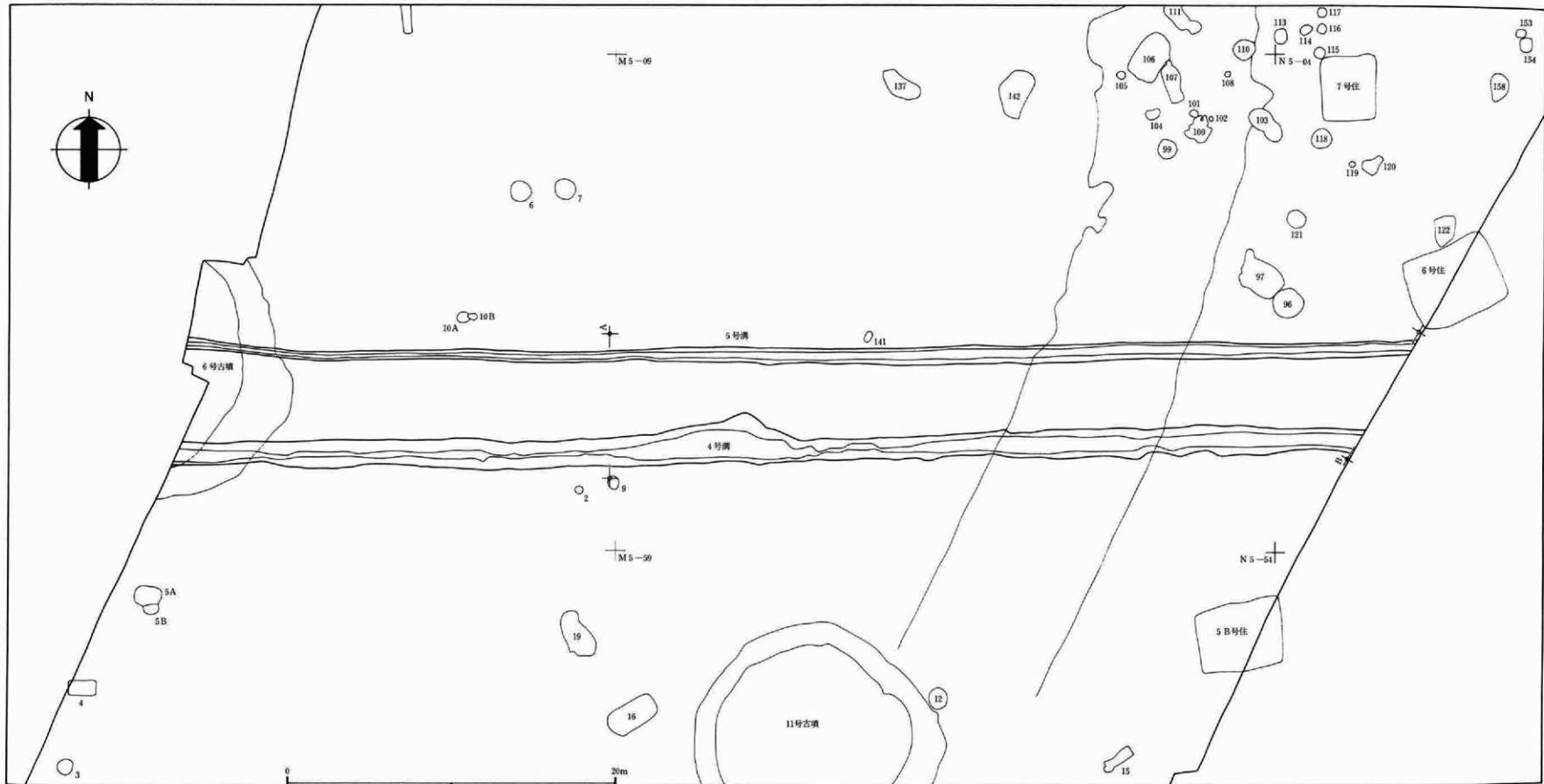
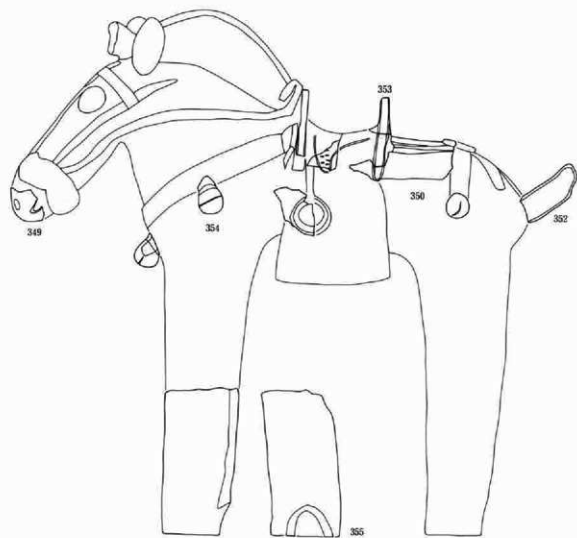
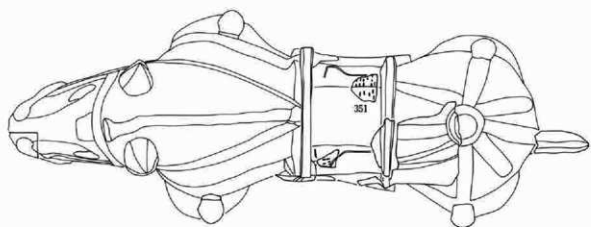
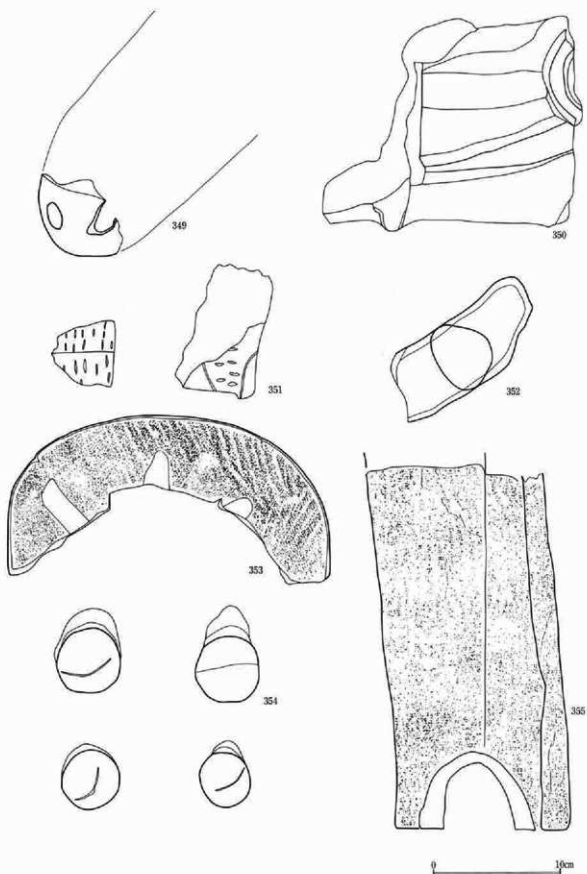


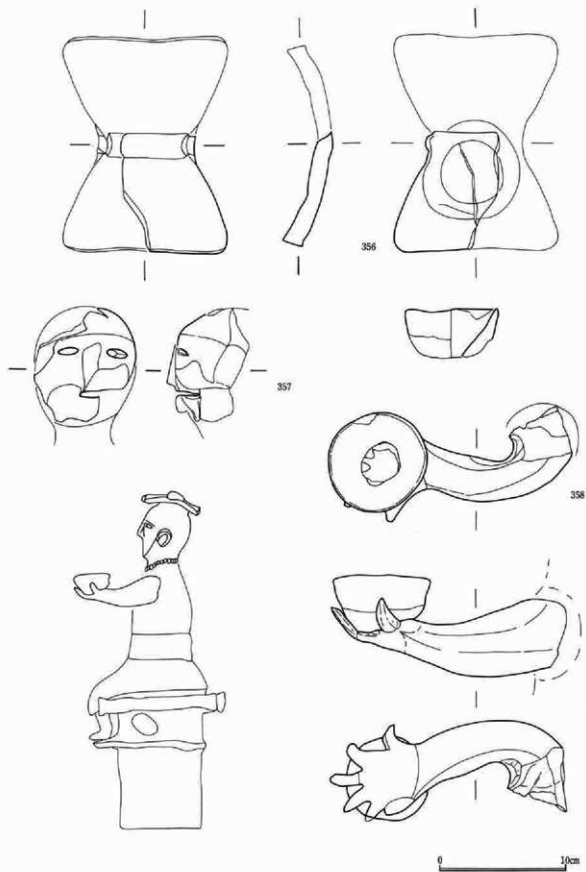
圖210圖 馬壇嶺 1号馬 1



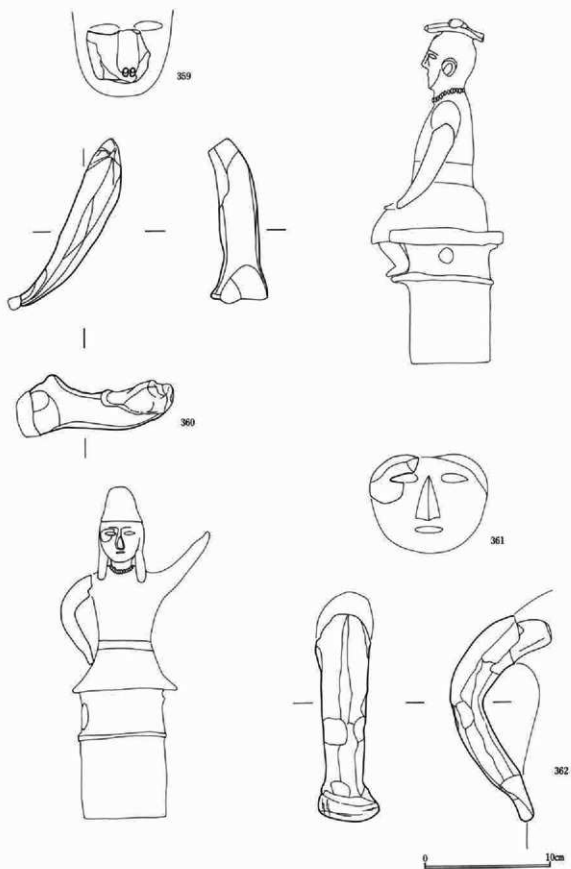
第211図 馬埴輪2号馬1



第212図 馬埴輪2号馬2



第213图 人物埴輪 1



第214図 人物埴輪 2

通称 図説 器具	土師器 器種	口高 寸	径 き 値	新色 土質	土 成 調	口 外 内	縁	部 面 図	備 考
352 21260 PL.76	ハニ 底	ワ 尾		細砂(赤色粘土) 良好 例)7.5YR/4 (断面)地区10YR/4		— 磨毛目皿。 磨毛目皿。			断面長方形。6号墳。 磨毛目皿。
353 21260 PL.76	ハニ 盤	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 例)7.5Y/4		— 磨毛目皿。 磨毛目皿。			前縁とたてがみ表裏あり。6号墳。 磨毛目皿。
354 21260 PL.76	ハニ 鉢	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 例)7.5Y/4		— 丸くつくる。 中央。			切り口の表裏あり。6号墳。 中央。
355 21260 PL.76	ハニ 右前足	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 例)にぶい、黄褐色(断面)地区10YR/4		— 縦割毛目。一部平滑。 縦方向指子。接合面あり。 頂部で繋ぐ。			6号墳。 びずの表裏あり。 6号墳。
356 21360 PL.74	ハニ 子 皿	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 にぶい、黄5YR/4					6号墳。
357 21360 PL.74	ハニ 女 子 皿	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 例)にぶい、黄5YR/4 (断面)地区10YR/4					6号墳。
358 21360 PL.74	ハニ 左 手	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 例)にぶい、黄5YR/4 (断面)地区10YR/4		— 縁を持つるささげる。			指一部欠損。6号墳。 6号墳。
359 21460 PL.74	ハニ 皿	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 にぶい、黄5YR/4					6号墳。
360 21460 PL.74	ハニ 左 手 形	ワ		細砂 良好 にぶい、黄5YR/4		— 正面に添える手と考えられる。			指一部欠損。6号墳。 指一部欠損。6号墳。
361 21460 PL.74	ハニ 皿	ワ		細砂 良好 にぶい、黄5YR/4		— 女子と考えられる。			6号墳。 6号墳。
362 21600 PL.74	ハニ 右 手	ワ		細砂(赤色粘土) 良好 にぶい、黄5YR/4		— 裏に添えるしぐき。			指一部欠損。6号墳。 指一部欠損。6号墳。

3 まとめ

発掘区は、台地が崖面にかかる12,673m²である。南北に190m、東西に65mの長方形の発掘区は、台地上で南の高い面では81mで北へ傾斜し、崖の縁辺では78mを測る。崖面上と水田面との比高差は、3mを測る。この発掘区の北側に、1号河道が南から北へ台地を下っている。きわめて短時間に、1本の河道の中を西側から東側に、河道が数条流れていることがわかる。2号河道は、発掘区東側で検出され、限られた調査範囲の感覚では、用水堀のようでもある。この2本とも浅間B軽石を埋土にはさむことから、限られた時期に、西の1号河道から東の2号河道へ移動したと判断した。なぜ、この流路の元、南側の発掘区からその痕跡をたどることができないのか疑問が残った。中世段階でこの発掘区の北半分は、表面は河川氾濫によって相当な削平、または改変がおきて、その結果が遺跡の減少をもたらしていると考えた。

縄文時代の住居址は、1軒のみ検出された。表土はほとんど残っていないため、浅い埋土から長方形の輪郭を確認できた。8世紀の住居址は9軒確認された。これらの住居址は集中することなく、5ヶ所に分かれて分布する。平面形は方形、縦長、横長と多様である。竈は長辺、短辺を問わず、北東壁に付設されている。10世紀の住居址は1軒のみの検出で、それも発掘区域に阻まれ完掘できなかった。縦長長方形の平面形で、長軸中央に1列の柱穴が走ることに特徴がある。

掘立柱建物址は、発掘区の南側で検出された。柱穴も小さく小規模な建物である。2号竪穴住居址、3号竪穴住居址に近接して立地することから、南側の未調査区に集落の広がりがみられると考えた。

土壌は279基と大量に検出されている。分布は大きく3ヶ所に集中する。掘立柱建物址周辺に集中するA群、古墳群周辺に集中するB群、河道周辺に集中するC群である。C群は先述の如く、河道氾濫堆積物に被覆されたものや、堆積物上に穿たれたものなど多様であったが、砂質土層中のため検出は困難をきわめている。縄文時代の土壌は22基検出された。6号古墳の南側に1基と、縄文時代の住居址である7号住居址周辺に、その他の全ての土壌が集中している。

土器溜りは発掘区の北西端、竈の一部分を調査した5A号住居址の東側から検出された。崖縁から法面にかけて楕円形の平面形を呈する。崖沿いの長さ約14m、傾面方向7mの範囲で、浅い窪みである。土壌中には、さらに3ヶ所の土壌が穿たれている。この包含層中から大量の土器が出土した。出土の土器は、土師器と須恵器で紡錘車も混在していた。土器溜りの時期は8世紀と考えられる。

古墳時代の土壌墓を6基検出できた。周溝を伴う古墳の下位のクラスに属すると考えられている。墓制の調査は貴重である。これらの一群は35m×45mの範囲に、周溝を持つ円墳群の間をぬうように配置されている。これら土壌墓とした一群の特徴を列記すると、古墳群の分布域に検出されていること、人間一体分が伸展して埋葬される空間を持つこと、埋納、または供献用の完形土器が出土することである。15号土壌のみが竪穴式石塚墓、13、14、16、17、18号土壌は竪穴式で素掘りの土壌である。主軸方向の似ているものは、14、15、16号土壌が同じ傾向、13、17号土壌が同じ傾向、18号土壌のみが単独で異なる方向を示す。

細長い発掘区の中の東西85m、南北95mの範囲に周溝を持つ11基の円墳が検出された。埴輪を樹立する6号古墳は、北西寄りに1基だけ離れて検出されている。その他は、一部の古墳で土師器と須恵器を伴出する残りの10基の古墳である。最大規模の古墳は5号古墳で径約16m、次に埴輪を樹立する6号古墳で径約13mを測る。その他の古墳は径5m～10mの規模である。

溝は7条検出されている。7号溝は北へ離れて1条のみ第2河道に平行し、南北へ走る。1号溝と2号溝、3号溝と6号溝、4号溝と5号溝がそれぞれ平行、直角に走り、大区画の計画性がうかがえる。

発掘報告書抄録

フリガナ	カミクリステラマエイセキグン
書名	上栗須寺前遺跡群II
副書名	関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第30集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第185集
編著者名	石塚久則
編集機関	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦 1995年3月25日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
カミクリ 上栗須 寺前	フジノシホリノ 藤岡市大字 カミクリノ 上栗須字 カミクリ 寺前	102091	10005- 00278	361545	1390420	19880501- 19890731 19881024- 19901225	19,288	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上栗須寺前	集落 墓	縄文時代後期 古墳時代後期	5 11	縄文土器 埴輪	縄文時代後期の大量土器の包含層 古墳時代後期の墳墓群

写 真 图 版



1区全景



1区全景



1区全景



1区全景



1区全景



1区全景



1区全景



1区全景



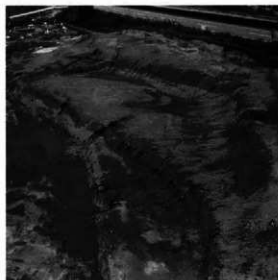
1区全景



1区全景



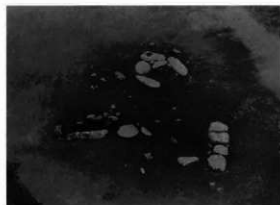
1区全景



1区全景



1区3号住居 (縄文住居)



1区4号住居 (縄文住居)



1区4号住居 (縄文住居)



1区4号住居 (縄文住居)



1区4号住居 (縄文住居)



1区6号住居（縄文住居）



1区6号住居（縄文住居）



1区6号住居（縄文住居）



1区23号住居（縄文住居）



1区23号住居（縄文住居）



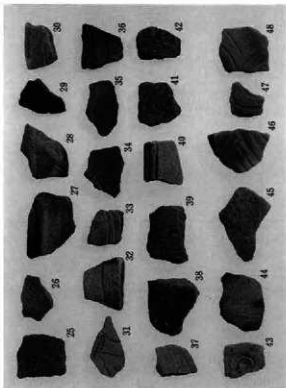
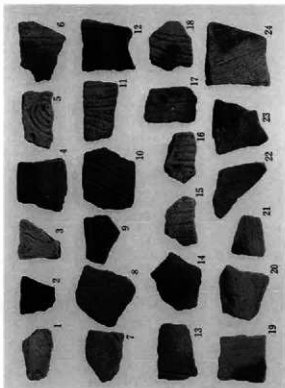
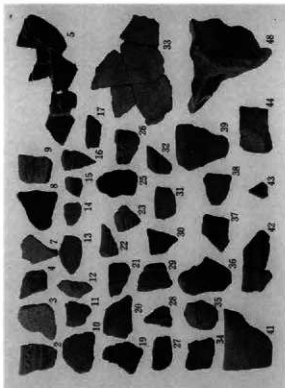
1区23号住居（縄文住居）

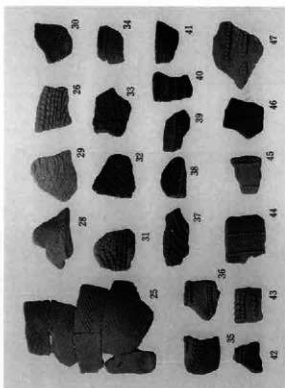
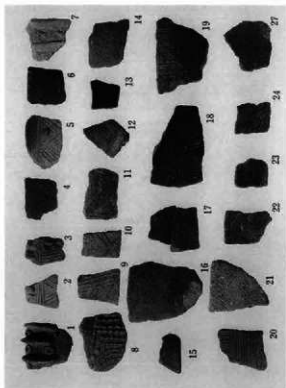
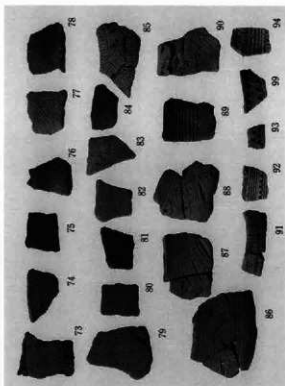
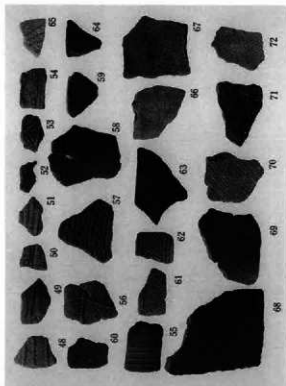


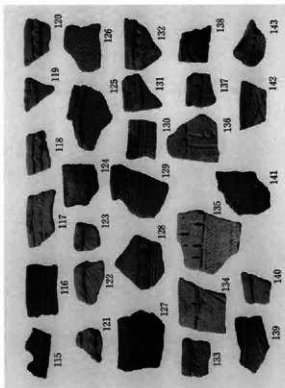
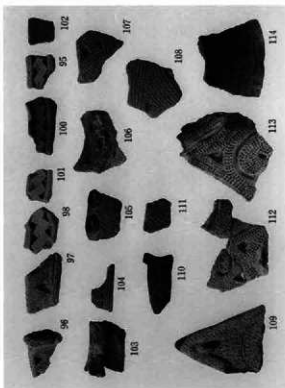
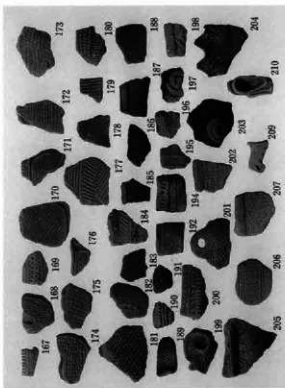
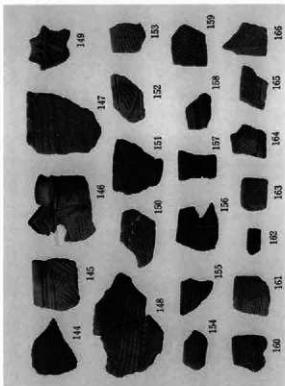
1区23号住居（縄文住居）

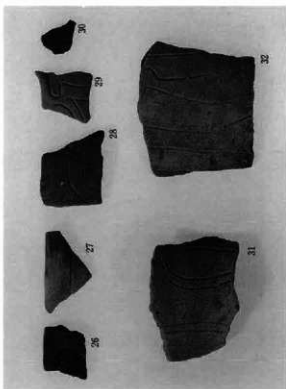
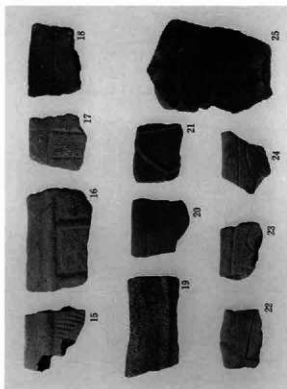
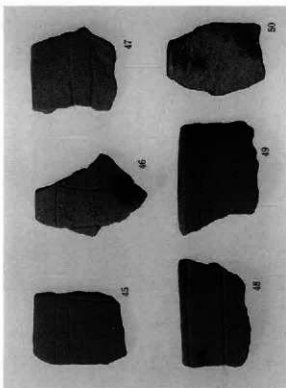
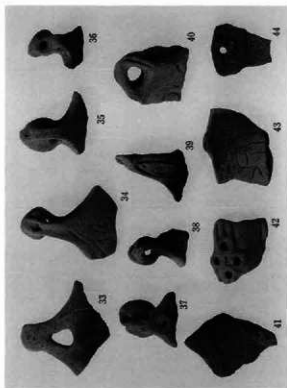


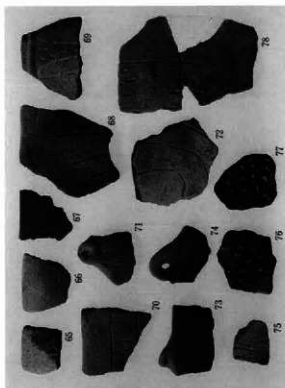
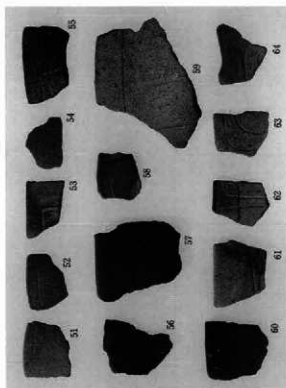
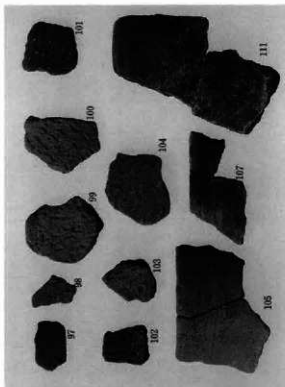
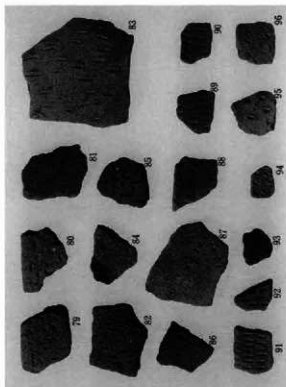
1区23号住居（縄文住居）

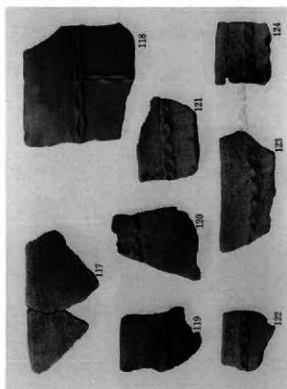
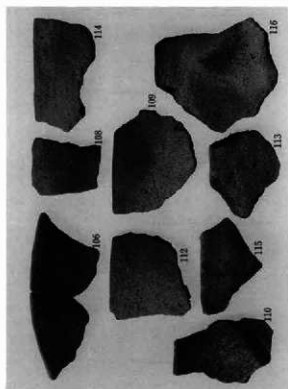
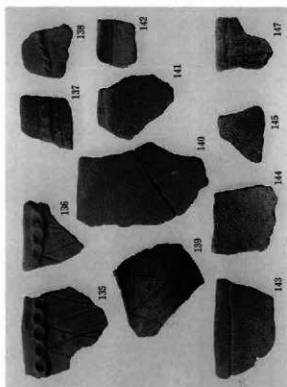
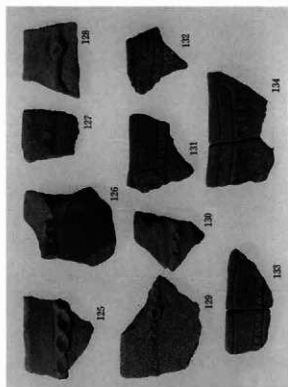


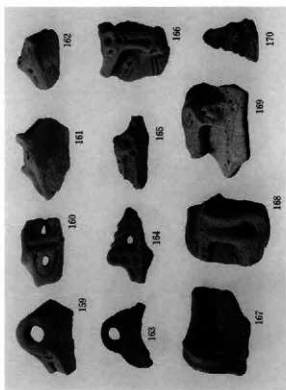
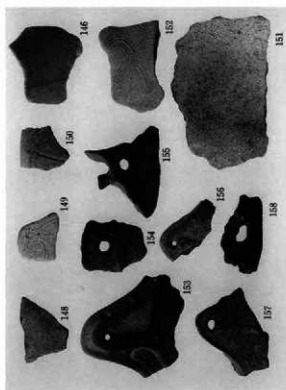
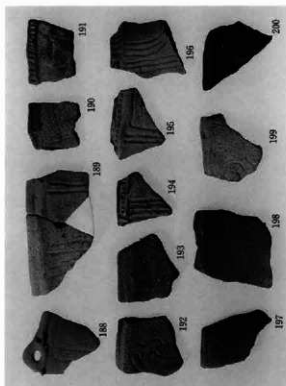
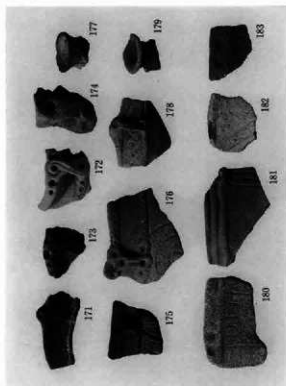


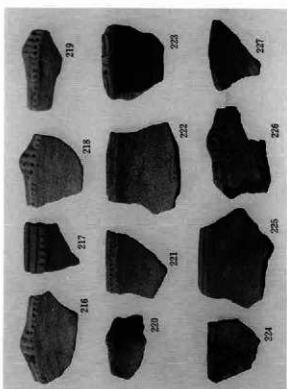
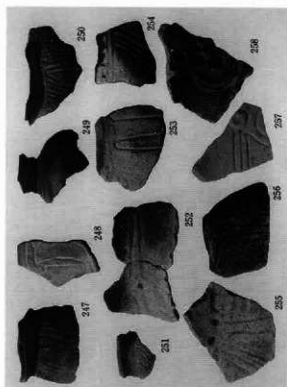
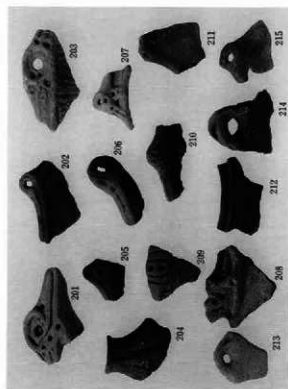
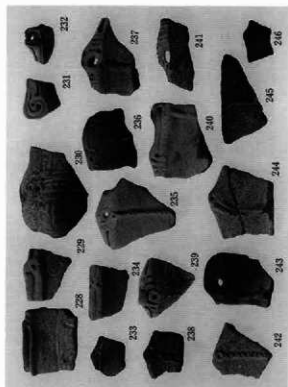


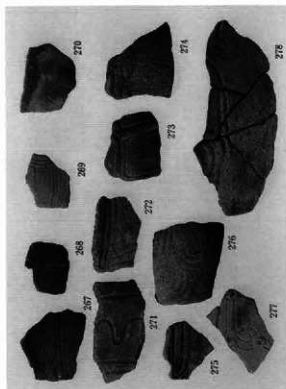
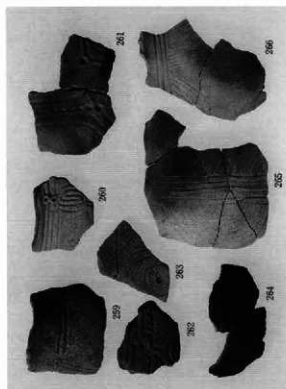
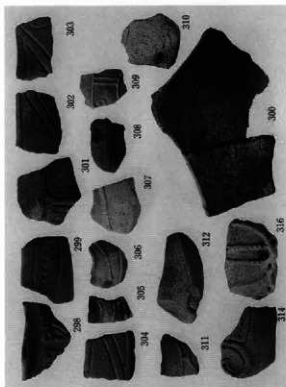
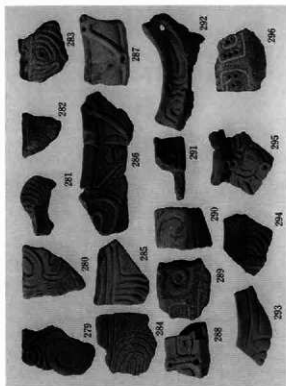


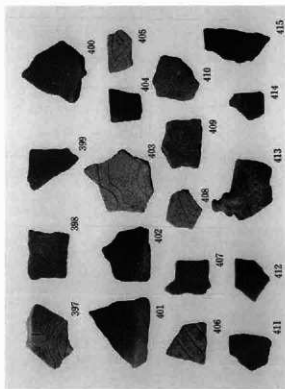
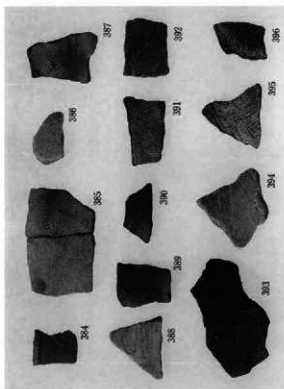
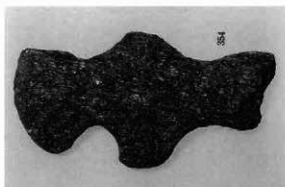
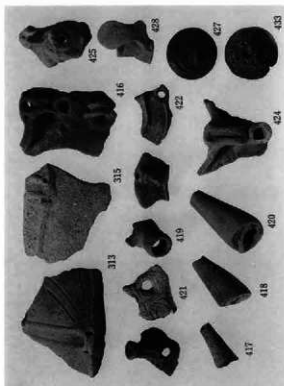


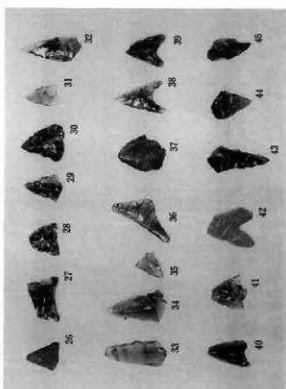
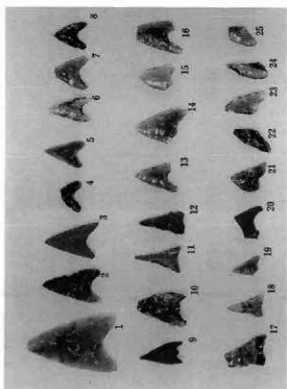
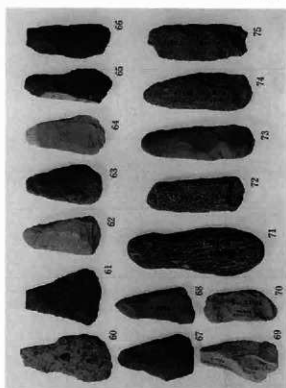
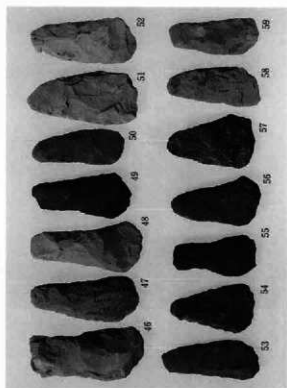


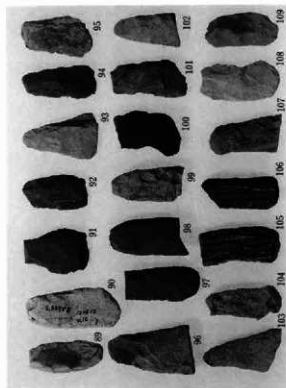
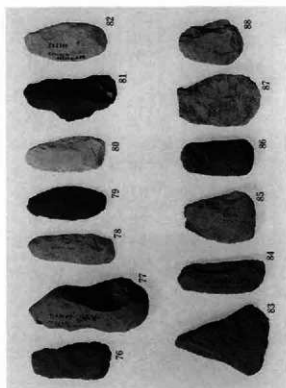
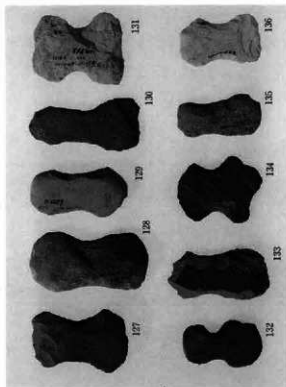
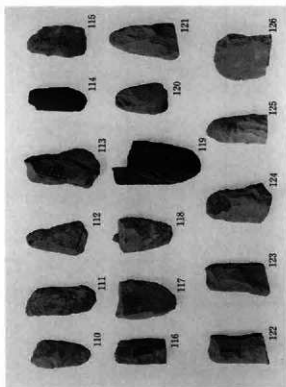


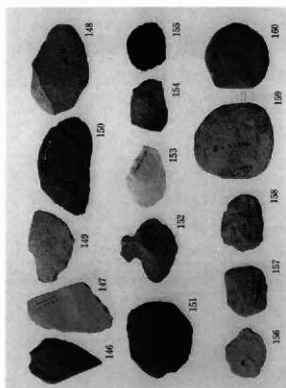
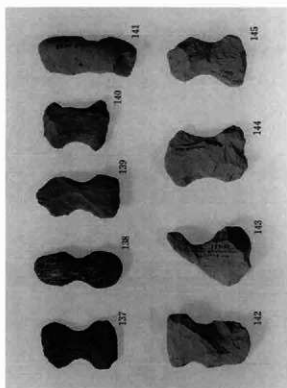
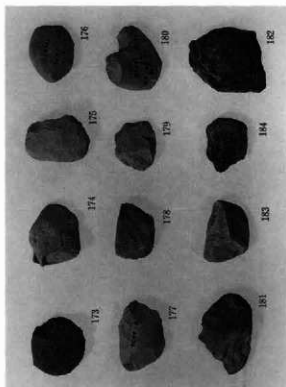
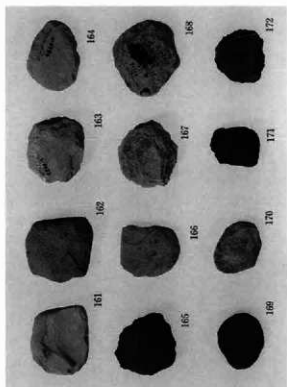


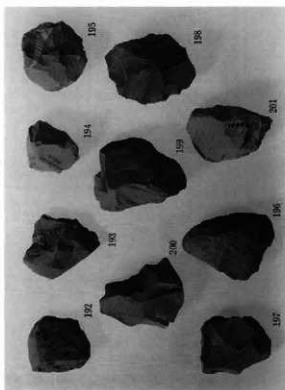
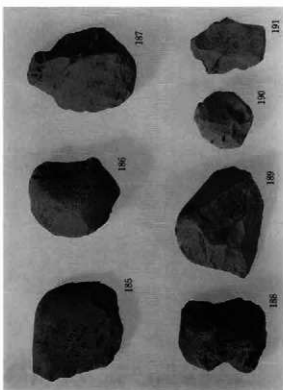
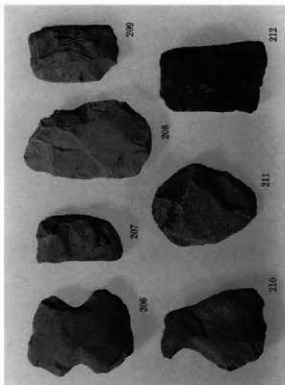
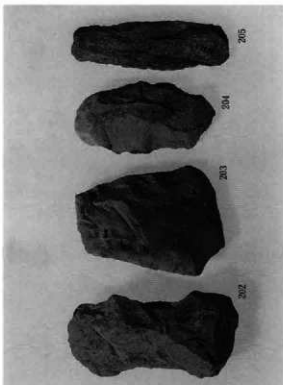


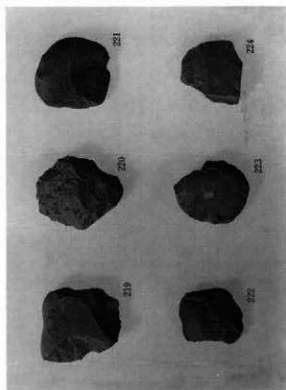
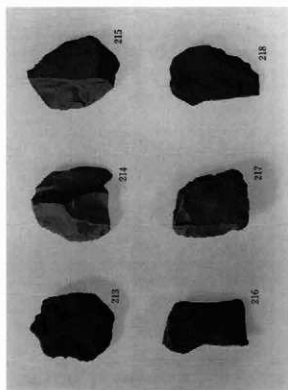
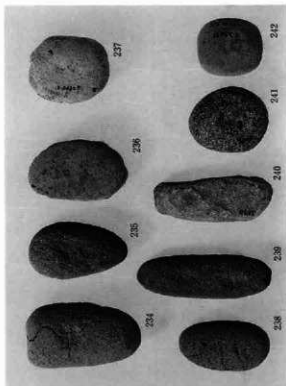
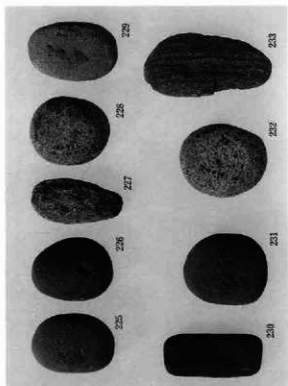


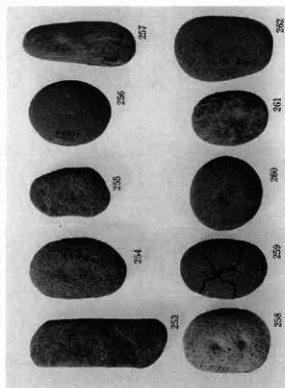
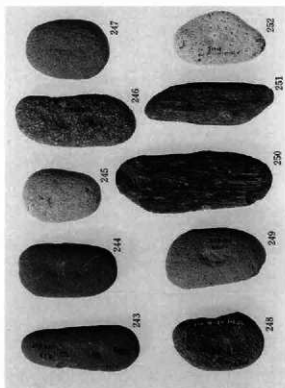
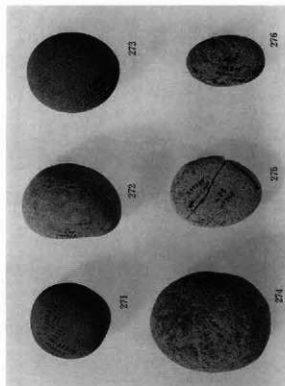
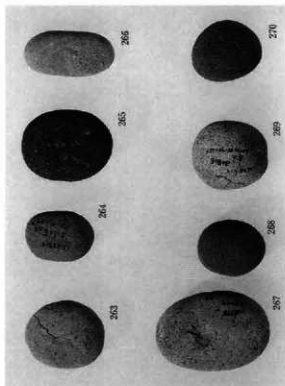


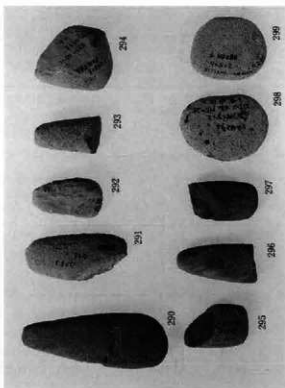
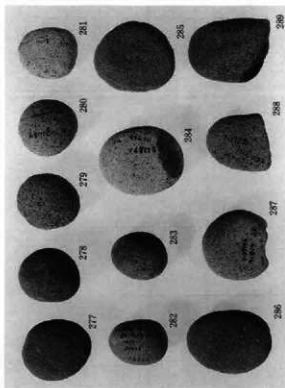
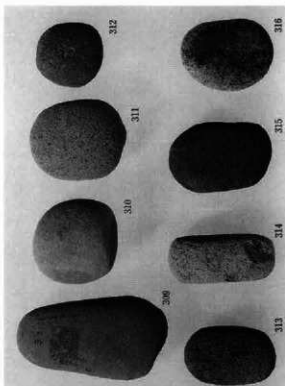
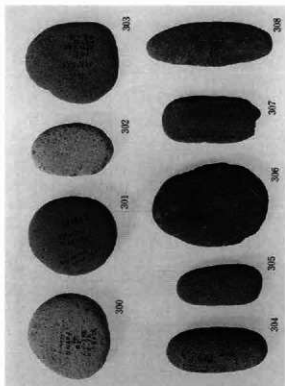


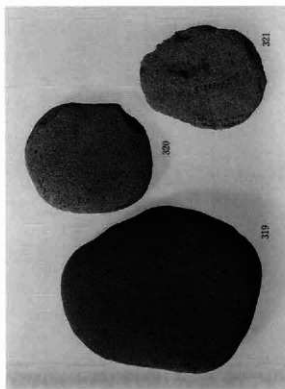
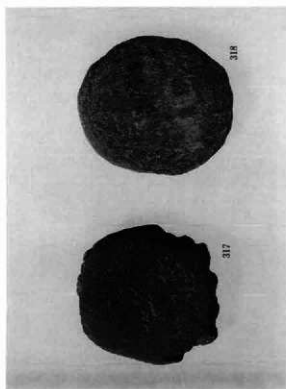
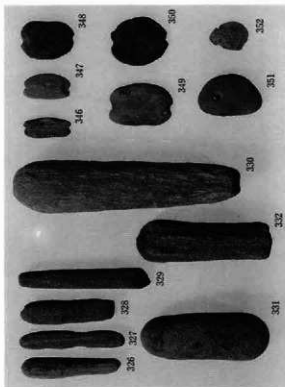
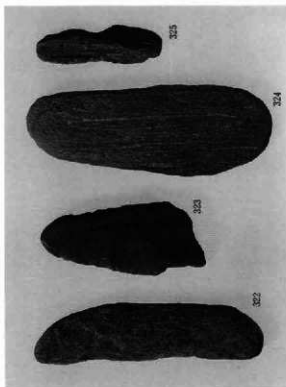


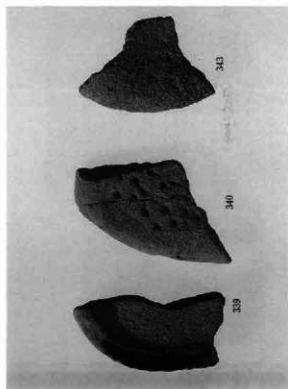
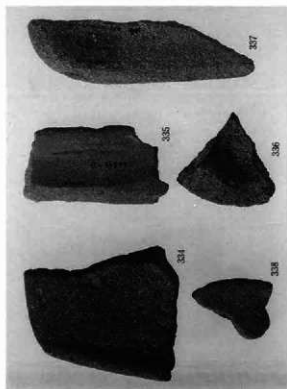
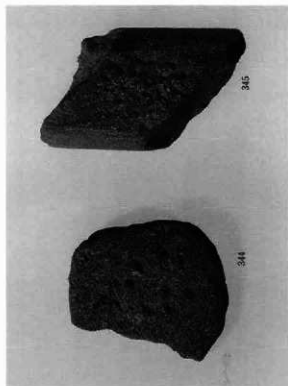
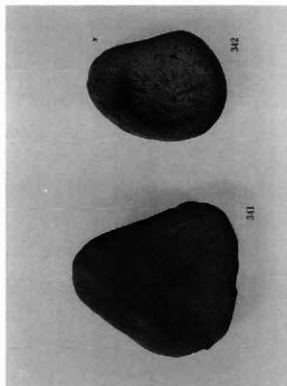


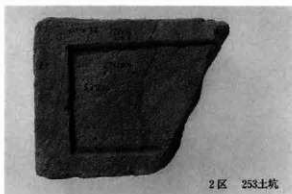
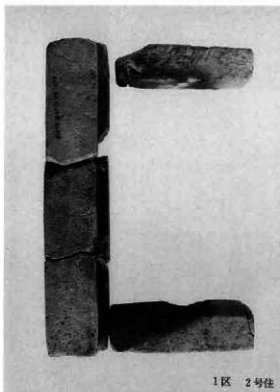














1区1号住居



1区1号住居



1区2号住居



1区2号住居



1区2号住居



1区2号住居



1区2号住居



1区2号住居



1区7号住居



1区7号住居



1区8号住居



1区8号住居



1区9・10号住居



1区9号住居



1区10号住居



1区10号住居



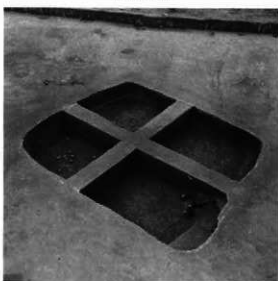
1区11号住居



1区11号住居



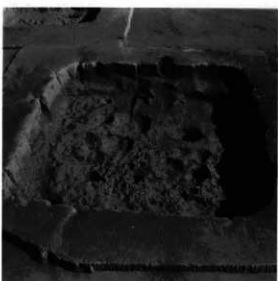
1区11号住居



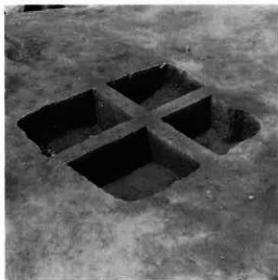
1区12号住居



1区12号住居



1区12号住居



1区13号住居



1区13号住居



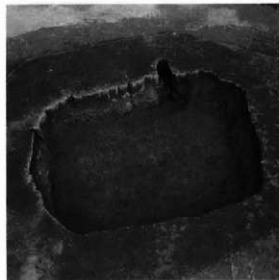
1区13号住居



1区13号住居



1区14号住居



1区14号住居



1区15号住居



1区15号住居



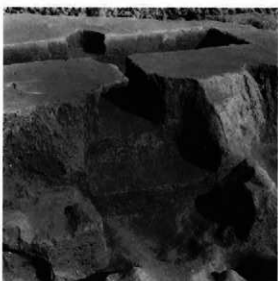
1区16号住居



1区16号住居



1区16号住居礎



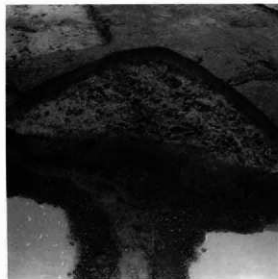
1区16号住居礎



1区17号住居



1区17号住居



1区17号住居



1区17号住居



1区18号住居



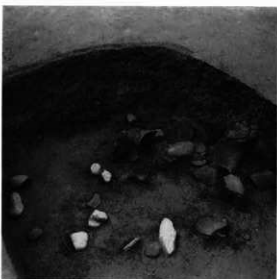
1区19号住居



1区19号住居



1区19号住居



1区19号住居



1区20号住居



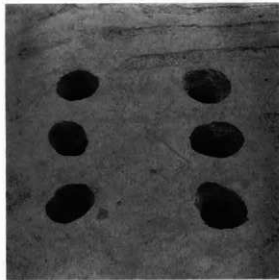
1区21号住居



1区22号住居



1区22号住居



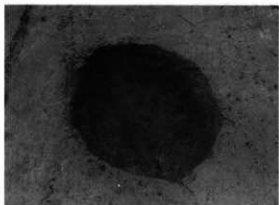
1区1号掘立



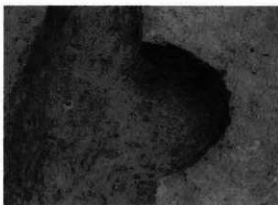
1区3号掘立



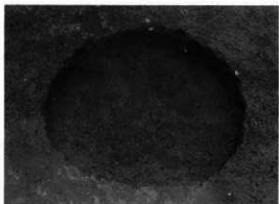
1区4号掘立



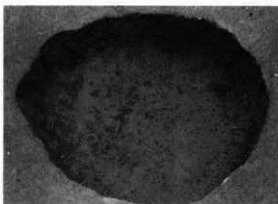
1区1号土坑



1区2号土坑



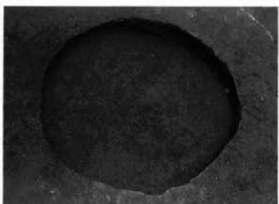
1区4号土坑



1区5号土坑



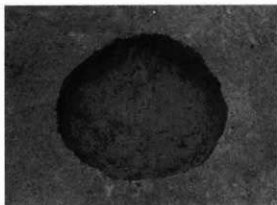
1区6号土坑



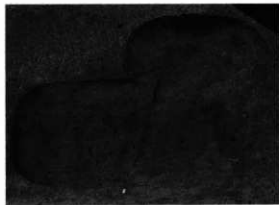
1区7号土坑



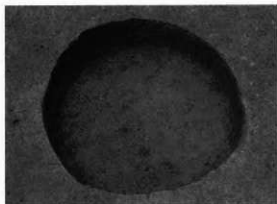
1区9·10号土坑



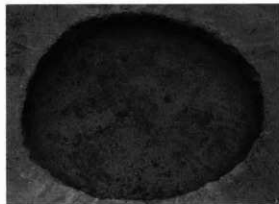
1区11号土坑



1区12·13号土坑



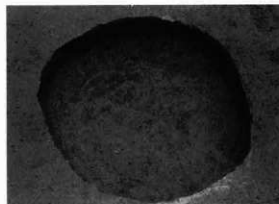
1区14号土坑



1区15号土坑



1区16号土坑



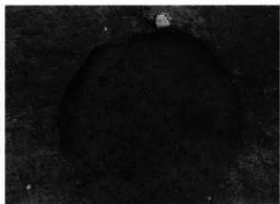
1区17号土坑



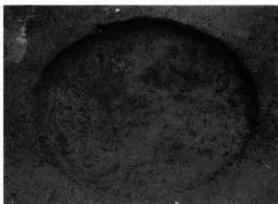
1区18号土坑



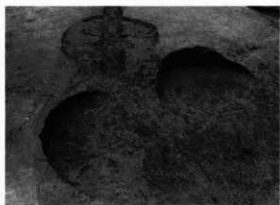
1区19号土坑



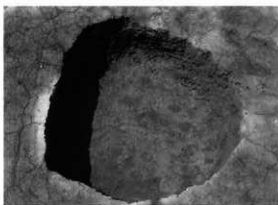
1区20号土坑



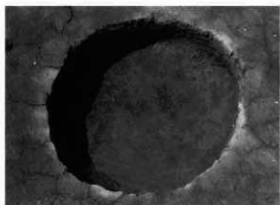
1区21号土坑



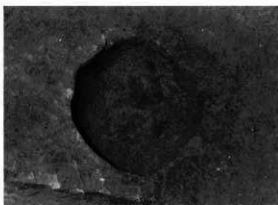
1区24·25·26号土坑



1区27号土坑



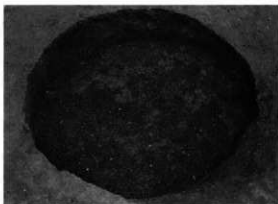
1区28号土坑



1区30号土坑



1区31号土坑



1区32号土坑



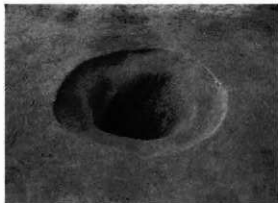
1区33号土坑



1区34号土坑



1区35号土坑



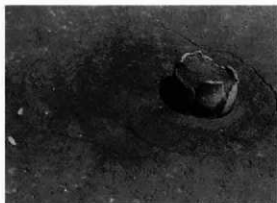
1区35号土坑



1区36号土坑



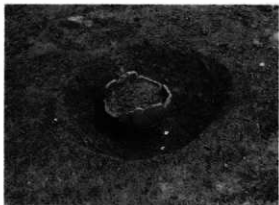
1区36号土坑



1区43号土坑



1区44号土坑



1区45号土坑



1区46号土坑



1区50号土坑



1区51号土坑



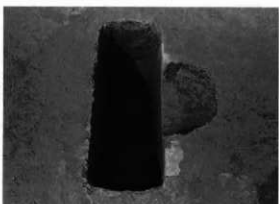
1区52号土坑



1区53号土坑



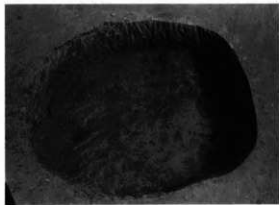
1区54号土坑



1区56号土坑



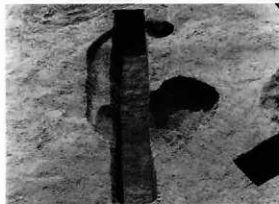
1区56号土坑



1区57号土坑



1区58号土坑



1区59号土坑



1区60号土坑



1区61号土坑



1区63号土坑



1区65号土坑



1区1・2号溝



1区1号溝



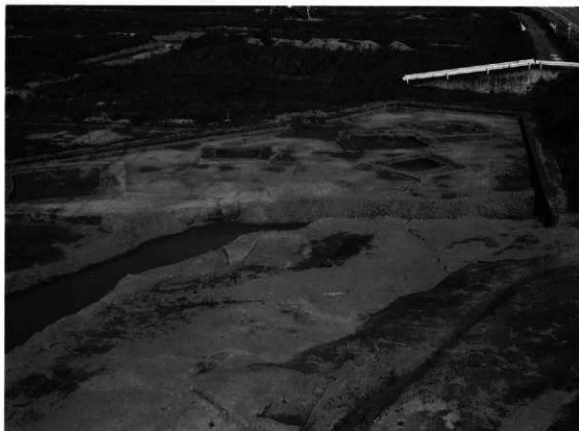
1区2号溝



1区3・5・6号溝



1区7号溝



1区14号溝



1区14号溝



1区5号溝



1区21号溝



1区画



1区画



1区画



1区1・2号群列



1区1・2号群列



1区包含層



1区包含層



1区包含層



1区包含層



1区包含層



2区全景



2区全景



2区全景



2区全景



2区全景



2区全景



2区全景



2区全景



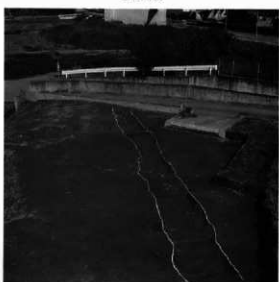
2区全景



2区全景



2区全景



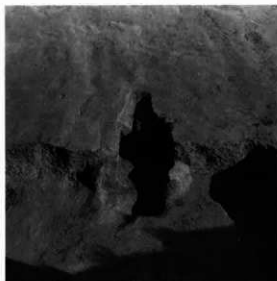
2区全景



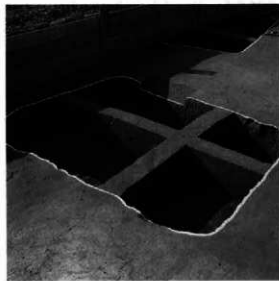
2区1号住居



2区1号住居



2区1号住居



2区2号住居



2区2号住居



2区2号住居



2区3号住居



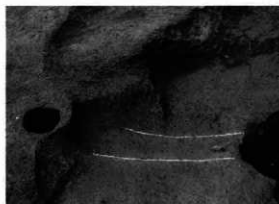
2区3号住居



2区3号住居



2区4号住居



2区5A号住居



2区5A号住居



2区5B号住居



2区5B号住居



2区6号住居



2区7号住居



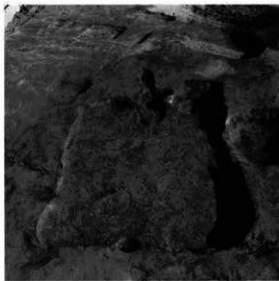
2区8号住居



2区8号住居



2区9号住居



2区9号住居



2区10号住居



2区10号住居



2区11号住居



2区11号住居

PL54



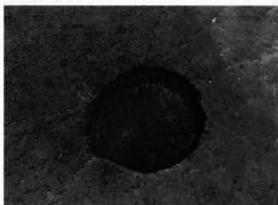
2区1・2号掘立



2区2号掘立



2区2号土坑



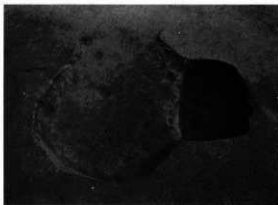
2区1号土坑



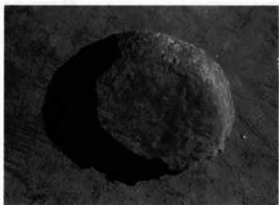
2区3号土坑



2区4号土坑



2区5号土坑



2区6号土坑



2区7号土坑



2区8号土坑



2区9号土坑



2区10号土坑



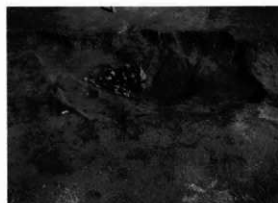
2区11号土坑



2区12号土坑



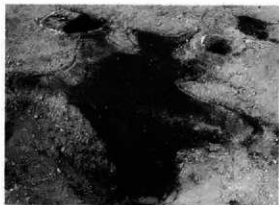
2区96号土坑



2区97号土坑



2区99号土坑



2区100号土坑



2区103号土坑



2区110号土坑



2区113号土坑



2区121号土坑



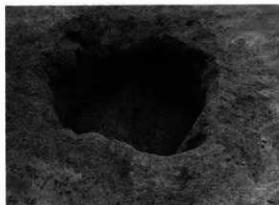
2区123号土坑



2区124、125号土坑



2区127号土坑



2区128号土坑



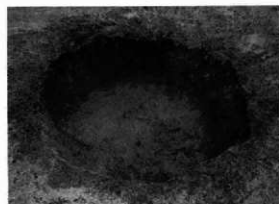
2区129号土坑



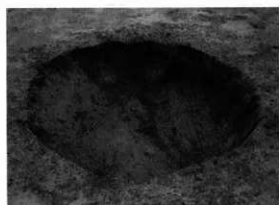
2区130号土坑



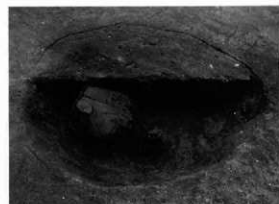
2区131号土坑



2区132号土坑



2区134号土坑



2区139号土坑



2区139号土坑



2区140号土坑



2区140号土坑



2区140号土坑



2区143号土坑



2区145号土坑



2区145号土坑



2区149号土坑



2区155号土坑



2区169号土坑

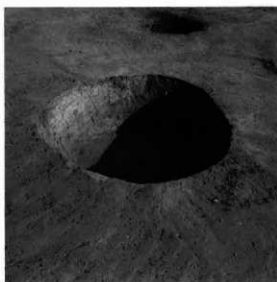
2区169号土坑



2区169号土坑



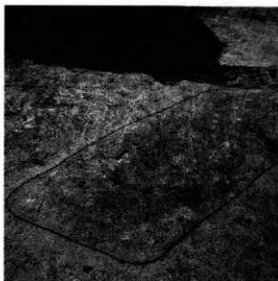
2区199号土坑



2区217号土坑



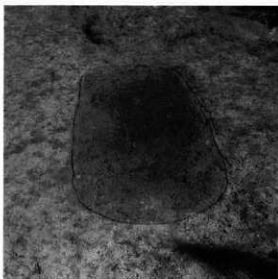
2区13号土坑



2区14号土坑



2区14号土坑



2区16号土坑



2区16号土坑



2区16号土坑



2区15号土坑



2区15号土坑



2区15号土坑



2区17号土坑



2区17号土坑



2区17号土坑



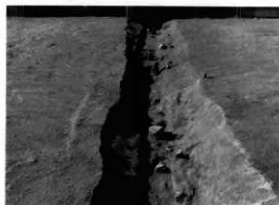
2区1・2号溝



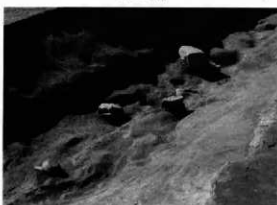
2区1号溝



2区1号溝



2区1号溝



2区1号溝



2区3号溝



2区6号溝



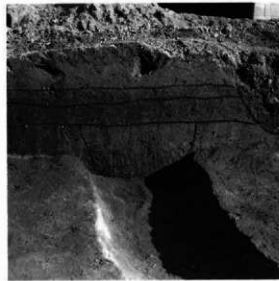
2区4・5号溝



2区4号溝



2区4号溝



2区5号溝



2区1号古墳



2区1号古墳



2区1号古墳



2区1号古墳



2区2号古墳



2区2号古墳



2区2号古墳



2区2号古墳



2区4号古墳



2区4号古墳



2区5号古墳



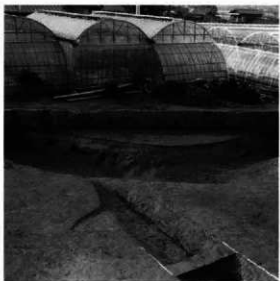
2区5号古墳



2区5号古墳



2区5号古墳



2区6号古墳



2区6号古墳



2区6号古墳



2区6号古墳



2区6号古墳



2区6号古墳



2区7号古墳



2区7号古墳



2区8号古墳



2区9号古墳



2区10号古墳



2区10号古墳



2区11号古墳



2区11号古墳



2区12号古墳



2区12号古墳



2区12号古墳



2区集石



2区集石



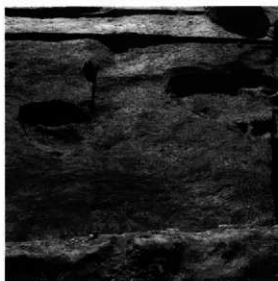
2区集石



2区集石



2区集石



2区集石



2区河道



2区河道



2区河道



2区河道



2区河道



2区河道



1区スナップ



1区スナップ



1区スナップ



1区スナップ



1区スナップ



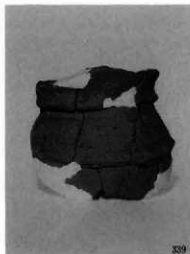
1区スナップ



2区スナップ



2区スナップ



329



341



338



340



343



342



344



345



346



347





348左側面



348右側面



349



351



352



350



353



354



355



348正面



348背面

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第105集

上栗須寺前遺跡群Ⅱ 間越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第30集

平成7年3月20日 印刷

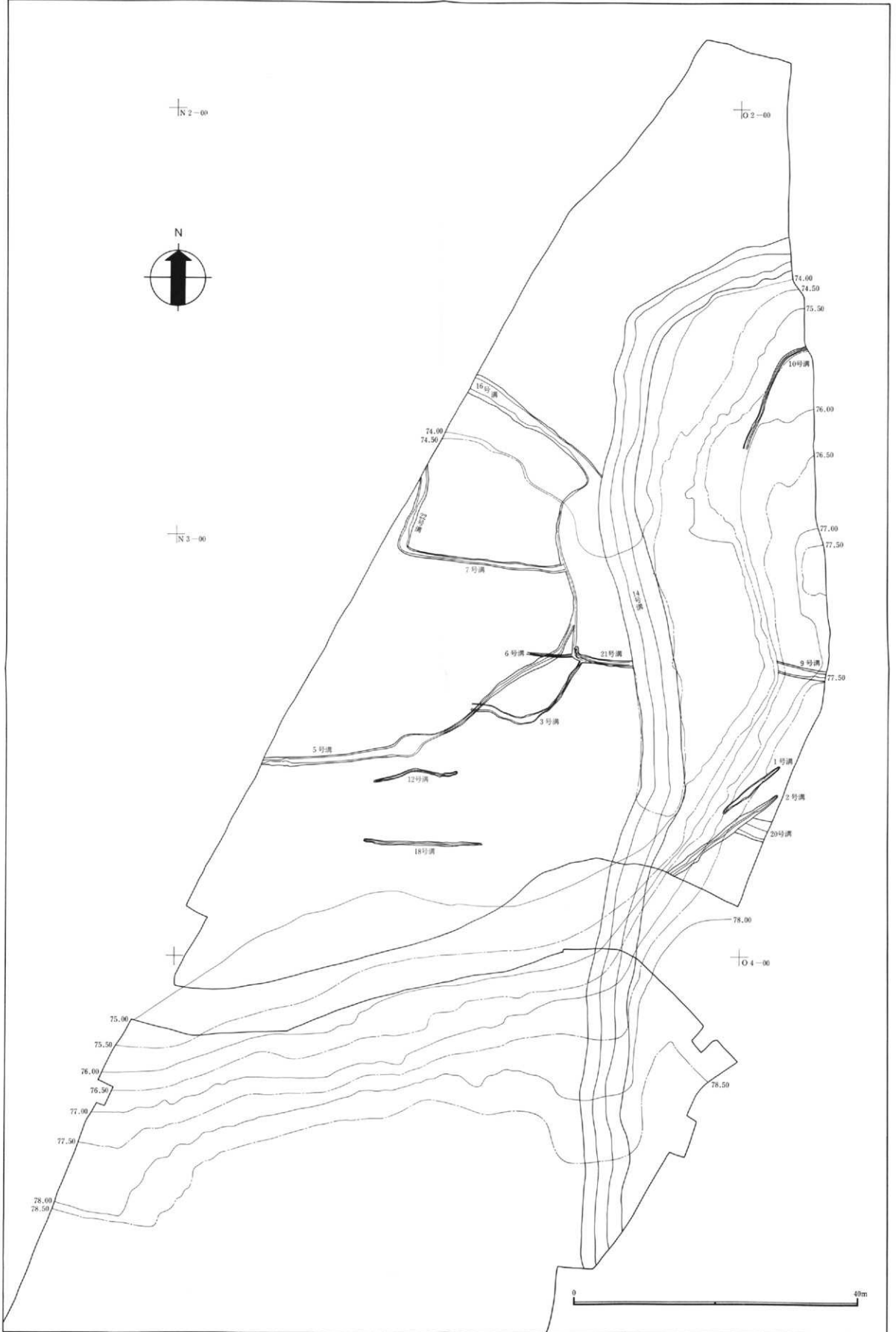
平成7年3月27日 発行

編集/群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784-2
電話(0279)52-2511(代表)

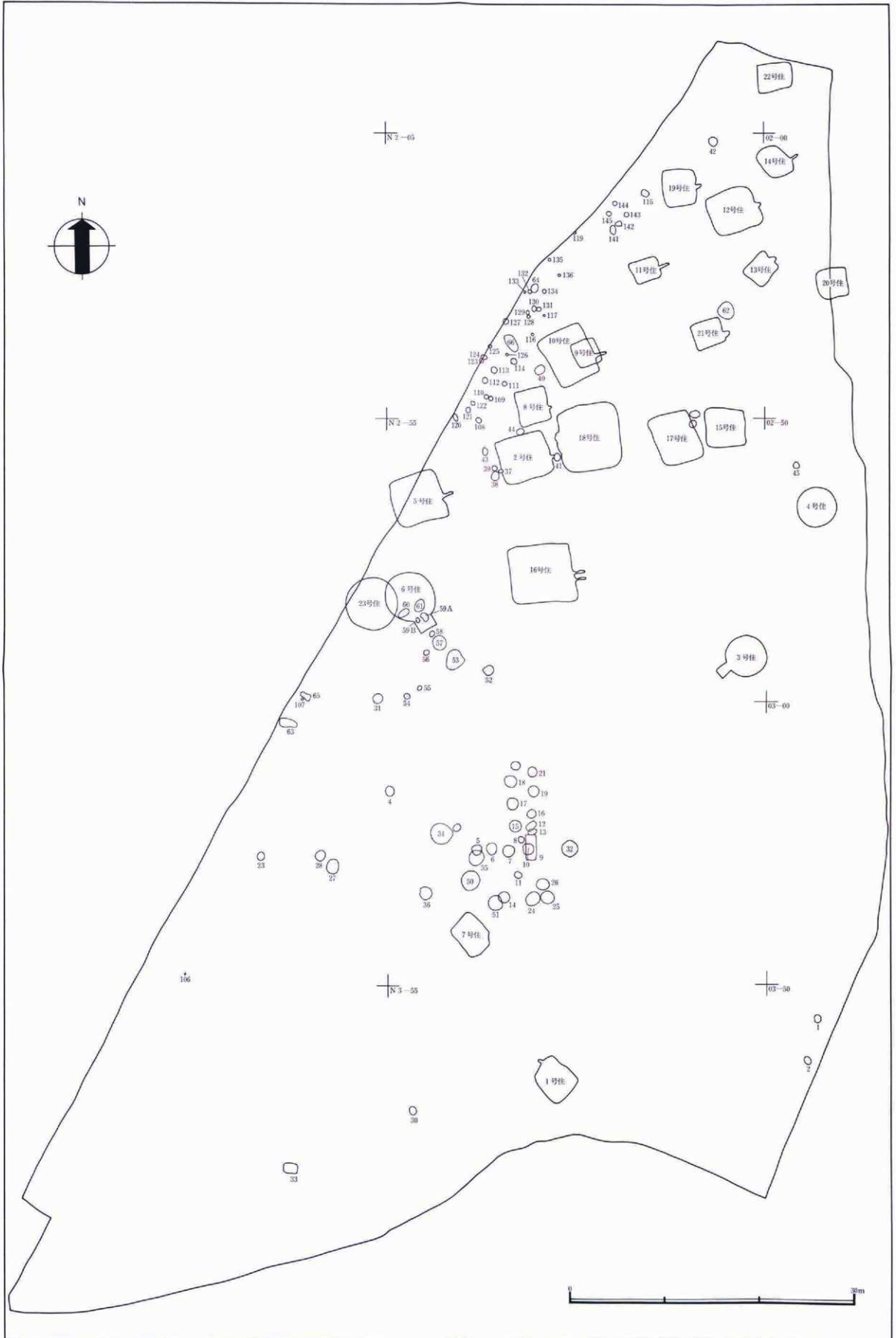
発行/群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784-2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷/朝日印刷工業株式会社

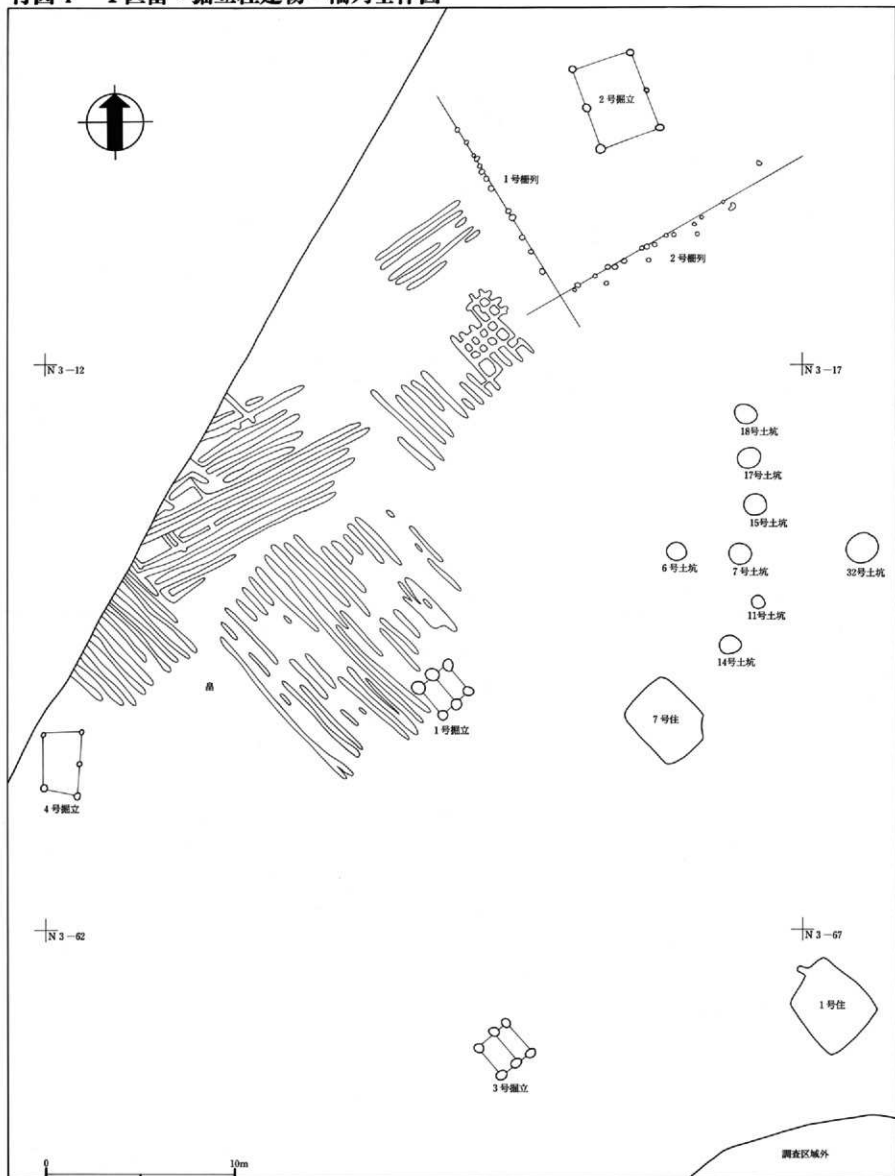
付図1 1・2区コンタ図



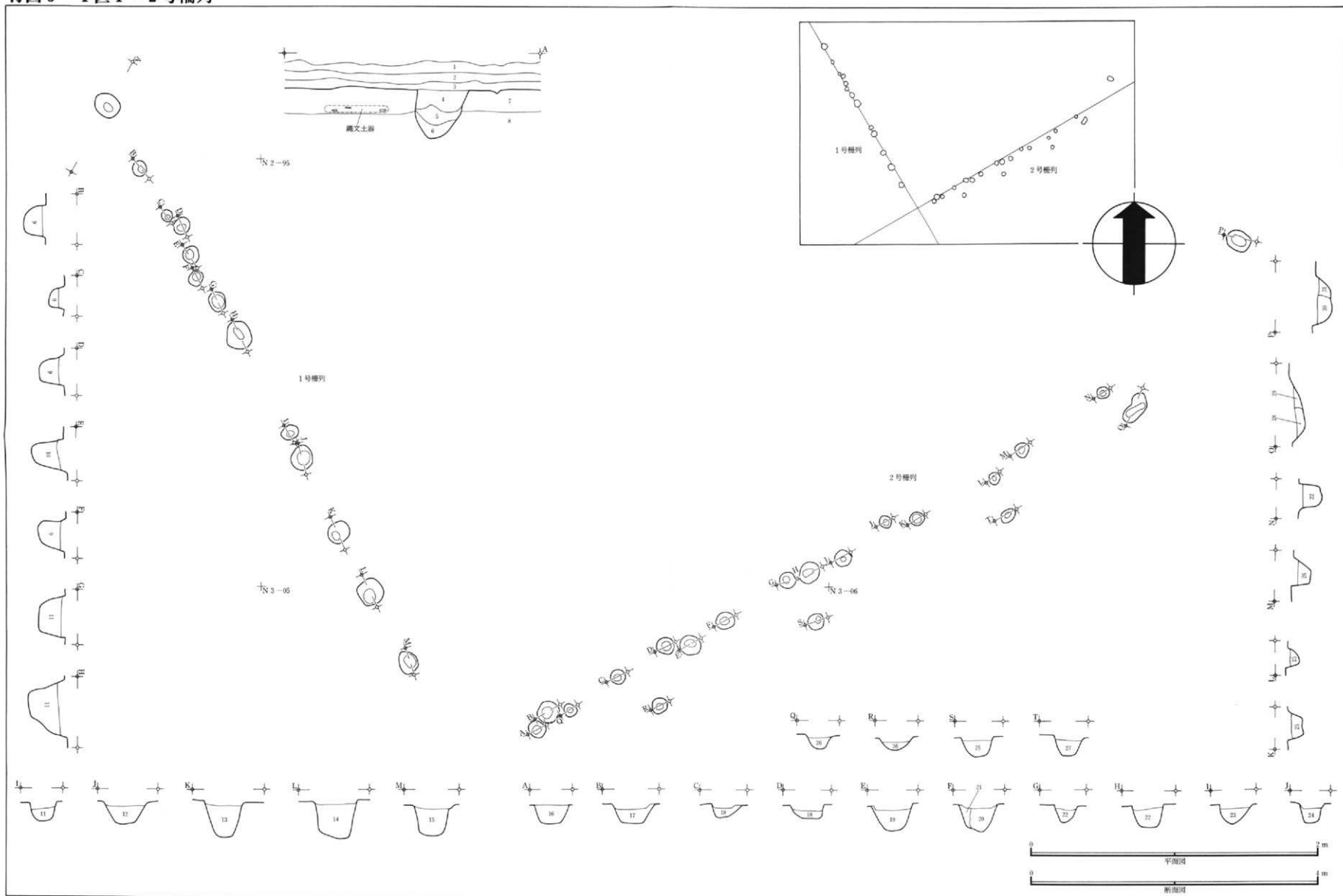
付图3 1区住居・土坑全体图



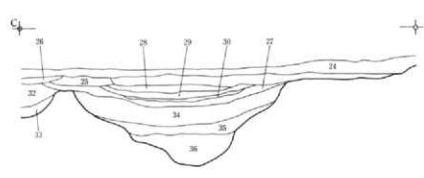
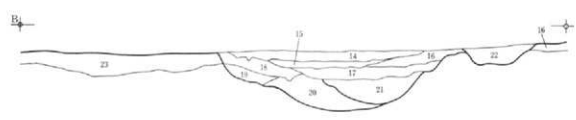
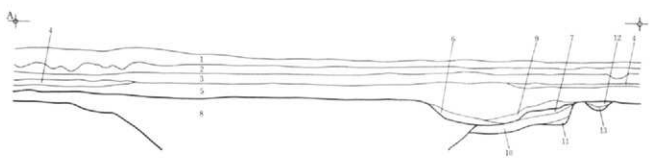
付图4 1区畠・掘立柱建物・柵列全体図



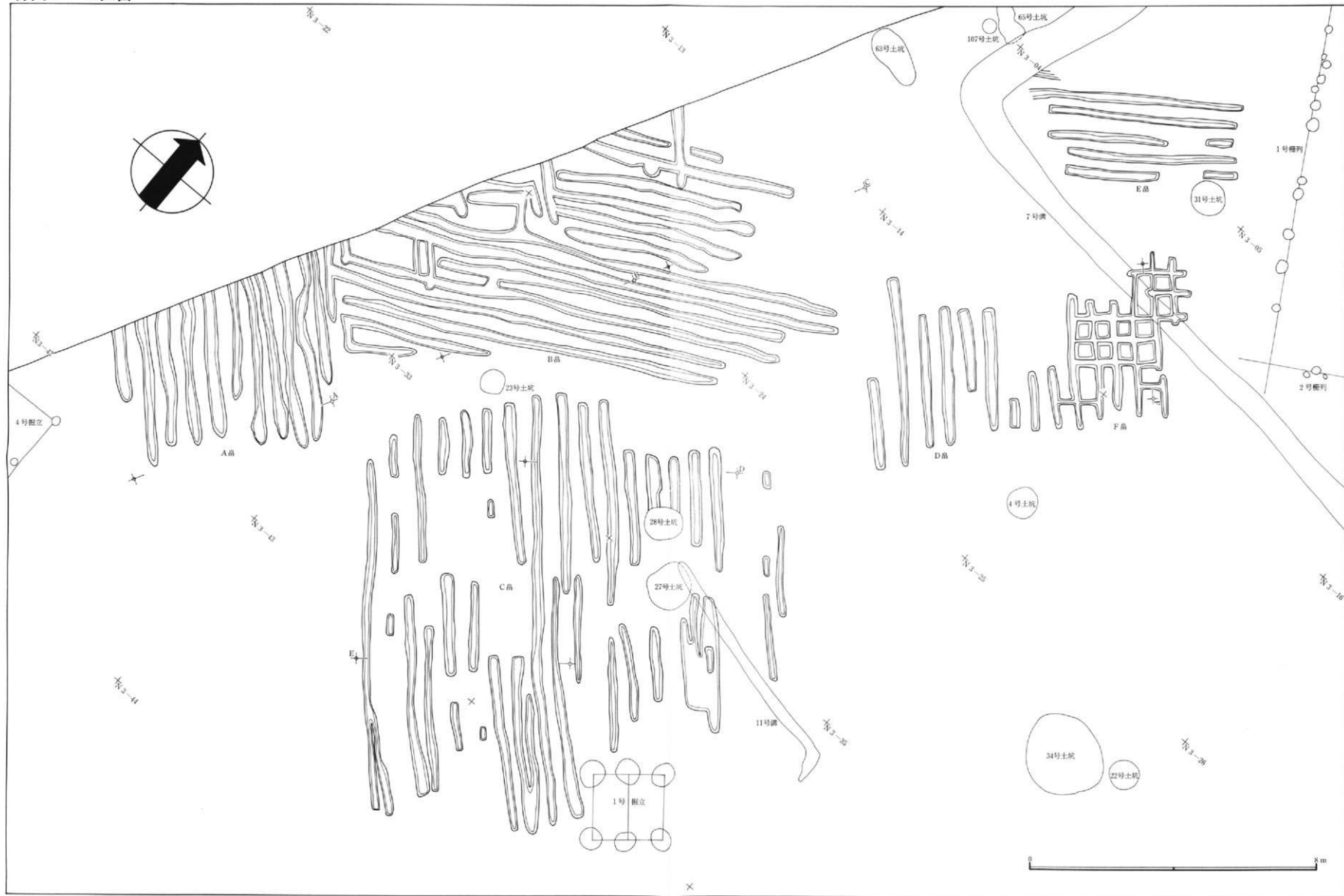
附图5 1区1·2号栅列



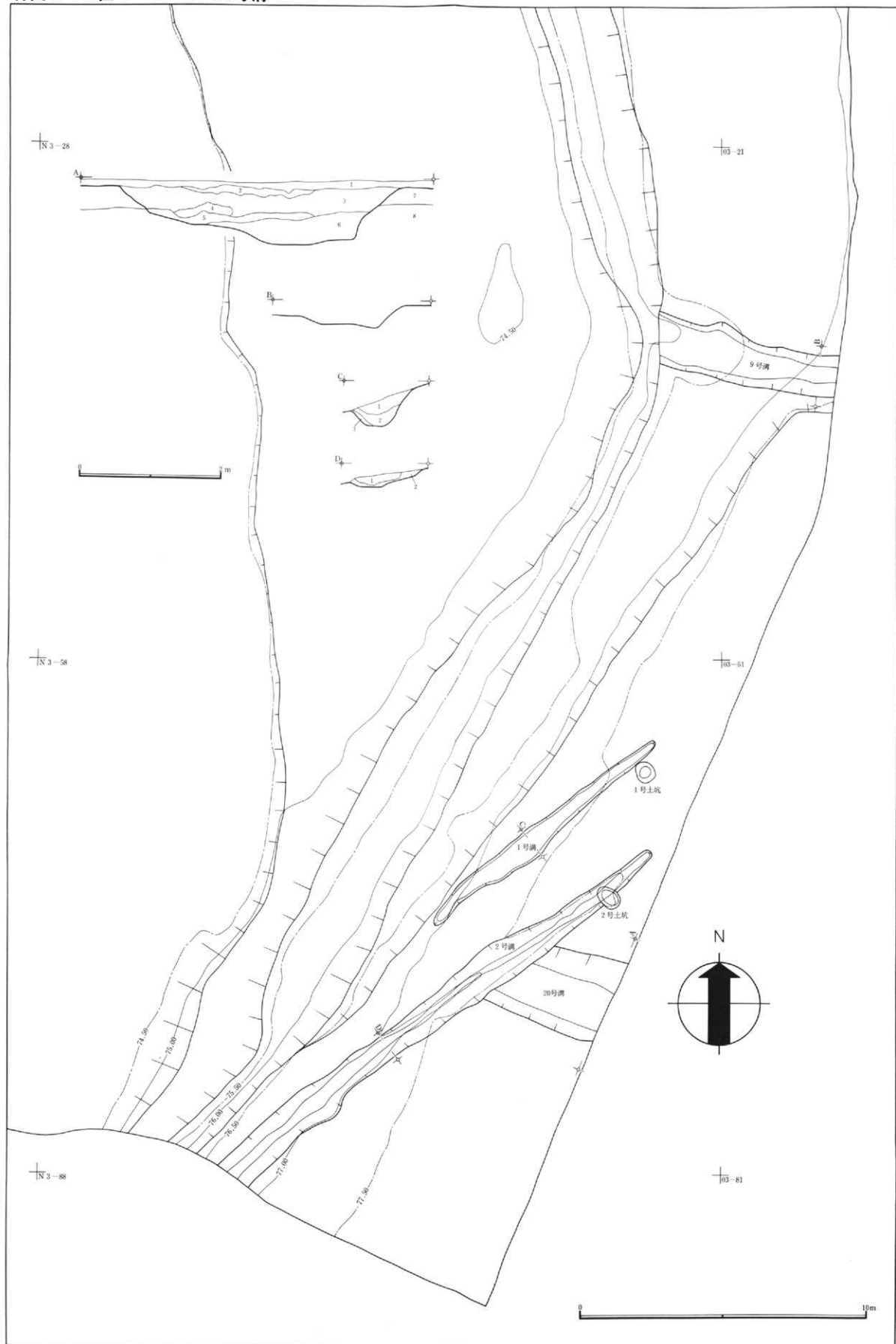
付图6 1区河道·10号沟



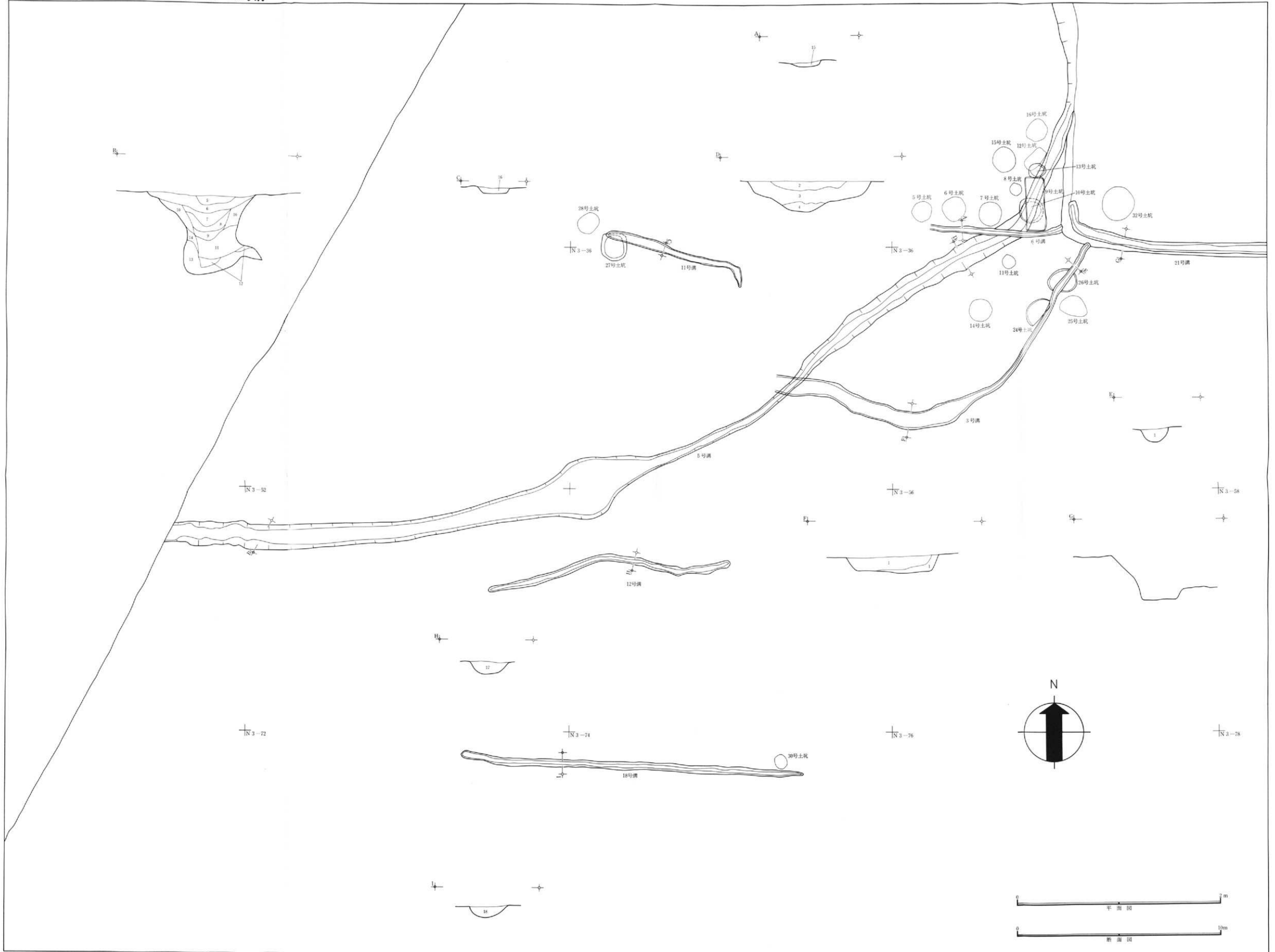
付图7 1区畠



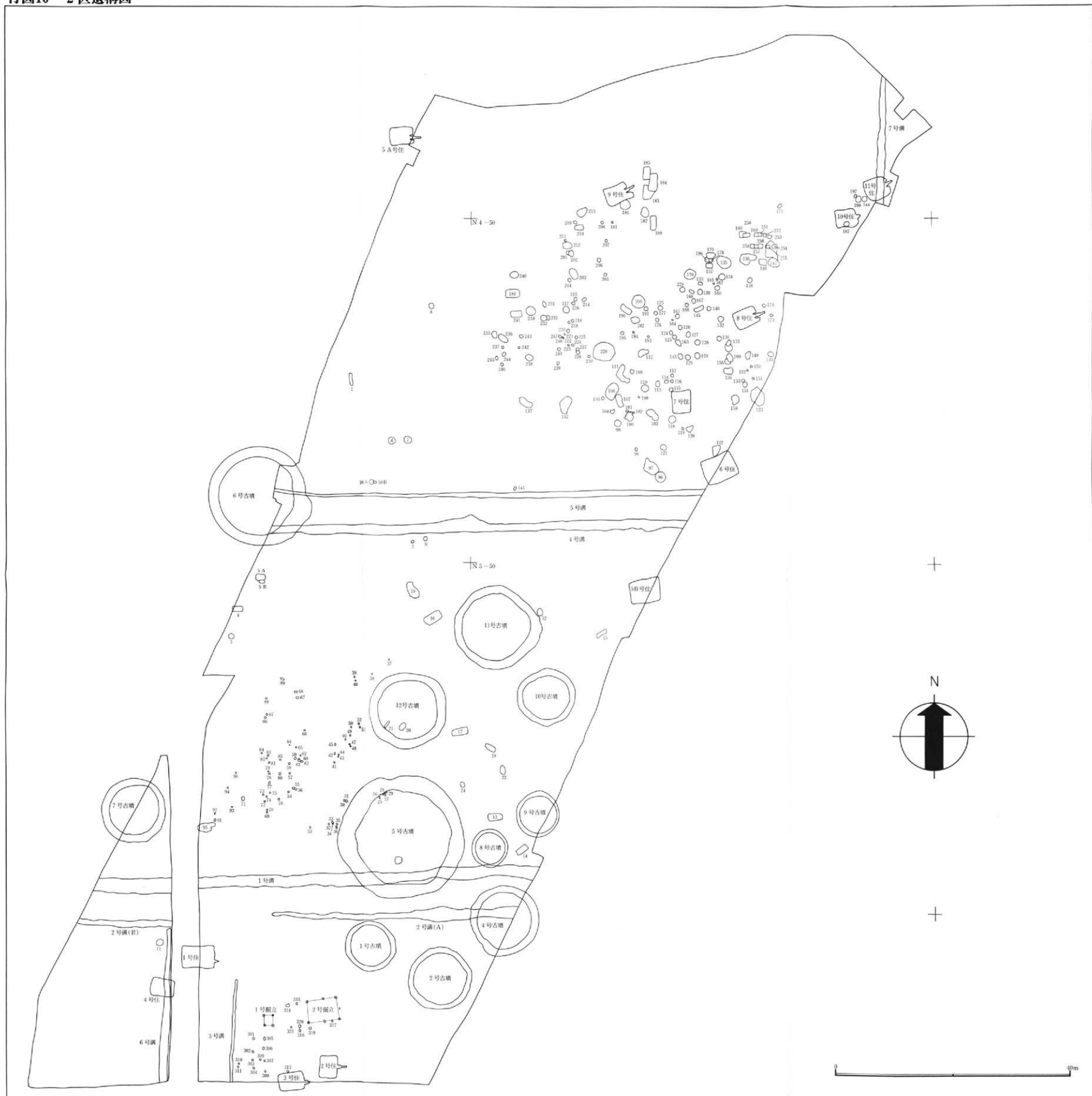
付图8 1区1·2·9·20号沟



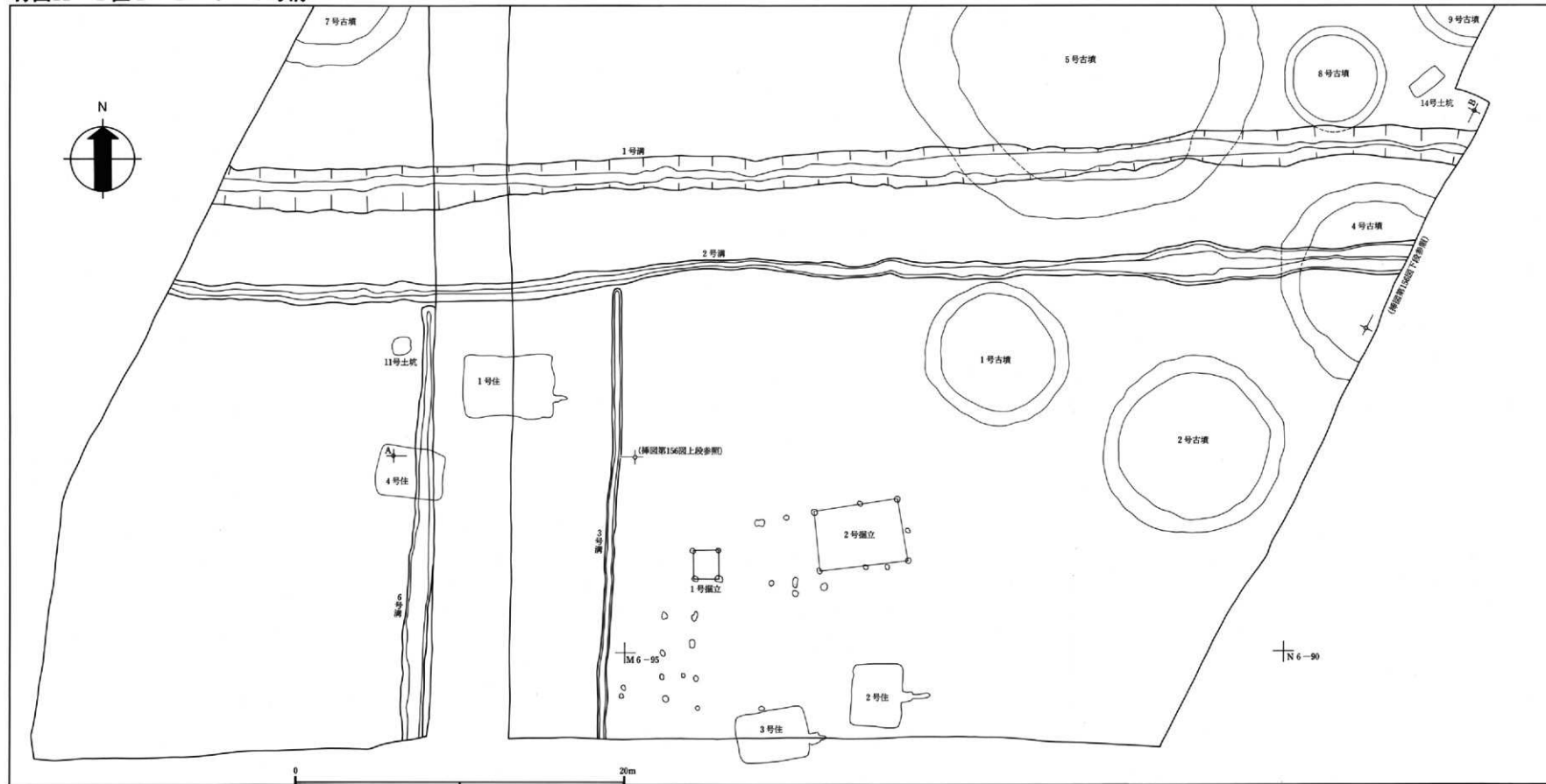
付图9 1区3·5·6·11·12·18·21号沟



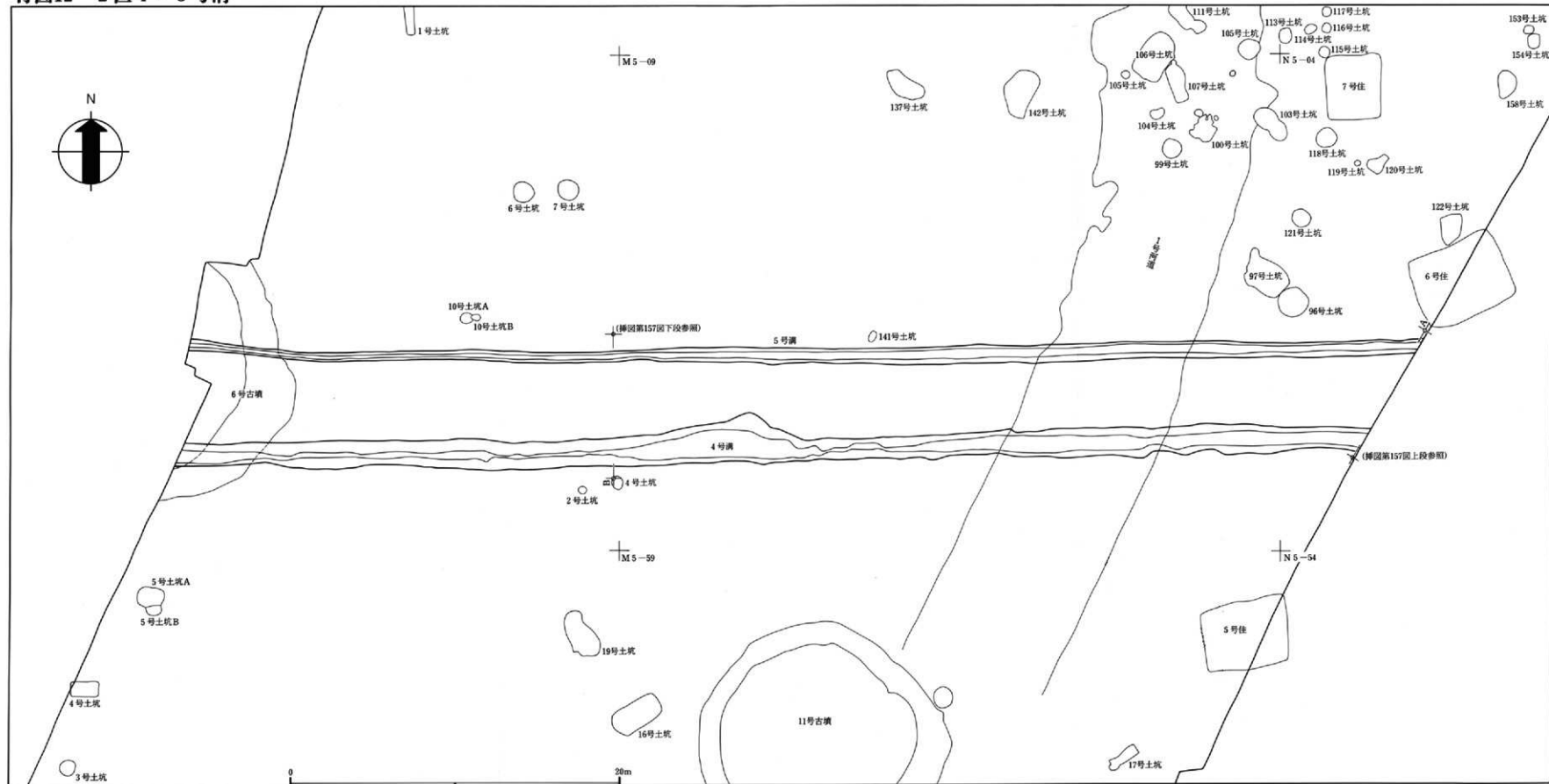
付图10 2区遺構図



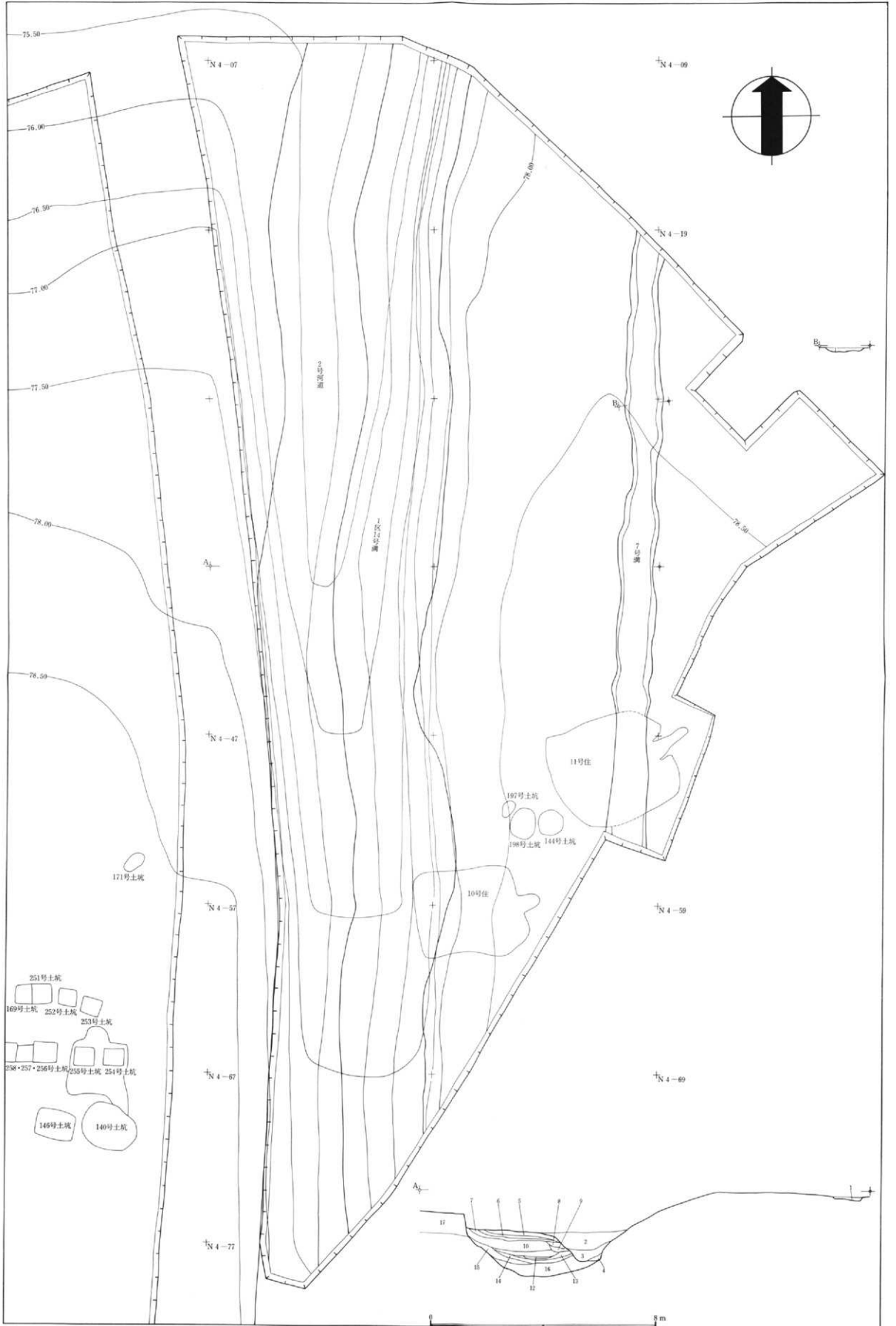
付图11 2区1·2·3·6号溝



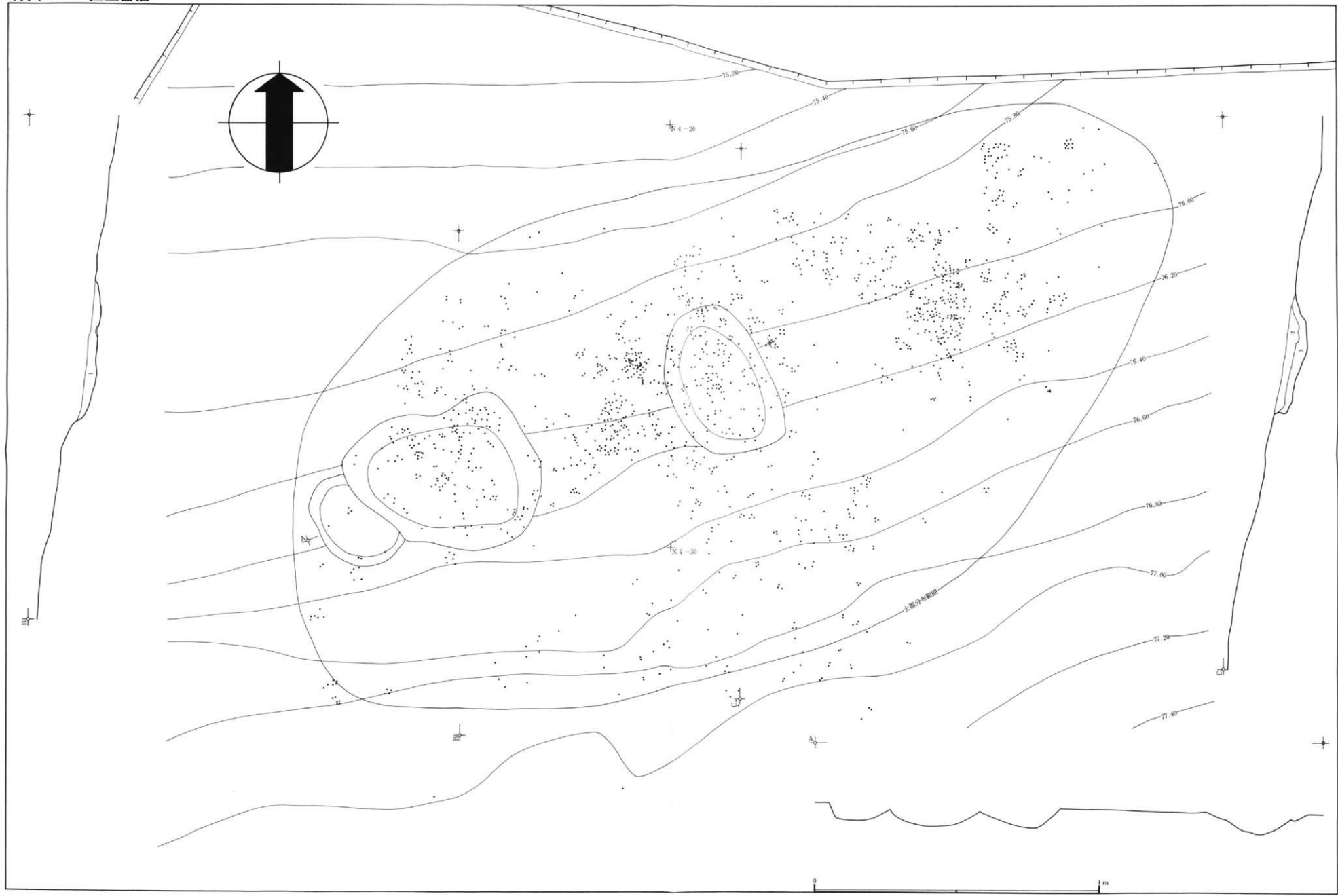
付图12 2区4·5号溝



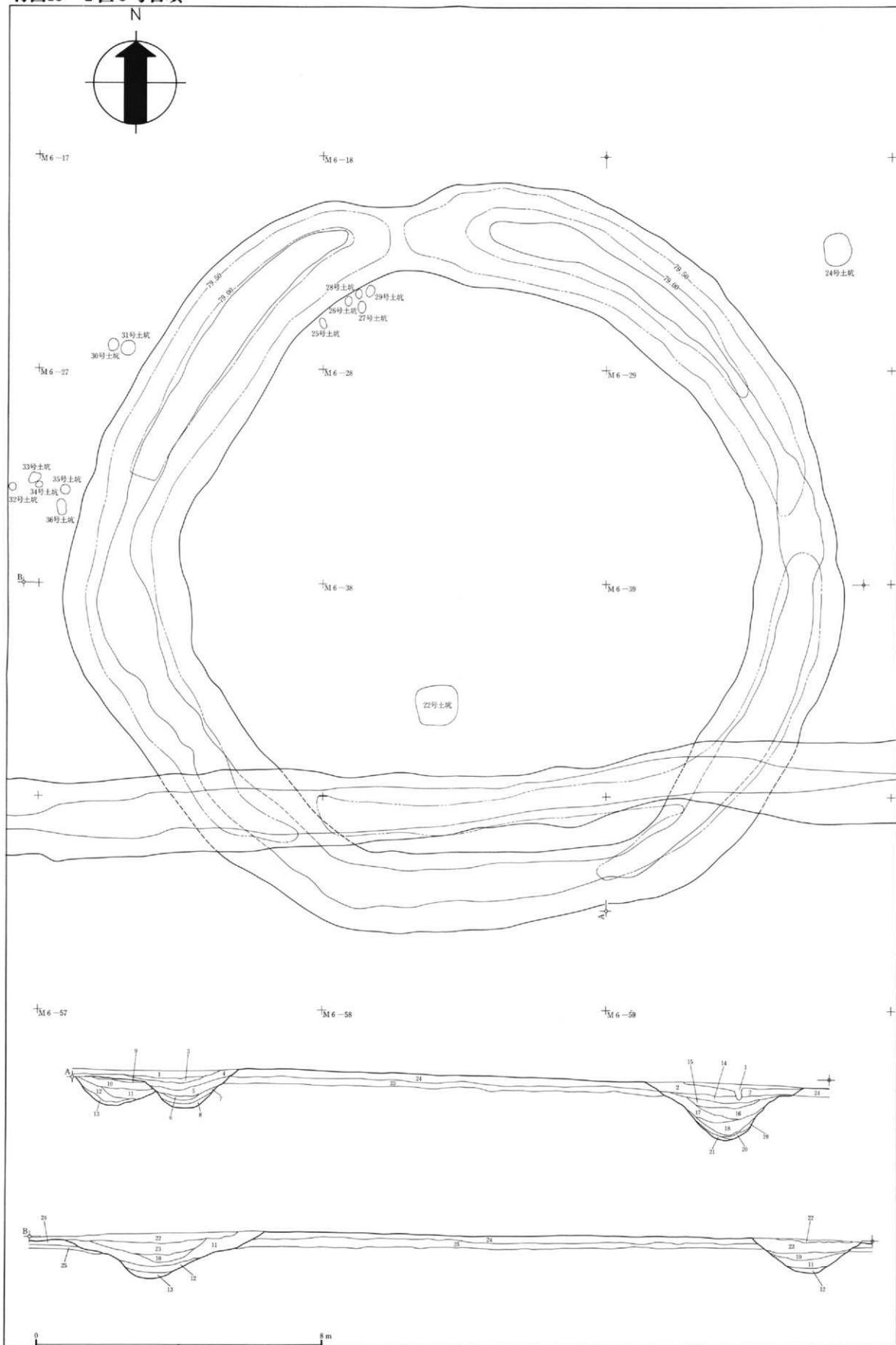
付图13 2区河道·7号沟



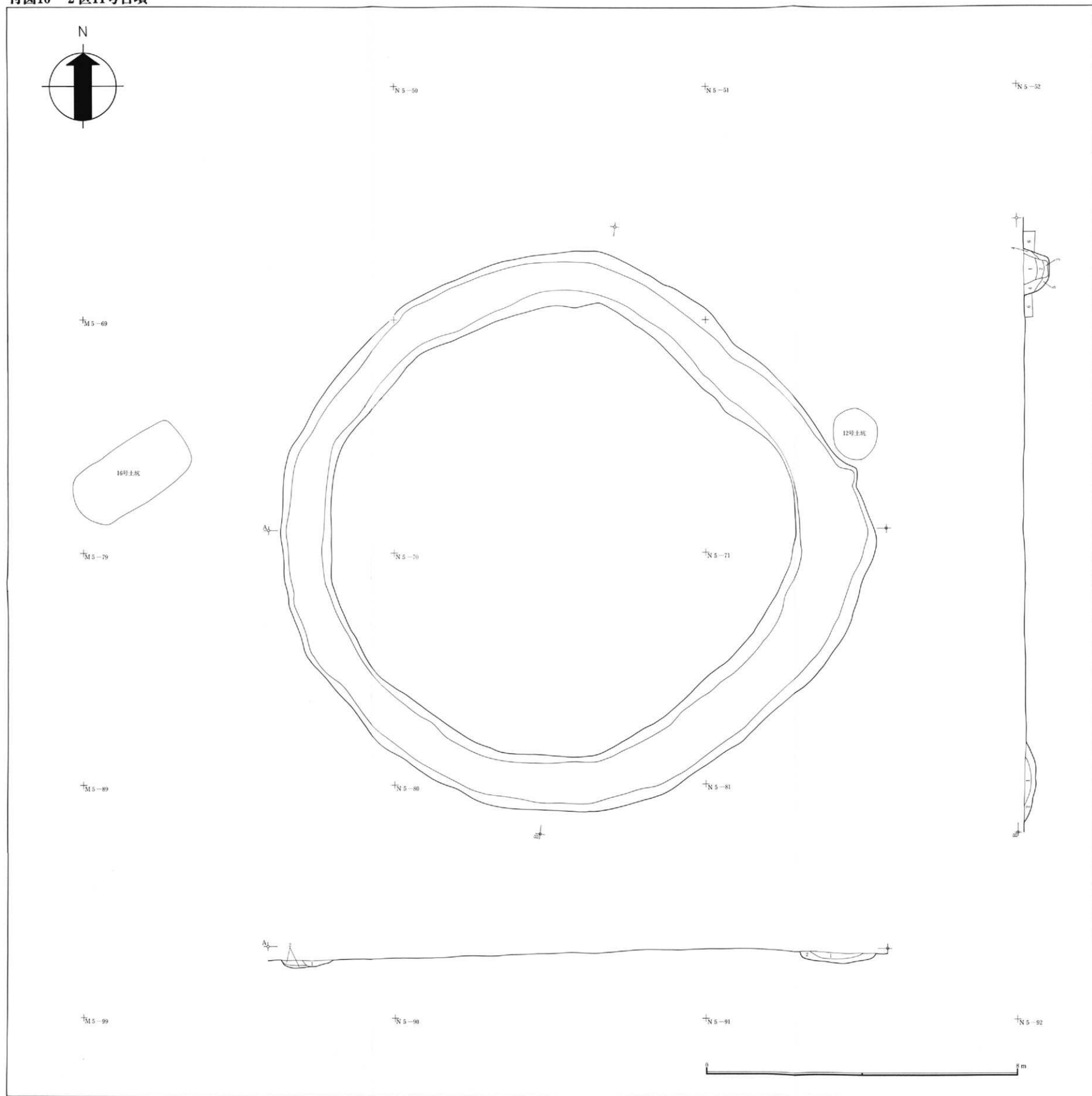
付図14 2区土器溜



付图15 2区5号古墳



附图16 2区11号古墳



付图17 2区12号古墳

